

栃木県埋蔵文化財調査報告第 364 集

# 下野国分尼寺跡 II

－重要遺跡範囲確認調査－

2014.3

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

しも つけ こく ぶん に じ あと  
下野国分尼寺跡 II

—重要遺跡範囲確認調査—

2014.3

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

## 序

下野国分尼寺跡は、栃木県の南部、下野市に位置しています。思川と姿川に挟まれた台地上には、国・県指定の著名な史跡が数多く所在しており、古代下野国を理解する上で欠くことのできない重要な地域です。国史跡の一つである下野国分尼寺跡は、代表的な古代寺院跡として昭和40年4月9日に指定されております。

平成5年度から平成10年度までの6年間、寺院地の範囲等を確定するため発掘調査を実施しました。その結果、下野国分尼寺の寺域や伽藍の範囲や変遷が判明し、伽藍を区画する塀のほかに、多くの建物や施設が発見されました。

寺院の区画施設については平成23年3月に報告しておりますので、今回の報告書は寺院に係わる多くの建物や瓦・土器などについてまとめた成果であります。

本報告書が学術的に活用されることはもとより、本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました下野国分寺跡発掘調査指導員及び栃木県文化財保護審議会委員をはじめとする関係各位、並びに文化庁、下野市等の関係機関に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤利通

## 例 言

1. 本書は、栃木県下野市国分寺（旧下都賀郡国分寺町大字国分）に所在する下野国分尼寺跡範囲確認調査の報告書である。寺院地・伽藍地の区画施設については、『下野国分尼寺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第334集）で掲載しており、本書はそれ以外を掲載する。
2. 発掘調査は、寺院地・伽藍地の範囲確認調査として行った。
3. 調査は、栃木県教育委員会が主体となり、財団法人栃木県文化振興事業団に委託して、同財団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成5年度から10年度まで行い、別掲のとおり大橋泰夫・板橋正幸・安藤美保が担当した。
5. 整理作業は、平成10年度と平成19年度から平成25年度まで行い、大橋泰夫(平成10年度)・中山 晋(平成19年度)・中村享史(平成20～22年度)・津野 仁(平成23～25年度)が各年度2ヶ月程実施した。本書の執筆・編集は津野が行った。
6. 本遺跡は既に『栃木県埋蔵文化財保護行政年報17 平成5年度(1993)』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報18 平成6年度(1994)』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報19 平成7年度(1995)』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報20 平成8年度(1996)』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報21 平成9年度(1997)』、『栃木県埋蔵文化財保護行政年報22 平成10年度(1998)』、『埋蔵文化財センター年報 第4号(平成6年度)』、『埋蔵文化財センター年報 第5号(平成7年度)』、『埋蔵文化財センター年報 第6号(平成8年度)』、『埋蔵文化財センター年報 第7号(平成9年度)』、『埋蔵文化財センター年報 第8号(平成10年度)』等で一部概要が公表されているが、本書を以って正報告とする。
7. 調査にあたって、次の諸機関及び諸氏に御協力、御指導を賜った。記して謝意を表したい。  
文化庁、奈良国立文化財研究所、宇都宮市教育委員会、下野市教育委員会、掛川市教育委員会、豊橋市文化財センター、浜松市埋蔵文化財調査事務所、見晴台資料館、みよし市教育委員会、上原真人、海老原郁雄、齋藤孝正、酒寄雅志、城ヶ谷和広、須田勉、竹澤謙、稲垣圭子、木村友則、木村等、黒崎淳、小林青樹、坂井秀弥、清野孝之、田辺征夫、富祐次、橋本澄朗、橋本高志、水ノ江和同、山口耕一
8. 発掘調査に関わった者は次の通りである。  
麻生尚子、天谷富枝、大内香代子、大山きみ子、大山ミヤ、萩野貴子、熊倉一郎、倉持宏章、倉持淳子、小林宏子、近藤サト、近藤武雄、坂本キミ子、志賀崇、篠崎栄、篠原真理、白石文子、白石キセ、白石キヨ子、白石タミ、白石許子、白石次男、白石紀子、蘇原キヨ子、田中恵美子、土屋裕康、土屋雅章、二宮キミ、二宮貞代、根本牧子、野沢伸嘉、早川カク、広井トミ、福知幸子、藤本祐子、星野ズエ、前原ツル、前原博、前原マサエ、前原吉江、前原ワカ子、八木ミヨ、山川純一、山田トク、横井キミ、横井タケ、横井敏子、横井フサ、横島三枝子
9. 整理作業・報告書作成作業に関わった者は次の通りである。  
大出美智子、金井千佳子、河又智美、熊谷早苗、篠澤由佳、白石静枝、鈴木実花、田崎訓子、田中留美子、塚田幸枝、戸崎真弓、斗沢史子、橋本品江、芳賀美津子、福田春美、中山真理、元西幸子
10. 本遺跡の出土遺物・資料類は、栃木県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

1. 遺跡の略称は、KNである。調査次区数は「一〇」のように付し、第1次調査区であれば、KN-1と表現した。
2. 遺構の略称は、SB：掘立柱建物跡、SA：塀跡、SI：竪穴住居跡、SD：溝跡、SK：土坑、SE：井戸跡、SX：性格不明遺構である。
3. 測量図の座標は、世界測地系に基づく。図示した方位は、座標北である。
4. 標高は、海拔標高である。
5. 縮尺は、図面脇に示した。
6. 遺物出土状況図の遺物の番号、遺物写真の番号・遺物観察表の番号は、遺物実測図の番号に一致する。
7. 遺物出土状況図の字体は、明朝体は土器・陶器、ゴシックは瓦、斜めゴシックは金属製品の遺物実測図の掲載番号を示す。
8. 瓦実測図に付した型番号は、下野国分寺跡の型押文番号で、これにない新規番号は一覧表の最後に付した。
9. 本文中の記述で、遺構の時期はI期、II-1期、II-2期、III-1期、III-2期と表し、瓦の時期は国分寺編年に従い、1-1期、1-2期、2-1期、2-2期、3-1期、3-2期とした。土器は1期～5期に区分し、相互の時期区分と年代の対照は、第5章総括の第1節第24表に示した。

### 下野国分寺跡発掘調査指導員

氏 名	役 職 (当時)	備 考
斉藤 忠	大正大学名誉教授	考古学
阿久津純	宇都宮大学名誉教授	地質学
阿部 昭	國士舘大学教授	歴史学
石部正志	宇都宮大学教授	考古学
大川 清	國士舘大学名誉教授	考古学
木下 良	前國學院大學教授	地理学
坂詰秀一	立正大学教授	考古学
佐藤 信	東京大学教授	歴史学
須賀 淳	宇都宮短期大学学長	県文化財保護審議会委員
埴 静夫	作新大学教授	県文化財保護審議会委員
千田孝明	栃木県立博物館人文課長	県文化財保護審議会委員

# 目 次

序・例言・凡例	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査の経過	4
第2章 遺跡の環境	16
第3章 発見された遺構	18
第1節 掘立柱建物跡	18
第2節 竪穴住居跡	25
第3節 溝跡	38
第4節 土坑・井戸跡・性格不明遺構	51
第4章 発見された遺物	57
第1節 瓦	57
第2節 文字瓦	123
第3節 土器・陶器・金属製品等	158
第5章 総括	251
第1節 下野国分尼寺建物・施設の変遷	251
第2節 下野国分尼寺出土文字瓦の変遷	268
第3節 下野国分尼寺出土土器・瓦の変遷	274
第4節 下野国分尼寺出土須恵器の流通	283
第5節 下野国分尼寺出土灰釉陶器・緑釉陶器の流通	288

# 挿 図 目 次

第 1 図	大グリッド割付図	2	第 43 図	宇瓦分類図 (2)	62
第 2 図	下野国分尼寺跡区割り図	3	第 44 図	瓦実測図 (1)	67
第 3 図	下野国分尼寺跡調査区位置図	5～6	第 45 図	瓦実測図 (2)	68
第 4 図	第 1 次調査区全体図	9	第 46 図	瓦実測図 (3)	69
第 5 図	第 2 次調査区全体図	10	第 47 図	瓦実測図 (4)	70
第 6 図	第 3 次・4 次・5 次調査区全体図	11	第 48 図	瓦実測図 (5)	71
第 7 図	第 6 次・7 次・9 次調査区全体図	12	第 49 図	瓦実測図 (6)	72
第 8 図	第 8 次・10 次・13 次調査区全体図	13	第 50 図	瓦実測図 (7)	73
第 9 図	第 11 次調査区全体図	14	第 51 図	瓦実測図 (8)	74
第 10 図	第 12 次・14 次調査区全体図	15	第 52 図	瓦実測図 (9)	75
第 11 図	周辺の歴史時代 (古代) 遺跡位置図	17	第 53 図	瓦実測図 (10)	76
第 12 図	掘立柱建物跡実測図 (1)	20	第 54 図	瓦実測図 (11)	77
第 13 図	掘立柱建物跡実測図 (2)	21	第 55 図	瓦実測図 (12)	78
第 14 図	掘立柱建物跡実測図 (3)	22	第 56 図	瓦実測図 (13)	79
第 15 図	掘立柱建物跡実測図 (4)	23	第 57 図	瓦実測図 (14)	80
第 16 図	掘立柱建物跡実測図 (5)	24	第 58 図	瓦実測図 (15)	81
第 17 図	竪穴住居跡実測図 (1)	29	第 59 図	瓦実測図 (16)	82
第 18 図	竪穴住居跡実測図 (2)	30	第 60 図	瓦実測図 (17)	83
第 19 図	竪穴住居跡実測図 (3)	31	第 61 図	瓦実測図 (18)	84
第 20 図	竪穴住居跡実測図 (4)	32	第 62 図	瓦実測図 (19)	85
第 21 図	竪穴住居跡実測図 (5)	33	第 63 図	瓦実測図 (20)	86
第 22 図	竪穴住居跡実測図 (6)	34	第 64 図	瓦実測図 (21)	87
第 23 図	竪穴住居跡実測図 (7)	35	第 65 図	瓦実測図 (22)	88
第 24 図	竪穴住居跡実測図 (8)	36	第 66 図	瓦実測図 (23)	89
第 25 図	竪穴住居跡実測図 (9)	37	第 67 図	瓦実測図 (24)	90
第 26 図	竪穴住居跡実測図 (10)	38	第 68 図	瓦実測図 (25)	91
第 27 図	溝跡実測図 (1)	43	第 69 図	瓦実測図 (26)	92
第 28 図	溝跡実測図 (2)	44	第 70 図	瓦実測図 (27)	93
第 29 図	溝跡実測図 (3)	45	第 71 図	瓦実測図 (28)	94
第 30 図	溝跡実測図 (4)	46	第 72 図	瓦実測図 (29)	95
第 31 図	溝跡実測図 (5)	47	第 73 図	瓦実測図 (30)	96
第 32 図	溝跡実測図 (6)	48	第 74 図	瓦実測図 (31)	97
第 33 図	溝跡実測図 (7)	49	第 75 図	瓦実測図 (32)	98
第 34 図	溝跡実測図 (8)	50	第 76 図	瓦実測図 (33)	99
第 35 図	土坑実測図 (1)	52	第 77 図	瓦実測図 (34)	100
第 36 図	土坑実測図 (2)	53	第 78 図	瓦実測図 (35)	101
第 37 図	土坑実測図 (3)	54	第 79 図	瓦実測図 (36)	102
第 38 図	土坑実測図 (4)	55	第 80 図	瓦実測図 (37)	103
第 39 図	井戸跡・性格不明遺構実測図	56	第 81 図	瓦実測図 (38)	104
第 40 図	鏡瓦分類図 (1)	58	第 82 図	瓦実測図 (39)	105
第 41 図	鏡瓦分類図 (2)	59	第 83 図	瓦実測図 (40)	106
第 42 図	宇瓦分類図 (1)	61	第 84 図	瓦実測図 (41)	107

第 85 図	瓦実測図 (42) .....	108	第 127 図	土器・陶器等実測図 (8) .....	168
第 86 図	瓦実測図 (43) .....	109	第 128 図	土器・陶器等実測図 (9) .....	169
第 87 図	瓦実測図 (44) .....	110	第 129 図	土器・陶器等実測図 (10) .....	170
第 88 図	瓦実測図 (45) .....	111	第 130 図	土器・陶器等実測図 (11) .....	171
第 89 図	瓦実測図 (46) .....	112	第 131 図	土器・陶器等実測図 (12) .....	172
第 90 図	瓦実測図 (47) .....	113	第 132 図	土器・陶器等実測図 (13) .....	173
第 91 図	瓦実測図 (48) .....	114	第 133 図	土器・陶器等実測図 (14) .....	174
第 92 図	瓦実測図 (49) .....	115	第 134 図	土器・陶器等実測図 (15) .....	175
第 93 図	瓦実測図 (50) .....	116	第 135 図	土器・陶器等実測図 (16) .....	176
第 94 図	瓦実測図 (51) .....	117	第 136 図	土器・陶器等実測図 (17) .....	177
第 95 図	瓦実測図 (52) .....	119	第 137 図	土器・陶器等実測図 (18) .....	178
第 96 図	瓦実測図 (53) .....	120	第 138 図	土器・陶器等実測図 (19) .....	179
第 97 図	瓦実測図 (54) .....	121	第 139 図	土器・陶器等実測図 (20) .....	180
第 98 図	瓦実測図 (55) .....	122	第 140 図	土器・陶器等実測図 (21) .....	181
第 99 図	押印文字瓦・型押文字瓦分類図 .....	133	第 141 図	土器・陶器等実測図 (22) .....	182
第 100 図	型押文字瓦分類図 .....	134	第 142 図	土器・陶器等実測図 (23) .....	183
第 101 図	へう書き文字瓦分類図 (1) .....	135	第 143 図	土器・陶器等実測図 (24) .....	184
第 102 図	へう書き文字瓦分類図 (2) .....	136	第 144 図	鉄製品等実測図 (1) .....	185
第 103 図	へう書き文字瓦分類図 (3) .....	137	第 145 図	鉄製品等実測図 (2) .....	186
第 104 図	文字瓦実測図 (1) .....	143	第 146 図	鉄製品等実測図 (3) .....	187
第 105 図	文字瓦実測図 (2) .....	144	第 147 図	鉄製品等実測図 (4) .....	188
第 106 図	文字瓦実測図 (3) .....	145	第 148 図	鉄製品等実測図 (5) .....	189
第 107 図	文字瓦実測図 (4) .....	146	第 149 図	下野国分尼寺出土 鏡瓦・宇瓦時期比率図 .....	252
第 108 図	文字瓦実測図 (5) .....	147	第 150 図	1-2 期型押文の変化 .....	255
第 109 図	文字瓦実測図 (6) .....	148	第 151 図	各建物の型押文時期比率図 .....	257
第 110 図	文字瓦実測図 (7) .....	149	第 152 図	国分尼寺 型押文の時期比率図 .....	258
第 111 図	文字瓦実測図 (8) .....	150	第 153 図	鏡瓦・宇瓦 尼寺全体集計図 .....	258
第 112 図	文字瓦実測図 (9) .....	151	第 154 図	型押文 尼寺全体集計図 .....	258
第 113 図	文字瓦実測図 (10) .....	152	第 155 図	下野国分尼寺遺構変遷図 (1) .....	264
第 114 図	文字瓦実測図 (11) .....	153	第 156 図	下野国分尼寺遺構変遷図 (2) .....	265
第 115 図	文字瓦実測図 (12) .....	154	第 157 図	下野国分尼寺遺構変遷図 (3) .....	266
第 116 図	文字瓦実測図 (13) .....	155	第 158 図	鉄器生産遺物・漆壺・ 製塩土器の出土位置 .....	267
第 117 図	文字瓦実測図 (14) .....	156	第 159 図	下野国分尼寺出土土器変遷図 .....	275
第 118 図	文字瓦実測図 (15) .....	157	第 160 図	下野国分尼寺 軒先瓦組合せ・ 文字瓦変遷図 .....	278・279
第 119 図	伽藍地出土土器破片数と 灯明具の比率 .....	159	第 161 図	新治系軒先瓦変遷図 .....	281
第 120 図	土器・陶器等実測図 (1) .....	161	第 162 図	下野国分尼寺出土須恵器産地構成 .....	284
第 121 図	土器・陶器等実測図 (2) .....	162	第 163 図	下野国分寺出土須恵器産地構成 .....	285
第 122 図	土器・陶器等実測図 (3) .....	163	第 164 図	下野国府跡出土須恵器産地構成 .....	286
第 123 図	土器・陶器等実測図 (4) .....	164	第 165 図	各窯の製品実測図 .....	286
第 124 図	土器・陶器等実測図 (5) .....	165			
第 125 図	土器・陶器等実測図 (6) .....	166			
第 126 図	土器・陶器等実測図 (7) .....	167			

## 表 目 次

第 1 表	調査区一覧表	4	第 15 表	土器・陶器等観察表	190 ~ 231
第 2 表	発掘担当者一覧	4	第 16 表	鉄製品等観察表	232 ~ 237
第 3 表	軒先瓦分類表	63	第 17 表	男瓦・女瓦分類・集計表	238 ~ 249
第 4 表	伽藍地出土実測瓦一覧表	118	第 18 表	伽藍地（遺構外）出土 男瓦・女瓦分類・集計表	250
第 5 表	伽藍地遺構外出土鏡瓦集計表	122	第 19 表	下野国分尼寺出土鏡瓦集計表	253
第 6 表	伽藍地遺構外出土宇瓦集計表	122	第 20 表	下野国分尼寺出土宇瓦集計表	253
第 7 表	国分尼寺出土の 押印文字瓦出土地集計表	138	第 21 表	1-2 期型押文の変化と 出土位置関連表	256
第 8 表	国分尼寺出土押印文字瓦の 押印位置・方向集計表	138	第 22 表	調査区出土 女瓦の時期	259
第 9 表	国分尼寺出土型押文字瓦 出土地集計表	139	第 23 表	竪穴住居跡の時期	263
第 10 表	国分尼寺出土型押文字瓦の位置・ 方向集計表	139	第 24 表	下野国分尼寺 土器・瓦・遺構時期対照表	267
第 11 表	国分尼寺出土 へら書き文字瓦出土地集計表（1）	139	第 25 表	下野国分尼寺出土 文字瓦と型押文の対応表（1）	269
第 12 表	国分尼寺出土 へら書き文字瓦出土地集計表（2）	140	第 26 表	下野国分尼寺出土 文字瓦と型押文の対応表（2）	270
第 13 表	国分尼寺出土へら書き文字瓦の位置・ 方向集計表（1）	141	第 27 表	下野国分寺・尼寺出土 郡名文字瓦（1-2 期）構成比	271
第 14 表	国分尼寺出土へら書き文字瓦の位置・ 方向集計表（2）	142	第 28 表	下野国分寺・尼寺、下野国府出土 灰釉陶器・緑釉陶器点数集計表	289

# 写真図版

- 図版一 調査区全景  
第1次調査区 (南から)  
第2次調査区 (南から)
- 図版二 調査区全景  
第11次調査区 (北から)  
第12次調査区 (東から)
- 図版三 遺構 調査区  
第3次調査区 調査区全景 (北西から)  
第4次調査区 調査区中央南側部分 (北東から)  
第4次調査区中央部分 (北から)  
第4次調査区西側部分 (西から)  
第5次調査区 調査区全景 (南西から)  
第6次調査区 調査区全景 (南から)  
第6次調査区南部 (東から)  
第6次調査区南部・中央部 (南から)
- 図版四 遺構 調査区・掘立柱建物跡  
第12次調査区 中央部 (南東から)  
第14次調査区 調査区全景 (南東から)  
第14次調査区全景 (南から)  
第14次調査区南部分 (東から)  
第14次調査区南部分 (北東から)  
第14次調査区中央部分 (東から)  
第14次調査区北部分 (北東から)  
第1次調査区 SB-147 北西隅柱 土層断面 (西から)
- 図版五 遺構 掘立柱建物跡  
第2次調査区 SB-327 北西隅柱 土層断面 (東から)  
SB-338 南西隅柱 土層断面 (東から)  
第7次調査区 SB-582・585 全景 (南から)  
SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(東から)  
SB-582 東側柱列南第2柱 SB-585A・B期南東隅柱 土層断面 (東から)  
SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(東から)  
SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面(南から)  
SB-585 南西隅柱 土層断面 (南から)
- 図版六 遺構 掘立柱建物跡  
調査区北部東側部分 SB-591 側柱列 (南から)  
SB-591 西側柱列北第2柱 土層断面(東から)  
第9次調査区 SB-654 全景 (北から)
- 第11次調査区 SB-700 全景 (南から)  
SB-700・738・750 全景 (北から)  
SB-700 南廂列西第3柱A・B期 土層断面 (南から)  
SB-700 南廂列西第3柱A期 土層断面 (南から)  
SB-700 東廂列北第2柱A期 土層断面 (東から)
- 図版七 遺構 掘立柱建物跡  
SB-700 東廂列北第2柱B期 土層断面 (東から)  
SB-700 北廂列西第3柱A・B期 土層断面 (南から)  
SB-700 北廂列西第3柱 鉄製品出土状況 (南から)  
SB-700 身舎北西隅柱 土層断面 (南から)  
SB-700 身舎南西隅柱 土層断面 (東から)  
SB-707 北東隅柱 土層断面 (南から)  
SB-738 東側柱列南第2柱 土層断面 (南から)  
SB-738 北東隅柱 SK-739 土層断面 (東から)
- 図版八 遺構 掘立柱建物跡・竪穴住居跡  
SB-738 全景 (東から)  
第1次調査区 SI-114 遺物出土状況 (南から)  
SI-121・122 遺物出土状況 (南から)  
SI-174 全景 (南から)  
第2次調査区 SI-239 遺物出土状況 (東から)  
SI-241 遺物出土状況 (東から)  
SI-307 遺物出土状況 (北から)  
SI-307 遺物出土状況 (南西から)
- 図版九 遺構 竪穴住居跡  
SI-307 遺物出土状況 (南東から)  
SI-325 遺物出土状況 (東から)  
SI-325 全景 (東から)  
SI-335 遺物出土状況 (北東から)  
SI-336 遺物出土状況 (西から)  
SI-336 出土遺物近景 (南西から)  
SI-368 遺物出土状況 (南西から)  
SI-368 土層断面 (北西から)

- 図版一〇 遺構 竪穴住居跡  
 第4次調査区 SI-438 遺物出土状況  
 (西から)  
 SI-450 遺物出土状況 (西から)  
 SI-450 出土遺物近景 (南東から)  
 SI-451 遺物出土状況 (西から)  
 第5次調査区 SI-495・496 全景 (南から)  
 SI-500 全景 (北から)  
 SI-500 等 (西から)  
 第7次調査区 SI-588 等 (南から)
- 図版一一 遺構 竪穴住居跡  
 第11次調査区 SI-686 遺物出土状況  
 (北から)  
 SI-690 遺物出土状況 (南から)  
 SI-690 出土遺物近景  
 SI-690 鏡瓦出土状況 (北から)  
 SI-690 出土遺物近景 (東から)  
 SI-690 出土遺物近景 (南から)  
 SI-690 全景 (南から)  
 SI-691 遺物出土状況 (西から)
- 図版一二 遺構 竪穴住居跡  
 SI-691 全景 (南西から)  
 SI-696 遺物出土状況 (東から)  
 SI-698 全景 (南から)  
 SI-698 全景 (南東から)  
 SI-714 全景 (南から)  
 第12次調査区 SI-814 全景 (南から)  
 第14次調査区 SI-843 土層断面  
 (南東から)  
 SI-844 遺物出土状況 (南西から)
- 図版一三 遺構 竪穴住居跡・溝跡  
 SI-847 土層断面 (南から)  
 SI-847 遺物出土状況 (南から)  
 SI-849 遺物出土状況 (北から)  
 第1次調査区 SD-112 遺物出土状況  
 (南から)  
 SD-113 遺物出土状況 (南から)  
 SD-196 土層断面 (西から)  
 SD-198 全景 (西から)  
 第2次調査区 SD-250・SX-377 全景  
 (南西から)
- 図版一四 遺構 溝跡・土坑  
 SD-250 土層断面 (西から)  
 SD-305 遺物出土状況 (北から)
- 第7次調査区 SD-140・SK-572 土層断面  
 (南から)  
 第9次調査区 SD-651 遺物出土状況  
 (北から)  
 第11次調査区 SD-790 遺物出土状況  
 (南から)  
 第1次調査区 SK-190 遺物出土状況  
 (南から)  
 第2次調査区 SK-299・SX-291 全景  
 (北から)  
 第3次調査区 SK-387 遺物出土状況  
 (西から)
- 図版一五 遺構 土坑  
 第4次調査区 SK-421・422 遺物出土状況  
 (西から)  
 SK-427 遺物出土状況 (南から)  
 SK-461 遺物出土状況 (南から)  
 第5次調査区 SK-494 遺物出土状況  
 (西から)  
 第7次調査区 SK-581 土層断面 (南から)  
 第11次調査区 SK-702・704 遺物出土状況  
 (東から)  
 第12次調査区 SK-819・837 土層断面  
 (南から)  
 SK-834 土層断面 (南から)
- 図版一六 遺構 土坑・井戸跡・性格不明遺構等  
 SK-838 土層断面 (南から)  
 第2次調査区 SE-371 遺物出土状況  
 (東から)  
 第12次調査区 SE-813 土層断面  
 (南から)  
 第1次調査区 SX-115 遺物出土状況  
 (南から)  
 第2次調査区 SX-291 土層断面 (南から)  
 第12次調査区 SZ-815 調査風景 (北から)  
 SZ-815 遺物出土状況 (東から)  
 第11次調査区 調査区から伽藍をのぞむ  
 (北東から)
- 図版一七 遺物 鏡瓦  
 1型式 3C型式 4B型式 4D型式  
 7型式 13型式 15型式 18型式 21型式  
 24型式 25型式
- 図版一八 遺物 鏡瓦・宇瓦  
 鏡瓦 27型式 28型式 29型式

- 宇瓦 1 型式 2 A 型式 2 B 型式 3 B 型式  
4 B 型式 4 C 型式 4 D 型式 4 E 型式  
4 F 型式 4 G 型式 4 H 型式
- 図版一九 遺物 宇瓦  
5 B 型式 5 C 型式 6 A 型式 6 C 型式  
8 A 型式 12 B 型式 12 C 型式 14 型式  
15 型式 16 型式
- 図版二〇 遺物 調査区内出土瓦  
第 1 次 SI-125-7 SI-163-1 第 2 次 SI-241-2  
SI-255-1 SI-307-2・4 SI-337-1 第 4 次 SI-  
439-1 第 5 次 SI-496-2 SI-500-1 第 11 次  
SI-686-3 SI-690-1 SI-696-1・4 SI-751-2  
第 14 次 SI-849-1 第 1 次 SD-72-1 SD-  
112B-1・3
- 図版二一 遺物 調査区内出土瓦  
第 1 次 SD-112B-4 ~ 7 SD-154-1・4・7・8 SD-  
113-1 SD-201-1 SX-166-2 SX-192-1 第 1  
次遺構外 -9・10 第 2 次 SD-330-1 SX-246-1
- 図版二二 遺物 調査区内出土瓦  
第 2 次 SK-339-1 遺構外 -1 第 4 次 SK-461-1  
遺構外 -4・5 第 7 次遺構外 -1 第 10 次 SD-  
670B-1・2 SD-671-1 第 11 次 SD-330-1 SD-  
695-1 SD-800-1・2 SD-804-1 SK-695-2 SX-  
805-1 第 12 次 SD-826-1
- 図版二三 遺物 調査区・伽藍地内出土瓦 文字瓦  
第 12 次 SA-820-1 SD-610B-1 伽藍地 -33・34・  
48・65・66・71・118・124・142・146 那瓦  
塩 内 都可 安宋 II 安 III 足 IV 足 VII  
足 VIII 足 IX
- 図版二四 遺物 文字瓦  
足 XI 宋 矢 田 VI 寺 II 瓦 押 IV 押 VI  
押 IX 可 足 II 田 II 田 III 国分寺 I B
- 図版二五 遺物 文字瓦  
国分寺 II 国分寺 III 国分寺 IV 国分寺 V  
寺 IV B 寺 VII 寺 IX 寺 VIII 那 A I 那 A II
- 図版二六 遺物 文字瓦  
那 B I 那 E 那 G 那 H 塩 D 内 A I  
内 A II 内 B I 内 B II 内 C 内 D 内 E  
内 F 内 G 内 H 可 A I 可 A II 可 D II  
可 F 可 G
- 図版二七 遺物 文字瓦  
川 A 川 B 川 C 川 D 川 E 安 A I  
安 A II 安 B II 安 D 足 A 足 B 足 C  
宋 B 矢 A
- 図版二八 遺物 文字瓦  
矢 C 矢 D 矢 E 矢 F 田 B I 田 B II  
田 B III 田 D 田 C 郡 B 大 十 安田後 A  
安田後 B 寺 不明 (郡)
- 図版二九 遺物 土器・陶器等  
第 10 次 SA-300-1 第 1 次 SI-114-1・2・3・5  
SI-122-2 SI-125-1・3・4・9 SI-163-7・11  
SI-174-7 第 2 次 SI-239-15・20・23・25 ~ 28  
SI-241-7・10・11 SI-251-8
- 図版三〇 遺物 土器・陶器等  
第 2 次 SI-241-13 SI-307-1 ~ 5・9・10・40・43・  
48・49・52・54・59・68・70 ~ 92
- 図版三一 遺物 土器・陶器等  
第 2 次 SI-315-1 ~ 3 SI-325-1・2 SI-335-1  
SI-336-1 ~ 4・6・7・11・12 SI-368-1・4・7  
SI-378-1・3
- 図版三二 遺物 土器・陶器等  
第 4 次 SI-437-12 ~ 14 SI-438-4・6・14  
SI-439-1・2 SI-450-5 SI-451-6・7・12 第 5  
次 SI-495-1 第 7 次 SI-566-1 第 10 次 SI-  
674-5 第 11 次 SI-680-1・11・18・25
- 図版三三 遺物 土器・陶器等  
第 11 次 SI-686-1 ~ 3・6 SI-690-1 ~ 5・10・21  
SI-691-1・19 SI-698-1 ~ 4・7・9
- 図版三四 遺物 土器・陶器等  
第 11 次 SI-698-10・11・13・27・32・41 ~ 43  
SI-714-1・2・5・6 SI-751-1 SI-781-1 第 12 次  
SI-814-1 第 14 次 SI-843-10 SI-844-1・3・7  
SI-853-1 第 14 次 SI-849-2
- 図版三五 遺物 土器・陶器等  
第 1 次 SD-112-1 ~ 4・7 SD-113-1 SD-140B-3  
SD-151-1 SD-153-1 SD-195-1 ~ 6 SD-206-1  
第 2 次 SD-292-2 SD-329-1 SD-330-3 ~ 5
- 図版三六 遺物 土器・陶器等  
第 2 次 SD-330-7 ~ 12・14・40 SD-334-1・8・13・  
14・16 SD-369-1 第 4 次 SD-140-3・4 第 7 次  
SD-140-1・2・5・6
- 図版三七 遺物 土器・陶器等  
第 7 次 SD-140・550-1 SD-550-5 第 9 次 SD-  
658B-1・2 第 10 次 SD-670B-1 第 11 次 SD-  
193A・B-3・4 SD-265A・B-1・2 SD-330-3  
SD-369-3・6 SD-550A・B-1 SD-681-9・10  
SD-713-5 SD-790-8・9・12 SD-797-1 SD-  
800A・B-1

- 図版三八 遺物 土器・陶器等  
第11次 SD-800A・B-2・4・5・9～11 第12次 SD-610A・B-1 第1次 SK-156-1～3・5～9・12・13・16・17 SK-199-1
- 図版三九 遺物 土器・陶器等  
第1次 SK-190-1 第3次 SK-387-1 第4次 SK-421-1～6 SK-447-1 SK-461-1 第7次 SK-597-1 SK-704-1 第12次 SK-837-1 第14次 SK-857-2 第1次 SX-115-1～5
- 図版四〇 遺物 土器・陶器等  
第1次 SX-115-6～18 SX-167-1 SX-169-1・3・8・9・10 SX-170-1・2
- 図版四一 遺物 土器・陶器等  
第1次 SX-170-3 SX-192-1・2 第2次 SX-246-1・4 SX-331-1 SX-377-1 第11次 SX-805-4・5・8・10・11 第1次調査区-1・2・61～64・66 第2次調査区-3
- 図版四二 遺物 土器・陶器等  
第2次調査区-44・45・48・50 第4次調査区-9 第8次調査区-1・6・7 第9次調査区-2 第10次調査区-2 第11次調査区-15・17・24 第14次調査区-1 金堂-1・3・5・14・19 回廊-3 経蔵-1
- 図版四三 遺物 土器・陶器・鉄製品等  
僧房-4・5・10・13・29・30・34・36 南門-3 伽藍地内-6・7・8 第1次 SB-171-1 第11次 SB-700-1 SA-300-1 第1次 SI-114-1・2 SI-122-1・2・4・5 SI-125-1 SI-163-1 第2次 SI-307-1・4・8・9・11 SI-325-1・2
- 図版四四 遺物 鉄製品等  
第2次 SI-307-10 SI-335-1 第4次 SI-438-1・3 SI-451-1 第7次 SI-566-1 第11次 SI-698-1 第14次 SI-844-1・2 第1次 SD-112-1 SD-152-1 SD-193-1 第2次 SD-330-1・5 SD-334-1 第9次 SD-658B-1 第7次 SD-140-1 第2次 SK-262-1 第2次 SK-268-1・2 第7次 SK-598-1 第11次 SD-330-1 SX-805-1 遺構外 第1次調査区-1 第4次調査区-2 第8次調査区-1 第11次調査区-1 第1次調査区-1 (銅製品) 第2次 SD-369-1 (銅製品) 僧房址第Ⅱトレンチ
- 図版四五 遺物 鉄製品等 (レントゲン写真)  
第1次 SB-171-1 第11次 SB-700-1 第1次 SI-114-1・2 SI-125-1 SI-163-1 第2次 SI-257-1 SI-307-1～5・7～10 SI-325-1～7 第4次 SI-396-1 SI-438-3 第1次 SD-112-1 SD-113-1 SD-152-1 第2次 SD-329-1 SD-330-1～5 SD-334-1 SD-369-1
- 図版四六 遺物 鉄製品等 (レントゲン写真)  
第7次 SD-140-1 第2次 SK-262-1 SK-268-1・2 第4次 SK-421-1 第6次 SK-540-1 第7次 SK-598-1 第1次 SX-192-1 第2次 SX-246-1・2 SX-377-1・2 遺構外第1次調査区-1 第2次調査区-1・2・12・19 銅製品 第1次調査区-1 第2次 SD-369-1

## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

下野国分尼寺跡の発掘は、工場建設に伴い緊急に行われた昭和39年から41年・43年の調査に始まる。この調査では、金堂・講堂・回廊・中門などの主要堂宇を中心とした建物基壇や僧房跡と推定される掘立柱建物跡などが発見された。また、伽藍南側には東西35mにわたって土塁が残っていた。39年の調査で伽藍の様子が明らかになったことから昭和40年4月9日付けで国史跡に指定された。4次に亘る調査成果は、県教育委員会発行最初の発掘調査報告書として刊行された（斎藤・大和ほか1969）。

その後、国分尼寺跡は史跡公園として整備され、発掘調査はしばらく実施されなかったが、昭和59年のしもつけ風土記の丘資料館建設に伴う国分尼寺跡関連遺跡の調査が実施された。その結果、国分尼寺跡の西方120m（400尺）の台地落ち際に沿い南北に走る溝（SD-45）が確認され、国分尼寺跡の寺院西辺の区画施設と考えられた（木村ほか1985）。これにより、国分寺と同様に広大な寺院地の存在が予想されるようになった。

その後、寺院の南西隅の隣接地が、盛土によって公園造成されることとなり、これに先だって平成5年に発掘調査を実施し、伽藍の南西隅が発見された。この位置はかつて土塁が残っていた所の延長上である。

一方、下野国分寺跡は昭和57年度から平成4年度までの11年間にわたる調査によって、伽藍地及び寺院地の範囲を確認することができ、成果を挙げていた。国分寺跡の現地調査終了後に、国分寺跡と同様に国分尼寺跡の伽藍地・寺院地、寺院の全体を解明すべく、確認調査を実施することとなった。

### 第2節 調査の方法

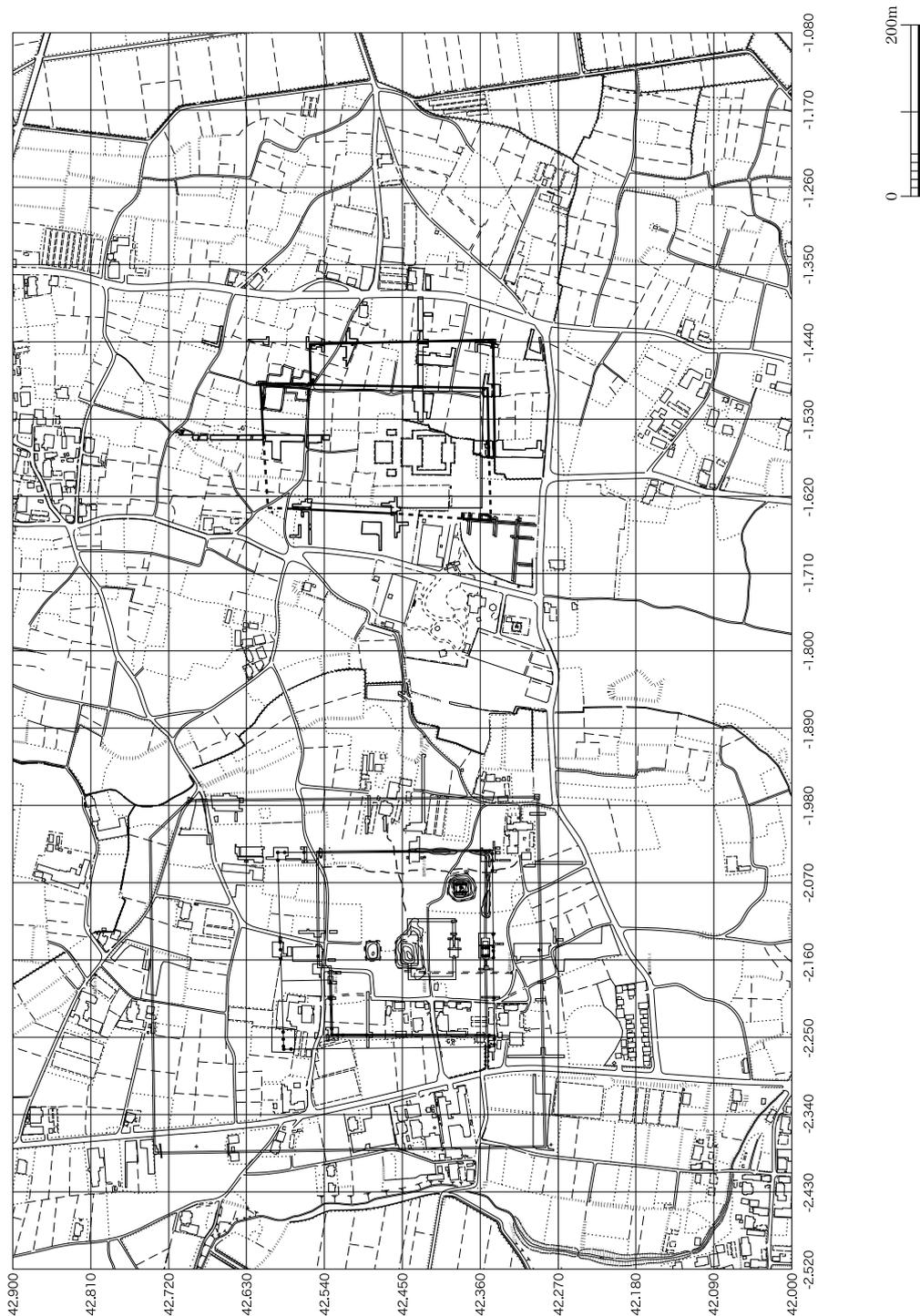
調査にあたり、航空測量による200分の1、1000分の1縮尺の地形図を作成した。また、国土方眼座標に基づく基準杭設定を行い、測量基準とした。これは、後に世界測地系に変更した。

この地形図の中を一辺90mの大グリッドに区分し、各大グリッドをさらに3m四方の小グリッドに区分して、一つの大グリッド内を900の小グリッドに分けた。グリッドの呼称は各グリッドの北西隅を1とし、南西隅を900とした。西から東に平行式に数を増やして、遺物の平面位置を3m方眼で表示する。

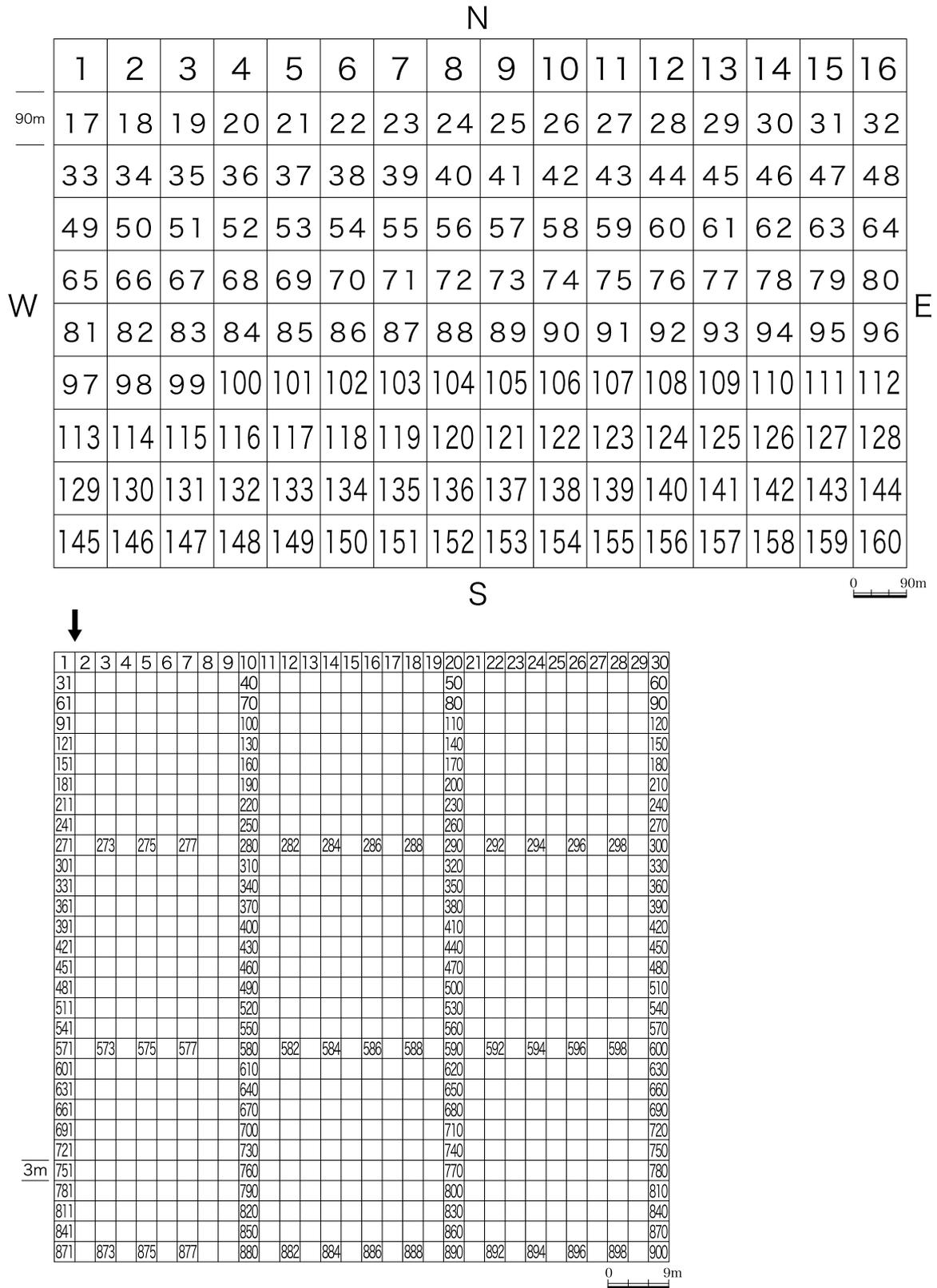
各調査区は、測量基準として業者に国土方眼座標に基づく基準杭設定を委託し、その基準杭（遺跡原点）を基に調査区を設定した。これらの杭を基準にして、それぞれの発掘区を設定し、その中を重機で表土除去を行い、遺構を確認した。調査区の範囲は、遺構の状況に応じて一部拡張を行った。

確認された遺構の調査は、土層観察用ベルトを残して埋土を掘り下げるか、トレンチ状に遺構の一部を掘り下げるか、遺構の状況に応じて行った。柱穴は一部について半截し、柱痕などの観察を行った。遺構から出土した遺物は、一部層位ごとに取り上げ、一部は出土した平面・垂直位置を記録した。

土層観察後には、土層・遺物出土状況及び遺構の写真撮影を行った。



第1図 大グリッド割付図



第2図 下野国分尼寺跡区割り図

## 第1章 調査の経緯

### 第1表 調査区一覧表

調査年度	調査回数	調査地番	調査期間	調査面積	借地面積
平成5年度	KN-1	下都賀郡国分寺町国分340	平成5年11月11日～平成6年3月30日	90㎡	400㎡
平成5年度	KN-1	下都賀郡国分寺町国分644、648	平成5年11月11日～平成6年3月30日	500㎡	1300㎡
平成5年度	KN-1	下都賀郡国分寺町国分653、682-1	平成5年11月11日～平成6年3月30日	769㎡	1000㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分553、608	平成6年5月9日～平成6年9月12日	85㎡	150㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分609、617	平成6年5月9日～平成6年9月12日	194㎡	919㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分610、621	平成6年5月9日～平成6年9月12日	590㎡	1178㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分614	平成6年5月9日～平成6年9月12日	168㎡	550㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分630	平成6年5月9日～平成6年9月12日	165㎡	290㎡
平成6年度	KN-2	下都賀郡国分寺町国分631	平成6年5月9日～平成6年9月12日	43㎡	150㎡
平成7年度	KN-3	下都賀郡国分寺町国分664-1、665-1	平成7年11月2日～平成8年3月28日	797㎡	842㎡
平成7年度	KN-4	下都賀郡国分寺町国分637、638	平成7年11月2日～平成8年3月28日	275㎡	984㎡
平成7年度	KN-5	下都賀郡国分寺町国分570	平成7年11月2日～平成8年3月28日	128㎡	575㎡
平成7年度	KN-6	下都賀郡国分寺町国分589	平成7年11月2日～平成8年3月28日	92㎡	400㎡
平成7年度	KN-7	下都賀郡国分寺町国分585	平成7年11月2日～平成8年3月28日	179㎡	400㎡
平成7年度	KN-8	下都賀郡国分寺町国分661	平成7年11月2日～平成8年3月28日	127㎡	400㎡
平成7年度	KN-8	下都賀郡国分寺町国分663-1	平成7年11月2日～平成8年3月28日	34㎡	360㎡
平成8年度	KN-9	下都賀郡国分寺町国分628-1	平成8年10月31日～平成9年3月28日	2569㎡	520㎡
平成8年度	KN-10	下都賀郡国分寺町国分628-1	平成8年10月31日～平成9年3月28日	1673㎡	520㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分595	平成9年11月11日～平成10年3月25日	300㎡	550㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分596	平成9年11月11日～平成10年3月25日	421㎡	500㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分597	平成9年11月11日～平成10年3月25日	412㎡	452㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分598	平成9年11月11日～平成10年3月25日	270㎡	423㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分600	平成9年11月11日～平成10年3月25日	590㎡	598㎡
平成9年度	KN-11	下都賀郡国分寺町国分602	平成9年11月11日～平成10年3月25日		366㎡
平成9年度	駐車場	下都賀郡国分寺町国分628-1	平成9年11月11日～平成10年3月25日		65㎡
平成10年度	KN-12	下都賀郡国分寺町国分678-1	平成10年11月9日～平成11年3月29日	474㎡	300㎡
平成10年度	KN-12	下都賀郡国分寺町国分700-1	平成10年11月9日～平成11年3月29日	600㎡	1600㎡
平成10年度	KN-13	下都賀郡国分寺町国分668、669	平成10年11月9日～平成11年3月29日	330㎡	550㎡
平成10年度	KN-14	下都賀郡国分寺町国分655	平成10年11月9日～平成11年3月29日	500㎡	500㎡

### 第2表 発掘担当者一覧

調査回数	調査年度	調査機関	発掘担当者
1次	平成5年度(1993)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
2次	平成6年度(1994)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
3・4・5・6・7・8次	平成7年度(1995)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
9・10次	平成8年度(1996)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
11次	平成9年度(1997)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、板橋正幸
12・13・14次	平成10年度(1998)	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大橋泰夫、安藤美保

## 第3節 調査の経過

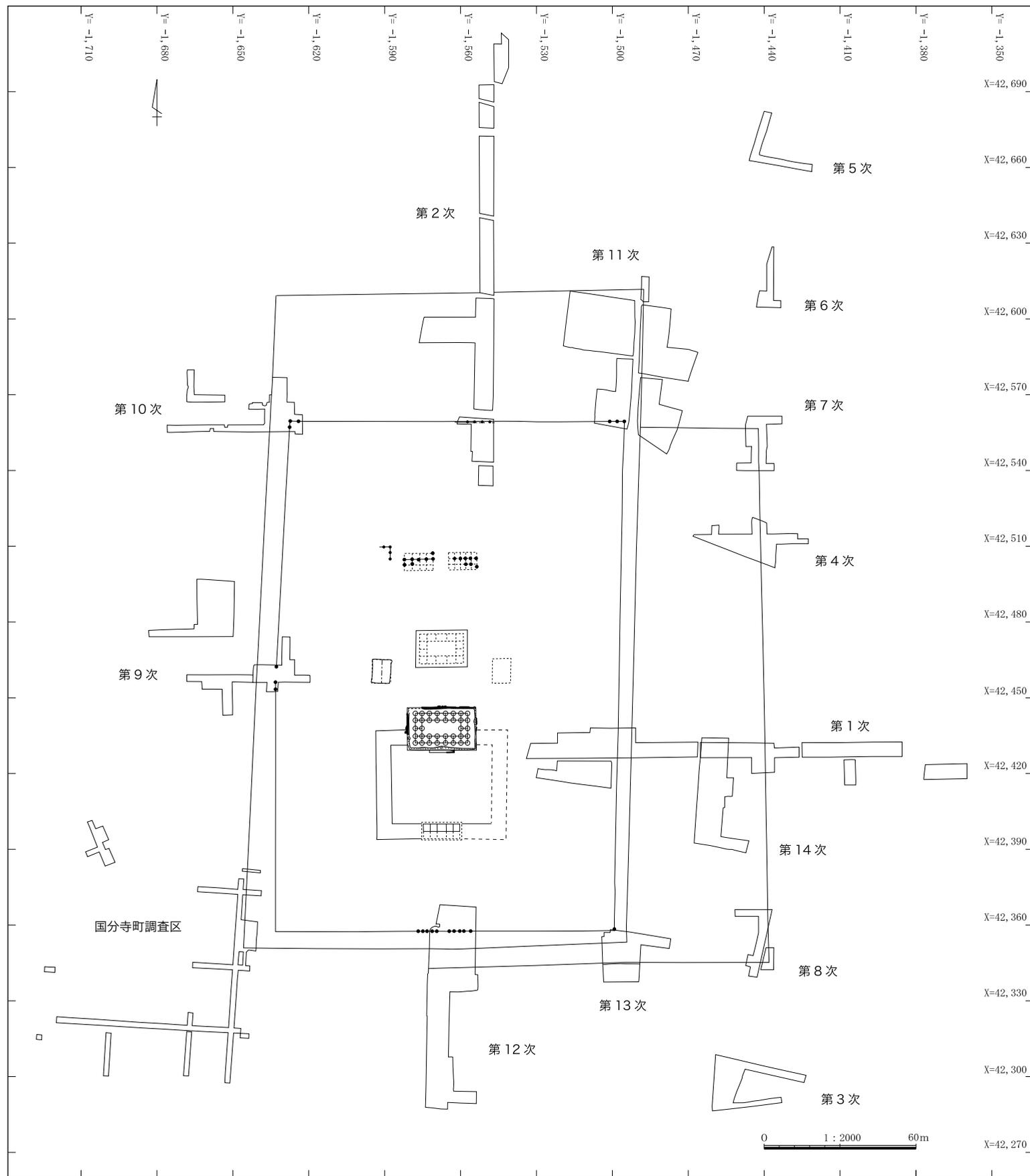
調査は、平成5年度から実施した。以下、各調査区の概要を述べる。

### (1) 第1次調査区－平成5年度－

伽藍地・寺院地の東辺を確認することを目的に、金堂の東側に東西に長い調査区を設けた。その結果、金堂の東側において金堂と同じ規模の基壇建物(SB-200)を確認した。この建物は、寺院地溝などよりも古く、創建期の建物と判断される。区画施設は、南北溝が数条確認された。調査区西側の溝(伽藍地東辺溝)より東側において、堅穴住居群が存在した。

### (2) 第2次調査区－平成6年度－

伽藍地・寺院地の北辺確認のため、講堂・尼房の北方を調査した。伽藍の規模は南北205m(683尺)、東西140m(467尺)と判明し、区画施設は掘立柱塀から築地塀に建て替えていた。また、北辺築地塀の内側側溝の上に堅穴住居群が発見された。



第3図 下野国分尼寺跡調査区位置図



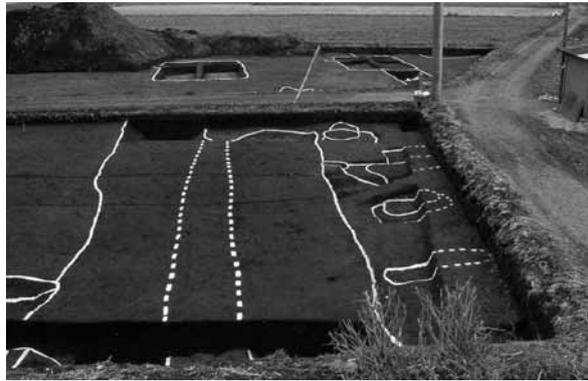
第7次調査区 全景（南から）



第9次調査区 全景（東から）



第11次調査区 調査区中央部分（南から）



第11次調査区 SA-300, SD-330・369・810（西から）



第12・13次調査区 全景（北から）



第13次調査区 全景（東から）

(3) 第3次調査区－平成7年度－

第1次調査区の南で、1次調査で出た南北溝を追ったが発見されず、これよりも北側で東辺溝が折れることを確認した。

(4) 第4次調査区－平成7年度－

第1次調査区の北側を調査し、これから北に延びる南北溝を確認した。

(5) 第5次調査区－平成7年度－

第1次調査区で発見した南北溝の北側の延長上を調査した。しかし、南北溝は確認できず、ここまでは延びないことを確認した。竪穴住居跡などを発見した。

(6) 第6次調査区－平成7年度－

## 第1章 調査の経緯

第5次調査区の南側を調査したが、第1次調査区で発見した南北溝は確認できず、竪穴住居等を発見した。

### (7) 第7次調査区—平成7年度—

第6次調査区の南側を調査し、第1次調査区で発見した南北溝が西側に折れることを確認した。このため、寺院地が東側に張り出している可能性が出てきた。

### (8) 第8次調査区—平成7年度—

第1次調査区の南側で、南北溝の延長を確認した。その結果、寺院地張り出し部の南東隅部を確認した。このため、寺院地溝は、伽藍地東辺塀の東側60m(200尺)を伽藍地に平行してのび、北辺は伽藍地北辺、南辺は伽藍地よりも南側を平行していることが明らかになった。

### (9) 第9次調査区—平成8年度—

伽藍地・寺院地西側の範囲を明らかにするために調査した。その結果、伽藍地の西辺掘立柱塀と寺院地の溝などが発見された。

### (10) 第10次調査区—平成8年度—

第9次調査区で確認された伽藍地・寺院地西辺の北西隅を確認するために調査した。伽藍地区画施設は、第2次調査区で確認されていた掘立柱塀の延長で屈曲することが確認され、伽藍地の北西隅が明らかになった。溝はさらにのびていた。

### (11) 第11次調査区—平成9年度—

第2・10次調査区で確認されていた掘立柱塀の北東隅の確認と第1次調査区で確認されていた南北溝の延長を明らかにするために調査した。その結果、東西に延びる掘立柱塀と伽藍地の北東隅が確認できた。南北溝はさらに北にのび、調査区の北端で西に折れていた。これにより寺院地の北辺を確認することができた。また、この調査区では、伽藍地・寺院地と主軸方位の異なる掘立柱建物(四面廂建物)や竪穴住居群なども発見された。

### (12) 第12次調査区—平成10年度—

伽藍地南辺は昭和39年から41年の調査で明らかになっていたが、伽藍地の南門の解明と、第8次調査区で西に折れた寺院地南辺を明らかにするために調査した。寺院地の施設は、伽藍地区画に掘立柱塀の南側66m(220尺)の位置にあることが判明した。

### (13) 第13次調査区—平成10年度—

第1・12次調査で判明した伽藍地区画の掘立柱塀南東隅と伽藍地の南東隅を確認した。これらにより、伽藍地は南北205m(700尺)、東西135m(450尺)になる。

### (14) 第14次調査区—平成10年度—

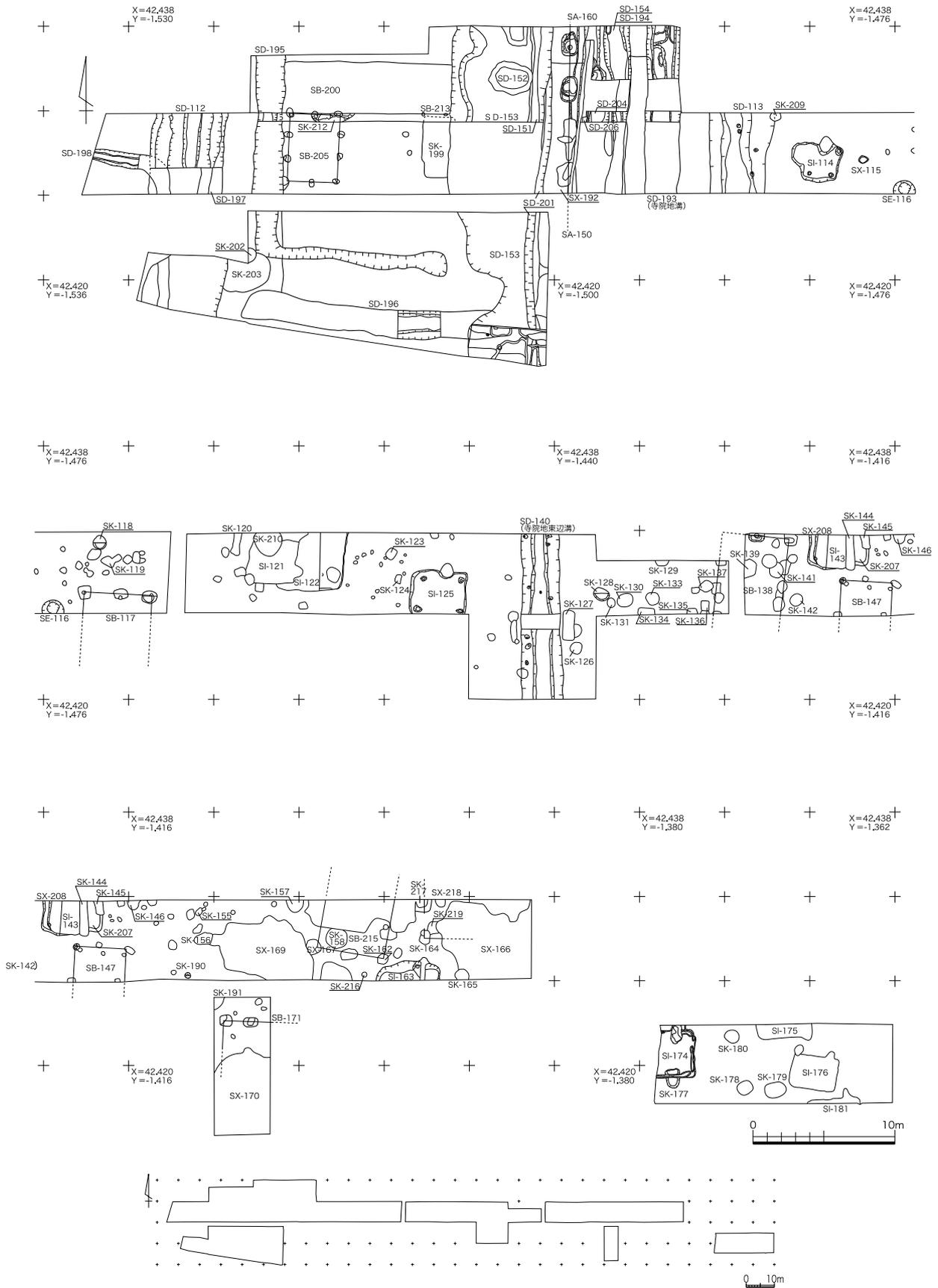
伽藍地の東方の張り出し寺院地で、寺院地移行後の竪穴住居群を発見したが、寺院地が機能した時期の遺構は発見されず、張り出し中央部分が空白地であることが推定された。

## 参考文献

上野川 勝 1996『釈迦堂遺跡—下野国分尼寺跡伽藍南西隅隣接地点確認調査報告—』国分寺町教育委員会

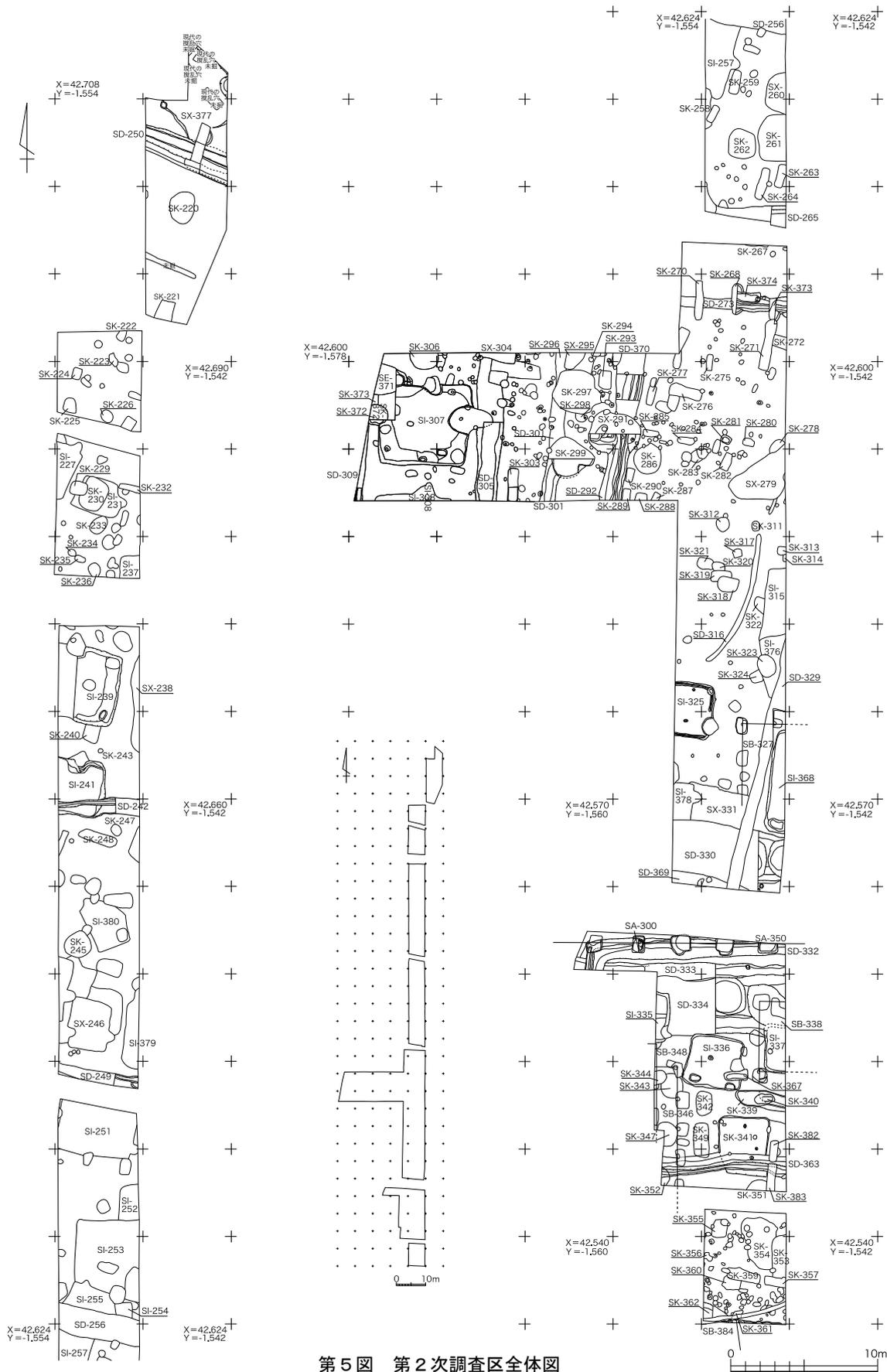
木村 等・大橋泰夫・鏑木理広・齋藤 弘 1985「下野国分尼寺跡関連遺跡調査報告(しもつけ風土記の丘資料館建設予定地)」『栃木県埋蔵文化財調査報告第62集 栃木県埋蔵文化財保護行政年報』栃木県教育委員会

齋藤 忠・大和久震平ほか 1969『下野国分尼寺跡』栃木県教育委員会



第4図 第1次調査区全体図

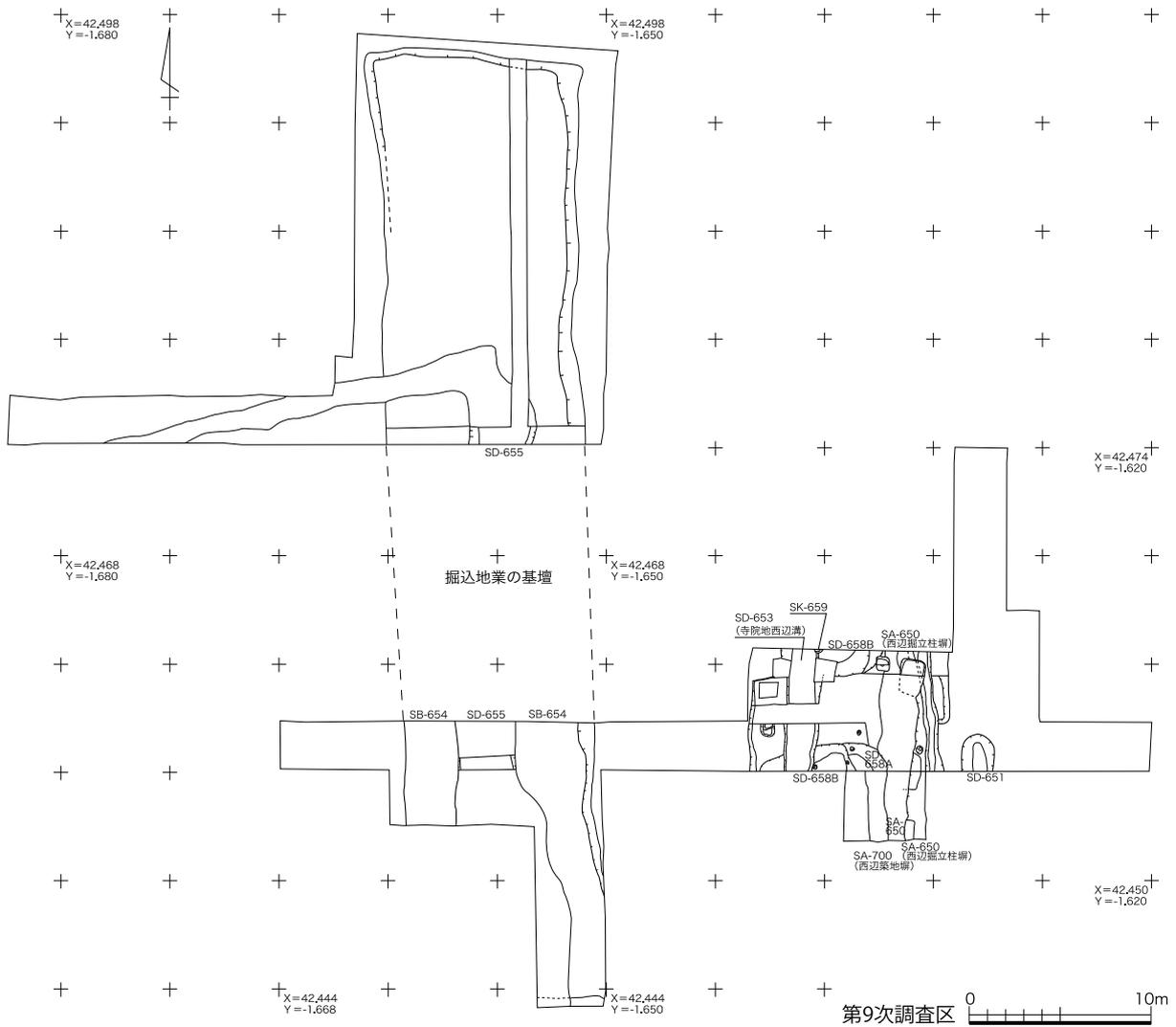
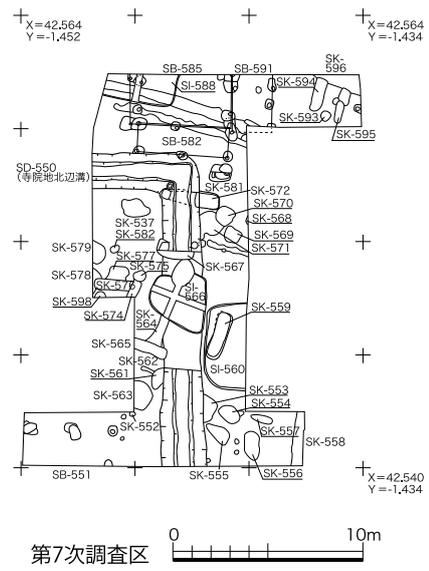
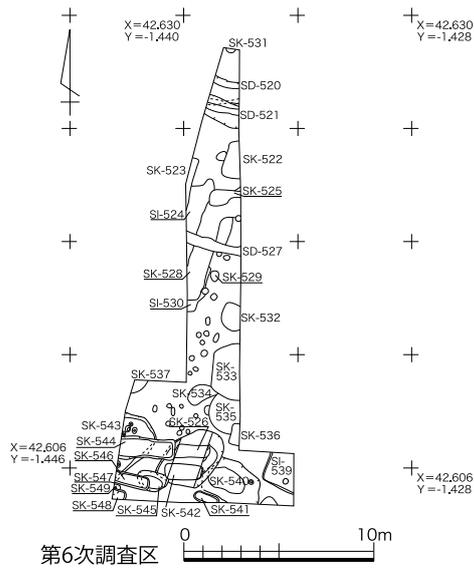
第1章 調査の経緯



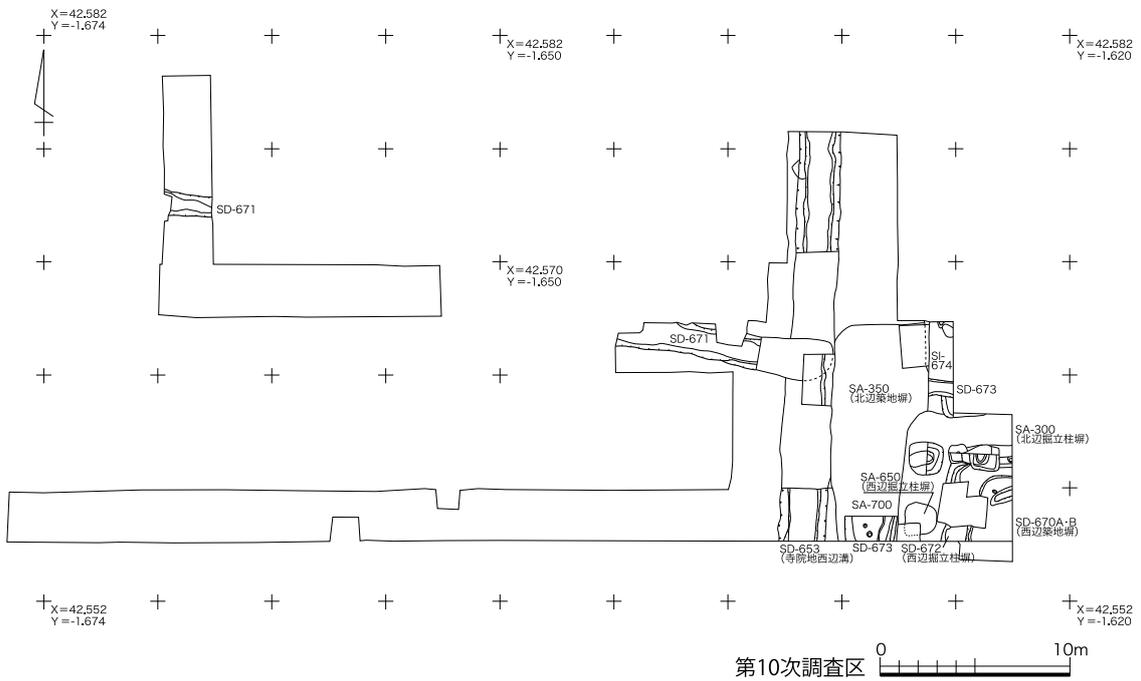
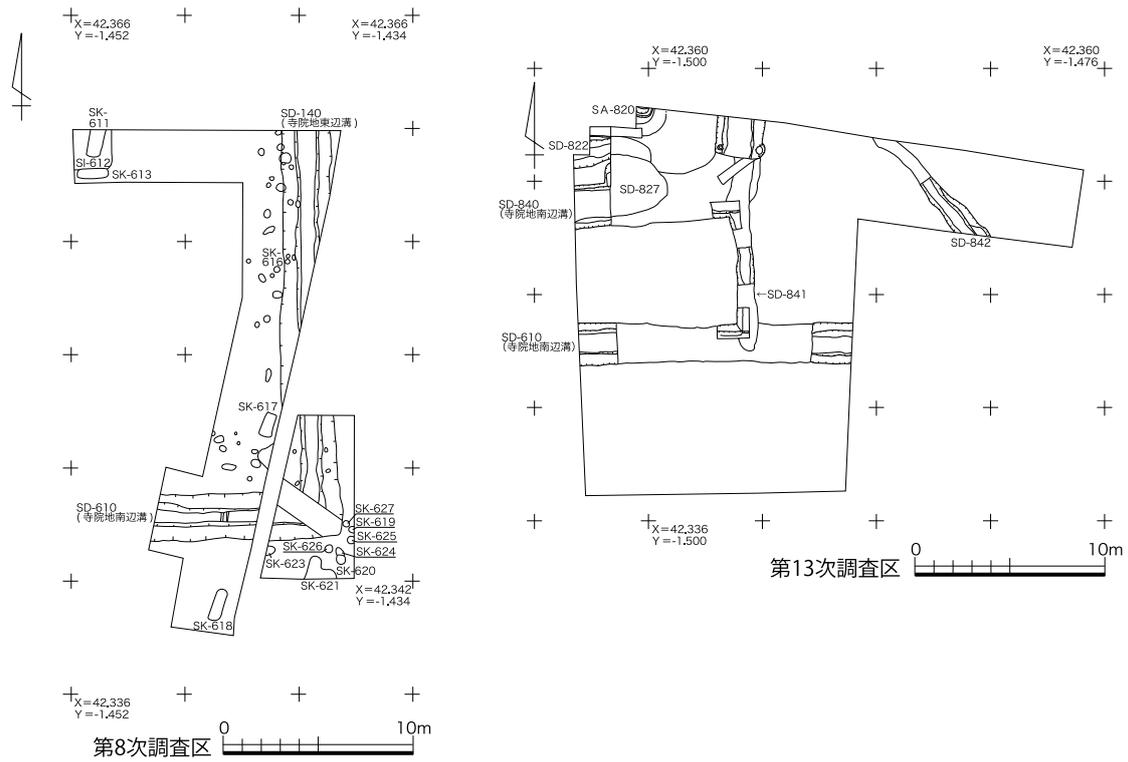
第5図 第2次調査区全体図



第1章 調査の経緯

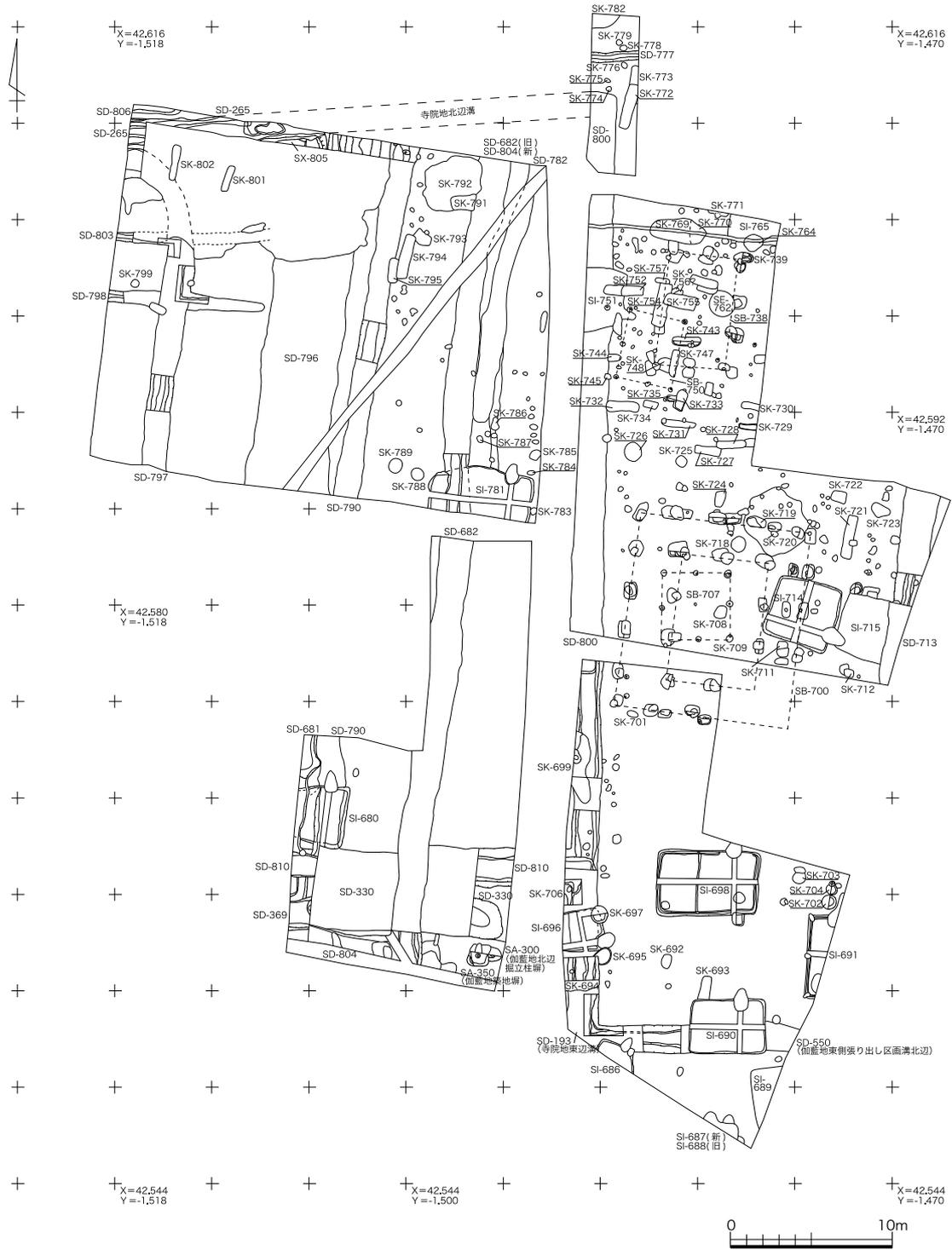


第7図 第6次・7次・9次調査区全体図

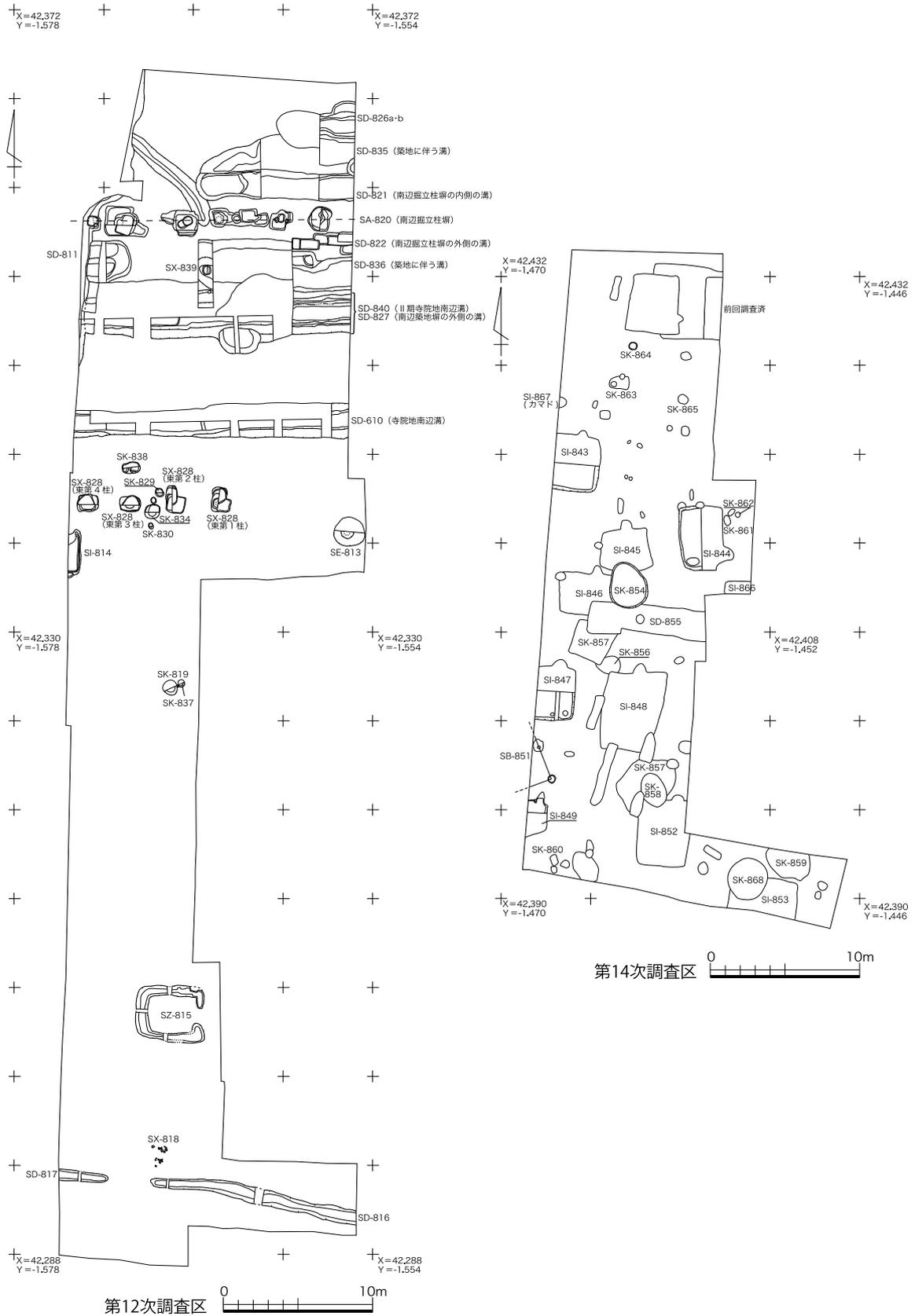


第8図 第8次・10次・13次調査区全体図

第1章 調査の経緯



第9図 第11次調査区全体図



第10図 第12次・14次調査区全体図

## 第2章 遺跡の環境

下野国分尼寺跡は、下野市(旧国分寺町)に所在する。付近の地形は思川右岸の沖積低地と洪積台地(宝木面)及び低地に分かれ、国分尼寺跡の所在する台地は、南流する思川の段丘崖によって右岸沖積低地(下野国府跡所在地)との境としており、この台地面と沖積低地面との比高は約9mである。また、付近の台地上は南流して思川に注ぐ黒川・姿川によって開析され、これらに向かって開く小規模な浸食谷(低地)が樹枝状にみられる。国分尼寺跡の寺院地と想定される位置は、西を国分寺跡との間に南北にのびる低地、東は姿川に至る緩斜面に挟まれた南北に長く、東西幅の限定された台地上に立地している。なお、この台地からは、北西に男体山をはじめとする日光連山、西には足尾山地、北方には高原山などが眺望できる。東には、茨城県境に南北にのびる八溝山地、さらに南東には筑波山がみられ、冬期には遠く富士山も望める景勝の地である。

国分尼寺跡と平行する奈良・平安時代の周辺の遺跡では、思川を挟んで国分尼寺跡の南西約2kmに下野国府跡がある。政庁は、方約90mの規模で、8世紀前半から10世紀前半まで4時期の変遷をする。この間Ⅱ期には、前殿は掘立柱建物から礎石建物に変化し、脇殿は掘立柱瓦葺建物になる。Ⅲ期には前殿も礎石建物になり、区画施設も築地に変化する。Ⅴ期(10世紀)には国府が大きく変貌し、奈良時代からの政庁は同一地区には再建されない。国府は11世紀まで「第二次国府」として存続する。

谷を隔てて所在する国分寺跡は、8世紀中葉から11世紀まで存続し、Ⅰ期は主要堂塔の造営期である。主要堂塔は瓦の分析から金堂→塔→中門・回廊の順で築造されたことが指摘されている。Ⅱ期はA・B期に小区分され、Ⅱ-B期は8世紀末から9世紀前半とする。Ⅱ期は主要堂宇が完成し、伽藍地を掘立柱塀で囲み、寺院地を溝で区画する。Ⅲ期は塀を築地塀にして、南門を瓦葺にするなど主要堂塔の改修される時期である。Ⅳ期は10～11世紀代で竪穴住居群が展開する。なお、Ⅱ期以降には主要堂宇の北側に講師院・読師院が形成されていたことが「講院」・「読院」の墨書土器などから推定される。

国府跡・国分寺跡・国分尼寺跡の周辺にも当該期の遺跡が密集している。下野市の遺跡地図によれば、国分二寺関連遺跡群といえる遺跡が思川と姿川を挟んだ台地上にほぼ全面的に広がっている。このうち発掘調査された遺跡では、国分二寺の間で南北に延びる沢に面して北から中井遺跡・中井2号遺跡・東薬師堂遺跡・新開遺跡、国分尼寺の南方に釈迦堂遺跡・山海道遺跡・山王遺跡・愛宕塚遺跡が所在する。

これらの遺跡では、国分寺創建期の住居跡は極めて少なく、多くが9世紀後半のものである。中井2号遺跡では、9世紀後半に鍛冶遺構が発見されており、東薬師堂遺跡では9世紀代の長方形の遺構が群在し、木製品が多く出土した。いずれも国分二寺と関連のある遺跡群である。

遺跡の分布をみると、尼寺南前にあたる山海道2号遺跡では、住居跡はほとんど発見されず、その脇にあたる山海道遺跡や愛宕塚遺跡で多くの住居跡が発見されており、寺の南側に規制が及んでいる。一方で、二寺の間や国分寺跡の伽藍の北方でも9世紀以降の住居跡が多数発見されたように、その分布に傾向が窺える。国分尼寺に関わる遺構を考えるうえでも周辺の遺跡群の動向が注目される。

### 主要参考文献

大橋泰夫 1999『下野国分寺跡XIV 遺構編』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

下野市教育委員会 2008『下野市遺跡分布図』

田熊清彦 1988「下野国府小考」『考古学叢考 中巻』吉川弘文館



第11図 周辺の歴史時代(古代)遺跡位置図

## 第3章 発見された遺構

本章では下野国分尼寺の第1次から第14次までの調査で発見された遺構・遺物について、遺構では建物などの種類ごとに説明・提示していく。調査では確認された遺構の一部について埋土を掘り下げ、その特徴などを把握した。ここでは、掘り下げ調査を行った遺構について述べる。なお、各年度の調査結果に関しては、先に報告した『下野国分尼寺跡』（栃木県埋蔵文化財調査報告第334集）を参照されたい。

### 第1節 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、第1次から第14次までの確認調査で、寺院地東方や北方において発見された。以下、調査次数の順に説明していく。

#### 第1次SB-117（第4・12図）

妻側2間の南北棟で、柱間は8尺である。北西隅柱・北東隅柱に柱痕が確認された。棟持柱には抜き取り痕がある。

#### 第1次SB-138（第4・12図）

2間×3間以上の側柱式の南北棟である。柱間は7尺であろう。北東隅柱では柱抜き取り痕が確認された。東側柱列北第2柱の深さは、ボーリング探査の結果、確認面から70cm程であるが、他は50cm程であった。

#### 第1次SB-147（第4・12図、図版四）

小型の掘方で、2間×1間以上の建物で、深さはボーリング探査の結果、確認面から50～55cm程である。

#### 第1次SB-205（第4・12図）

2間×3間の側柱式の南北棟である。北側柱列以外は柱抜き取り痕が観察され、西側柱列では東方に、南棟持柱は北方に、東側柱列南第3柱は南方に、同第1・2柱は西方に柱を抜いている。

#### 第1次SB-213（第4図）

柱穴2箇所のみ確認されたが、構造などは不明である。

#### 第1次SB-215（第4図）

当初土坑と考えていたが、東西2間、南北2間以上の側柱建物と判断した。ボーリング探査の結果、確認面からの深さは55cm程である。主軸が他の掘立柱建物よりも東に振れている。この他に、『下野国分尼寺跡』付図2（中村2011）によれば、SD-171とする柱穴2箇所が確認された遺構にも柱抜き取り痕が発見されている。

#### 第2次SB-327（第5・13図、図版五）

南北2間以上、東西2間以上の側柱建物で、SX-331よりも古い。柱間は8尺である。

#### 第2次SB-338（第5・13・120図、図版五）

南北2間の建物で、規模は不明である。北西隅柱の掘方が大きく、南西隅柱の断面観察によって新旧2時期あることが判明し、土層図1層が古いA期の掘方埋土である。新しいB期上面から8世紀後半の須恵器環が出ています。このため、本掘立柱建物は北辺掘立柱塀の伽藍地内側に建物群が存在したことを示す。

#### 第2次SB-346（第5・14図）

南北4間以上、東西1間以上の側柱式建物である。柱間は7尺で、径30cm程の柱痕が確認された。

#### 第2次SB-348（第5・14図）

南北の柱列2間以上が確認され、S I -336よりも古い。なお、原図でのS B -345を前報告に従い、改称した。

#### 第2次S B - 384 (第5図)

調査区南端に位置し、北東隅柱のみを検出した。北東から南西にのびる攪乱に壊されるが、柱抜き取り痕が確認された。

#### 第4次S B - 400 (第6・13図)

寺院地溝東辺の内側にある。2間×3間の側柱式建物である。柱間は不揃いで、東西柱列南第2柱と隅柱間が広くて、他は8尺になっている。

#### 第7次S B - 551 (第7・14図)

寺院地東辺溝の内側にあり、建物の主軸方向が溝と平行している。1間以上×2間以上の側柱建物で、北側柱列東第2柱・第3柱では柱抜き取り痕が確認されたが、北東隅柱では柱痕がみられた。

#### 第7次S B - 582 (第7・16図、図版五)

本掘立柱建物と重複する遺構との新旧関係は、寺院地北辺溝S D -550 → S B -582 → S B -585A → S B -585B → S I -588となる。遺物から導き出されるS I -588の時期は9世紀後半、灰釉陶器碗が黒笹90号窯式②であり、他の土師器坏よりも新型式で、9世紀後半の中頃となるであろう。本掘立柱建物は9世紀後半(後葉)以前となり、寺院地北辺溝が埋没して機能し終えた時期と本掘立柱建物の時期が限定される。建物の規模は、2間×3間以上の側柱建物で、掘方の規模は小さい。柱間は8尺になる。

#### 第7次S B - 585A・B (第7・16・120図、図版五)

本掘立柱建物は建て替えており、2時期になり、いずれも2間×2間以上の規模である。古いS B -585Aは南西隅柱土層図C-C'の1～5層がA期、6～12層はB期の土層である。さらに、南東隅柱土層図D-D'の5・6・8・9層はA期、1～4層はB期の土層である。柱間は8尺である。A期の柱痕内とB期の掘方埋土中には焼土・炭化物が入ることから、A期に焼失した可能性もある。

遺物では、南東隅柱A期掘方上面から内面黒色処理を施す土師器坏が出土した。9世紀代の所産であろう。

#### 第7次S B - 591 (第7・14・120図、図版六)

調査区北東隅に位置する。南北3間以上の側柱式建物であるが、柱間は不揃いである。遺物では西側柱列南第3柱の掘方埋土上面から9世紀後半頃の土師器坏が出土した。このため、本掘立柱建物の下限は9世紀後半となる。

#### 第11次S B - 700 (第9・15・72・120・144図、図版六・七・四五)

S I -714よりも本掘立柱建物跡の方が新しい。母屋は3間×2間、廂は5間×4間で、四面に廂が付く建物である。廂の建て替えにより2時期あり、廂は新しいB期に東側柱列が西に移動する。また、南北柱列の柱間も狭くなる。B期の廂・母屋の柱抜き取り痕には、全てに灰と思われる白色土がみられ、炭化物・焼土も少量確認された。建物の方位からみてS B -738と同時期のものと考えられる。

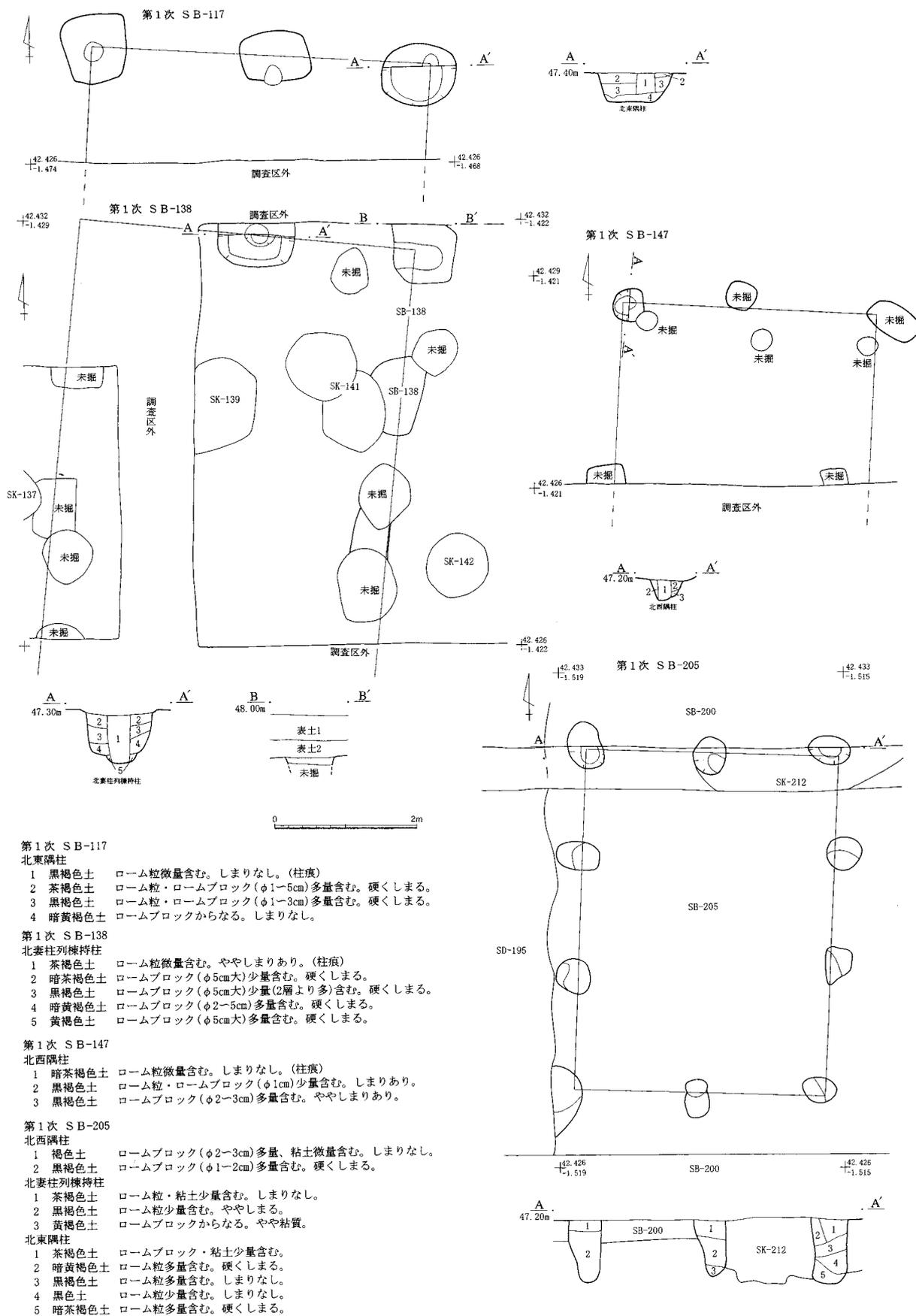
#### 第11次S B - 707 (第9・15図、図版七)

2間×2間の側柱建物で、南東隅柱がS B -700の母屋の掘方と重複し、本遺構の方が新しい。柱間は7尺で、ほかの掘立柱建物跡に比べて狭くなっている。主軸は寺院地区画溝に平行しているが、柱穴の掘方は小型である。

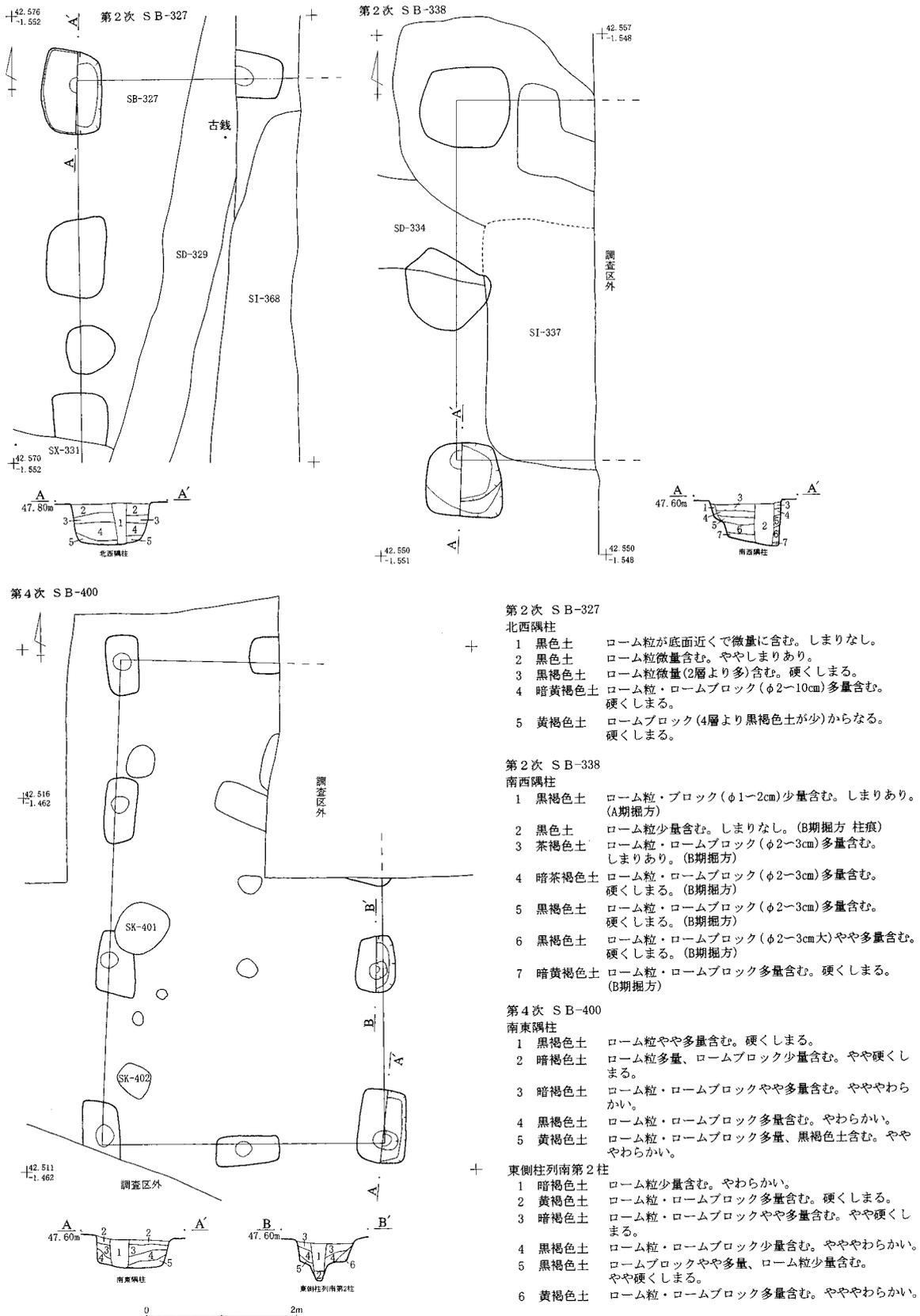
#### 第11次S B - 738 (第9・14・120図、図版七・八)

柱筋や建物方位がS B -700に合っている。2間×3間の側柱式南北棟である。掘方には柱抜き取り痕が確認できた。

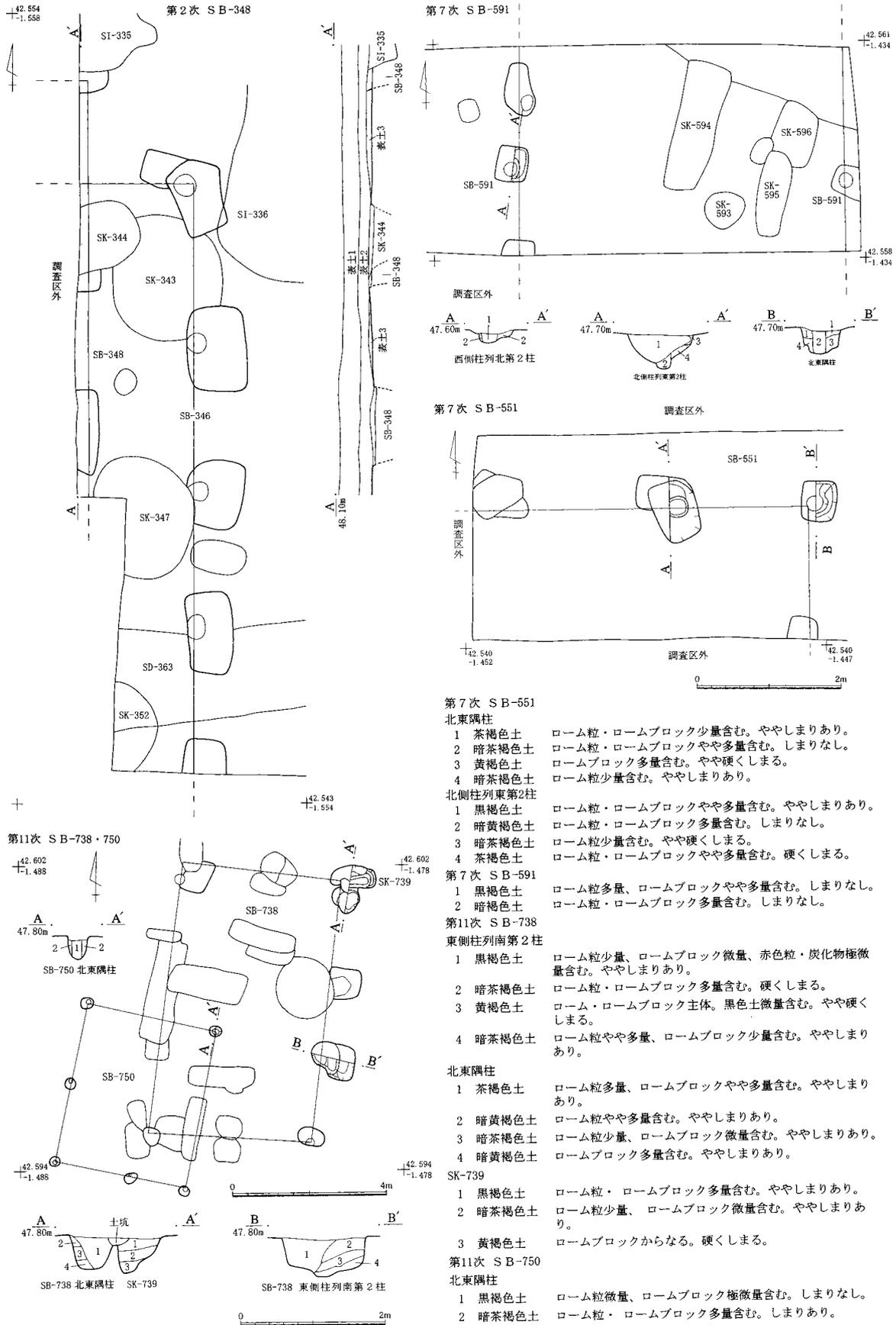
第3章 発見された遺構



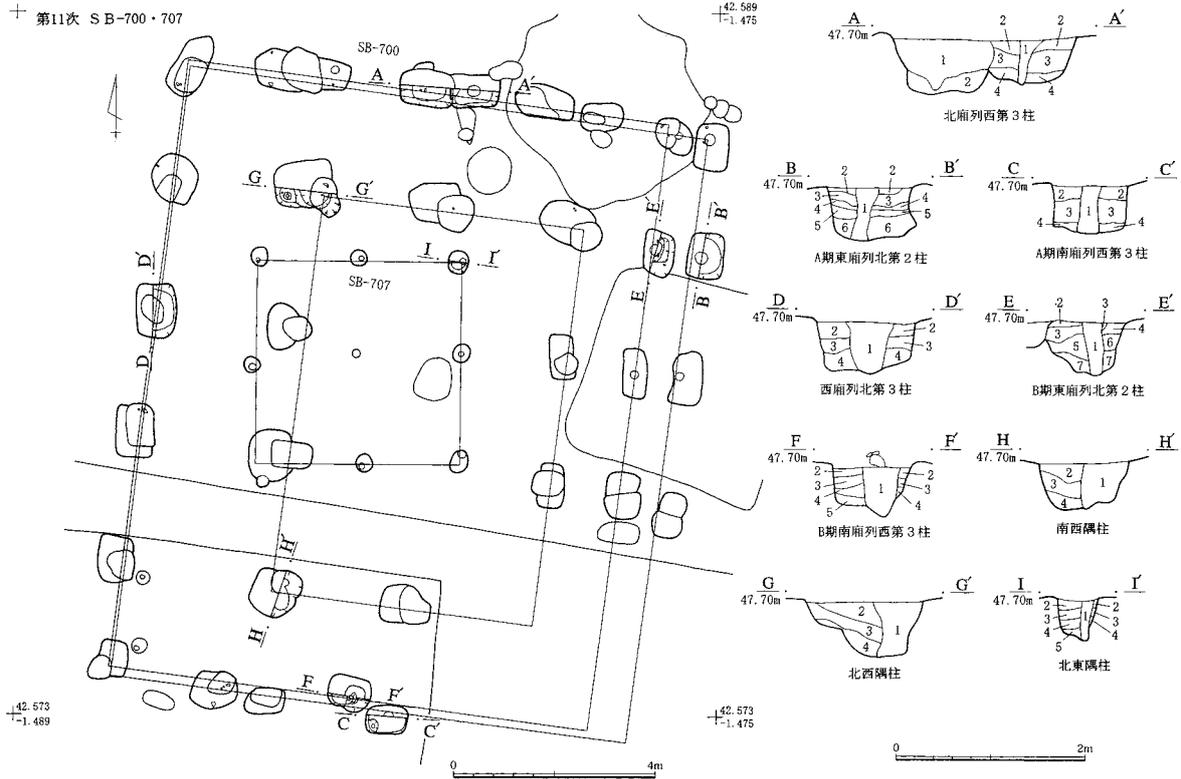
第12図 掘立柱建物跡実測図(1)



第13図 掘立柱建物跡実測図(2)



第14図 掘立柱建物跡実測図(3)



A期北廂列西第3柱

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと黒褐色土がほぼ同量で主体。しまりあり。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。黒褐色土少量含む。硬くしまる。粘性なし。
- 4 暗褐色土 ロームブロック主体。ローム粒多量含む。硬くしまる。粘性なし。

B期北廂列西第3柱

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、灰白色粘土粒微量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 明黄褐色土 ロームブロック主体。ローム粒多量、黒褐色土少量含む。硬くしまる。粘性なし。

A期東廂列北第2柱

- 1 暗茶褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、灰白色粘土粒微量含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。ややしまりあり。
- 3 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。黒色土多量、赤色粒(今市パミス)微量含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒主体、黒色土多量含む。しまりあり。
- 5 明黄褐色土 4層よりロームブロック多量含む。しまりあり。
- 6 黄褐色土 ロームブロックと黒色土がほぼ同量で主体。ローム粒多量含む。ややしまりあり。

A期南廂列西第3柱

- 1 黒褐色土 ローム粒少量、赤色粒微量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒極多量、ロームブロック多量、赤色粒(今市パミス)極少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、褐色土多量含む。しまりあり。粘性なし。
- 4 黒褐色土 ロームブロック(2層より少)からなる。しまりあり。粘性なし。

西廂列北第3柱

- 1 黒灰褐色土 層上半に灰白色粘土が多量入る。ロームブロック少量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 黒褐色土 ロームブロック多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(3層より多)からなる。しまりあり。粘性なし。

B期東廂列北第2柱

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、灰白色粘土粒微量含む。しまりなし。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、赤色粒(今市パミス)微量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。暗褐色土多量含む。しまりあり。粘性なし。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量、赤色粒(今市パミス)微量含む。硬くしまる。粘性なし。
- 6 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと黒色土がほぼ同量で主体。やや硬い。粘性なし。
- 7 明黄褐色土 ロームブロック主体。ローム粒少量、黒色土微量含む。しまりあり。粘性なし。

B期南廂列西第3柱

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、赤色粒極微量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒主体、暗茶褐色土(2層より少)からなる。しまりあり。粘性なし。
- 4 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、褐色土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 5 黄褐色土 ローム粒(3層に似る)主体。暗茶褐色土多量含む。しまりあり。粘性なし。

北西隅柱

- 1 黒褐色土 層上半に灰白色粘土多量入る。ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、赤色粒(今市パミス)微量含む。しまりあり。粘性なし。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック主体。ローム粒多量、暗褐色土少量含む。しまりあり。粘性なし。

南西隅柱

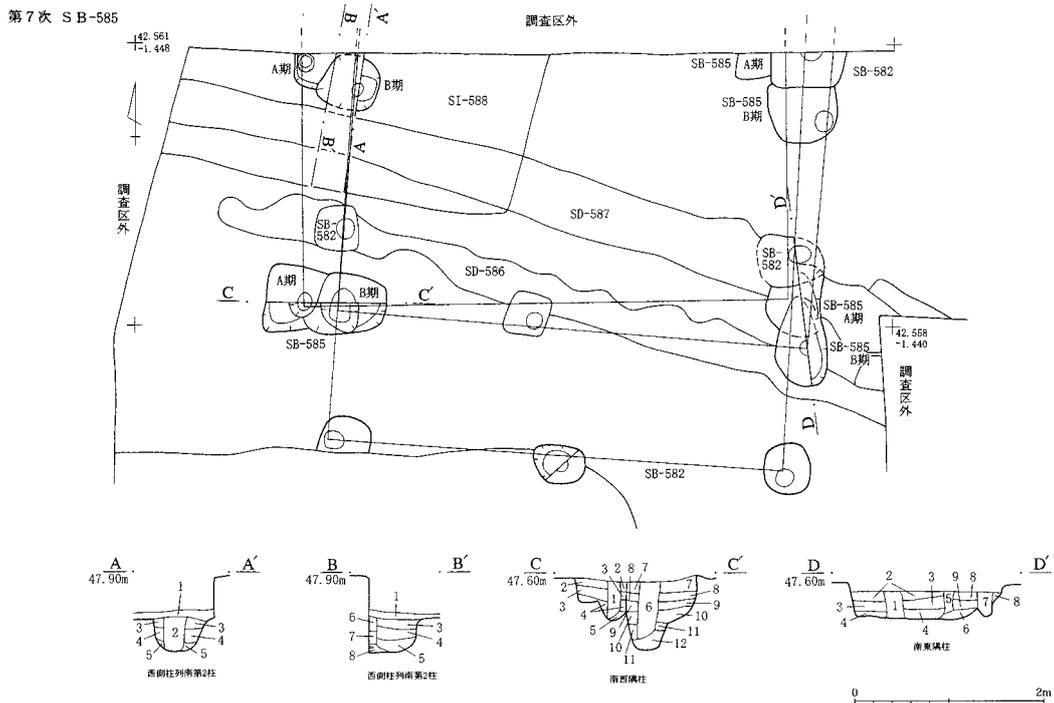
- 1 暗褐色土 層上半に灰白色粘土多量、ローム粒・ロームブロック少量、赤色粒(今市パミス)微量含む。やややわらかい。粘性なし。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック極多量、黒褐色土多量含む。しまりあり。粘性なし。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。黒褐色土多量含む。しまりあり。粘性なし。

北東隅柱

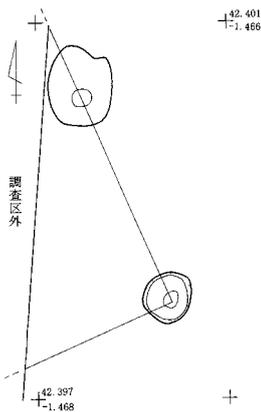
- 1 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
- 3 茶褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。
- 4 暗茶褐色土 ロームブロック(φ2cm大)少量含む。やや硬くしまる。
- 5 黒褐色土 ロームブロック(φ1cm大)少量含む。しまりなし。

第15図 掘立柱建物跡実測図(4)

第3章 発見された遺構



第14次 SB-851



第7次 SB-585  
西側柱列南第2柱

- |         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土  | ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(SI-588) |
| 2 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロック・炭化物少量含む。しまりなし。(B期)     |
| 3 暗褐色土  | ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。硬くしまる。(B期)     |
| 4 黒褐色土  | ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりなし。(B期)     |
| 5 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。硬くしまる。(B期)         |
| 6 暗褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック少量含む。ややしまりあり。(A期)     |
| 7 暗褐色土  | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(A期)     |
| 8 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。(A期)         |
| 南西隅柱    |                                     |
| 1 茶褐色土  | ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。               |
| 2 茶褐色土  | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。                 |
| 3 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。                   |
| 4 黄褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。                   |
| 5 黄褐色土  | ロームブロックからなる。                        |
| 6 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量含む。             |
| 7 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。                 |
| 8 茶褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。                   |
| 9 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロック少量含む。                   |
| 10 茶褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。                   |
| 11 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック少量含む。                   |
| 12 黄褐色土 | ロームブロックからなる。                        |
| 南東隅柱    |                                     |
| 1 黒褐色土  | ローム粒やや多量、炭化物少量含む。しまりなし。(B期)         |
| 2 茶褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(B期)       |
| 3 暗褐色土  | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(B期)     |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりなし。(B期)         |
| 5 暗褐色土  | ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。(A期)     |
| 6 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。(A期)         |
| 7 黒褐色土  | ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(SB-582) |
| 8 暗褐色土  | ローム粒少量含む。しまりあり。(SB-582)             |
| 9 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロックやや多量含む。しまりあり。(SB-582)   |

第16図 掘立柱建物跡実測図(5)

第11次 SB-750 (第9・14図、図版六)

SB-738と重複するが、新旧関係は不明である。2間×2間の側柱式建物である。柱穴の掘方は小型である。

第14次 SB-851 (第10・16図)

伽藍地の東方の調査区際において柱穴が発見され、東・南に柱列が延びないことから柱方向を推定した。建物の方位が伽藍地区画溝と異なっている。

## 第2節 竪穴住居跡

下野国分尼寺跡の発掘調査で、総計80軒の竪穴住居跡などが発見された。ここでは、調査回数に従い、遺構の説明をしていく。なお、住居跡は現地調査で、埋土を掘り下げたものと遺構確認したのみのものが存在し、本章では掘り下げを行った遺構について説明していく。

### 第1次S I - 114 (第4・17・44・120・144 図、図版八・二九・四三・四五)

本調査区の西部に位置する。小型の住居跡で、東・南壁は直線状であるが、西側には平面円形の突出部がある。土層観察の結果、同一遺構と判断した。底面はなだらかに立ち上がる。柱穴の可能性のあるピットは3箇所あり、深さはP 1が16 cm、P 2は8 cm、P 3は25 cmである。多くの遺物は埋土上層から出土した。

### 第1次S I - 122 (第4・17・45・120・144 図、図版八・二九・四三)

本調査区の中央に位置する。S I -121 よりも本住居跡の方が古い。埋土の一部を掘った結果、95 × 115 cmの平面楕円形をした鍛冶炉があった。炉は全体に黒褐色土で、木炭粒多量、白色粒・焼土粒・ロームブロック少量、ローム粒を微量含んでいた。ボーリングの結果、炉の深さは18 cmであった。その隣から鉄床石とみられる石が出土した。このため、本遺構は鍛冶遺構と判断された。

### 第1次S I - 125 (第4・17・45・120 図、図版二〇・二九・四三・四五)

調査区の中央に位置し、方形の住居跡である。4箇所の柱穴が確認され、深さはP 1が8 cm、P 2は20 cm、P 3・4は15 cmであった。図中埋土の2層は、焼土が多量含まれており、人為的に埋められたものと判断することができる。

### 第1次S I - 143 (第4・17・45・46・120 図)

調査区の東部にあり、S X -208 よりも新しく、S K -144 よりも古い。住居跡の西部を掘り下げたのみである。南西隅に径50 cm程のピットがあり、床面からの深さは41 cmを計る。埋土の1層は、ローム粒・ロームブロックを多量含み、人為的な埋土と判断される。3層は攪乱であろう。

### 第1次S I - 163 (第4・18・46・121・144 図、図版二〇・二九・四三・四五)

調査区の東部に位置し、住居跡の北部を掘り下げ調査した。北壁はなだらかに立ち上がり、北東部にカマドが付設される。カマドの底は最も低い所で、床から14 cm程あり、カマド土層図B - B' の1～3層が構築材などであるが、袖などは明らかでない。

### 第1次S I - 174 (第4・18・46・121 図、図版八・二九)

調査区の東端に位置する。S K -177 と重なり、本住居跡の方が古い。周溝が巡り、深さ2～7 cm程であった。カマドは土坑によって大半が壊されていたが、下層が残っており、焼土や木炭を含む明茶褐色土であった。焚き口ピットがあり、床からの深さは最も深い所で28 cmであった。

### 第2次S I - 239 (第5・18・47・121 図、図版八・二九)

調査区の北部に位置し、カマドから東側の埋土を掘り下げた。S K -240 と重なるが、新旧関係は不明である。北東隅と住居中央に掘り込みを確認したが、掘り下げは行っていない。南東隅のピットは、深さ11 cmである。一点破線は床の硬い範囲を示したもので、床の外周を除いて硬化していた。遺物は埋土の各層から出土した。

### 第2次S I - 241 (第5・19・47～49・121・122 図、図版八・二〇・二九・三〇)

調査区の北部に位置し、調査区内の埋土を掘り下げた。S D -242 と重複し、本住居跡の方が古い。東壁は緩やかな傾斜の部分もある。北壁では北カマドの東側に床面から20 cm程上がった位置に段(平坦面)が

あり、その段は幅 20 cm程になる。土層図 3層はカマドからの流れ込みであろう。

**第2次 S I - 307** (第5・19・49～51・122・123・144・145 図、図版八・九・二〇・三〇・四三～四五)

調査区中位の拡張部にある。北西隅の一部を除いて埋土を掘り下げた。S D -305 よりも新しく、S K -372・S E -371 よりも古い。カマドは北と東に付いていたが、その新旧は不明である。床面は硬化した部分があり、一点破線で示した内側である。柱穴が発見され、P 1・2・5 が支柱穴であろう。深さは P 1 が 27 cm、P 2 は 23 cm、P 5 は 19 cm である。P 4 は深さ 27 cm の入り口ピットであろう。

**第2次 S I - 325** (第5・19・51・52・124・145 図、図版九・三一・四三・四五)

調査区の南部にあり、住居跡の西部は調査区外になる。深さ 6～10 cm 程の周溝が巡っている。住居北東隅のピットは深さ 25 cm である。北壁の小ピット (P 2) は深さ 17 cm、中央南寄りのピット (P 3) は深さ 22 cm であるが、性格は明らかでない。東壁にカマドが付く。

**第2次 S I - 335** (第5・20・52・124・145 図、図版九・三一・四四)

調査区南部にあり、築地堀内溝北辺の S D -334A・B よりも本住居跡の方が新しい。東カマドが付き、住居の東部を調査したのにとどまる。埋土の第4層は硬くしまっており、住居の貼床であり、溝の埋土を掘り込んで作っている。

**第2次 S I - 336** (第5・20・52・124・145 図、図版九・三一)

調査区の南部にあり、掘立柱建物跡 S B -346 と重なるが、新旧は明らかでない。S K -367 とは土層観察 (SPA - A' ) によると、本住居跡の方が新しい。ピットの深さは P 1 で 14 cm、P 2 で 28 cm、P 3 で 13 cm になる。東壁中央にカマドが付設される。

**第2次 S I - 337** (第5・20・53・125 図、図版二〇)

調査区南部に位置する。築地堀内溝北辺の S D -334A・B よりも本住居跡の方が新しい。S B -338 とも重なるが、新旧は明らかでない。住居跡の北部は溝の埋土を掘り込み、北壁は不明瞭である。土層図 7層はローム粒を多量含み、硬くしまっていることから貼床と判断した。床面は全体に北側に傾斜している。埋土に焼土粒や炭化物を含んでいる。

**第2次 S I - 368** (第5・20・53・125 図、図版九・三一)

調査区南部に位置するが、住居跡の西端を調査したのにとどまる。築地堀外溝北辺 S D -330 よりも古い。掘立柱建物跡 S B -327 と重複するが、新旧関係は不明である。住居床面の隅には土坑状の掘り込みがあり、土層観察の結果、図中 6層がロームブロック・ローム粒を多量含み、硬くしまっていたことから貼床と判断され、掘り込みは住居掘方と考えられた。床から掘方の深さは南側で 11 cm、北側で 18 cm である。

**第4次 S I - 438** (第6・21・54・125・126・145 図、図版一〇・三二・四四・四五)

寺院地東側の調査区にあり、寺院地東張り出し区画溝東辺の S D -140 と重複し、本住居跡の方が新しい。また、土坑 2 基とも重なっている。住居の平面形は北辺が不明瞭である。北東隅にカマドを付設し、住居床面中央と南壁際では炭化材が出土した。出土レベルは床面から 5 cm 程上であり、この遺構は火災住居でなく、住居が埋没する過程で炭を廃棄したと推定される。

**第4次 S I - 439** (第6・21・55・126・145 図、図版二〇・三二)

調査区南端にあり、2 / 3 程を調査した。S D -140 よりも本住居跡の方が新しく、東壁にカマドを付設する。確認面から住居床面までの深さは 10 cm 程である。

**第4次 S I - 450** (第6・22・126 図、図版一〇・三二)

調査区の東部にあり、東西に長い住居跡である。S K -455 と重なり、本住居跡の方が古い。調査では、

西側を掘り下げ、中央から東側は遺構範囲を確認したのみである。深さは確認面から20 cm程で、浅い掘り込みであった。

**第4次S I - 451** (第6・21・55・56・126・145 図、図版一〇・三二・四四)

調査区南端にあり、土坑と重複している。床面は東側が西側に比べて6 cm程低くなっており、住居の間取りと関連するとみられる。

**第5次S I - 495** (第6・21・126 図、図版一〇・三二)

土層観察により、本住居跡はS I -496 よりも新しいことが判明した。溝に多くの部分を壊されているが、住居の南北の長さからみて、小型のものと推定される。

**第5次S I - 496** (第6・21・56・57・126 図、図版一〇・二〇)

本住居はS I -495 よりも古く、溝に多くの部分を壊され、南端は土坑と重複しているが、東辺がわずかに残っていた。土層観察の結果、住居は深さ10 cm程であった。カマドは北壁に設けられたとみられるが、溝で壊されている。カマドの東脇には47×58 cm、床面からの深さ11 cm程の平面楕円形のピットがあり、平瓦が出土した。

**第5次S I - 500** (第6・22・58・126 図、図版一〇・二〇)

住居跡の北部の一部を掘り下げ調査した。床面は確認面から最も深い所で18 cm程あり、北壁中央にカマドを付設する。

**第6次S I - 539** (第7・22・56・126 図)

調査区の南端に所在する。住居跡の南西部を調査した。確認面から床面までの深さ20 cm程であった。

**第7次S I - 560** (第7・22・56・127 図)

調査区の南部にあり、住居跡の西半分程を調査した。土坑と重複する。南西隅が丸味を持ち、遺構の最も深い所で20 cm程である。

**第7次S I - 566** (第7・22・57・127・145 図、図版三二・四四)

調査区中央部に所在し、寺院地東辺溝の埋土上に作られている。住居跡の平面形は台形に近くて、不整であるが、埋土上に掘られていることによるであろう。確認面から床面までの深さは5～10 cm程である。

**第7次S I - 588** (第7・22・57・127 図、図版一〇)

調査区の北端にあり、住居跡の南半を掘り下げ調査した。S B -585 の掘方が床面の下で確認でき、本遺構の方が新しいとわかる。床面はやや凹凸があり、床面までの深さは最深で20 cm程である。

**第10次S I - 674** (第8・23・58・59・127 図、図版三二)

調査区東端にあり、S D -673 よりも本住居跡の方が新しい。掘り下げ調査したのは、住居中央付近を南北に長い範囲のみである。北端にカマドの袖と思われる部分が確認でき、その前は火焼部となっていた。土層図中6・7層はカマドの天井及び壁からの崩落土、4層は貼床である。

**第11次S I - 680** (第9・23・57・127・145 図、図版三二)

本住居跡は調査区の南部にあり、S D -330・790 より新しく、S D -681 よりも古い。遺構は溝の埋土を掘り込んで作っている。住居の平面形は台形に近いが、東側壁の位置は不明である。北壁東寄りにカマドが付設される。土層図中3層はしまりがあり、住居の貼床と判断した。

**第11次S I - 686** (第9・22・59・60・127 図、図版一一・二〇・三三)

調査区南端に存在する。伽藍地東張り出し区画溝S D -550 と重複し、本住居の方が新しい。住居跡の平面は台形に近い不整形な形で、北東隅にカマドがある。その脇に楕円形のピットがあり、深さ16 cmで、貯蔵

穴の可能性がある。ピット・カマド付近から土器・瓦がまとまって出土した。

**第11次S I - 690** (第9・23・60・61・127・128・145 図、図版一一・二〇・三三)

調査区南端にあり、SD -550 と重複し、本遺構の方が新しい。端正な長方形の住居跡である。埋土には焼土やロームが多くみられたことから、人為的に埋められたと推定される。

**第11次S I - 691** (第9・23・61・128 図、図版一一・一二・三三)

調査区南東端にあり、住居跡の西部を掘り下げ調査した。北西隅の壁に平面楕円形のピットがあり、粘土が多量含まれていた。東壁中央のピットは攪乱の土坑と判断したが、壁柱穴の可能性もある。北壁にカマドが付設され、1.4 mにも及ぶ長い煙道が特徴である。土層は1～4・8層等は人為的な埋め土と判断された。

**第11次S I - 696** (第9・24・61～63・128 図、図版二〇)

調査区南部に位置し、寺院地東辺溝SD -193 よりも本住居跡の方が新しく、土坑よりも古い。小型の住居跡で、南東隅にカマドが付設されている。カマドからは多数の瓦が出土し、構築材に使用していた可能性も残る。住居の埋土は単層であった。

**第11次S I - 698** (第9・24・63・128・129・146 図、図版一二・三三・四四)

調査区南部に位置し、平面長方形の端正な形をしている。壁際には周溝が巡り、床面は西側が高く、東側は8 cm程低くなっている。低い範囲は平面方形であり、土間であろうか。この低い床の方の北壁中央にカマドが付設されている。埋土は土層図の1～11層は全体にロームが多く含まれており、人為的な埋め土と判断され、12～15層は壁際の崩落土か自然堆積土と考えられる。

**第11次S I - 781** (第9・25・64・130 図、図版三四)

調査区のほぼ中央にあり、溝SD -682・804 よりも本住居跡の方が古い。平面長方形を呈しており、北壁は胴張りになっている。東寄りにカマドが付設されている。壁は深さ20 cm程残っており、埋土は自然堆積と判断された。

**第12次S I - 814** (第10・25・130 図、図版一二・三四)

調査区の南北中央、西壁際に存在する。住居跡の東部を掘り下げ調査したが、攪乱が広く及んでいた。北壁にはカマドが付設されており、焼土が多量確認できた。周溝が巡り、深さ8 cm程である。埋土は5層において特にしまりが良く、埋め戻し土の可能性もある。坏の破片(1)が6層中より出土した。

**第14次S I - 843** (第10・25・64・130 図、図版一二・三四)

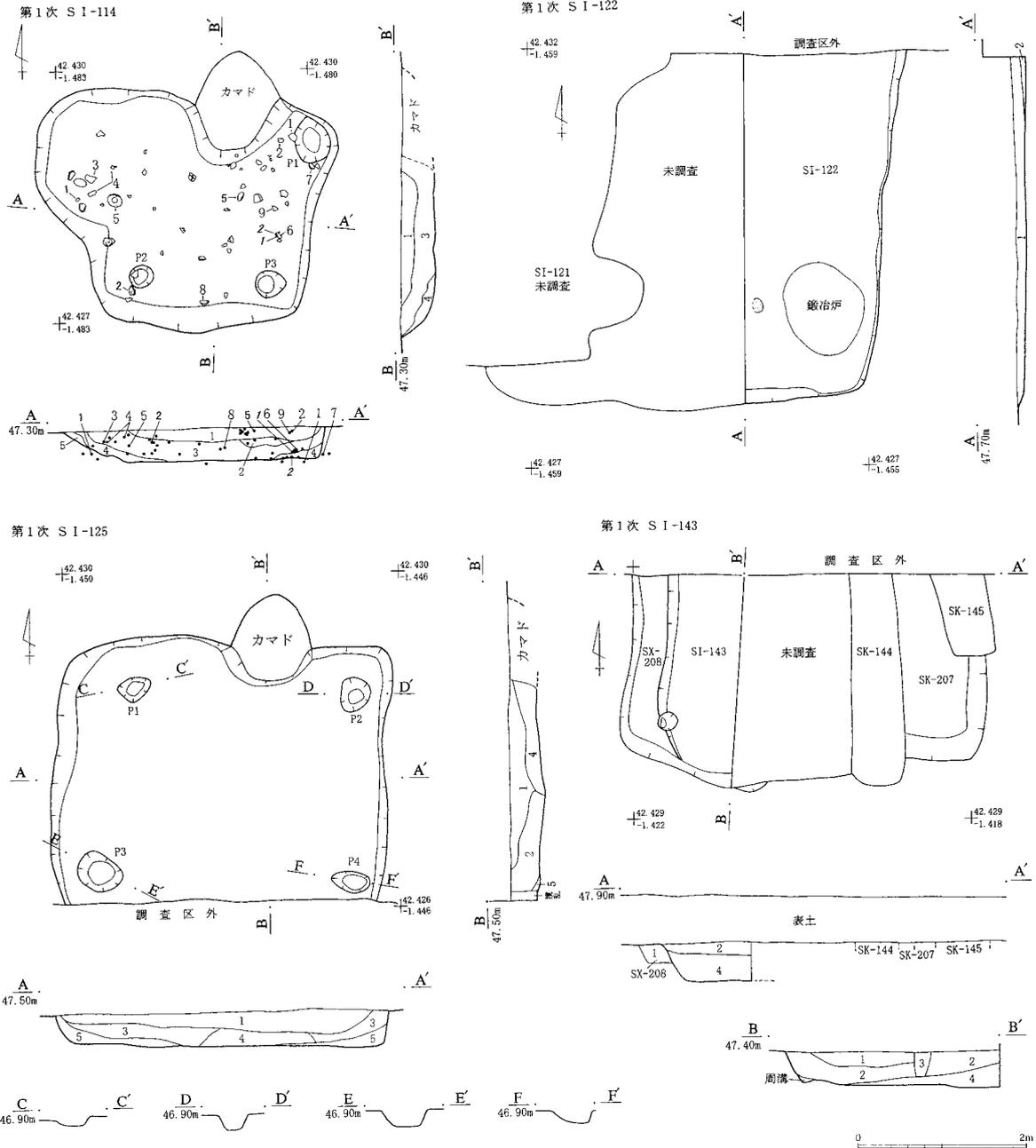
調査区北部に所在し、住居跡の南半分を掘り下げ調査した。遺構は確認面から深さ50 cm程であり、北壁にカマドがある。確認面でのカマドは暗赤褐色土で、焼土粒少量、炭化物を微量含んでいた。埋土は下層にロームが多くて、上層は焼土やローム粒が少量であった。

**第14次S I - 844** (第10・25・64・65・130・146 図、図版一二・三四・四四)

南北に長い調査区のほぼ中央に位置し、住居跡の西半分を掘り下げた。東壁の南寄りにカマドを付設し、確認面でのカマドは白色粘土や焼土粒・炭化物・ローム粒を微量含む。北壁の中央にもカマドの可能性のある部分が確認され、暗褐色土で、東カマドと同じ含有物がみられた。しかし、袖などが発見できなかったことから、北カマドから東カマドに移設した可能性がある。南西隅には平面楕円形のピットがあり、ローム粒や焼土粒を微量含み、茶褐色の埋土である。遺物は床面北壁際から鶴田中原タイプ土師器甕(1)が出土し、統一新羅土器(7)も尼寺では稀有である。

**第14次S I - 847** (第10・26・65・130 図、図版一三)

調査区の南部に位置する。住居跡の南半分を掘り下げ調査した。遺構の深さは確認面から37 cmで、北カ



第1次 S I - 114

- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。
- 2 暗黒褐色土 ローム粒微量 (1層より少) 含む。硬くしまる。
- 3 褐色土 ローム粒少量、焼土微量含む。ややしまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり (3層よりしまる)。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロックからなる。硬くしまる。

第1次 S I - 122

- 1 暗褐色土 鉄滓極めて多量、ローム粒不均一にやや多量、白色粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。ややしまりあり。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、鉄滓・白色粒・炭化物粒少量含む。ややしまりあり。

第1次 S I - 125

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土微量含む。ややしまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・焼土多量含む。ややしまりあり。
- 3 茶褐色土 ローム粒・焼土少量含む。ややしまりあり。
- 4 褐色土 粘土・焼土多量、ローム粒微量含む。やや粘質。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。硬くしまる。

第1次 S I - 143

- 1 淡黄褐色土 ローム粒・ロームブロック極多量含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒を均一に少量、白色粒・炭化物極微量含む。ややしまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。やわらかく、ボソボソでしまりなし。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、白色粒子極微量含む。やややわらかい。

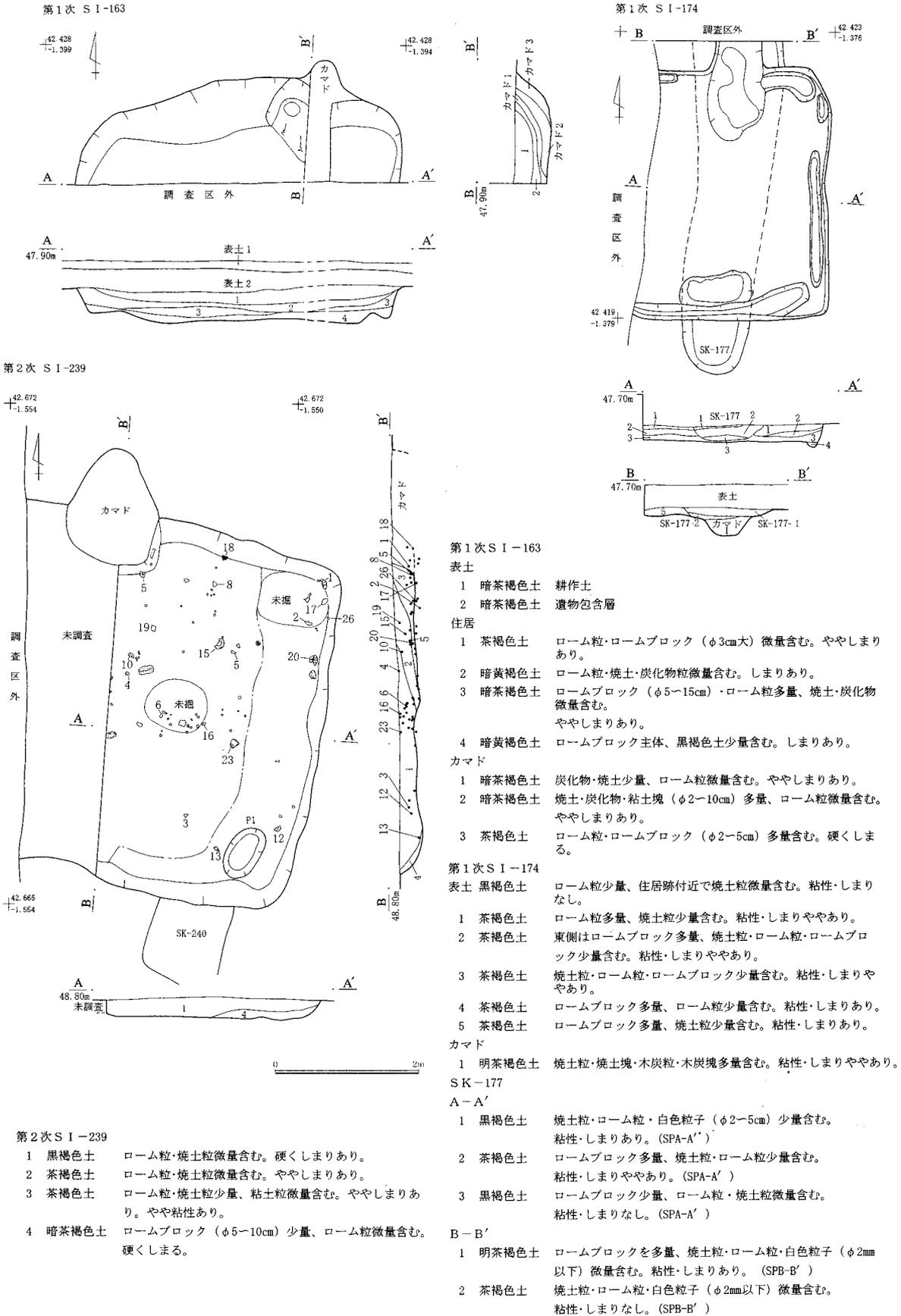
S X - 208

- 1 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックからなる。ややしまりあり。

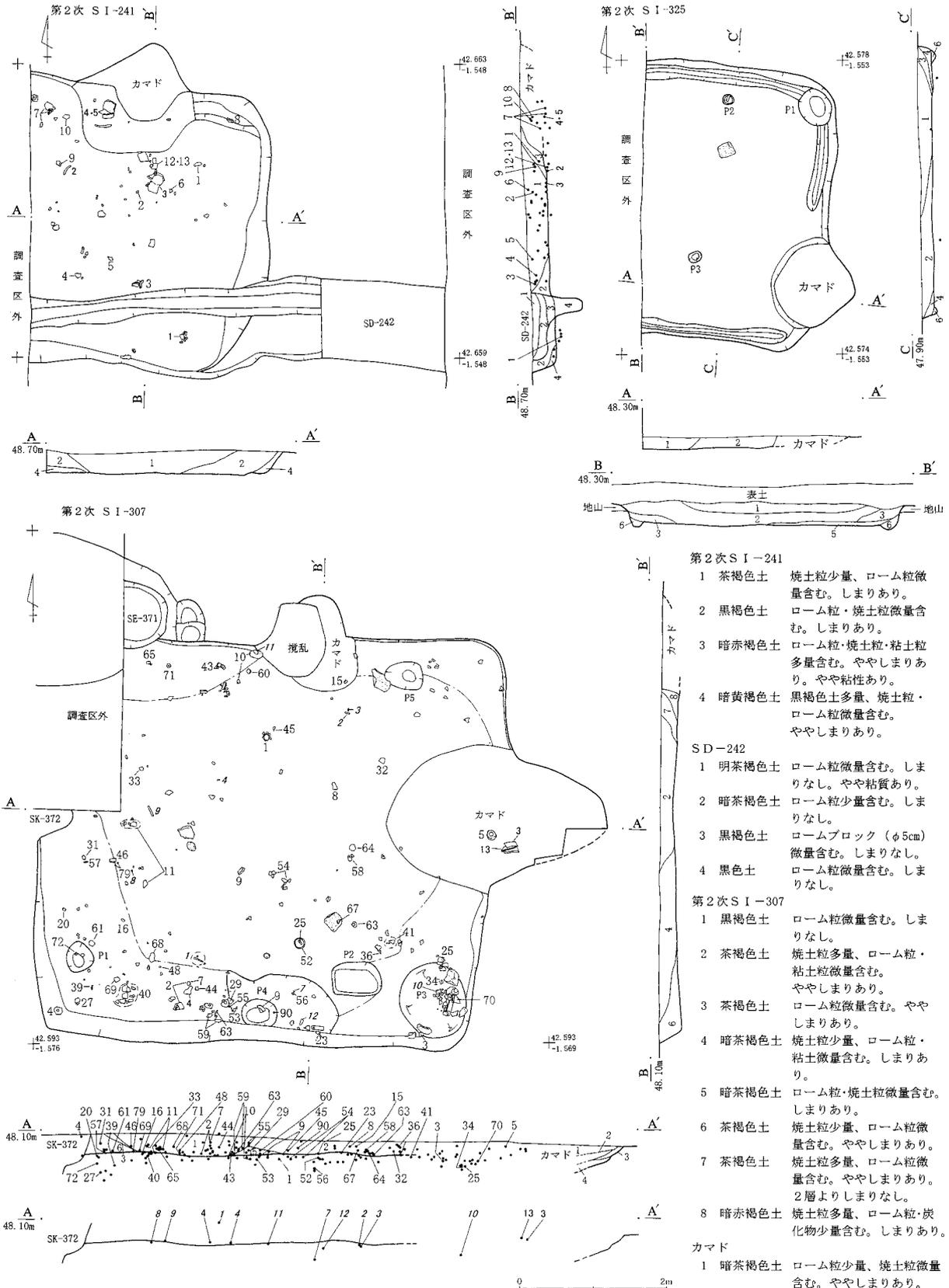
※遺物出土状況の  
遺物番号のうち  
明朝は土器・陶器  
ゴシックは瓦  
斜めゴシックは鉄製品を  
表す。以下同じである。

第17図 竪穴住居跡実測図 (1)

第3章 発見された遺構

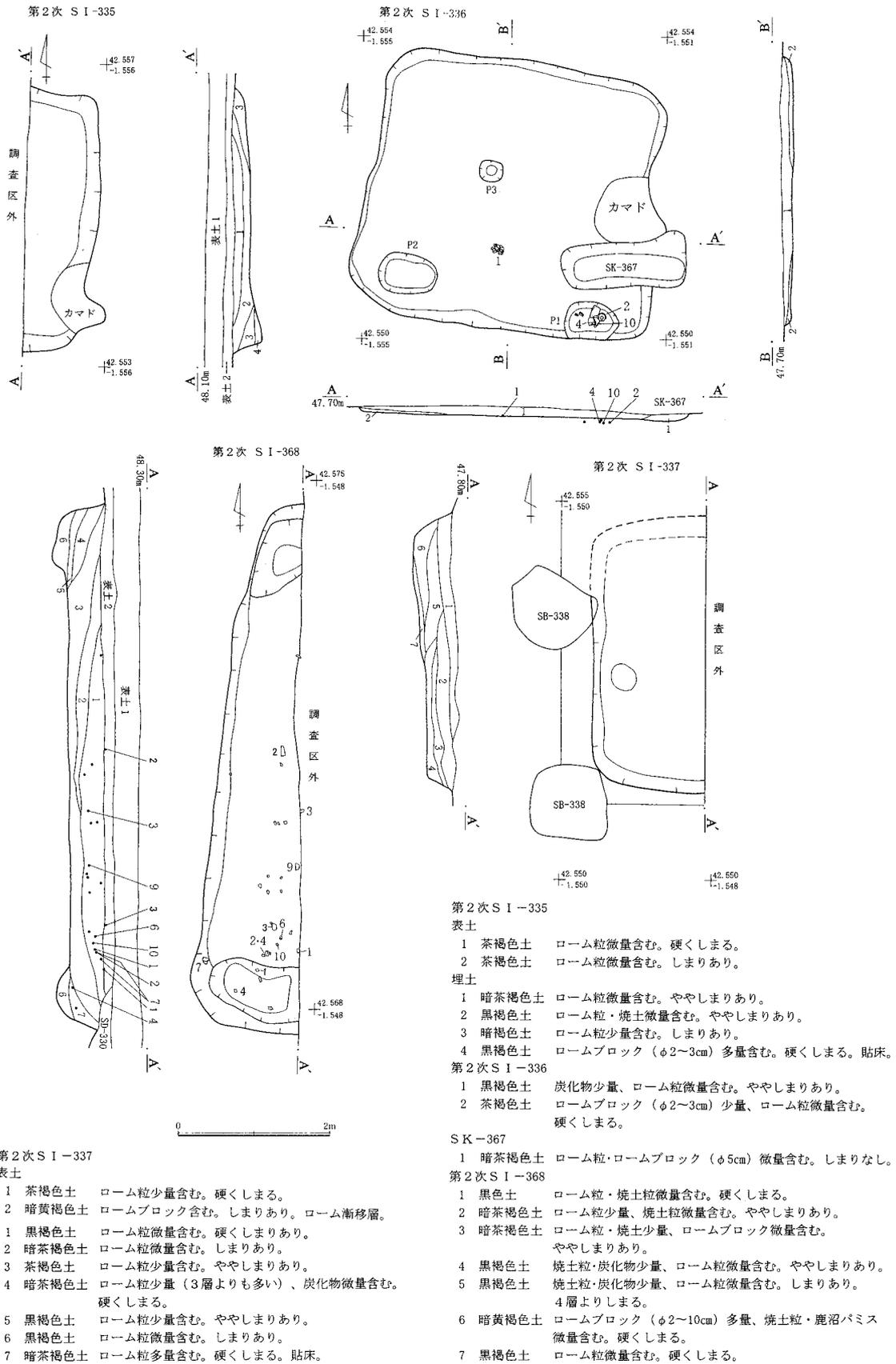


第18図 竪穴住居跡実測図(2)

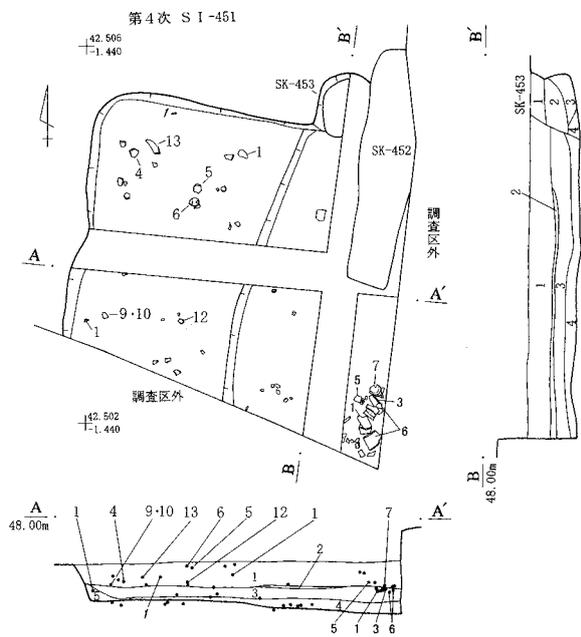
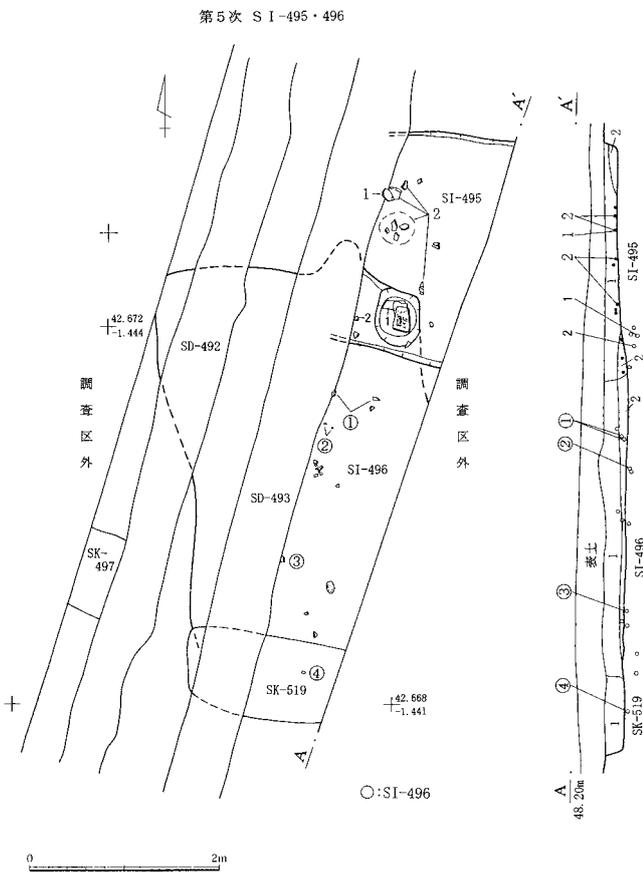
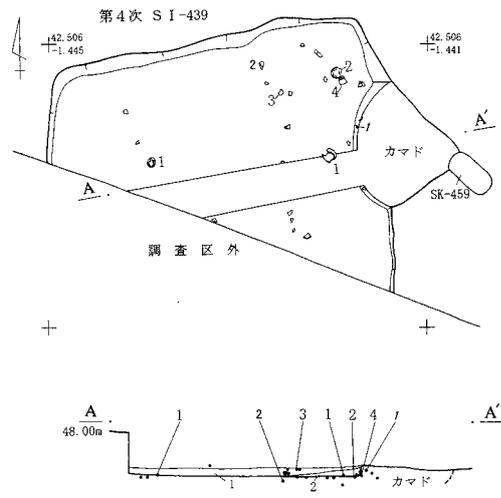
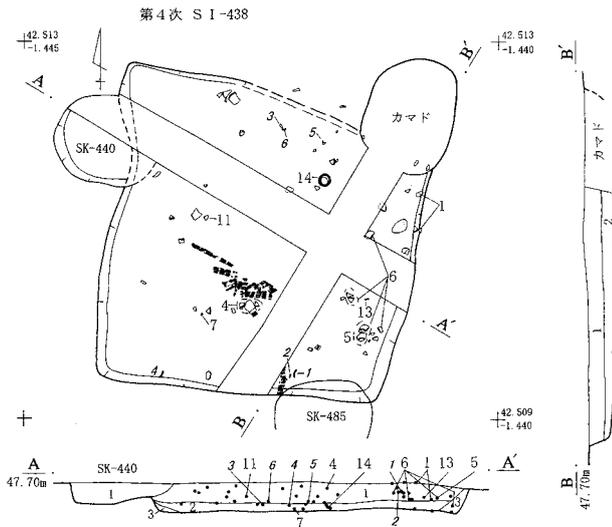


- |             |  |                              |
|-------------|--|------------------------------|
| 第2次 S I-241 | 1 茶褐色土 焼土粒少量、ローム粒微量含む。しまりあり。             | 3 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。      |
|             | 2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微量含む。しまりあり。               | 4 暗黄褐色土 ローム粒・ブロック多量、黒色土少量含む。 |
|             | 3 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒多量含む。ややしまりあり。やや粘性あり。 | 5 黒褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。     |
|             | 4 暗黄褐色土 黒褐色土多量、焼土粒・ローム粒微量含む。ややしまりあり。     | 6 黄褐色土 ロームブロック多量含む。ややしまりあり。  |
| SD-242      | 1 明茶褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。やや粘質あり。           |                              |
|             | 2 暗茶褐色土 ローム粒少量含む。しまりなし。                  |                              |
|             | 3 黒褐色土 ロームブロック(φ5cm)微量含む。しまりなし。          |                              |
|             | 4 黒色土 ローム粒微量含む。しまりなし。                    |                              |
| 第2次 S I-307 | 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。                   |                              |
|             | 2 茶褐色土 焼土粒多量、ローム粒・粘土粒微量含む。ややしまりあり。       |                              |
|             | 3 茶褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。                 |                              |
|             | 4 暗茶褐色土 焼土粒少量、ローム粒・粘土粒微量含む。しまりあり。        |                              |
|             | 5 暗茶褐色土 ローム粒・焼土粒微量含む。しまりあり。              |                              |
|             | 6 茶褐色土 焼土粒少量、ローム粒微量含む。ややしまりあり。           |                              |
|             | 7 茶褐色土 焼土粒多量、ローム粒微量含む。ややしまりあり。2層よりしまりなし。 |                              |
|             | 8 暗赤褐色土 焼土粒多量、ローム粒・炭化物少量含む。しまりあり。        |                              |
| カマド         | 1 暗茶褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。ややしまりあり。          |                              |
|             | 2 赤褐色土 焼土・炭化物・粘土粒多量含む。しまりなし、粘性あり。        |                              |
|             | 3 暗茶褐色土 粘土・焼土粒少量、ローム粒微量含む。やや粘性あり。        |                              |
|             | 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微量含む。                     |                              |

第19図 竪穴住居跡実測図(3)



第20図 竪穴住居跡実測図(4)



第4次 S I -451

- 1 暗褐色土 ローム粒・赤褐色粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・炭化物が層状に堆積する。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ハードロームブロック・赤褐色粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。

SK-453

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・赤褐色土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・赤褐色土粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。

第4次 S I -438

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・炭化物多量含む。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。

SK-440

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。

第4次 S I -439

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、白色粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・白色粘土少量含む。

第5次 S I -495

- 1 暗褐色土 ローム粒多量含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、小ロームブロック少量含む。ややしまりあり。

第5次 S I -496

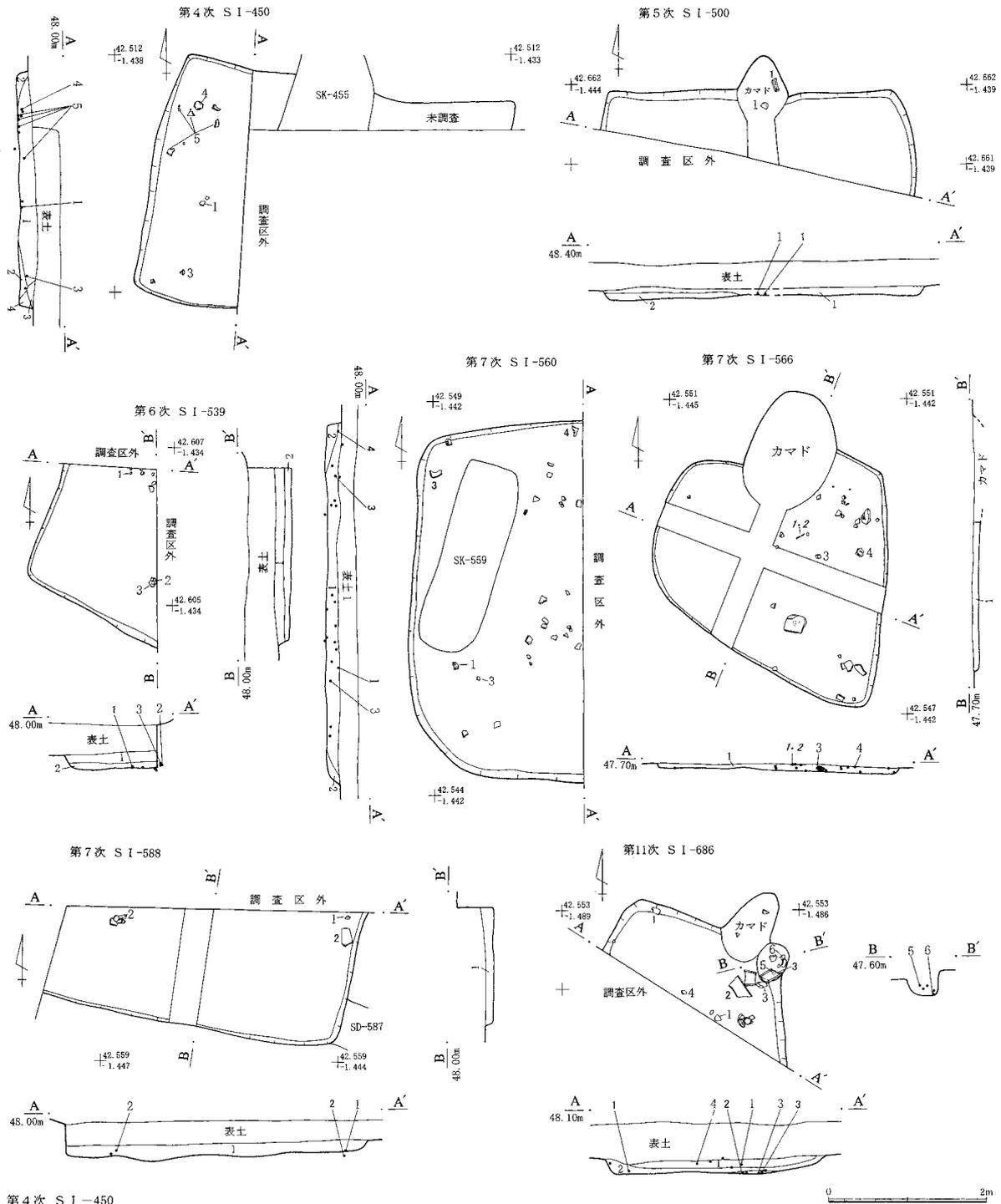
- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量、赤色粒少量含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。ややしまりあり。

SK-519

- 1 茶褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。ややしまりなし。

第21図 竪穴住居跡実測図(5)

第3章 発見された遺構



第4次 S I-450

- 1 暗褐色土 ローム粒やや多含む。ややしまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。ややしまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量含む。ややしまりなし。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。ややしまりなし。

第5次 S I-500

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。

第6次 S I-539

- 表土 明茶褐色土 ローム粒微量含む。硬くしまる。
- 1 暗褐色土 焼土少量、ローム粒・炭化物微量含む。ややしまりあり。
  - 2 黒褐色土 焼土少量、ローム粒微量含む。ややしまりあり。

第7次 S I-560

- 1 黒褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。しまりあり。

第7次 S I-566

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。

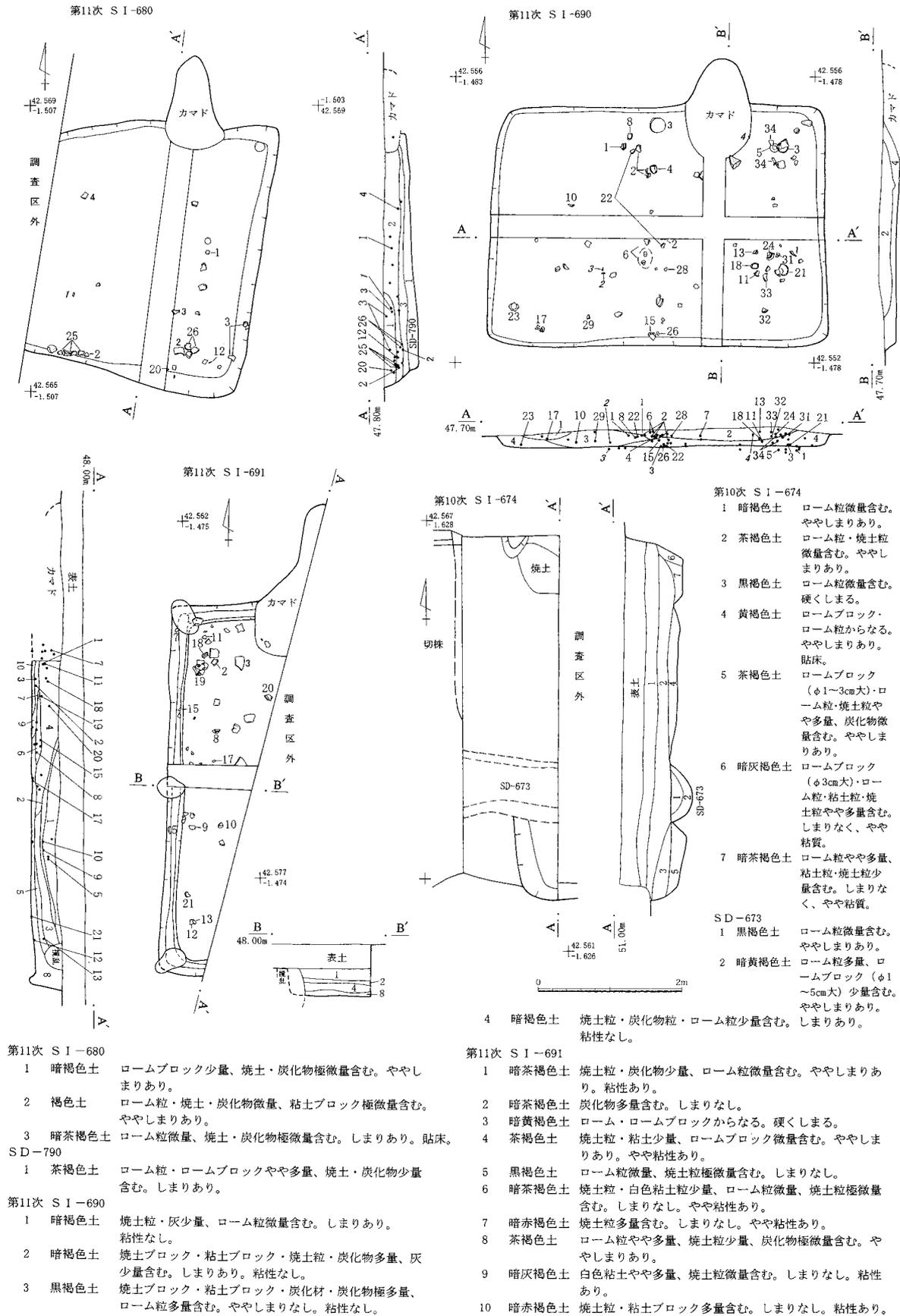
第7次 S I-588

- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。

第11次 S I-686

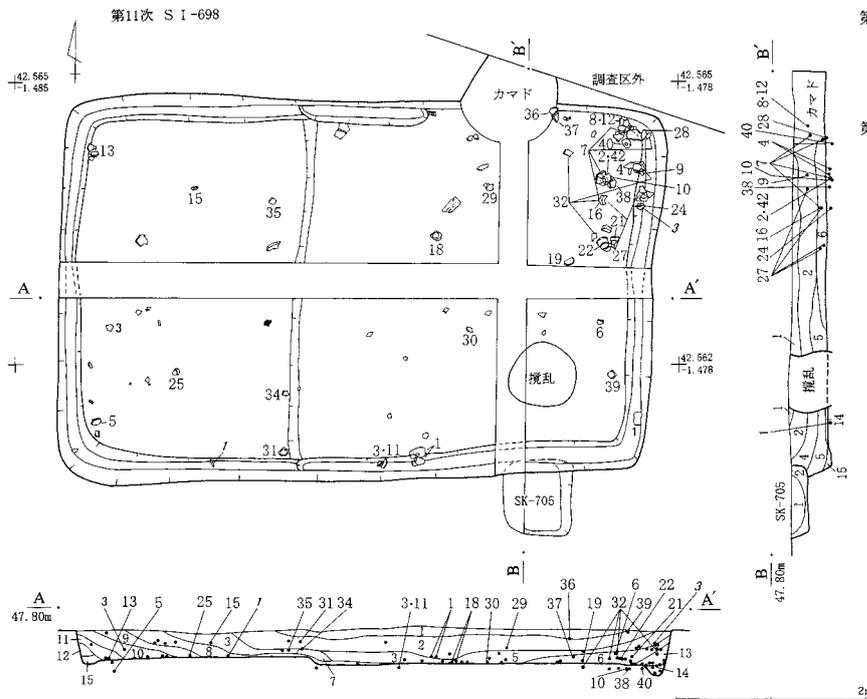
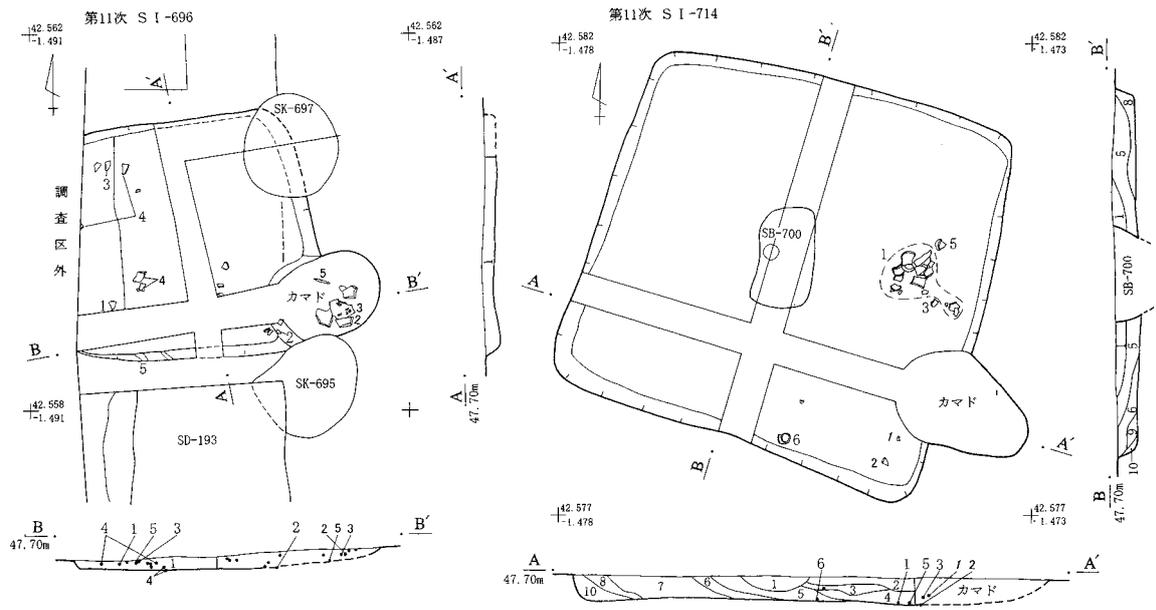
- 1 暗褐色土 ロームブロック (φ0.8~1.0cm) 多量、ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量含む。ややしまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物微量含む。しまりあり。

第22図 竪穴住居跡実測図(6)



第23図 竪穴住居跡実測図(7)

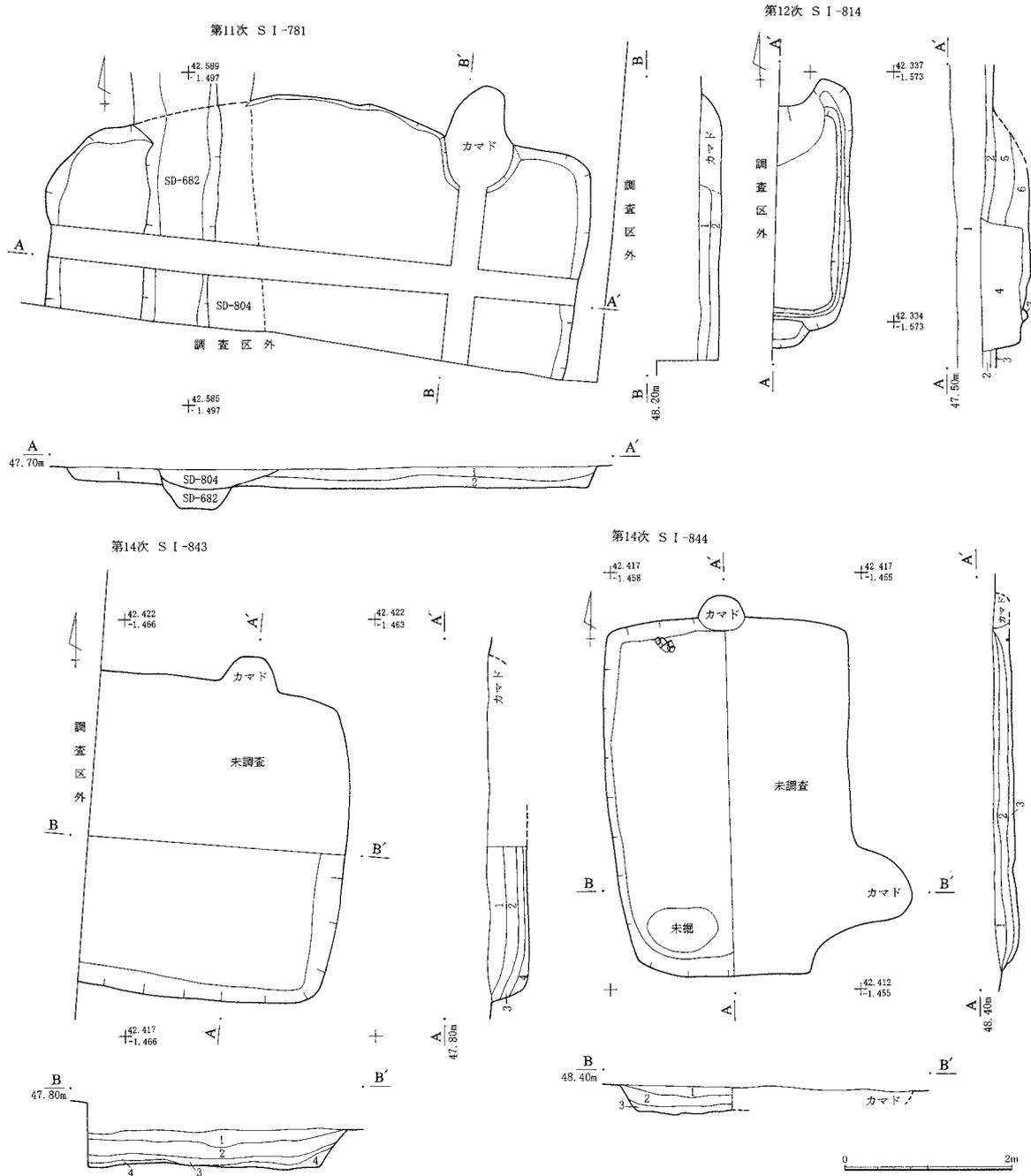
第3章 発見された遺構



- 第11次 S I-696
- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック (φ1~2cm)・炭化物微量含む。
- 第11次 S I-714
- 1 茶褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量含む。しまりなし。
  - 2 茶褐色土 ロームブロック・ローム粒多量含む。ややしまりあり。
  - 3 黒褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。
  - 4 茶褐色土 ロームブロック (φ0.5~2.0cm) ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 5 暗茶褐色土 ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 6 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 7 暗茶褐色土 ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 8 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 9 暗茶褐色土 ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 10 茶褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。

- 第11次 S I-698
- 1 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 2 褐色土 ロームブロック (φ1~5cm) 多量、炭化物・焼土粒・灰少量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 3 黒褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 5 黒褐色土 焼土粒・炭化材・炭化物粒多量、ローム粒少量、灰微量含む。ややしまりなし。粘性なし。
  - 6 黒褐色土 5層よりも焼土粒・炭化材・炭化物粒多量、ローム粒少量含む。ややしまりなし。粘性なし。
  - 7 暗黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。硬くしまる。粘性なし。
  - 8 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物粒・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 9 暗褐色土 ロームブロック (φ1~3cm)・ローム粒極多量含む。ややしまりなし。粘性なし。
  - 10 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物粒・焼土粒微量含む。ややしまりなし。粘性なし。
  - 11 黒褐色土 ロームブロック (φ1~3cm) 多量、炭化物粒微量含む。ややしまりなし。粘性なし。
  - 12 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと黒色土の混合土。少量含む。ややしまりなし。やや粘性あり。
  - 13 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック (φ1~3cm) 少量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 14 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックと多量の黒色土の混合土。しまりなし。粘性なし。
  - 15 明黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、黒色土少量含む。しまりなし。やや粘性あり。
- SK-705
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。粘性なし。
  - 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。ややしまりなし。粘性なし。

第24図 竪穴住居跡実測図(8)



第11次 S I-781

- 1 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。ややしまりあり。

第12次 S I-814

- 1 黒色土 耕作土
- 2 黒褐色土 硬質。砂質。耕作土床土。
- 3 地山漸移層
- 4 黒色土 しまりなし。攪乱。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子少量含む。しまりあり。
- 6 明暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(φ1cm)少量含む。しまりややあり。
- 7 黒褐色土 しまりなし。壁溝埋土。

第14次 S I-843

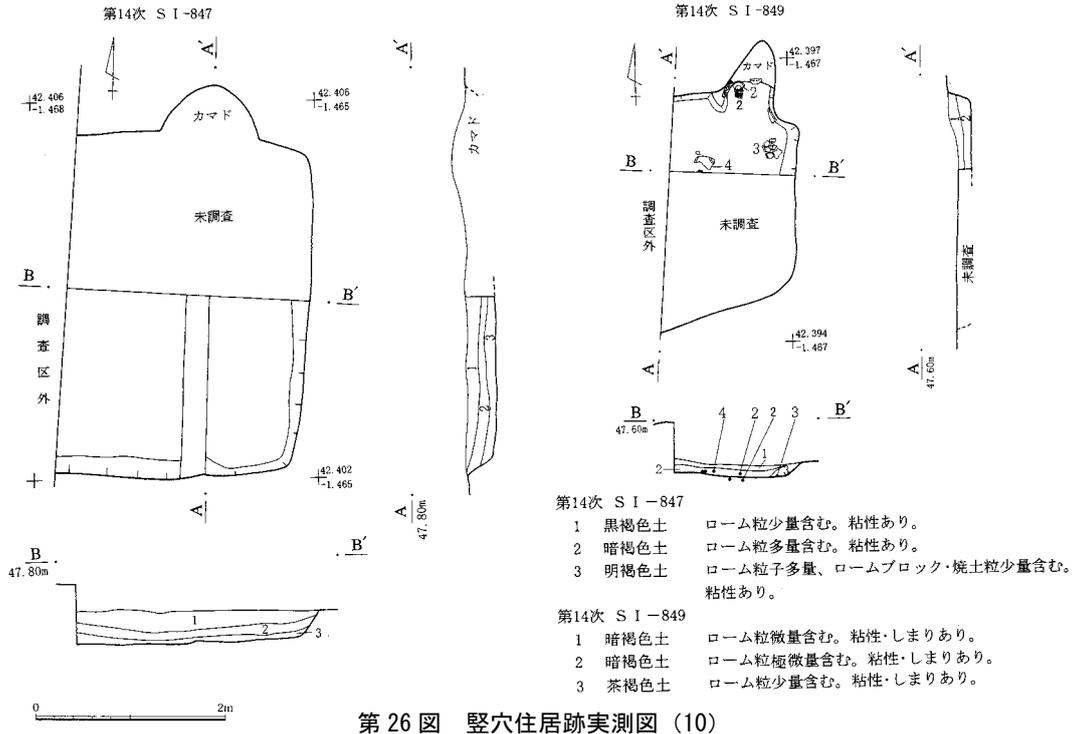
- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量含む。
- 3 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量。粘性あり。貼床。

第14次 S I-844

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粘土粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
- 2 茶褐色土 ローム粒・白色粘土粒微量含む。粘性・しまりあり。
- 3 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック微量含む。しまりあり。粘性あり。

第25図 竪穴住居跡実測図(9)

### 第3章 発見された遺構



第 26 図 竪穴住居跡実測図 (10)

マドを付設する。埋土下層はローム粒が多く確認できた。

#### 第 14 次 S I - 849 (第 10・26・65・131 図、図版一三・二〇・三四)

調査区の南端に位置する。小型の住居跡で、遺構の北半分を掘り下げた。その結果、北東隅にカマドがあり、袖の内側に瓦を立て掛けていた。焚口の部分からも男瓦が出て、この下から炭化物が多量出土した。3の土師器甕は床面から出土した。

### 第 3 節 溝跡

ここでは、『下野国分尼寺跡』で掲載しなかった溝、及び限られた報告であったために、その補足を一部行っていきたい。

#### 第 1 次 S D - 112 (第 4・27・66・131・146 図、図版一三・二〇・二一・三五・四四・四五)

南北に延びる溝で、伽藍地区画溝に平行している。溝の埋土は 4 時期に分別でき、1 期は地山を掘る底・壁面、2 期は 17・18・19 層の上面、3 期は 14～16 層の上・側面、4 期は 13・14 層の上面である。特に 3 期には二段掘りになっている。S D - 198 と重なり、本遺構の方が古い。

遺物と層位との関連では、図化した 2～4 は概ね 4 期下層から出土し、9 世紀中葉の所産で、7 は 4 期最上層から出土し、10 世紀代のものであろう。

#### 第 1 次 S D - 113 (第 4・27・68・131・146 図、図版一三・二一・三五)

南北に延びる溝で、伽藍地区画溝に平行している。溝の断面は浅いが 2 時期に分別され、5～7 層が初期の A 期、1～4 層が新しい B 期になる。遺物では 1 は 1 層、2・3 が 3 層で、B 期の所産であり、4 が 5 層で A 期になる。時期的にはいずれも 9 世紀後葉である。

#### 第 1 次 S D - 154 (第 4・67・131 図、図版二一)

S D - 193 と重なり、本遺構が新しい。掘方も浅く、かわらけが出土しており、中世後半の所産であらう。

#### 第 1 次 S D - 195 (第 4・67・131 図、図版三五)

L字形に曲がる溝で、確認面からの深さは50～60cm程であった。粘土・ロームブロック・玉石・瓦を多く含んでいた。

**第1次SD-196**（第4・27・131図、図版一三）

東西にのびる溝で、SD-153よりも古くて、伽藍地内に伴う溝である。

**第1次SD-198**（第4・27図、図版一三）

調査区西端にあり、SD-112よりも新しい溝である。

**第2次SD-242**（第5・19・132図）

東西のグリッド方向に延びる溝で、SI-241よりも新しい。2段に掘られており、北側は確認面から70cm、南側は30cm程の深さである。

**第2次SD-249**（第5・28図）

東西に延びるが、グリッド方位よりも振れている。表土下から掘り込んでおり、埋土はしまりなく、現代の溝と判断した。

**第2次SD-250**（第5・28・69・132図、図版一一・一二）

調査区北端に位置する溝で、北西から南東に延びる。南北の壁に段があり、新旧の掘り直しがあつたと考えられる。古いA期は2・3層、新しいB期は1層になる。

**第2次SD-265**（第5・132図）

東西のグリッド方向に延びる寺院地北辺溝で、3層（前報告第14図）から9世紀後半の須恵器坏が出た。

**第2次SD-273**（第5図）

グリッド東西方向に延びており、土坑よりも古い。埋土は黒褐色土や暗褐色土で、下層はしまりないが、中・上層はしまりあることから、尼寺に関連する溝と判断される。土師器・須恵器・瓦片が出土した。

**第2次SD-292・301・305・309**（第5・29・69・132図、図版一四・三五）

SD-305・309は伽藍地・寺院地北辺に対して直交しており、平行していることから道路跡と推定される。ほかの2条はやや東に振れるが、同様の性格であろう。この溝はSI-307（9世紀第4四半期）よりも古い。底面から30cm程浮いた中層から出土した土器も竪穴住居跡と近い時期である。

**第2次SD-330**（第5・28・69・132・146図、図版二一・三五・三六・四四・四五）

北辺築地堀外溝である。埋土には前報告第14図所載の挿図1-N・1-Sの6層は、白黄色の火山灰と思われる粒が多量確認され、1108年降下のものであろうか。

遺物の出土層位と土器の関連では、37の須恵器高台付坏は出土レベルがやや下層であり、形式的に新しい1は上層から出土している。土器は大半が10世紀前半のものである。この溝が10世紀前半まで主に機能していたと判断される。

**第2次SD-332**（第5・132図）

北辺掘立柱塀SA-300と重なるこの溝はL字形に曲がり、埋土上層から土師器坏などの破片が出土した。

**第2次SD-333**（第5・69・132図）

北辺掘立柱塀内溝である。埋土中から9世紀後半の須恵器が出土した。

**第2次SD-334**（第5・69・133・146図、図版三六）

北辺築地堀内溝で、遺構は2時期に分別される。土器類は、1・2・6・7が8世紀後半頃、4・5は9世紀後半、8が10世紀前半になる。中層において新旧型式の土器が混在しており、10世紀前半まで機能していたことがわかる。

**第2次SD-363** (第5・28図)

SK-341よりも新しく、多くの長方形土坑よりも古い。浅い掘り込みで、やや蛇行している。

**第2次SD-369** (第5・28・133・146図、図版三六・四四・四五)

SD-330よりも古い北辺築地塀外溝である。下層から出た1は9世紀後半、上層から出土した2は10世紀前半の所産であろう。

**第3次SD-389** (第6・29図)

寺院地外にある溝で、南南西から北北東に延びる。浅い掘り込みで、下層にはロームブロックを多く含む。

**第4次SD-140** (第6・133図、図版一四・三六)

寺院地東側張り出し区画東辺溝で、掘り直しによる新旧2時期がある。前報告第15図に遺物の出土レベルを投影すると、4の土師器が2層、1・5が2'層、2が最上層の1層にあたり、いずれも掘り直し後のSD-140B期の埋土から出ている。2～5は9世紀後半の所産で、この時期にSD-140Bは埋没したことになる。

**第5次SD-492・493** (第5・29・133図)

竪穴住居(SI-495・496)や長方形土坑と重複し、本遺構の方が新しい。この調査区は寺院地外にあたり、北北東から南南西にのび、建物群とも方位が異なっていることから、寺院と関連する溝が明らかでない。

**第6次SD-520・521** (第7・29・133図)

寺院地外にある、平面弧状を呈した溝である。北側のSD-520よりも521が新しい。

**第7次SD-140・550** (第7・30・70・133・134・146図、図版一四・三六・三七・四四・四六)

寺院地東側張り出し部の北辺・東辺の区画溝であり、掘り直しによってA期(旧)、B期(新)に分別できる。A期の最下層にはローム粒やロームブロックが多量含まれていた。北東コーナーにおいてB期下層から8世紀後半の須恵器坏が出土した。さらに底部に静止糸切り痕のある灯明具や9世紀前葉の須恵器坏、後半の三日月高台の灰釉陶器皿などがB期埋土や上面から出ている。

SD-550については遺物の出土レベル図をみると、図化できたものは掘り直し後のB期のものである。このなかで4の須恵器坏は底径7cmで、寂光沢2号窯の9世紀第2四半期になり、灰釉陶器碗は黒笹90号窯式で9世紀後半になり、B期はSD-140とほぼ同じ期間機能していたことになる。これらの点からSD-550は9世紀中葉まで機能していたと考えられる。

**第8次SD-140・610** (第8・31・71・134図)

寺院地東張り出し区画の南辺・東辺溝である。南辺溝も東辺と同様に掘り直しされておりA期・B期に分別される。B期の埋土には、白色粒子が若干混じっていた。SD-610では9世紀後半の4の須恵器坏は2層中から出土し、前報告第40図の鉄製蒺藜轡は2層上位(底面から70cm浮いたレベル)から出ている。SD-140の遺物出土レベルをみると、図化したものは掘り直し後のB期の層位から出土し、2の土師器坏は9世紀中葉、4の灰釉陶器壺は9世紀後半の所産である。

東張り出し区画南辺のSD-610では、底径6～7cmの須恵器坏で、9世紀中葉から後半になる。

**第9次SD-651** (第7・134図、図版一四)

築地塀西辺溝の内側で平行して発見された溝である。伽藍地西門の所で溝が終えている。この溝は西側には延びないことが確認され、確認面からの深さは50cm程である。遺物は前報告の第20図4W-4E土層図の本遺構2層上位から、図化した土師器坏(1)が出土した。この坏は9世紀中葉の所産である。

**第9次SD-653** (第7・71・134図)

寺院地西辺溝で、SD-658Aにより壊される。上面から9世紀前半頃の土師器坏が出土している。

**第9次SD-658A・B**（第7・71・134・146図、図版三七・四四）

西辺築地塀外溝で、掘り直しによりA期・B期に分けられる。SD-658Bの遺物では、1が前報告第20図1W-1E土層図の2層中で、底面から20cm程浮いたレベル、2が1層中で底面から50cm程浮いて出土した。2は9世紀後半の所産であり、SD-658Bはこの時期になると推定される。

**第10次SD-653A・B**（第8・31・71・134図）

寺院地西辺溝で、掘り直しによりA期・B期に分けられる。古いA期の最下層（前報告第24図土層図2～4の3層）はロームブロック・ローム粒からなる黄褐色土で、人為的埋土と判断された。SD-653Bの遺物では2・3・4が1層中位から出土し、2が最も新しく9世紀後半になる。

**第11次SD-193A・B**（第9・134・146図、図版三七・四四）

寺院地の東辺溝で、SD-800よりも新しい。掘り直しにより2時期あり、遺物の出土層序では、古いA期の上層（1層）からは底径6.4cmの須恵器坏が出ている。三毘窯編年の大芝原窯B地点段階に比定でき、9世紀後半の所産である。図化したその他のものは多くが掘り直し後のB期下層（2層）から出ており、5の須恵器坏が同様に大芝原窯B地点段階に比定できる。このため、A期下限・B期上限は9世紀後半のなかであることが指摘できる。

**第11次SD-265A・B**（第9・32・135・146図、図版三七）

寺院地北辺溝である。掘り直しによってA期・B期に分けられる。下層は両時期共にロームブロックが多く入る。遺物は下層からも底径6cm程で、大芝原窯B地点段階の須恵器坏（3・6）が出ているが、中層から底径9cm程の三毘窯編年三通窯段階の坏（5）、寂光沢2号窯段階（1）、益子窯滝ノ入・倉見沢窯段階（2）が出ている。

**第11次SD-330**（第9・32・72・135・146図、図版二二・三七・四四）

築地塀の外溝で、4層に分層され、8世紀後半から9世紀中葉の遺物が出ている。SD-369・810よりも新しい。

**第11次SD-369**（第9・32・135図、図版三七）

築地塀の外溝で、SD-330よりも古い。9世紀中葉の土師器坏（2）から後半の遺物や漬け掛けの灰釉陶器が出ている。

**第11次SD-550A・B**（第9・135図、図版三七）

寺院地張り出し区画溝で、新旧2時期に分けられる。1・2の須恵器は前報告第25図17土層図SD-550B期1層から出ており、1は益子窯滝ノ入・倉見沢窯段階で9世紀中葉になる。

**第11次SD-681**（第9・135図、図版三七）

伽藍地北側の寺院地内に南北にのびる溝で、掘立柱建物SB-700などと主軸が合う。前報告第27図3土層図にあり、炭化物粒を含む暗茶褐色土で、9世紀後半の土器・陶器が主体である。

**第11次SD-682**（第9・33・72・135・146図）

築地塀の外溝よりも新しく、掘立柱建物SB-700やSD-713などと主軸が合う。SI-781よりも新しく、SD-804よりも古い。最下層はロームブロックを多量含む黄褐色土であり、埋め戻している可能性がある。遺物は、底径6～7cmの土師器・須恵器坏で、9世紀後半の所産である。

**第11次SD-713**（第9・33・135図、図版三七）

主軸が座標北よりも東に振れる。9世紀中葉から後半の土器が出土し、3は三毘産大芝原窯B地点段階の

須恵器坏である。

**第11次SD-777** (第9・33・135・146 図)

調査区北端の東西溝で、寂光沢3号か2号窯段階の須恵器坏が出土した。

**第11次SD-790** (第9・34・136 図、図版一四・三七)

土層観察(前報告第27 図6 土層図)により、本溝は北辺築地塀外溝SD-330 やSI-680 よりも古いことがわかる。溝の主軸は座標北よりも東に振れている。本溝と主軸をほぼ同じくするSD-682 はSD-330 よりも新しく、南北溝と築地北辺溝との新旧はSD-790 → 330 → 682 となる。伽藍地北方における寺院地の区画溝の変遷が捉えられる。遺物は1を除き、底径6～7 cm代であり、灰釉陶器も三日月高台であり、9世紀中葉から後半の所産である。

**第11次SD-796** (第9・34・135 図)

本溝は、寺院地北辺溝(SD-265)よりも新しい。

**第11次SD-797** (第9・135 図、図版三七)

L字形に曲がる溝で、SD-798・803よりも新しい。

**第11次SD-800A・B** (第9・33・72・136 図、図版二二・三七・三八)

寺院地東辺溝で、掘り直しにより2時期になる。出土した土器は、8世紀後半～9世紀前葉までの1・5・8・9と9世紀後半の4・10に分けられる。10はB期の層位から出ている。

**第11次SD-804** (第9・33・72・73・136 図、図版二二)

SI-781・SD-682よりも新しく、上層から9世紀代の土器・灰釉陶器が出土している。

**第11次SD-810A・B** (第9・32・136 図)

A期は伽藍地の掘立柱塀北辺溝であり、掘り直しのB期は寺院地築地塀北辺溝になる。図化した遺物はA期の埋土から出土し、1はその底面から出た9世紀後半の土師器坏である。

**第12次SD-610A・B** (第10・73・136 図、図版二三・三八)

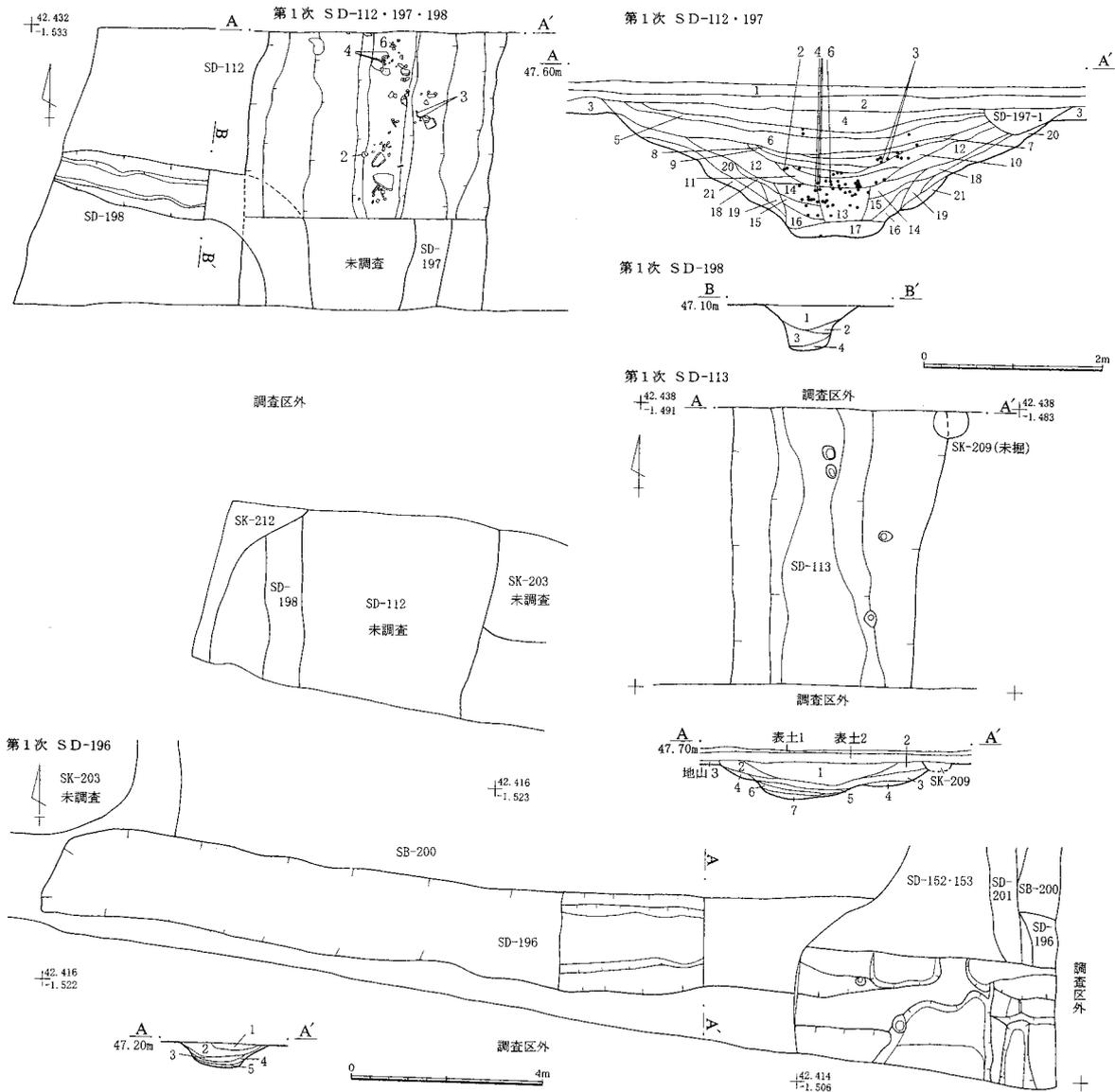
寺院地南辺の区画溝である。掘り直しにより2時期あり。当初のSD-610の溝を掘削後に、ロームブロック多量の黄褐色土・明褐色土(前報告第29 図12 土層図12～14層)で掘削後に土橋を構築している。12土層図10・11・15・16層と30 図の13 土層図6・7はA期になり、ローム土で埋め戻している。B期は12土層図の1～9層である。下層は自然堆積後にロームで埋め戻す。上層から非ロクロの土師器坏が出ており、第1次SI-114に類似したものであり、9世紀後半に位置付けられる。

**第12次SD-836** (第10・136 図)

南辺築地塀外溝で、土層観察により、溝の新旧を判断した。埋土上層から10世紀中頃の土師器坏(1)が出土した。

**第13次SD-610A・B** (第8・136 図)

埋土の観察により、2時期になる。掘り直し後の上・中層(B期)埋土中から9世紀後半の土師器・須恵器が出土した。



第1次 SD-112

- 1 耕作土
- 2 耕作土
- 3 茶褐色土 地山
- 4 黒褐色土 ローム粒・白色粒子微量含む。砂質。硬くしまる。
- 5 茶褐色土 白色粒子微量含む。砂質。硬くしまる。
- 6 茶褐色土 ローム粒・白色粒子微量含む。ややしまりあり。
- 7 茶褐色土 ローム粒少量、白色粒子微量含む。ややしまりあり。
- 8 褐色土 ローム粒微量含む。硬くしまる。粘性あり。
- 9 褐色土 ローム粒微量含む。ややしまりあり。粘性あり。
- 10 褐色土 ローム粒多量含む。硬くしまる。
- 11 暗褐色土 ローム粒少量含む。硬くしまる。
- 12 暗茶褐色土 ローム粒多量含む。ややしまりあり。
- 13 黒色土 ローム粒微量含む。しまりなし。粘性あり。
- 14 茶褐色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。
- 15 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりなし。
- 16 黒褐色土 ローム粒多量含む。しまりなし。
- 17 黒色土 ロームブロック・ローム粒・鹿沼バミス(φ1cm)多量、砂粒少量含む。ややしまりあり。
- 18 黒褐色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。
- 19 黒褐色土 ローム粒・鹿沼バミス・砂微量含む。粘性あり。
- 20 明茶褐色土 ローム粒多量含む。硬くしまる。
- 21 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックからなる。硬くしまる。

第1次 SD-197

- 1 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。硬くしまる。

第1次 SD-113

- B期
- 1 暗褐色土 ローム粒少量、白色粒子微量含む。硬くしまる。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒・白色粒子微量含む。ややしまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量、白色粒子微量含む。ややしまりあり。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロックからなる。しまりなし。
- A期
- 5 暗茶褐色土 ローム粒多量、白色粒微量含む。ややしまりあり。
- 6 暗茶褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。ややしまりあり。
- 7 黄褐色土 ロームブロックからなる。

第1次 SD-196

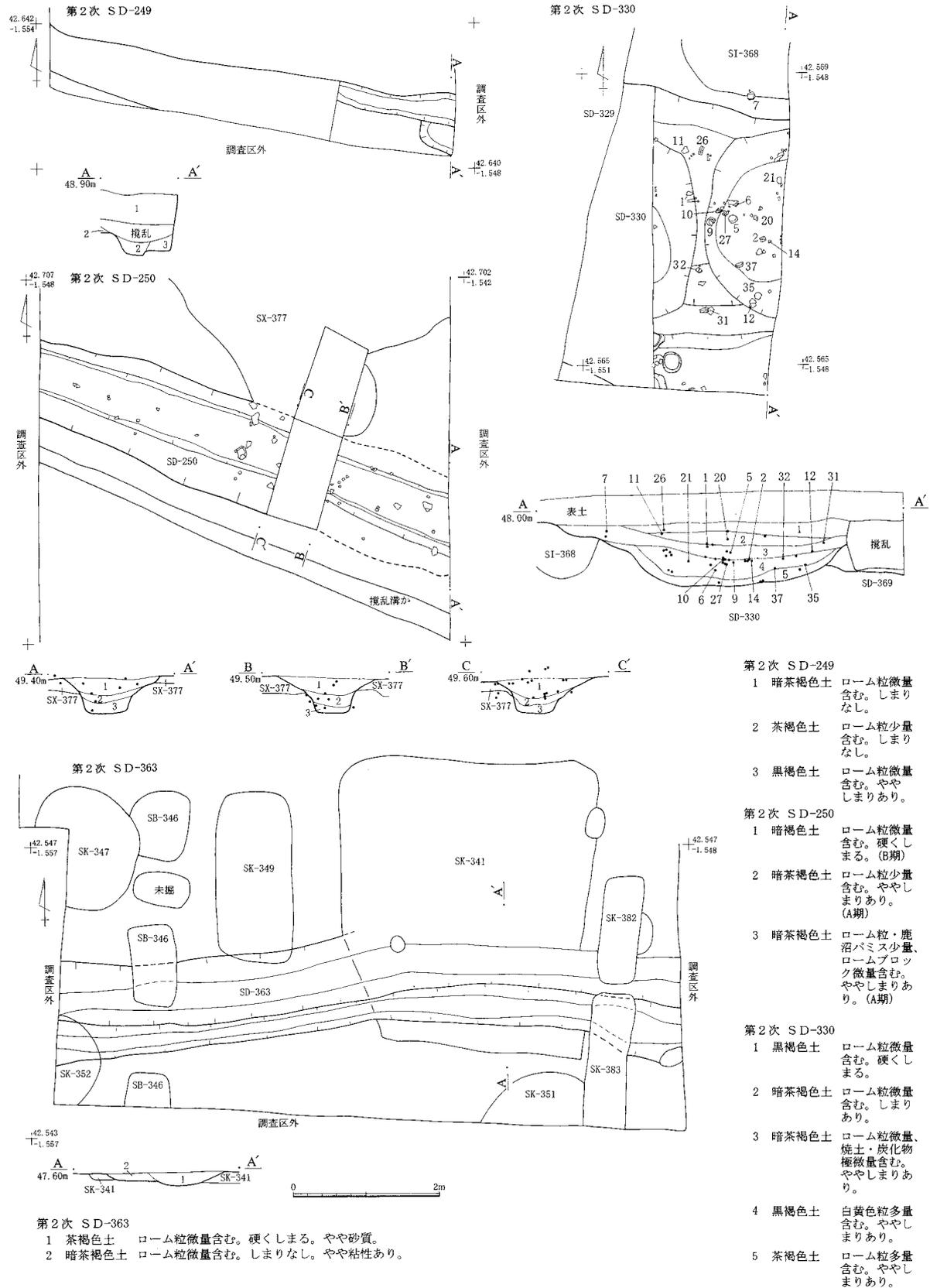
- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。
- 2 茶褐色土 ローム粒少量含む。硬くしまる。
- 3 黒色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。ややしまりあり。
- 5 黄褐色土 ロームブロックからなる。しまりあり。

第1次 SD-198

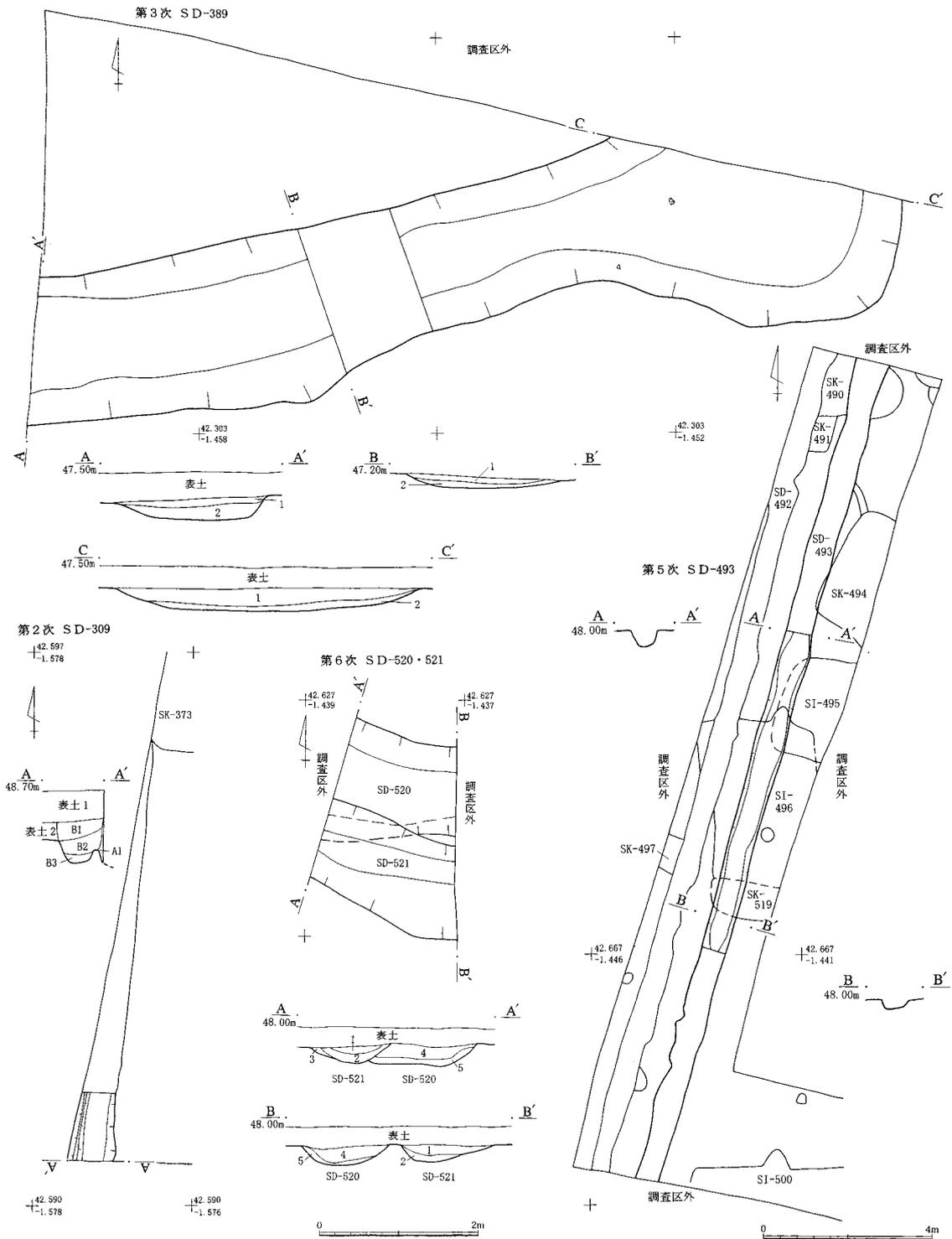
- 1 黒褐色土 凝灰岩粒・凝灰岩ブロック多量、ローム粒微量含む。硬くしまる。
- 2 明茶褐色土 硬くしまる。
- 3 暗茶褐色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。
- 4 黒色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりなし。

第27図 溝跡実測図(1)

第3章 発見された遺構



第28図 溝跡実測図(2)



第2次 SD-309

- A期
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりなし。
- B期
- 1 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりなし。
  - 2 黒褐色土 しまりなし。
  - 3 茶褐色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。

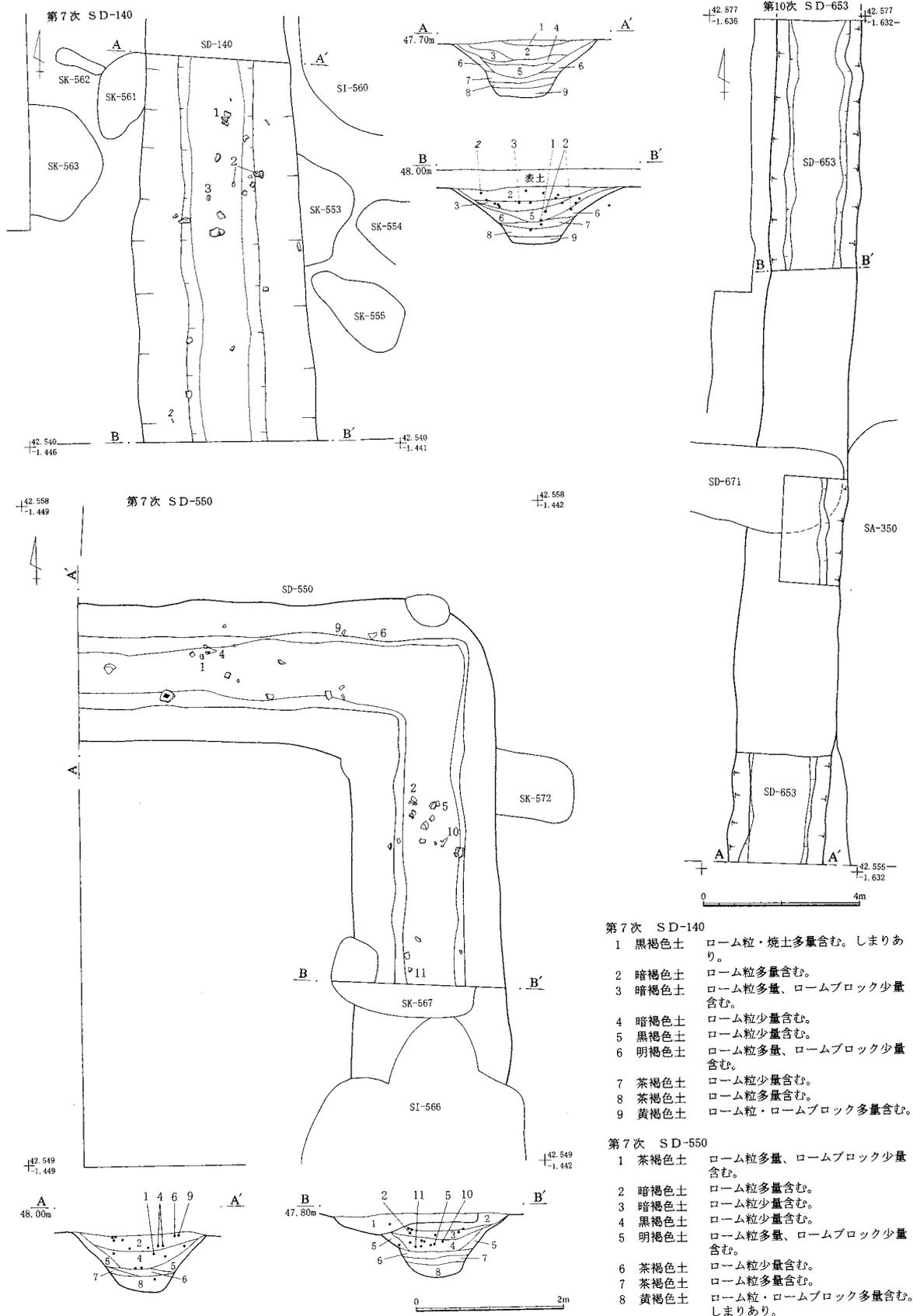
第3次 SD-389

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。

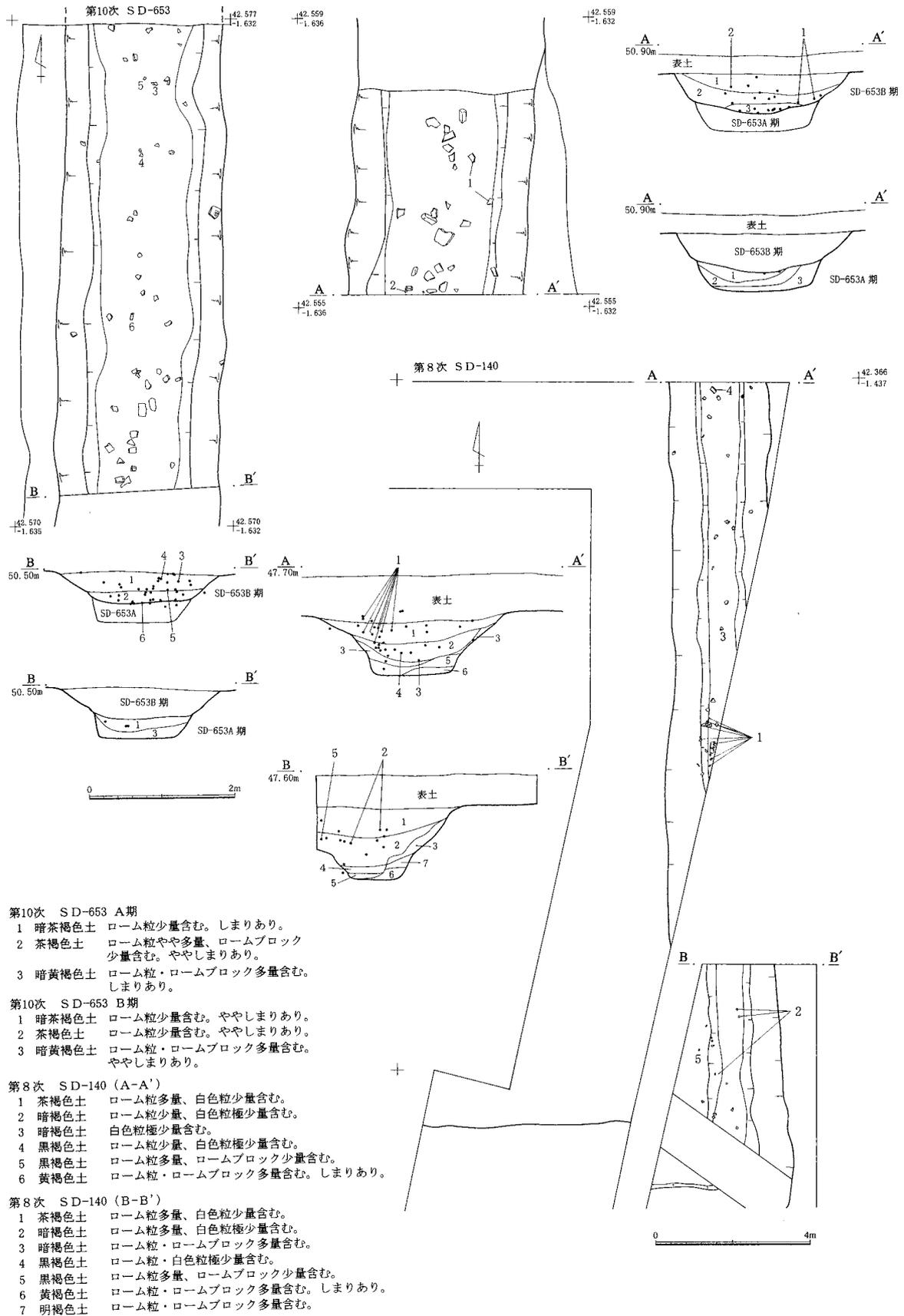
第6次 SD-520

- 1 黒褐色土 ローム粒子少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒子やや多量含む。しまりあり。
- 3 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。
- 5 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。ややしまりあり。

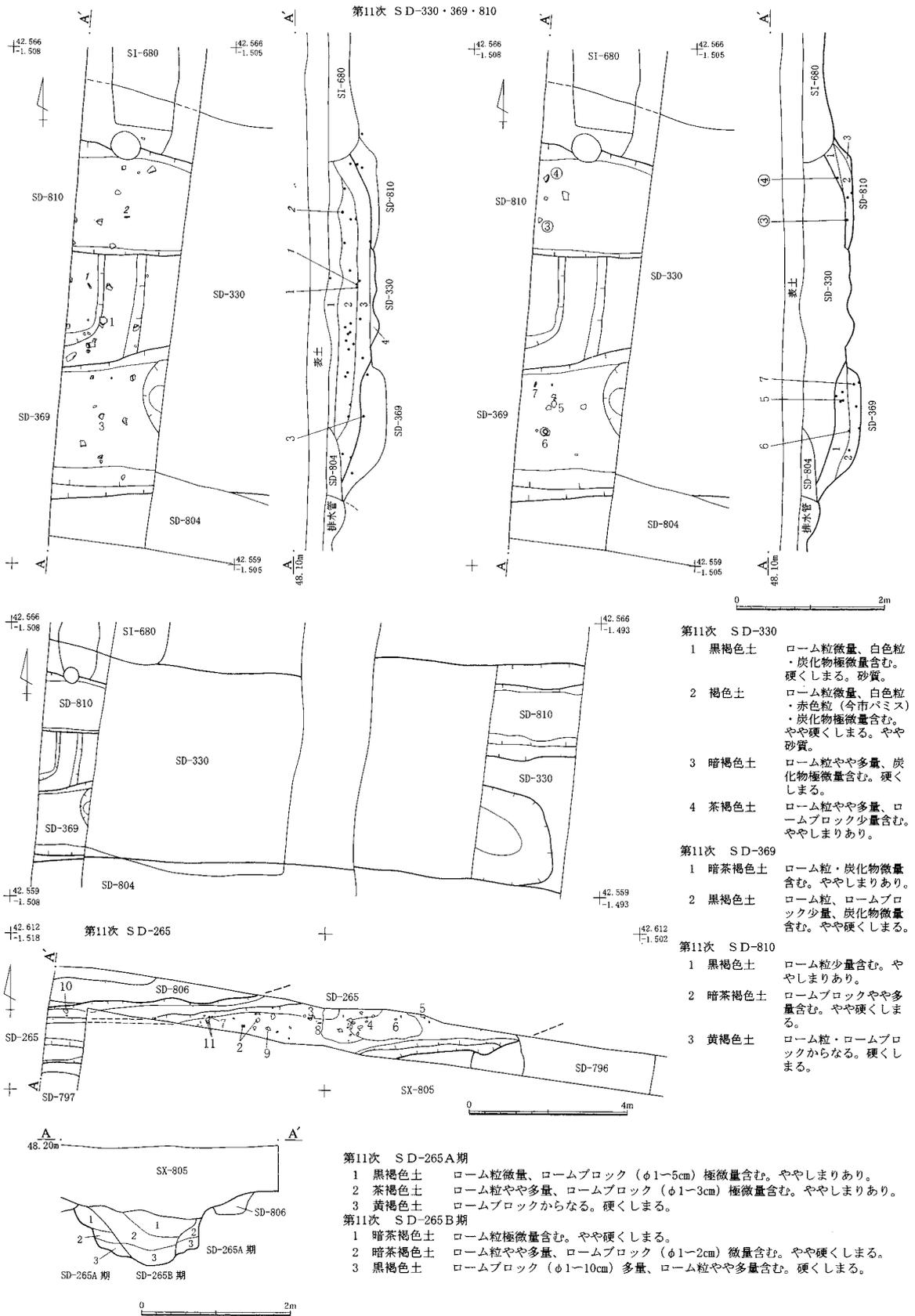
第29図 溝跡実測図(3)



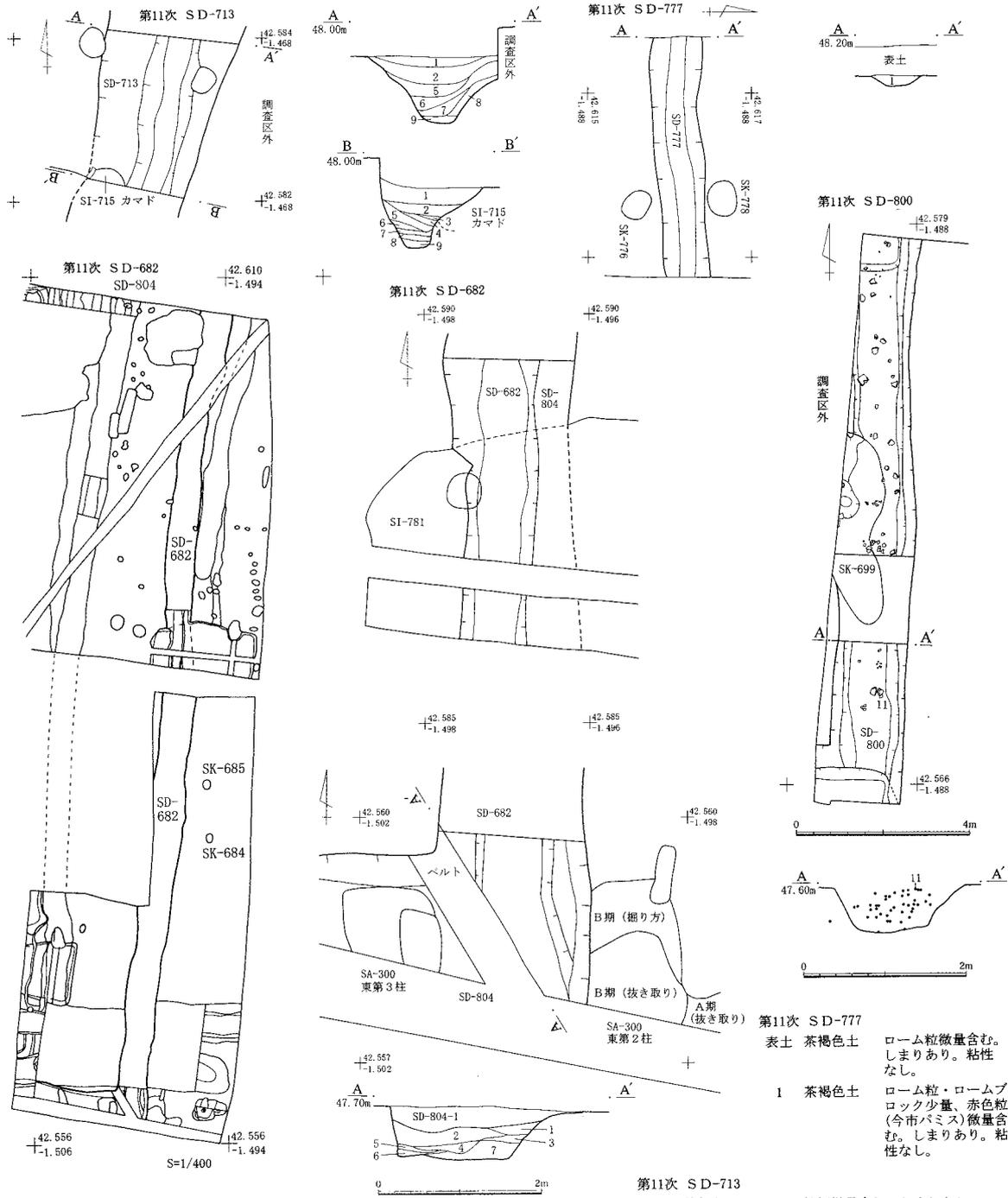
第30図 溝跡実測図(4)



第31図 溝跡実測図(5)



第32図 溝跡実測図（6）



第11次 SD-682

- 1 褐色土 ローム粒やや多量、黒褐色土少量含む。しまりあり。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック(φ2-3cm)・焼土粒微量含む。しまりあり。やや粘性あり。
- 3 茶褐色土 ロームブロックやや多量、炭化物微量含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。ややしまりあり。やや粘性あり。
- 5 黒色土 ローム粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
- 6 茶褐色土 ローム粒(φ4cm)微量含む。しまりあり。やや粘性あり。
- 7 黄褐色土 ロームブロック多量、黒褐色土少量含む。ややしまりあり。やや粘性あり。

第11次 SD-804

- 1 暗茶褐色土 ローム粒少量、炭化物・白色粒微量含む。しまりあり。やや粘性あり。

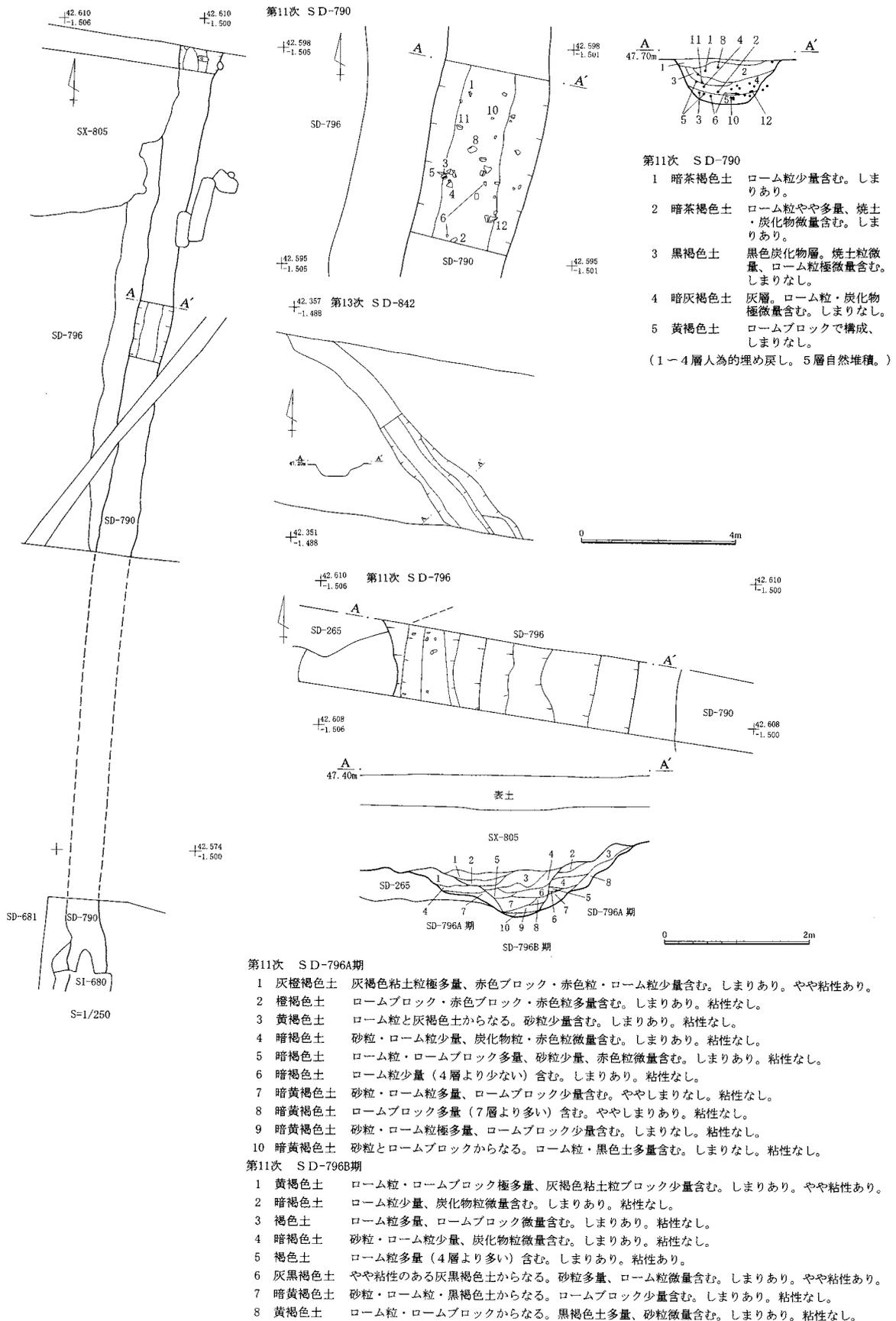
第11次 SD-713

- 1 黒色土 ローム粒極微量含む。しまりなし。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒微量、赤色粒(今市パミス)極微量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
- 4 暗茶褐色土 ローム粒・赤色粒(今市パミス)極微量含む。やや硬くしまる。
- 5 黒褐色土 ローム粒微量、赤色粒(今市パミス)極微量含む。ややしまりあり。
- 6 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。やや硬くしまる。
- 7 黒褐色土 ローム粒極微量含む。しまりなし。やや粘性あり。
- 8 黒褐色土 ローム粒微量、赤色粒(今市パミス)極微量含む。しまりなし。やや粘性あり。
- 9 暗茶褐色土 ローム粒・赤色粒(今市パミス)極微量含む。しまりあり。やや砂質。

第11次 SD-777

- 表土 茶褐色土 ローム粒微量含む。しまりあり。粘性なし。
- 1 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック少量、赤色粒(今市パミス)微量含む。しまりあり。粘性なし。

第33図 溝跡実測図(7)



第34図 溝跡実測図(8)

## 第4節 土坑・井戸跡・性格不明遺構

本遺跡では、各調査区において多様な形態の土坑が発見された。ここでは、埋土掘り下げを行ったものについて図を提示し、説明は特徴的な遺構・遺物について行う。遺物の実測図があるが、遺構の図面がないものは、遺構確認面で遺物を取り上げたものである。

### 第1次SK-190 (第4・35・137 図、図版一四・三九)

平面円形の掘方に土師器甕が正位で置かれて出た。蔵骨器の可能性が高いが、中から骨片などは確認できなかった。コの字形口縁をした甕で、肩部を斜位、胴部下半を縦位に削っており、9世紀中葉から後半の所産になる。出土位置は寺院地外東になる。

### 第3次SK-387 (第6・36・137 図、図版一四・三九)

寺院地外南東に所在する。平面楕円形の掘方内から土師器甕が出土した。土坑の北西半分において、縦位の半分は口縁部を南東に向けていた。潰れた状態と直截的な判断はできないが、土器は蔵骨器の可能性も考えておきたい。

### 第4次SK-421 (第6・36・137・147 図、図版一五・三九・四六)

南北に長い長方形土坑で、土器の示す時期からすると、寺院地の外側に掘られた遺構となる。底面は平坦で、やや浮いたレベルで完形の坏が正位の状態でまとまって出土した。長軸の長さ2.4mになることから、墓の可能性もある。土器の時期は10世紀前半であろう。

### 第1次SE-116 (第4・39・138・147 図)

平面円形の掘方で、断面形は漏斗状に窄まっていく。埋土の上位を掘り下げ、平安時代の土師器高台付坏や甕の破片が出土した。

### 第2次SE-371 (第5・39・138 図、図版一六)

寺院地内の北方に位置する。平面円形の井戸で、掘り下げた部分より下位は急激に窄まる。埋土中から9世紀後半の土器が出土した。築地塀に時期的にも近似したものであり、伽藍地の北側に掘られた井戸と考えられる。

### 第1次SX-115 (第4・39・138 図、図版一六・三九・四〇)

調査区の西部、伽藍地の外側に位置する。完形の土師器坏が入れ子状に重ねられた状態で出土した。埋納したものと判断できる。ここから出た坏は製作技法でロクロ撫での一群と体部を押圧して作り、底部外面に離れ砂がある一群に大きく分類できる。後者の一部は体部外面下半に篋削りを行う。灯明のタールと芯痕の観察されるものがある。

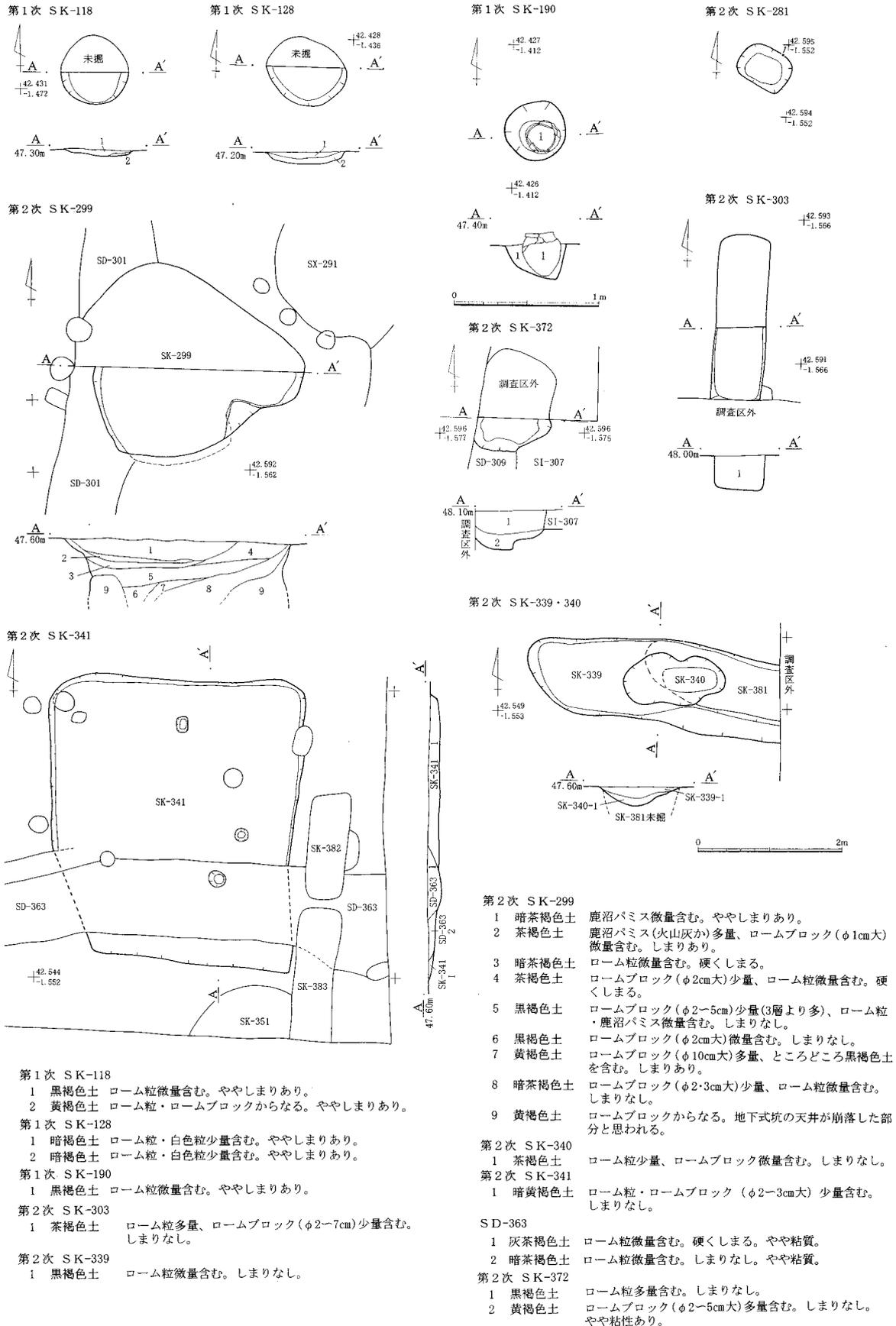
### 第2次SX-291 (第5・39 図、図版一六)

地下式坑と判断した。西側が堅坑であろう。同様の地下式坑は第2次調査区SK-299、第5次調査区SK-494などを挙げるができる。

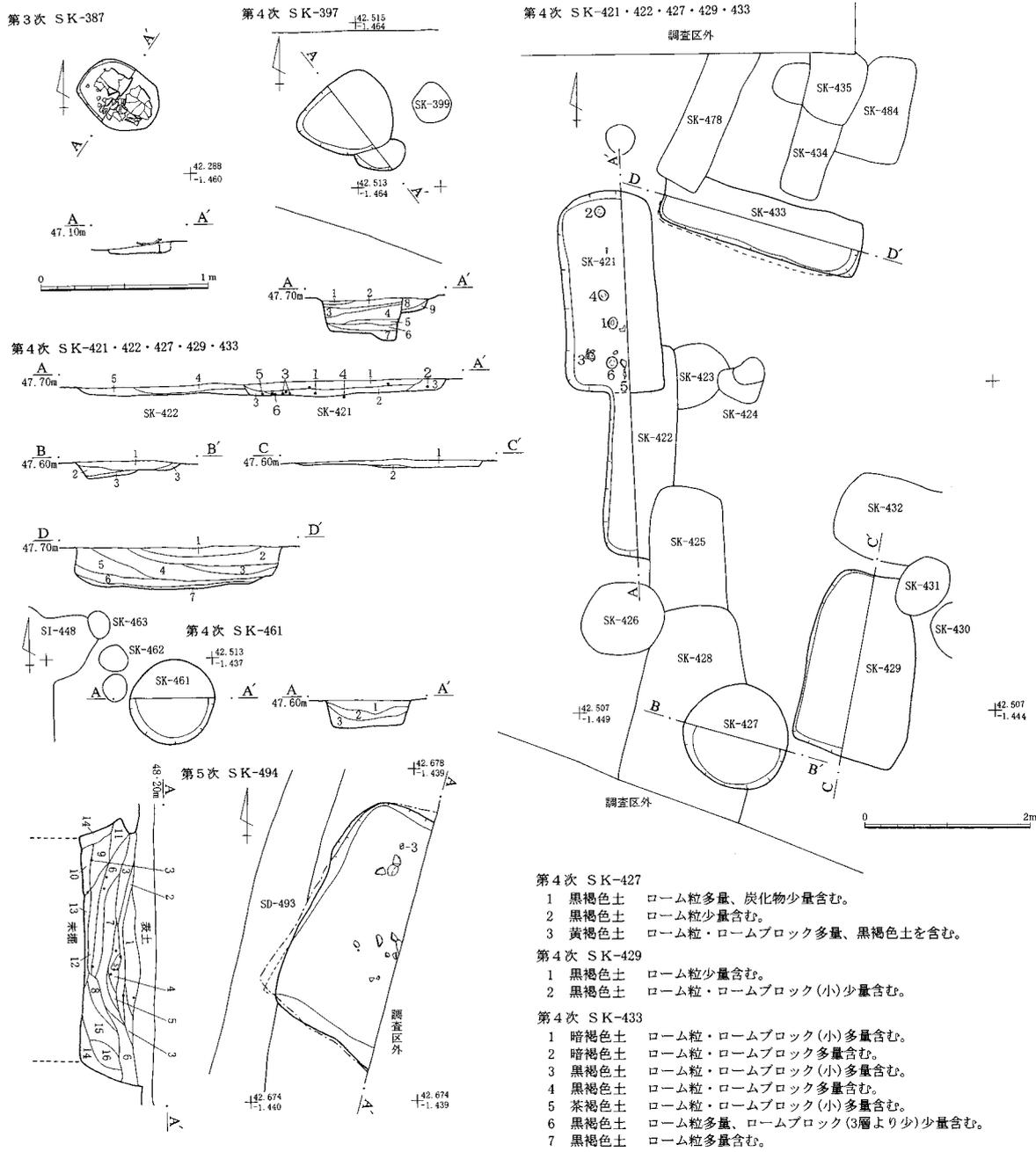
### 第2次SX-377 (第5・39・139・147 図、図版四一・四六)

埋土が極めて硬質になっており、平面やや不整な長方形である。埋土中から瓦が3点出土したが、遺構の性格は判然としない。

第3章 発見された遺構



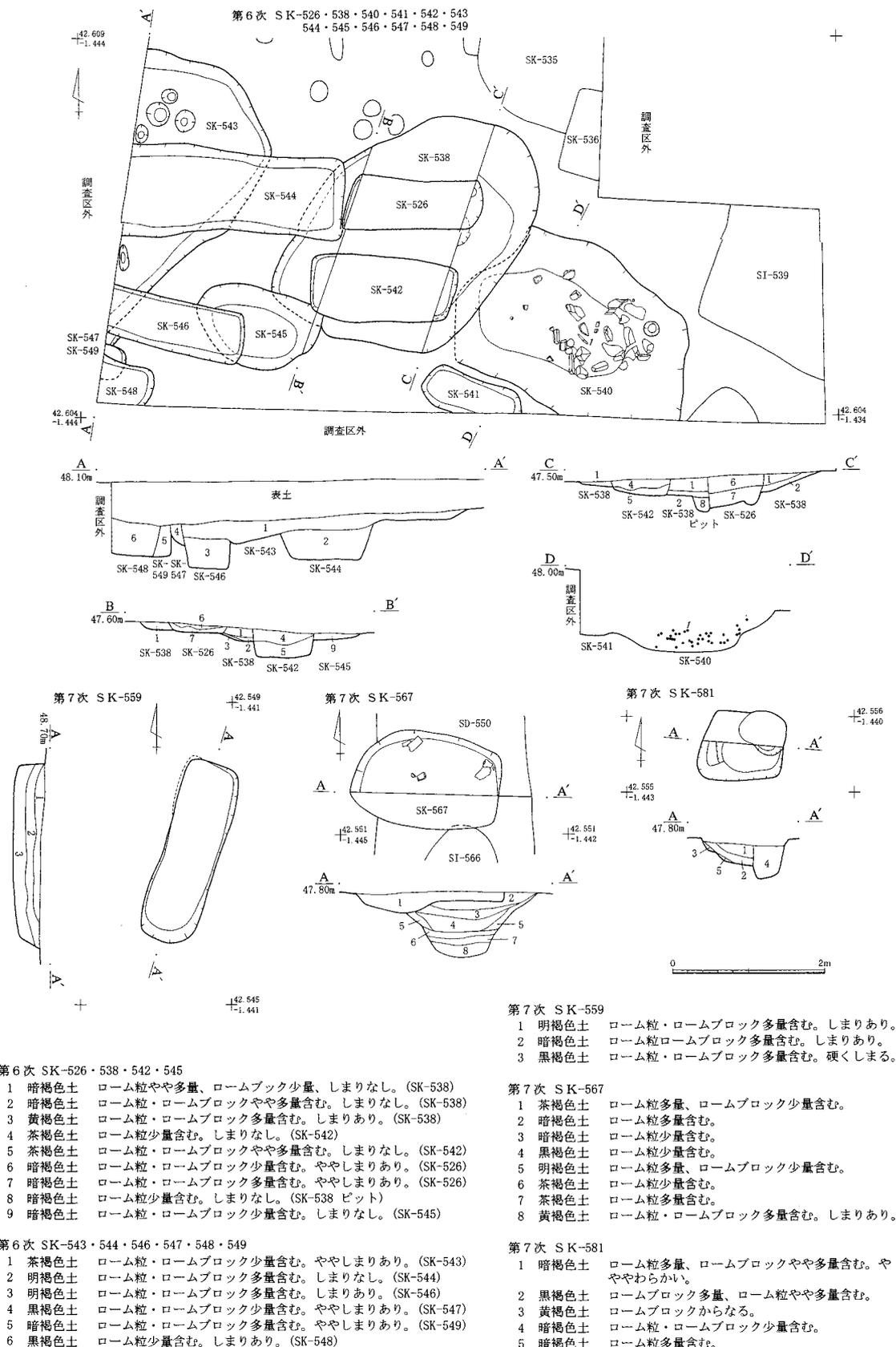
第35図 土坑実測図(1)



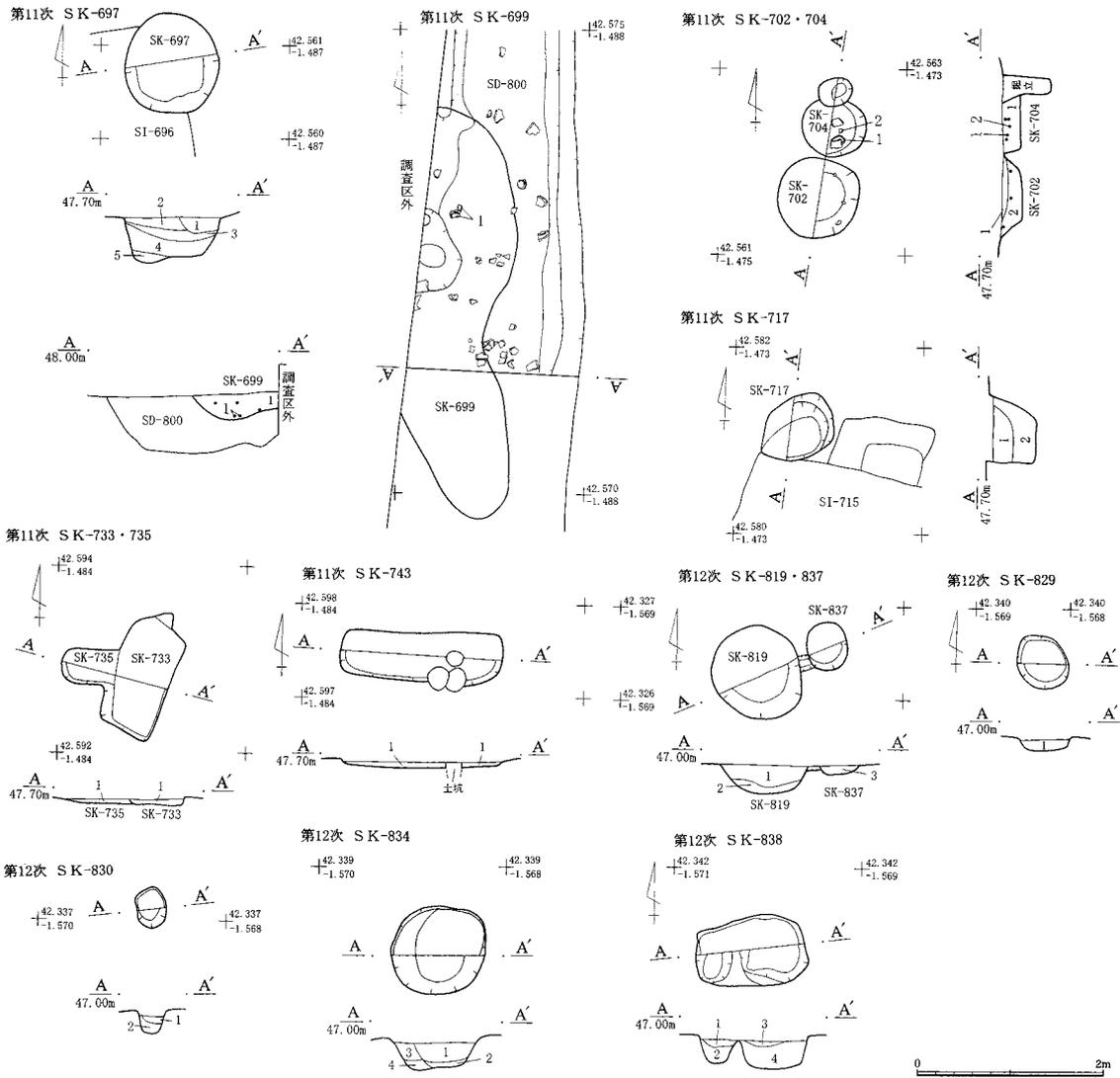
- 第3次 SK-387**
- 1 明褐色土 黒褐色土少量含む。しまりややあり。
- 第4次 SK-397**
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(小)多量含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒多量含む。
  - 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、黒褐色土を含む。
  - 5 黒褐色土 ローム粒多量含む。
  - 6 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
  - 7 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
  - 8 茶褐色土 ローム粒少量、黒褐色土を含む。
  - 9 茶褐色土 黒褐色土を含む。
- 第4次 SK-421**
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
  - 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
- SK-422**
- 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。
  - 5 黒褐色土 ロームブロック多量、ローム粒少量含む。
- 第4次 SK-427**
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒多量含む。
  - 3 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
- 第4次 SK-429**
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
  - 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(小)少量含む。
- 第4次 SK-433**
- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(小)多量含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
  - 3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(小)多量含む。
  - 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
  - 5 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック(小)多量含む。
  - 6 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(3層より少)少量含む。
  - 7 黒褐色土 ローム粒多量含む。
- 第4次 SK-461**
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒多量含む。
  - 3 茶褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。
- 第5次 SK-494**
- 1 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。(天井)
  - 2 明褐色土 ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 3 茶褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。
  - 4 明褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 5 黄褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 6 暗褐色土 ローム粒極少量含む。ややわらかい。
  - 7 明褐色土 ローム粒やや多量含む。しまりあり。
  - 8 茶褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 9 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 10 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。
  - 11 暗褐色土 ロームブロックやや多量、ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 12 黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。やわらかい。
  - 13 黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量含む。やわらかい。
  - 14 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。やわらかい。(壁崩落土)
  - 15 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 16 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。

第36図 土坑実測図(2)

第3章 発見された遺構



第37図 土坑実測図(3)



第11次 SK-697

- 1 灰褐色土 灰褐色粘土主体。暗褐色土多量、ローム粒微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。
- 3 黒暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物粒微量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(3層よりやや少)多量含む。
- 5 黄褐色土 ロームブロック主体。ローム粒・黒色土多量含む。

第11次 SK-699

- 1 暗茶褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ0.5-3cm大)やや多量含む。やや硬くしまる。

第11次 SK-702

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 ローム粒極多量、灰色粘土ブロック・焼土粒少量含む。しまりあり。

第11次 SK-704

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、焼土粒微量含む。しまりあり。

第11次 SK-717

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ1cm大)やや多量含む。ややしまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロックからなる。硬くしまる。(1・2層人為的埋め戻し)

第11次 SK-733

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。ややしまりあり。

第11次 SK-735

- 1 暗茶褐色土 ローム粒微量含む。しまりなし。

第11次 SK-743

- 1 暗茶褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。ややしまりあり。

第12次 SK-819・837

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりややなし。
- 2 明褐色土 ローム粒少量含む。しまりややあり。
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粘性あり。(SK-837)

第12次 SK-829

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

第12次 SK-830

- 1 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。粘性あり。

第12次 SK-834

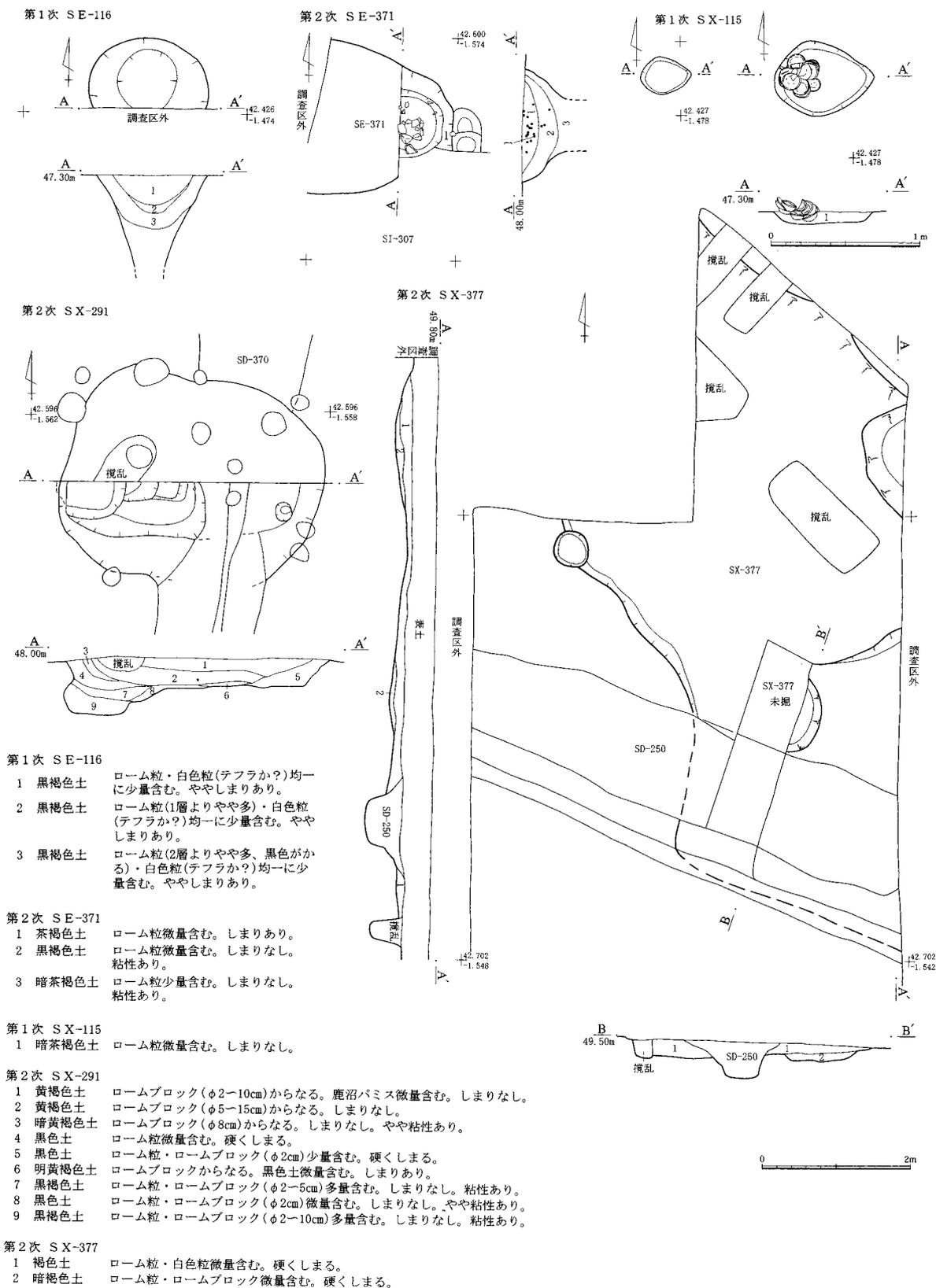
- 1 黒褐色土 ロームブロック(φ1cm)多量含む。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(φ3cm)少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。しまりあり。
- 4 明褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ1-2cm)多量含む。しまりあり。

第12次 SK-838

- 1 黒色土 ローム粒少量含む。やや粘性あり。
- 2 明褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。
- 3 黒色土 ローム粒少量含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多量含む。粘性あり。

第38図 土坑実測図(4)

第3章 発見された遺構



第39図 井戸跡・性格不明遺構実測図

## 第4章 発見された遺物

ここでは、遺構などから出土した瓦について、図面の提示と説明をしていく。瓦当文様や範傷・製作技法などで分類された瓦について、実年代を考定する際の共伴資料を提示する目的で、遺構から出た瓦の一部（瓦当文様や型押文など）を掲載した。瓦当文様や顎の形態分類については『下野国分尼寺跡』（栃木県教育委員会 1969年刊 以下、尼寺1969報告）で行っており、瓦当文様と製作技法・変遷などについては、『下野国分寺跡Ⅱ 瓦・本文編』（栃木県教育委員会 1997年刊、以下国分寺報告）で触れている。その後、『下野国分尼寺跡』（2011年発行 以下、尼寺2011報告）でも国分寺瓦の分類を踏襲して、尼寺で新たに確認した軒先瓦について、分類番号を追加した。ここでは、資料提示の目的に従い、瓦の編年を行っている国分寺報告の分類に依拠し、一部実測図の脇に分類・型押文番号を記載した。なお、型押文については、一覧表に示したので参照されたい。

### 第1節 瓦

#### （1）尼寺出土瓦の分類と特徴（第40～43図、第3表、図版一七～一九）

尼寺2011報告の瓦分類が現段階における国分寺・尼寺の共通分類であり、ここでは追加された瓦について説明する。

#### 鑑瓦1型式

外区外縁に線鋸歯文で、内縁に珠文を配する複弁八葉蓮華文の鑑瓦である。外縁は緩やかに立ち上がり、線鋸歯文は線が細い。珠文は鋸歯文の頂部に接して配する。内区には間弁がある。蓮子は1+8とみられ、内区の彫りは浅い。瓦当面裏側の溝に男瓦の端を差し込み接合する。瓦当側面の男瓦側は横方向に削りを施す。胎土に白色粒子の多い水道山瓦窯産を含む。

#### 鑑瓦13型式

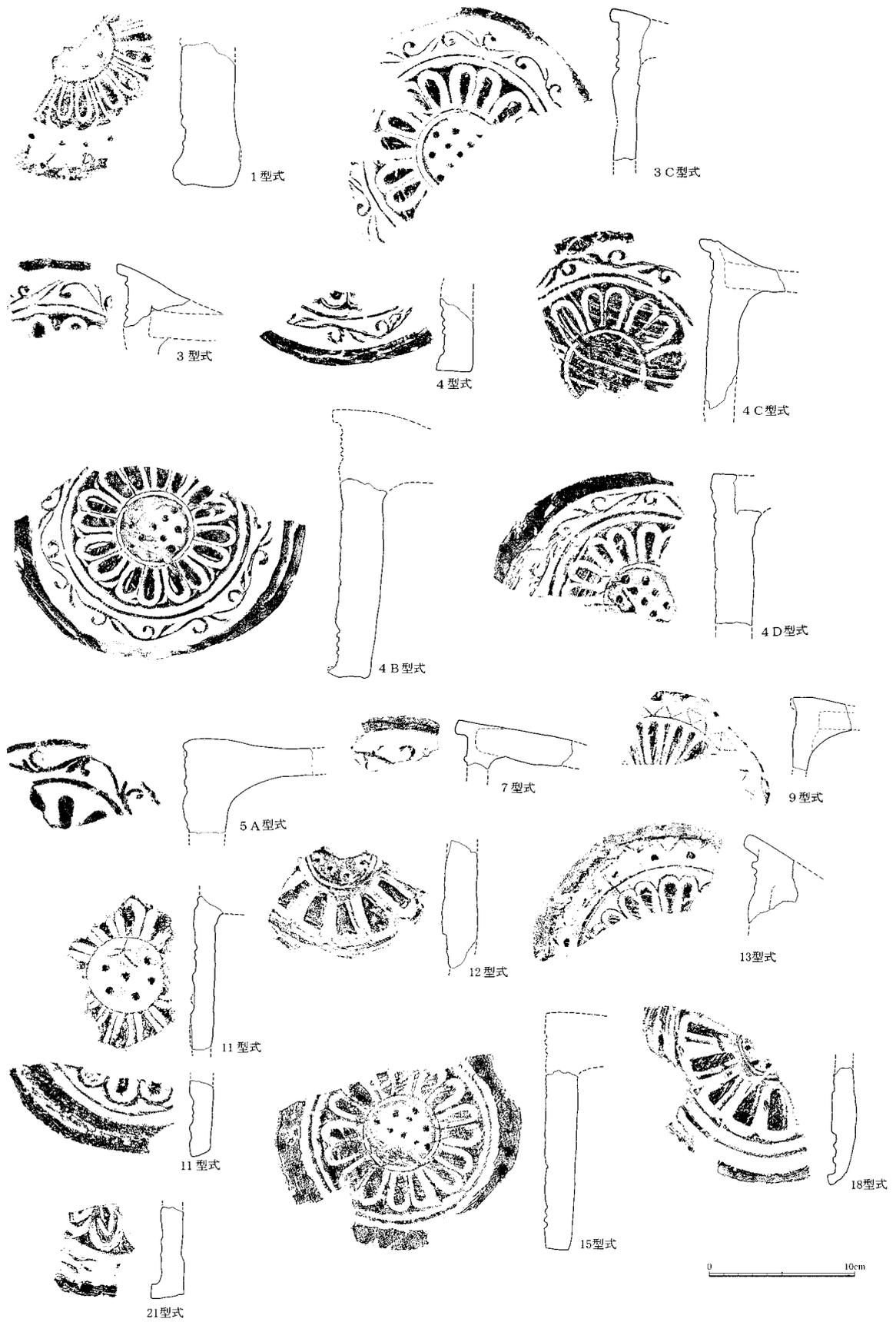
線鋸歯文縁複弁十葉蓮華文鑑瓦である。直立気味に立つ外区周縁に細い線鋸歯文を配し、珠文を内縁に施し、圏線で内区と画する。蓮弁は、ややふくよかであるが、間弁がない。糸切り痕が観察され、粘土塊から切った瓦当部を箆に詰めて造っている。男瓦との接合部外面には縦方向に削りを行う。胎土に灰色の礫を含む。胎土から三毳窯の産とみられ、和田窯の521型に当たる。下野国府5類の521型式、国分寺鑑瓦13型式に相当する。国府ではⅡ期、国分寺では瓦当厚が厚いことから1-1期に位置付ける。和田窯で、珠文線鋸歯文複弁八葉蓮華文鑑瓦と共に出土しており、8世紀中葉の所産と判断し、国分寺の年代に依る。

#### 鑑瓦18型式

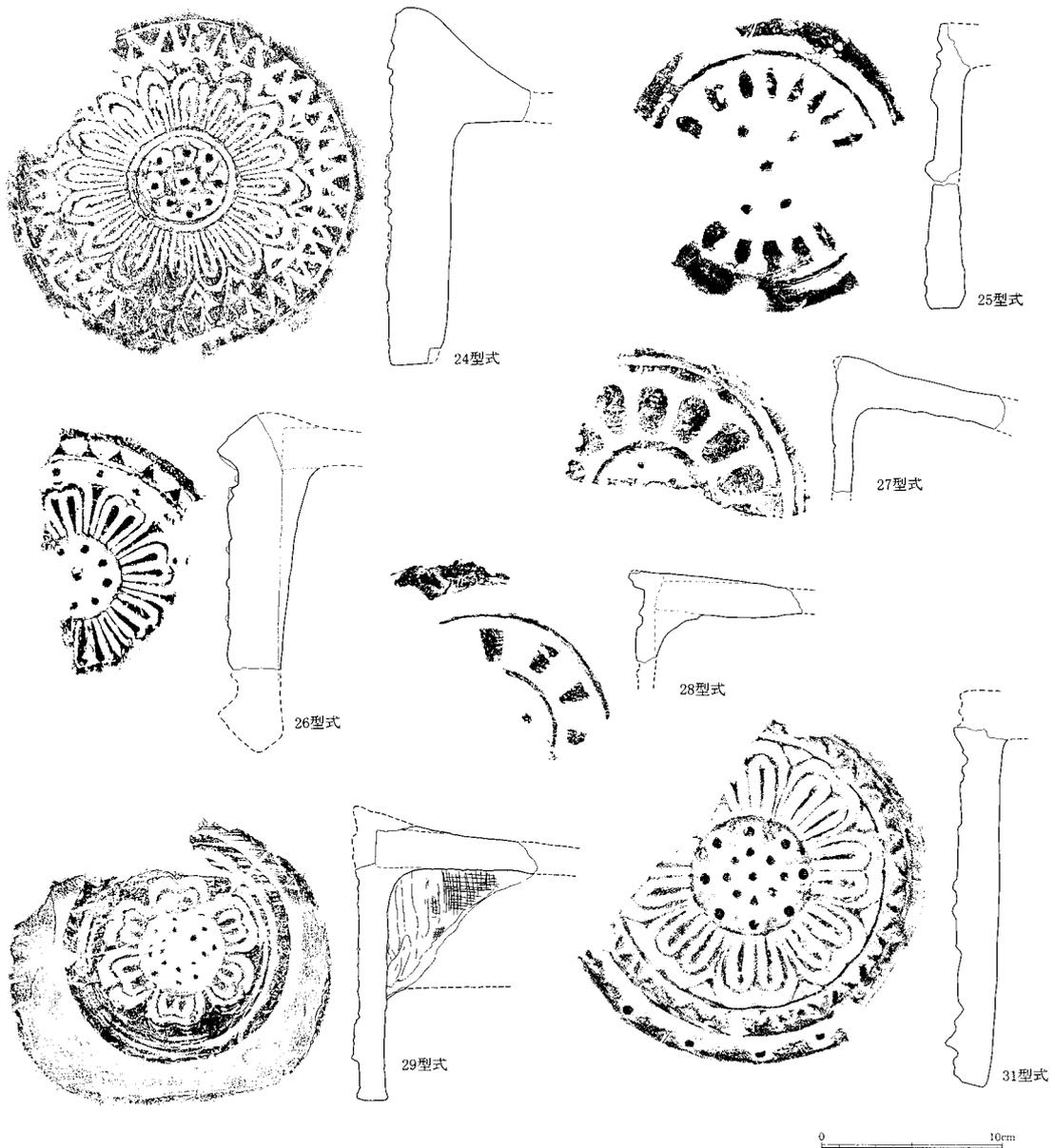
外区は重圏文で角形素弁蓮華文の瓦である。尼寺1969報告の軒丸瓦一二Aに当たる。中房の蓮子の配置は不揃いであり、蓮子は1+2+8であろう。外周に二重の圏線を巡らす。弁は低く、右側に段が付いている。尼寺1969報告の第10図6は範傷が進んでいる。瓦当厚は1.2cm程で薄い。胎土の特徴から三毳窯の産であり、生産遺跡はゼニゴ沢窯跡で確認されている。これと共に出土したゼニゴ沢窯1型式鑑瓦は下野国分寺2-1期（790年～9世紀第1四半期）に位置付けており（野代ほか1998）、本型式も併行するであろう。尼寺では南門と回廊から出土している。

#### 鑑瓦26型式

外区外縁が面鋸歯文で、内縁に珠文を配する複弁蓮華文の鑑瓦である。尼寺1969報告の軒丸瓦三で、下



第40図 瓦分類図(1)



第41図 鏡瓦分類図(2)

野薬師寺 118B 型式、上神主・茂原官衙遺跡の 1 類に当たる。胎土には白色粒子を多く含み、水道山窯産と考えられる。尼寺 1969 報告では、南門と僧房などから 4 点出ているが、今回回廊からも 1 点確認できた。第 2 次 S D -333 (尼寺 2011 報告の第 34 図)・第 10 次 S D -670 (築地西辺溝) から 1 点のみ出土した。上神主・茂原官衙遺跡では、大型礎石瓦葺建物に巡る溝 (S D 26) から本型式が出土しており、文字瓦から 740 ～ 757 年に位置付けられる。

**鏡瓦 28 型式**

圏線縁角形素弁蓮華文で、尼寺 1969 報告の軒丸瓦一二 B に当たる。瓦当厚は 1.2 cm 程で薄い。外区幅が狭いことから、男瓦部凸面側の補強粘土は少ない。尼寺 1969 報告では経蔵から出土しており、第 11 次 S I -680 から 1 点確認された。この住居は遺構変遷 III - 2 期、土器変遷の 4 期 (9 世紀第 4 四半期) になり、この瓦の下限になる。文様の退化からみてもこの時期になるであろう。胎土からみて三毘窯の生産瓦と判断

される。

#### 鏡瓦 29 型式

複弁六葉蓮華文で、尼寺 1969 報告の軒丸瓦八に当たる。中房が花卉よりも低くなっており、6 + 8 の蓮子である。弁は平坦で、文様面に糸切り痕が明瞭に残る。外区には二重圏線があるが、低くて外側の圏線は斜縁になっており、断面鋸状である。その外周は無文帯となっている。瓦当厚は 1.5 cm 程で薄い。瓦当面裏側に溝を付け、男瓦を詰め込んでいる。胎土から三毳窯の産と考えられるが、生産地では未確認の瓦である。金堂と回廊から計 6 点出土した。

#### 鏡瓦 31 型式

珠文線鋸歯文複弁八葉蓮華文で、尼寺 1969 報告の軒丸瓦七に当たる。珠文の外区外縁は表面がザラザラしている。尼寺 1969 報告では、金堂と講堂で出土したとあり、第 11 次 S D -330 でも出ている。生産窯は三毳の和田窯・下津原窯が挙げられ、寂光沢窯でも 1 点出土している。消費地では下野国府跡のⅡ期東西脇殿に用いられ、国府 321 型式で、8 世紀中葉になる。ただし、国府所用のこの瓦が国分寺から出土数が少ないことから、国分寺創建に先行するという見解もある（大橋 2001、93 頁）。

#### 宇瓦 1 型式

均整唐草文で、尼寺 1969 報告の軒平瓦三、下野薬師寺 203E 型式、上神主・茂原官衙遺跡の宇瓦 1 類に当たり、左第 3 単位の支葉の頭部が長方形になっている特徴がある。上神主・茂原官衙遺跡では大型礎石瓦葺建物（S B 01）から本型式が出土しており、「君子部」の文字瓦から 740 ~ 757 年に位置付けられる。尼寺 1969 報告では尼寺の南門・中門・金堂・鐘楼から出土している。

#### 宇瓦 14 型式

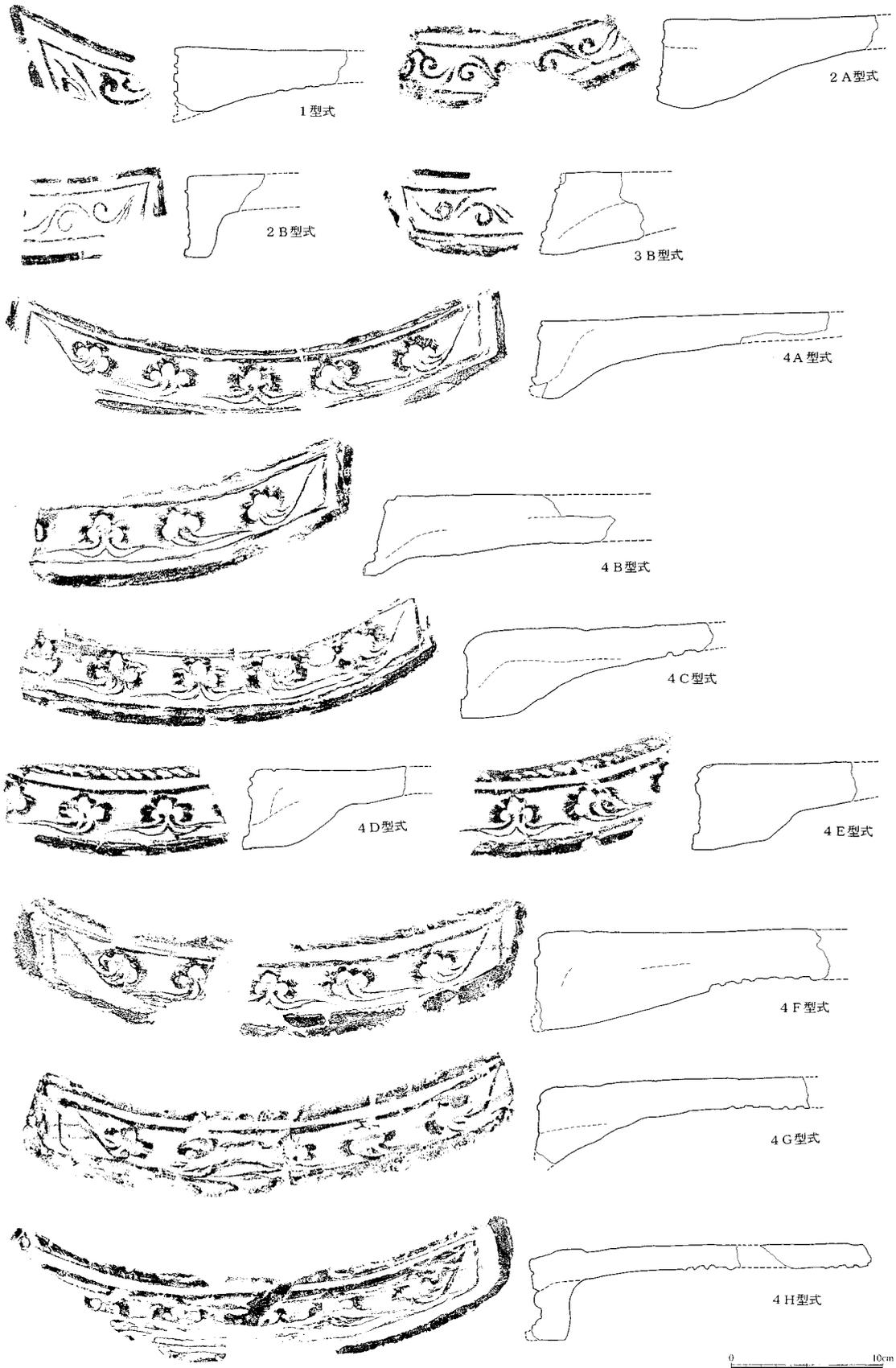
中心飾りがペンギン文様で、左右に唐草文がのびるが左右均整ではない。上下と脇の外区に珠文を配するが脇区では素文帯の幅が広い。顎はいずれも曲線顎で、製作技法では粘土の一枚板を折り曲げて瓦当面にするものと、女瓦部の凸面側に粘土を貼り付けて曲線顎を造る場合がある。型押文 62 と 91 が叩かれており、国分寺編年の 2 期にあたる。尼寺 1969 報告の軒平瓦七・八型式に当たるが、同一瓦当文様であった。三毳の鶴舞瓦窯の構築材に使われており、三毳窯の産である。

#### 宇瓦 15 型式

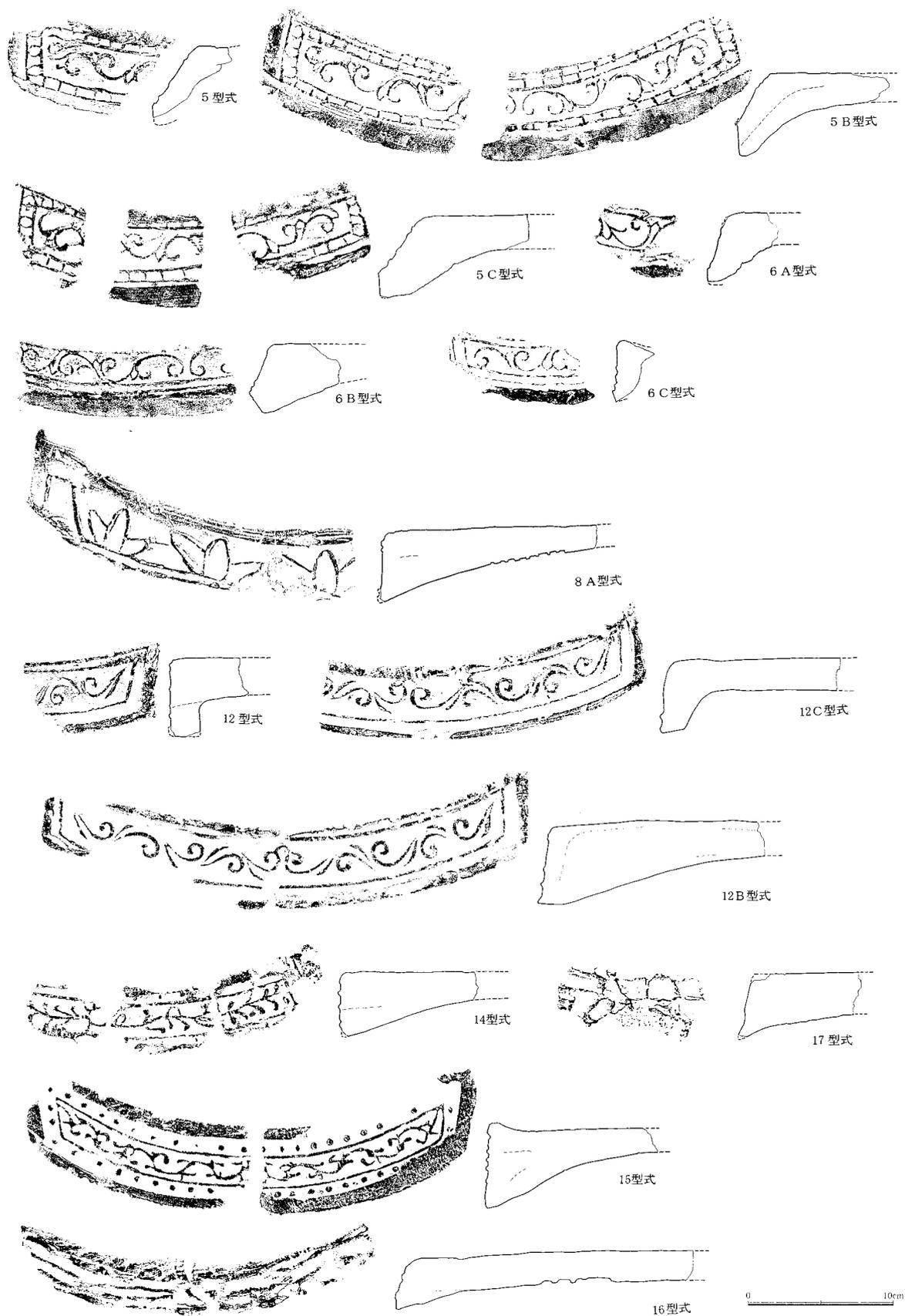
外区に珠文を配する均整唐草文である。中心飾りにペンギン文様があることから、宇瓦 14 型式の祖形になるであろう。顎は曲線顎で、女瓦に粘土板を貼り付けて造っている。女瓦部凸面は丁寧に撫で、削りが施されている。尼寺 1969 報告の軒平瓦四型式、薬師寺 205B 型式にあたる。真岡市中村遺跡第 8 次調査 2 号住居跡で 8 世紀中葉の竪穴住居跡から出土していることから、所産時期が判明する。西山窯で生産されており、茨城県新治廃寺所用瓦の系譜である。

#### 宇瓦 16 型式

瓦当面の上端には糸切り痕が残り、女瓦部から瓦当面上半が一体である。顎部は薄く粘土板を貼り付けて曲線顎とする。瓦当文様は 3 条の隆線が横走し、上下の隆線は外区の区画に相当するであろうが、途切れている。中央の隆線は波状に横走し、途切れて 4 本になっている。唐草文を意図した文様と考えられる。凹面の広端部側に削りなどは行わない。胎土に白色礫を多く含む。文字瓦は中央に「寺」Ⅷで叩き、これは第 4 次 S K -461 から出土しており、9 世紀後半が下限になる。同じ型押文字が鏡瓦 25 型式に叩かれおり、回廊から出土していることから、時期的に併行し、組み合わせる可能性が高い。胎土からみて三毳窯の産と考えられるが、生産窯は不明である。



第 42 图 宇瓦分類图 (1)



第43図 宇瓦分類図(2)

第3表 軒先瓦分類表

型式	瓦当文様	時期	1969年 尼寺分類	型式	瓦当文様	時期	1969年 尼寺分類
鑑瓦 1	線鋸齒文縁複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 4	鑑瓦 31	珠文線鋸齒文縁複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 7
鑑瓦 2A	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 1	均整唐草文	1-1	軒平瓦 3
鑑瓦 2B	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 2A	均整唐草文	1-1	
鑑瓦 3A	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 2B	均整唐草文	1-2	
鑑瓦 3B	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 3A	均整唐草文	1-1	軒平瓦 2-D
鑑瓦 3C	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-2		宇瓦 3B	均整唐草文	1-2	
鑑瓦 4A	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 3C	均整唐草文	1-2	軒平瓦 2-A
鑑瓦 4B	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-2前	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4A	飛雲文	1-1	
鑑瓦 4C	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-2後	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4B	飛雲文	1-2	軒平瓦 1-A
鑑瓦 4D	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	2-1	軒丸瓦 1-A~D	宇瓦 4C	飛雲文	1-2	
鑑瓦 5A	圈唐草文縁素弁十一葉蓮華文	3-1		宇瓦 4D	飛雲文	1-2	
鑑瓦 5B	圈唐草文縁素弁十一葉蓮華文	3-2	軒丸瓦 10	宇瓦 4E	飛雲文	1-2	
鑑瓦 6	圈唐草文縁素弁十葉蓮華文	3-1		宇瓦 4F	飛雲文	1-2	
鑑瓦 7	圈唐草文縁単弁十二葉蓮華文	2-1		宇瓦 4G	飛雲文	2-1	軒平瓦 1-C
鑑瓦 8	圈唐草文縁素弁八葉蓮華文	3-2		宇瓦 4H	飛雲文	2-2	軒平瓦 1-D
鑑瓦 9	線鋸齒文縁単弁十六葉蓮華文	1-1		宇瓦 5A	均整唐草文	3-1	
鑑瓦 10	線鋸齒文縁単弁十六葉蓮華文	2		宇瓦 5B	均整唐草文	3-2	軒平瓦 6
鑑瓦 11	圈線縁単弁十四葉蓮華文	2-2	軒丸瓦 5	宇瓦 5C	均整唐草文	3-2	軒平瓦 6
鑑瓦 12	素弁十四葉蓮華文	1-2・ 2-1		宇瓦 6A	均整唐草文	3-1	
鑑瓦 13	線鋸齒文縁複弁十葉蓮華文	1-1		宇瓦 6B	均整唐草文	3-2	
鑑瓦 14	単弁蓮花文	2		宇瓦 6C	均整唐草文	3-2	
鑑瓦 15	圈線縁複弁八葉蓮華文	2	軒丸瓦 2	宇瓦 7	均整唐草文	1-1	
鑑瓦 16	唐草文縁単弁蓮花文	2		宇瓦 8A	飛雲文	1-2・ 2-1	軒平瓦 5
鑑瓦 17	単弁十五葉蓮華文	2		宇瓦 8B	飛雲文		
鑑瓦 18	圈線縁単弁蓮華文	2-1	軒丸瓦 12-A	宇瓦 8C	飛雲文	2	
鑑瓦 19	圈線縁単弁蓮花文	2-2		宇瓦 9	崩れた唐草文	2-1	
鑑瓦 20	圈唐草文縁複弁八葉蓮華文	1-1		宇瓦 10	波状文		
鑑瓦 21	唐草文縁単弁十四葉蓮華文	2-1	軒丸瓦 9	宇瓦 11	陰刻飛雲文	1-2・ 2-1	
鑑瓦 22	圈線縁単弁蓮花文	2-2		宇瓦 12A	均整唐草文	1-1	
鑑瓦 23	単弁十四葉蓮花文	2	外区なし	宇瓦 12B	均整唐草文	1-2	
鑑瓦 24	単弁十六葉蓮華文	1-2	軒丸瓦 6	宇瓦 12C	均整唐草文	1-2後	
鑑瓦 25	圈線縁素弁蓮華文	3	軒丸瓦 11-B	宇瓦 13	均整唐草文	1-1	創建期
鑑瓦 26	面鋸齒文縁複弁八葉蓮華文	1-1	軒丸瓦 3	宇瓦 14	唐草文	2	軒平瓦 7・8
鑑瓦 27	圈線縁素弁蓮華文	3	軒丸瓦 11-A	宇瓦 15	珠文縁均整唐草文	1	軒平瓦 4
鑑瓦 28	圈線縁角形素弁蓮華文	3-2	軒丸瓦 12-B	宇瓦 16	唐草文か	3-1	
鑑瓦 29	複弁六葉蓮華文		軒丸瓦 8	宇瓦 17	唐草文か	3-2	
鑑瓦 30	唐草文縁単弁蓮華文		軒丸瓦 9?				

### 宇瓦 17 型式

瓦当面の中位に横位の線があり、その上下に弧状や半円形の文様が付く。左端部は斜め上方に跳ね上がっている。唐草文が退化し、反転が少なくなった文様である。曲線顎で、女瓦部の粘土板に断面三角形の粘土を貼り足している。三毳の八幡2号窯で、鏡瓦5 B型式がともに出土している。鏡瓦の時期によって本型式が3-2期の所産であることがわかる。

#### (2) 遺構と出土瓦

各調査区では主要堂宇に葺かれた瓦が大量に出土した。以下、竪穴住居跡出土とそれ以外に分けて説明する。その後に、瓦の説明などを行う。

##### ① 竪穴住居跡出土瓦 (第44～65図、図版二〇)

主に寺院地で発見された竪穴住居から出た鏡瓦・宇瓦で、図を提示した瓦の分類型式は以下のとおりである。また、共伴した土器・陶器の時期を示した。

第1次S I -121- 3は宇瓦5 B型式、第2次S I -241- 3は宇瓦12 B型式で、金堂出土品と接合した。第2次S I -325- 1は宇瓦15型式、第2次S I -378- 1は宇瓦12 C型式、第4次S I -436- 6は鏡瓦25型式、第10次S I -674- 3は宇瓦5 B型式、第11次S I -680- 3は鏡瓦28型式、第11次S I -690- 3は鏡瓦24型式、第11次S I -696- 1は宇瓦5 B型式、第11次S I -698- 3は鏡瓦4 D型式、第11次S I -714- 3は宇瓦4 H型式、第14次S I -849- 1は宇瓦5 B型式、第14次S I -844- 4は宇瓦6型式である。

鏡瓦25型式は、第4次S I -436において三毳大芝原窯B地点段階の須恵器と灰釉陶器黒笹90窯式②と伴っており、9世紀後半になる。第11次S I -680から出た鏡瓦28型式は、灰釉陶器美濃光ヶ丘1号窯式や猿投黒笹90号窯式を伴っており、9世紀後半になるであろう。

文字瓦は、「内」(第1次S I -163)、「川」(第2次S I -307)、「安」(第2次S I -307)、「矢」(第1次S I -114・第4次S I -406)、「那」(第7次S I -588)、「卩」(第5次S I -500)、「田」(第2次S I -335)、「国分寺」(第5次S I -496・第14次S I -849)、「寺」(第2次S I -325)、「国分寺瓦」(第1次S I -125)などである。

国分寺銘の型押文については、従来から三毳鶴舞瓦窯で出土していることから9世紀の所産とされてきたが、尼寺でもS I -496で国分寺報告の分類I Bが、9世紀第3四半期になる。S I -849では底径6～7 cmの土師器坏と共伴しており、9世紀後半になるであろう。国分寺瓦はS I -125において灰釉陶器美濃光ヶ丘1号窯式や底径6 cm程の土師器坏と共伴しており9世紀後半になるであろう。

遺構と瓦の関係をみる。第2次S I -368は、数少ない尼寺創建期の竪穴建物である。ここから出た女瓦は型押文251と桶巻作り、短縄叩きB2である。短縄叩きB2は側縁を篋削りしており、凸面に離れ砂はなく、西山瓦窯の胎土に類似する。桶巻作り女瓦は国分寺で主に金堂地区で確認されているが、尼寺でも少数みられた。S I -368のほかに、第11次S I -680の5、第11次S I -690の1、第11次S I -751の2が桶巻作りで、いずれも水道山産である。S I -751の瓦は型押文224である。S I -680・690の瓦は型押文231Bである。このように、住居跡からも数少ないながらも、水道山産や西山窯に類した瓦が発見され、その時期も土器と相応する事例が確認できた。

##### ② 竪穴住居跡以外出土瓦 (第66～73図、図版二〇～二三)

鏡瓦では、第1次S D -112- 1は外区に線鋸文と珠文のある尼寺では最も古い1型式であろう。2は外区唐草文が繋がる4 B型式であろう。5の鬼瓦は国分寺分類の2型式に相当し、歯牙と髭を表現する。しかし、髭の数が異なっており、別な範である。第1次S D -154- 1は複弁の蓮華文で珠文があることから1型式に

なる。5は鬼瓦の縦の隆帯と珠文を残す破片である。第1次調査区遺構外出土10の男瓦は凹面に布目がなくて撫でを施し、凸面に糸切り痕を残す。第2次SD-333-1は5B型式で、溝内からは9世紀後半の土器も出た。第2次SX-246-1の宇瓦は12B型式で、型押文321で叩く。第2次調査区遺構外-1の鑑瓦は26型式である。第4次SK-461の文字瓦は「寺」とみられ、第4次調査区遺構外-3も同じ型押文であろう。第7次SK-570-1の鑑瓦は4D型式、2は4C型式である。第8次SD-610-1の宇瓦は15型式の均整唐草文である。第9次SD-653-1の宇瓦は2B型式とみられ、寺院地西辺溝から出て、溝からは9世紀前半頃の土器が出ている。第10次SD-670B-1の鑑瓦は26型式で、水道山窯産である。3の飛雲文は宇瓦4G型式になる。第11次SD-330-1の鑑瓦は4C型式、2の飛雲文字瓦は4G型式である。この溝からは8世紀後半から9世紀中葉の遺物が出ている。第11次SD-682-1の宇瓦は14型式で、この溝からは9世紀後半の土器が出ている。第11次SK-695-2の宇瓦は4G型式で、第11次SD-804-1の宇瓦は4H型式になり、9世紀後半の陶器と共に出土している。南門の女瓦(第12次SA-820-1)は押印IVであり、東柱根石の部分から出た。

次に文字瓦について概観する。篋書き文字瓦は、第1次SD-112B-4と6、第2次SD-330-1と333-2が「内」、第1次SD-112B-7とSD-154-7とSK-166-2とSD-113-1、第2次SK-339-1、第9次SD-656-2、第10次SD-670B-2、第11次SD-800-1が「那」である。第1次SD-153-1とSD-154-8、第11次SK-695-1が「田」である。第1次SK-168-1が「可」、第1次SD-201-1が「川」である。第11次SD-800-2、第12次SD-610B-1が「塩」、第2次SD-250-1が「安田後」である。

このうち、SD-112B-4と6の「内」では、6は横画が右上がりであり、4と異筆であろう。SD-330-1とSD-112B-6は、第2画の横画から縦画が鋭角に折れており、類似している。

押印文字のうち郡名では、「田」が第1次遺構外-8と第7次遺構外-1、「安」が第2次SD-292-1、「那」(「那瓦」の那)が第10次SD-671-1、「安宗」が第12次SD-826-1である。第4次遺構外-4は縄叩き後に「足」を押印する。

寺に関わる文字で、「国分寺」は第1次調査遺構外-7と第7次SD-140-1、「国分寺瓦」が第11次SB-700-1、型押文に「寺」を組み合わせたものが第1次SD-154-6とSD-195-1、第2次SD-36-1とSD-334-1とSK-339-2、第6次SK-540-1である。これらは、僧寺では報告がなく、尼寺伽藍地からも出土している。国分寺報告ではこの型押文の「寺」IVを彫り直したものとしており、この瓦は胎土から三毳産である。

第4次SK-461-1の型押文の文字瓦は、国分寺における型押文字「寺」のIIかIVに類しており、寺と読める。

### ③ 伽藍地出土瓦 (第74～94図、第4～6表、図版二三)

伽藍地から出た瓦については、尼寺1969年報告で瓦当文様の分類と各建物からの出土数、及び文字瓦が掲載されている。ここでは、その後の瓦の編年の深化によって、建物に葺かれた時期が判明するために、建物跡から出た鑑瓦・宇瓦について報告を行う。説明は、土器と共伴関係が不明なため、瓦の概観とする。

金堂出土瓦で、最も古い瓦は1-1期に位置付けられる1の鑑瓦であるが、胎土に白色粒子が少なく、水道山窯産とは断定できない。7は回廊出土63～65の無文の外区幅が広がったものである。飛雲文の4型式は金堂の宇瓦で最も出土数が多く確認された。女瓦部凸面は格子叩きが多くみられるが、9・14は縄叩きであった。4B型式では凹面広端部を幅1cm程削り調整するのみのものが多いが、14では削り調整は施されていない。4D・E・F・G・H型式でも基本的に凹面広端部の削り調整は見られず、17のみに

幅1 cm程の削りが確認された。これに対して12型式の調整は丁寧である。29は凸面に縄叩き痕がみられ、24・27～31の本型式の凸面広端部側は縦方向に丁寧に削りを行っている。凹面の広端部側でも横方向に幅広の削り・撫でを加えている。33は15型式で、広端部側の凹面は横方向、凸面は縦方向に削りを加える。

回廊の鑑瓦は48・60が面鋸歯文に珠文のある26型式で、胎土から水道山産であろう。50は数少ない3C型式の鑑瓦と判断される。53の4D型式の裏面には糸切り痕が観察でき、瓦当面の粘土を円柱状にして糸切りしたことが明らかである。宇瓦では66が2A型式で、格子叩きは型押文231Cであるが、胎土の特徴から水道山窯産と判断される。67は3B型式で凹面広端部は横方向に削る。飛雲文字瓦は金堂と同じく主体となる軒先瓦であり、4B型式の68・70と4G型式の81が凸面縄叩きである。4B型式では凹面広端部に削りを行わないが、72のみは幅6 cm程の撫でを加えている。71の叩き型押文は斜格子で稀有な事例である。胎土に白色粒子やチャートを含み、三毳窯産の可能性もある。4C型式の76は凹面広端部を幅5 cm程削るが、4F型式では削りがみられない。4G型式で81と90で削りや撫でを施しているが、90は瓦当面に及ぶ。4H型式は10点のうち87・89・93の凹面広端部に調整がされている。

5型式は凸面縄叩きのもとの無文叩きがあり、いずれも離れ砂が付いている。無文叩きには98に格子叩きがなされ、105では広端部から顎裏に縦方向削りを行っているが、調整を行う瓦は稀である。113は6C型の一枚成形で折り曲げた瓦当面に糸切り痕が及んでいる。114～116は12型式で、116は凹面広端部を丁寧に撫でている。117・118・120は15型式で、凸面は丁寧に削りを行い、凹面広端部を狭く削る。14型式は複数出土し、ペンギン状の中心飾りから左右に唐草文がのびている。中心飾りの左側では支葉との分岐に半環状文がないが、右側には複数確認でき、左右均整ではない。125は1点のみ発見された宇瓦型式である。型押文は変形で、「寺」を陽刻する。同じ型押文が鑑瓦25型式に叩かれている。126は8A型式で、瓦当面にも糸切り痕が観察されることから、粘土一枚板を折り曲げて作ったことがわかる。

中門出土の瓦で最も古いのは、43の鑑瓦で、瓦当部・男瓦部の接合後に粘土を厚く貼っている。南門出土の41・42の宇瓦顎部裏面は削りが施されているが、凹面に調整はない。

経蔵出土で最も古いのは、133の宇瓦1型式である。凹面の広端部に撫でを加えている。4型式鑑瓦は範傷が進んだ4C・D型式である。宇瓦2型式の凹面広端部はいずれも横方向に撫でが観察される。

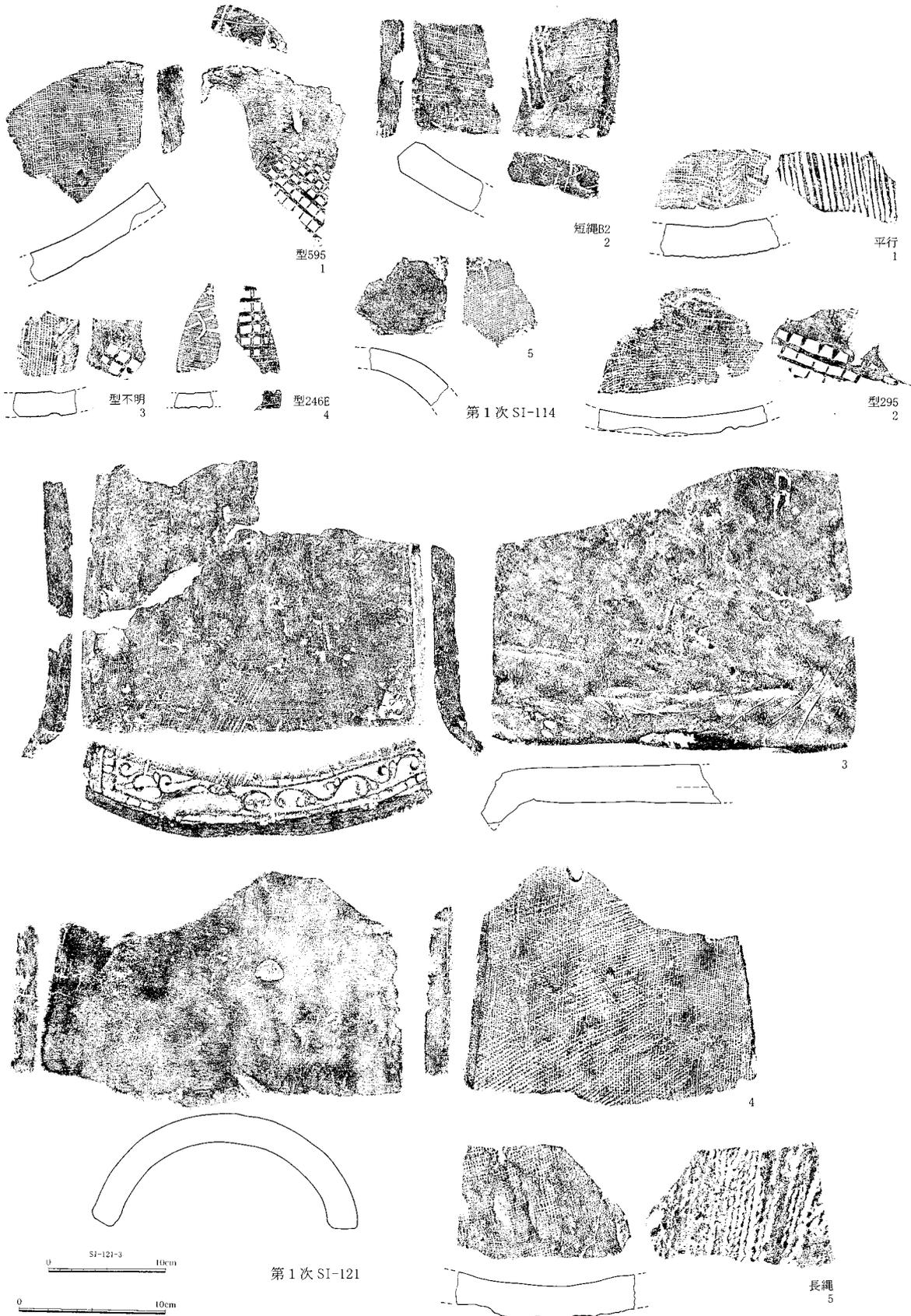
鐘楼でも1-1期の瓦が確認され、141は宇瓦1型式で、内区上端が残る。これに次ぐのが139の宇瓦4B型式で、粘土質の胎土で、淡灰黄色を呈している。新しい瓦は宇瓦4H式に及んでいる。

僧房出土瓦では、1-1期には146の宇瓦が確認できた。この瓦当面には範傷がなく、この範の均整唐草文でも初期のものであろう。遺存する凸面は全面丁寧に削っており、広く朱が付いている。次の時期は鑑瓦4B・宇瓦4B型式である。147は凸面を縄叩きで締めている。宇瓦4G型式では凹面の広端部に削りや撫では行っていない。155は5型式の中でも瓦当面左端に範傷が進行しているが、ここでは5B型式としておく。同様に傷が進んだ資料に伽藍地出土97があり、この範の最後出であろう。しかし、顎面裏の技法は5B型式に相当し、今後段階設定の再検討の資料となる。

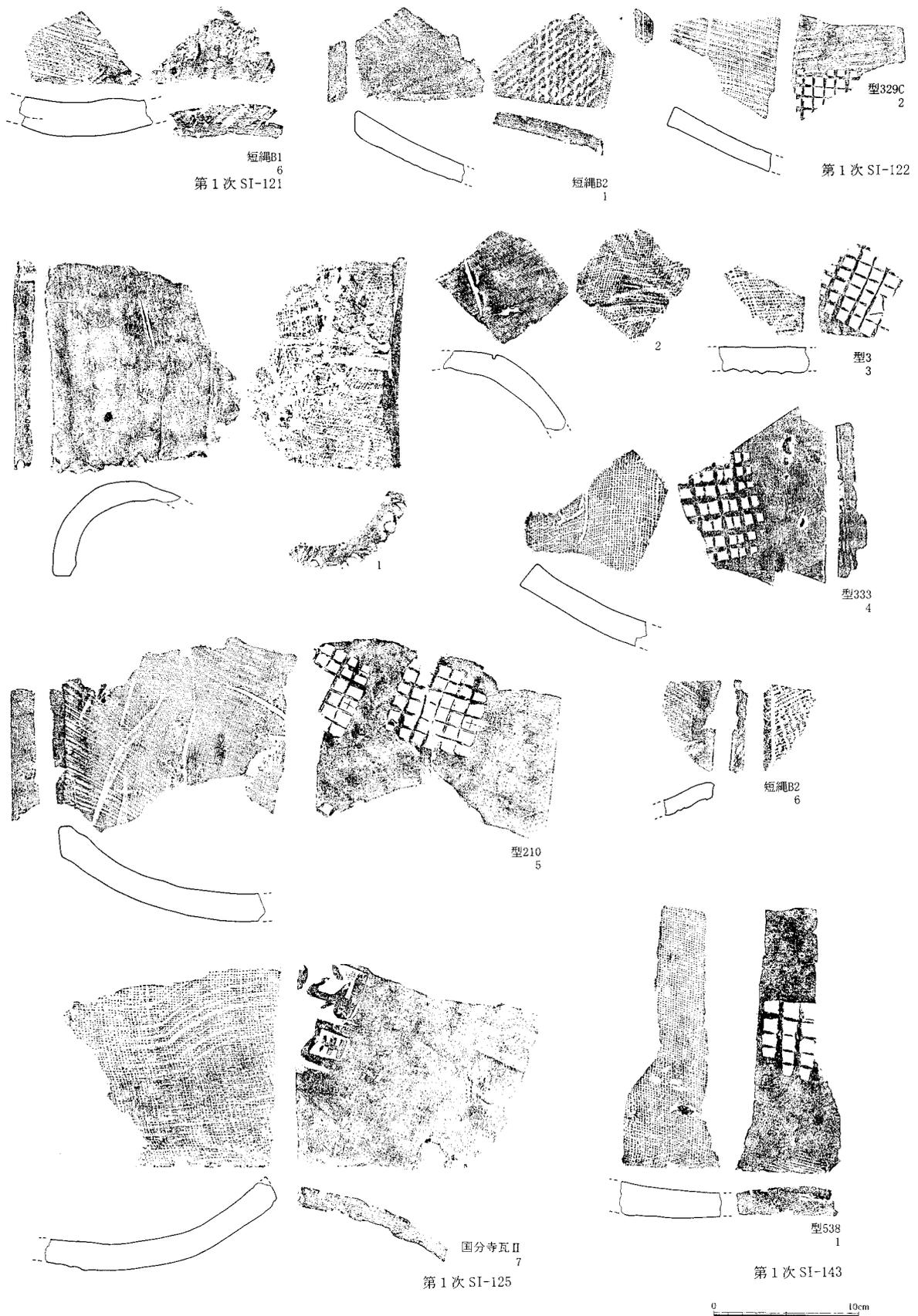
顎から女瓦部凸面との境に朱が確認できる宇瓦は、金堂では15・18・19・20・30、廻廊では115・126、鐘楼では141、僧房では146である。時期的には1-1期から2-2期の間の宇瓦に朱が確認できた。朱を塗布する範囲は、顎裏のみの瓦が多くて、女瓦部に至るものは少なかった。18は、朱が型押文の中位まで及び、126は瓦当面から10 cm程まで塗っていた。

#### ④ 創建期の女瓦について (第95～97図)

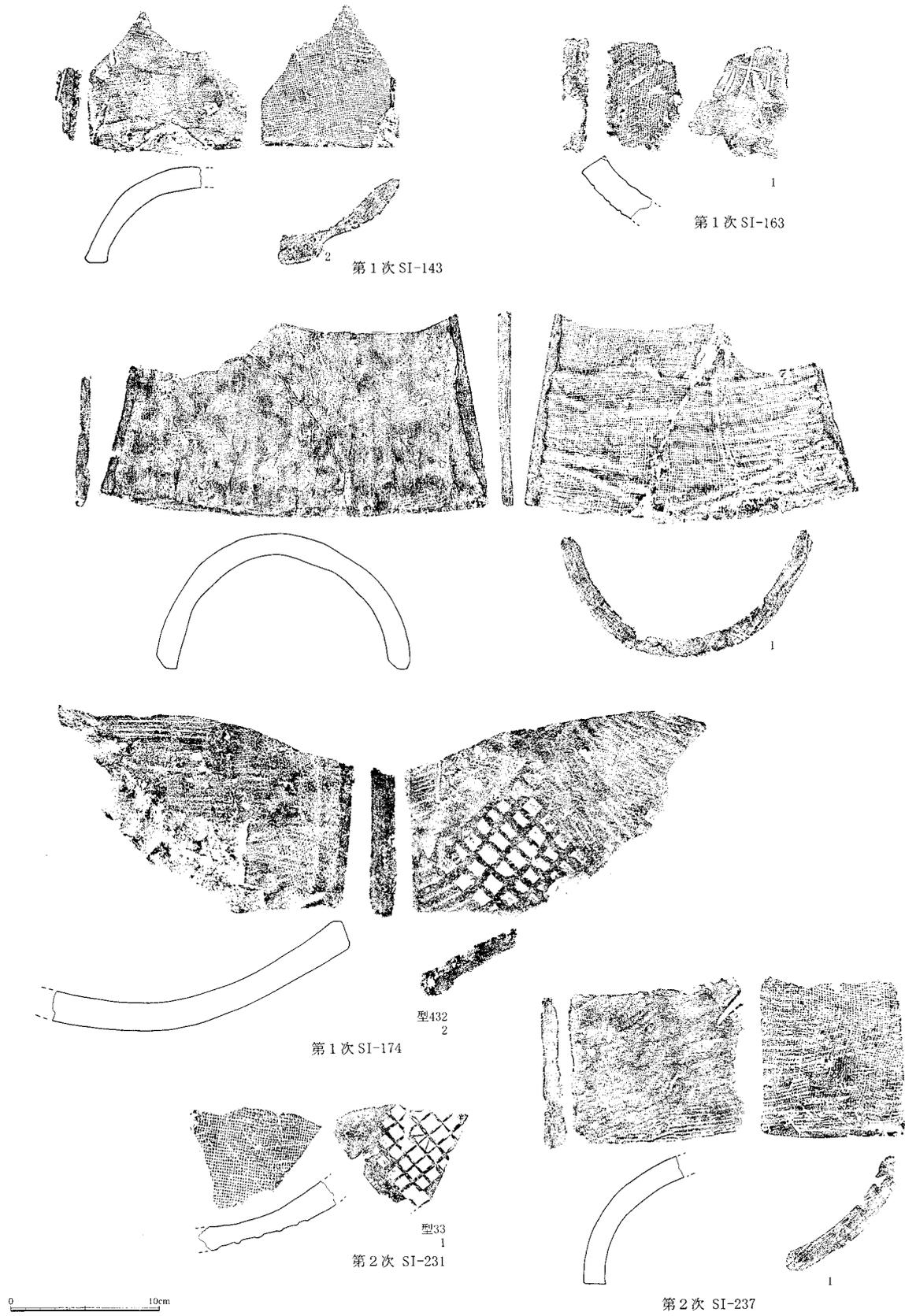
国分尼寺の主要堂宇の建立については、国分僧寺よりも遅れることが指摘されている(大橋1997)。しかし、



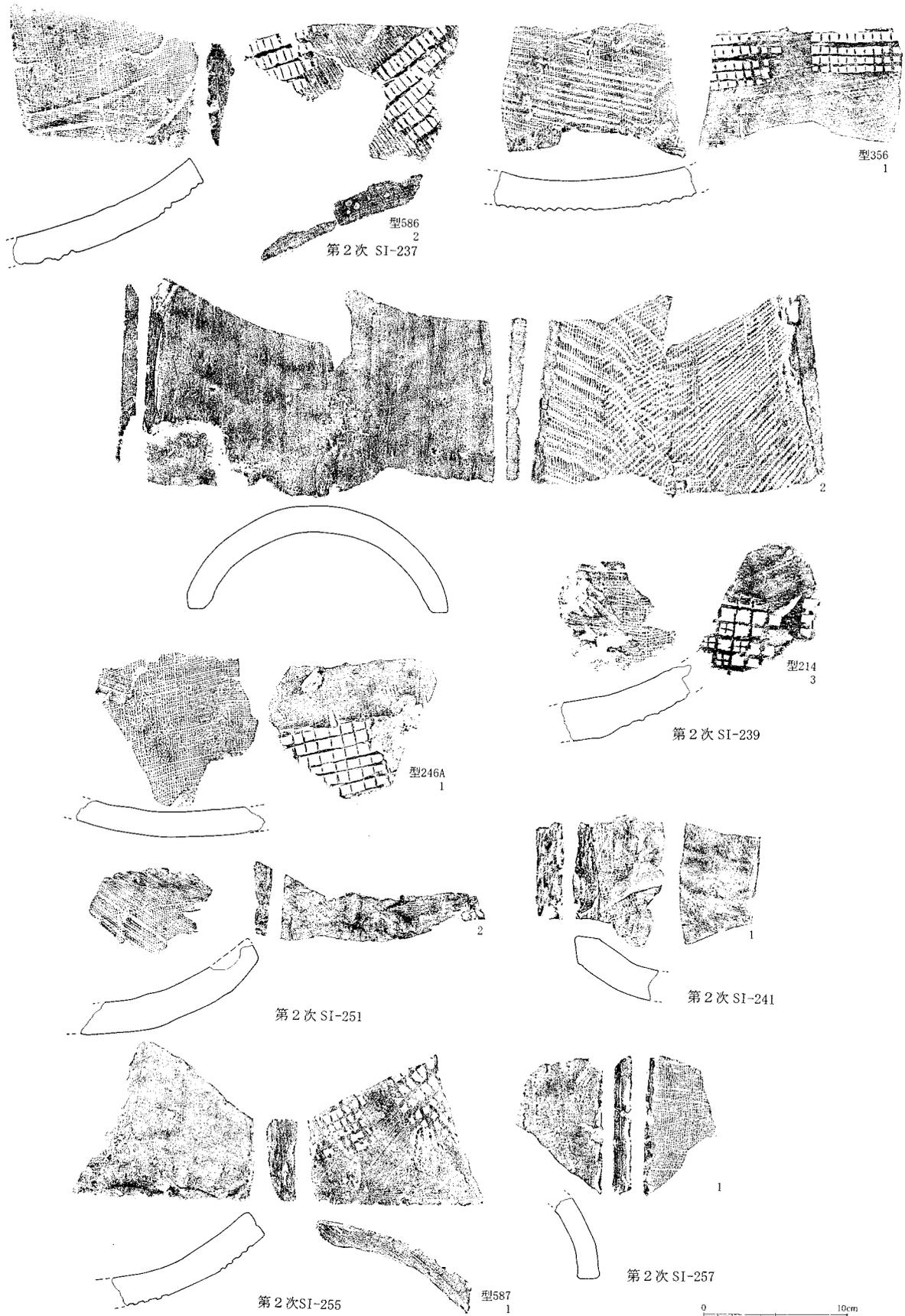
第44圖 瓦実測図(1) — 一竪穴住居跡出土(1)~(22) —



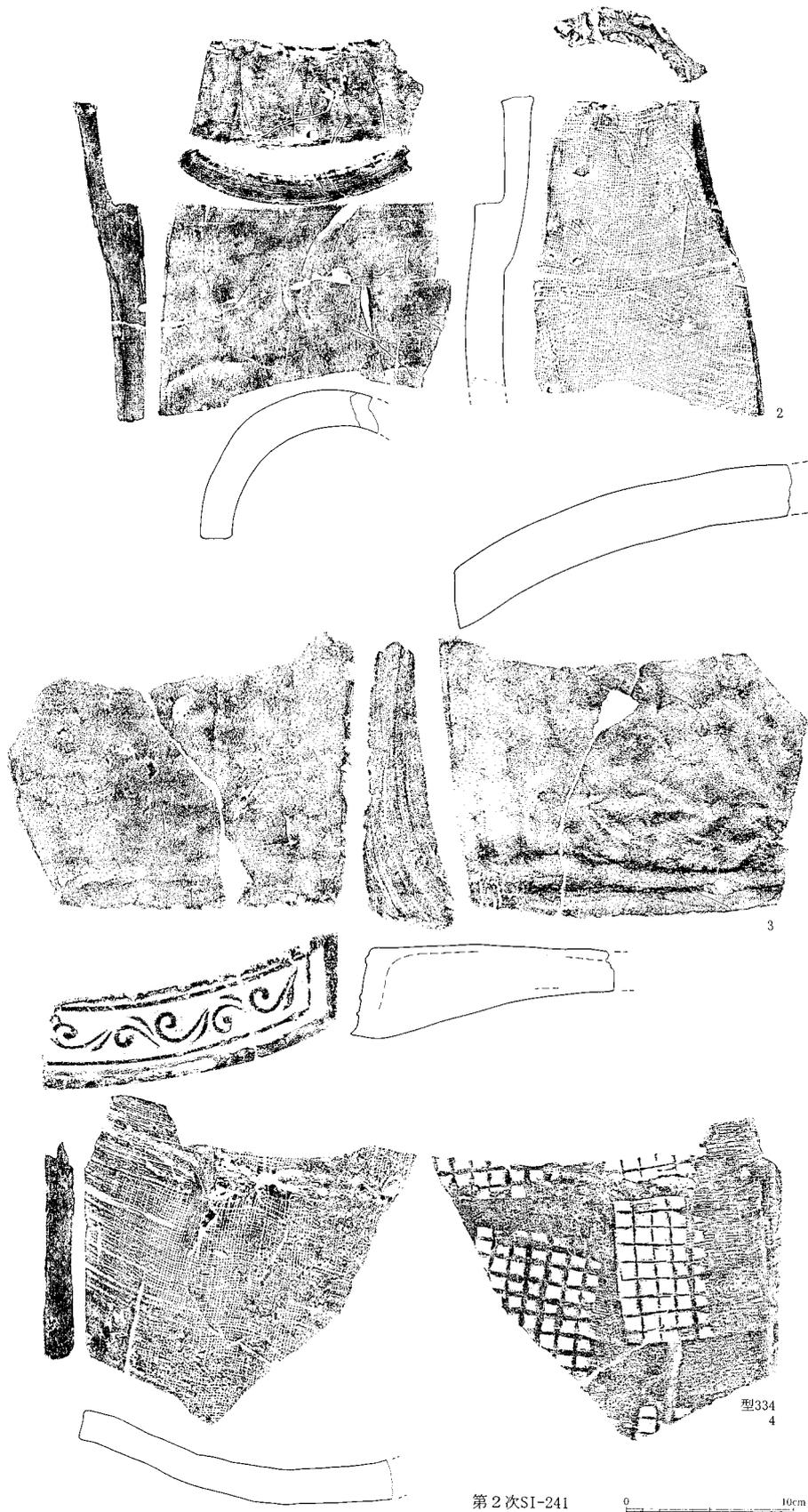
第45図 瓦実測図(2)



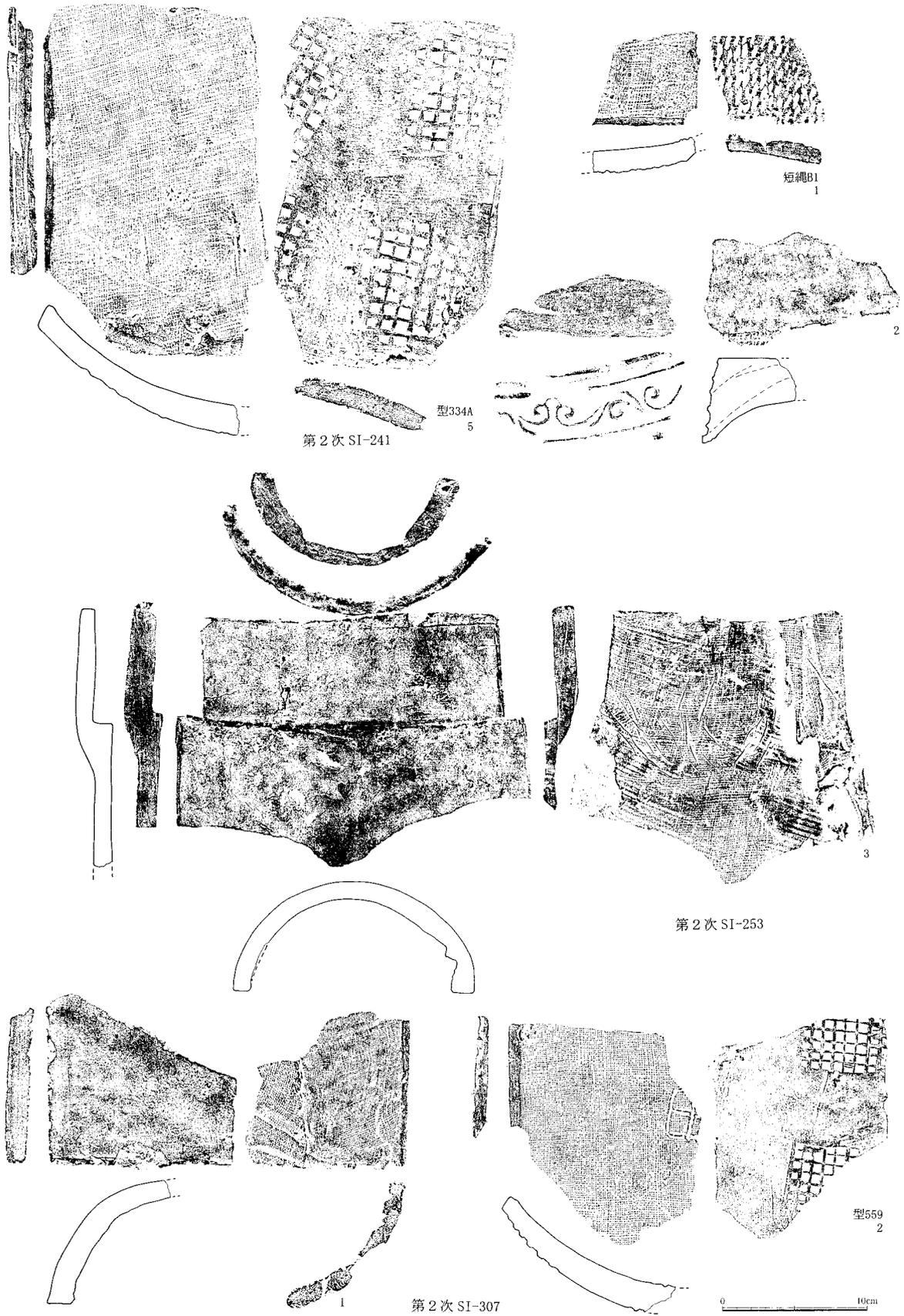
第46図 瓦実測図(3)



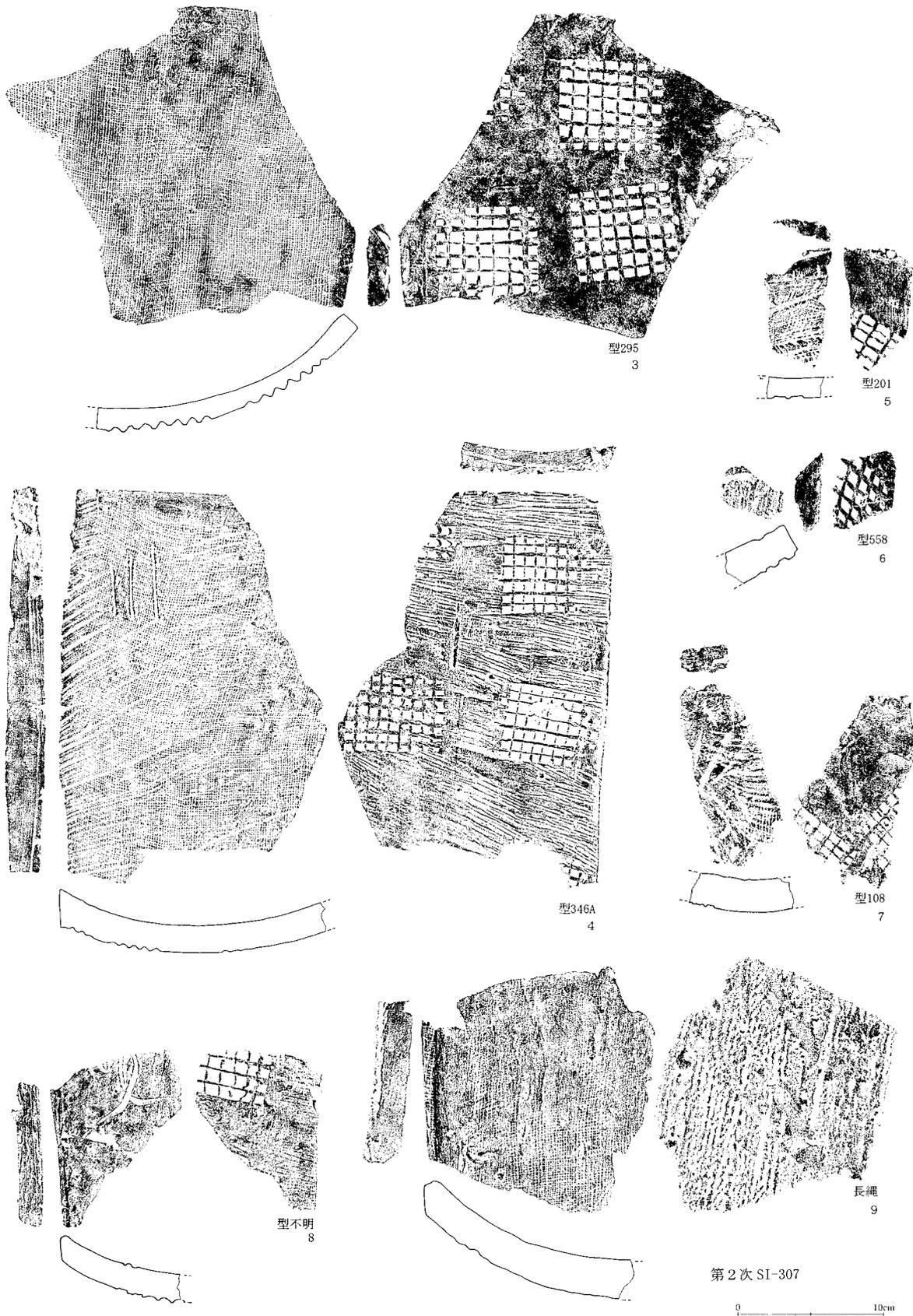
第47図 瓦実測図(4)



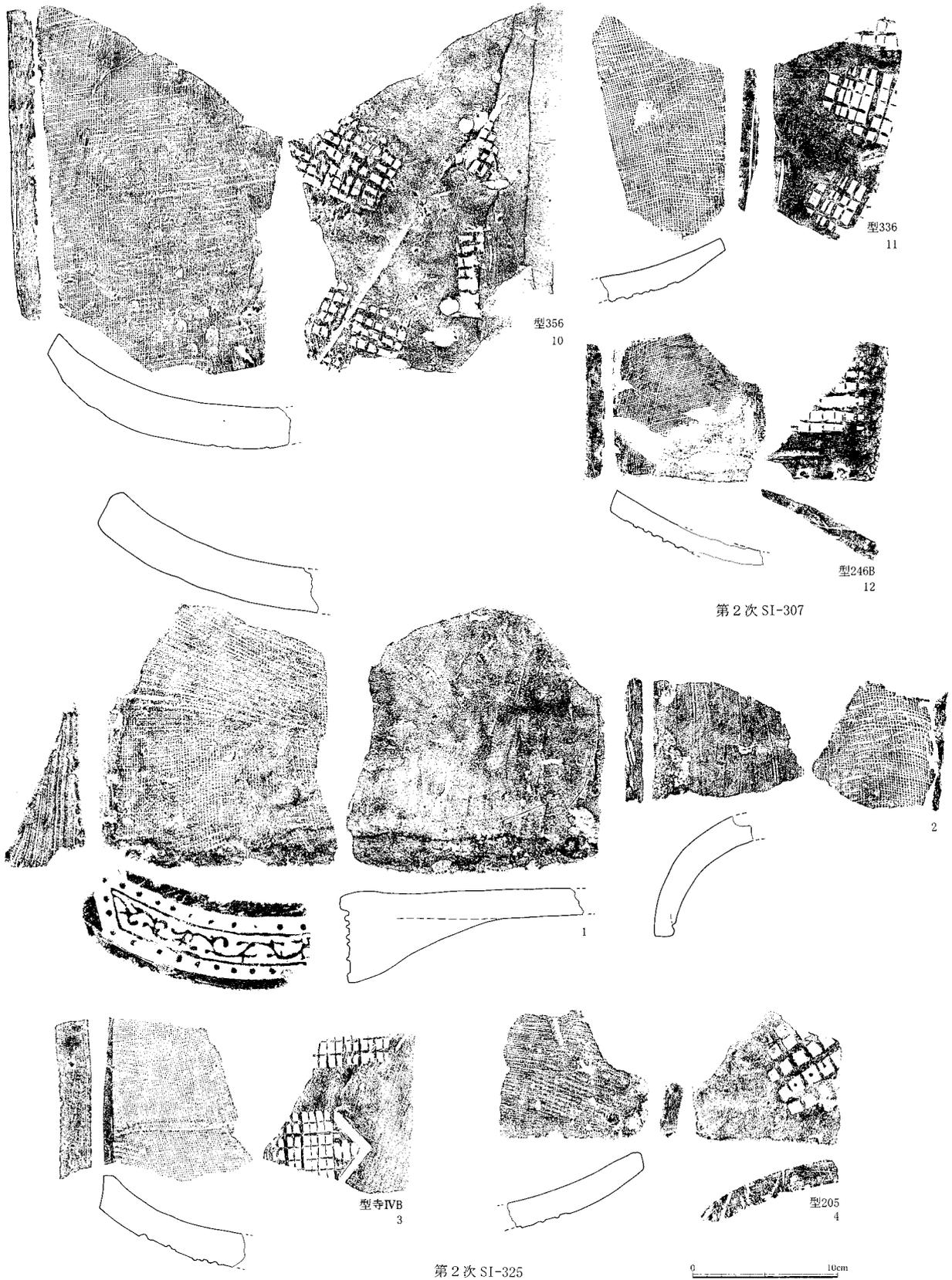
第48図 瓦実測図(5)



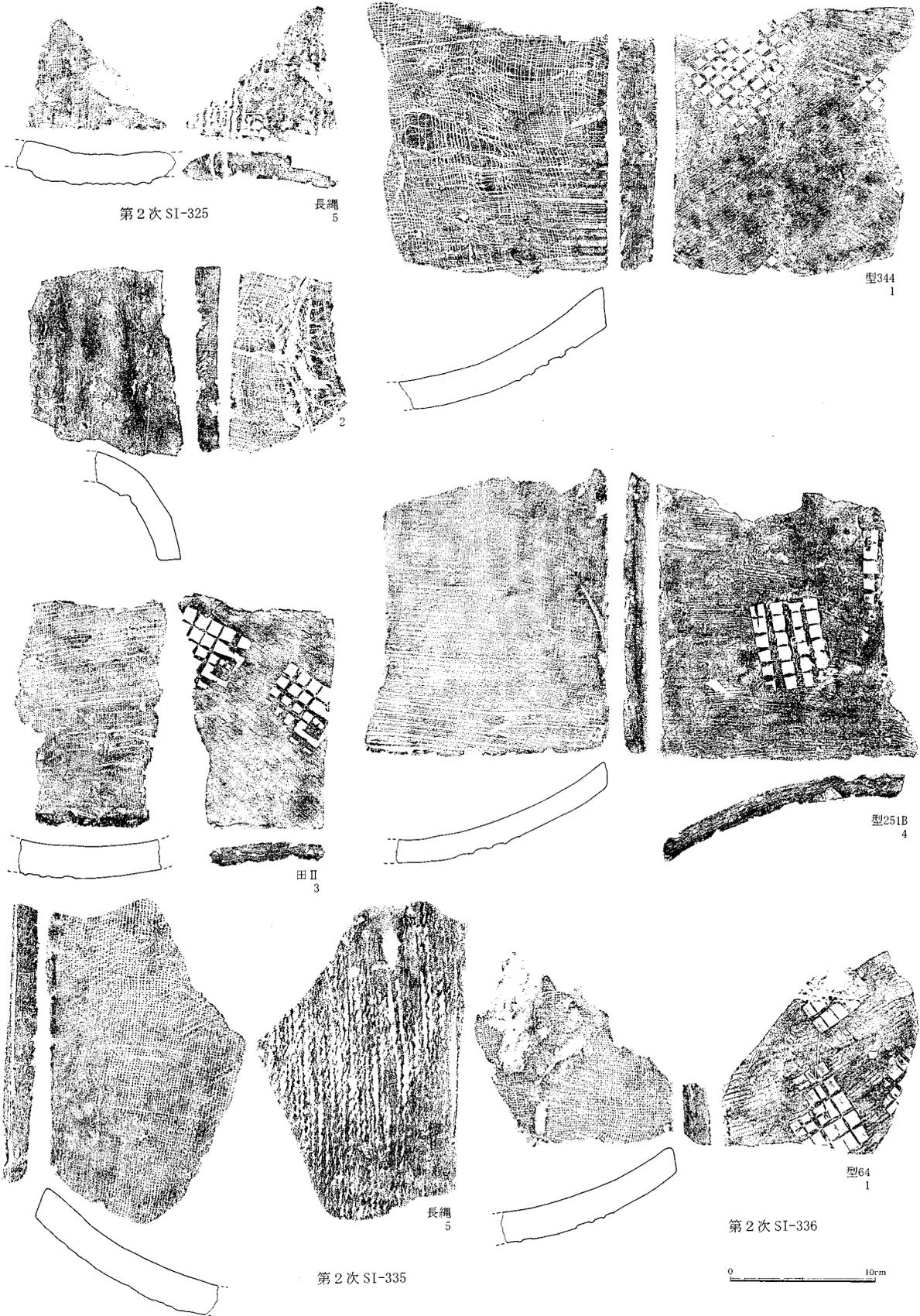
第49図 瓦実測図(6)



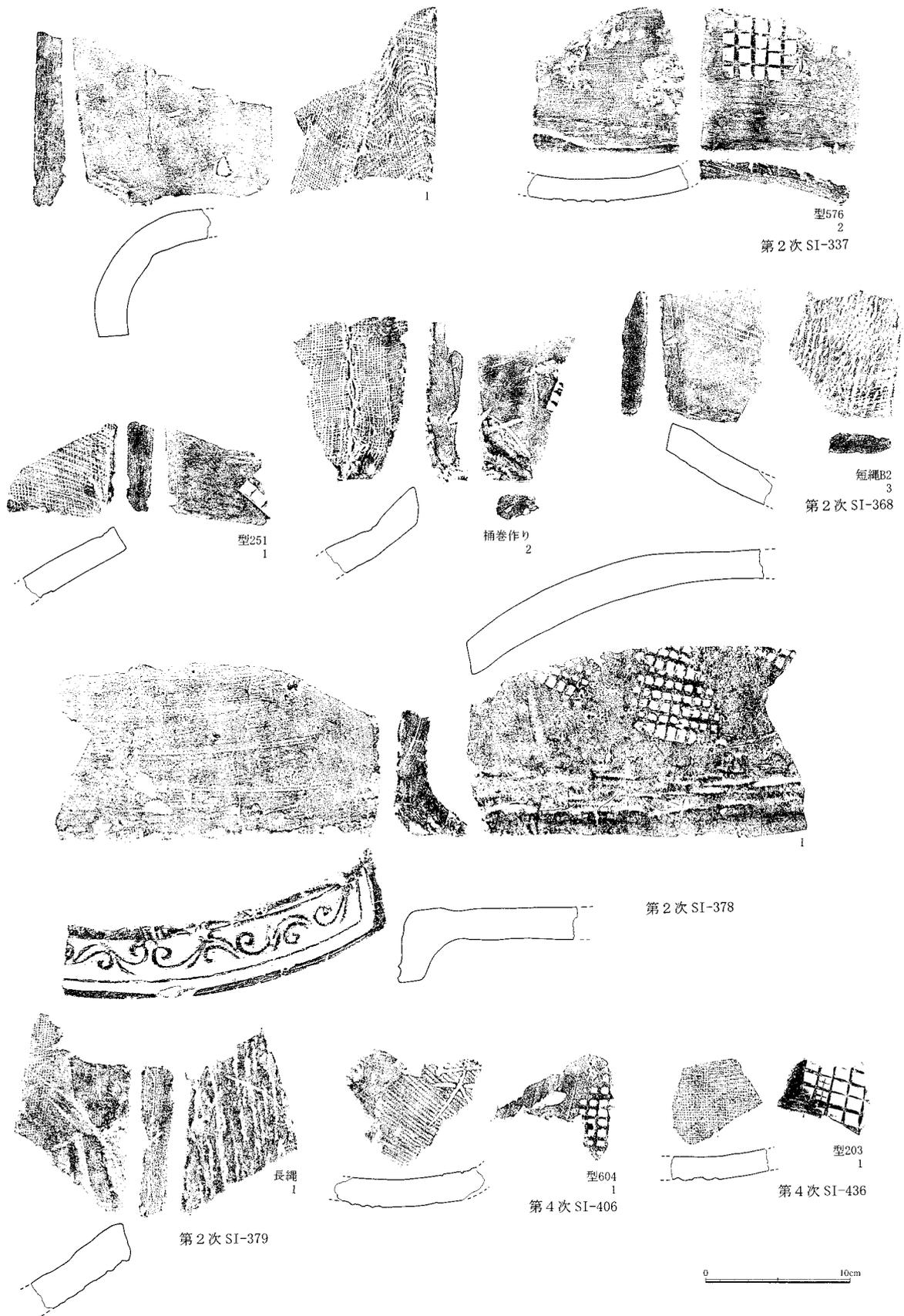
第50圖 瓦実測図(7)



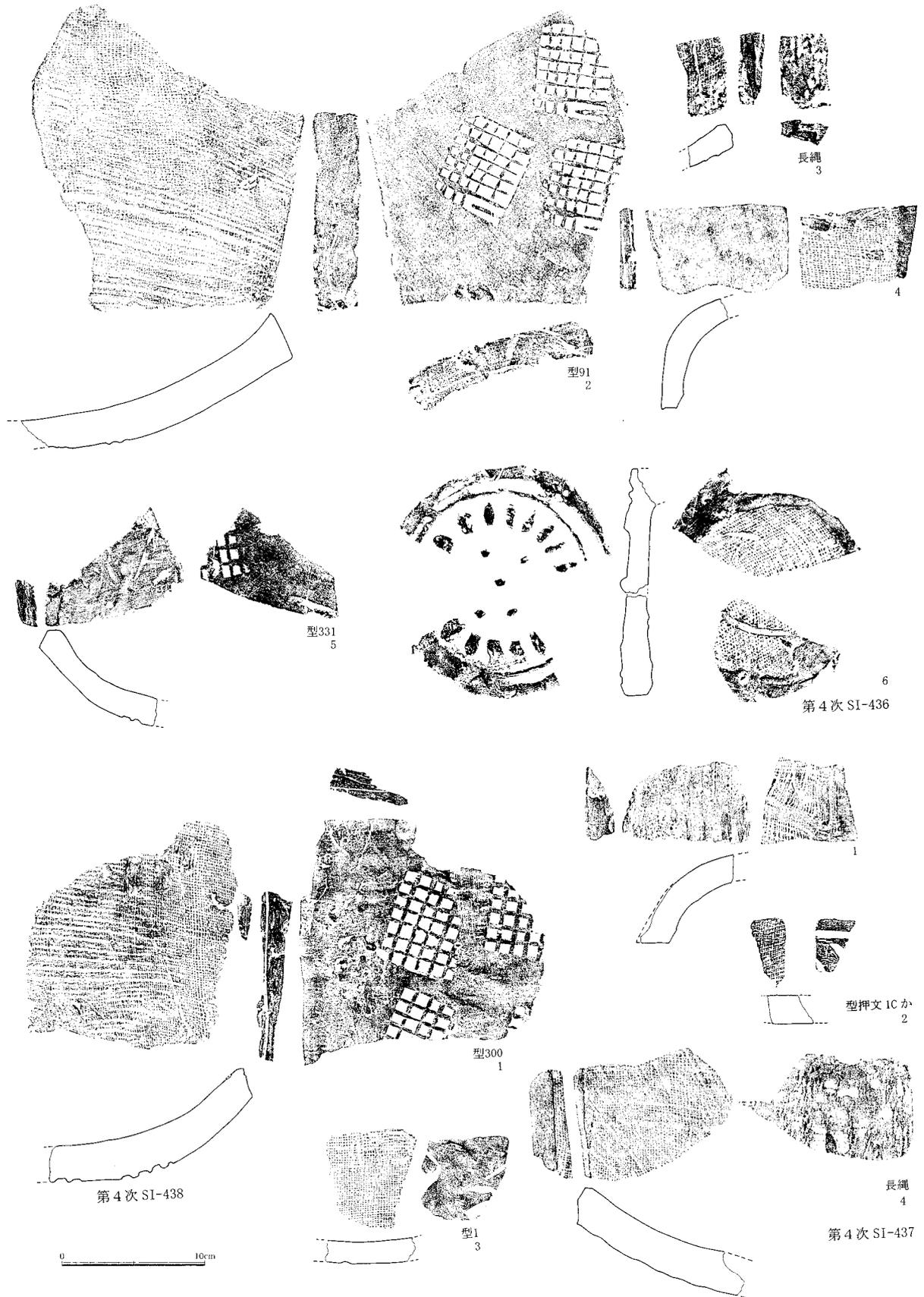
第51図 瓦実測図(8)



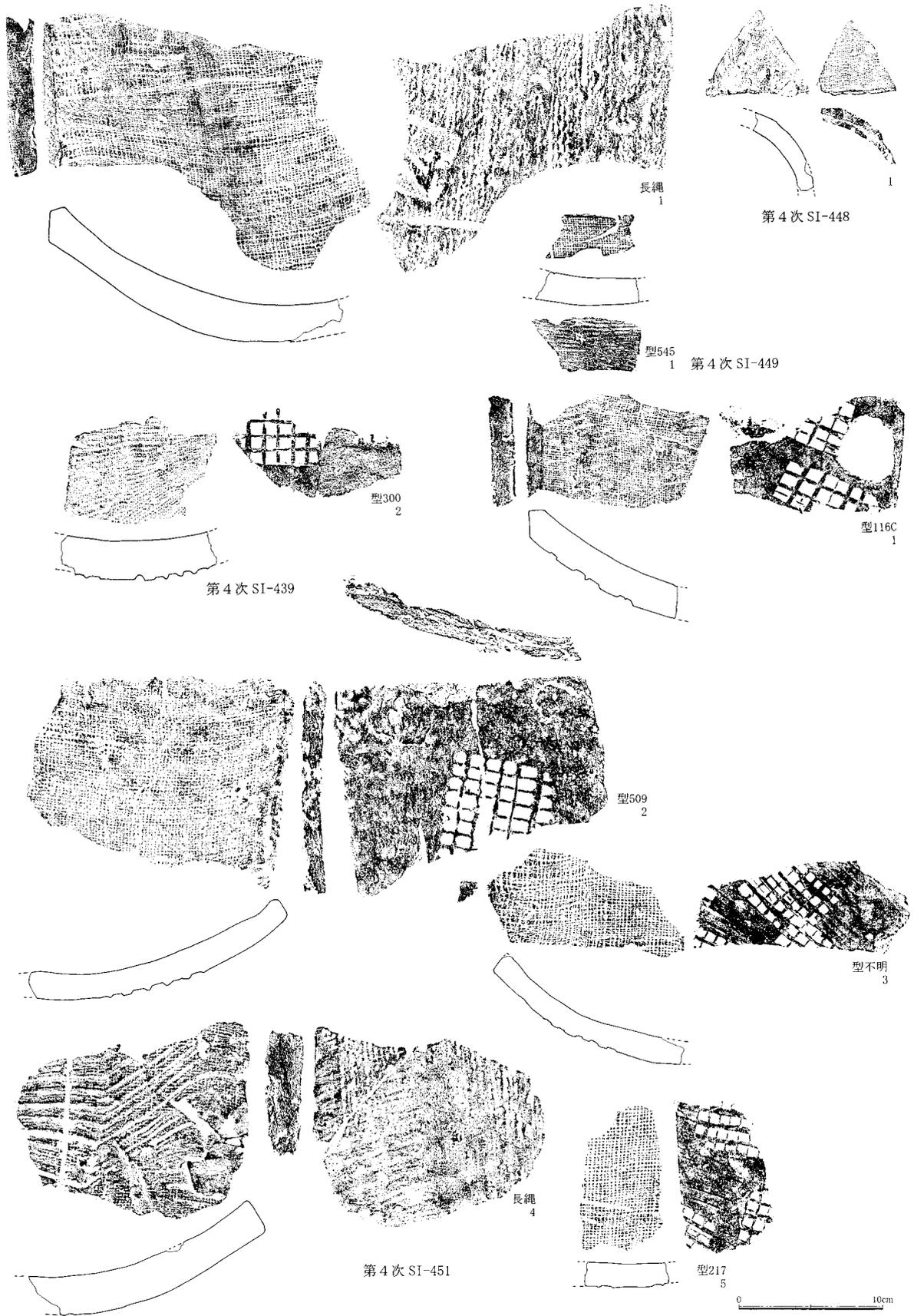
第52図 瓦実測図(9)



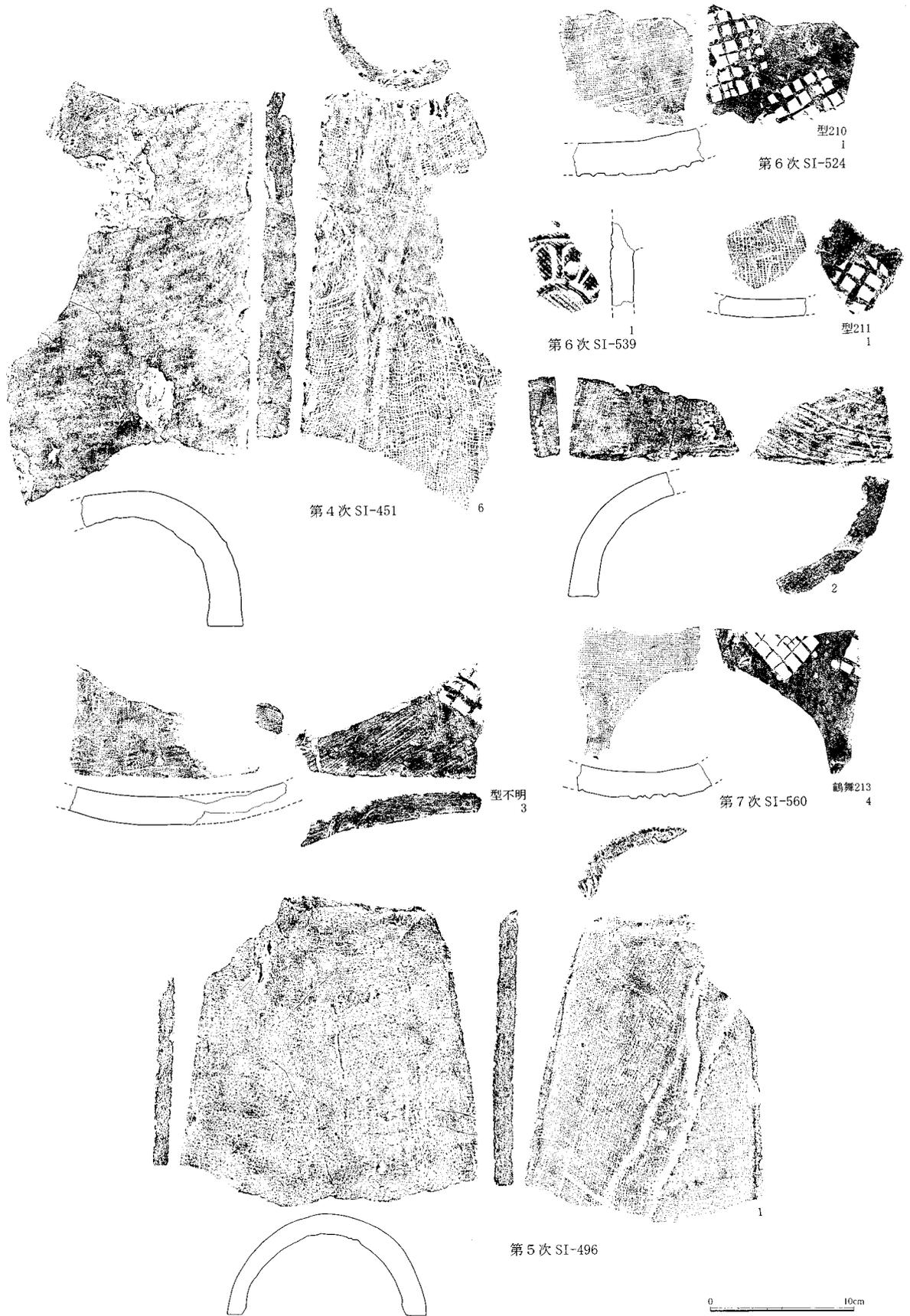
第53図 瓦実測図(10)



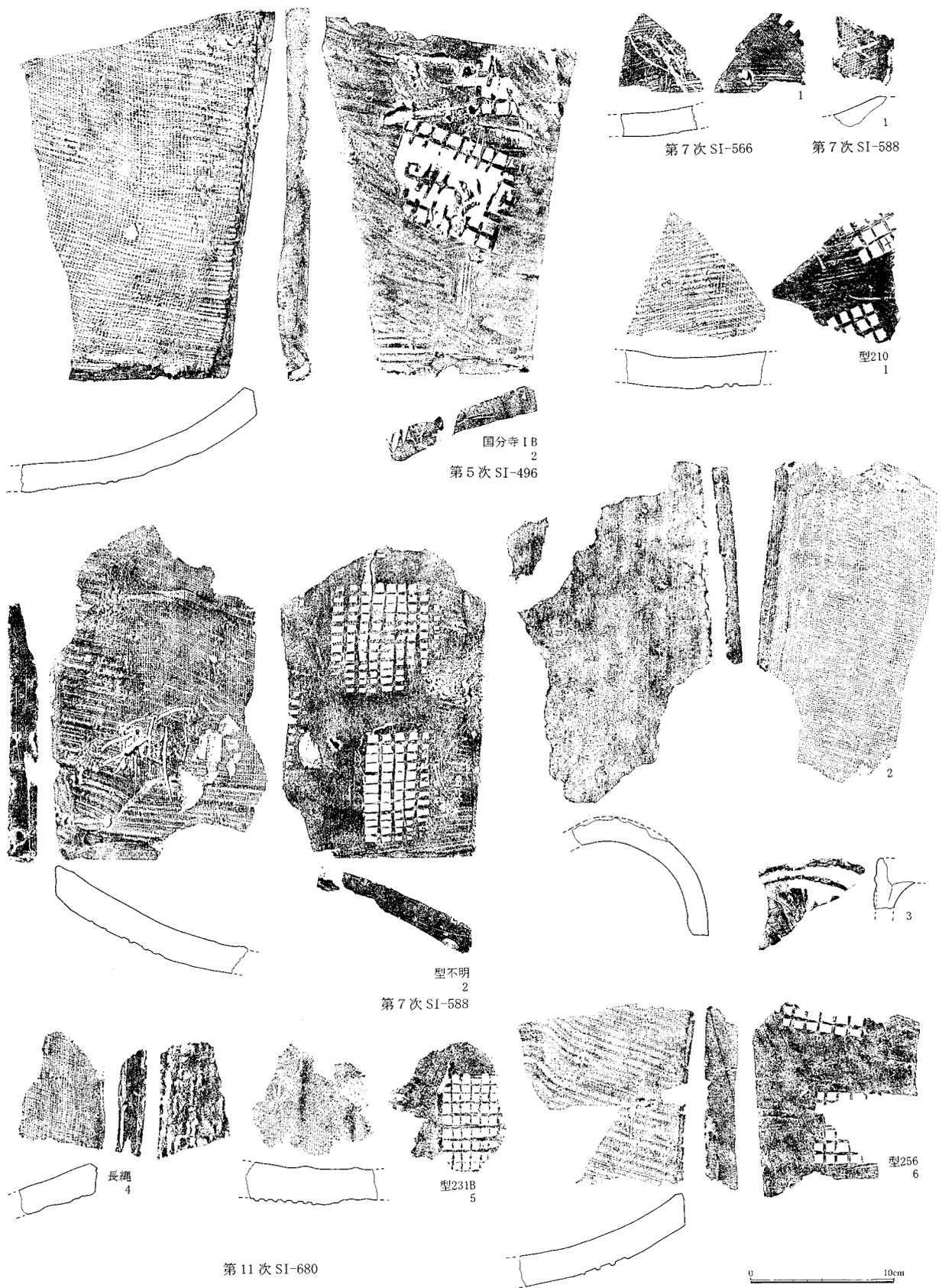
第54図 瓦実測図(11)



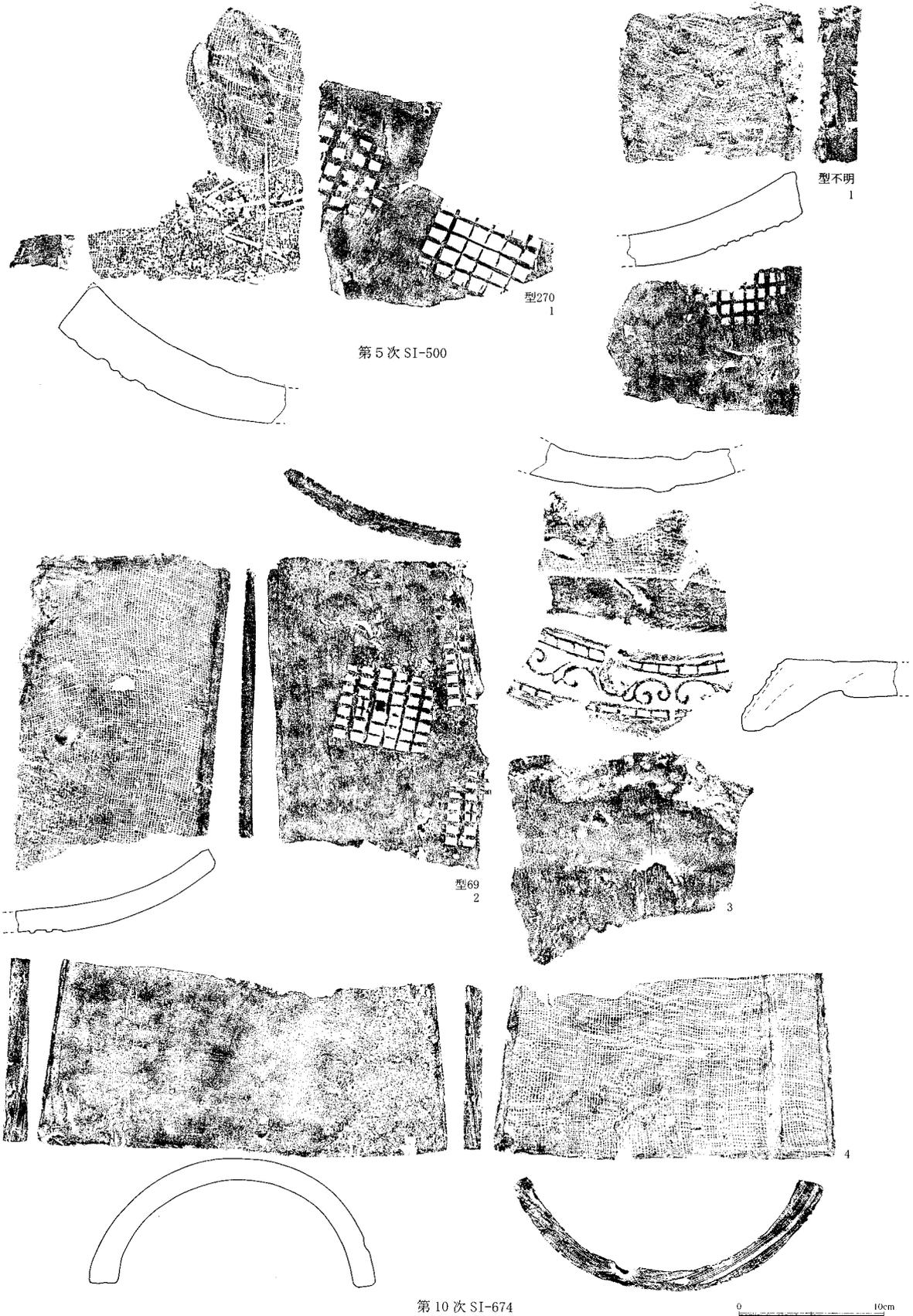
第55図 瓦実測図(12)



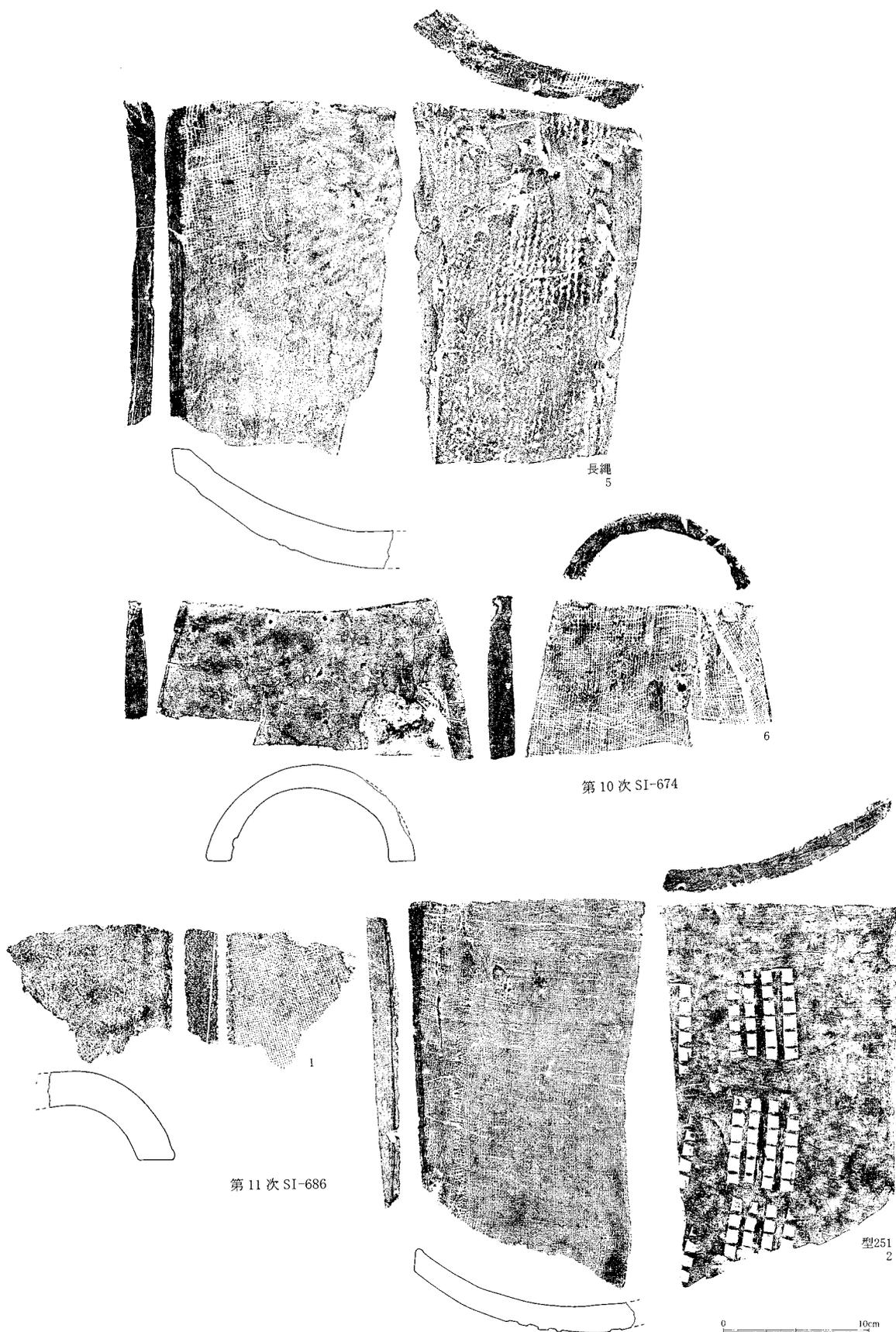
第56図 瓦実測図(13)



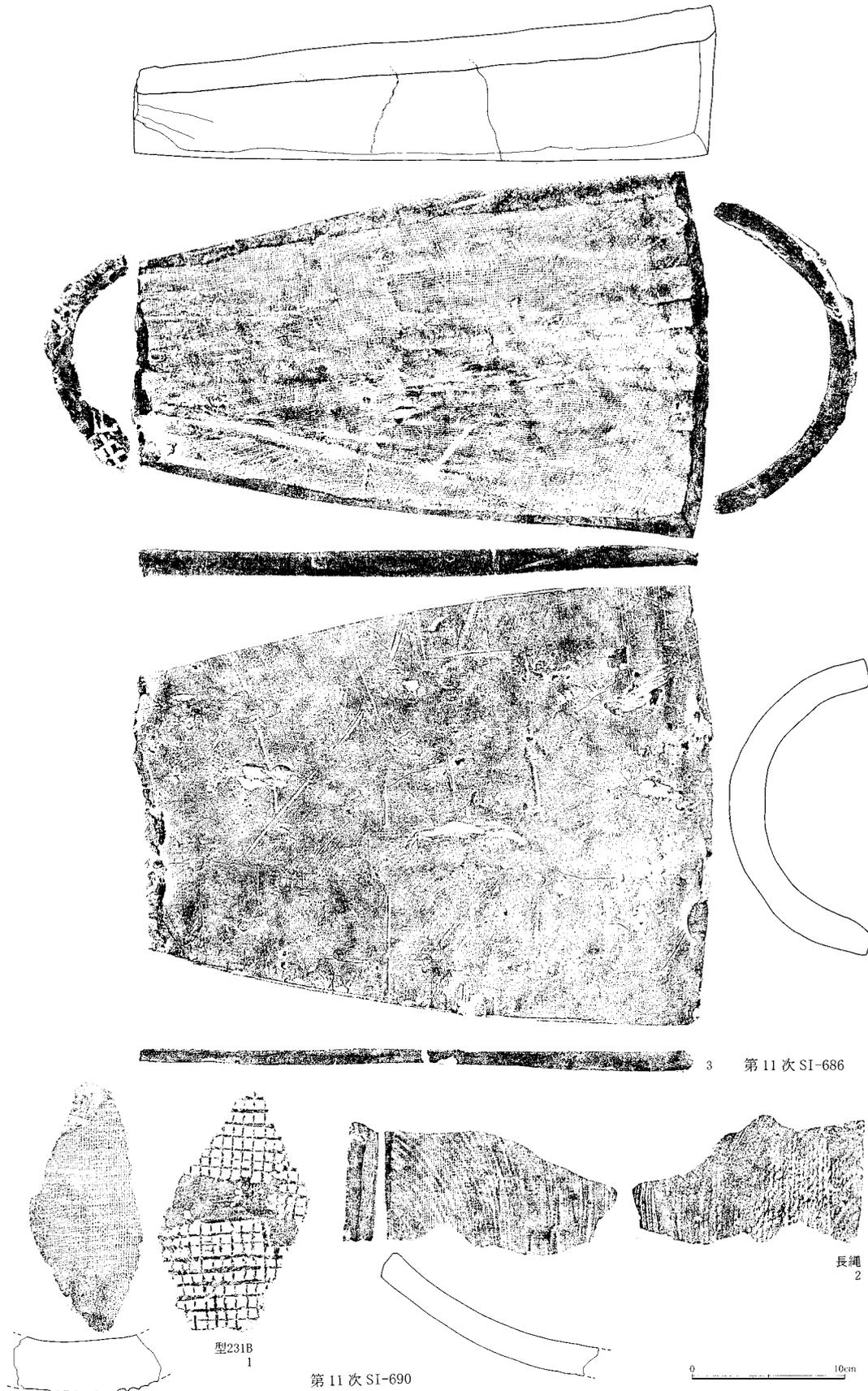
第57図 瓦実測図(14)



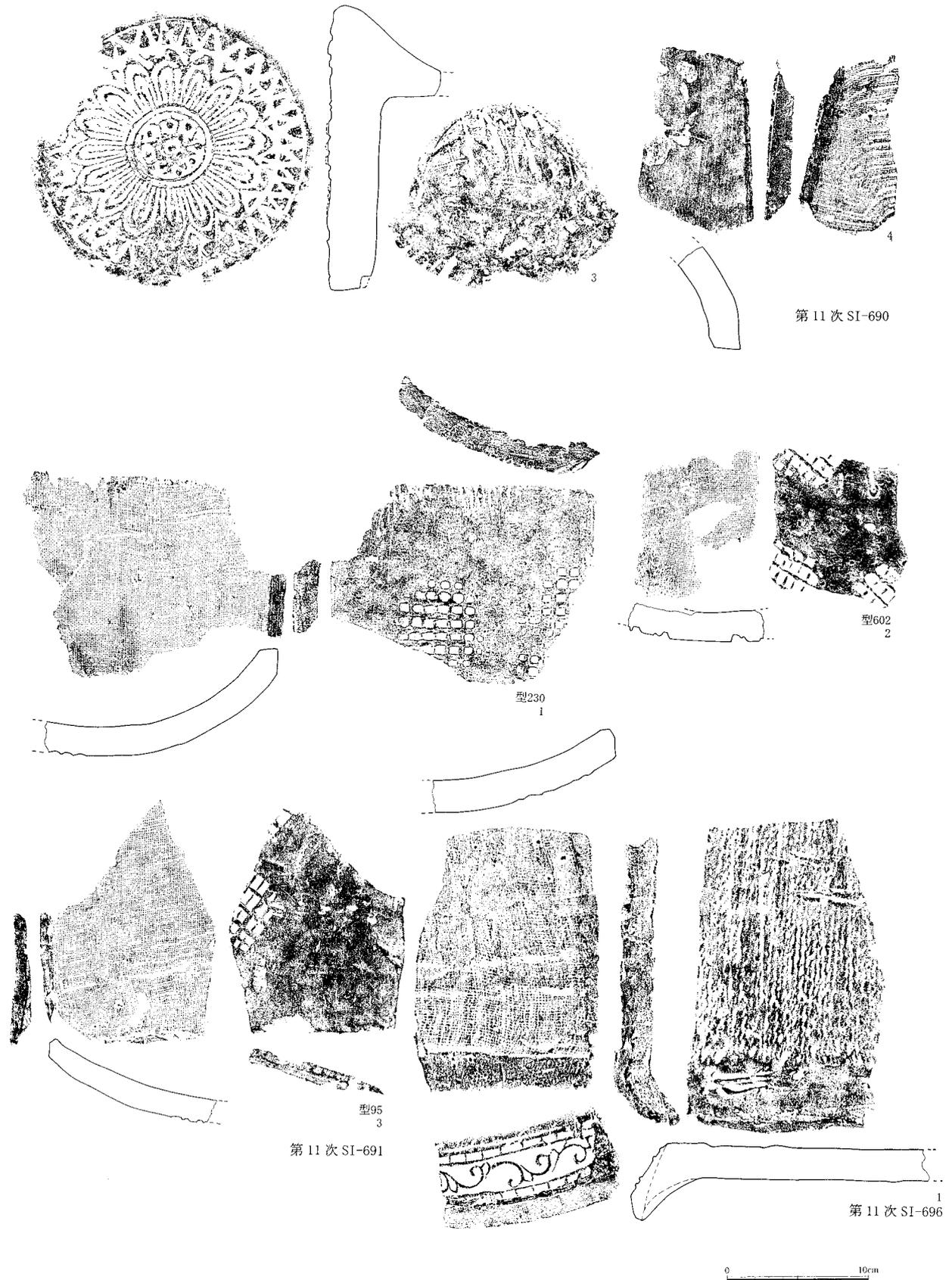
第58圖 瓦実測図(15)



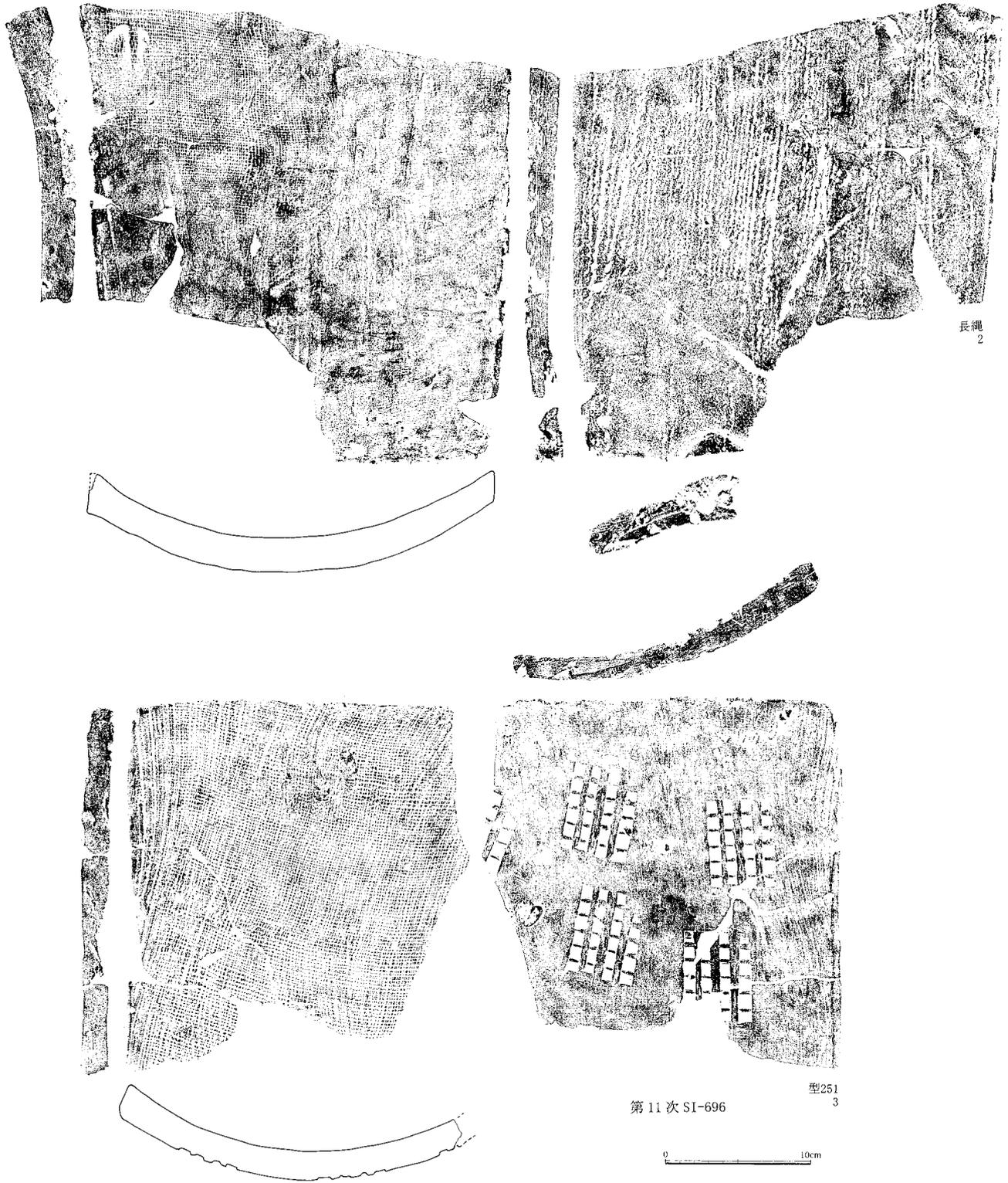
第59図 瓦実測図(16)



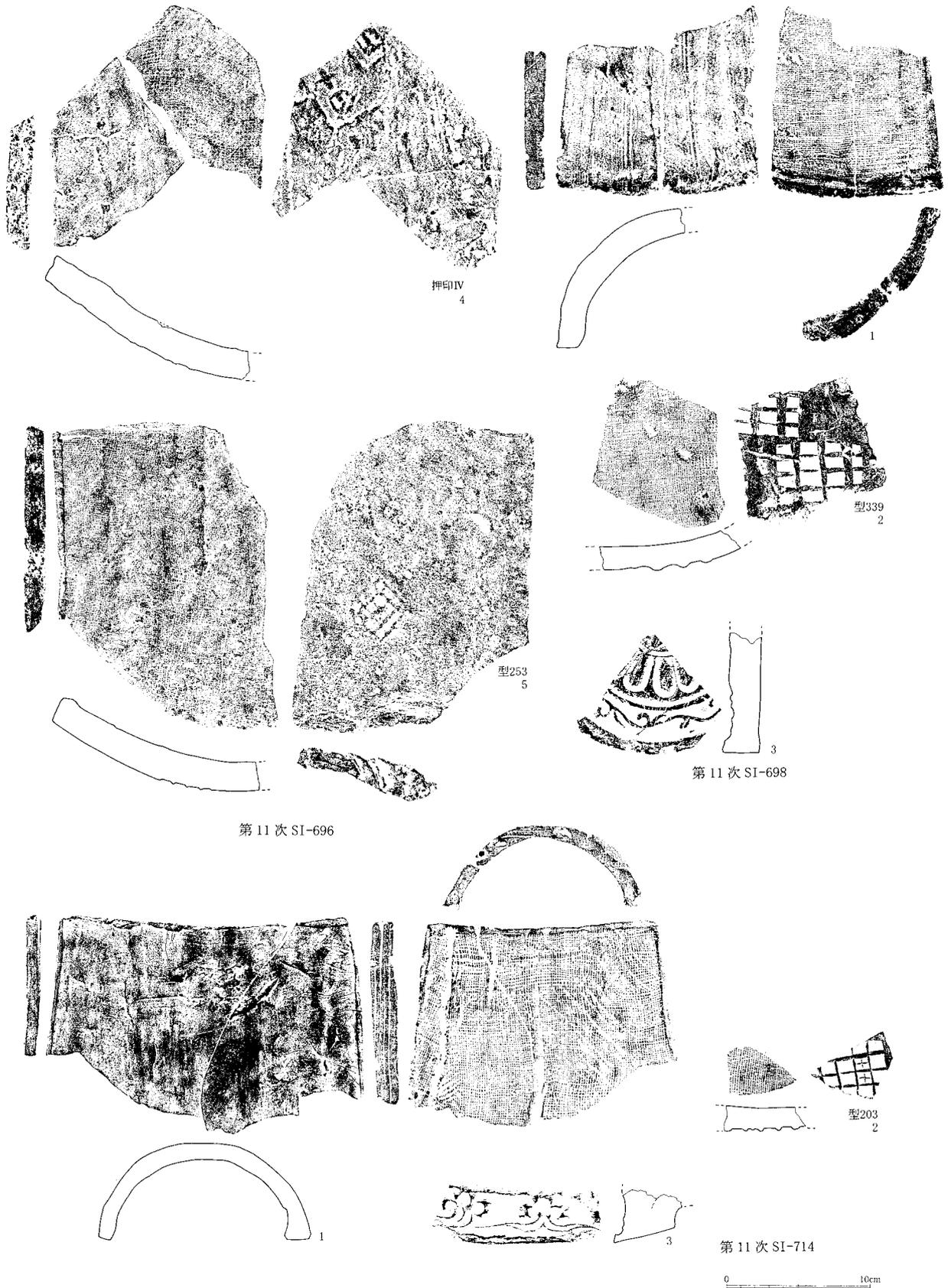
第60図 瓦実測図(17)



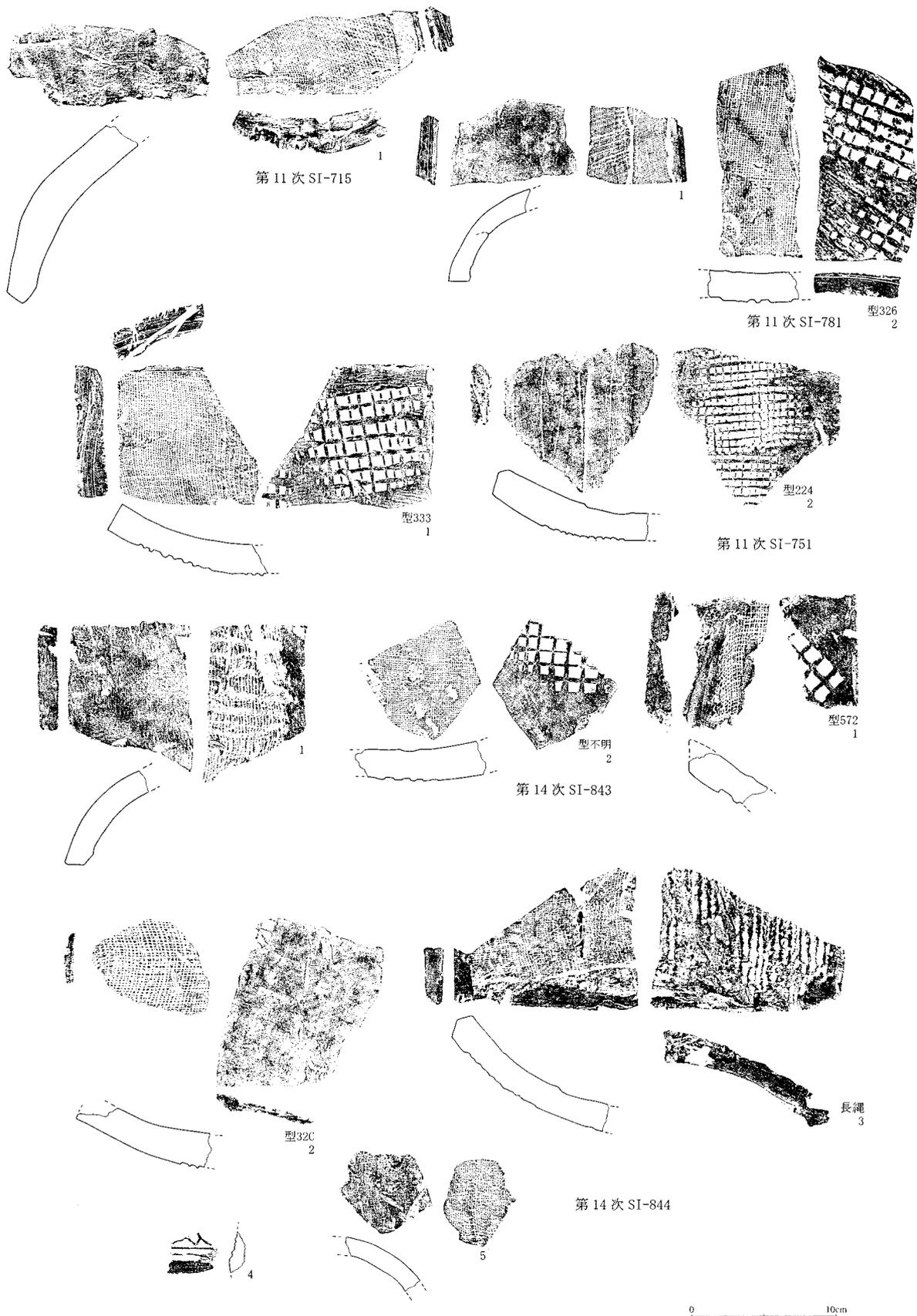
第61図 瓦実測図(18)



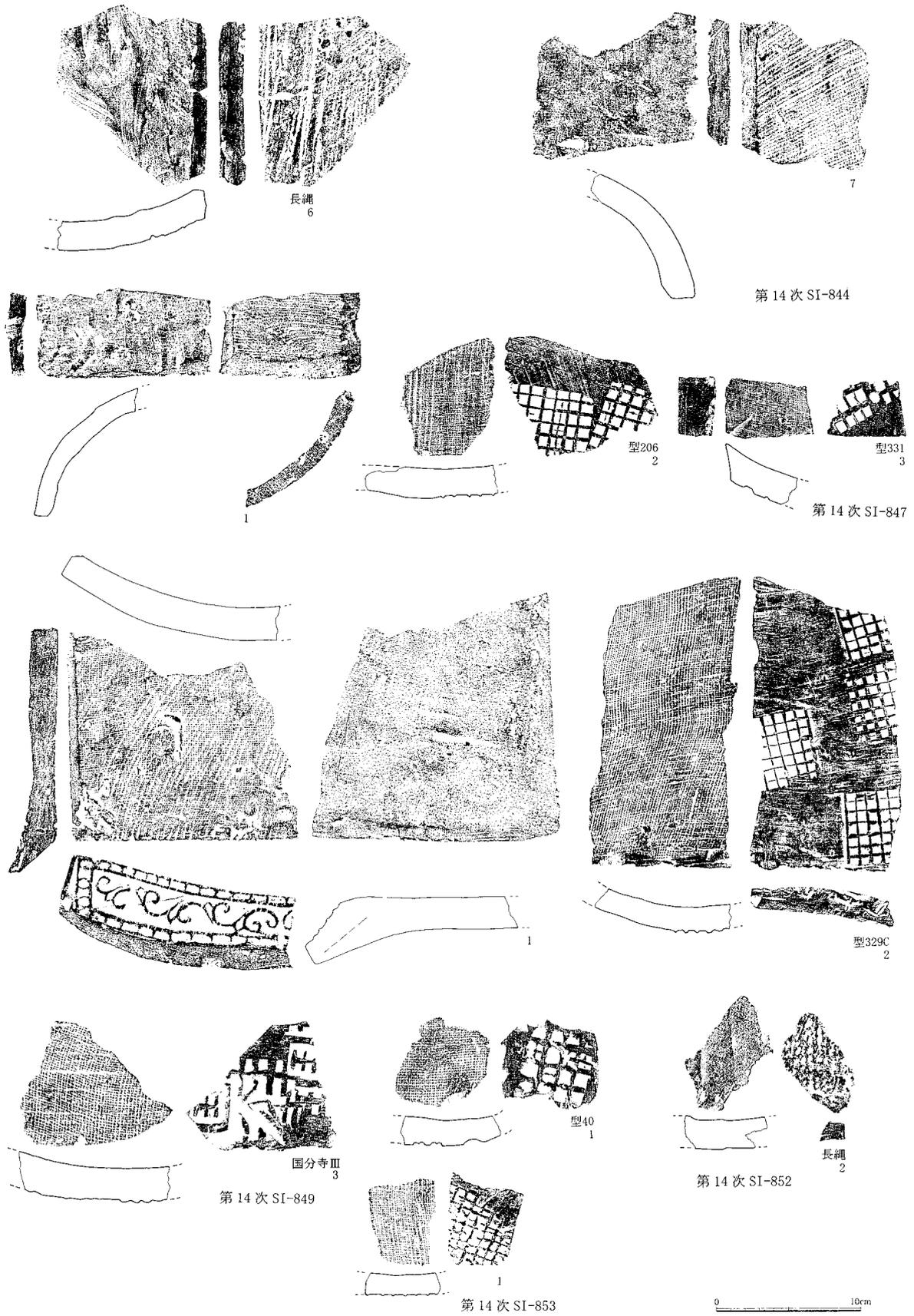
第62図 瓦実測図(19)



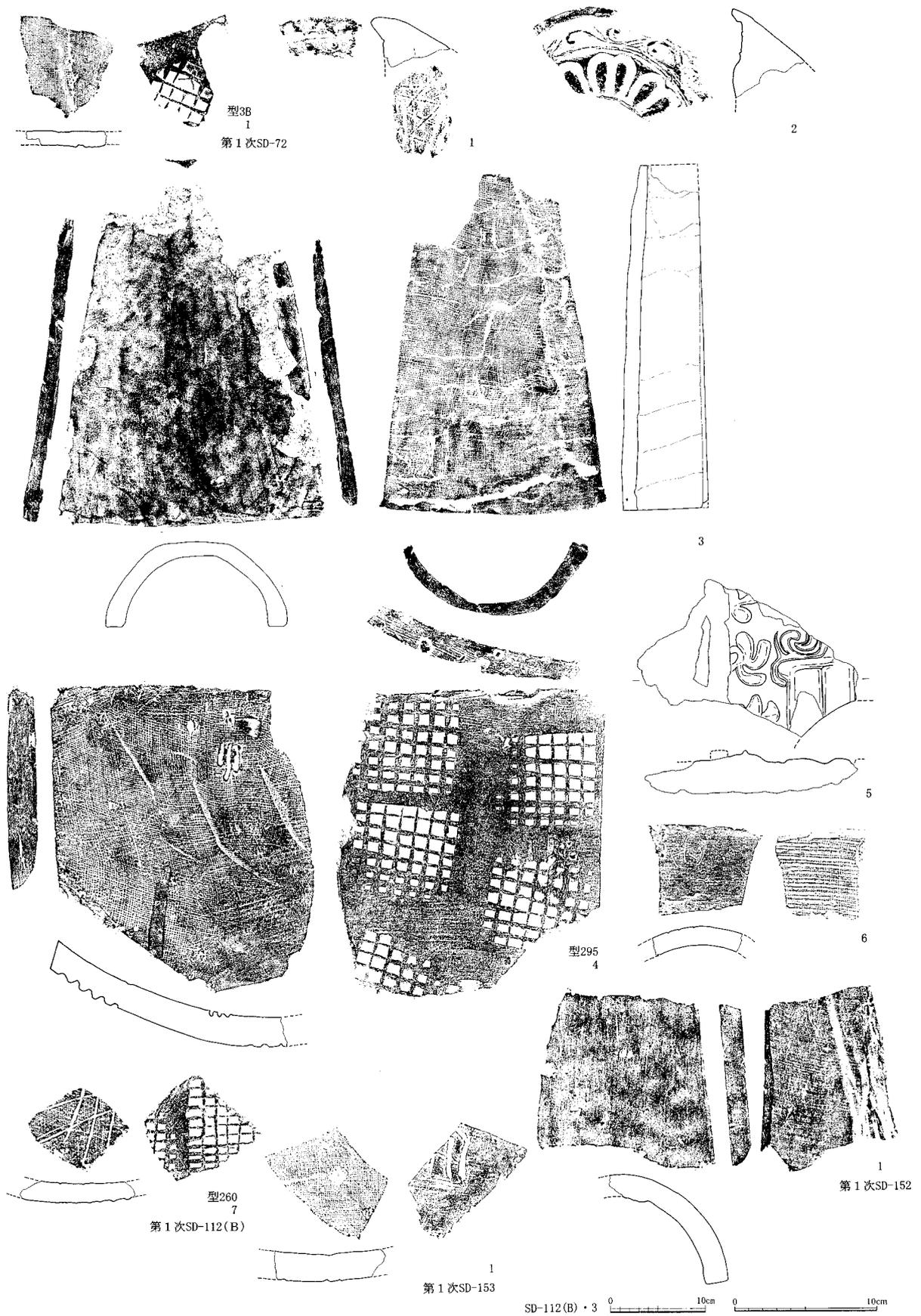
第63図 瓦実測図(20)



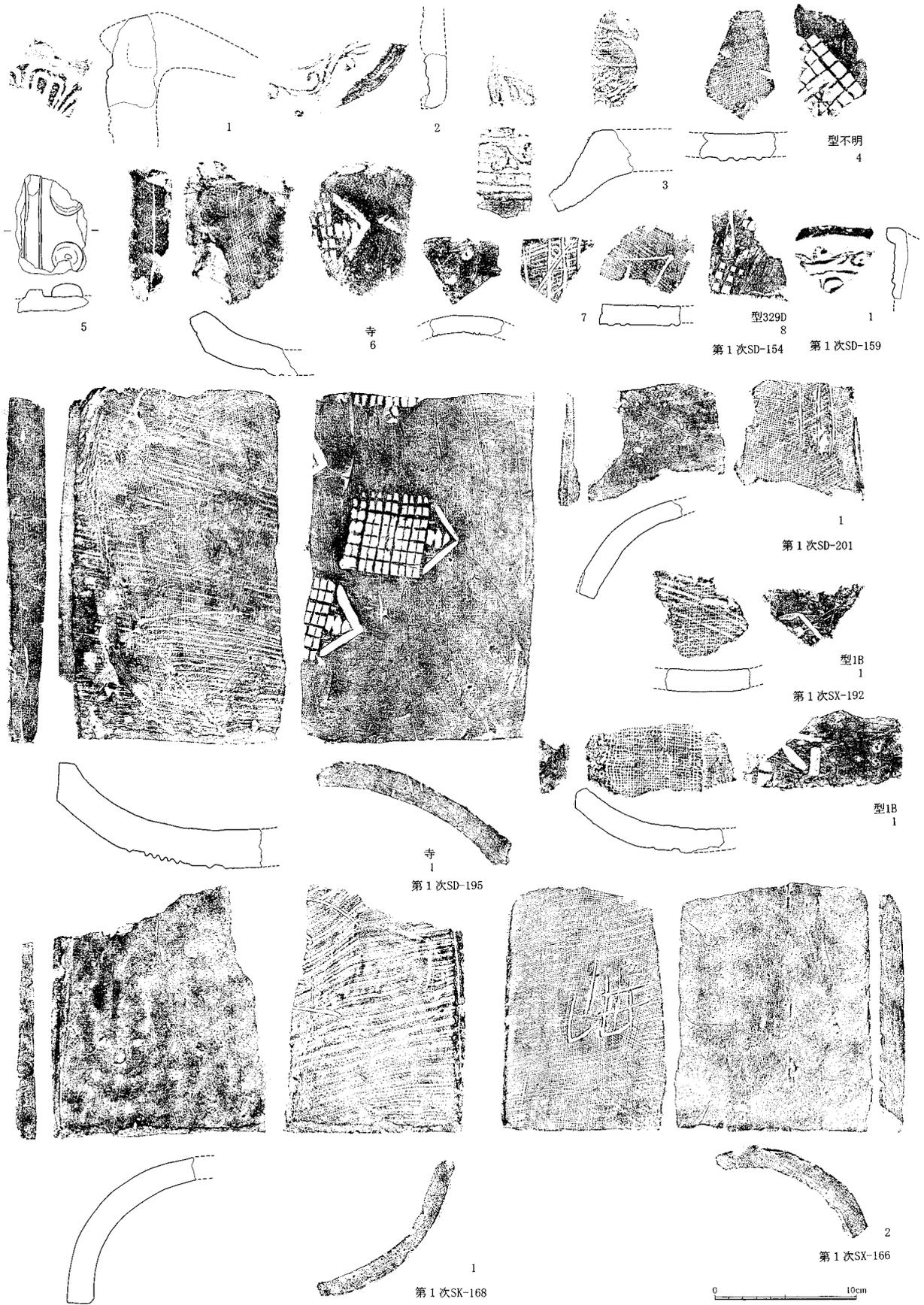
第64図 瓦実測図(21)



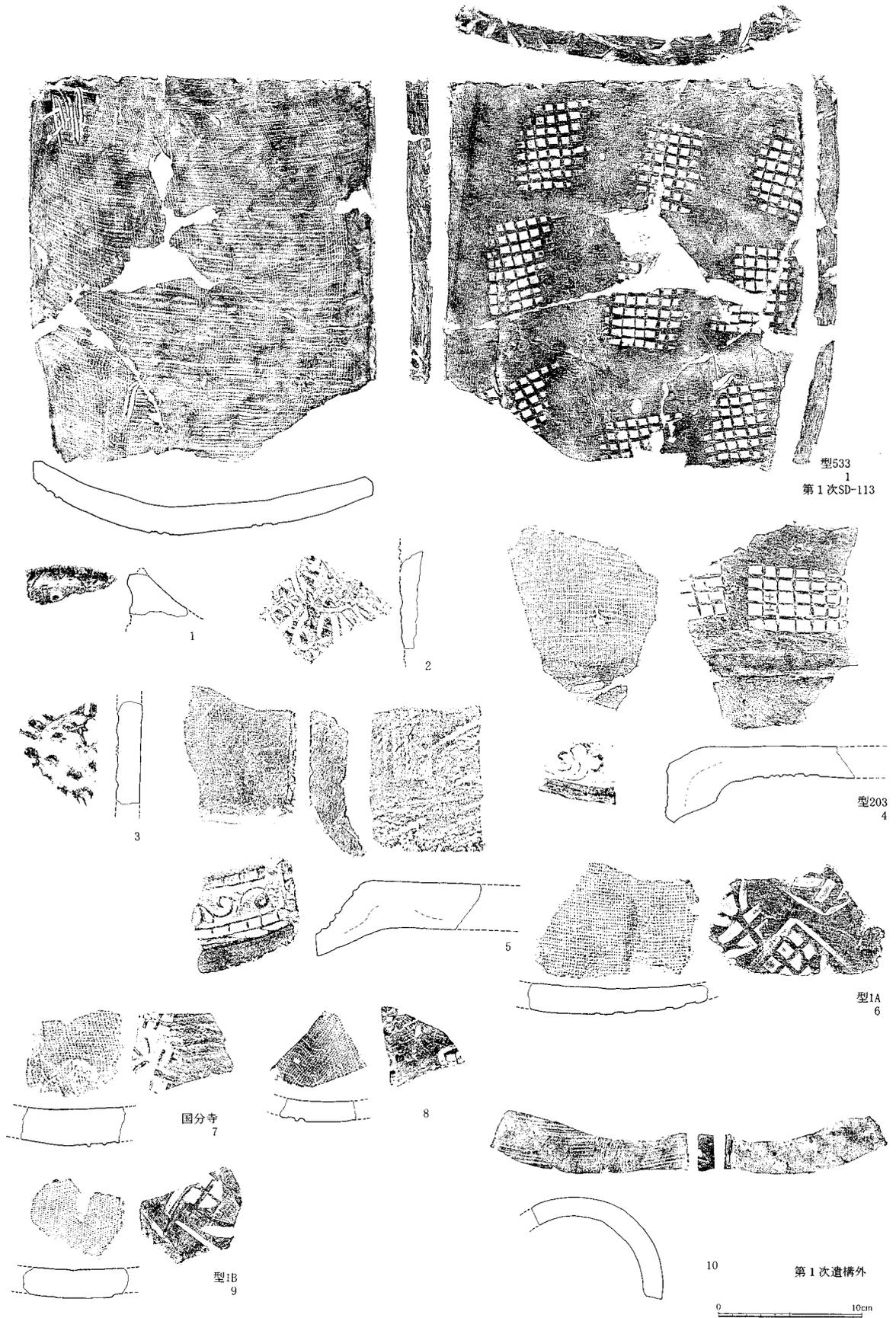
第65図 瓦実測図(22)



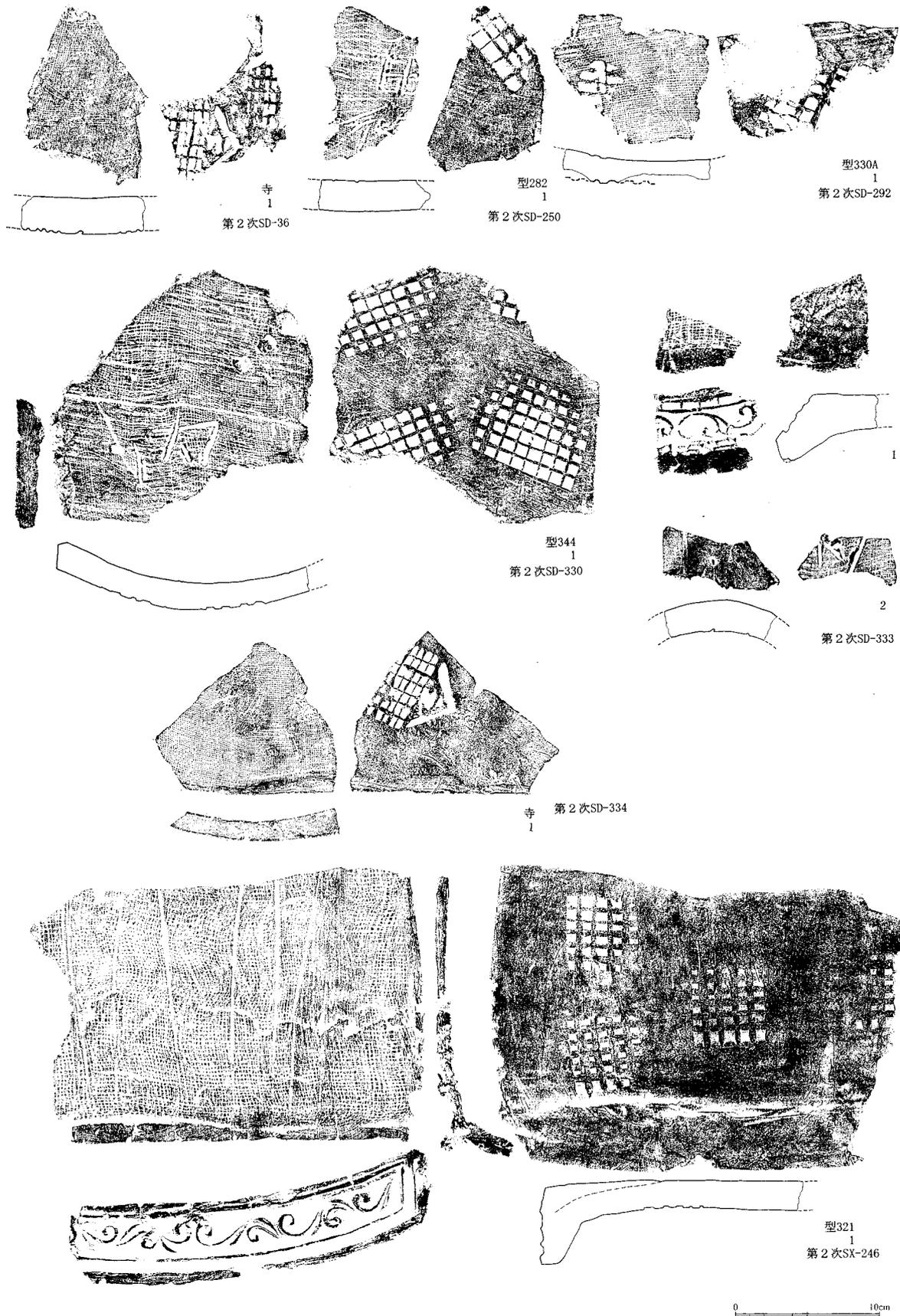
第66図 瓦実測図(23) — 溝跡等出土(23) ~ (30) —



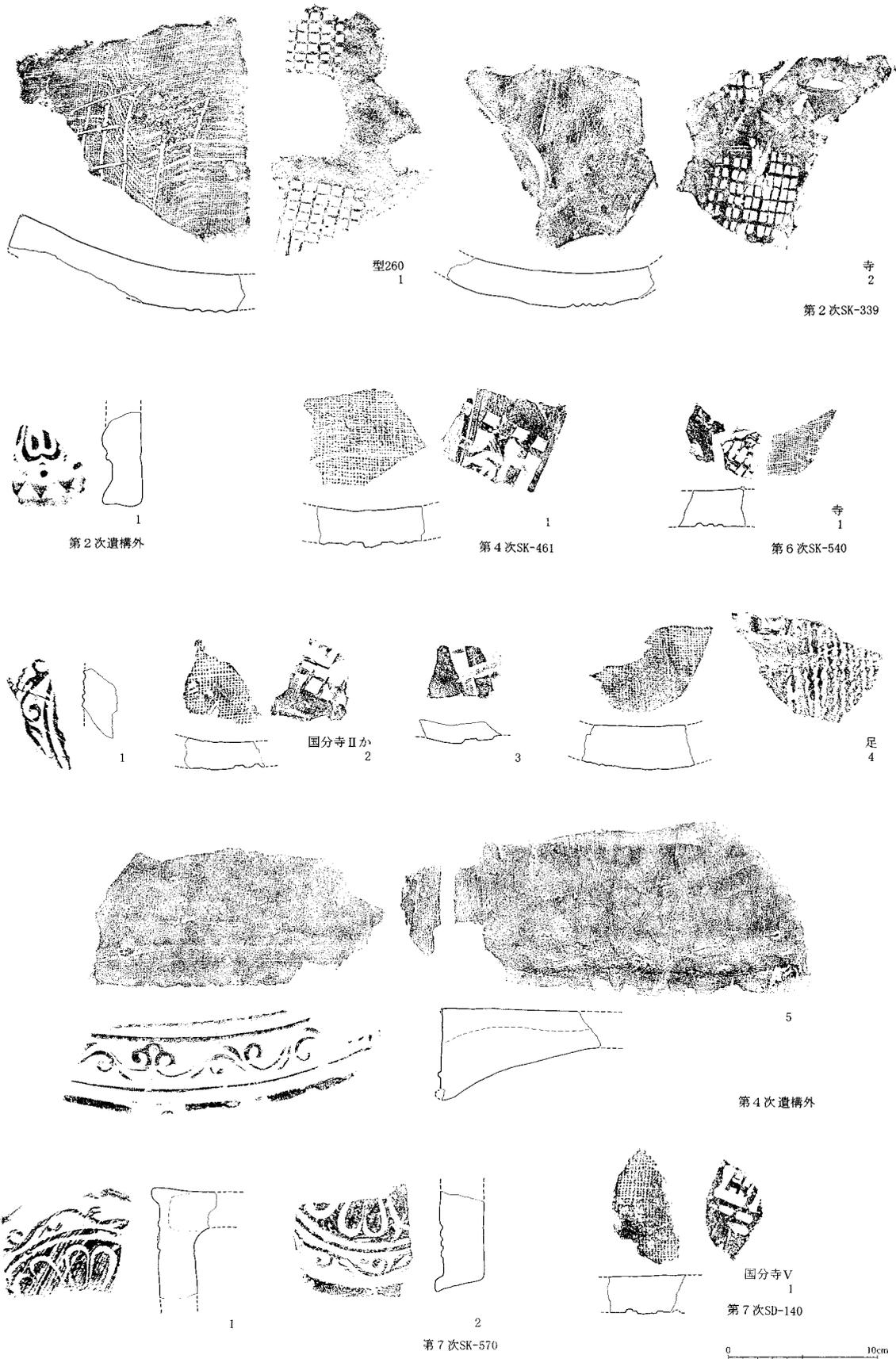
第67図 瓦実測図(24)



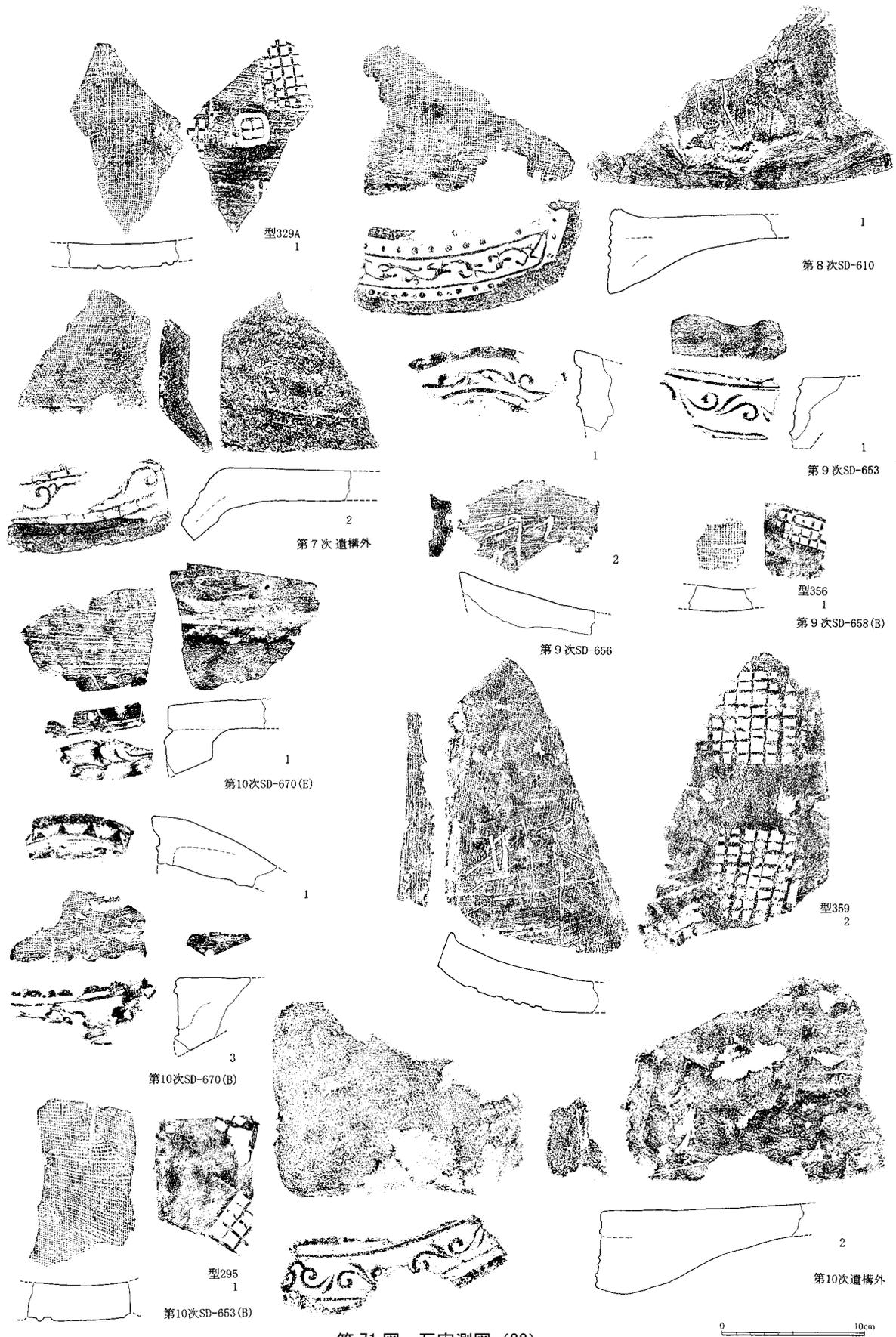
第68図 瓦実測図(25)



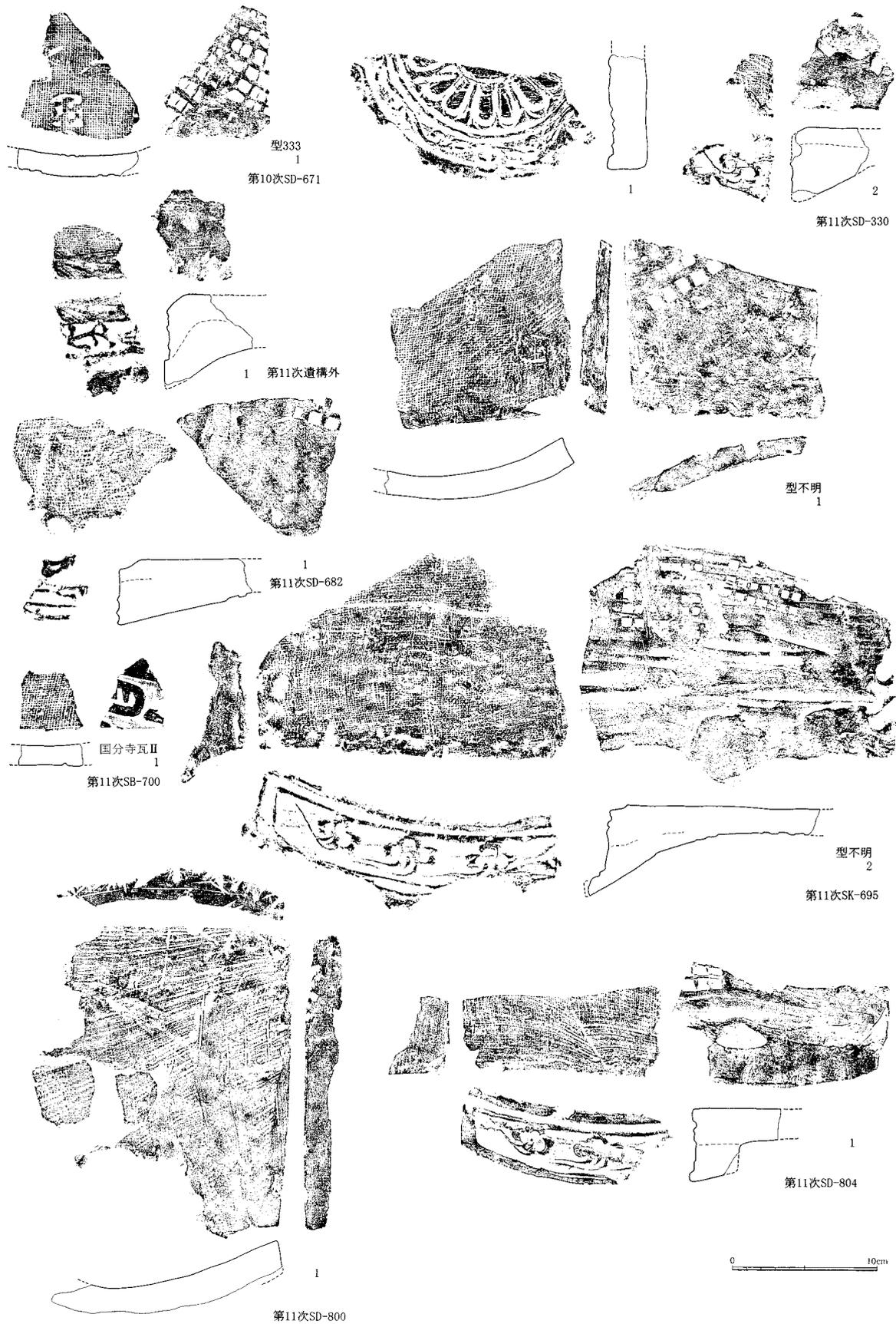
第69図 瓦実測図(26)



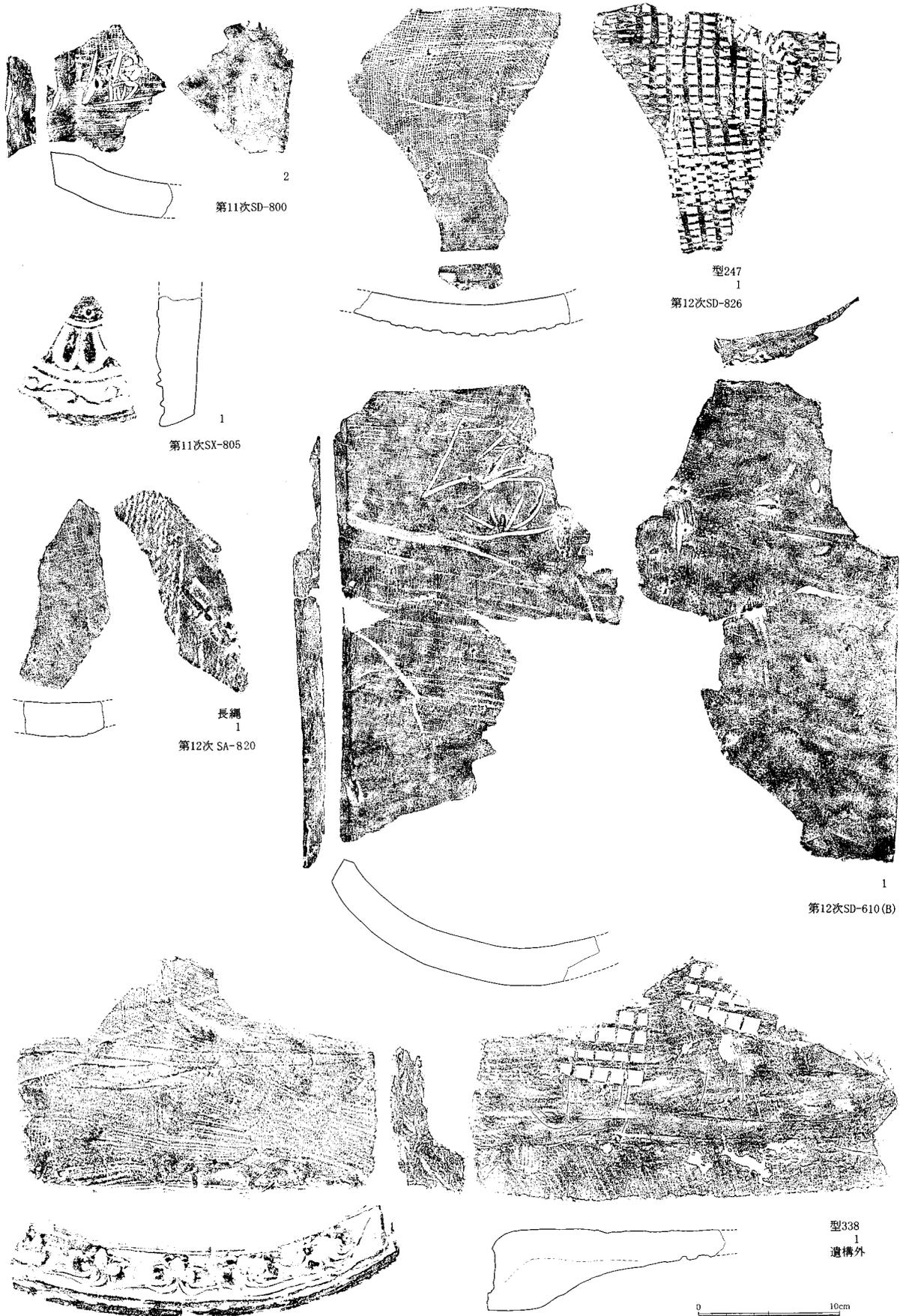
第70図 瓦実測図(27)



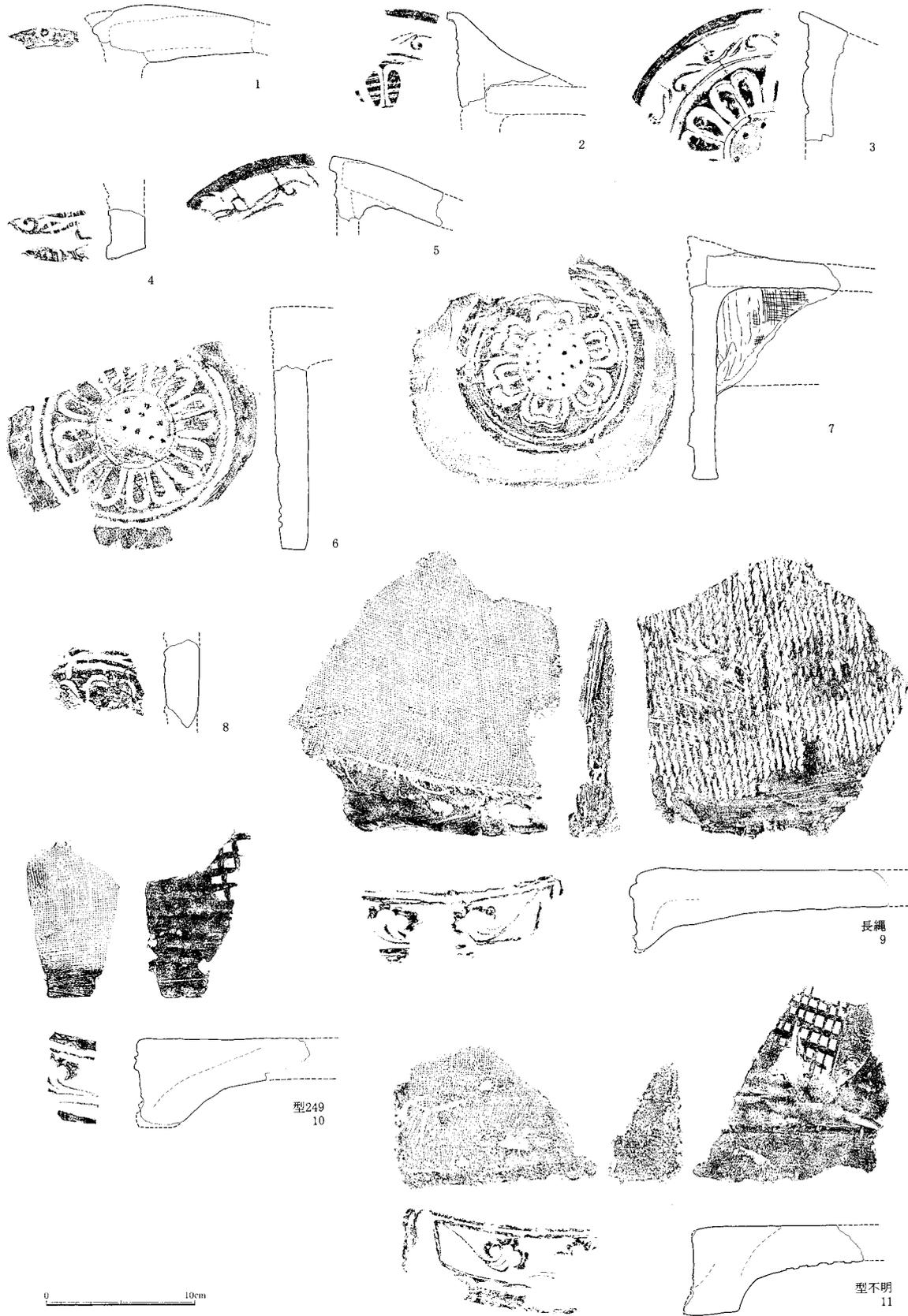
第71図 瓦実測図(28)



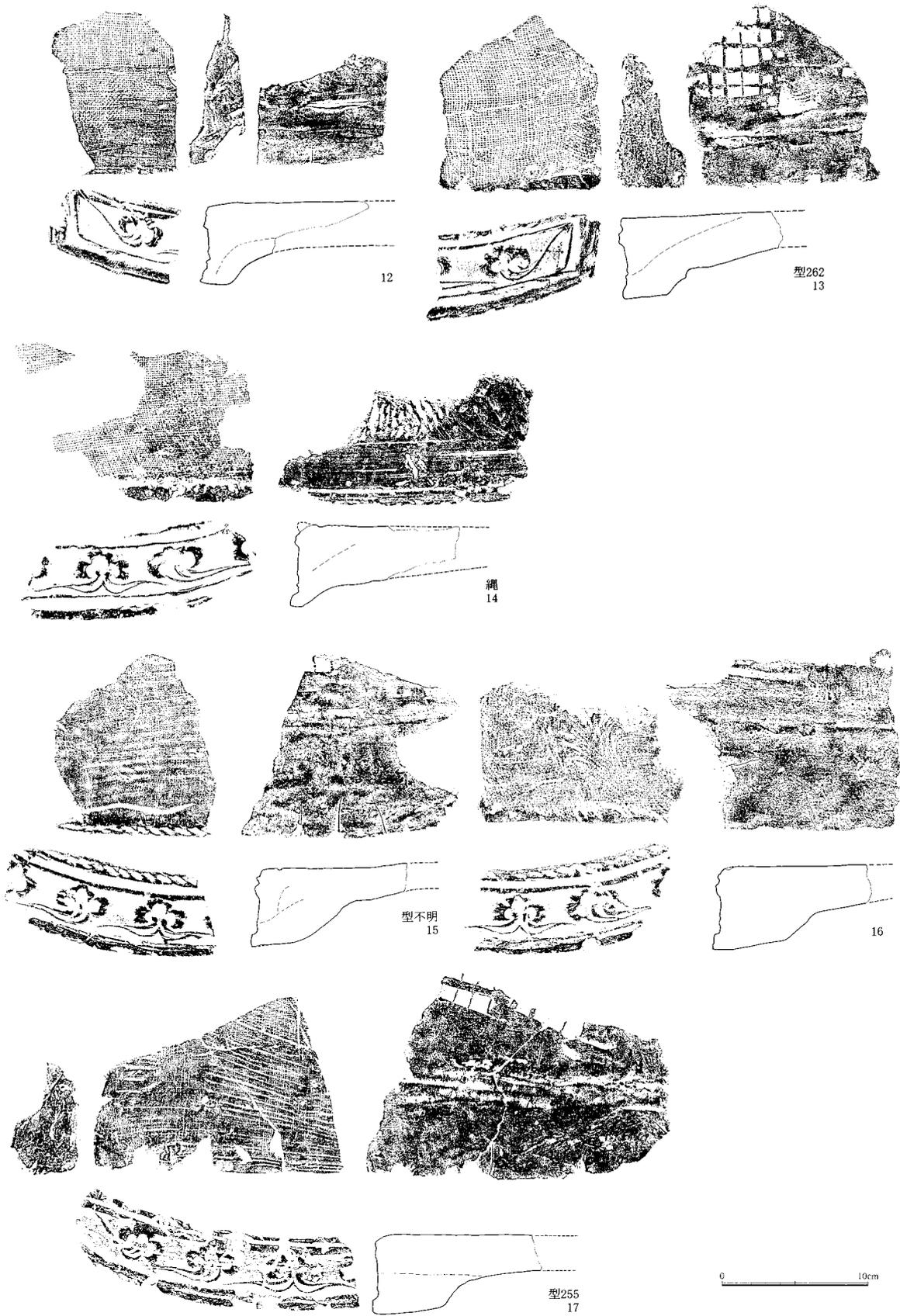
第72図 瓦実測図(29)



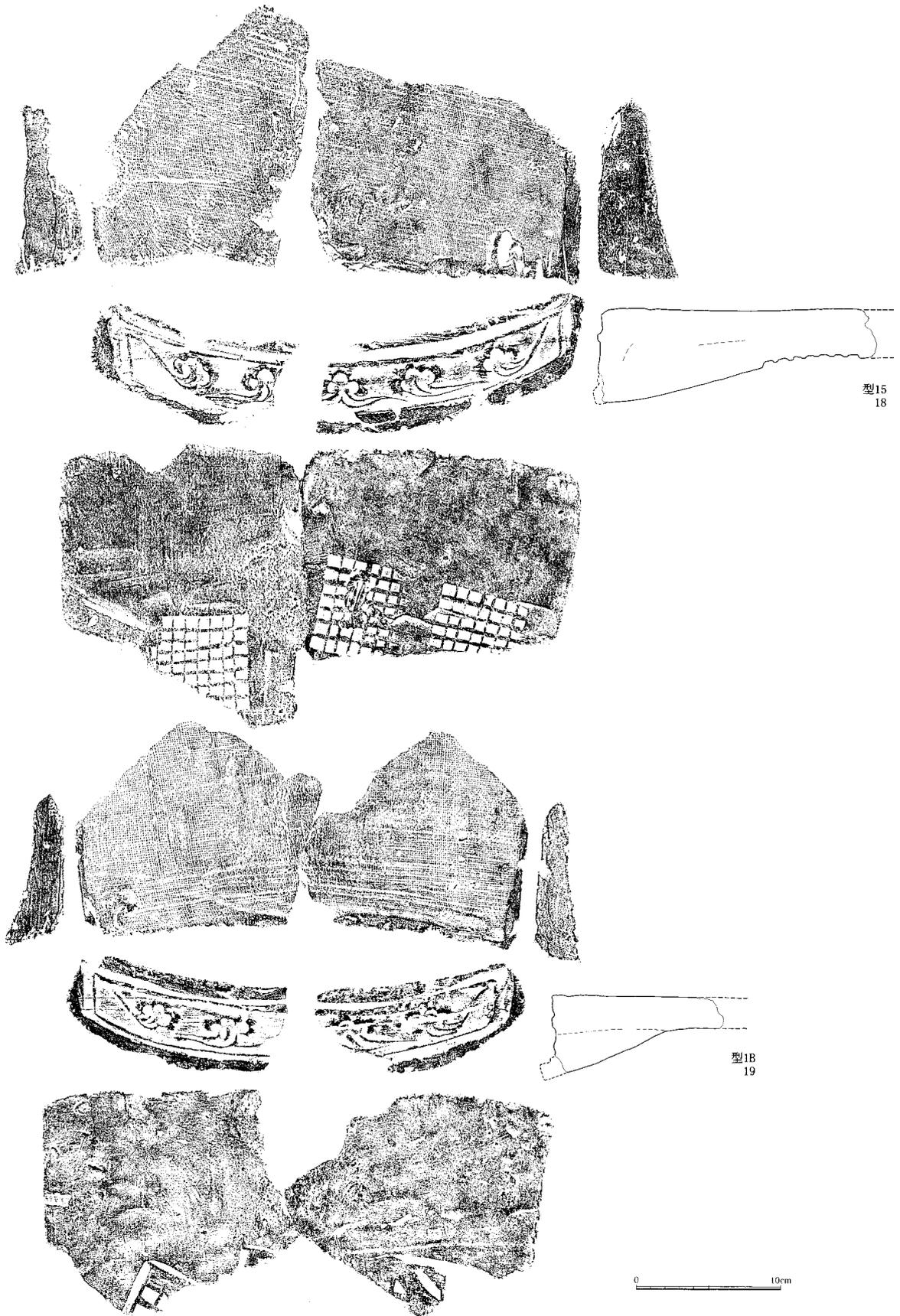
第73図 瓦実測図(30)



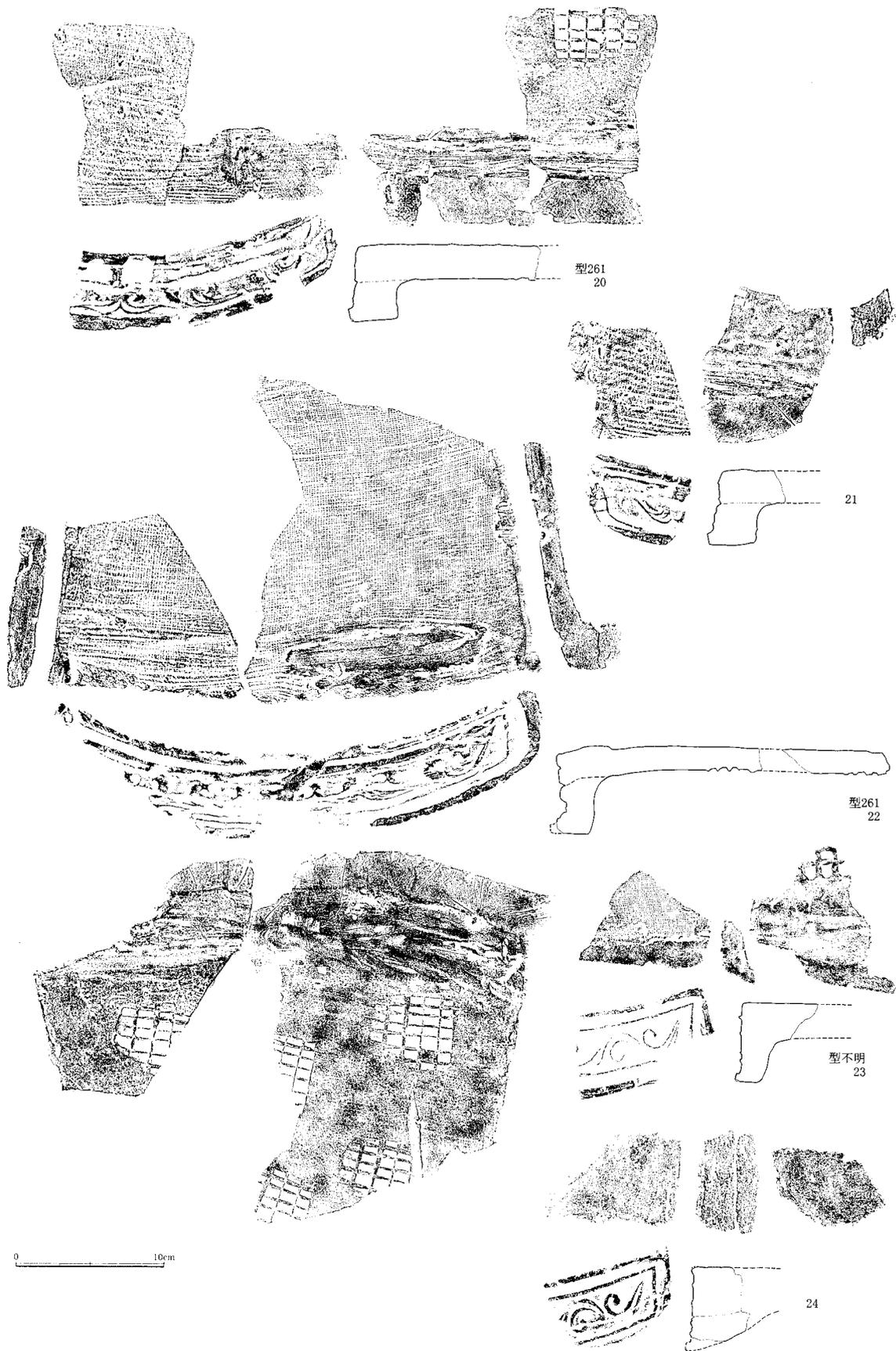
第74図 瓦実測図(31) —伽藍地出土(31)～(51)—



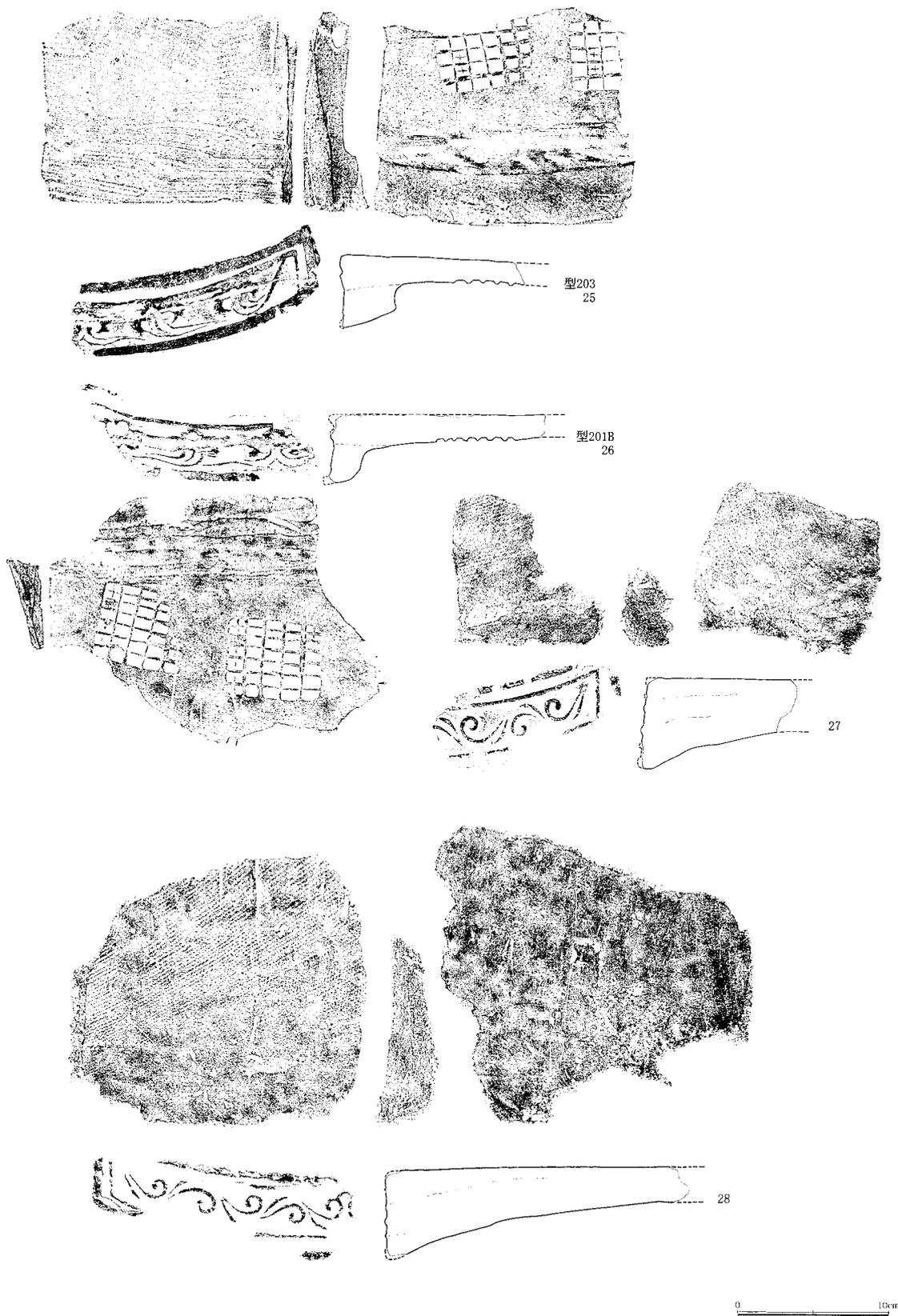
第75図 瓦実測図(32)



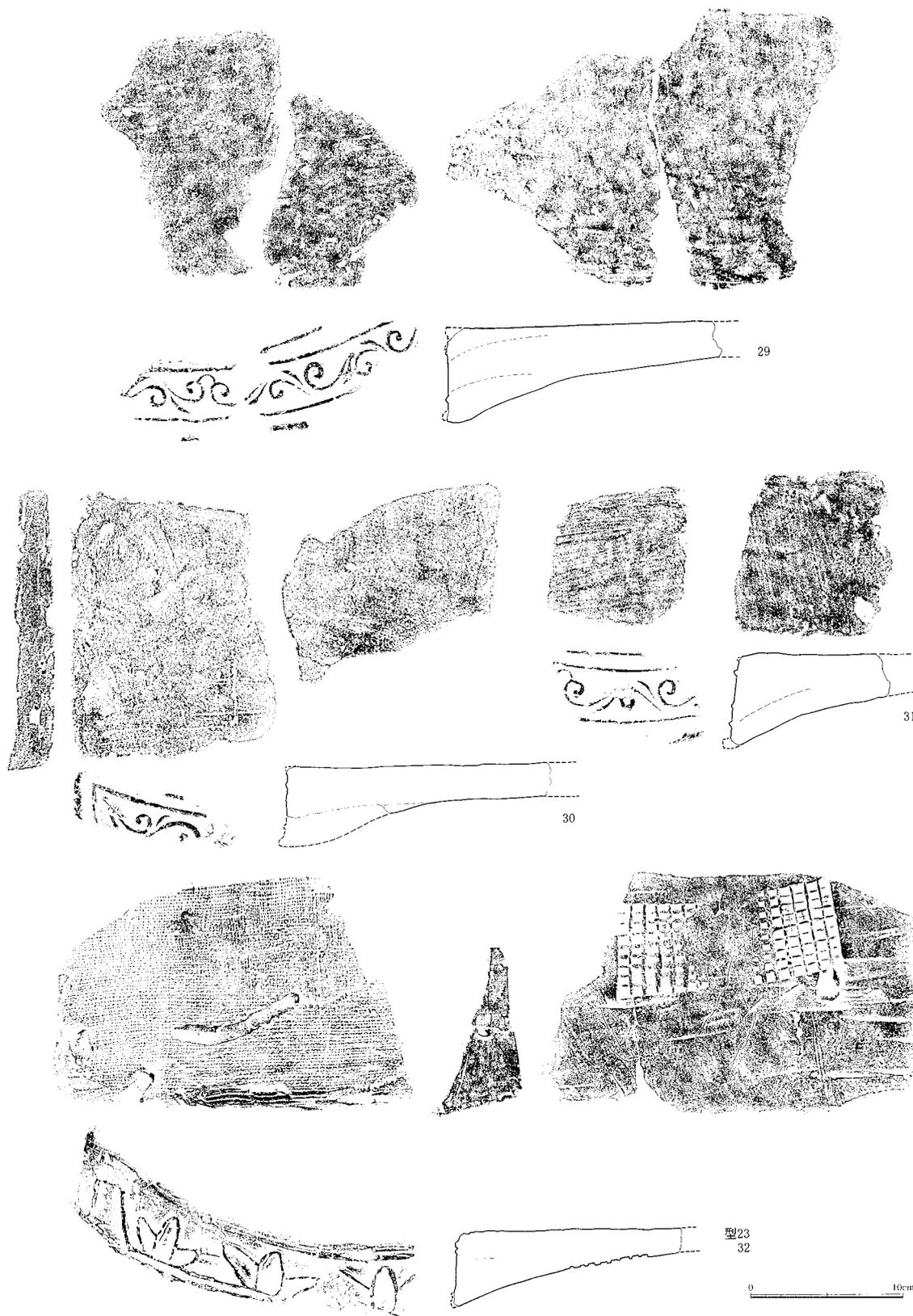
第76図 瓦実測図(33)



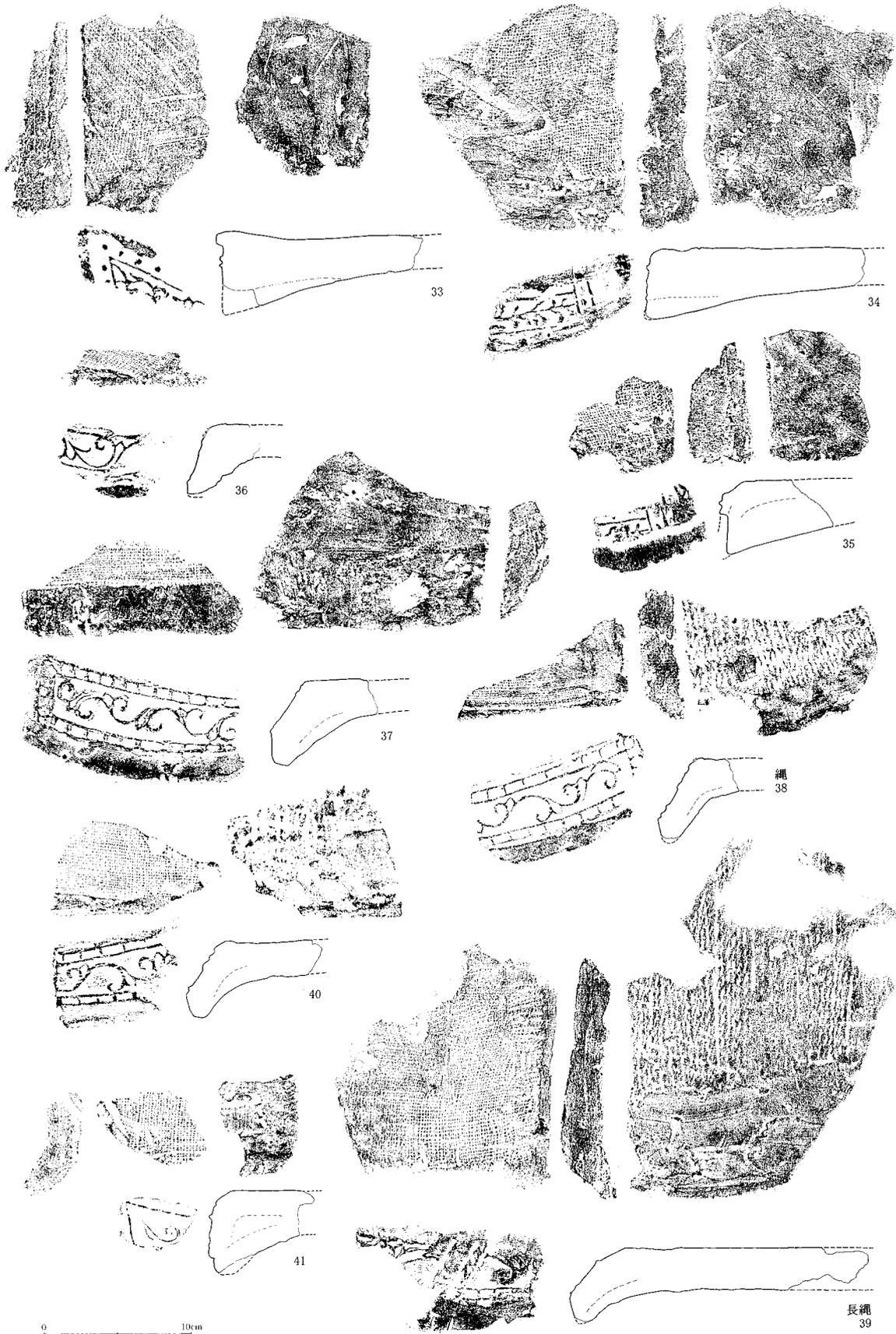
第77図 瓦実測図(34)



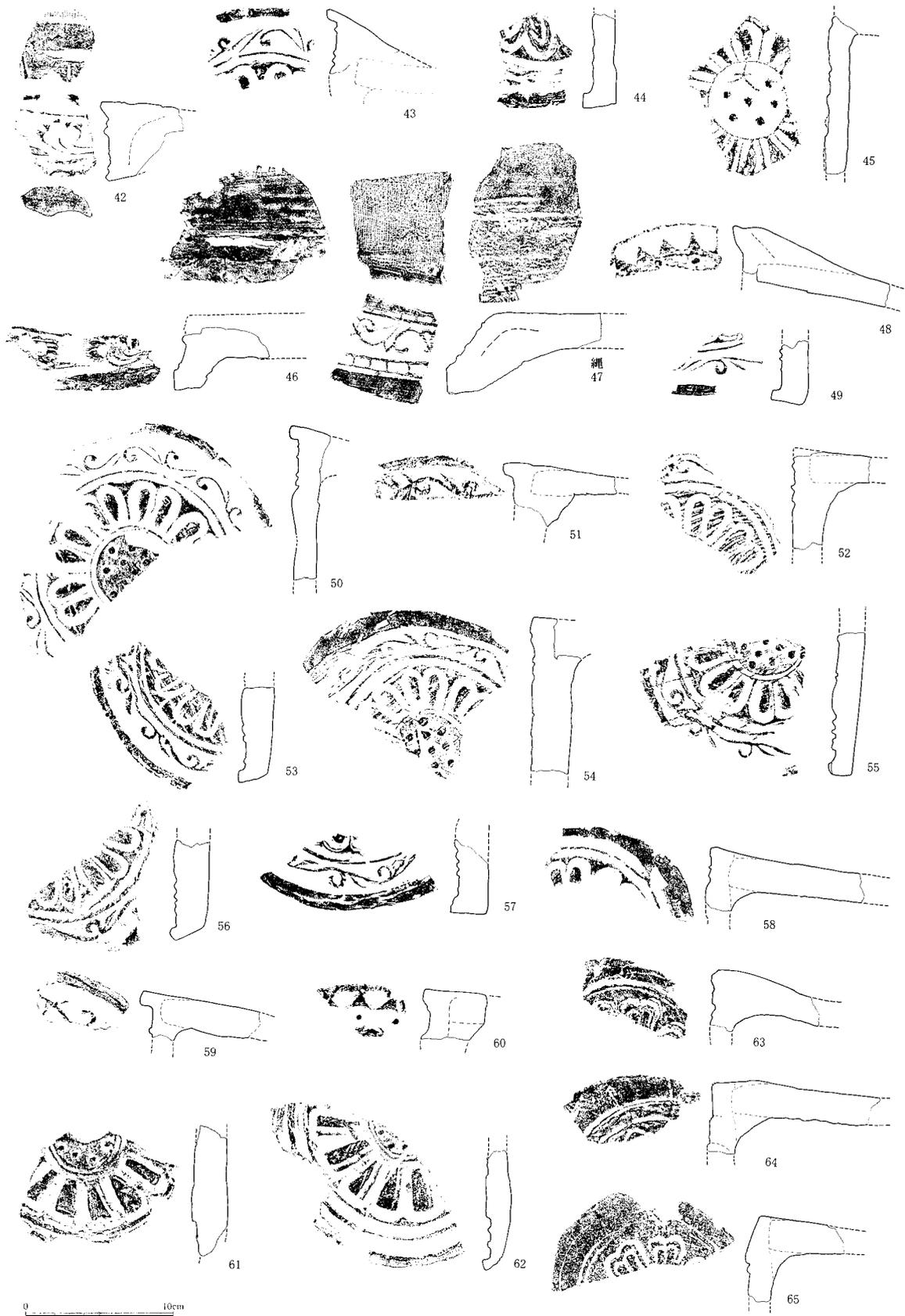
第78図 瓦実測図(35)



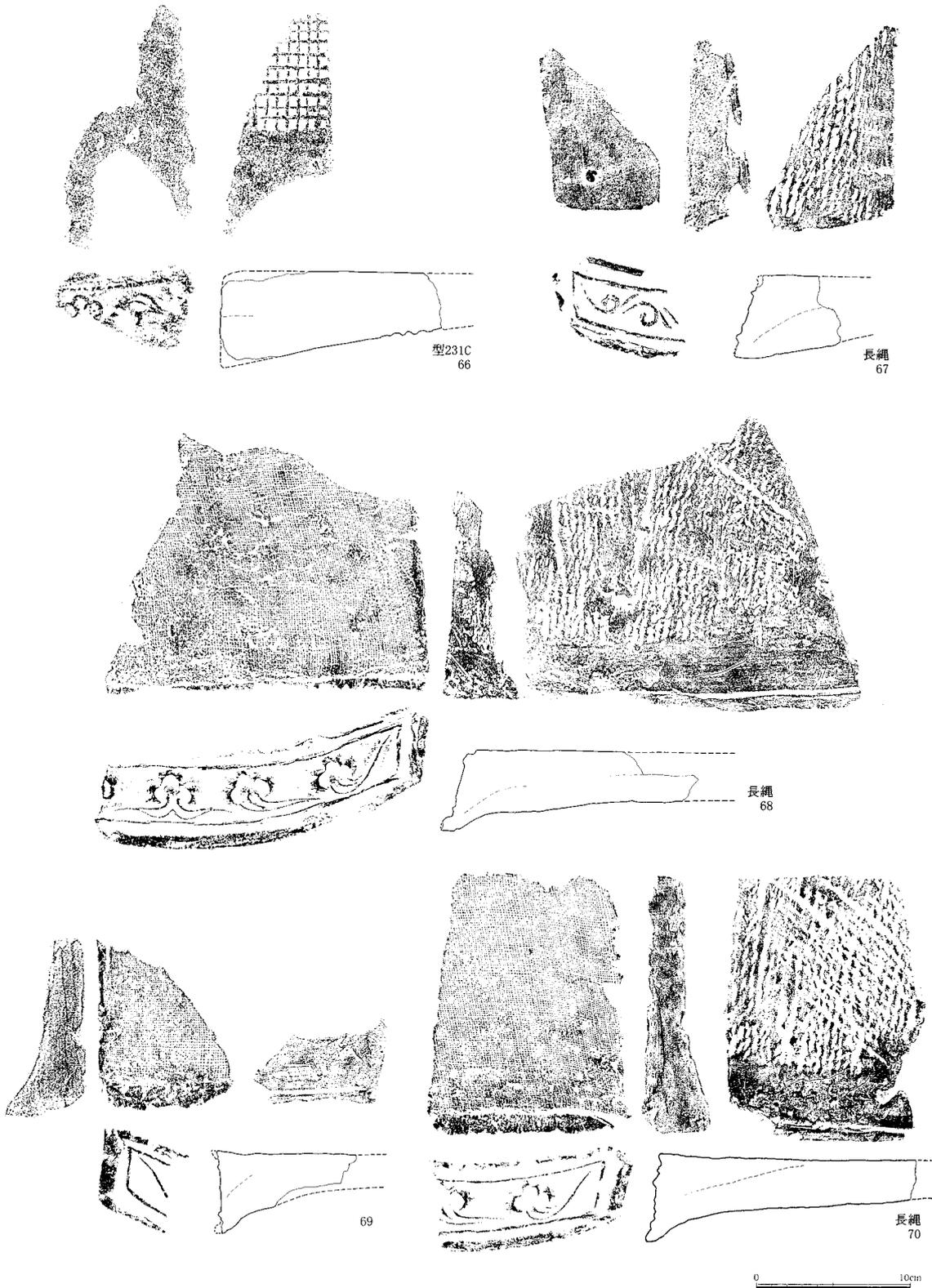
第79図 瓦実測図(36)



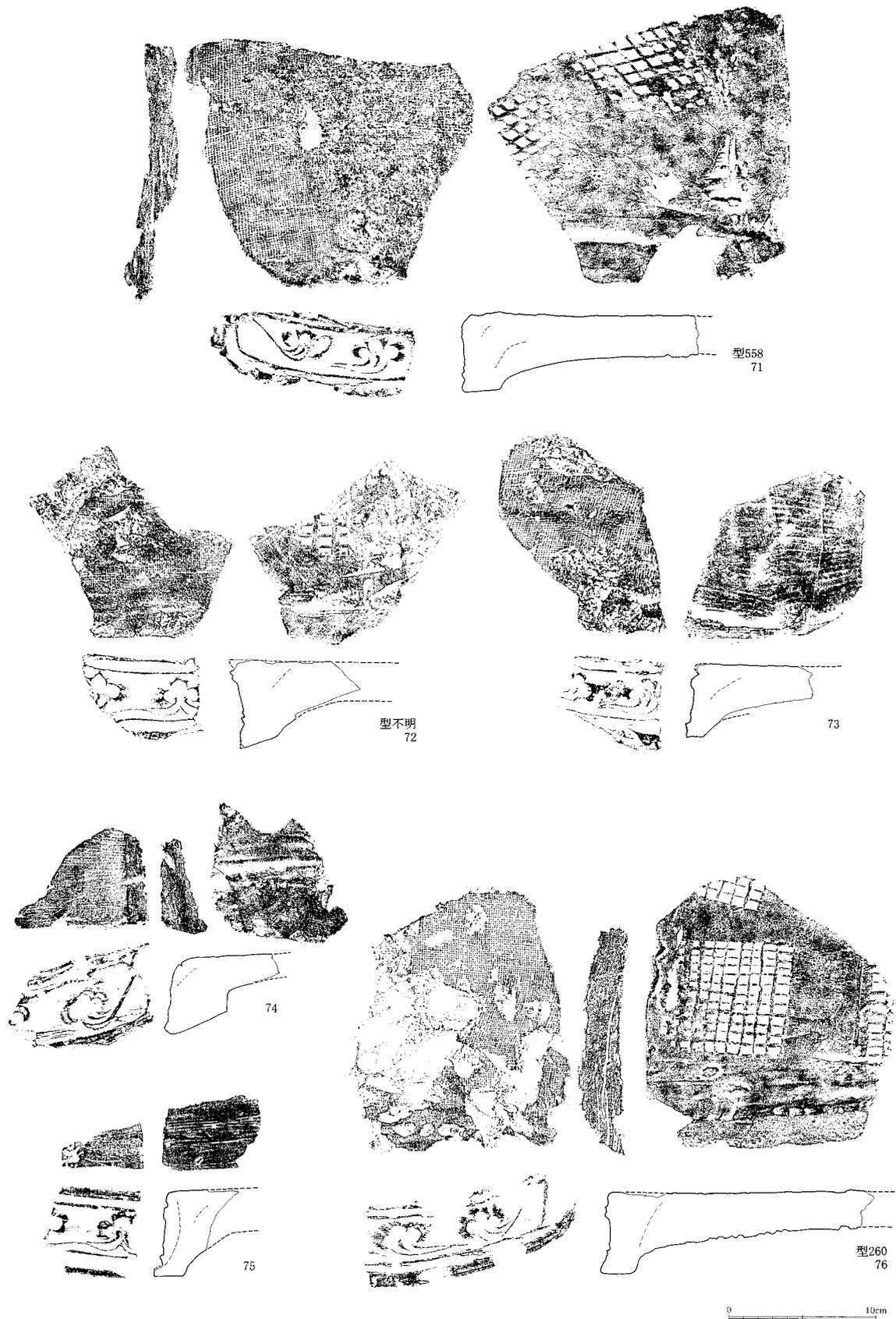
第80図 瓦実測図(37)



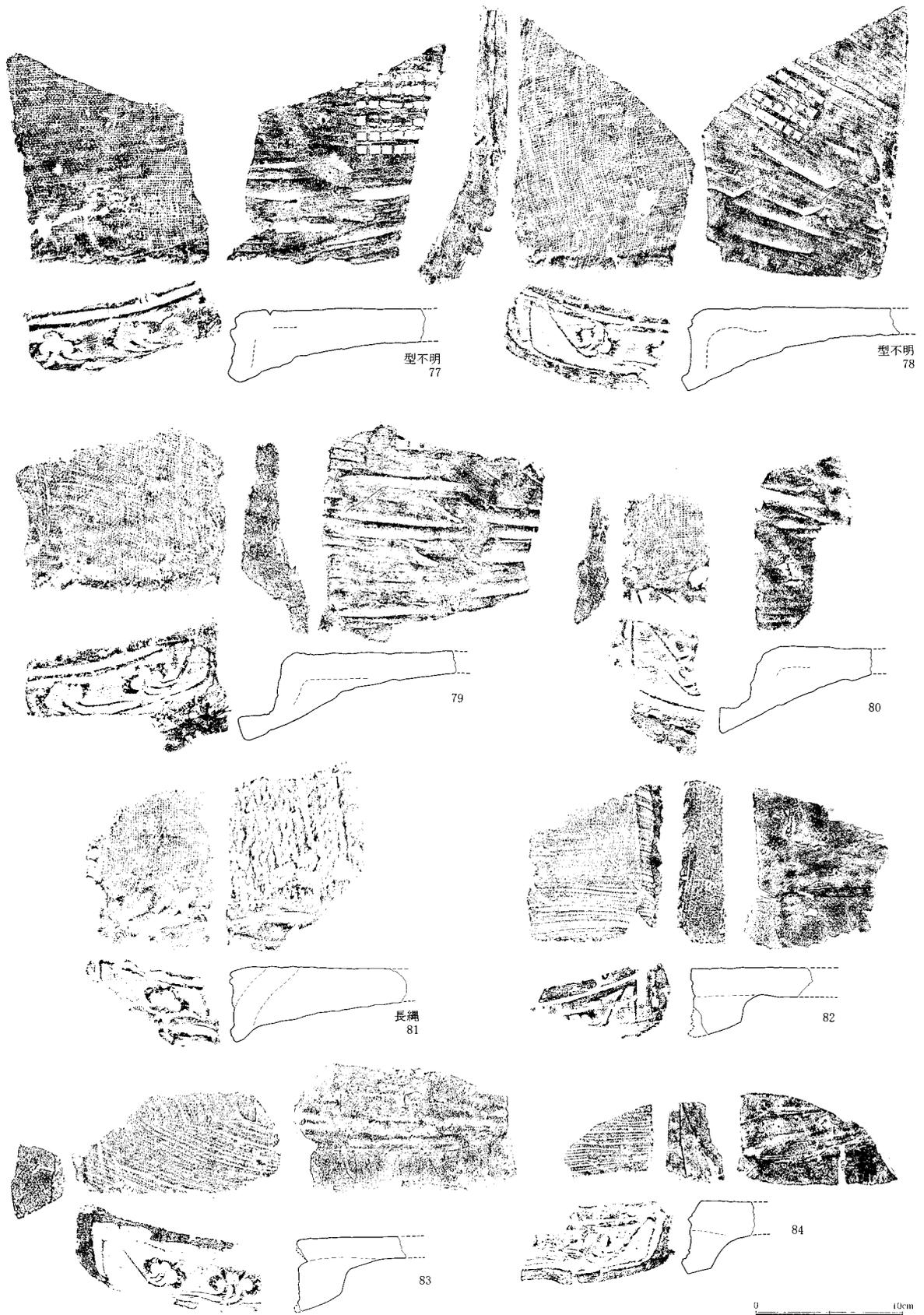
第81図 瓦実測図(38)



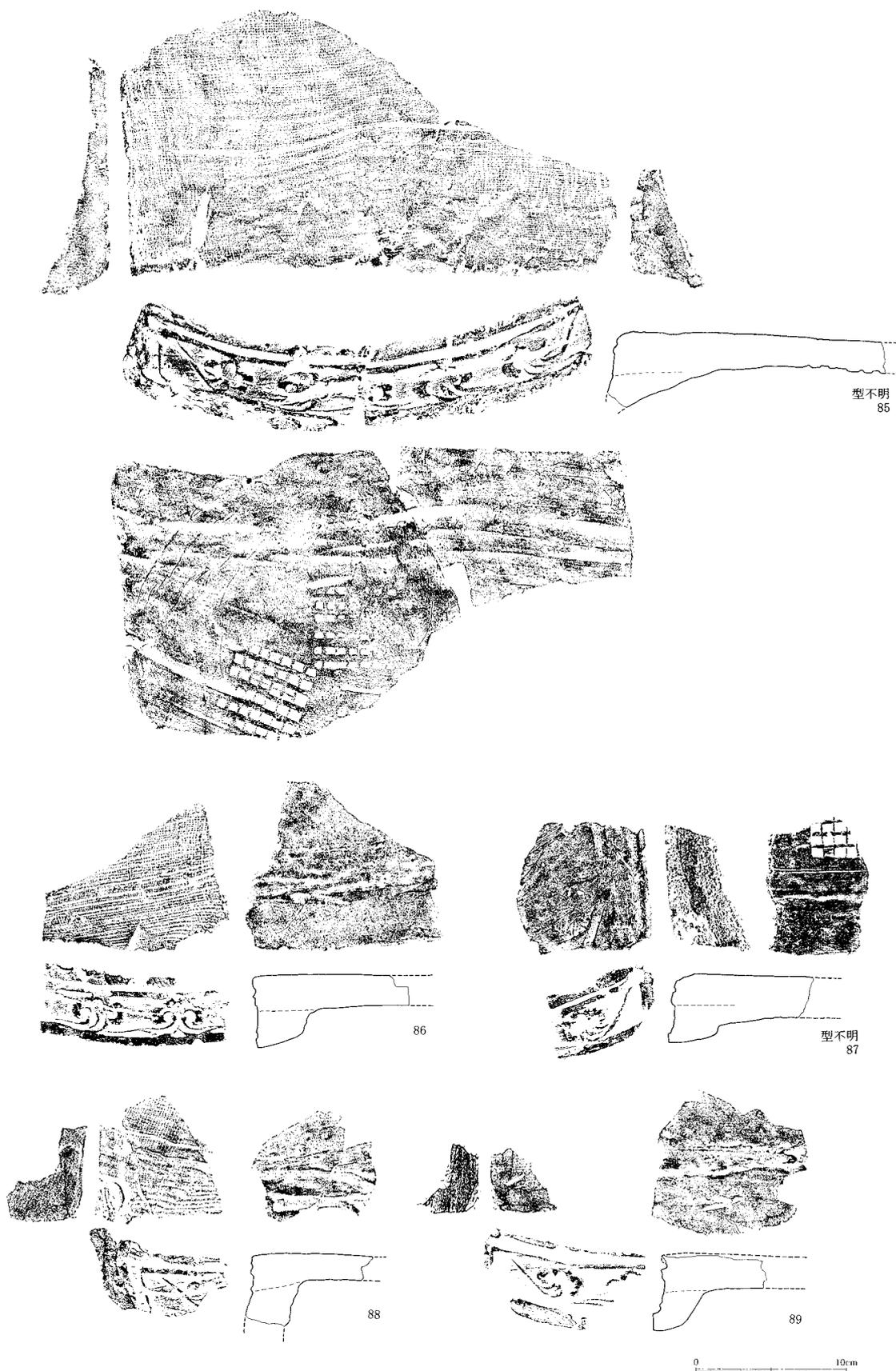
第82図 瓦実測図(39)



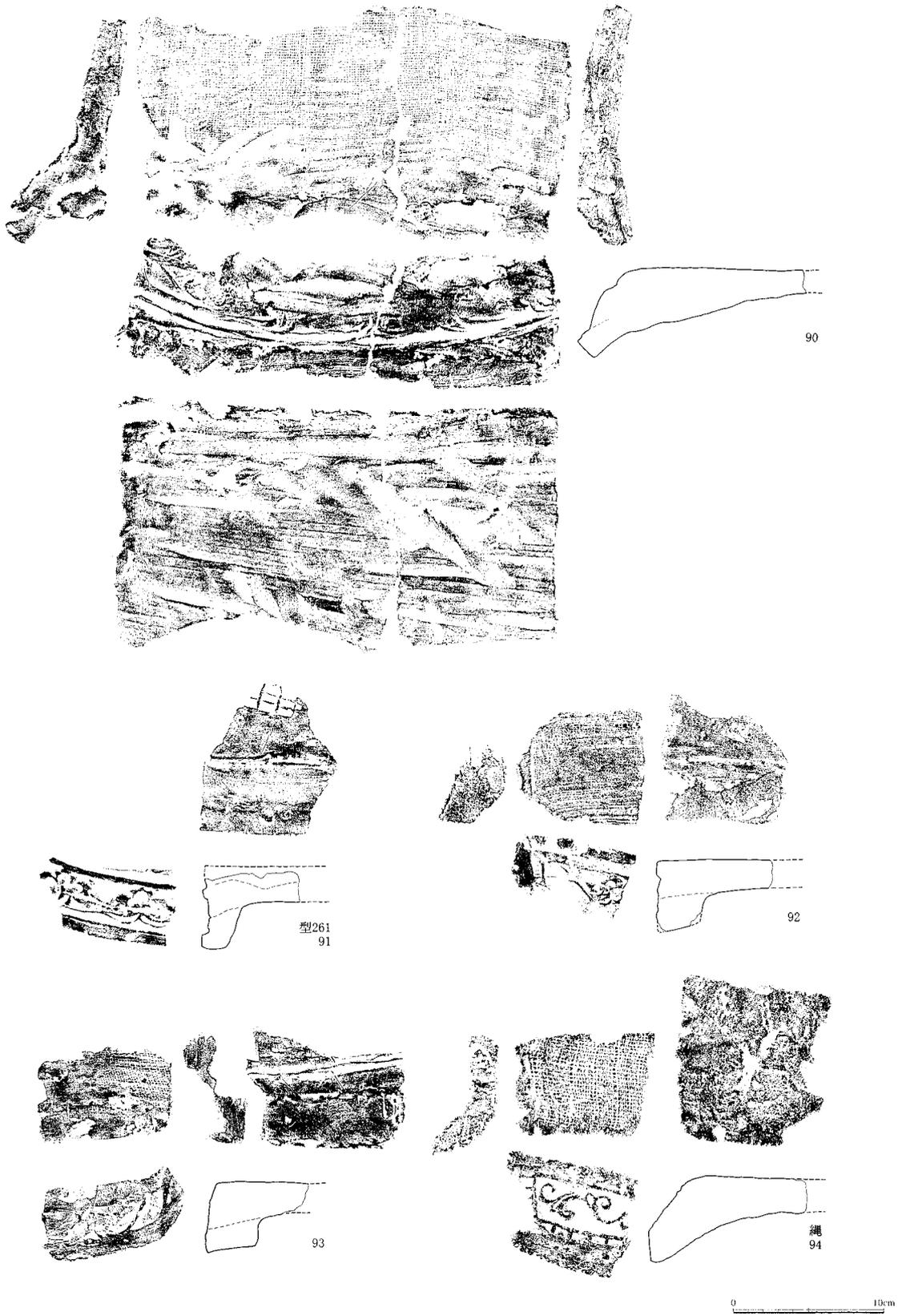
第83図 瓦実測図(40)



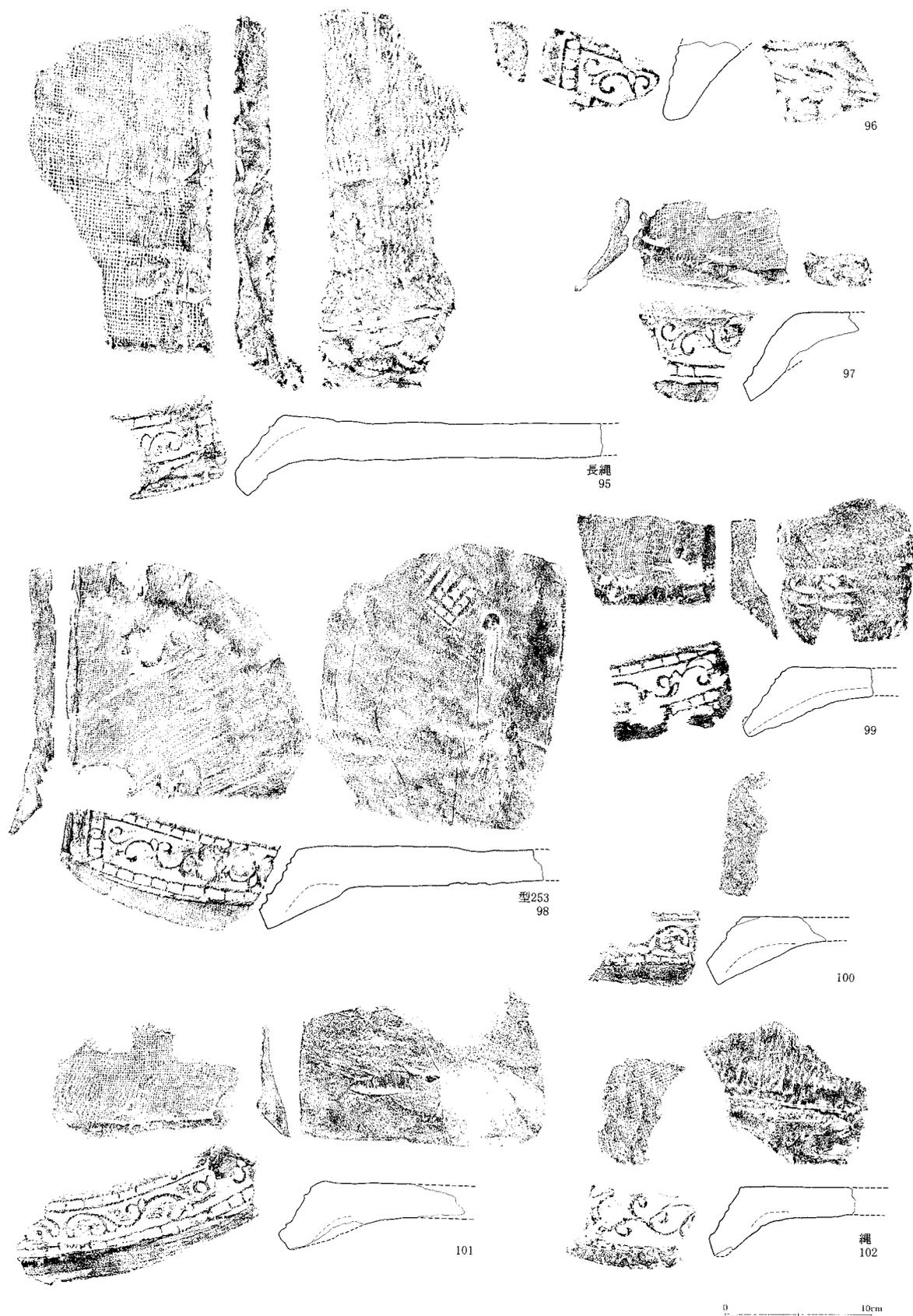
第84図 瓦実測図(41)



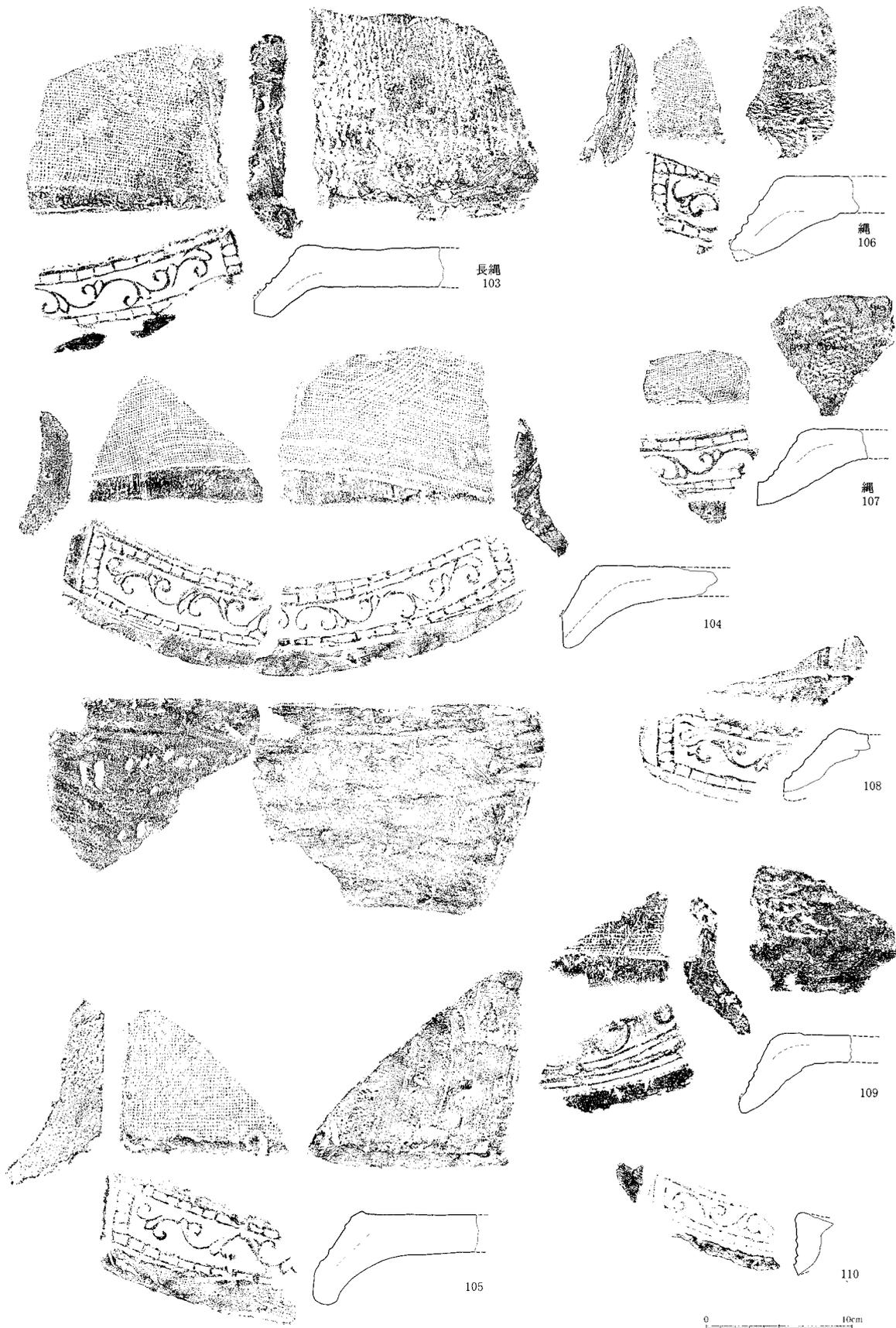
第85図 瓦実測図(42)



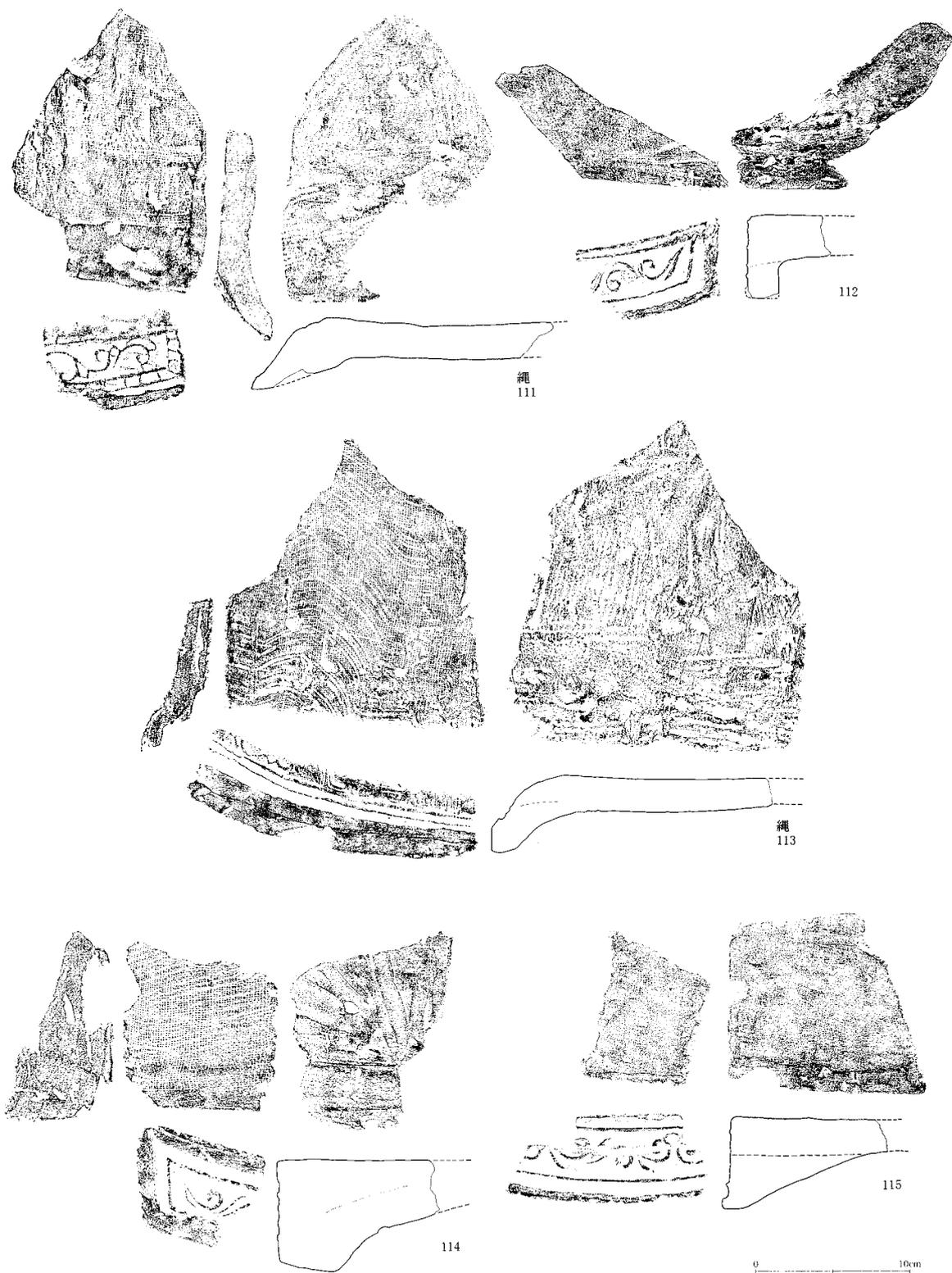
第86圖 瓦実測図(43)



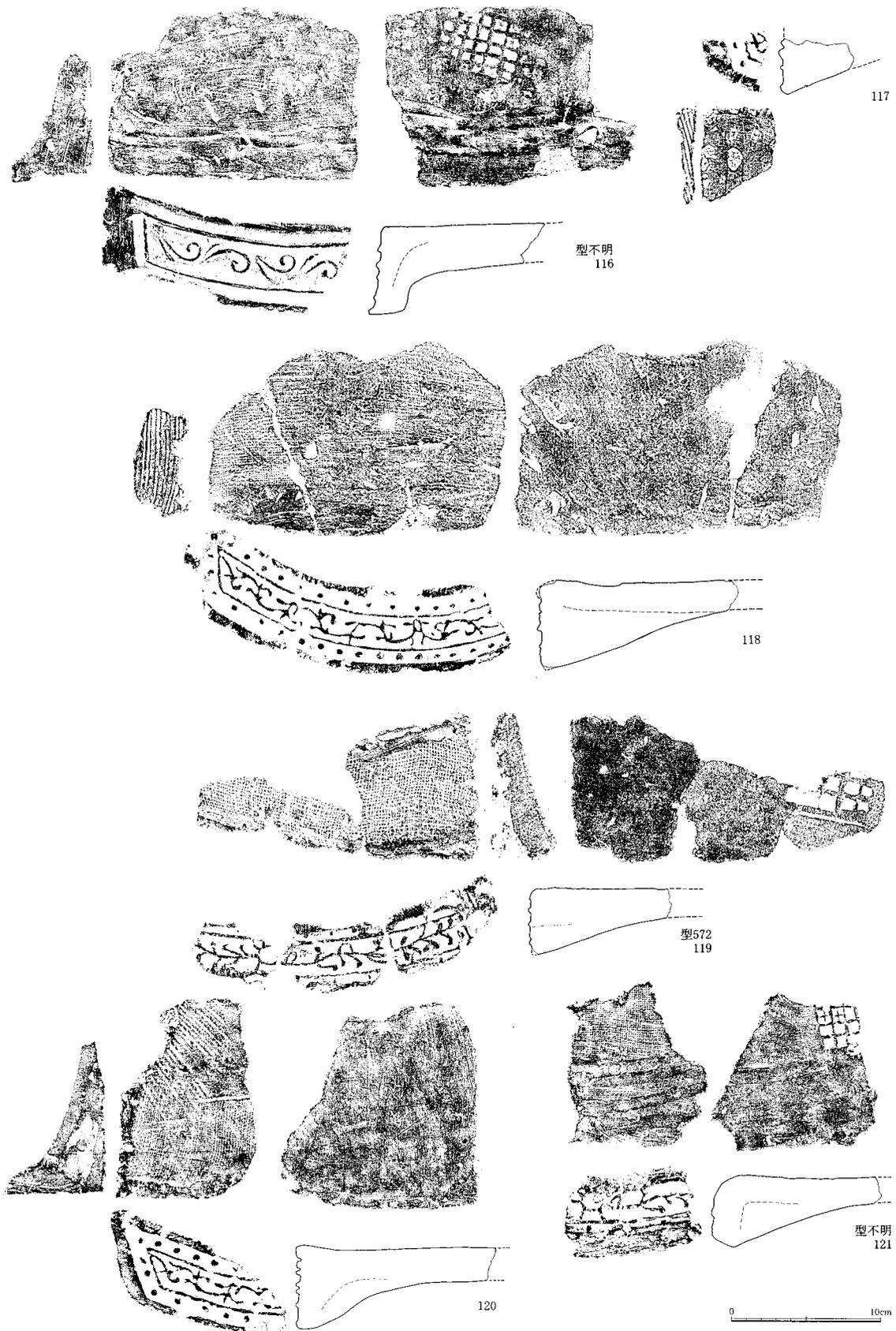
第87図 瓦実測図(44)



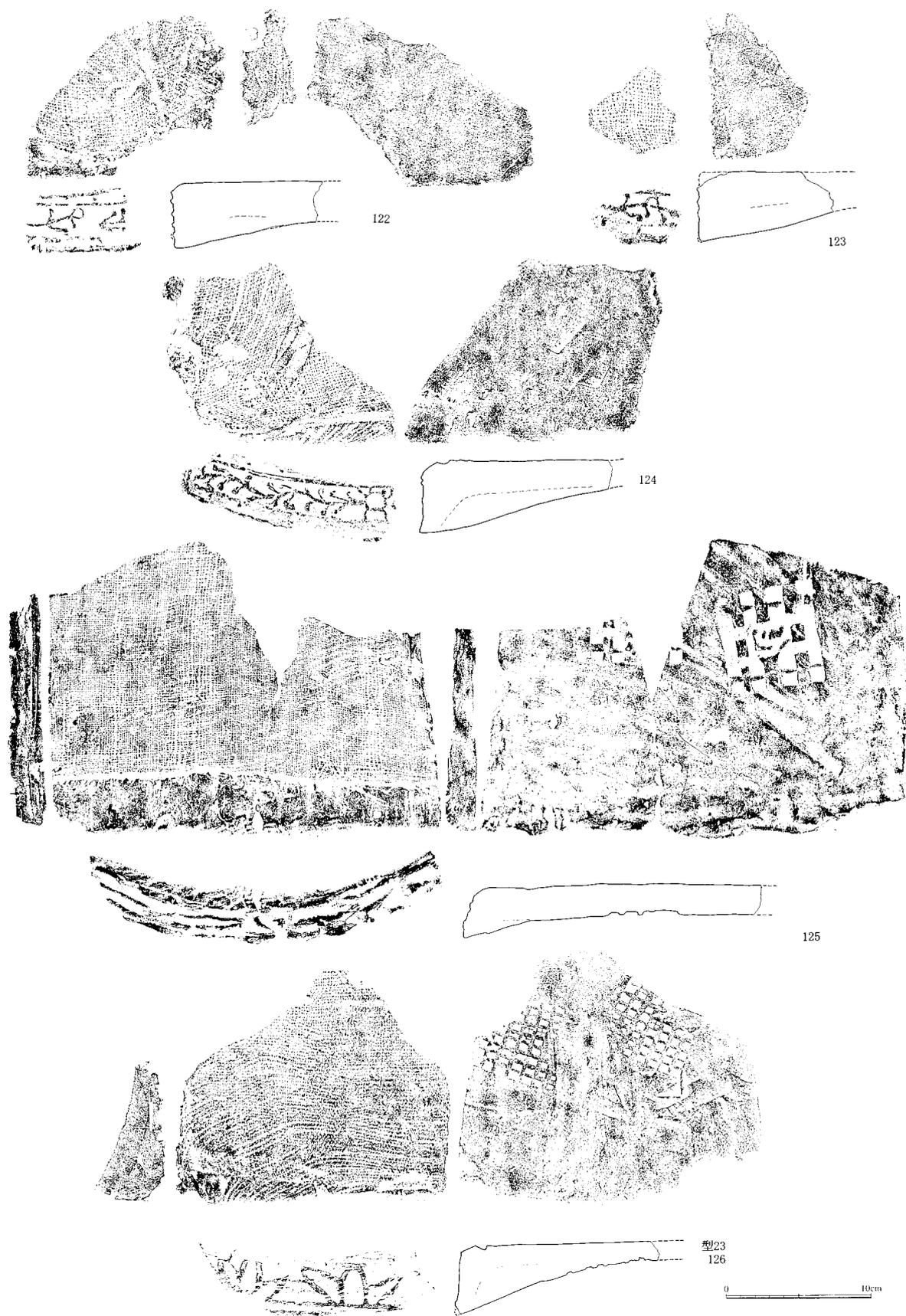
第88図 瓦実測図(45)



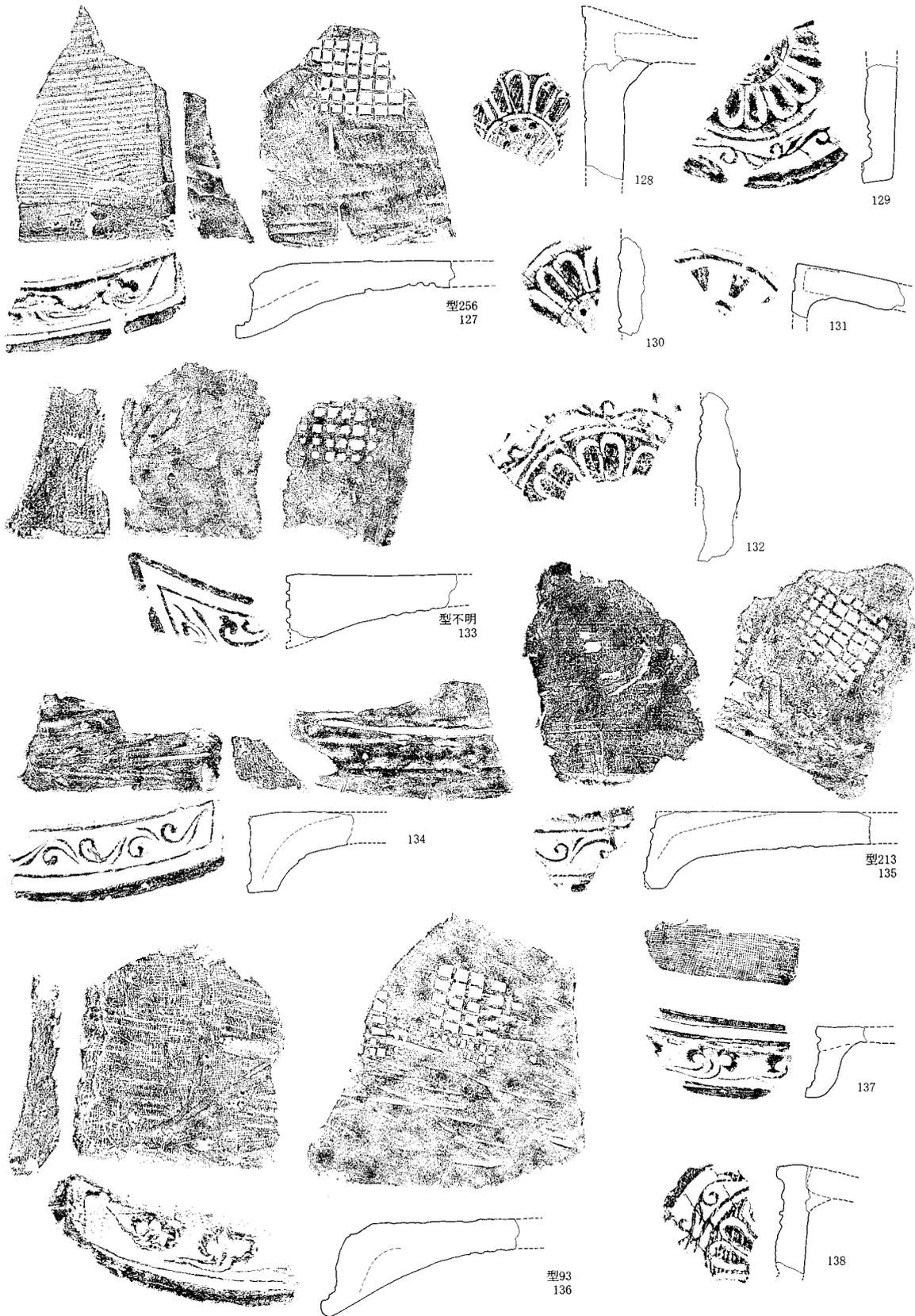
第89図 瓦実測図(46)



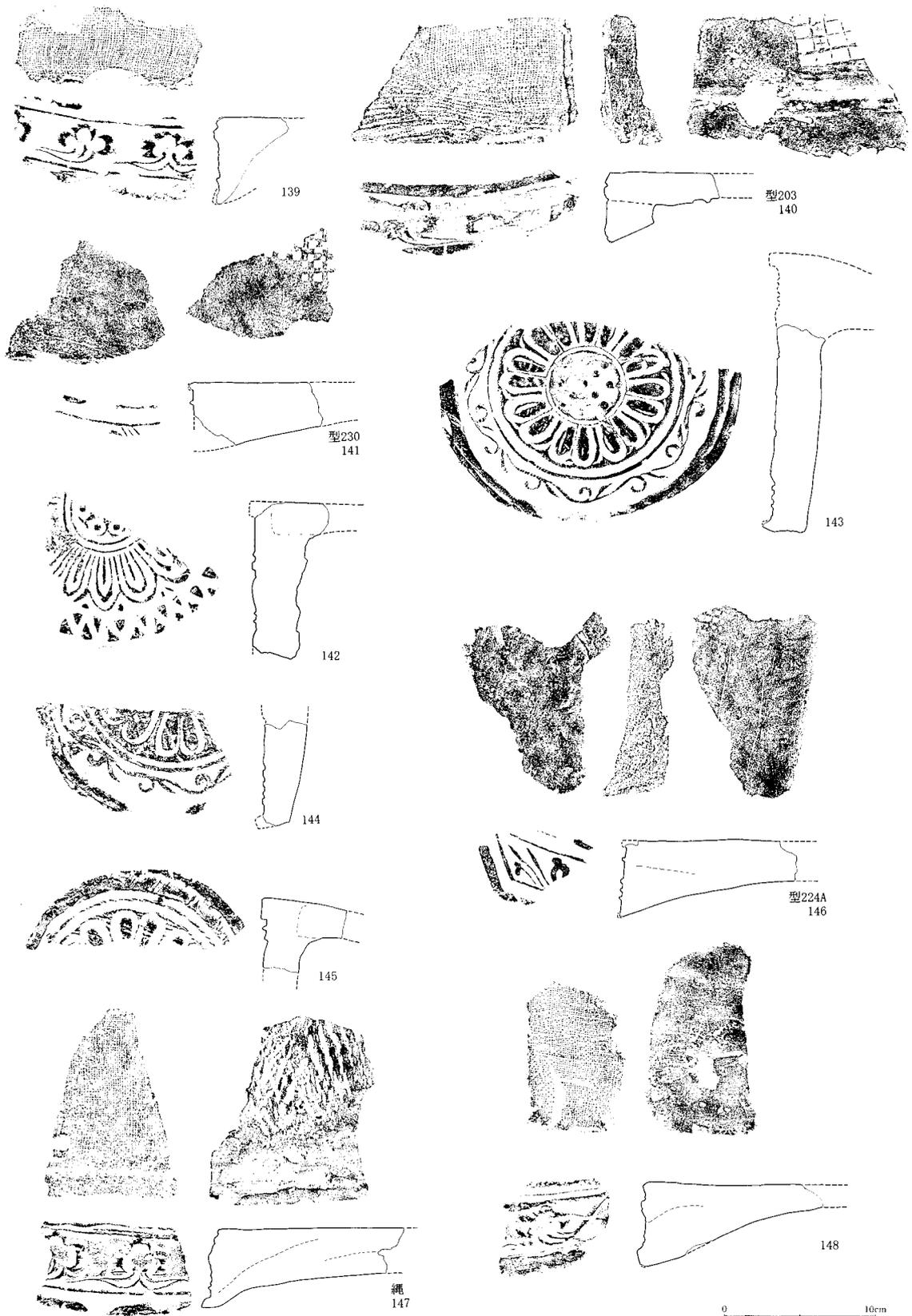
第90圖 瓦実測圖(47)



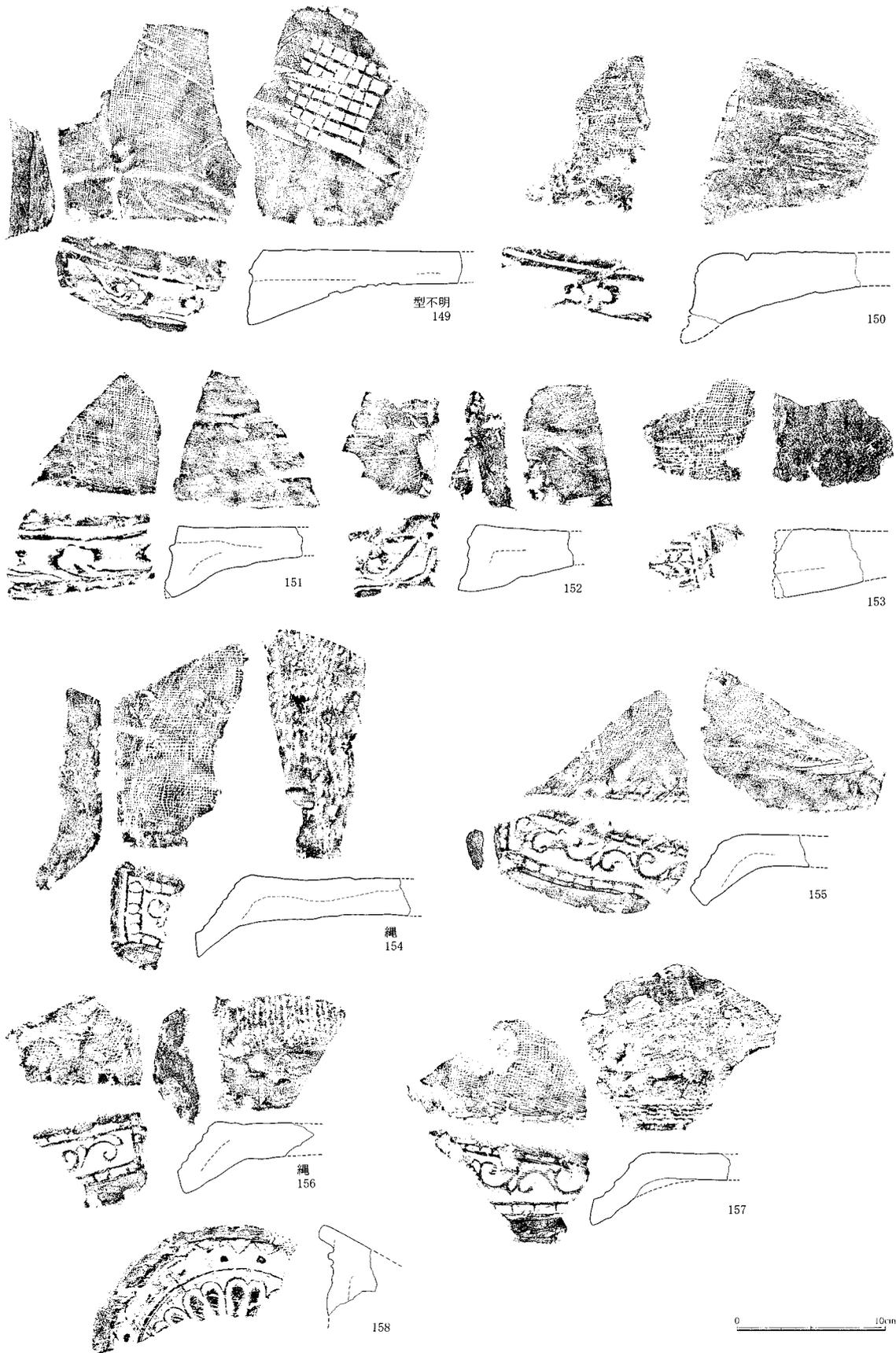
第91図 瓦実測図(48)



第92図 瓦実測図(49)



第93図 瓦実測図(50)

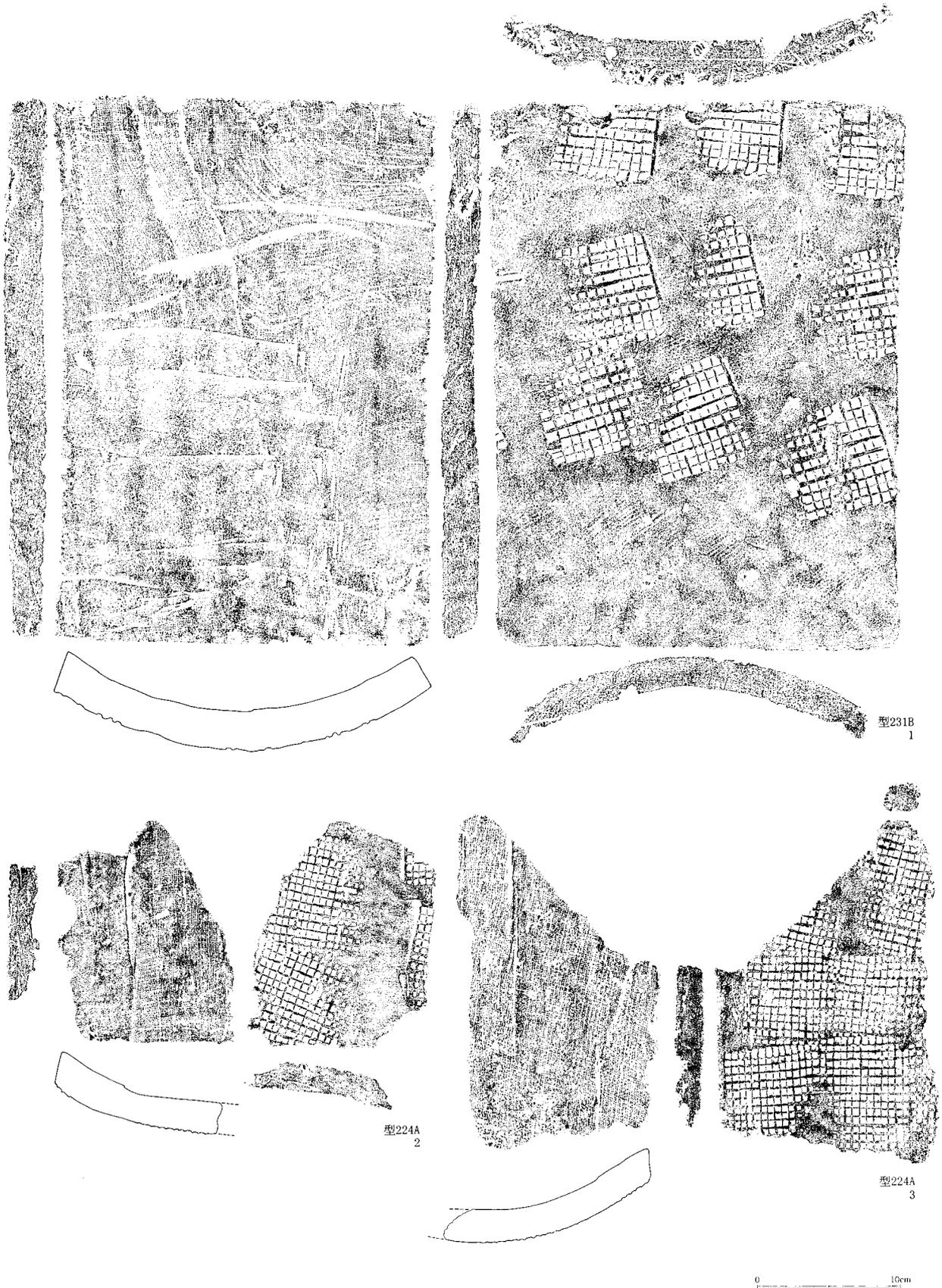


第94圖 瓦実測図(51)

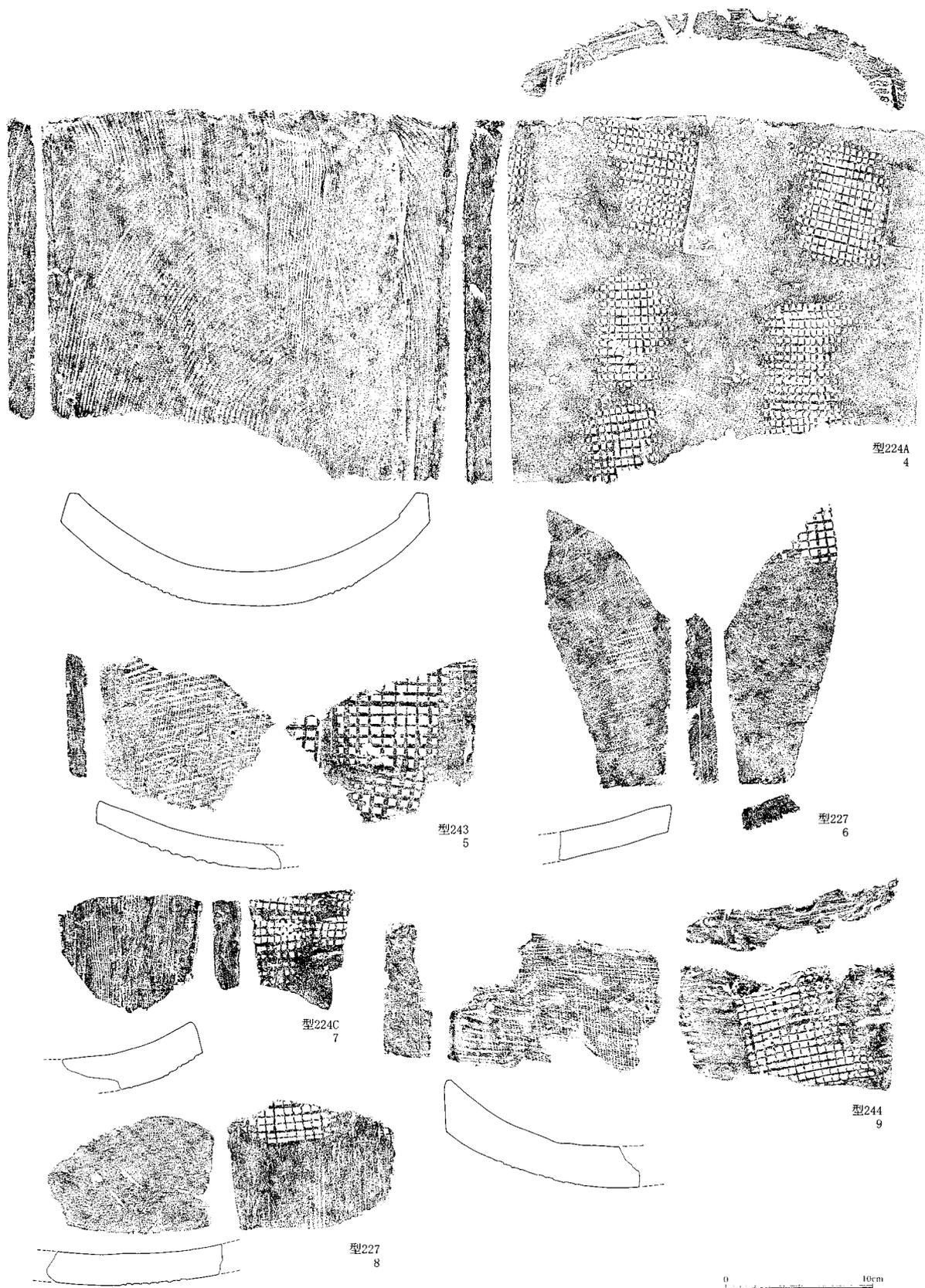
第4章 発見された遺物

番号	出土地	型式名	時期	80	回廊	宇瓦	4 F	1-2
1	金堂	鏡瓦 3 1	1-1	81	回廊	宇瓦	4 G	2-1
2	金堂基南東	鏡瓦 2 6	1-1	82	東回廊南東コーナー	宇瓦	4 H	2-2
3	金堂基西側北西部	鏡瓦 3 C	1-2	83	東回廊	宇瓦	4 H	2-2
4	金堂基南	鏡瓦 4	1	84	回廊	宇瓦	4 H	2-2
5	金堂東	鏡瓦 4 C	1-2	85	回廊	宇瓦	4 G	2-1
6	金堂西	鏡瓦 1 5	2	86	西回廊	宇瓦	4 H	2-2
7	金堂西	鏡瓦 2 9	不明	87	東回廊	宇瓦	4 H	2-2
8	金堂東半	鏡瓦 4	1	88	回廊	宇瓦	4 H	2-2
9	金堂基南	宇瓦 4 B	1-2	89	回廊金堂取付部	宇瓦	4 H	2-2
10	金堂基西	宇瓦 4 B	1-2	90	回廊	宇瓦	4 G	2-1
11	金堂基南東	宇瓦 4 B	1-2	91	回廊南東コーナー	宇瓦	4 H	2-2
12	金堂基北西	宇瓦 4 B	1-2	92	東回廊南東コーナー	宇瓦	4 H	2-2
13	金堂基外南東	宇瓦 4 B	1-2	93	回廊	宇瓦	4 H	2-2
14	金堂基北東	宇瓦 4 B	1-2	94	回廊	宇瓦	5 B	3-2
15	金堂基北東	宇瓦 4 D	1-2	95	回廊	宇瓦	5 B	3-2
16	金堂北	宇瓦 4 E	1-2	96	回廊	宇瓦	5 B	3-2
17	金堂基榭方中	宇瓦 4 G	2-1	97	中門西回廊	宇瓦	5 B	3-2
18	金堂基西	宇瓦 4 F	1-2	98	回廊	宇瓦	5 B	3-2
19	金堂基北西	宇瓦 4 G	2-1	99	西回廊	宇瓦	5 B	3-2
20	金堂基西	宇瓦 4 H	2-2	100	回廊南東コーナー	宇瓦	5 B	3-2
21	金堂基北西	宇瓦 4 H	2-2	101	回廊	宇瓦	5 B	3-2
22	金堂基北西	宇瓦 4 H	2-2	102	東回廊南東コーナー	宇瓦	5 B	3-2
23	金堂基北西	宇瓦 2 B	1-2	103	回廊	宇瓦	5 B	3-2
24	金堂基北西	宇瓦 1 2 B	1-2	104	西回廊	宇瓦	5 B	3-2
25	金堂北	宇瓦 4 H	2-2	105	回廊	宇瓦	5 B	3-2
26	金堂基北西	宇瓦 4 H	2-2	106	回廊南東	宇瓦	5 C	3-2
27	金堂	宇瓦 1 2 B	1-2	107	回廊南東コーナー	宇瓦	5 C	3-2
28	金堂基北西	宇瓦 1 2 B	1-2	108	回廊西	宇瓦	5	3
29	金堂基	宇瓦 1 2 Bか	1-2	109	回廊	宇瓦	6 A	3-1
30	金堂基北西	宇瓦 1 2 B	1-2	110	回廊	宇瓦	6 A B C いずれかは不明	3
31	金堂基南	宇瓦 1 2 Bか	1-2	111	回廊	宇瓦	5 C	3-2
32	金堂基外北西コーナー	宇瓦 8 A	1-2~2-1	112	回廊金堂取付部	宇瓦	1 2	1
33	金堂基南	宇瓦 1 5	1	113	西回廊	宇瓦	6 C	3-2
34	金堂基北東	宇瓦 1 4	2	114	回廊	宇瓦	1 2 C	1-2
35	金堂南東・東	宇瓦 1 4	2	115	回廊	宇瓦	1 2 B	1-2
36	金堂東半	宇瓦 6 A	3-1	116	回廊	宇瓦	1 2 C	1-2
37	金堂	宇瓦 5 B	3-2	117	回廊南東	宇瓦	1 5	1
38	金堂	宇瓦 5 B	3-2	118	東回廊北	宇瓦	1 5	1
39	金堂西	宇瓦 6 B	3-2	119	回廊	宇瓦	1 4	2
40	南門南東	宇瓦 5 B	3-2	120	金堂回廊	宇瓦	1 5	1
41	南門	宇瓦 2 B	1-2	121	金堂回廊西	宇瓦	1 4	2
42	南門	宇瓦 4 C	1-2	122	回廊	宇瓦	1 4	2
43	中門	鏡瓦 3	1	123	南西回廊	宇瓦	1 4	2
44	中門	鏡瓦 2 1	2-1	124	西回廊	宇瓦	1 4	2
45	中門	鏡瓦 1 1	2-2	125	回廊	宇瓦	1 6	3-1
46	中門付近	宇瓦 4 H	2-2	126	回廊	宇瓦	8 A	1-2~2-1
47	中門	宇瓦 5 C	3-2	127	講堂	宇瓦	4 G	2-1
48	回廊	鏡瓦 2 6	1-1	128	経蔵	鏡瓦	4 D	2-1
49	回廊	鏡瓦 3 C	1-2	129	経蔵	鏡瓦	4 D	2-1
50	回廊	鏡瓦 3 C	1-2	130	経蔵	鏡瓦	4 D	2-1
51	回廊	鏡瓦 4 D	2-1	131	経蔵	鏡瓦	2 8	3-2
52	回廊	鏡瓦 4 D	2-1	132	経蔵	鏡瓦	4 C	1-2
53	回廊	鏡瓦 4 D	2-1	133	経蔵	宇瓦	1	1-1
54	回廊	鏡瓦 4 D	2-1	134	経蔵	宇瓦	2	1
55	回廊金堂取付部	鏡瓦 4 D	2-1	135	経蔵	宇瓦	2	1
56	回廊	鏡瓦 4 D	2-1	136	経蔵	宇瓦	4 G	2-1
57	回廊金堂取付部	鏡瓦 4	1	137	経蔵	宇瓦	4 H	2-2
58	回廊金堂取付部	鏡瓦 1 5	2	138	鐘楼	鏡瓦	4 D	2-1
59	回廊	鏡瓦 7 か	2-1	139	鐘楼	宇瓦	4 B	1-2
60	回廊	鏡瓦 2 6	1-1	140	鐘楼	宇瓦	4 H	2-2
61	回廊	鏡瓦 1 8	2-1	141	鐘楼	宇瓦	1	1-1
62	西回廊	鏡瓦 1 8	2-1	142	僧房東	鏡瓦	2 4	1-2
63	回廊金堂取付部	鏡瓦 2 9	不明	143	僧房北拡張部	鏡瓦	4 B	1-2
64	回廊	鏡瓦 2 9	不明	144	僧房	鏡瓦	4 C	1-2
65	東回廊南東コーナー	鏡瓦 2 9	不明	145	僧房址 2 tre	鏡瓦	1 5	2
66	回廊南東コーナー	宇瓦 2 A	1-1	146	僧房	宇瓦	1	1-1
67	西回廊北	宇瓦 3 B	1-2	147	僧房	宇瓦	4 B	1-2
68	回廊南東コーナー	宇瓦 4 B	1-2	148	僧房	宇瓦	4 G	2-1
69	回廊南東	宇瓦 4 B	1-2	149	僧房	宇瓦	4 G	2-1
70	回廊	宇瓦 4 B	1-2	150	僧房	宇瓦	4 G	2-1
71	回廊	宇瓦 4 B	1-2	151	僧房	宇瓦	4 G	2-1
72	回廊金堂取付部	宇瓦 4 B	1-2	152	僧房	宇瓦	4 F	1-2
73	西回廊	宇瓦 4 B	1-2	153	僧房址	宇瓦	1 4	2
74	中門西回廊	宇瓦 4 C	1-2	154	僧房	宇瓦	5 B	3-2
75	回廊	宇瓦 4 C	1-2	155	僧房	宇瓦	5 B	3-2
76	回廊	宇瓦 4 C	1-2	156	僧房	宇瓦	5 B	3-2
77	回廊	宇瓦 4 F	1-2	157	僧房	宇瓦	5 C	3-2
78	回廊	宇瓦 4 F	1-2	158	遺構外	鏡瓦	1 3	1-1
79	回廊	宇瓦 4 F	1-2					

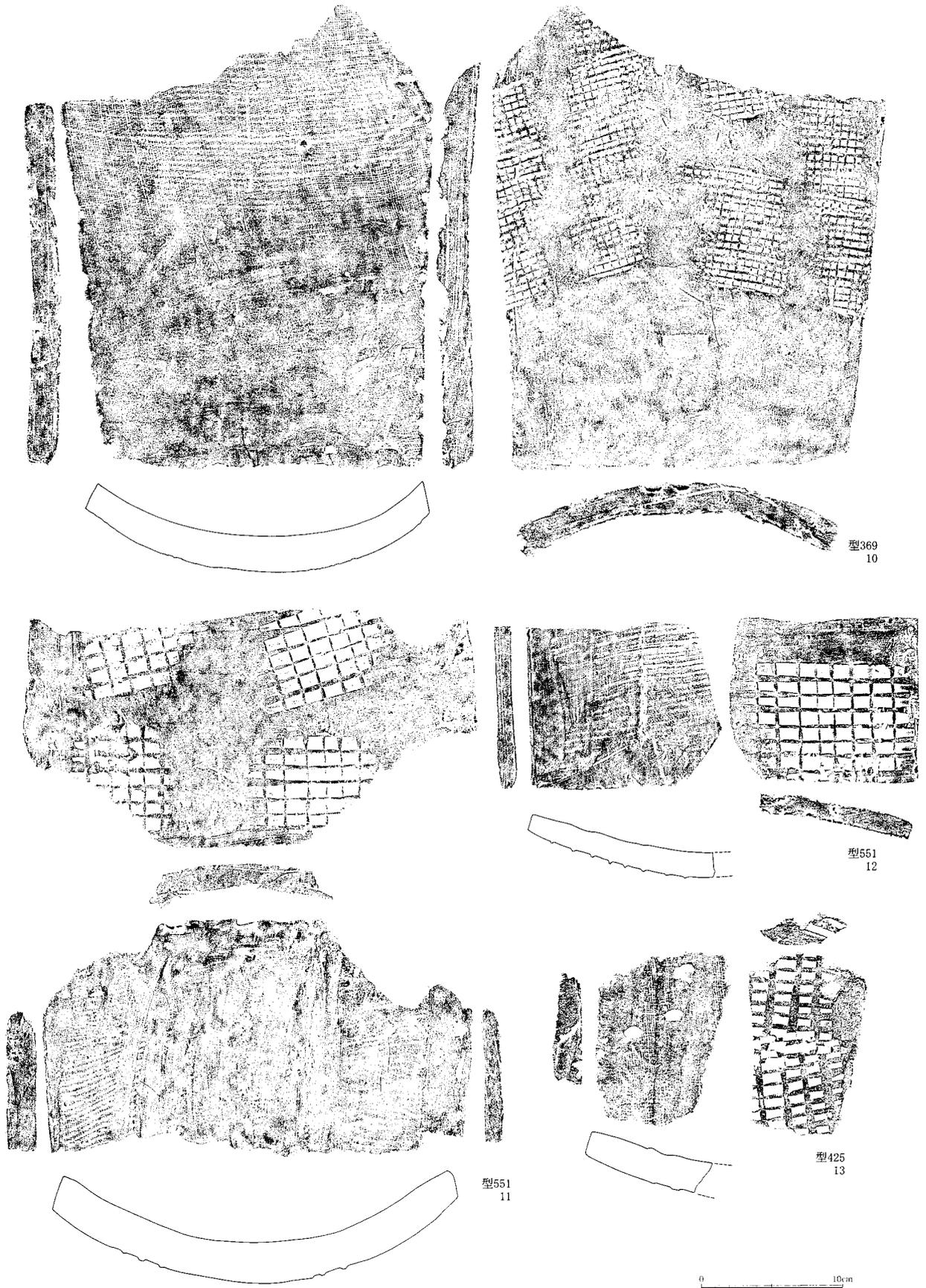
第4表 伽藍地出土実測瓦一覽表 (第74~94 図対応)



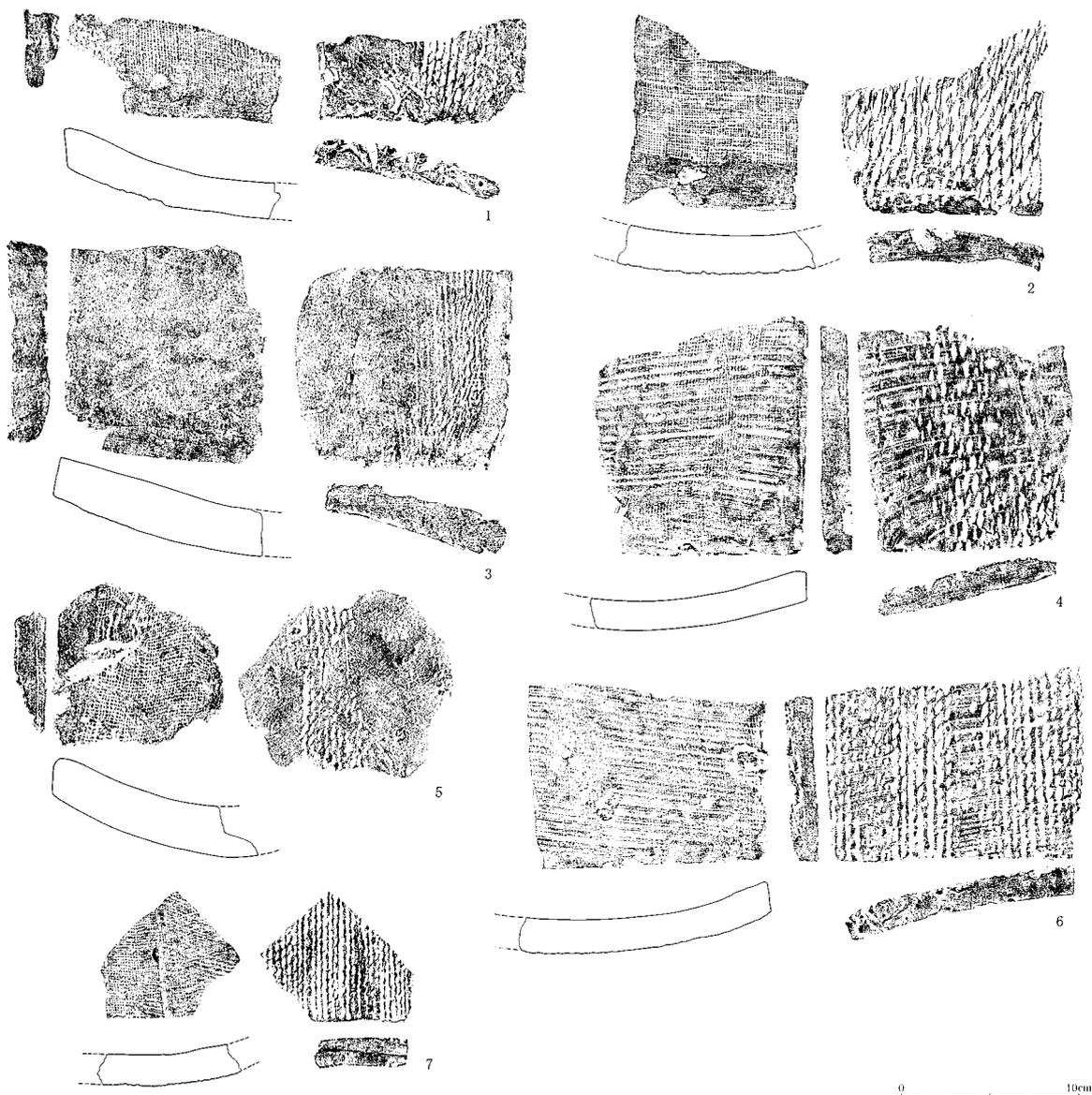
第95図 瓦実測図(52)



第96図 瓦実測図(53)



第97圖 瓦実測図(54)



第98図 瓦実測図 (55)

時期 型式	1		1-2		1-2 ~ 2-1		2		2-1		2-2		3		3-1		不明	
	3			C	8													
4	3		B	10			D	15										
			C	7												A	1	
5																		
7									1									
11										2								
12					1													
13		1																
15							3											
21								2										
25	1													1				
26		2																
29																		5
31		1																
不明																		6
計	3	4	25	1	3	18	2	1	1									11

第5表 伽藍地遺構外出土鏡瓦集計表

時期 型式	1		1-2		1-2 ~ 2-1		2		2-1		2-2		3		3-1		3-2		不明	
	2			A	1	B	12													
4			A	3	B	13			G	18	H	27								
					C	4														
					D	2														
					E	2														
					F	13														
5													1					B	16	
																		C	9	
6																		B	1	
																		C	5	
8									A	2										
12										B	7									
										C	7									
14																				
15	1										8									
他																				
不明																				
計	1	4	60	2	8	18	27	1										31	7	

第6表 伽藍地遺構外出土宇瓦集計表

胎土や型押文の型式から水道山窯産と判断できる資料が一定数確認できるようになってきた。ここでは、その一部について提示し、尼寺の堂宇創建が国分寺1-1期に遡ることの証左としたい。

1は尼寺北方の畑から出た女瓦で型押文231Bで叩き、狭端部側に横方向削りを施す。2は型押文224Aで、第2次SD-301出土。凹面は模骨痕があり、縦方向に削を加える。3は型押文224Aで叩き、凹面は一部縦方向削りを行い、第2次SI-378上面出土。4は伽藍地内から出た。型押文224Aで叩き、凹面の拓影中右側1/3程を削る。5は第1次SD-154出土、型押文243で叩き、凹面側の側縁を幅広に削る。6～13は伽藍地内出土で、6は型押文227で叩き、凹面側の側縁を幅広に削る。7は型押文224Cで叩き、凹面は全面撫でる。8は凹面撫で、型押文227で叩く。10は型押文369で叩き、凹面狭端部側は広く削る。11は型押文551で叩き、凹面側の側縁を広く削り、糸切り後に縦方向に撫でる。12は型押文551で叩き、凹面側の側縁を広く削る。13は型押文425で叩き、凹面は模骨痕と縦方向削りである。

以上の瓦のうち、模骨痕のある桶巻き作りは1～4・12・13、糸切り痕のある一枚作りは5・6・8・9・10・11である。胎土や型押文から水道山窯産と判断される瓦は1～9、三毳窯産と考えられる瓦は11～13である。

国分寺における型押文の編年によれば、1-1期前半には224A、1-1期には227・369があり、数は少ないが、これらが1-1期、尼寺創建期の資料となる。

## 第2節 文字瓦

国分尼寺の各調査区・伽藍地内から出土した文字瓦は、押印文字瓦・型押文字瓦・ヘラ書き文字瓦に大きく分類される。尼寺の伽藍地内出土文字瓦については、大金宣亮・石山勲氏による分類が行われている(大金・石山1969)。各調査区・伽藍地内から出た点数を示せば、押印文字瓦109点、型押文字瓦70点、ヘラ書き文字瓦484点で、総数662点にのぼる。このうち郡名の押印文字瓦は81点、型押文字瓦21点、ヘラ書き文字瓦366点になる。押印文字瓦や型押文字瓦は下野国分寺や下野国府・下野薬師寺でも出土しており、国分寺の報告書のなかでその分類が行われている。遺跡の性格上、尼寺出土の文字瓦の分類は国分寺報告分類に従うが、これに無い押印文字瓦やヘラ書き文字瓦は続き分類番号を付した。また、分類と型押文の対応関係についても調べた。これにより、今日的な文字瓦の資料意義が出ると思う。

### 1 文字瓦の分類

#### (1) 押印文字瓦(第99・104～106図、第7・8・25・26表、図版二三・二四)

下野国管下の9郡のうち、那須・塩屋・河内・都賀・安蘇・足利・梁田郡の郡名押印文字瓦が確認できた。

#### 「那瓦」

那須郡の瓦であることを示す押印文字瓦である。伽藍地を含めて7点出土した。型押文326などで叩き、主に女瓦凹面に押印されており、押印箇所に一貫性がある。生産遺跡では町谷窯で出土しており、町谷59では「足」の押印とヘラ書き文字瓦が確認できる。町谷窯の「那瓦」押印文字瓦の型押文は51・72・80・98である。消費地では下野国府跡で出土している。

#### 「塩」

塩屋郡の押印文字瓦で、反転陰刻する。尼寺では伽藍地から1点出土したのみである。型押文356で叩き、凹面に押印する。生産地は胎土から三毳窯と考えられる。

#### 「内」

河内郡の押印文字瓦で、陽刻する。内の左外縁に縦画が入るものがあるが、ほかと同じ印を用いており、

傷も確認されない。型押文 246E・329C・231C で叩く女瓦に押印しており、1 点は広端部側の側縁際に押印し、端縁際に押印するものが 2 点、この内 1 点は凹面に押印、凸面にへらで「内」を書く。生産地は町谷窯で、型押文 261A で叩き、国分寺型押文 338 が町谷 261B に相当する。尼寺で確認された 329C は、町谷 204 Ⅲに相当し、押印「足」とへら書き「内」がある（大橋 1997 第 48 表）。型押文と押印郡名は一致しない。

#### 「都口」

都賀郡の押印文字瓦で、文字を陰刻し、1 字のみ残る。凹面に押印し、凸面は縄叩きである。伽藍地からこの「都」が 1 点出土しているが、2 字目が明らかでない。生産遺跡は不明であるが、胎土から三毳窯であろう。

#### 「安宋」・「安」・「宋」

安蘇郡の押印文字瓦である。「安宋」は長楕円形の印面に文字を陽刻し、国分寺報告分類のⅡに相当する。安は行書のウ冠を横一画で表す。凸面は縄叩きで、瓦に対して斜めに押印する。

「安」は郡名の頭文字を陽刻・反転で表し、国分寺分類のⅢに相当する。印は 2 種類確認でき、横一画で表すウ冠の中央が繋がる印（3 点）と途切れる印（1 点）がある。ここでは、同じ字形であることから細分しない。押印は全て凹面の端部方向を天地にして行い、型押文 330A で叩かれている。ウ冠の中央が途切れる印は町谷瓦窯から出ているが、繋がる印の生産地資料は不明である。町谷窯における型押文は町谷 72 で、これは国分寺 330A であることから、型押文と印が一致する。

「宋」は郡名の第 2 字目を陰刻で表し、印は 1 種類のみである。印面は強く押した印によって小判形であることがわかる。女瓦では全て凹面の端部方向を天地にして押印し、1 点は端部縁に接する位置にある。男瓦では凹面に押印するもの 2 点、凸面に押印するもの 4 点である。凹面押印では、広端部からと狭端部から押す場合がある。凸面押印では、広端部からと横から押すものが確認できる。このため、押印面・方向等に共通性が少ない。

生産地は町谷窯で、型押文は町谷 10・40・210 である。尼寺出土瓦は型押文 364B で、町谷 210 に当たる。

#### 「足」

足利郡の押印文字瓦である。国分寺分類のⅣ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅺがあり、このほかにも初出の印が確認できたので、これをⅪとした。

Ⅳは女瓦の凹面に端部方向を天地にして押印し、凸面は型押文 329C など叩く。男瓦では凸面に横方向から押す。

Ⅶは足の文字を陽刻し、口の第 3 画目を横長に書く点はⅧと類似しているが、別印である。1 点のみ確認でき、広端部の側縁寄りに端部側から押印している。型押文 245 を叩く。

Ⅷの印面は、焼成後で幅 2.4 cm、長さ 4.8 cm に及ぶ長方形である。文字は 2 cm 角の行書で、印面の下端に陽刻する。女瓦は格子叩きを行い、型押文は 335 が 5 点、334A が 3 点確認できた。押印は凸面に行い、端部方向に対して斜めに押すものが多く、押印は格子叩きの後に行っている。

Ⅸは足の文字を陰刻する。男瓦では凸面に横方向から、女瓦では凹面に端部方向を天地にして押す。瓦の種類と押印する面、方向に規則性があるが、女瓦の型押文は 346 が 1 点、295 が 2 点、329C が 1 点、356 が 1 点で、型押文と押印の対応関係は捉えられない。

ⅪはⅧと類似するが、旁が斜めになっており、分類した。印面も長方形で幅 2.6 cm、長さ 5.0 cm 以上になり、その下半部に文字を陽刻する。型押文 329C で叩き、横方向から押印している。

生産地は町谷窯で、型押文 59・204 である。尼寺出土瓦は型押文 329C で、町谷 204 Ⅲに当たり、印と型

押文が一致している。

### 「矢」・「田」

「矢」は梁と字が異なるが、音に通じることから梁田郡を表記したと考えられている（大金・石川 1969）。  
「田」は梁田の第2字目を示したものであろう。

「矢」は尼寺で最も点数が多く、19点に及ぶ。印は1点のみで、文字を陰刻するが、彫り傷・範傷が顕著である。女瓦は数が少ないが、凹面に端部方向を天地にして押す。型押文 264E・295 を叩く。男瓦は全て凸面に押印しており、8点は広端部と判断される付近に押す。この点は押印箇所共通点であるが、押印方向は広端部側からが7点、狭端部側からが2点、横方向からが1点、端部方向を天地にしているのが5点存在し、明確な規則性はない。これらを総じて見れば、印は1点であるが、型押文・押印方向は多様で、押印箇所に画一性が確認された。生産地は胎土から三毳窯と判断することができる。

「田」は国分寺分類Ⅵのみである。「田」を陽刻し、彫り傷・範傷が顕著である。女瓦・男瓦ともに凸面に押されているものが多い。

### 「寺」

現状で1.8×2.3 cm程の大きさの文字を陰刻で表す。国分寺報告の次の番号で寺Ⅱとする。女瓦に型押文 331 で叩き、国分寺報告でも型押文の脇にこの印が押されており（大橋 1997 第80図）、尼寺 1969 報告でも第15図10に載っている。この型押文は1-2期に位置付けられる。

### 「瓦」

鳥賊形の印面に「瓦」を陽刻する。凸面は縄叩き・離れ砂目であり、この後に押印する。製作技法からみて3期の所産と推定される。伽藍地から1点のみ確認された。

## (2) 型押文字瓦（第99・100・106～109図、第9・10表、図版二四・二五）

### 「都可」B・C

都賀郡を示す型押文字瓦である。国分寺分類の「都可」Bが6点出土した。Bは格子が潰れたものであるが、その後に「都」の第4画目を彫り直している。CはBの部分の格子と先述の第4画目が全く潰れているが、Aの格子が潰れて「都」を彫り直す前か、Bがさらに潰れて「都」の第4画目が消えたのか、周囲の傷の観察でも検証できなかった。Cは回廊から1点出土したのみである。生産地は三毳窯である。

### 「可」

都賀郡か芳賀郡の可能性があるが、型押文字瓦に「都可」も存在することから、都賀郡の郡名型押文字瓦と考え、国分寺報告の立場を追認する。伽藍地から2点出ており、このうちの1点には凹面にも「口」の可能性のあるヘラ書きが観察される。町谷窯で当該型押文字瓦が出ている。

### 「足」Ⅱ

足利郡の頭文字を示す型押文字瓦である。伽藍地から2点出土した。女瓦凸面に斜め方向から叩いている。胎土から三毳窯産と考えられている（大橋 1997）。

### 「田」Ⅱ・Ⅲ

梁田郡の2文字目を示す型押文字瓦である。国分寺分類のⅡが確認され、国分寺で未確認の型押文字をⅢとした。「田」Ⅱは5×5の格子の上端に文字を配する。伽藍地から8点と第2次SⅠ-335から出ている。「田」Ⅲは、型押文の格子12×7で、型押文の縁に文字を組み込む。生産地では町谷窯の267型式（大川 1974）に当たる。1点のみ伽藍地から出土した。

### 「国分寺瓦」

国分寺報告分類の「国分寺瓦」Ⅱが2点出土した。女瓦凸面に横方向から叩いている。第1次S I -125から出ており、この住居跡は9世紀中葉から第3四半期になり、この瓦もこれより古くなる。第11次S B -700（9世紀後半）から出土しているが、出土層位は明らかでない。

### 「国分寺」ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

国分寺分類の各型式が尼寺でも存在し、伽藍地・調査区で合計23点確認できた。すべて陽刻で、文字を表し、その特徴は国分寺報告による。第1次調査区遺構外出土7を「国分寺」ⅠAと判断した。

ⅠBは第5次S I -496から出土し、この住居跡は9世紀中葉から第3四半期に位置付けられる。国分寺報告では、この文字瓦を3期（9世紀後半）としており、概ね同じ時期になる。

Ⅱは最も多くて、7点出土した。「分」がやや小さい点の特徴である。Ⅲは文字脇の格子が長く、「分」と「寺」が繋がっている。第14次S I -849で出ており、この住居跡は9世紀第4四半期になることから、「国分寺」Ⅲはこれより以前になる。

Ⅳは「分」の第3・4画目が横方向に近い角度でのびることで分類し、2点のみ確認できた。Ⅴは3点出土した。「分」が傷で潰れている。第7次S D -140から出ており、この溝は東張り出し部で、9世紀第3四半期まで機能していることから、これ以前の所産になる。生産地は鶴舞窯・八幡窯を含む三毳窯である。

### 「寺」ⅣA・ⅣB・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ

国分寺報告分類のⅣは5×7の格子文であるが、この格子文を彫り直して5×14にしたものがあり、前者をⅣA、後者をⅣBとする。ⅣAは東山窯・立山窯から出ている。ⅣBの生産窯は明らかでないが、三毳窯内であろう。ⅣBは尼寺の調査区から多数出土しており、第2次S I -325（10世紀前半から中葉）、第2次S D -334（9世紀第4四半期～10世紀前半）や下野国府跡（田熊1990 図版21-690）でも確認できる。最も古い時期からみると、9世紀第4四半期以前となる。ここでは、遺構変遷Ⅲ期の所産と考えておきたい。

Ⅶは第2次調査区から1点出土しており、「寺」の一部が押印されている。

Ⅷは国分寺報告では確認できなかったもので、後続番号とした。格子文の幅が太くて、中心に「寺」Ⅱ～Ⅳと同じ行書の文字を簡略化して陽刻している。宇瓦16型式の凸面に叩かれており、回廊から出ている。破片も含め横方向から叩いている。第4次S K -461では9世紀後半頃の土師器と共伴しており、下限がわかる。国分寺からも出土している（大川・田熊1982）。

Ⅸは、6×6の格子の中に三角と寺と目される文字を組み込む。「寺」Ⅰ～Ⅳは格子の外に三角と寺の文字が置かれたが、これを変形したものであろう。生産地では三毳の鶴舞窯で出ており（大川1974 鶴80）、消費地では薬師寺型押文93、国分寺で確認されている。鶴舞窯で出ていることから9世紀代の所産であろう。

### （3）不明押印瓦（第99・105・106・109 図、第7・8表、図版二四）

ここでも国分寺報告分類により文字不明の押印瓦の分類説明を行う。

#### 押印Ⅲ

国分寺報告で女瓦製作時に乗せた台の圧痕と推定したものである。二条の窪みが併行するが、窪みの長さ、幅で3種類確認された。全て女瓦の凸面で、縄叩き・離れ砂が付く。二本の長さが異なるものは薬師寺報告不明押印3に相当し、鶴舞窯で出土している。幅広のものは薬師寺不明押印2、最も細長いものは薬師寺不明押印4に相当する。縄叩き・離れ砂があることから、3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。

#### 押印Ⅳ

長縄叩き・離れ砂の女瓦凸面に押印する。印は1種類と判断され、回廊と第12次S A -820などから出ている。国分寺・薬師寺・鶴舞窯で確認されており、薬師寺不明押印11に相当する。離れ砂が付いていることから瓦3期の所産と考えられる。ほかの共伴資料に山海道遺跡S I -40があり、9世紀後半の土器と出土している。

#### 押印V

長縄叩き・離れ砂の付く女瓦凸面にあり、三本の溝が平行する。薬師寺報告の不明押印7に当たるが、製作台の圧痕と推定する説がある。縄叩き・離れ砂があることから、3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。

#### 押印VI

4.5×5.5 cm程の長方形の印面に「五」を陽刻する。国分寺報告のVIとVIIIが同一印であり、拓影では合成したものも提示した。縄叩き・離れ砂の付く女瓦の凸面中央付近に、横・斜め方向から押印する。女瓦の製作技法から3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。生産地では三毳の八幡F 2号窯跡（大川1976 図版294）で出ている。出土した第4次S I -439が土器4期であることから、9世紀第4四半期を下限とすることがわかる。

#### 押印IX

国分寺報告にない押印文字瓦であることから「押印IX」とした。5.5×3.5 cm程の長方形の印面に「六」を陽刻する。薬師寺不明押印9に当たる。新開遺跡第2次第7号竪穴住居跡（山口2004）から出ており、この住居では黒笹90号窯式や光ヶ丘1号窯式の灰釉陶器が出土していることから9世紀後半を下限とする。縄叩き・離れ砂の付く女瓦の凸面に斜め方向から押印する。女瓦の製作技法から3期の宇瓦5・6型式に伴うと考えられる。胎土から三毳窯で生産されたとみられる。

#### (4) ヘラ書き文字瓦（第101～103・109～118 図、第11～14 表、図版二五～二八）

尼寺から出たヘラ書き文字瓦は、下野国内の9郡のうち、芳賀郡を除く8郡分が確認された。この他にも郡に係わるヘラ書きなどを含めて、調査区・伽藍地で総計467点出土した。ここでは、ヘラ書き文字の分類を行い、これと型押文などとの関連などを概観していきたい。

#### 「那」

那須郡の郡名を頭文字で表記した郡名文字瓦である。国分寺報告に従い、扁と旁を書く文字を那A、扁のみの文字を那Bと分類する。さらに那Aの筆順で分類している（註1. P184）。

A I は那の旁で、縦画の後に横画を引くものとした。しかし、数は少なく第10次S D -670Bと伽藍地から出た2点のみである。伽藍地出土品は小型で那Fに似ている。うち1点は胎土の特徴から水道山窯産と判断される。

A II は7～10 cm角前後の大型の文字を書くものである。2画目の縦画は左に払わず、縦に引く傾向がある。また、扁は阜扁にならずに、縦位コの字状のものも一定数存在する。郡名は全て凹面に記載する。女瓦は凹面中央付近でなくて、側縁付近に書くことがある。型押文260で叩く文字瓦では側縁が残り、側縁寄りに書く瓦が5点で、型押文260以外や型押文不明の瓦でも側縁寄りに書くものが8点確認された。多くは胎土の特徴から三毳窯産と推定されるが、一部水道山窯産と判断できるものがある。

男瓦では、広狭端部が判断できたものは多くが広端部縁に、広端部を上にして凹面に書かれていた。さらに文字では、那の第5画目の横画から扁への運筆が繋がり、扁が縦位コの字状になる瓦が多く存在し、同筆になると判断される。しかし、これと同筆の女瓦は確認されていない。

B I は4点確認できた。那の旁のみを書くもので、縦画を最後に引くことから分類している。このうち2点は扁と旁の間で割れており、可能性があるものとして挙げておく。拓影を提示したものは明らかに旁を欠く。

Cは第1次SD-113から出土した女瓦1点である。那の傍の縦画3本のうち左右の縦画を引き、横画2本を引いてから中央の縦画を引く。扁は平行線になっており、明らかに他の文字と筆順が異なっていることから分類した。胎土・型押文から水道山窯産である。

Dは第2次SK-339から出た1点のみである。傍の筆順は最初に縦画2本を引き、次にL字形に本来の第1画目を書く。最後に横画2本を引く。筆順が特異なことから分類した。

Eは文字が縦長で、右下がりのもので、筆跡に特徴がある。伽藍地から出た2点のみ確認できた。男瓦の凸面に小型の文字で書いている。

Fは3～4cm角の小型の文字で、第1画の縦画を丁寧に跳ねて、第2画の縦画も丁寧に払う。全体に端正な楷書で書いており、明らかに識字層の筆になると判断される。国分寺でも1点報告されている（大橋1996 Fig. 84の290）。男瓦では凸面・凹面、女瓦では凹面に書いている。女瓦は型押文356で叩いており、同じ型押文で叩く瓦に「可」・「足」を書くものが存在する。町谷窯から出土した「那須郡」銘に筆致が似ている。

Gは、傍の縦画3本を寄せて細長く書き、下の段の横画を左から長く書く特徴ある。横画を長く書く特徴は奈良時代よりも前代的な書風であり、識字者の筆によると推定される。女瓦凹面に書いており、型押文295で叩いている。水道山窯に似た筆跡が確認できる（大川1982、図版48の16）。

Hは他の文字と筆順が異なることから分類した。傍は最初に左端の縦画を書き、次に逆L字状に書いて、その後に横画2本を書く。先後関係は明らかでないが、右端の縦画はほかの部分と交差しない。扁は細長い柳葉状の線を引く。C・Dとともに那の筆順が一致せず、字も稚拙であることから、識字層の筆になるとは考えがたい。

#### 「塩」

塩屋郡の頭文字を書いた文字瓦である。Bは土扁を大きく書き、土には点が付く。楷書であるが、傍の上が「合」のような字形になる。第11次SD-800出土。水道山窯に似た筆跡が確認できる（大川1982、図版52の30・59の61）。胎土の特徴からも水道山窯産と判断される。

Cは大型の文字で、行書気味に書く。扁を力強く、傍の皿の縦画が扇状に開く特徴がある。第12次SD-610Bから出土し、水道山窯に似た筆跡が多数確認できる（大川1982、図版19の2、58の55、59の61）。この瓦も胎土から水道山窯産と判断される。

Dは傍の上と下の皿が離れ、上段の終画が長くのびている。凹面は全面横撫で、端部付近に削りを施す特異な男瓦である。胎土から三毳窯産であろう。

#### 「内」

河内郡の文字瓦である。国分寺報告の分類に収まらない多様な字形が確認できたために、新たに分類を行った。

Aは文字が比較的大型のもので、このうち第2画の横画から縦画への折れに丸味があり、書風でいう「六朝風」に近い字形をA Iとし、「唐風」に折れているものをA IIと分類する。A Iに対して、A IIの方が少し多くなっている。これは後述するように字の小型のB類でも丸味のある文字（B I）よりも稜を有して折れる文字（B II）の方が多かったことに符合し、書風の時代的な趨勢を反映するであろう。A Iは男瓦・女

瓦ともに凹面に書く。文字は多くが側縁近くに書かれているが、正位で書くものと倒立位で書く場合があり、画一化されていない。型押文との対応関係ではAⅡで型押文262がまとまって使われていたが、その他では1～2点のみであり、文字と型押文との特定の対応関係は見出しがたい。第1次SⅠ-163や第2次SD-330の当該文字はⅡの書風である。

Bはやや小型のもので、横画から縦画への移行に丸味のあるBⅠと稜を有して折れるBⅡに分類した。BⅠでは、第1画目の縦画が弓状に反るものが多い点が特徴である。BⅡでは第3画目を直線状に長く書くものや第3・4画の「人」を「ト」と書く国分寺分類の内Aも特徴的にみられる。

女瓦では凹面に全て書かれるが、男瓦では凹面・凸面ともに確認できた。また、記載の際の瓦の置き方で女瓦では正位・倒立位ともに存在する。第1次SD-112Bの男瓦に書かれた当該文字はBⅠになる。型押文との関連では、BⅡで型押文262がまとまって確認できたが、この型押文の女瓦に書かれた文字はAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡに及んでおり、様々な字形に対応している。

Cはやや文字が大きく、第1画目の縦画が外開きになり、第2画の横画と縦画が稜をもって折れる豪放な文字である。型押文246E・326で叩く。町谷3号窯で出ている。

Dもやや文字が大きく、第2画の横画と縦画が丸味をもって折れ、「人」が行書になっている豪放な文字である。Cと同じ型押文246Eで叩くが、異なった筆跡である。

Eは「人」の縦画が、構えの第2画より上に出ず、「ト」の字形になる。本来の字形を理解されていないと判断できる。Eには型押文342で叩く女瓦があり、内AⅠ・BⅡに同じ型押文を用いており、記入者と型押文が明らかに対応しない事例になる。

Fは「人」の1画目をまっすぐに垂下し、構えの下辺まで長く書き、2画目を書かない。このため、本来の字形を理解されていないと判断できる。型押文は192・262・291が確認でき、尼寺では他の文字瓦には使われていない。

Gは構えが縦画2本で書かれている。これも本来の字形を理解されていないと判断できる。型押文480で叩かれている。

Hは第1画の横画が右肩下がりの文字を集めた。

## 「可」

国分寺報告が指摘するとおり都賀郡の可と考えておき、分類も一部にそれによる。ヘラ書きの「都」は尼寺では確認できなかった。胎土から産地は全て三毘窯と考えられる。Aは口を楷書で書き、第1画の右端に第5画の縦画が接して逆L字形のものをAⅠ、第5画の縦画が第1画の横画より上までのびるものをAⅡとする。男瓦のAⅠは凸面の側縁際に書く画一性が窺え、他の文字と対照的で、同筆の可能性が高い。AⅡは1点のみで、型押文329Bで叩く。

BⅠbは第5画が第1画に接し、「口」の第1画を長く縦に引くもので、2点確認できた。型押文334Aと356が叩かれる。

DⅠは第5画が大きく左に跳ねる字形で、可能性のある破片が1点存在するのみである。DⅡは「口」の横画が2本以上になり、第5画が左に弧状に跳ねている。型押文335・395で叩かれ、文字が文様化している点が特徴である。

Fは国分寺分類と異なるが、行書で書く。側縁側から書いており、型押文356を叩き、この型押文は押印文字瓦「塩」にも叩かれている事実から、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦が同じ時期に併存していたことが証明される。

Gは留め・跳ねが力強くなされ、端正な文字であることから、識字層の筆になると推定される。型押文335で叩き、端部近くには書いている。

Hは「口」を楷書、第5画目の縦画を長くのばして書く。側縁寄り・狭端部・広端部に文字を書いている。型押文333・356で叩いている。

産地は、玉縁のある男瓦1点が胎土から水道山窯産の可能性があるが、その他は三毳窯産と推定される。

#### 「川」

寒川郡の文字瓦である。胎土から全て三毳窯産と考えられる。文字はA～Eの5類に分けた。Aは垂下する3本の縦線が等間隔で引かれる。ただし、3本線がほぼ同じ長さのものと、第3画目が長くなっているものがみられ、後者は数少なく3点のみである。第11次S I -690から出た鏡瓦24型式の瓦当裏側には「川」と目される文字が焼成前に刻され、この前に「井」が書かれている。遺構出土品では第2次S I -307などがある。女瓦は全て凹面に書いているが、男瓦は凸面にもある。端部が遺存するものとみると、広端部に記載するものが多くて、8点確認できた。これらで記入方向の判別できるものでは、広端部側から文字を書いている。型押文は9種類に及び、特定の型押文への偏りはない。

Bは国分寺分類と同じく第3画目の縦画を右に引き抜く字形である。伽藍地から出た4点のみで少ない。型押文290を叩く女瓦が確認でき、男瓦は凹面に書いていた。町谷4号窯で出ている。

Cは小型の文字である。細長く書くDに似た文字や、川の字形により第3画が長くなるものもある。文字の位置は側縁寄りが多いが、女瓦で横断面の中央の位置に書く瓦が1点ある。型押文は4種類確認できたが、334A・353は「川」Aでも叩かれている。

Dは第2画目が一方の縦画寄りに引かれ、個人的な癖とも推量される字形である。ただし、第2画目が最も長くのびる文字もあり、差異も確認される。女瓦は全て凹面に書くが、中央付近や側縁寄りなど記入位置は画一的ではない。男瓦では凹面・凸面にあるが、側縁寄りに書いている。女瓦には型押文329A・333・337で叩くが、このうち型押文329A・333は「川」Aでも叩かれている。同じ叩き具で締めて、癖のある字形の者（「川」D）と最も数の多い字形の者（「川」A）が文字を書き、瓦製作者と郡名記入者は一致しない事例になる。三毳の町谷4号窯・6号窯において多数確認されている。

Eは大きな3本線を細長く書く字形である。書く位置は側縁寄りが多く、男瓦でも第1次SD -201でもみられる。男瓦・女瓦ともに側縁寄りに字を書く瓦が4点ある。生産地ではこの字形が町谷3・4号窯から出ている。

#### 「安」・「宋」

「安」は安蘇郡の頭文字、「宋」は第2字目を示す文字瓦である。「安」は伽藍地・調査区を含めて20点、「宋」は1点確認されたのみである。「安」は国分寺報告の分類に従って、ウ冠を省略して短い縦二本線で表現するA、ウ冠を横一画に省略するB、隣の女の横画を先に引くI、後から横画を引くIIに分類し、それらを組み合わせる。

「安」A Iは1点のみで、型押文254を叩く。A IIの女瓦は全て凹面に書き、このうち3点は広端部側縁に記している。「安」A IIはA I・B I・B IIに比べて字形が整っており、筆に通じた者が記入者であろう。型押文は295が1点、333が3点、364Aが1点確認でき、これは「可」H・「川」A・「川」Dにも用いられている。

「安」B Iは全て筆順が同じで、広端部側縁に記している。「安」B IIは1点のみであるが、全体の筆順がウ冠の横画→現代筆順女の第1画→女の第3画（横画）→第2画となっており、明らかに他の文字と異なっ

ている。

「安」Cは1点であるが、ウ冠を縦線三本で表し、女は横画→現代筆順女の第2画→第1画の順で書く。女の筆順はA Iと同じである。

「安」Dは不確定であるが、上端に縦線があり、ウ冠の可能性が高いが、女の横画がない。第2次S I -307から出土した。

「宋」は男瓦凸面の広端部寄りに書かれた1点のみである。

### 「足」

足利郡の頭文字を示す。Aは「口」の第2・3画目が一連になり、その下は行書で書く、小型の文字である。鏡瓦3C型式の男瓦部凸面に「足」Aが書かれている。

Bは「口」を略して、その下はZ字状に草書気味に書き、型押文344で叩く。町谷4・6号窯で出ている。

Cは大きく文字を書き、拓影の文字はAと似た行書であるが、文字が縦長である。ほかに横長の行書もある。

### 「矢」・「田」

「矢」は音の通じから梁田の頭文字とみられ、「田」は2字目であろう。「矢」Aは、第1・2画目を連続して運筆する。女瓦は全て凹面で、端部の縁に書くのは4点、側縁寄りに書くのは3点あるが、その他は端部・側縁付近が破片で不明である。型押文は多種に及び、対応関係は見出しがたい。鏡瓦4型式の男瓦部凹面に当該文字をへら書きするが、遺存する瓦当面が少なく、範傷の進行状況は不明である。

「矢」Bは分類が不明瞭であるが、第1画目が長くのびる文字とした。筆順で第3画目に「人」を書き、最後に横画を引く文字も確認できる。型押文558は斜格子叩きで、目の一つが潰れている。この型押文は伽藍地出土71の飛雲文字瓦4B型式にも叩かれている。同じ叩き具を用いた女瓦が郡名文字瓦であることから時期比定の資料となる。

「矢」Cは「矢」の横画が一本足らずに「夭」になっている。2点確認され、端部の縁に書く瓦がある。型押文はともに321である。識字層の筆になるとは考えがたい。また、同じ型押文に「矢」Aがあることから、叩き具使用者と記入者は別人であろう。

「矢」Dは文字としては異質なものをまとめた。1点は「矢」の終面を書かない字と第1～3画を行書で反転している字がある。前者には型押文262が叩かれ、同じ型押文は「内」A I・A II・B I・B IIにみられることから、型押文と記入者は一致しないと考えられる。

「矢」Eは第1画を垂直に長く引き、第4・5画が第2画の横画から引く特徴がある。女瓦では凹面広端部寄り中央に書き、型押文295・351を叩く。この型押文は押印文字瓦「足利」IXや各郡名瓦に叩いている。

「矢」Fは第1画を垂直に引き、第2画を離して書く文字などをまとめた。「矢」Eに似ており、模倣した字形といえる。

「田」は国分寺分類に従い、正方形に近い字形で、第3画目に縦画、第4画目に横画を引く字をB I、逆に第3画目に横画、第4画目に縦画を引く字をB II、長方形の字形をB IIIとした。「田」B Iは字の大きさが3～4.5 cm角である。出土数が多くて11点にのぼるが、端部寄りに書く瓦は少なく、ほかのへら書き文字瓦の傾向と対照的である。型押文は4種類確認でき、326は押印「那瓦」・「田」IV、へら書き「内」C I、「川」Aと組む。第2次S I -307から出ている。

「田」B IIは数が少なく3点のみである。字の大きさや形から同筆と判断できず、筆順を同じくする文字である。

「田」B IIIは横長な字であり、2点のみ確認できた。第1次S D -153出土女瓦は第3画目に縦画、第4

#### 第4章 発見された遺物

画目に横画を引き、別な1点と筆順が逆である。

「田」Cは尼寺1969報告でも特徴ある文字と指摘されてきた。第2画が右上がり、横画から縦画が鋭角に曲がる点の特徴である。また、第3画は縦画、第4画が横画で筆順は全て同じで、第4画の入筆は第1画の縦画から離れ、第2画の縦画に接する。このような極めて字形に特徴があることから、特定人物の筆になると判断される。類似した字形がヘラ書き「内」にもみられ、同一人物の筆になる可能性がある。記入位置は側縁に寄るもの2点、端部中央に寄るものが2点あって、画一性はない。「田」Cを書く瓦の型押文は6種類確認できる。型押文6種類の製作に対して、記入者1名という対応関係となるであろう。調査区では第1次SD-154から出ている。生産地では町谷6号窯で確認できる。

「田」Dは3×1.5cm角の小型の文字で、端正な楷書である。女瓦凹面の端部寄りに書いている。

#### 「安田後」

安蘇郡田後郷の可能性を示すという考えもある(田熊1985)。「田」の筆順によって第3画目に横画を引く字をA、第3画目に縦画を引く字をBとした。調査区出土の当該文字(第2次SD-250)は国分寺出土の「後」に似るが、伽藍地金堂北東出土の3字目の旁は阜偏にも似ている。

#### 「郡瓦」

金堂南伽藍地内から出た1点のみである。胎土は表面が明褐色土で、内側は黒色になっており、白色粒子を多く含み、水道山窯産と判断される。

#### 「郡」B

伽藍地から出た2点のみである。男瓦の凸面に書かれている。国分寺で大型の文字(Fig110郡3406など)を郡Aとし、尼寺のものをBとする。

#### 「生」

文字の半分のみを残すため不確定である。縄叩きの男瓦の凸面に書いている。生産地では東山窯で多数出土している。

#### 「十」

字の大きさは2cm角から7cm以上まであり、画一性がない。1点を除き、端部・側縁寄りに書かれている点に共通性がある。

#### 「寺」

横画が一本足りない「寺」である。1.5×1.0cm角の小さな字で、男瓦の凹面に細い物で書いている。第1次調査区遺構外から出土した。

#### 「大」

男瓦の凹面に書かれ、伽藍地内から2点出土した。

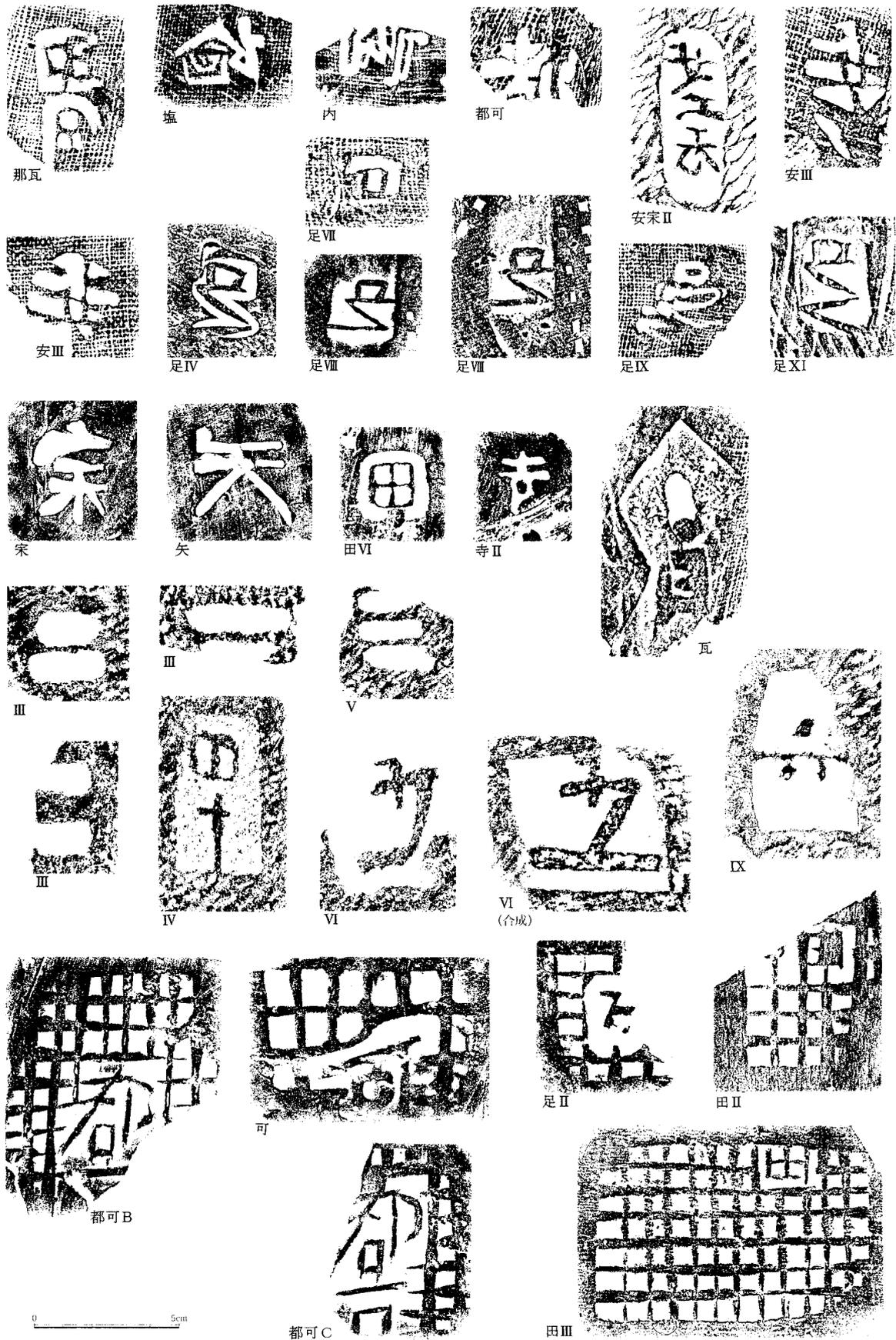
#### 「小」

男瓦の凸面狭端部に接して、深い彫りで書かれている。

#### 2文字瓦の出土傾向

ここでは主に伽藍地から出た文字瓦について、分類に従って説明と郡名文字瓦と出土した位置・建物との関係について記す。

郡名文字瓦は、押印文字瓦・ヘラ書き文字瓦ともに金堂・回廊からの出土数が多い。型押文字瓦は出土数が少なく、建物との出土傾向は明らかではない。この他の建物は郡名文字瓦の数は少なく、押印文字瓦



第99图 押印文字瓦・型押文字瓦分類图



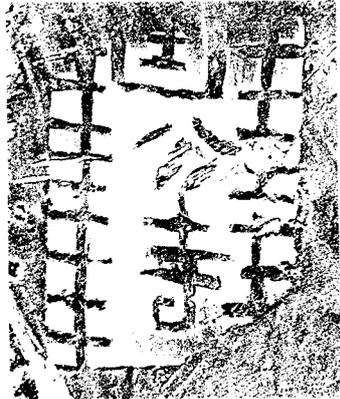
国分寺瓦II



国分寺II



国分寺II



国分寺I B



国分寺III



国分寺III



国分寺IV



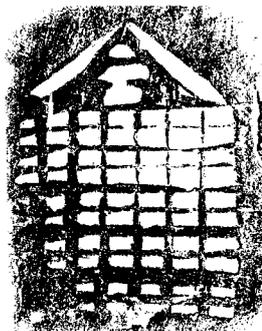
国分寺V



国分寺V



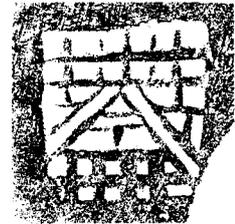
寺IV A



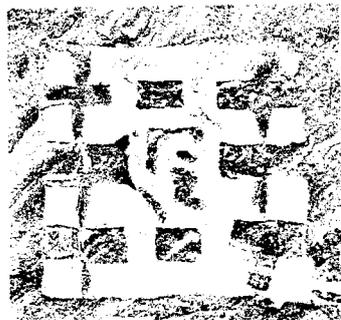
寺IV B



寺VII



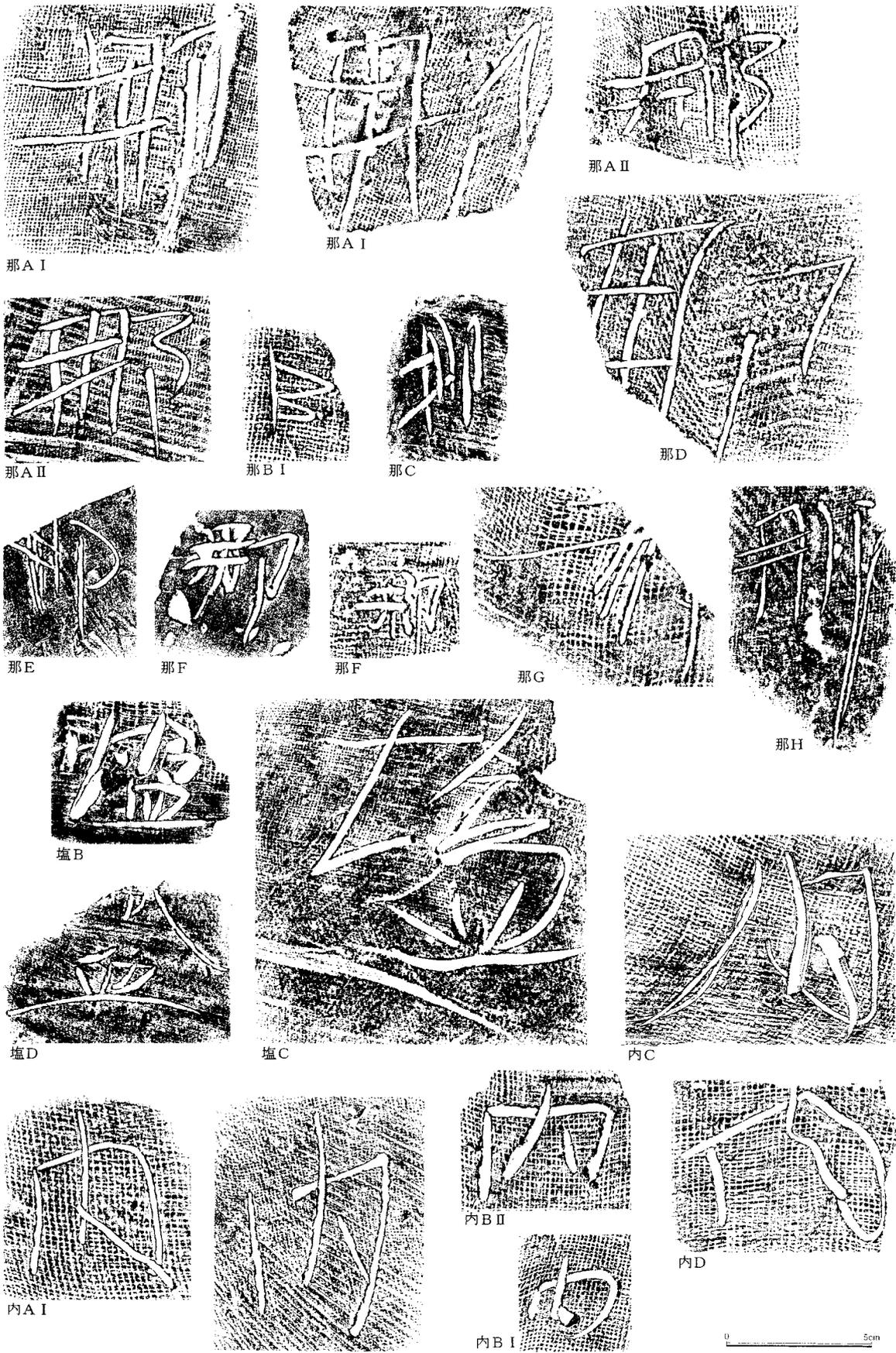
寺IX



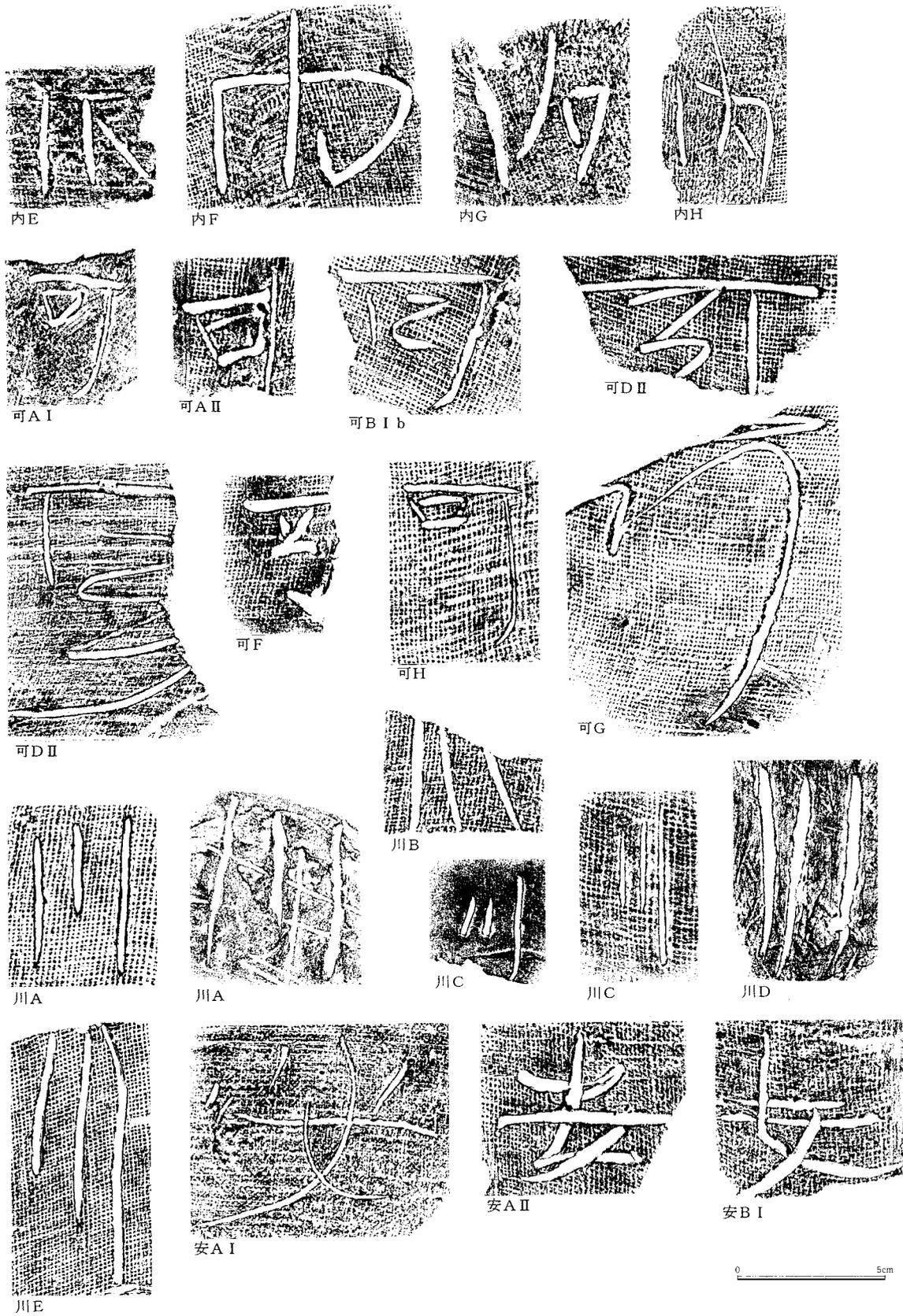
寺VII



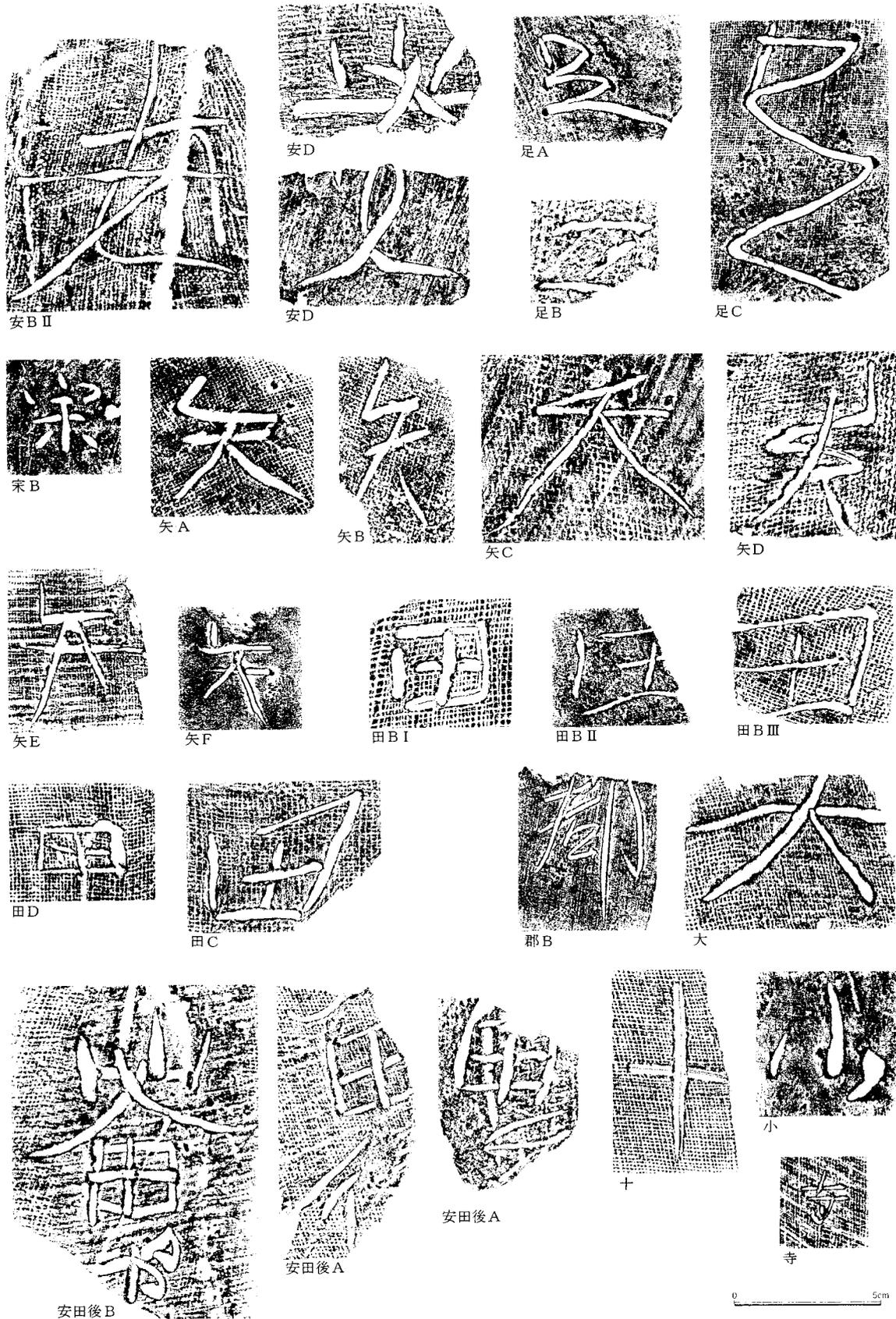
第100図 型押文字瓦分類図



第101図 ヘラ書き文字瓦分類図(1)



第102図 ヘラ書き文字瓦分類図(2)



第103図 へら書き文字瓦分類図(3)

第4章 発見された遺物

第7表 国分尼寺出土の押印文字瓦出土地集計表

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	僧房	経蔵	伽藍地	1次	2次	4次	7次	9次	10次	11次	12次	14次		
郡名	都	可	1													1			
	安	宋	2							1						1			
	安	Ⅲ	4					3		1									
	足	Ⅳ	6	2					3								1		
		Ⅶ	1						1										
		Ⅷ	10	1	1				7					1					
		Ⅸ	7	2		1			1	1	2								
		X I	1		1														
	宗		8					7						1					
	田	Ⅵ	6					2	2				1				1		
	矢		19	6	2			11											
	内	Ⅰ	7	1					6										
		Ⅱ	1	1															
那	瓦	7	3	1				1	1					1					
塩		1						1											
寺	Ⅱ	1	1																
不明	瓦		1					1											
	Ⅲ		4		2			2											
	Ⅳ		7		1			2			1					1	1	1	
	Ⅴ		3					2	1										
	Ⅵ		7		2			4			1								
	Ⅸ		2		1			1											
不明		3				0		1	1		1								
小計			109	17	11	1	0	56	6	4	3	1	2	1	1	5	1		

第8表 国分尼寺出土押印文字瓦の押印位置・方向集計表

文字	総数	男 瓦						女 瓦						備 考				
		凹	凸	文字の向き					格子	縄	凹	凸	文字の向き					
				正位	倒立位	横位	縦位	斜め					正位		倒立位	横位	縦位	斜め
都	1								1	1							1	
安	2								1		1						1	
安	4								1		1						1	
足	6		4			4			2		2		1				1	
足	1								1		1			1				
足	10								10			10				3		7
足	7		2			2			5		5			2			3	
足	1								1			1				1		
宗	8	2		1	1				2		2			1			1	
			4	2		1	1											
田	6		2			1	1		4		1						1	
矢	19		15	14		1			4		4		4					
内	7	1		1					5		5						5	凹面「内」のヘラ書き
			1				1											
内	1								1		1						1	
那	7								7		6			1			5	
塩	1								1		1			1				
寺	1								1			1					1	
瓦	1								1		1						1	
Ⅲ	4								4		4				3		1	
Ⅳ	7								7		7				2			5
Ⅴ	3								3		3				1			2
Ⅵ	7								7		7				5			2
Ⅸ	2								2		2							2
不明	3								2		2							
小計		109	3	28	18	1	9	3	50	28	35	43	5	6	17	29	18	

第9表 国分尼寺出土型押文字瓦出土地集計表

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	鐘楼	僧房	伽藍地	1次	2次	4次	5次	6次	7次	10次	11次	14次	
郡名	田	II	9						8		1								
		III	1						1										
	都可	B	6	1	1	1		1	2										
		C	1		1														
	可		2						2										
足	II	2			1				1										
	国分寺瓦	II	2							1							1		
	国分寺	I A	1							1									
		I B	3		1				1				1						
		II	7	1	5							1							
		III	5		1				2			1						1	
		IV	2						1								1		
		V	3						1						2				
		不明	2						1	1									
	寺	IV A	2						1		1								
		IV B	14					1	4	3	4			1			1		
		VII	1								1								
		VIII	3						1				2						
	IX	3		1					2										
	瓦		1									1							
	小計		70	2	10	2		3	27	6	7	5	1	1	2	1	2	1	

第10表 国分尼寺出土型押文字瓦の位置・方向集計表

文字	総数	男瓦						女瓦						備考							
		凹	凸	文字の向き				格子	縄	凹	凸	文字の向き									
				正位	倒立位	横位	縦位					斜め	正位		倒立位	横位	縦位	斜め	不明		
田II	9							9				9					3		6		
田III	1							1				1							1		
都可B	6							6				6						6			
都可C	1							1				1						1			
可	2							2				2						2			
足II	2							2				2							2		
国分寺瓦II	2							2				2						2			
国分寺I A	1							1				1						1			
国分寺I B	3							3				3						1		2	
国分寺II	7							7				7							7		
国分寺III	5							5				5						3		2	
国分寺IV	2							2				2						2			
国分寺V	3							3				3						2		1	
国分寺不明	2							2				2						1		1	
寺IV A	2							2				2						2			
寺IV B	14							14				14						13		1	
寺VII	1							1				1						1			
寺VIII	3		1	1				2				2						1		1	
寺IX	3							3				3						3			
瓦	1							1				1							1		
小計	70		1	1				69				69						44		22	3

第11表 国分尼寺出土へら書き文字瓦出土地集計表(1)

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	中門	鐘楼	僧房	経蔵	伽藍地	1次	2次	4次	5次	7次	9次	10次	11次	12次	
郡名	那	A I	2								1							1			
		A II	52	7	8		1	1	1		22	6	1			1	2		1	1	
		B I	4		1						2					1					
		C	1										1								
		D	1											1							
		E	2							1		1									
		F	7	3						1		2								1	
		G	2	2																	
		H	1									1									
		不明	2									1									

第12表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦出土地集計表(2)

内容	文字	種類	総数	金堂	回廊	南門	中門	鐘楼	僧房	経蔵	伽藍地	1次	2次	4次	5次	7次	9次	10次	11次	12次		
郡名	塩	B	1																1			
		C	2								1										1	
		D	1						1													
	内	A	19	7	4				1		6							1				
		B	21	1	1				3		12	1	1					1		1		
		C	3								3											
		D	2	1							1											
		E	1	1																		
		F I	14		2						11											1
		F II	32	3	5						19	3							1			1
		G	4		1						3											
		H	1								1											
		I	3	1		1						1										
		不明	5		2							2	1									
	可	A I	14		1				1		10	1						1				
		A II	1	1																		
		B I b	2								2											
		D I	1									1										
		D II	3								3											
		F	1								1											
		G	1								1											
		H	4	3						1												
		不明	2									1		1								
	川	A	25	7	1						15		2									
		B	4								4											
		C	8	1	1				1		5											
		D	7	1	2						4											
		E	9	1	2						4	2										
		不明	7	1	1						2	2							1			
	安	A I	1						1													
		A II	10	2	2						5	1										
		B	3								2										1	
		C	1										1									
		不明	4	1	1								1					1				
	宋	B	1	1																		
		A	2								2											
		B	1		1																	
	足	C	5	1							3	1										
		A	20	1	2				1		13	1	1	1								
		B	3		1						2											
	矢	C	2								1	1										
		D	2		1						1											
		E	3								3											
		F	2						1		1											
		B I	11	5	2						1	1	2									
		B II	3							1	2											
	田	B III	2								1	1										
C		16	3	1				1		9	1								1			
D		1	1																			
A		3								1		2										
B		1	1																			
地名	安田後																					
	郡瓦		1							1												
	郡		2							2												
	生		1		1																	
	十		7	1				1		4							1					
	寺		1							2	1											
	大		2							2												
その他	小		1							1												
	不明		99	5	7	1	1	1	1	45	12	8	5	1			6	4	3			
	小計		484	64	51	2	1	1	17	2	243	39	20	7	2	1	13	7	8	6		

第13表 国分尼寺出土ヘラ書き文字瓦の位置・方向集計表(1)

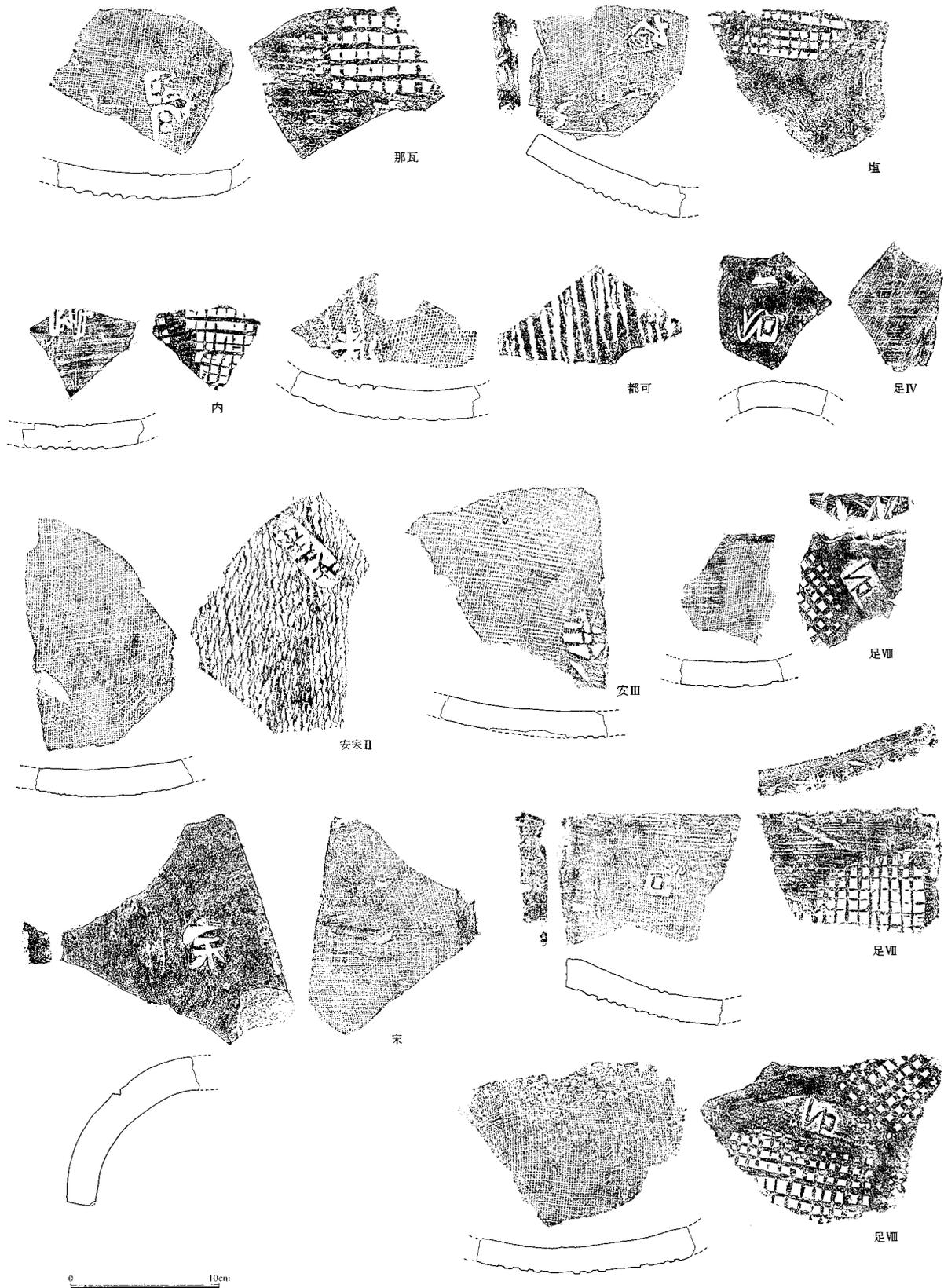
文字	総数	男瓦						女瓦						備考		
		凹	凸	文字の向き				格子	縄	凹	凸	文字の向き				
				正位	倒立位	横位	縦位					正位	倒立位		横位	縦位
那A I	2		1		1			1		1				1		
那A II	52	15		3	8		4	36		36		8	6	15	7	
			1				1									
那B I	4	2			1		1	2		2					2	
那C	1							1		1		1				
那D	1							1		1				1		
那E	2		2													
那F	7	1			1			3		3				1	2	
			3	2	1											
那G	2							2		2		1		1		
那H	1							1		1		1				
那 不明	2	1					1	1		1					1	
塩B	1	1					1									
塩C	2	1			1			1		1					1	
塩D	1	1		1												
内A	19	2				1	1	17		17		5	8		4	
内B	21	1			1			19		19		4	10		5	
			1		1											
内C	3							3		3			1		2	
内D	2							2		2		1			1	
内E	1							1		1			1			
内F I	14		3	1			2	11		11		5	2		4	
内F II	32	5		1	2		2	21		21		10	5		6	
			6		4		2									
内G	4							4		4		3			1	
内H	1							1		1			1			
内I	3	3			3											
内 不明	5		1				1	4		4		2			2	
可A I	14		7	2	2		3	7		7		3	1		3	
可A II	1							1		1		1				
可B I b	2							2		2					2	
可D I	1							1		1					1	
可D II	3							3		3		1	1		1	
可F	1							1		1					1	
可G	1							1		1				1		
可H	4							4		4			2		2	
可 不明	2							2		2					2	
川A	25	9		3	3		3	14		14		5	7		2	
			2		1		1									
川B	4	2					2	1		1			1		1	
									1							
川C	8	1					1	6		5					5	
			1				1				1	1				
川D	7	3		2	1			3		3		2	1			
			1		1											
川E	9	3		3				5		5			2		3	
			1				1									
川 不明	7	1					1	4		4			2		2	
			2				2									
安A I	1							1		1					1	
安A II	10	1		1				8		8		4	2		2	
			1				1									
安B	3	1					1	2		2		1			1	
安C	1							1		1		1				
安D	1	1					1									
安不明	4		1	1				3		3					3	
宋B	1		1	1												

第14表 国分尼寺出土へら書き文字瓦の位置・方向集計表(2)

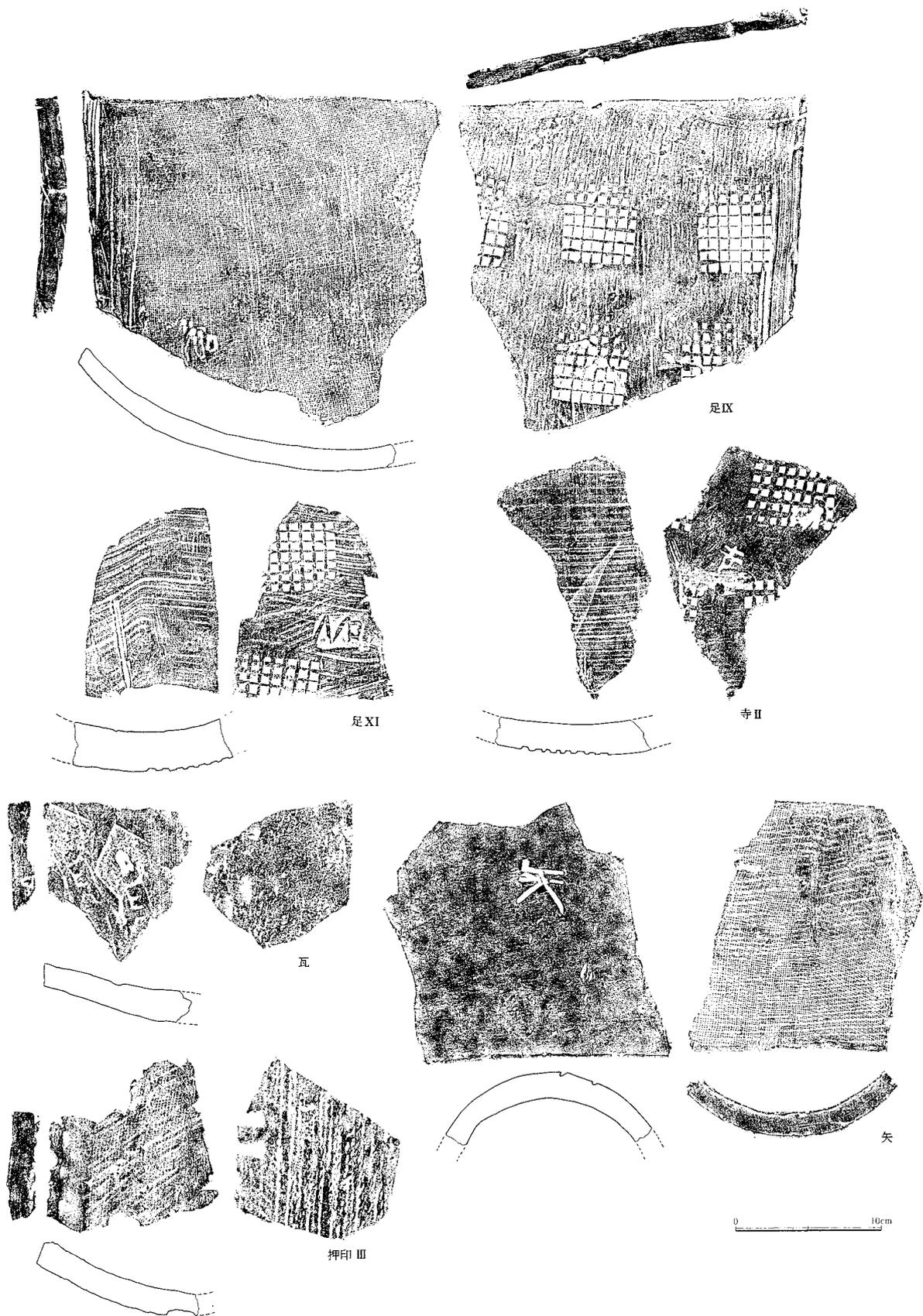
文字	総数	男瓦						女瓦						備考		
		凹	凸	文字の向き				格子	縄	凹	凸	文字の向き				
				正位	倒立位	横位	縦位					正位	倒立位		横位	縦位
足A	2		1		1			1		1					1	
足B	1							1		1					1	
足C	5	1					1	4		4			1		3	
矢A	20	2			2			16		16			2	3	1	10
矢B	3		2	2												
矢C	3							3		3		1				2
矢D	2							2		2		1	1			
矢E	2	1		1				1		1						1
矢F	3		1				1	2		2		2				
矢F	2		2				2									
田B I	11	2			2			7		7		3		3	1	
田B I									2	2					2	
田B II	3	1		1												
田B II			2			1	1									
田B III	2	1					1									
田B III			1				1									
田C	16	2		1	1			13		13		2	2		9	
田C			1			1										
田D	1							1		1		1				
安田後A	3							3		3					3	
安田後B	1	1		1												
郡瓦	1							1		1					1	
郡B	2		1	1				1		1					1	
生 不明	1		1		1											
十	7	3			2		1	3		2		1			1	
十			1		1						1			1		
寺	1	1					1									
大	2	2					2									
小	1		1				1									
不明	99	21						67		66	1					
不明			9						2	2						
小計	484	93	58	28	42	3	48	328	5	330	3	73	60	24	107	

は僧房で1点、型押文字瓦は僧房で3点と南門で2点、へら書き文字瓦は中門・南門で各1点、僧房で17点確認された。この数の違いは、建物規模に比例しているが、僧房は発掘調査の結果、掘立柱建物であることから、講堂も含む可能性を指摘しておきたい。

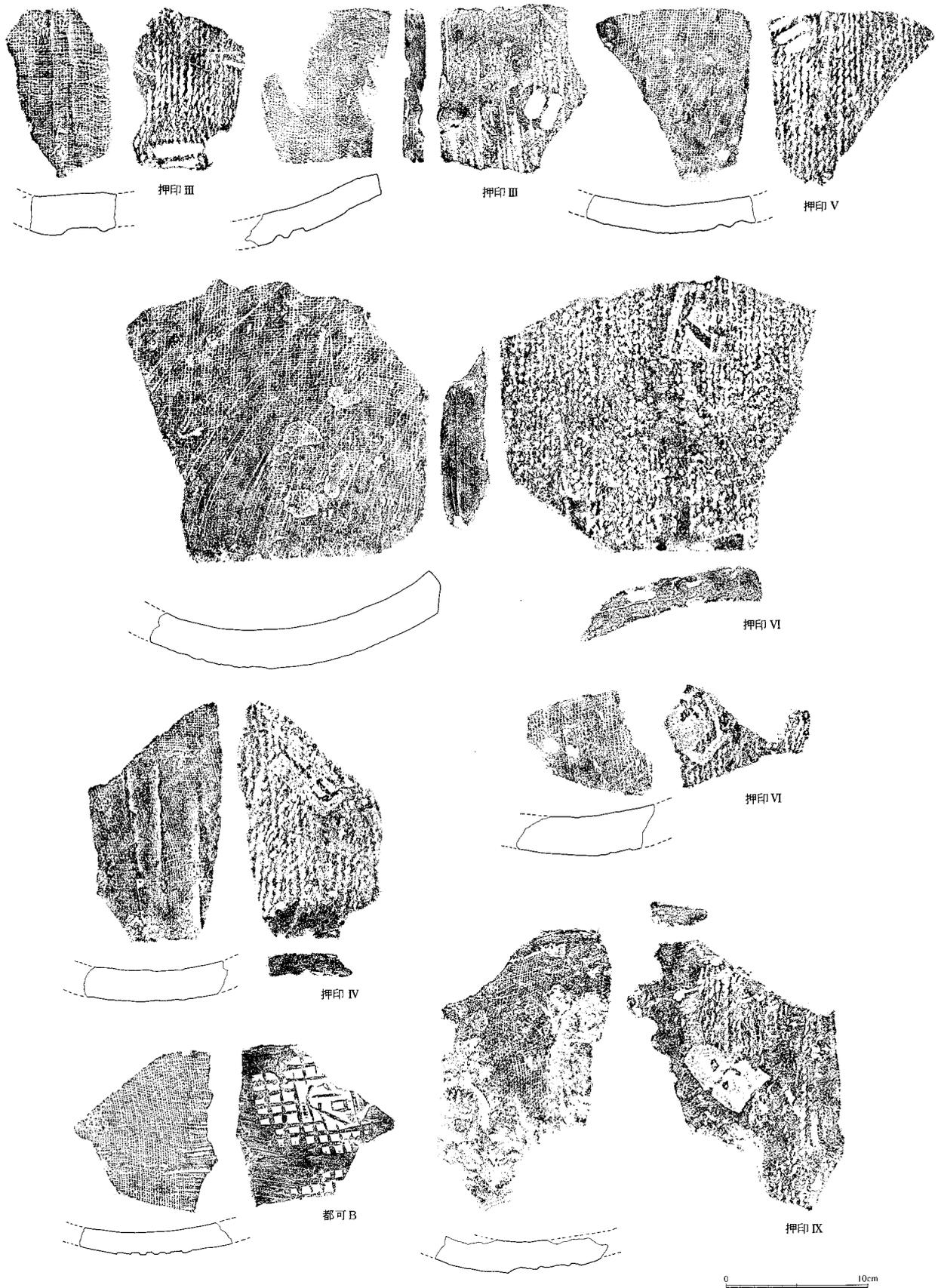
金堂からは、押印文字瓦で足利・梁田・河内・那須の郡名が確認できる。型押文字瓦は少なく、都賀郡のみである。へら書き文字瓦は那須・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田の7郡の郡名があり、広汎に亘っている。回廊では押印文字瓦は足利郡と梁田郡のみ、型押文字瓦は都賀郡のみであるが、へら書き文字瓦は那須・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田郡の7郡が確認できた。このため、建物による郡名の偏差は確認できない。このことは比較的数の多いへら書きの「那」が金堂で12点、回廊9点、へら書き「内」では金堂14点、回廊は15点確認された。へら書き「川」は金堂で11点、回廊で7点、へら書き「矢」は金堂で1点、回廊で4点、へら書き「田」は金堂で9点、回廊3点、「矢」と「田」を合わせて梁田郡は金堂で10点、回廊で7点である。このように、数の最も多い郡名瓦でも金堂・回廊で大きな郡名の偏差は窺えない。この事実から、郡毎に貢進した瓦は使う堂宇が分けられていなかったことが判明する。このことは、国分寺と尼寺における郡名比率の違いと関連する。



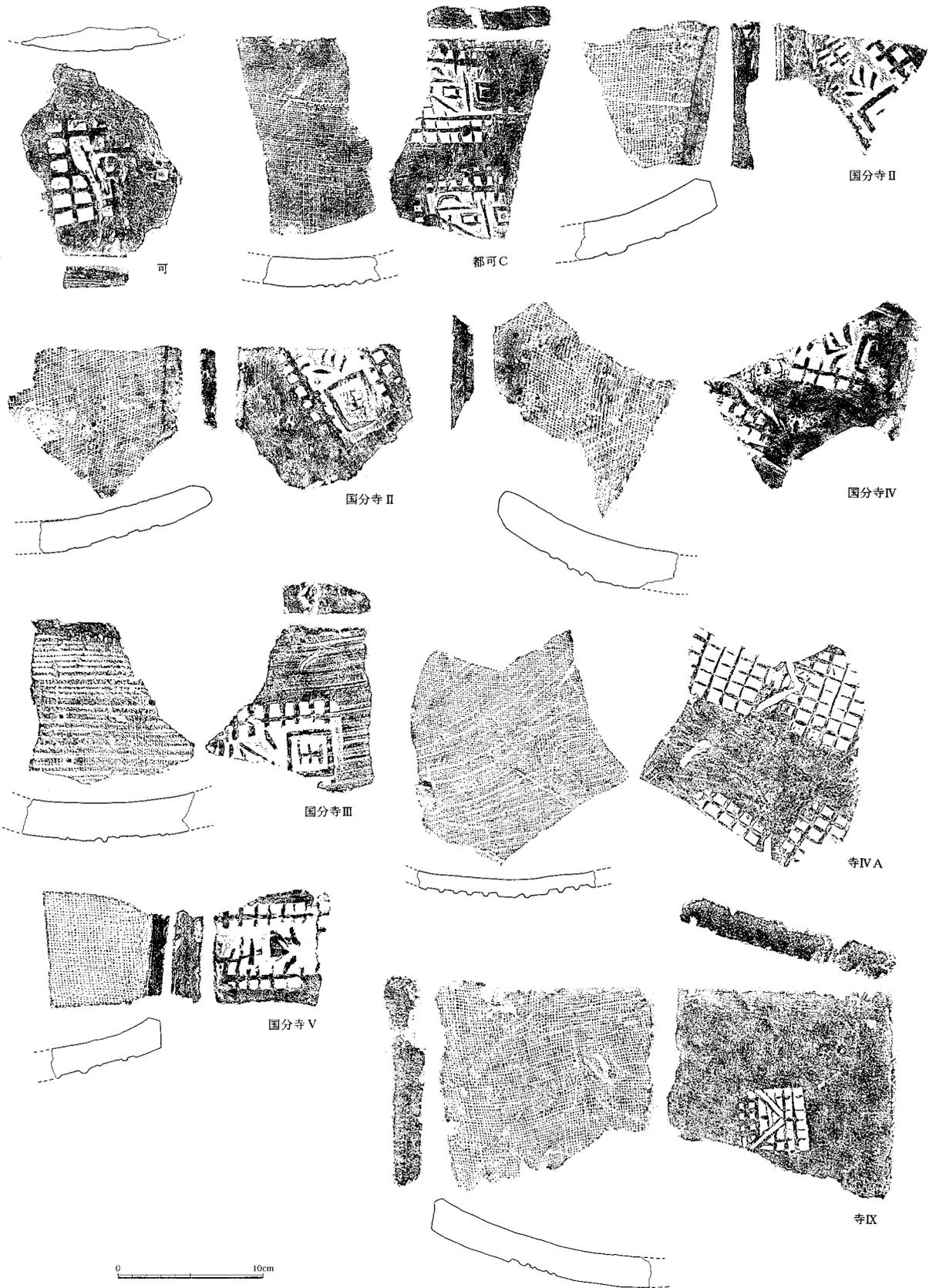
第104图 文字瓦实测图(1)



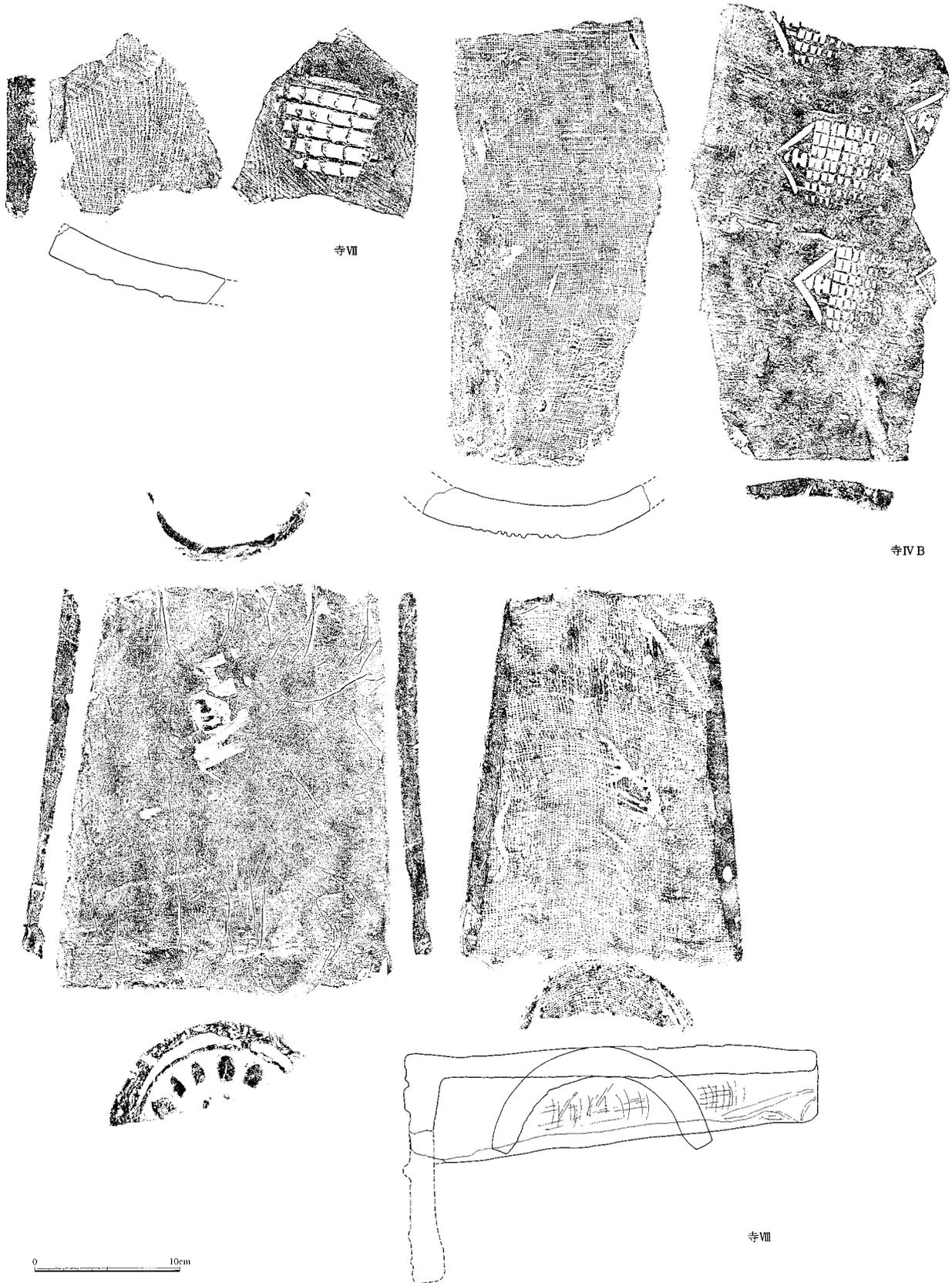
第105図 文字瓦実測図(2)



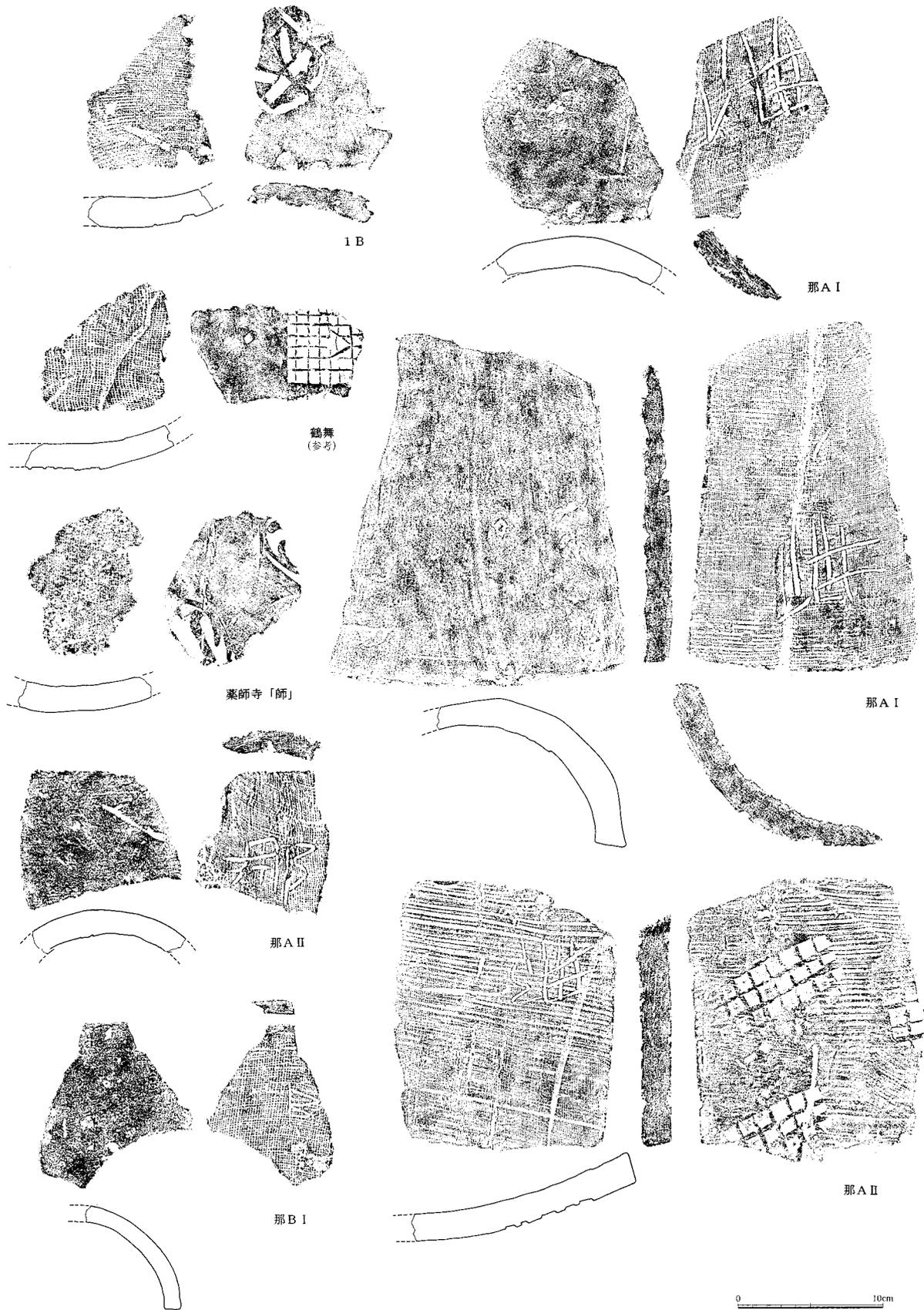
第106图 文字瓦实测图(3)



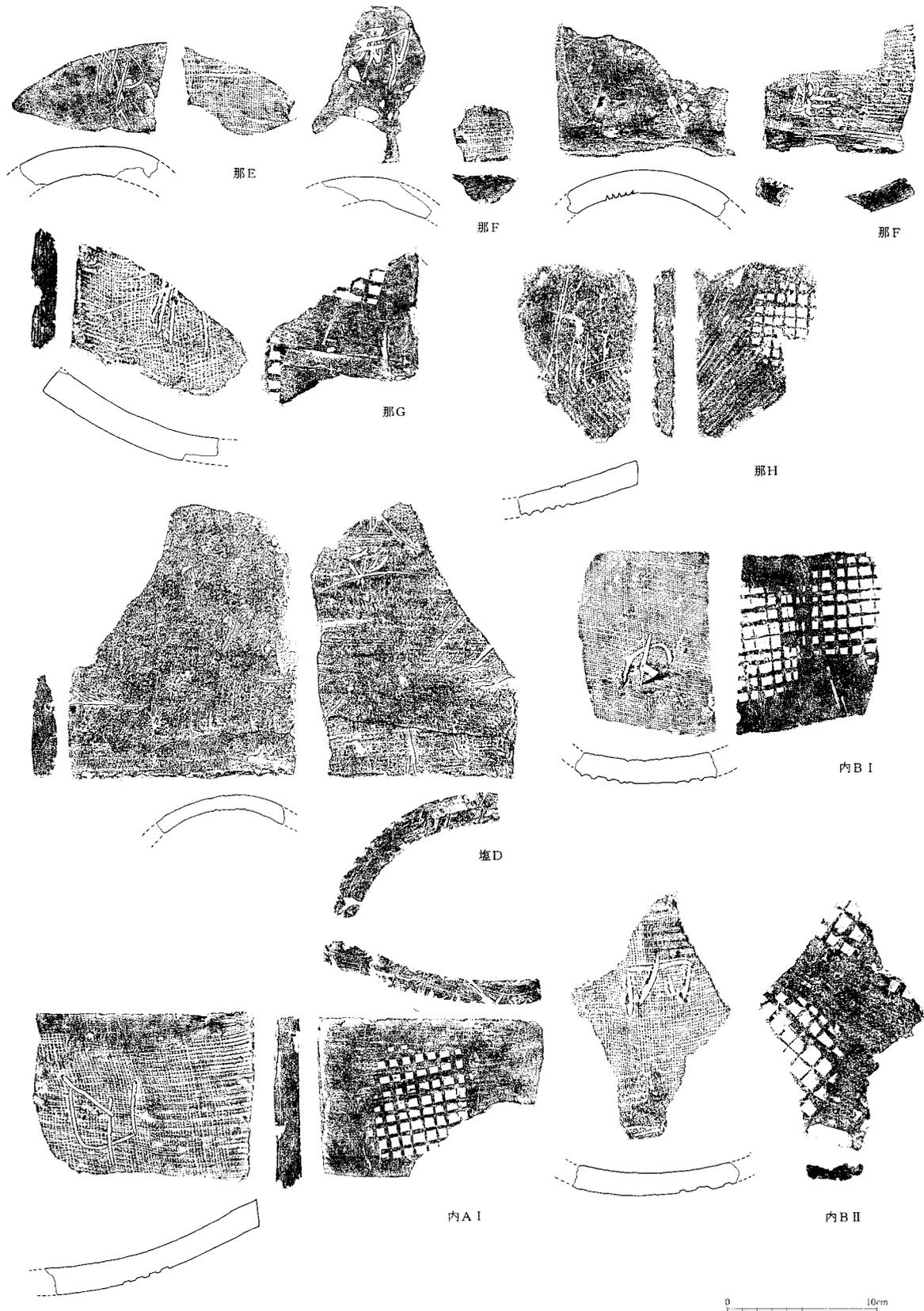
第107図 文字瓦実測図(4)



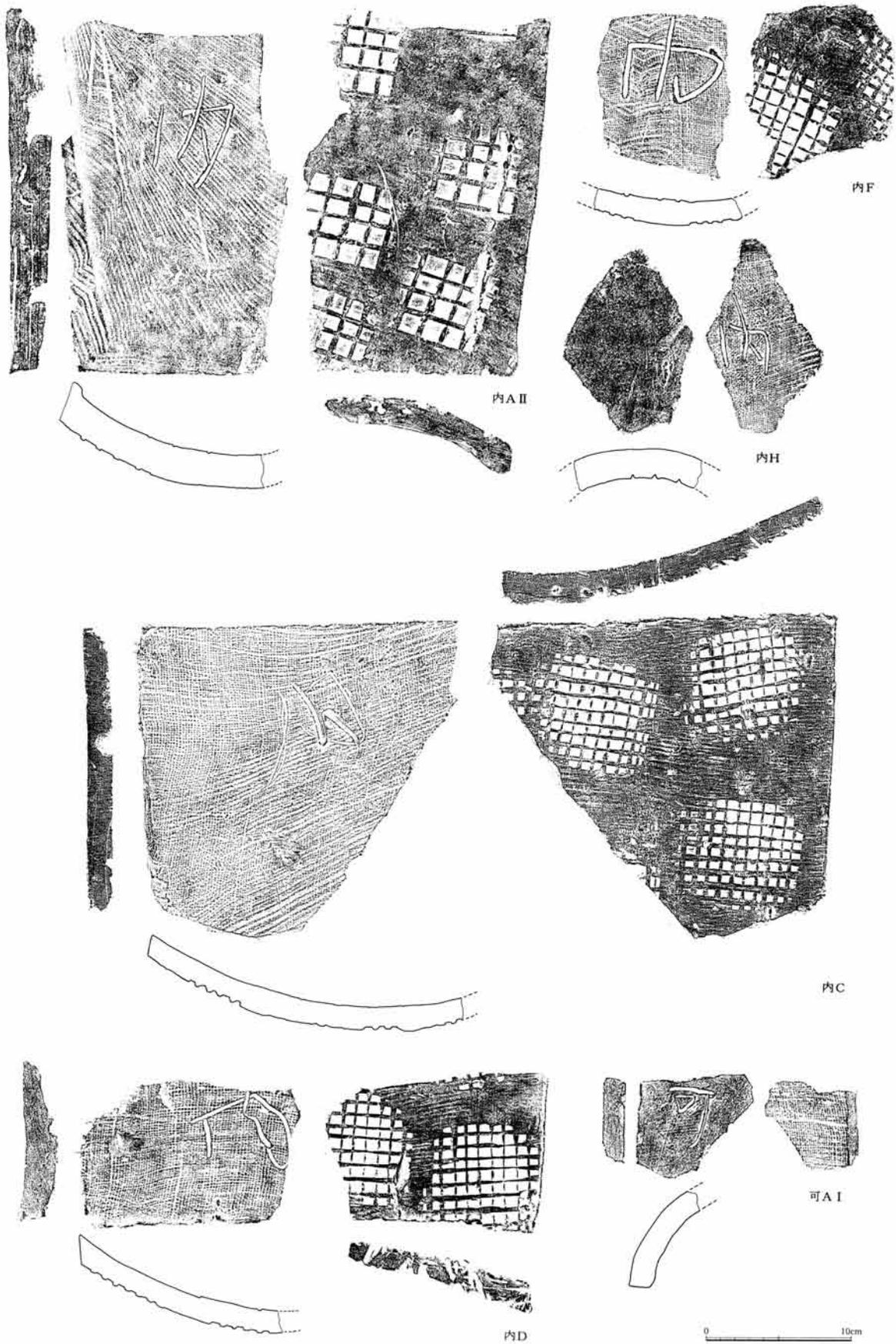
第108图 文字瓦实测图(5)



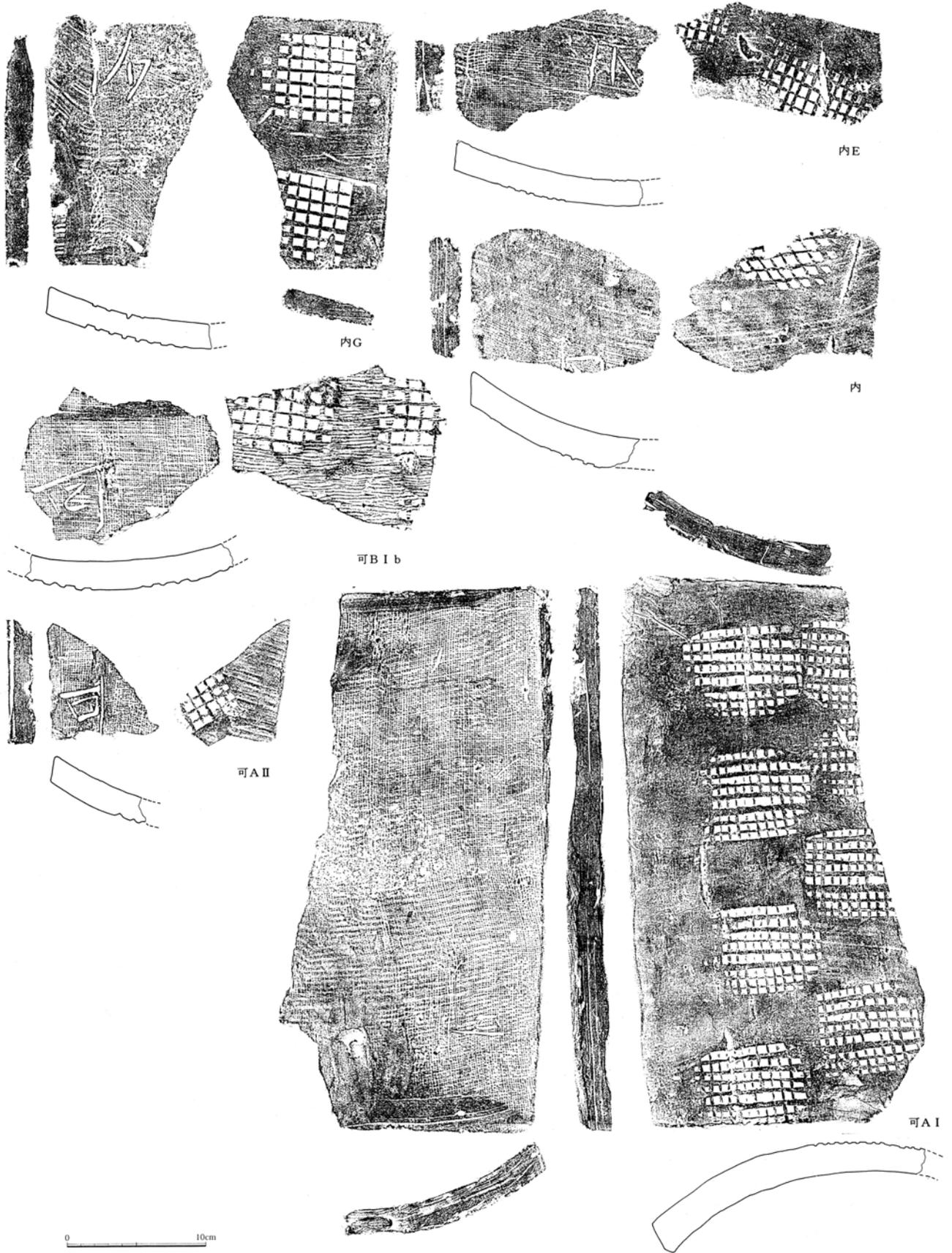
第109図 文字瓦実測図(6)



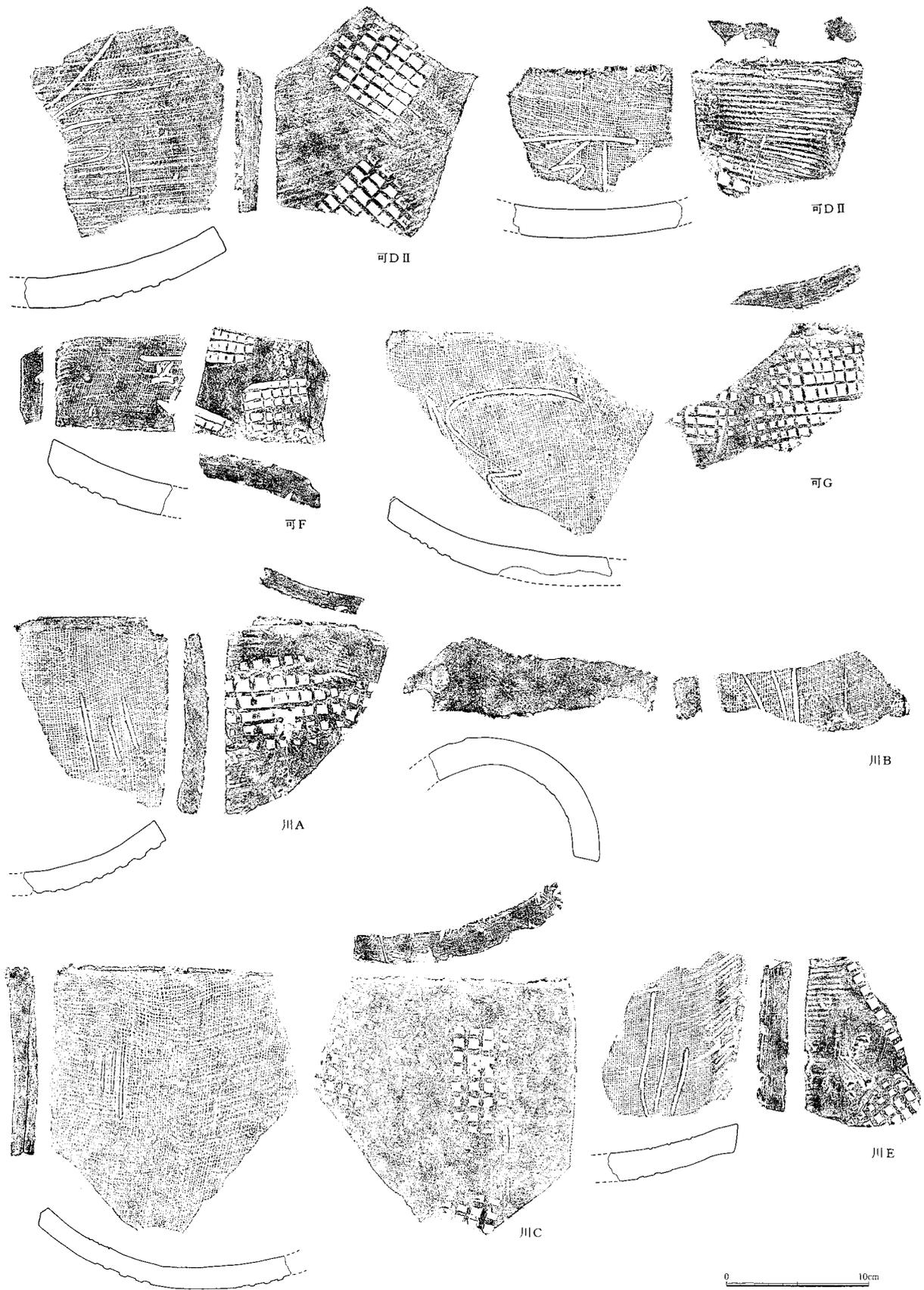
第110图 文字瓦实测图(7)



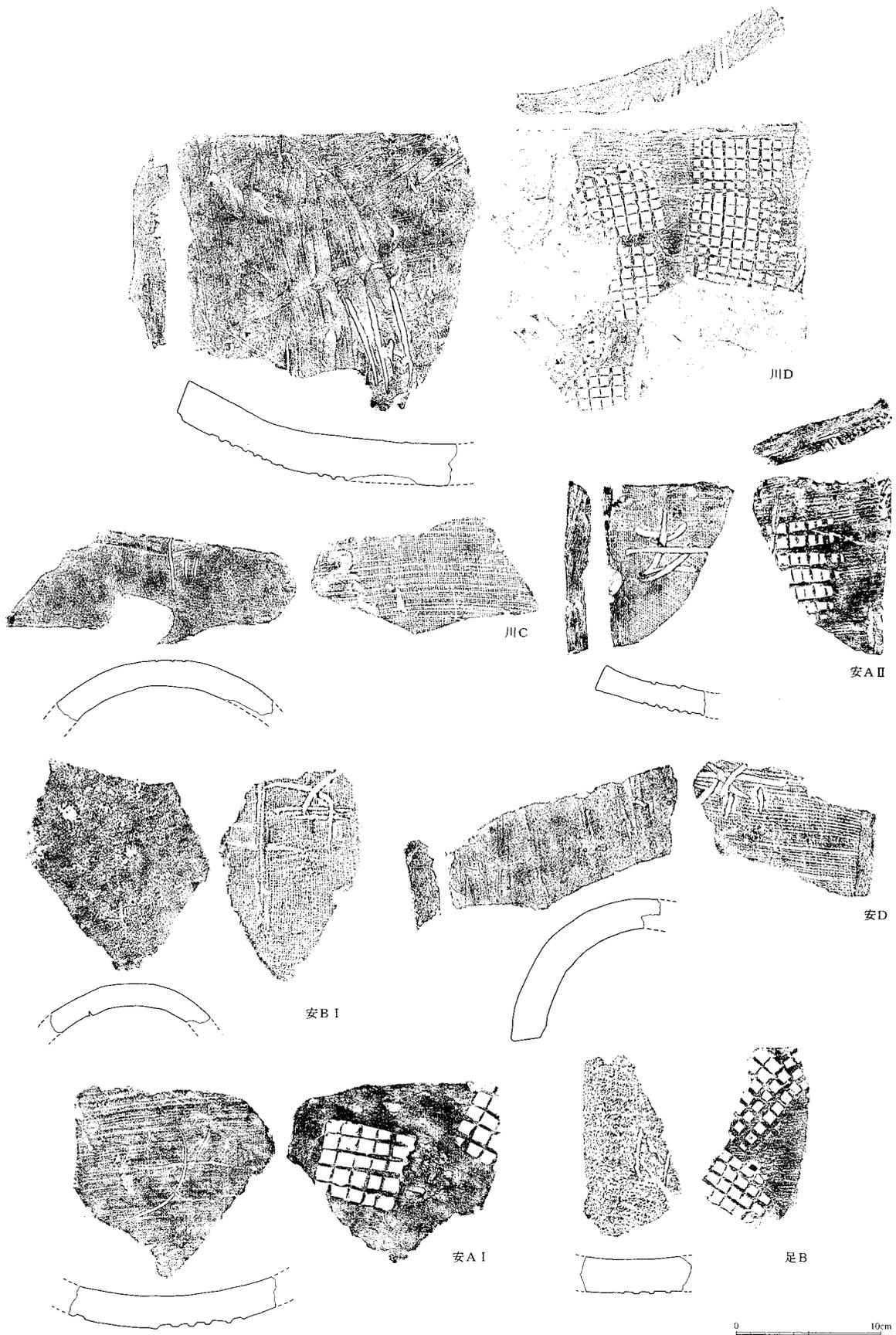
第111図 文字瓦実測図(8)



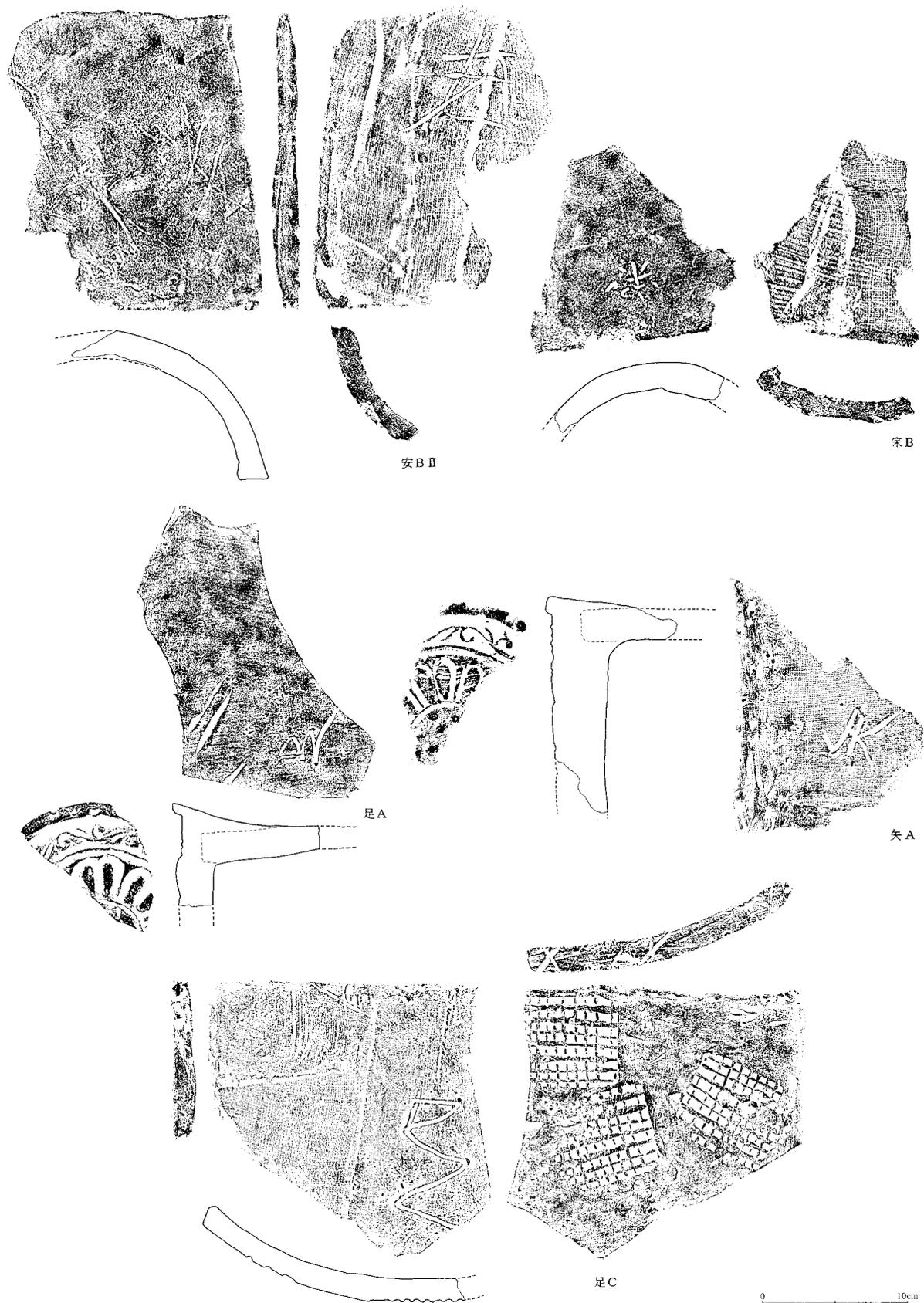
第112图 文字瓦实测图(9)



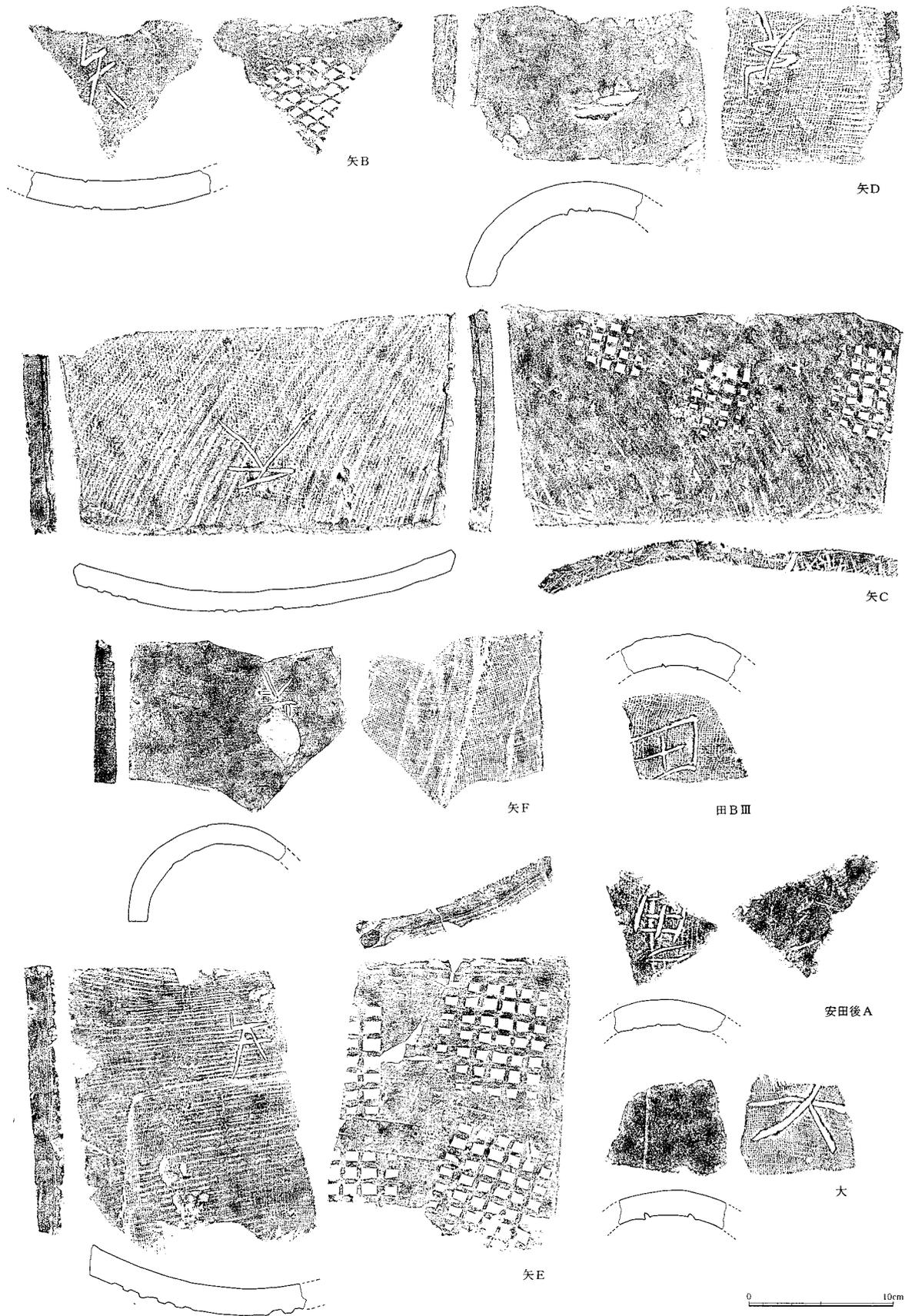
第113図 文字瓦実測図(10)



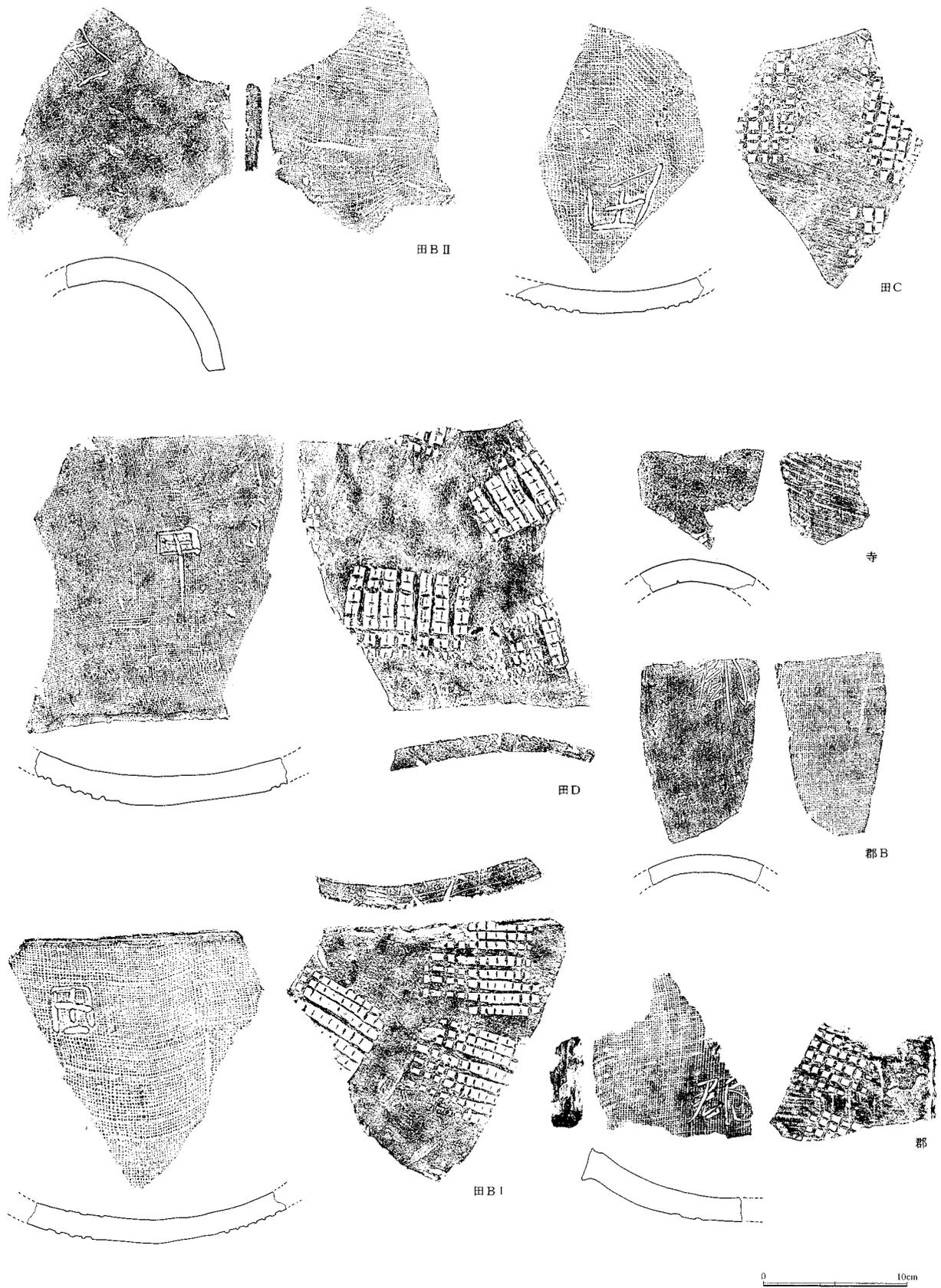
第114図 文字瓦実測図(11)



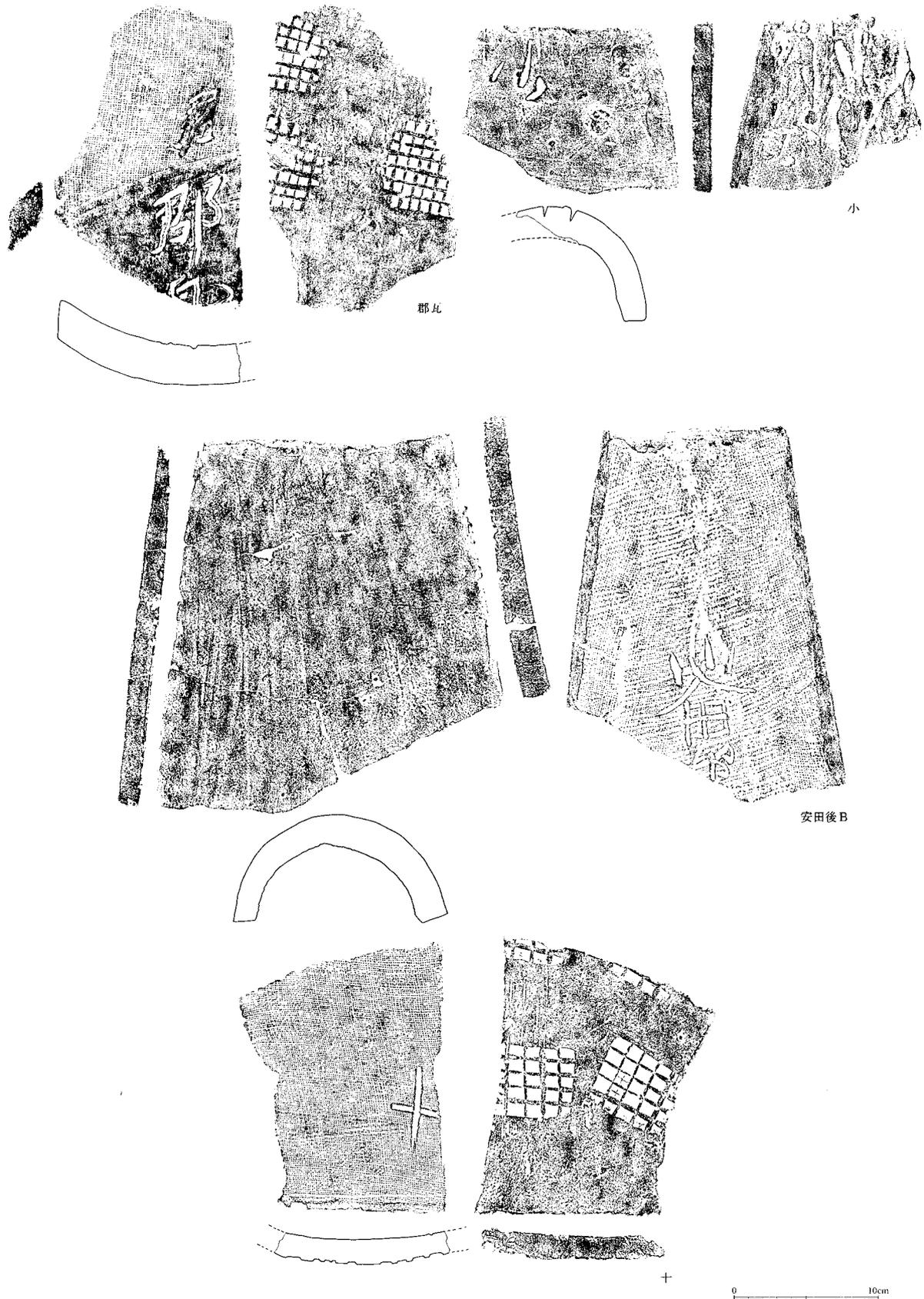
第115図 文字瓦実測図(12)



第116図 文字瓦実測図(13)



第117図 文字瓦実測図(14)



第118図 文字瓦実測図(15)

### 第3節 土器・陶器・金属製品等

尼寺の調査の結果、土師器・須恵器・灰釉陶器などの多種の土器類と鉄製品などが出土した。このうち、土師器・須恵器・灰釉陶器については、後述のように編年的な検討を行うこととし、本節では、その他の特徴のある遺物について、その出土傾向などをまとめておきたい。

#### (1) 伽藍地出土土器（第142・143図、第15表、図版四二・四三）

ここでは、伽藍地内から出土した土器等を建物毎に説明していく。

#### 金堂

金堂基壇及びその周囲から出土したものを提示した。1はロクロを使用する以前の丸底の土師器坏で、創建期の所産である。2～10はロクロ使用の土師器坏で、器高が3cm前後まで低くなっている。3～5は口径10cm程で、これらが金堂の機能した最終時期の土器とみられ、10世紀中葉頃になる。灯明に使用され、タールの付着する土器が多く確認された。11・12は体部外面に削りを施し、19は内面中央に朱墨が付く転用硯である。

#### 回廊

主に東西の回廊と金堂取り付け部付近などから出土した土器である。灰釉陶器を含め時期的に幅があり、土器編年の2期（1・4）から3期（2・3）、灰釉陶器も黒笹14号窯式から大原2号窯式まで存在する。2は常陸の新治窯産で、尼寺の伽藍地内でも他国産の須恵器が使用されていた事例になる。

#### 中門

2点を図化した。2の鉄鉢形土器は西回廊トレンチ拡張部からも出土したものである。この鉄鉢形土器は胎土から宇都宮窯産で、宇都宮産鉄鉢形の消費地を解明する資料となる。

#### 経蔵

3期の土師器坏を図化できた。4は小型で、内面にタールが厚く付く灯明の専用器である。灯明のタールは1・2でも確認された。

#### 僧房

僧房跡のトレンチなどから出たものから36点を図化した。時期的には幅があり、須恵器では1期（1～3）、2期（10・12）、3期（4）、4期（5～9）までに及ぶ。土師器は23が小型化しており、金堂出土の最終時期の土器と同じ時期の所産で、10世紀中葉になる。28は内面黒色処理の鉄鉢形土器片、29は南那須窯産の可能性のある高盤で、高台に方形の透かしを設けている。稀少な器種であるが、内面にタールが付いており、最終的には灯明用になっている。30・35は盤の可能性のある破片で、大型品とみられる。34は軟質で内外面に緑釉を塗る壺の口縁部である。36は逆位で「法」と書かれており、寺名の頭文字であろう。

#### 南門

南門に係わるトレンチなどから出土した5点を図化した。1は丸底の土師器坏で創建期の所産になり、3の灰釉陶器は折戸53号窯式と判断される。4・5は胴部外面に回転のハケ目（カキ目）を施す土師器甕で、本県では稀有な資料である。

#### 東門

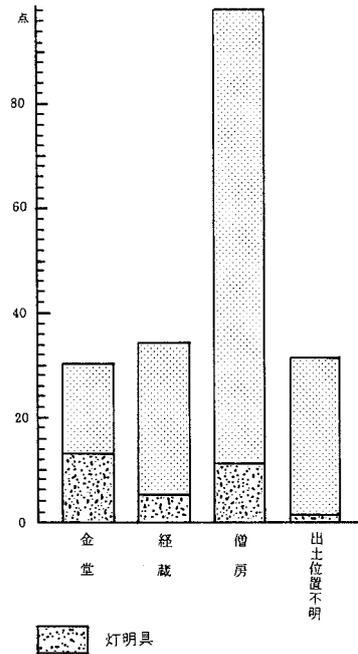
発掘調査では東門は発見されていないが、その想定地付近から出土したものであろう。2点の灰釉陶器は黒笹90号窯式になる。

#### 伽藍地内

時期的に幅のある土器を図化できた。6は黒笹90号窯式、7は浜松市宮川窯産と考えられる。8は泥塔の相輪部の破片である。

(2) 伽藍地出土灯明具 (第119・142・143図、図版四二・四三)

伽藍地内からは坏類の内外面にタールの付着する灯明具が30点出土した。その出土地は金堂13点、経蔵5点、僧房11点、出土地不明1点である。点数では金堂・僧房で多く出土したが、出土した土器片数に占める灯明具の割合は、金堂が格段に高かった。その割合は、金堂13点/30点(43%)、経蔵5点/34点(15%)、僧房11点/98点(11%)であった。僧房に比べて金堂では約4倍の灯明を付けていたことになる。国分二寺では、執り行う様々な法会や夜間には灯明を付けていた(註2、P184)。金堂で灯明具が多い理由には、夜間の常燈や法会による燃燈が挙げられるであろう。僧房の灯明具は、尼僧の生活に係わるものであろうか。



第119図 伽藍地出土土器破片数と灯明具の比率

(3) 墨書土器・刻書土器 (第120～123・125～129・131・133～137・139～141・143図、図版二九～三五・三七・三八・四〇～四三)

尼寺の範囲確認調査で出土した墨書土器の文字は、以下のとおりである。守カ(第1次S I -114)・国(第1次S I -125・第11次S I -698・第1次S D -112)・大万(第1次S I -125)・川(第2次S I -307)・南吉(第2次S I -307)・花(第2次S I -378)・百(第4次S I -439)・缶(則天文字・第11次S I -686)・千万カ(第11次S I -698・第1次S X -169)・古(第11次S I -698)・万(第11次S I -698)・法華寺(第11次S I -698)・上(第14次S I -849・第1次S K -156)・法カ(第4次S D -140)・足(第7次S D -550)・子カ(第10次S D -670B)・子目(第11次S D -265)・罌(第11次S D -265)・富(第11次S D -550)・曲(第11次S D -800)・千口(第1次S K -156)・言(第1次S K -156)・大口(第11次S X -805)・本(第1次調査区)・口上(第1次調査区)

これらのうち、寺名と関わる「法華寺」やその頭文字である「法」、職名の可能性もある「守」、「国」なども本遺跡の特徴的な墨書である。しかし、国分寺で確認できた寺院内の院名などは発見されなかった。則天文字や異体文字も確認できるが、「南吉」や「千万」、「万」など一般の集落でしばしばみられる墨書と同じ文字も存在する。この他にも、人面墨書土器の可能性のあるものが第2次調査区の遺構外から出ており、目と眉毛であろうか。

墨書土器の時期は、10世紀代のもも少数存在するが、大半は9世紀中葉から後半である。この時期の国分尼寺の墨書が、集落の様相に類似するという点を確認することができた。

焼成前の刻書土器としては、「御願」と書かれた須恵器甕が第9次調査区の遺構外から出土した。焼成前であることから窯場で記載されたものであり、特注品であろう。

(4) 製塩土器 (第121～123・126～129・135・139・140図、図版二九・三〇・三四)

尼寺の竪穴住居跡などから多数の製塩土器片が確認された。出土した遺構を列挙すれば、第2次S I -239・251・307、第5次S I -496、第7次S I -560、第11次S I -680・696・698、第11次S D -330、第1次S X -169である。これらは、大半が9世紀中葉から後葉の所産と判断される。このため、8世紀後

#### 第4章 発見された遺物

半と10世紀代の製塩土器は発見されなかった。いずれも小破片であり、口径を復元できるものは少ないが、第1次SX-169出土の土器は口径10.4cmに復元され、筒形の器形になるであろう。また、口縁部の多くは篋で削ることのないものであり、平鉢形の製塩土器は口縁部を水平に削るものが多いことからすれば、本遺跡で出土した多くは筒形の製塩土器であったと推定することができる。

胎土には白色針状物を含むが、実測図番号で第2次SI-239の25・27、第2次SI-307の86、第11次SD-330の4、第1次SX-169の10では金色雲母を確認することができた。

福島県いわき市域の製塩土器には、小茶田遺跡出土品のように、胎土に金色雲母を含んでいる。また、この遺跡の製塩土器の口縁部はやや肥厚する特徴をもつ。国分尼寺出土の製塩土器で口縁部の肥厚するものは少ないが、胎土の特徴から金色雲母を含む一群は、いわき市域産の製塩土器と推定しておきたい。それ以外は、茨城県日立市域などのものと推定される。しかし、茨城県内における他の地域の製塩土器の実態が不明のために、今後の調査の進展で産地推定の変更もありうる。

このように、製塩土器の産地構成比では多くが常陸産で、いわき市周辺産が少数入っていたということが理解できる。製塩土器以外での塩の搬入方法もあったと推測されるが、遺物から判断できる塩の産地は地理的要因に起因して常陸からのものが多かったと考えられる。

#### (5) 遠隔地搬入時（灰釉陶器・緑釉陶器以外）（第120・127・130図、図版二九・三四）

灰釉陶器・緑釉陶器以外で、遠隔地からの搬入品を挙げておく。白磁碗が第7次SI-566から、統一新羅土器の蓋は第14次SI-844から、群馬産土師器は第10次SA-300から出土した。白磁碗は玉縁口縁で、9世紀第4四半期の堅穴住居跡から出た。統一新羅土器の蓋は、黒笹90号窯式の新しい段階から折戸53号窯式の古い段階の灰釉陶器と共に出ていることから、9世紀末から10世紀初頭の所産と判断することができる。

所謂北武蔵型坏は掘立柱塀の柱抜き取り痕から出土した。塀は9世紀中葉まで存在していたと考えられる。

#### (6) 硯（第127・132・140図）

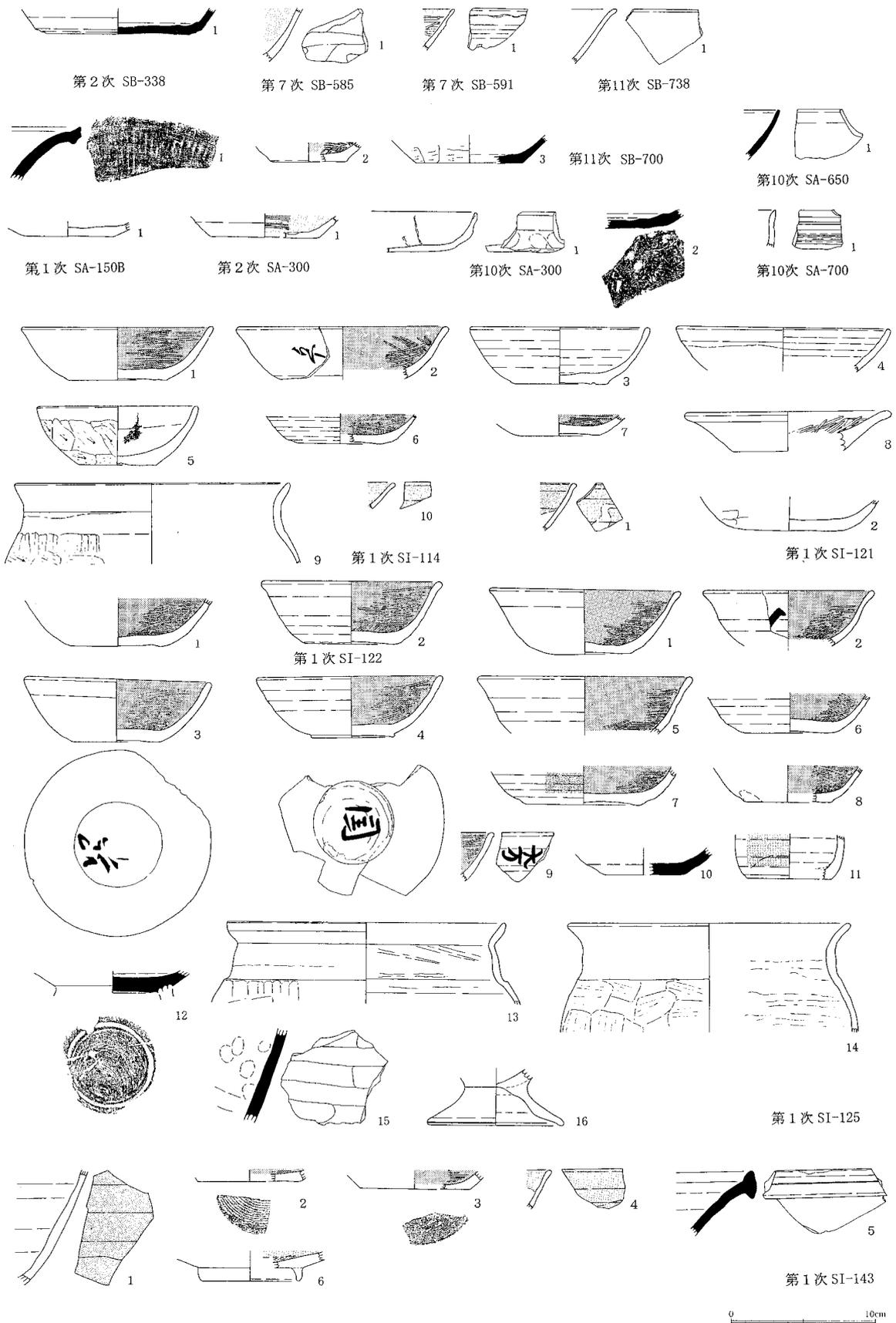
須恵器甕の胴部片を転用した硯がある。この転用硯は第7次SI-588・第1次SD-204で出ているが、円面硯や風字硯は確認できなかった。第2次調査区から出た須恵器坏には底部に朱が付く破片が確認できた。軒瓦の顎裏面には朱がしばしばみられるが、朱付着土器が少ないことから、土器以外の容器に貯めて塗ったことが推測される。

#### (7) 土錘（第121・133・137・140図）

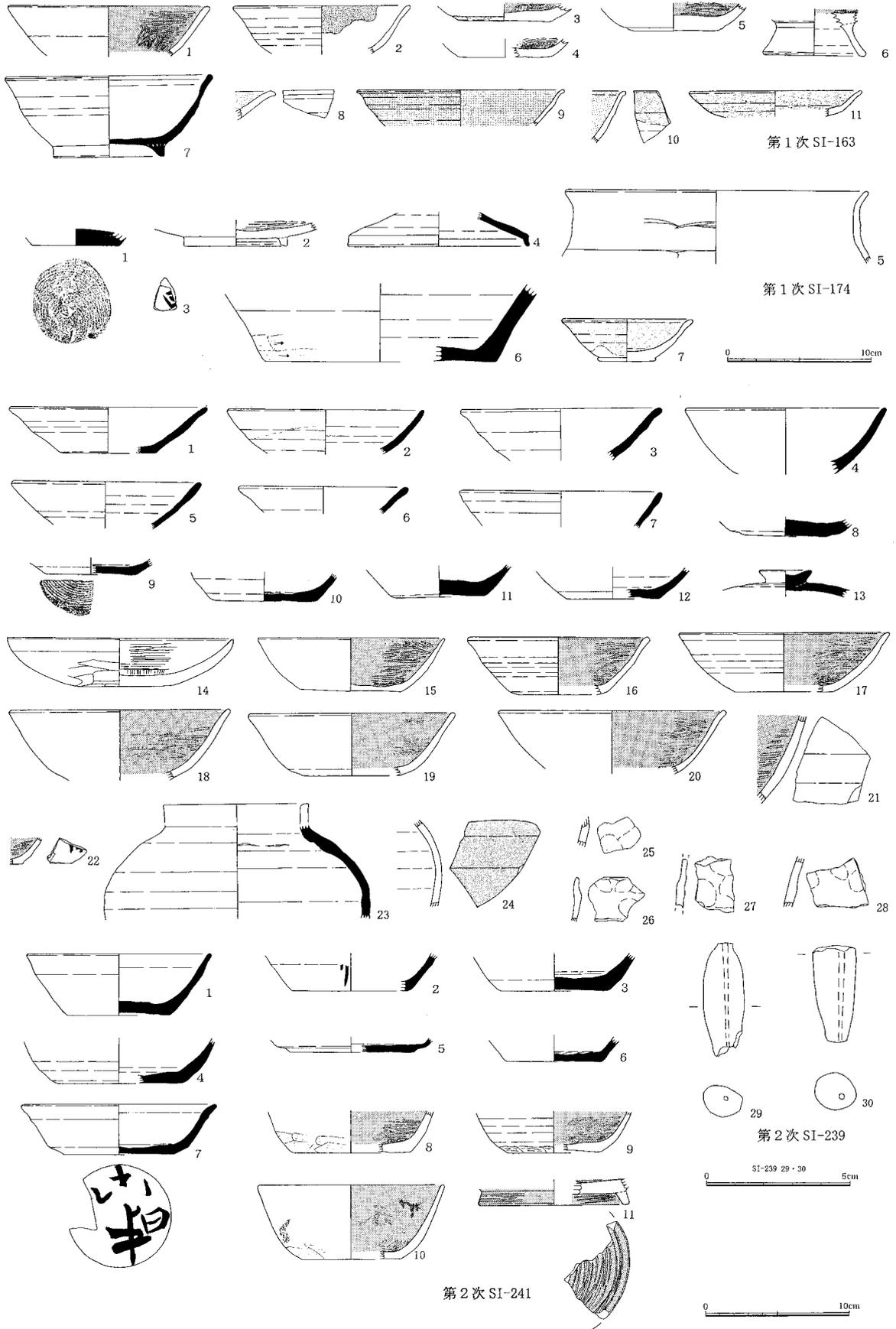
8点確認できた。集落と同じ程度に出ていることは、寺の西に思川、東に姿川が流れており、漁撈場に近いことにも起因するであろう。時期の判明するのは第2次SI-239のみで、9世紀第4四半期の所産になる。いずれも管状土錘で、寺院経済を解明する一助になるであろう。

#### (8) 鉄製品（第144～148図、図版四三～四六）

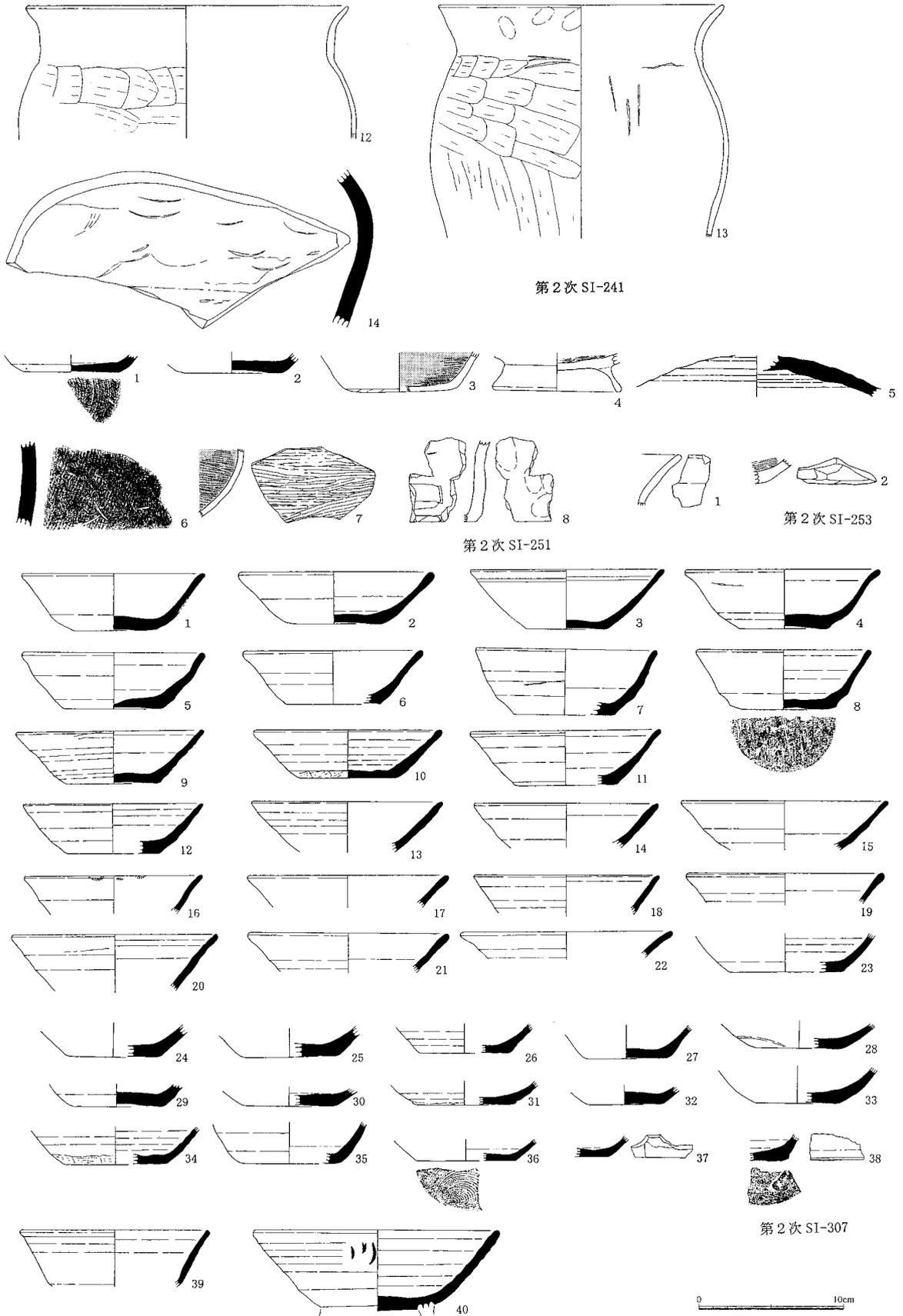
伽藍地の周辺部から釘が多数発見された。以前の調査で金堂の基壇と周辺において出土した釘に比べて、伽藍地・寺院地外周付近で今回発見された釘は細く短いものが大半である。このため、今回出土した釘の多くは建築の主要部位で使用するものではないと推定される。以下、主な製品について説明していく。



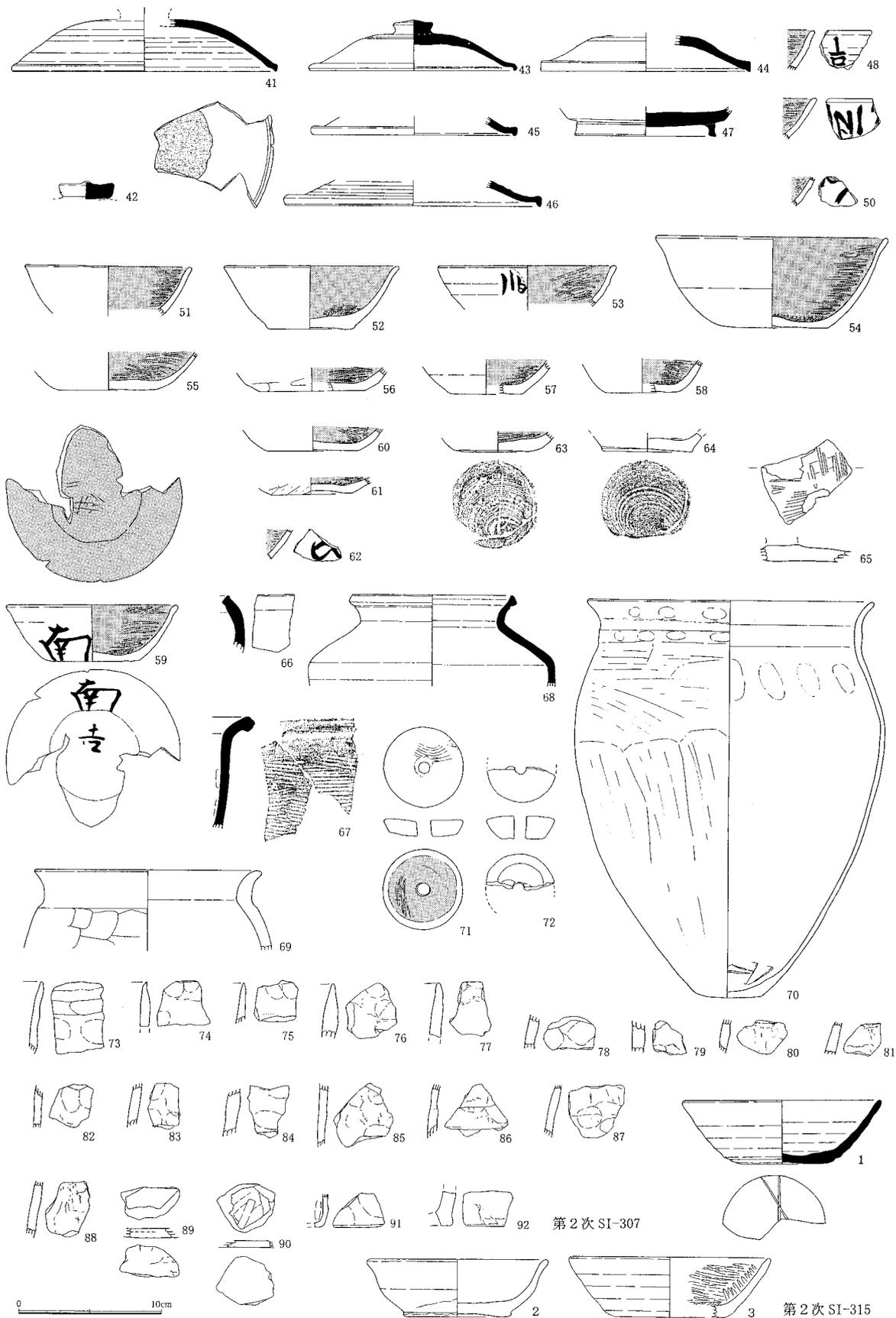
第120図 土器・陶器等実測図(1) —掘立柱建物跡・塀跡・竪穴住居跡出土(1)～(12)—



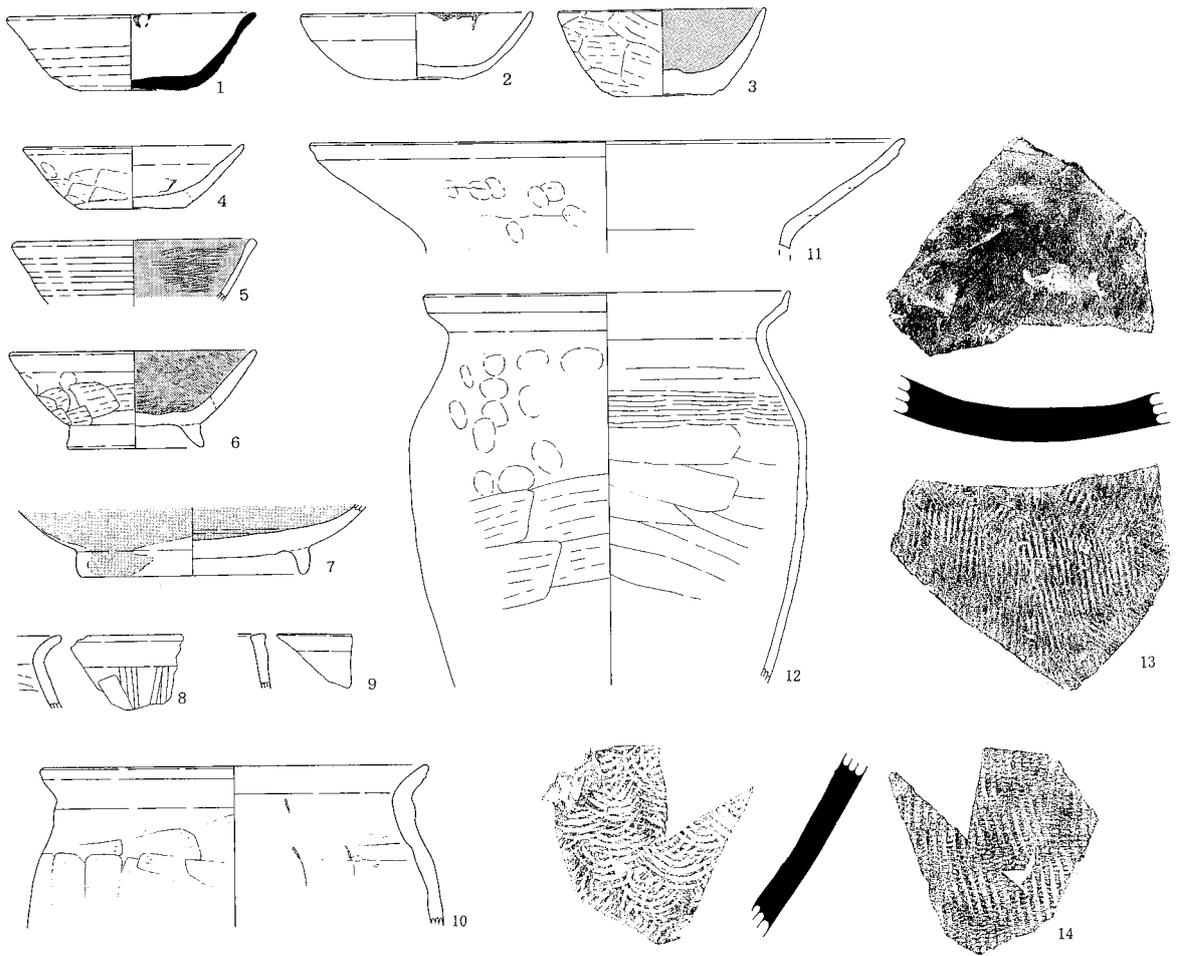
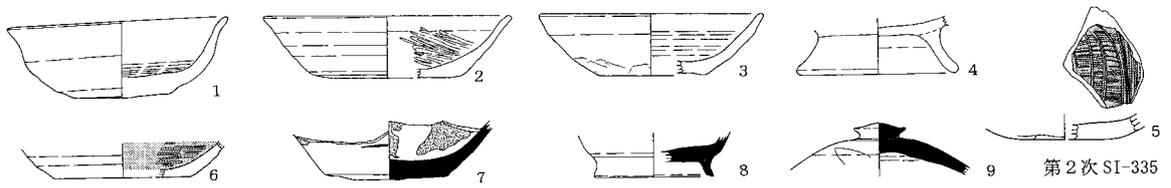
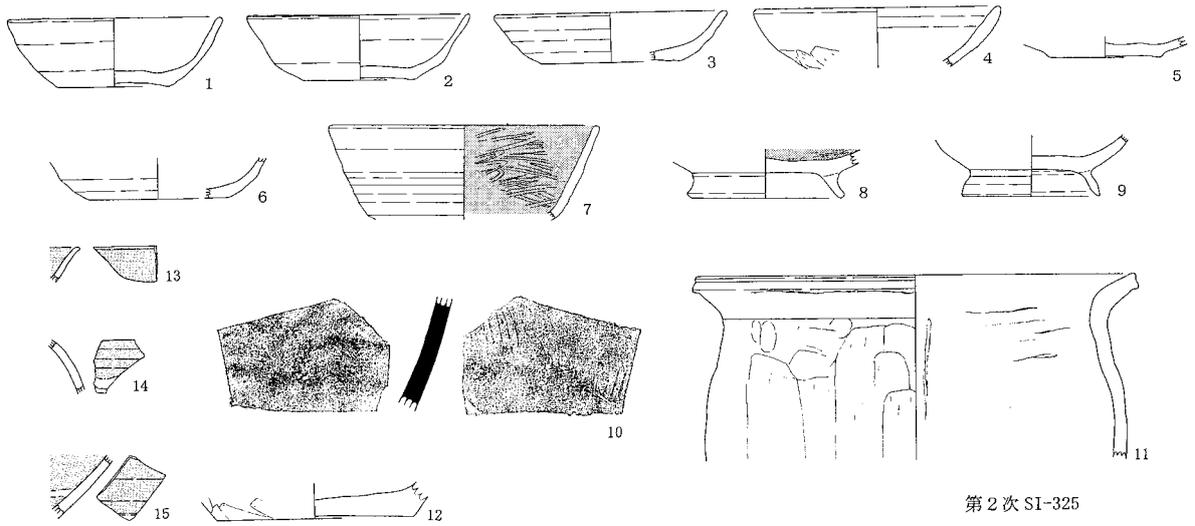
第121図 土器・陶器等実測図(2)



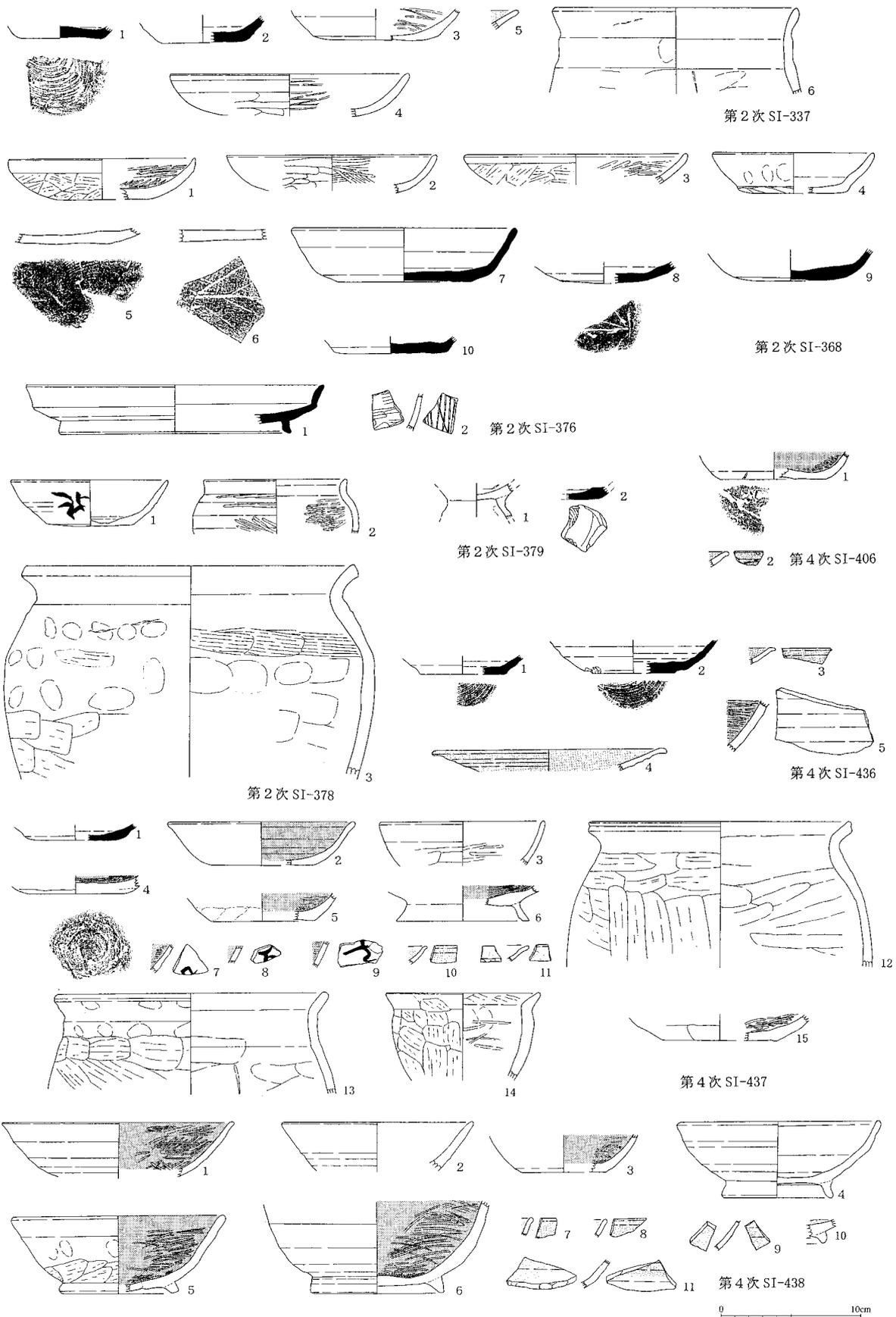
第122図 土器・陶器等実測図(3)



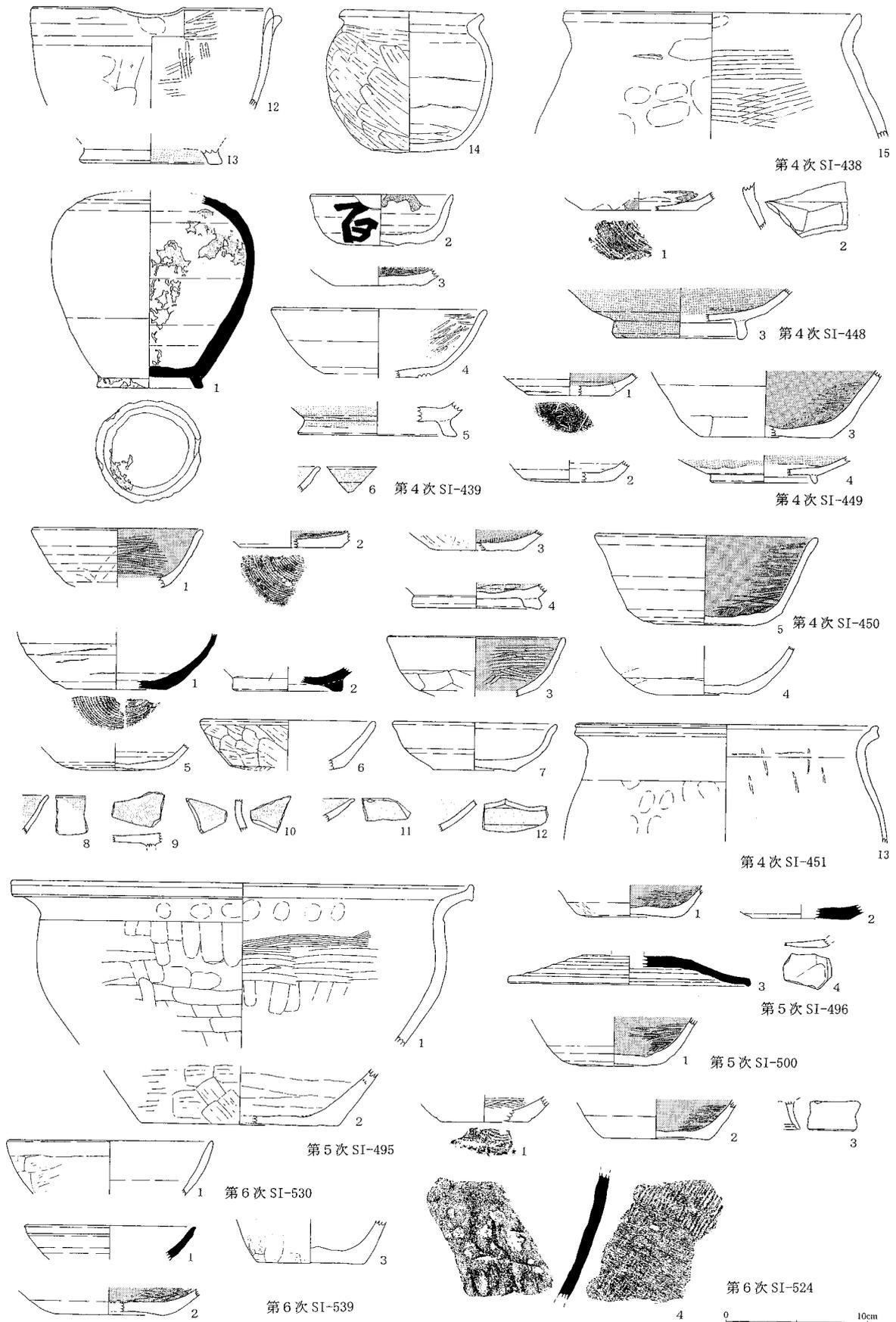
第123図 土器・陶器等実測図(4)



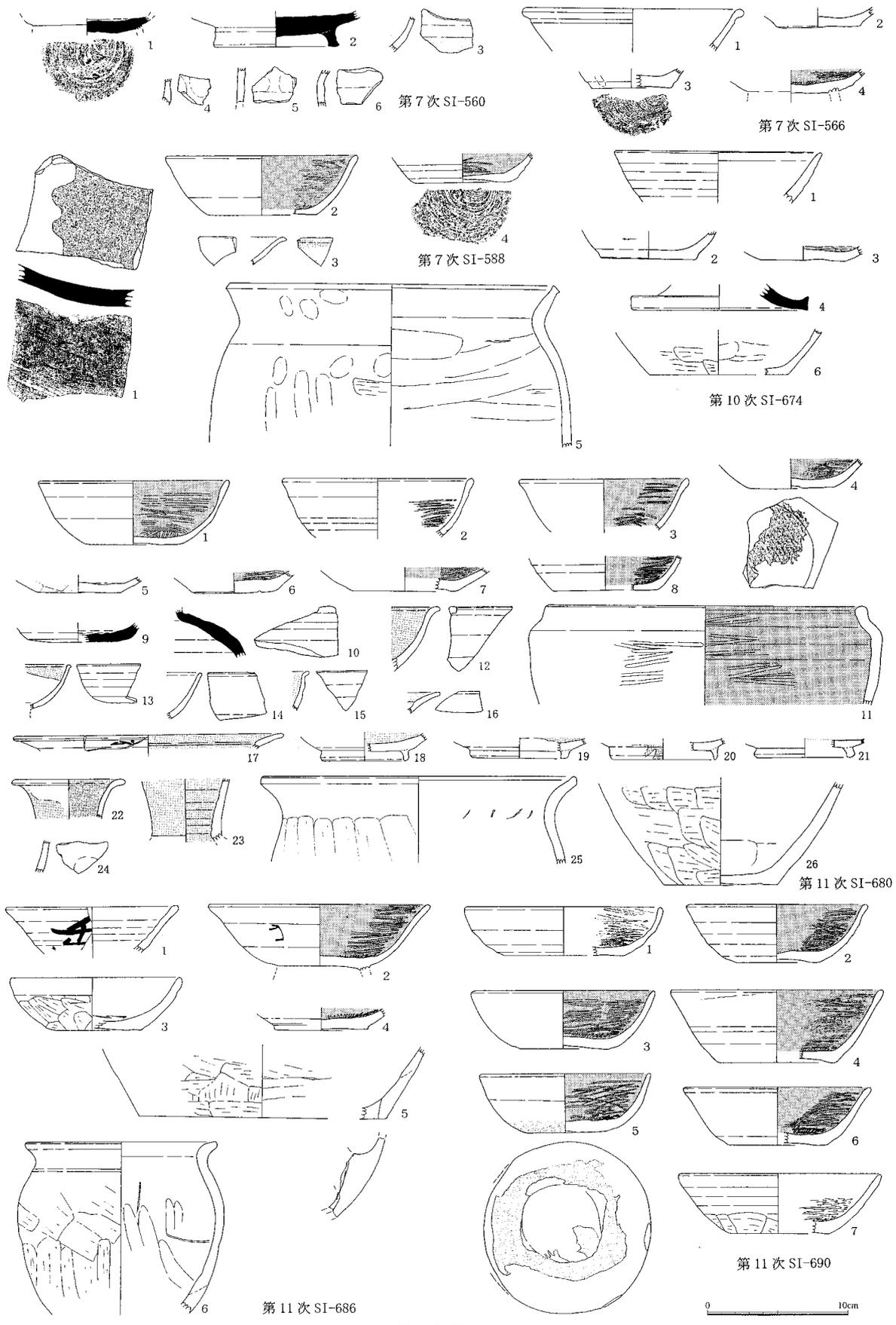
第124図 土器・陶器等実測図(5)



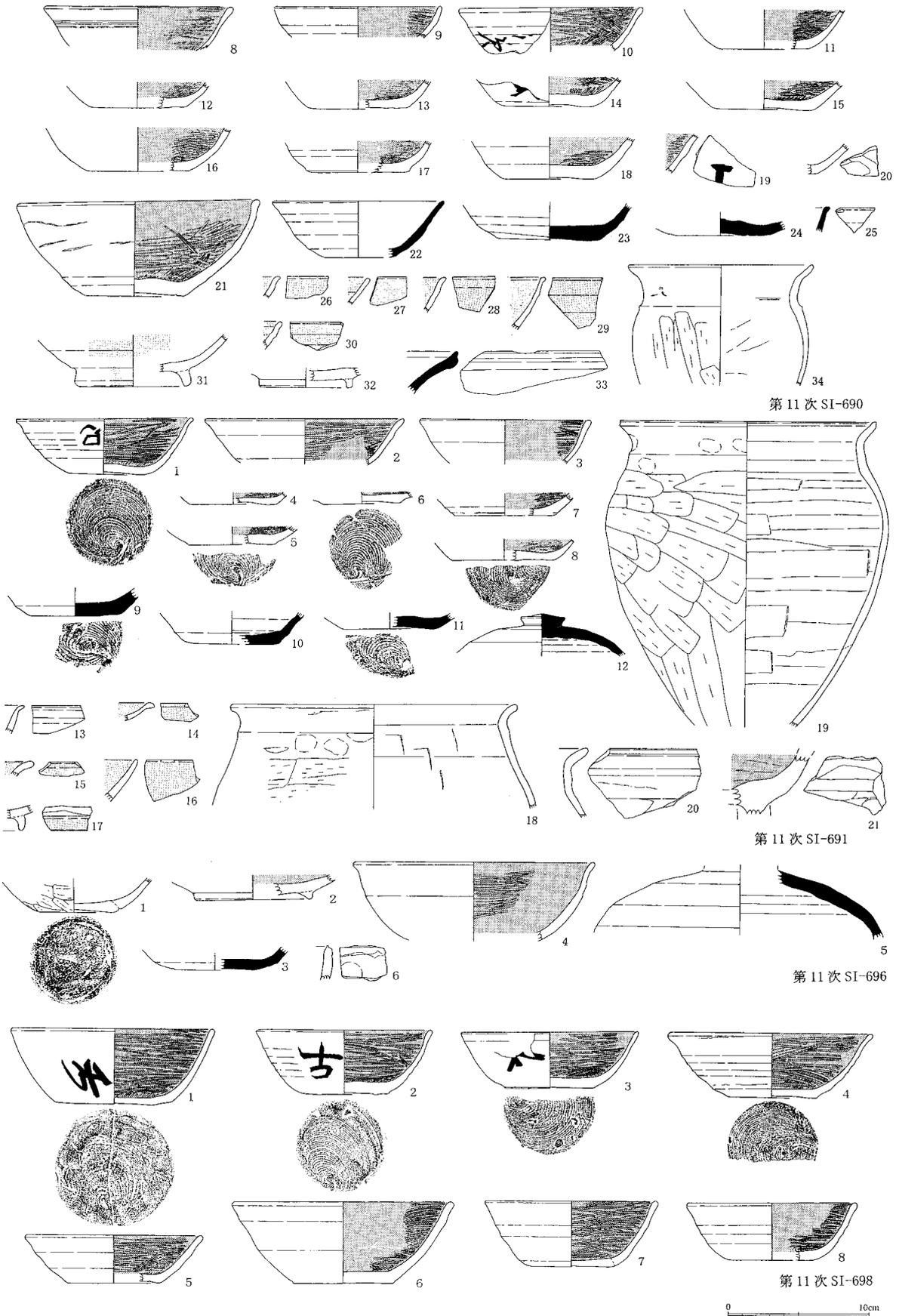
第125図 土器・陶器等実測図(6)



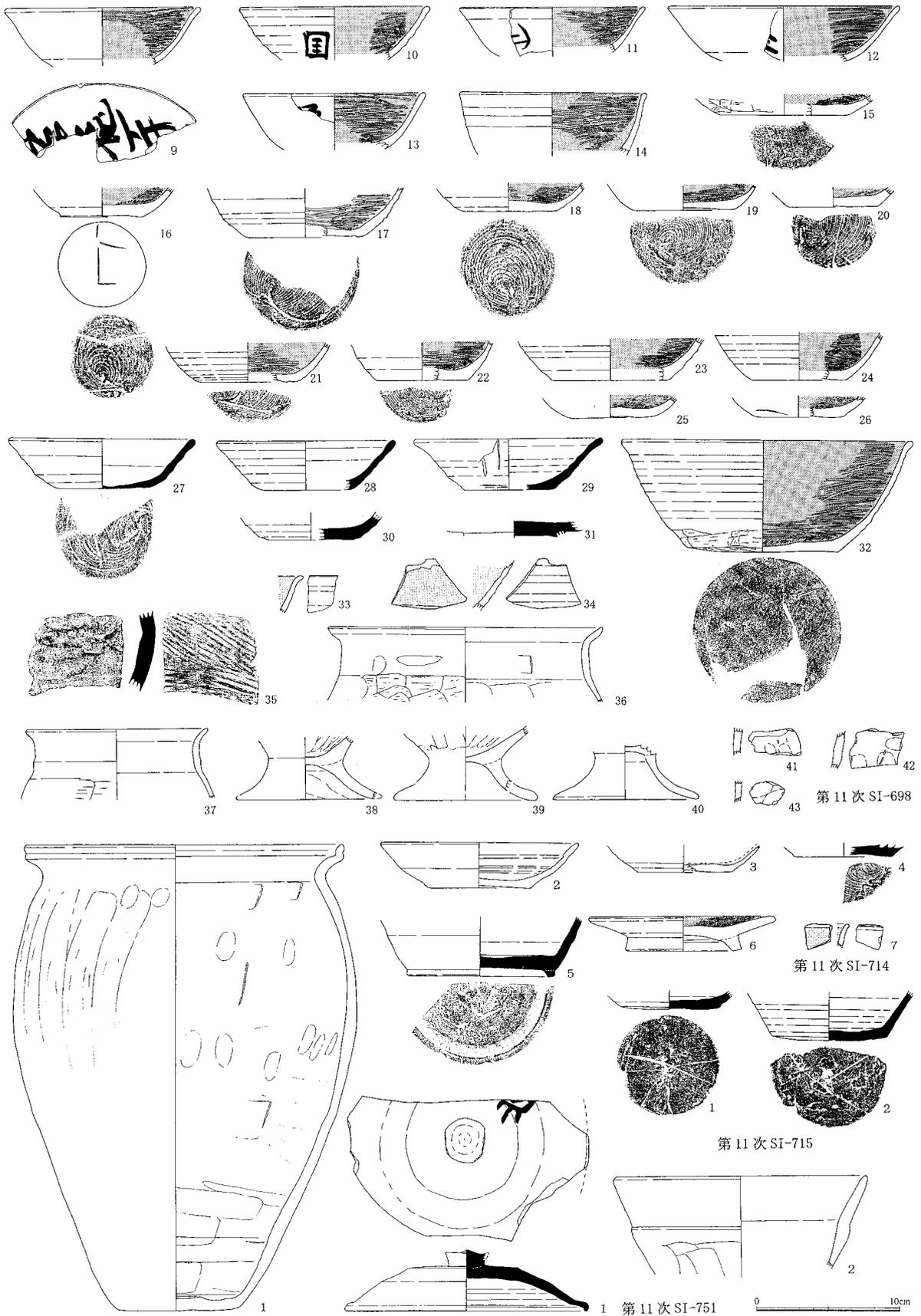
第126図 土器・陶器等実測図(7)



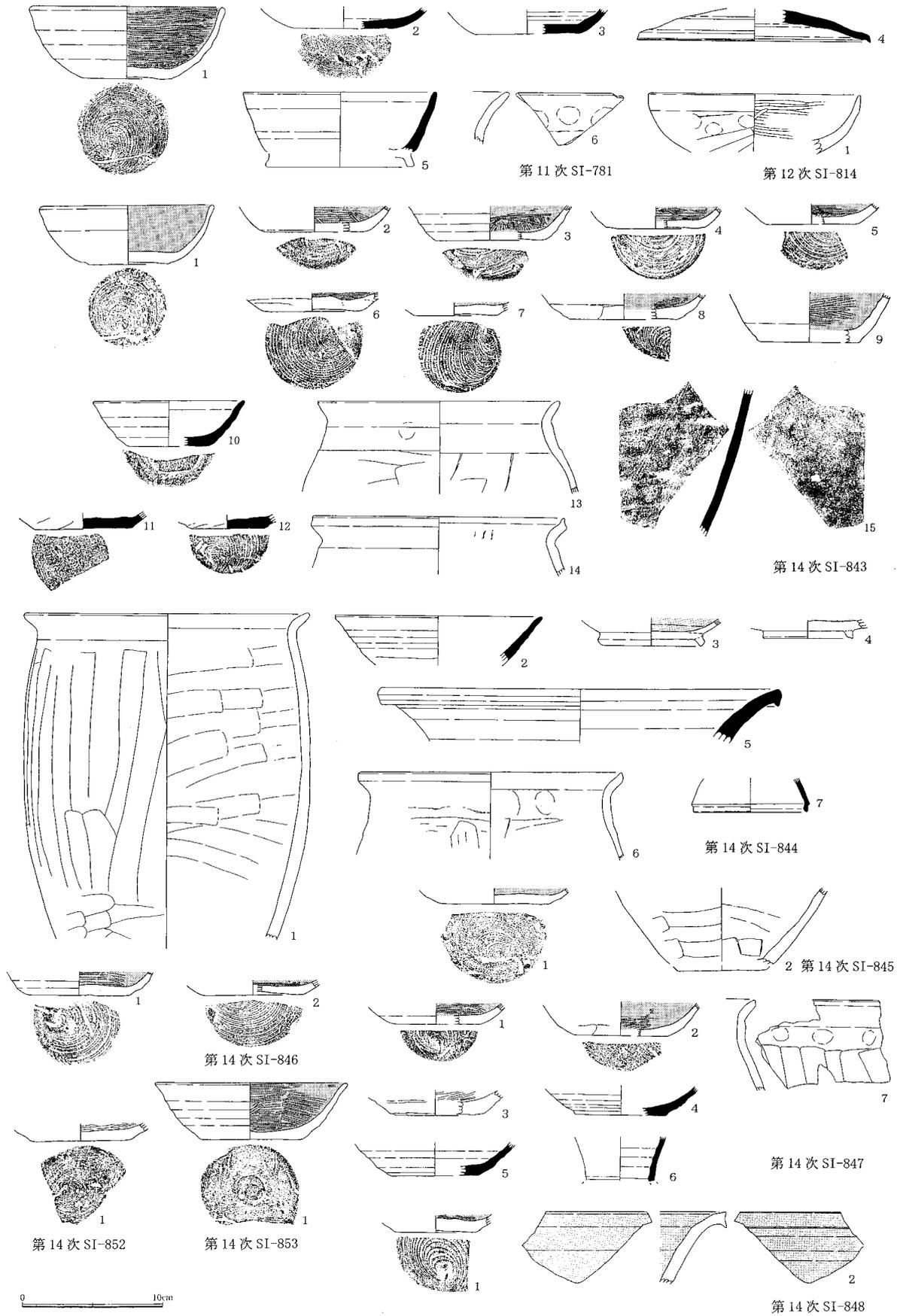
第127図 土器・陶器等実測図(8)



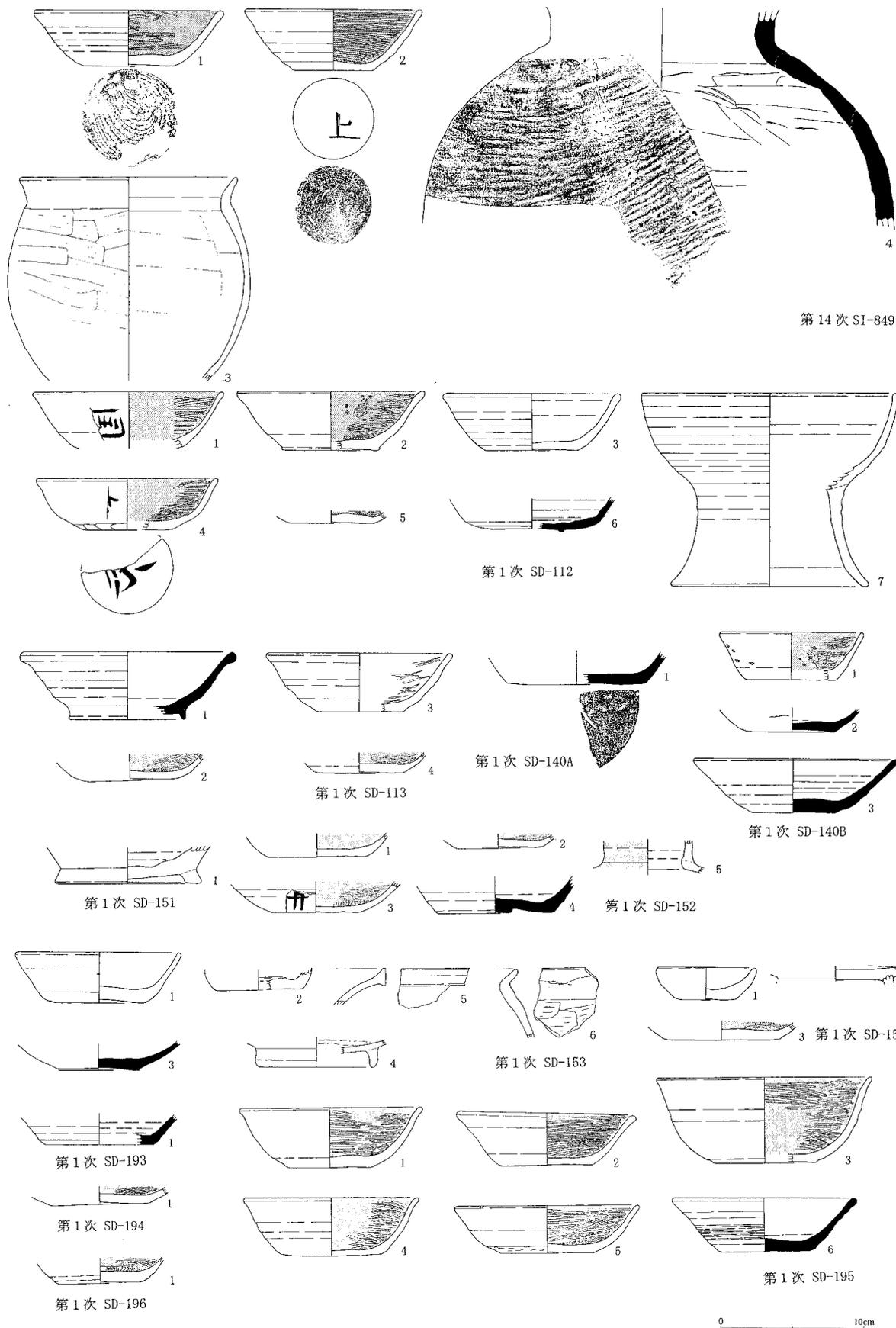
第128図 土器・陶器等実測図(9)



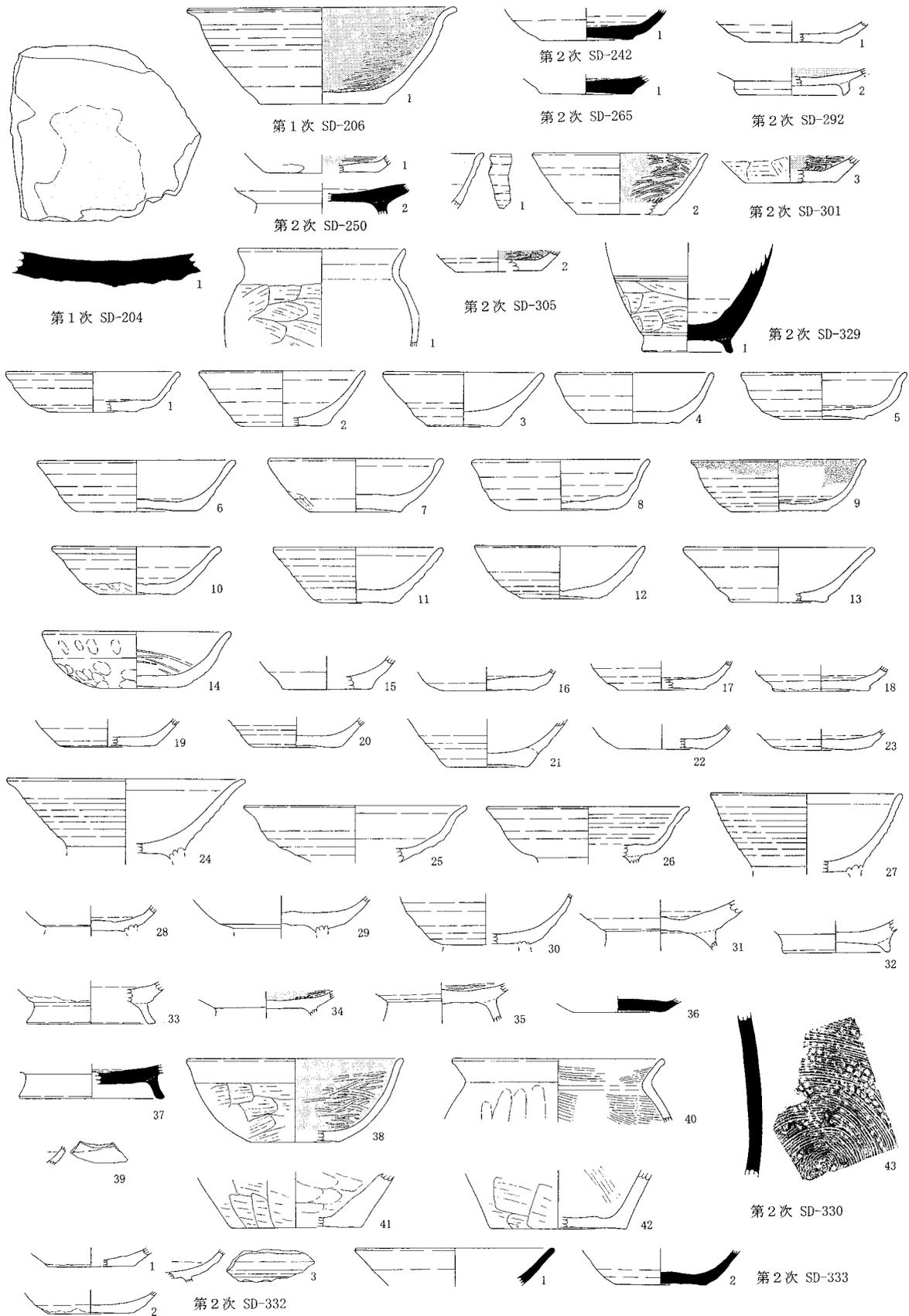
第129図 土器・陶器等実測図(10)



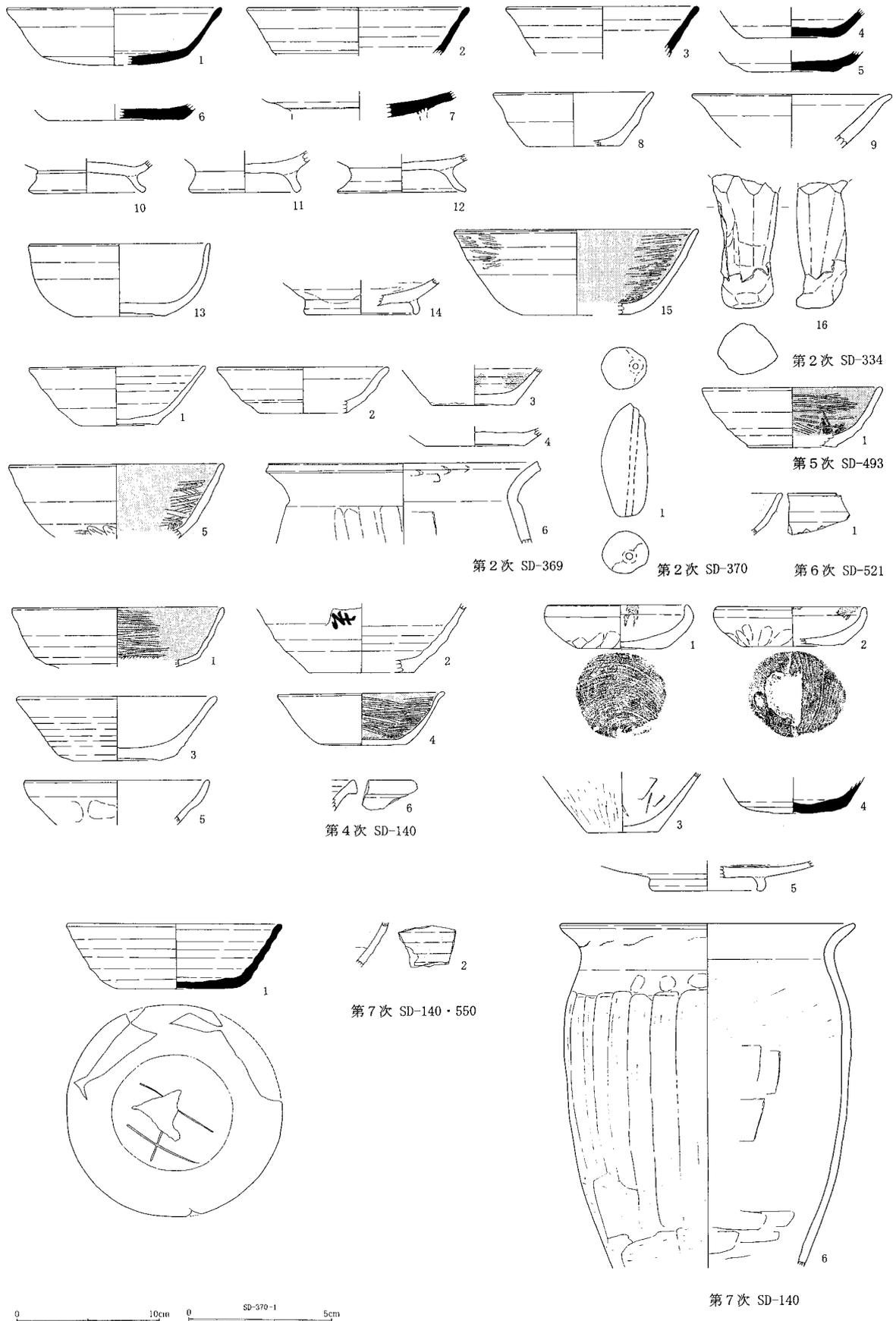
第130図 土器・陶器等実測図(11)



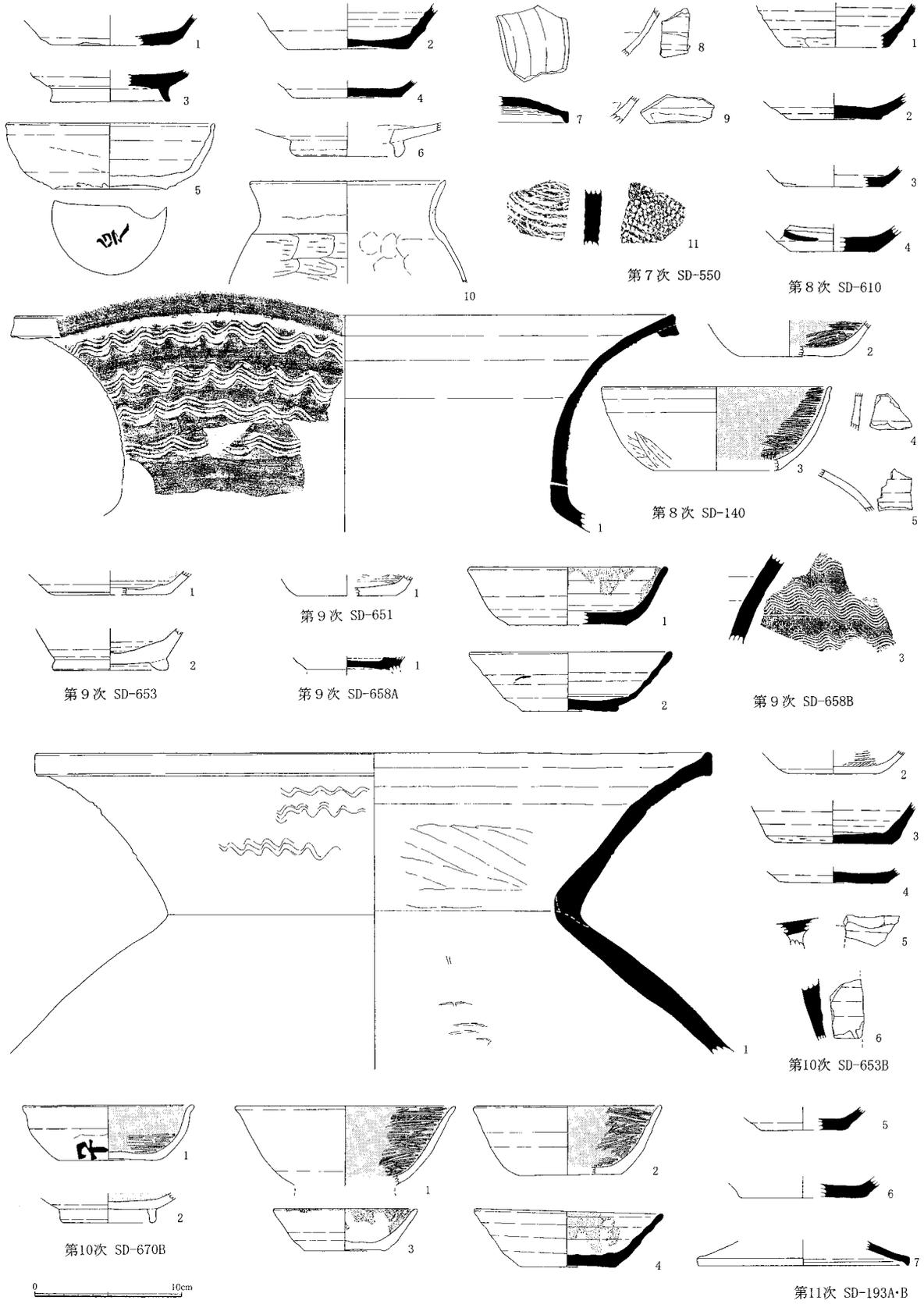
第131図 土器・陶器等実測図 (12) 一溝跡出土 (12) ~ (17) -



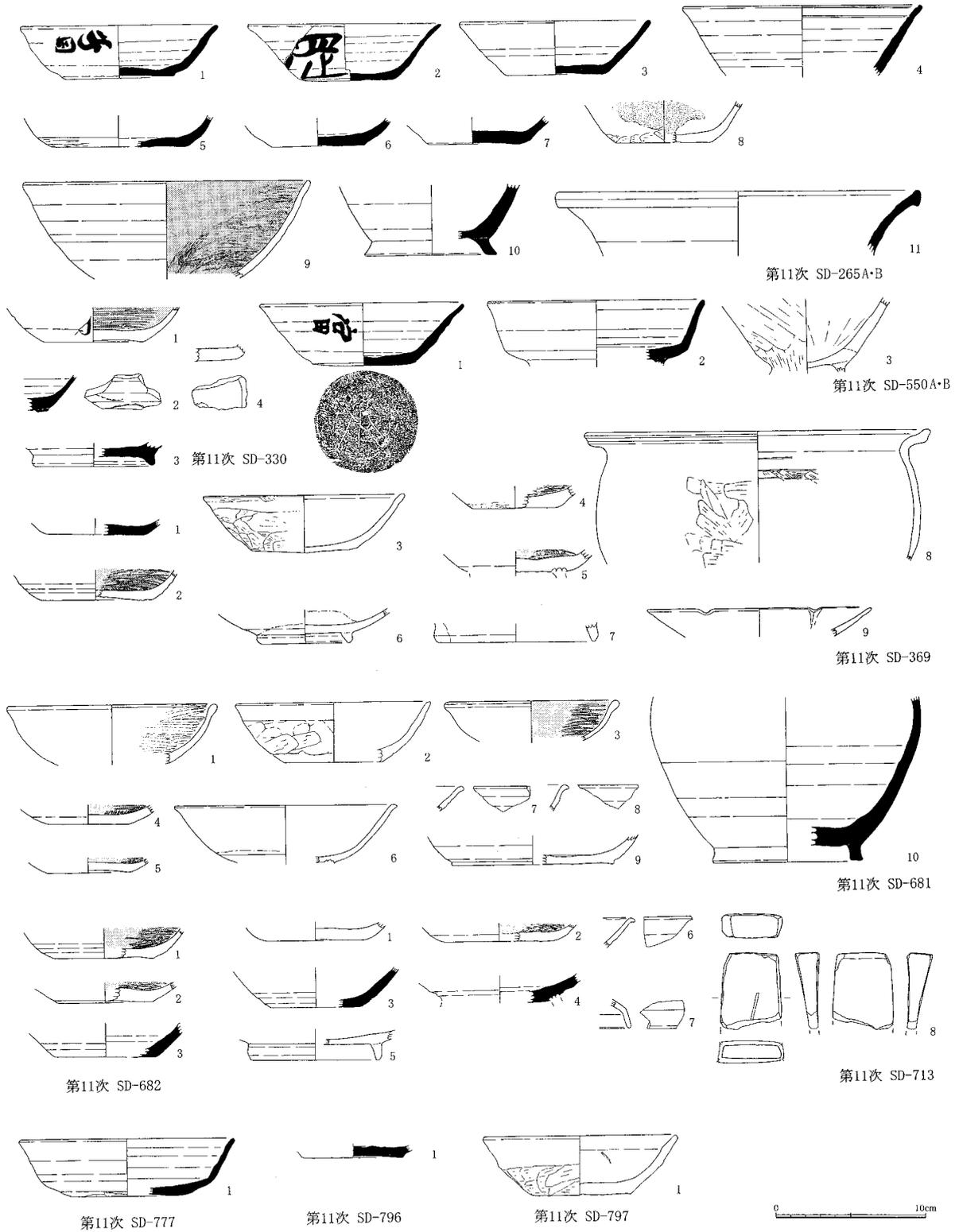
第132図 土器・陶器等実測図(13)



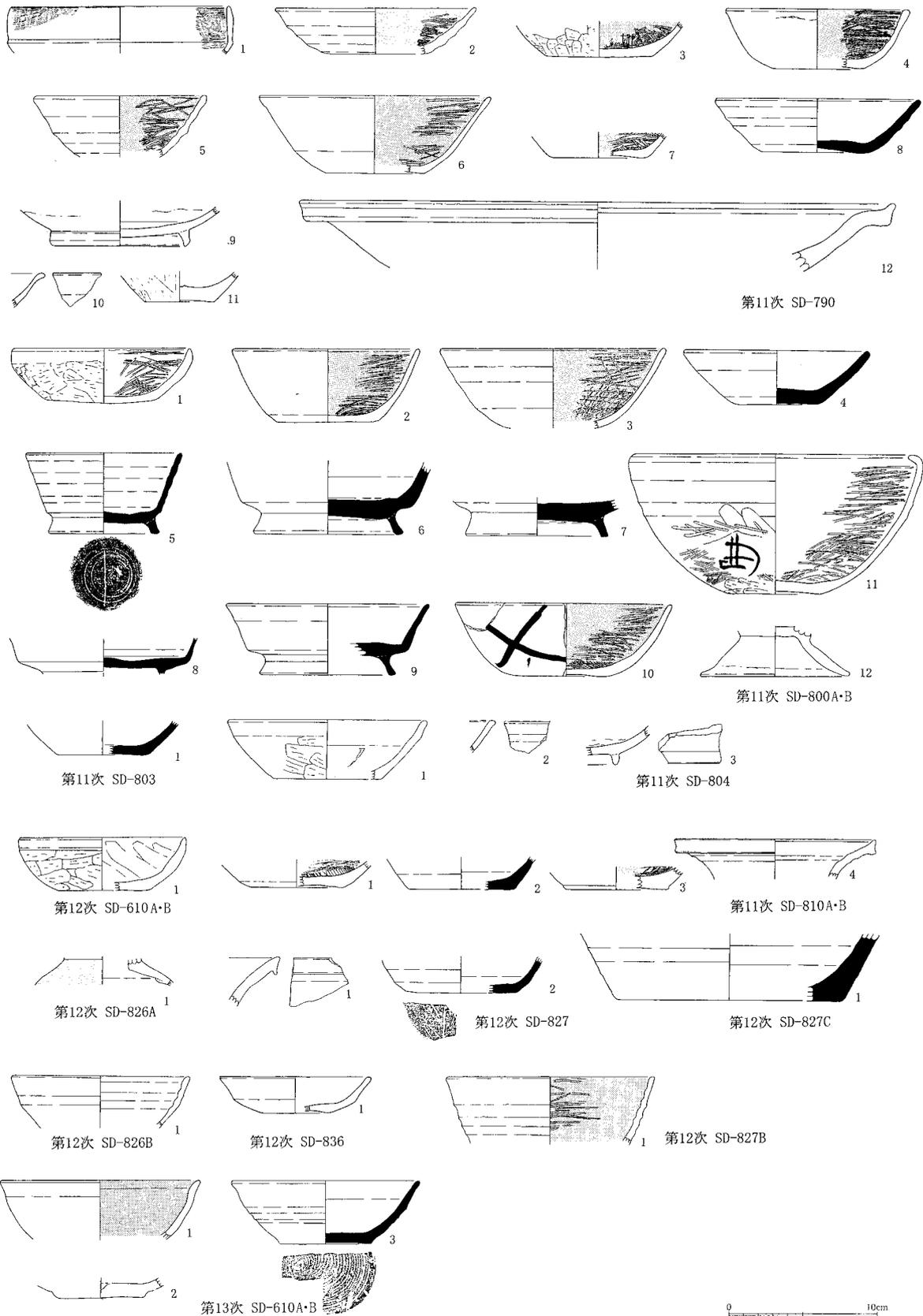
第133図 土器・陶器等実測図(14)



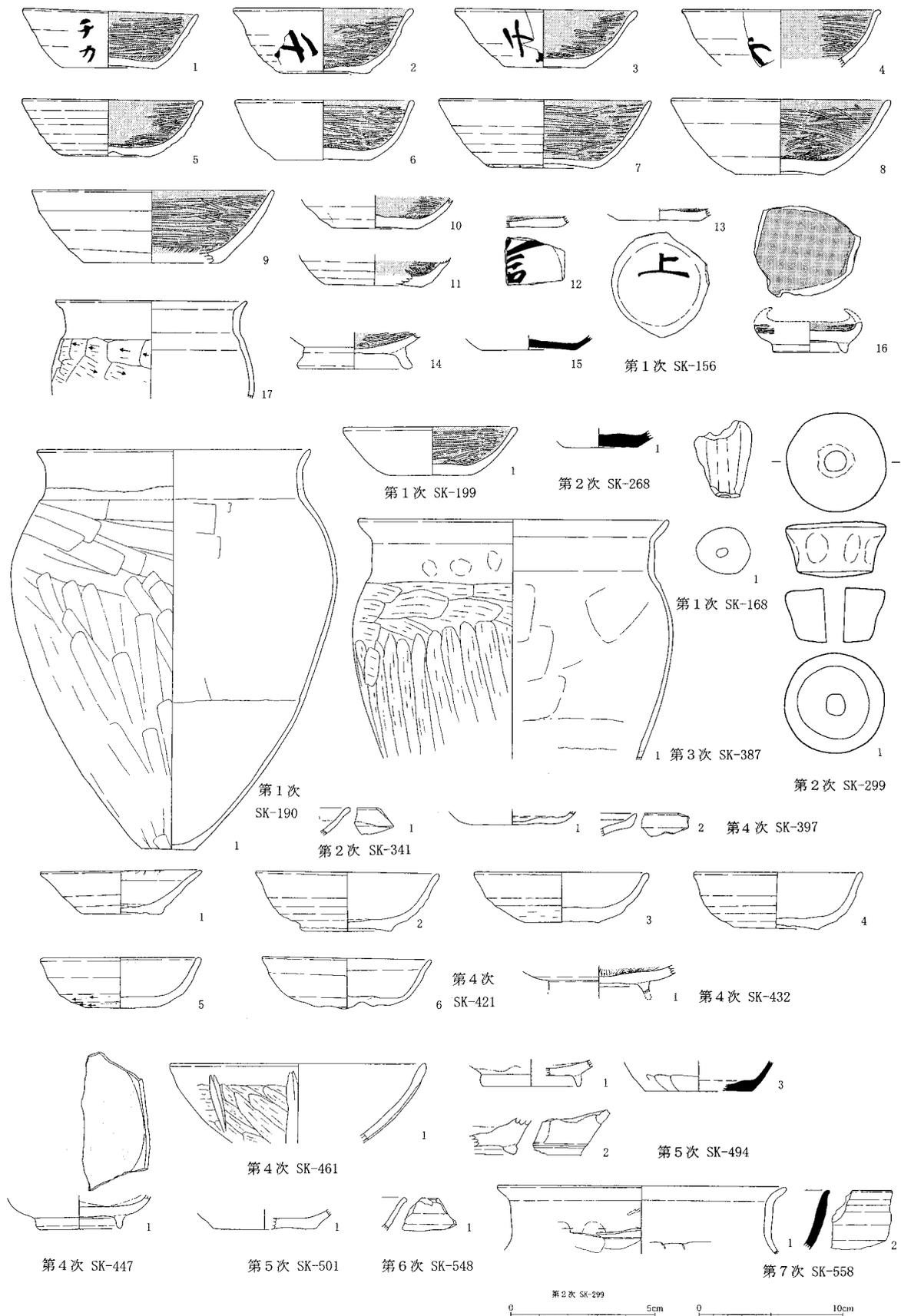
第134図 土器・陶器等実測図(15)



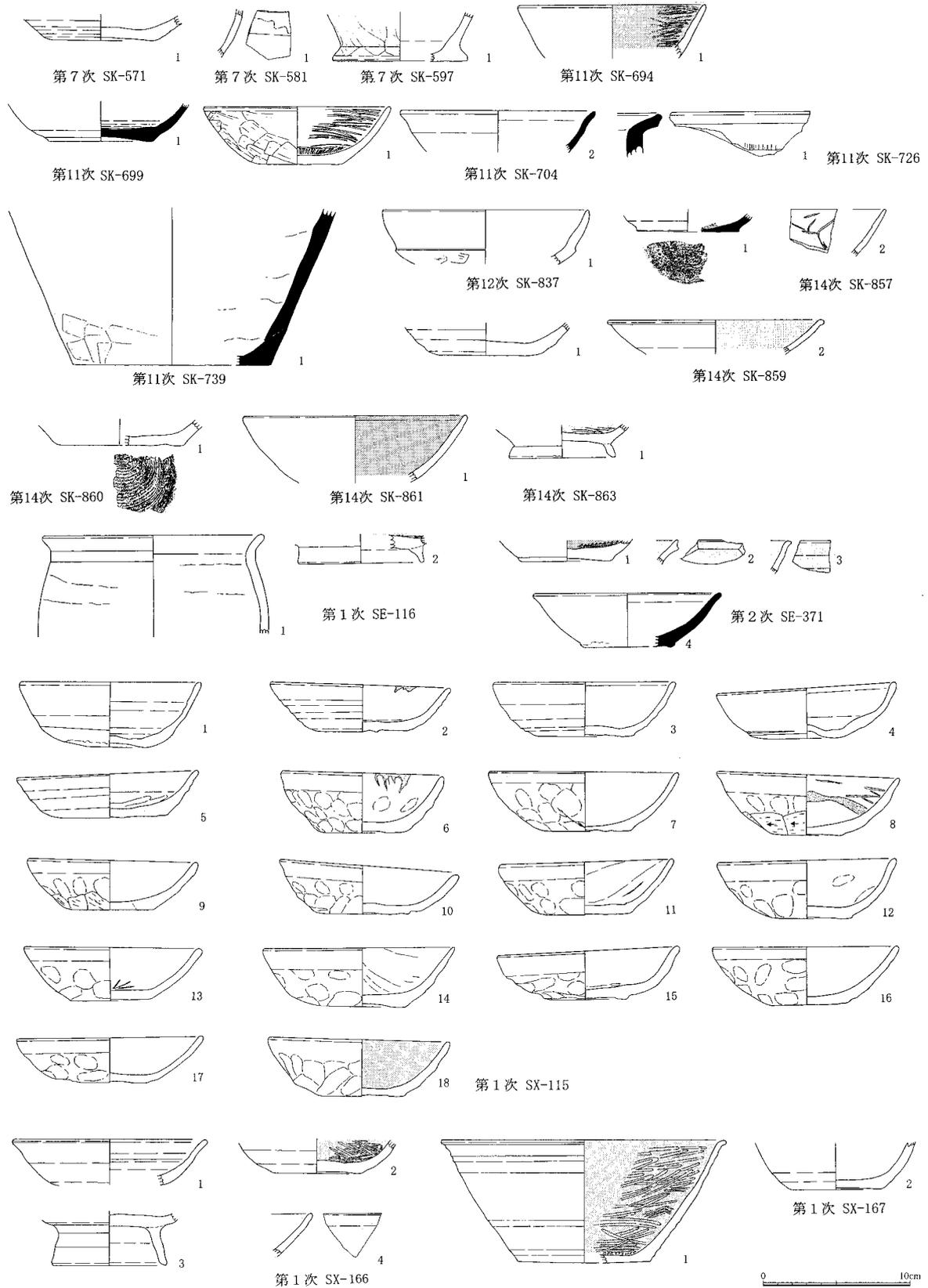
第135図 土器・陶器等実測図(16)



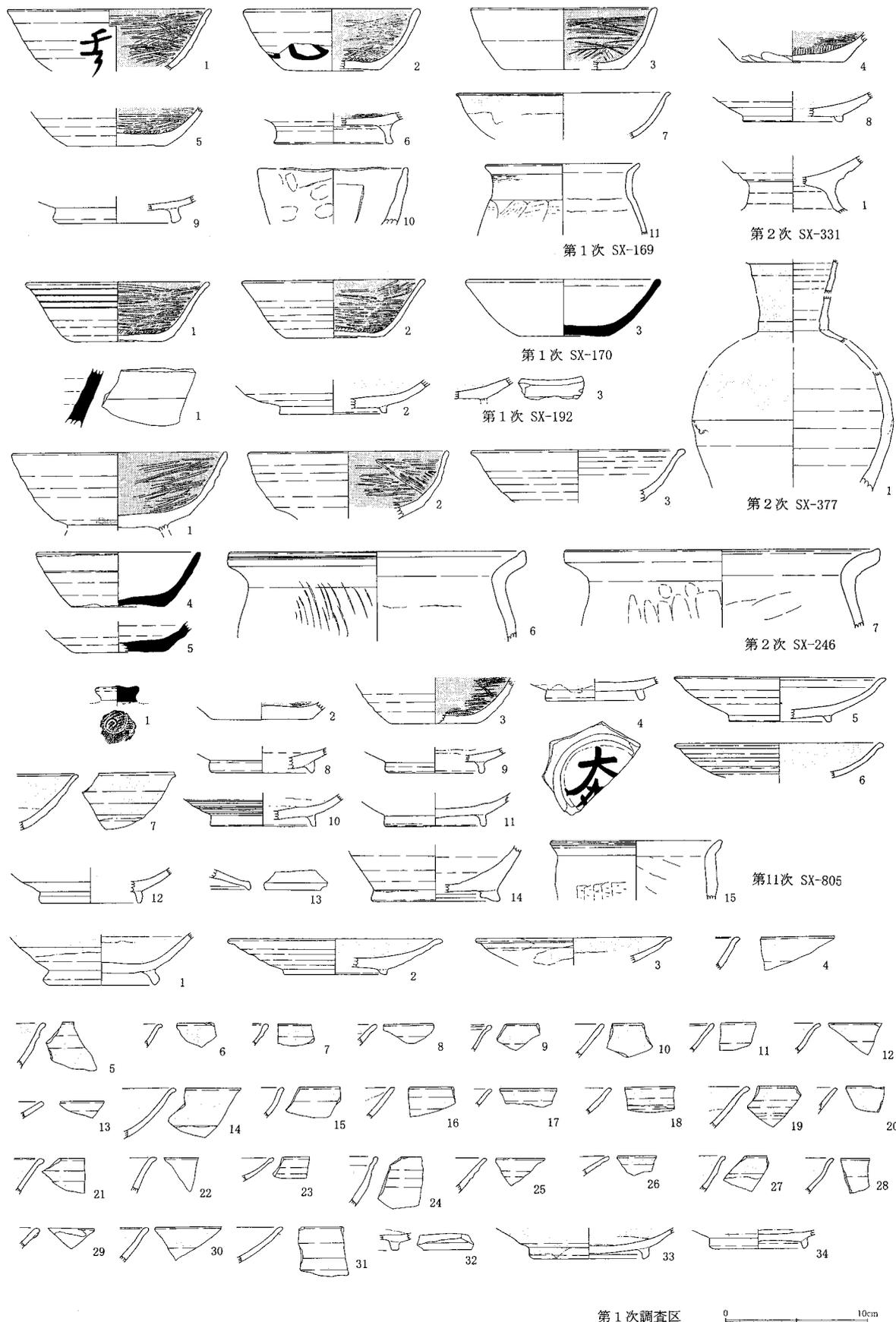
第136図 土器・陶器等実測図(17)



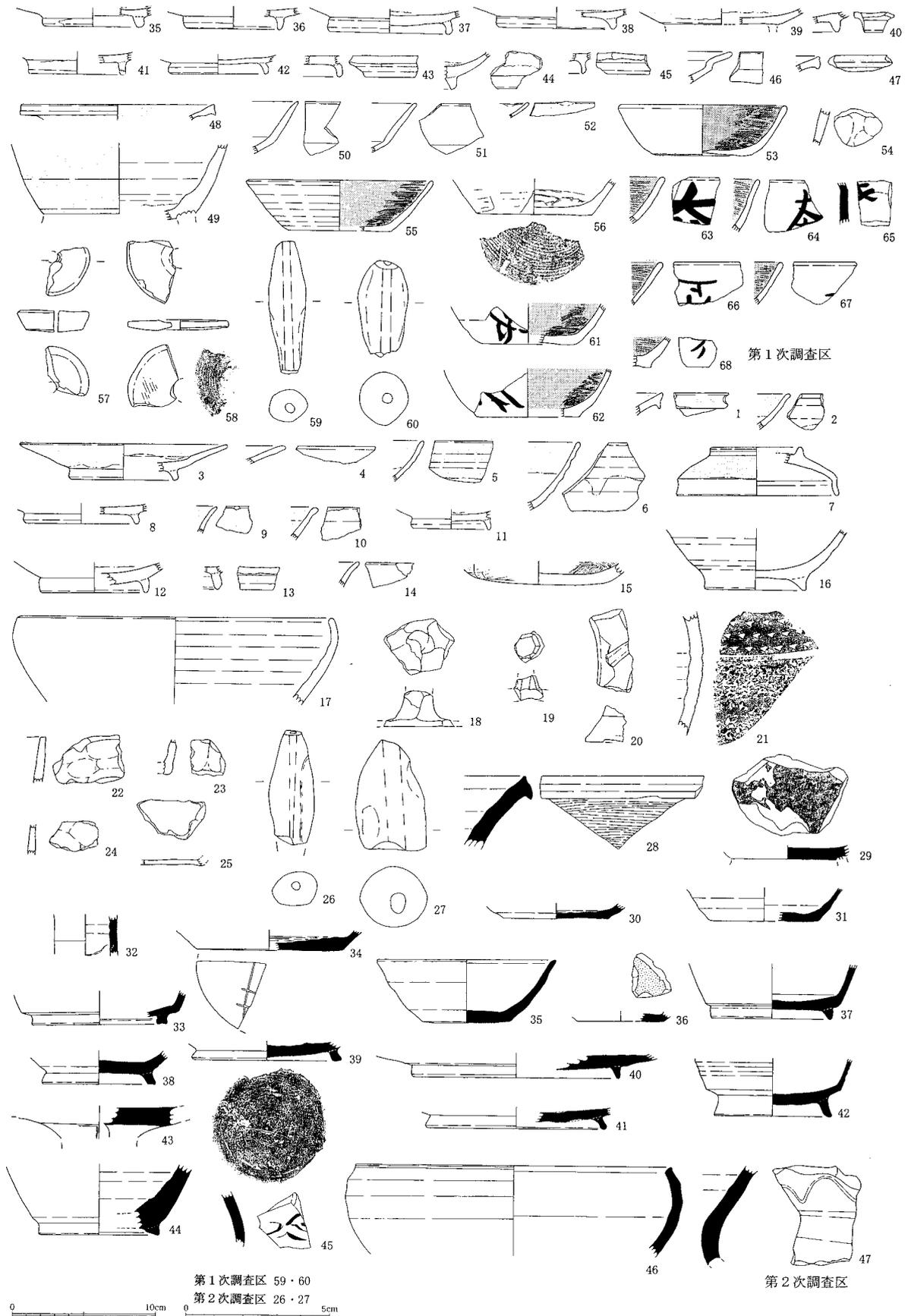
第137図 土器・陶器等実測図 (18) —土坑・井戸跡・性格不明遺構出土 (18) ~ (20) —



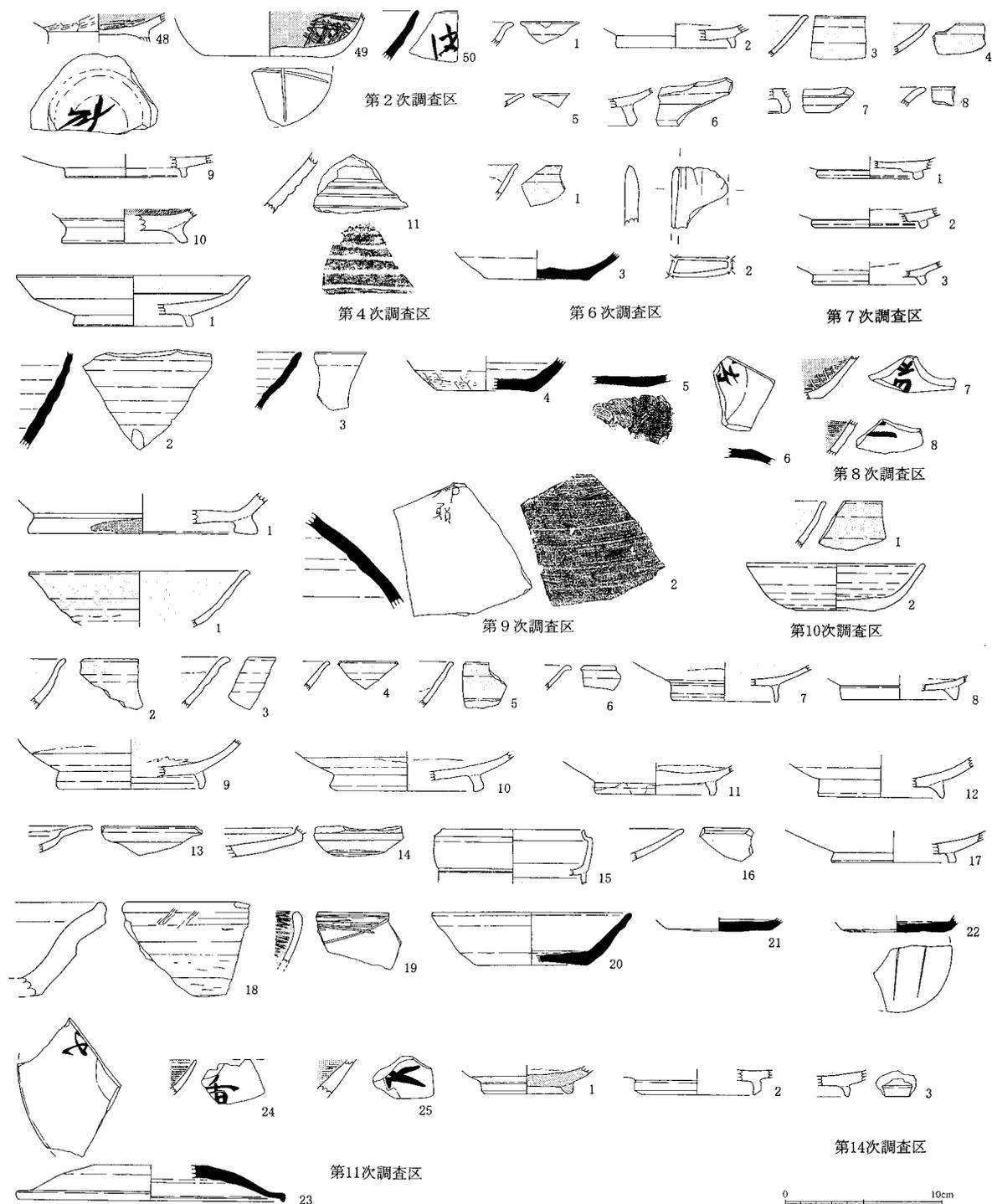
第138図 土器・陶器等実測図(19)



第139図 土器・陶器等実測図(20) —遺構外出土(20)~(22)—

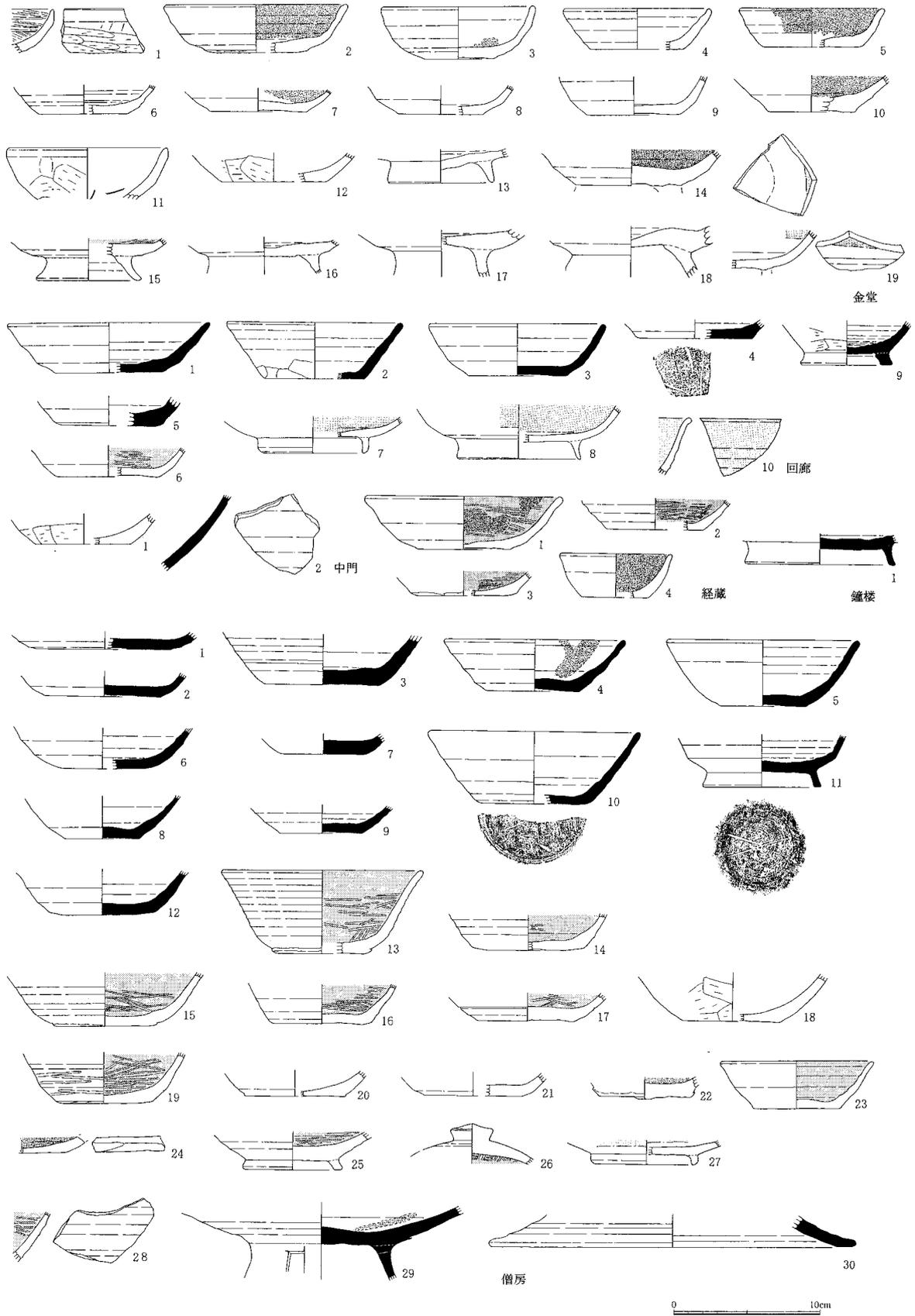


第140図 土器・陶器等実測図(21)

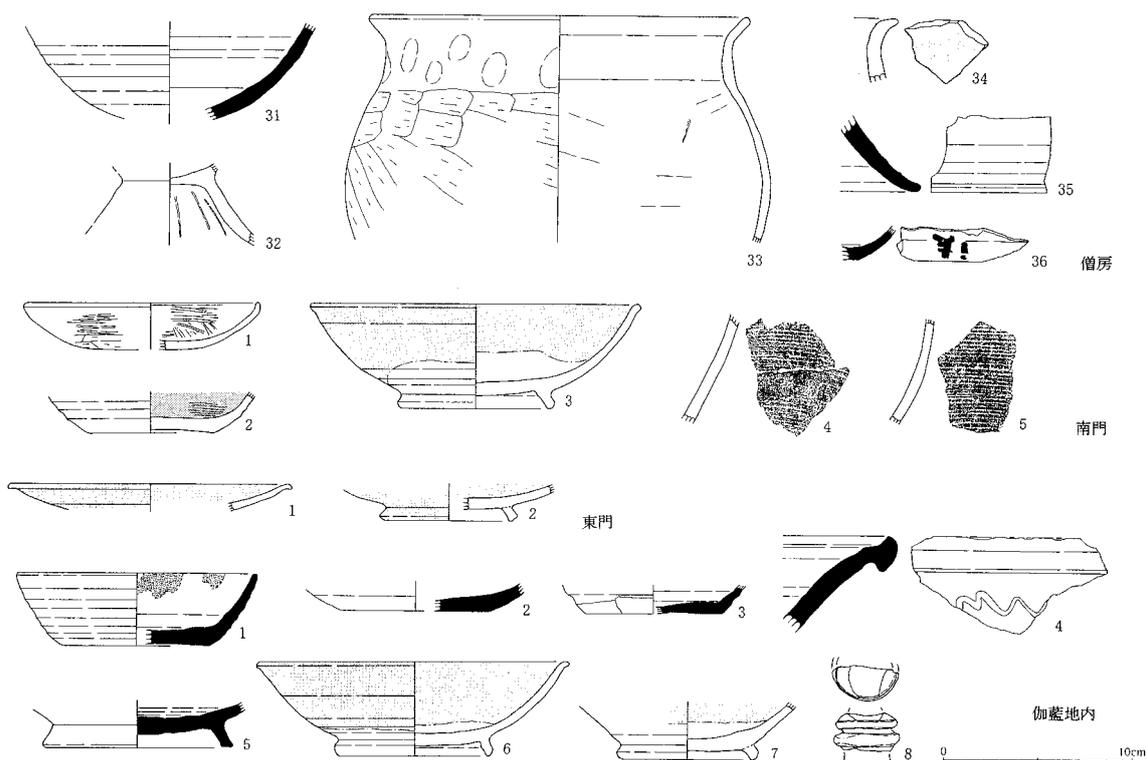


第141図 土器・陶器等実測図(22)

第1次S B -700からは匙面を折り曲げた鉄製匙が出た。図中左側は開いた推定図である。S I -122から出た小札にはキメがあり、札幅からも7世紀代のものか、鍛冶場に故鉄として集積したのものであろう。第2次S I -307では鍛冶滓が出たことから、この付近に鍛冶遺構があると予想される。また、同住居跡から出た鉄製品の破片も使用後のものが多くて、故鉄の可能性もある。第2次S I -325では釘が多数出土したが、束ねられた釘には曲がったものも存在しており、使用後の釘であろう。1の釘は太くて金堂出土品に類似する。第14次S I -844から出た釘は頭を折っていないもので、製品に仕上げた後の未使用品である。近くに



第142図 土器・陶器等実測図 (23) —伽藍地内 (23)・(24) —



第 143 図 土器・陶器等実測図 (24)

第1次S I -112の鍛冶遺構があることから、寺院地東側で生産したものであろう。第1次SD -152からは鑄造の鉄鍋が出ており、共伴した出土土器から9世紀後半の所産と考えられる。第2次SK -268のものは、L字形をした同一製品の可能性がある。鉄製紡錘車は2点出土した。第6次SK -540の紡錘車は軸棒のみであるが、太さ1mm程の太い糸が付着しており、材質は太さからみても麻糸か苧麻であろうか。第1次調査区から出た木製鐙の吊金具(1)は、レントゲン写真でも釘を打った孔が確認されなかった。鐙の鳩胸側の破片で、鐙に留める前の製品の可能性がある。未使用品であることから、伽藍地東側で生産した鉄製品とみられ、寺院内で必要な馬具を生産していたことになる。

生業に関わる遺物としては、鎌は2点確認されたが、点数が少ないことも寺院の特徴である。

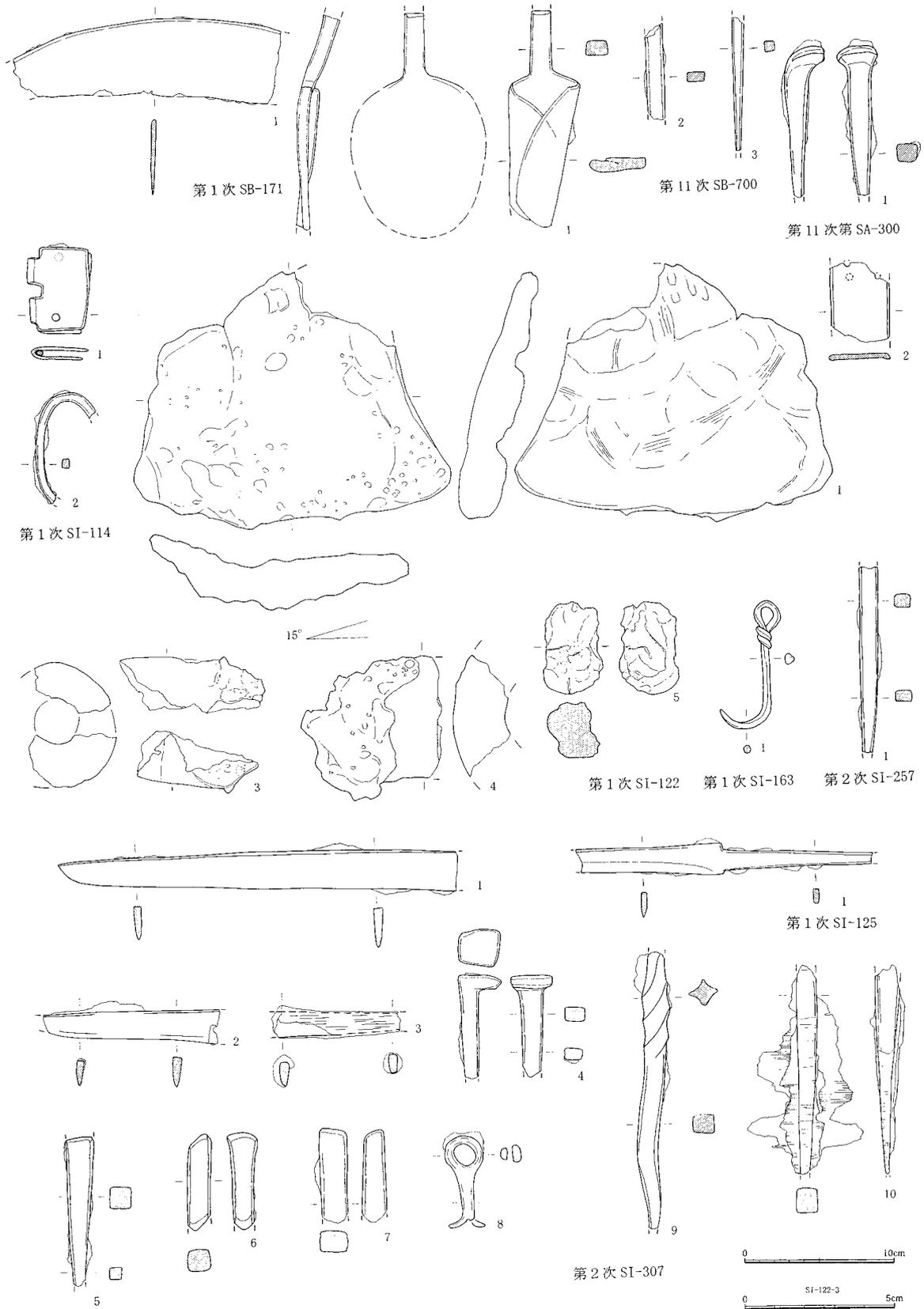
(9) 銅製品 (第148図、図版四四・四六)

第1次調査区から出た棒状の製品は短軸断面が管状である。第2次SD -369の板状の金銅製品は図中上端を折り曲げており、調度品などの一部であろうか。

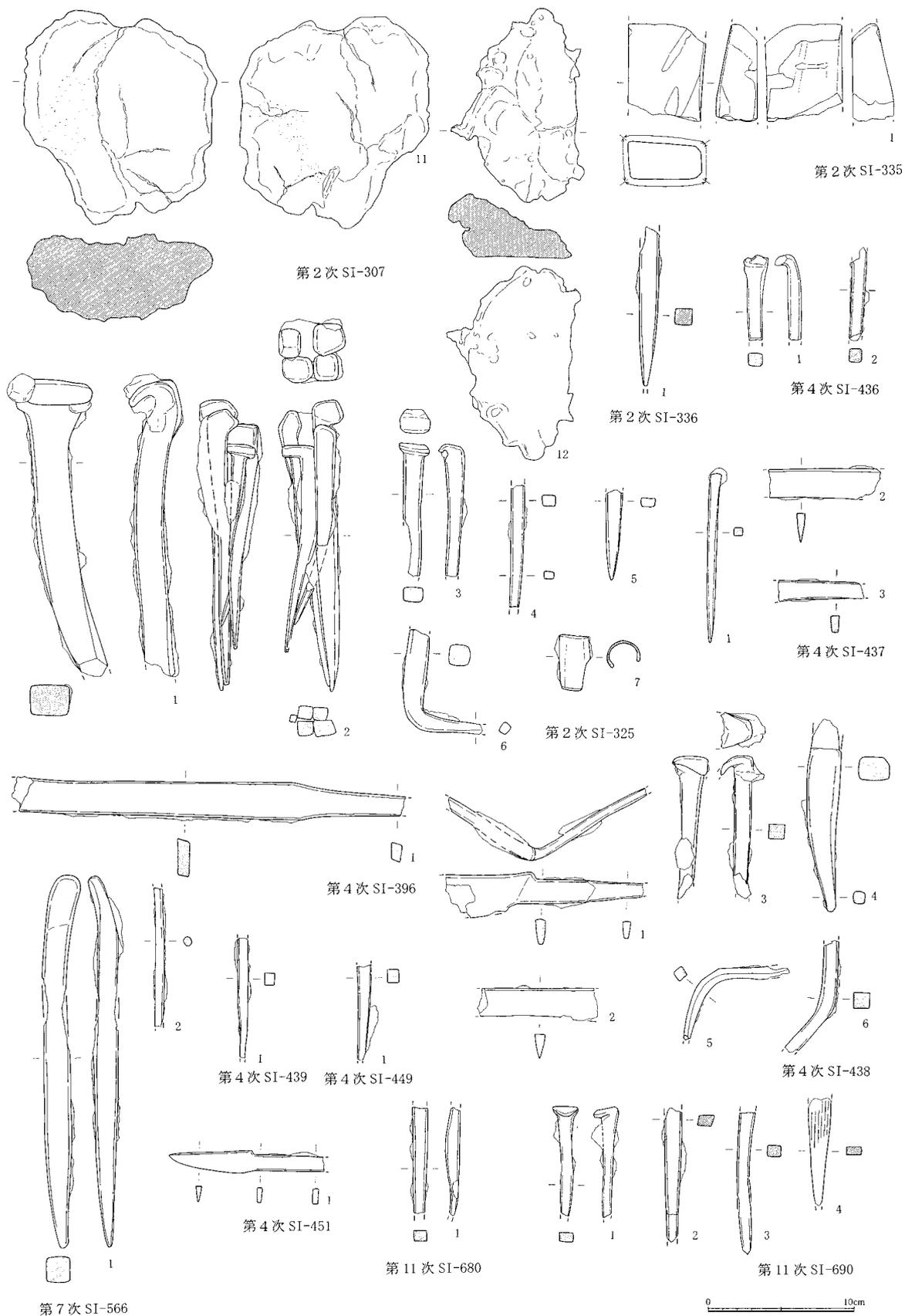
註

1 国分寺報告(大橋1997)では那Aについて、「那」字の左のつくりの横画二本を後に引くA Iと横画よりも先に縦画を引くA IIに分類しているが、同じことであり、再分類した。

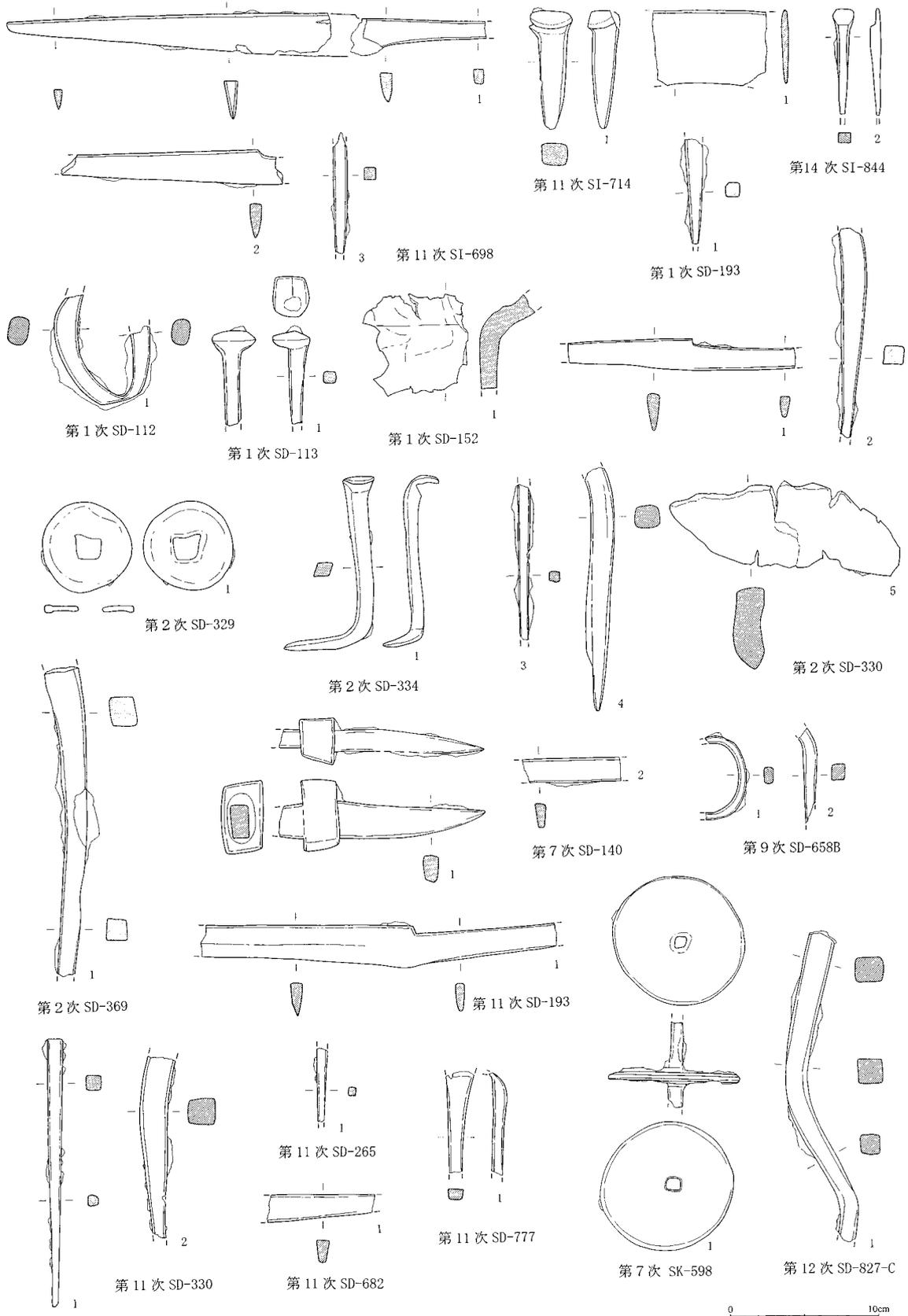
2 『延喜玄蕃寮式』布施条では、国分二寺では出挙の利稲で燈油を買い、夜間燃灯し、経費を税帳使に附して官に申し送る規定になっていた。



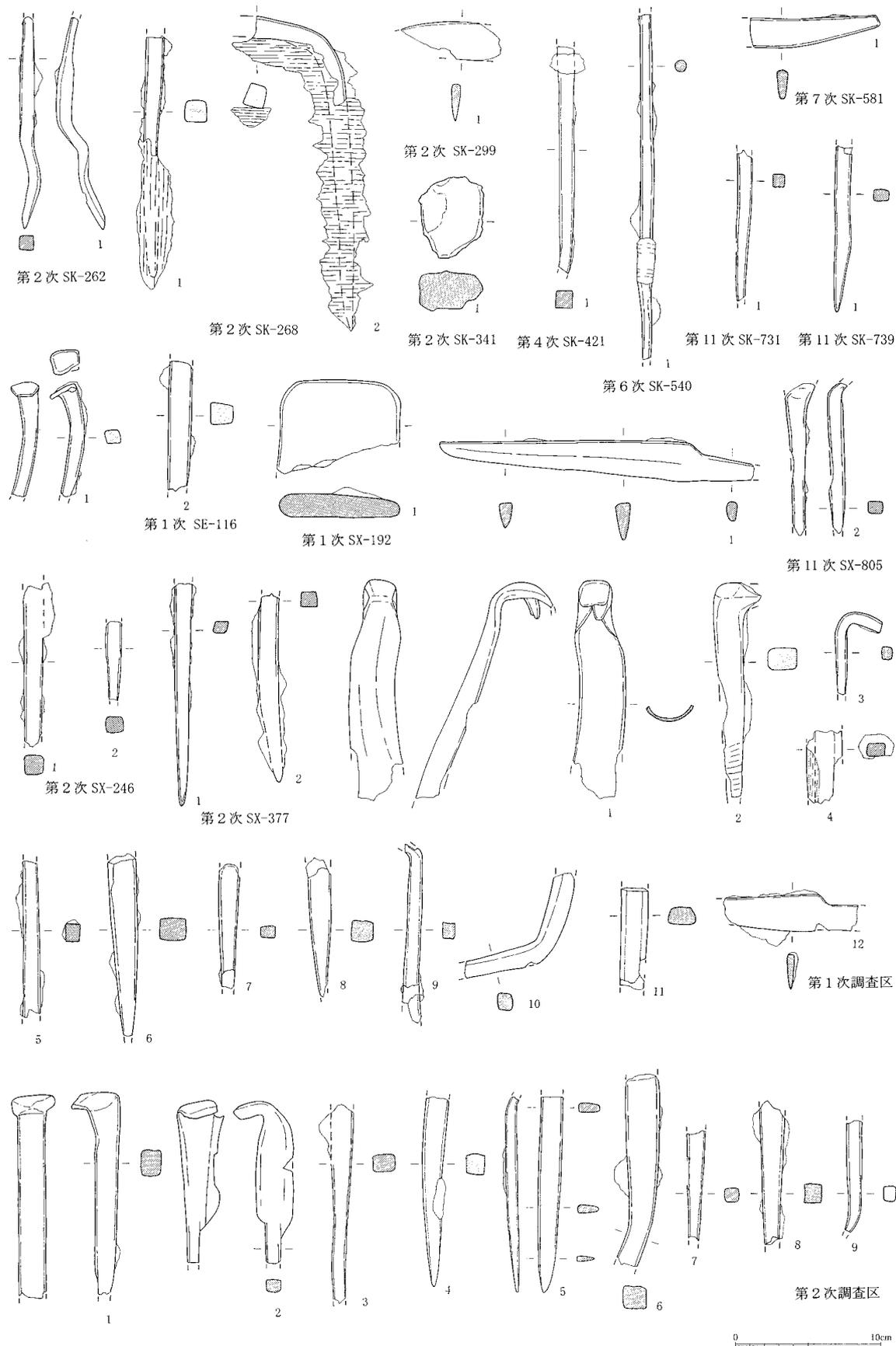
第144図 鉄製品等実測図(1)



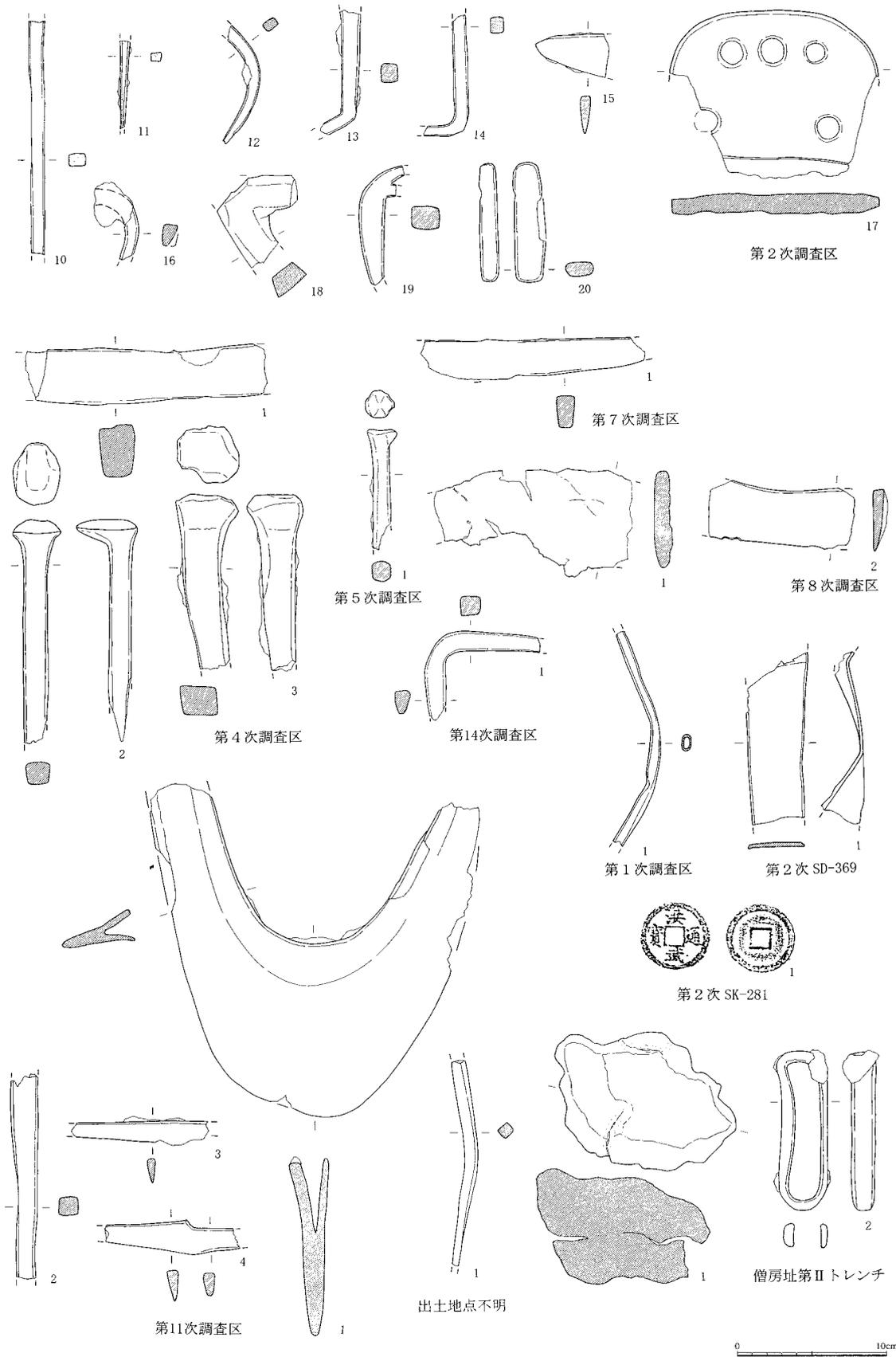
第145図 鉄製品等実測図(2)



第146図 鉄製品等実測図(3)



第147図 鉄製品等実測図(4)



第148図 鉄製品等実測図(5)

第4章 発見された遺物

第15表 土器・陶器等観察表

第2次調査区

SB-338

番号 材質 種類	大きさ cm・g (復元)	特徴	色調	胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 須恵器 坏	底 (9.8)	内外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。産地不明。	内 N6/0 灰 外 7.5Y7/1 灰白	白色・黒色微粒多。灰・白色細粒・白色針状物少。	体～底部 1/6 南西隅柱 B 期 上面

第7次調査区

SB-585

1 土師器 坏		内面黒色処理後・ミガキ。外面ロクロナデ、一部ナデ。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色・白色・透明微粒少。良好。	体部一部 南東隅柱 A 期掘方 埋土上面
------------	--	---------------------------	-----------------------------	-----------------	----------------------

SB-591

1 土師器 坏		内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 2.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色微粒・灰色細粒・赤褐色粒少。良好。	口縁部一部 西側柱列南第3柱掘方埋土上面
------------	--	------------------	-----------------------------	---------------------	----------------------

第11次調査区

SB-700

1 須恵器 甕		頸部外面平行叩き後、内外面ロクロナデ。三和産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色粒・細粒多。褐色粒微。良好。	口縁部 1/8 北庇柱列西第2柱 B 期 掘方埋土中
2 土師器 坏	底 (5.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5Y8/2 灰白 外 5Y3/1 オリーブ黒	白色・黒色細粒。良好。	底部 1/4 廂北西隅柱抜き取り埋土上面
3 須恵器 坏	底 (7.2)	外面手持ちヘラケズリ。底部一方向ヘラケズリ。内面ロクロナデ。三和産。	内 10YR5/4 にぶい黄褐 外 10YR5/3 にぶい黄褐	白色粒・細粒多。良好。	底部 1/4 北棟持柱柱抜き取り上面

SB-738

1 灰釉陶器 椀		内外面灰釉施す。ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 "	黒色細粒。良好。	口縁部一部 東側柱列南第2柱抜き取り埋土中
-------------	--	-------------------------	------------------------	----------	-----------------------

第1次調査区

SA-150B

1 土師器 坏	底 6.2	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデか。底部手持ちヘラケズリ。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 2.5Y2/1 黒	赤色粒。黒色細粒少。良好。	底部 1/2 北第1柱掘方埋土中
------------	-------	------------------------------	-------------------------------	---------------	------------------

第2次調査区

SA-300

1 土師器 坏	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色微粒多。透明微粒・赤褐色細粒少。良好。	体～底部 1/4 東第1柱抜き取り
------------	---------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------	-------------------

第10次調査区

SA-300

1 土師器 坏		内面ヘラナデ後ヨコナデ。外面ヨコナデ。体部～下端に押圧痕あり。底部ヘラケズリ。北武蔵型。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	透明・黒色微粒やや多。赤褐色細粒少。銀色雲母少。良好。	口縁～底部一部 西第1柱板塀北西隅抜き取り埋土中
2 須恵器 坏		内面ロクロナデ。底部ヘラケズリか。丸底である。三義産か。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	赤褐色粒少。黒色微粒多。良好。	底部一部 西第1柱板塀北西隅抜き取り埋土中

SA-650

1 須恵器 坏		内外面ロクロナデ。三義産。	内 5Y8/1 灰白 外 "	黒色微粒多。褐色細粒少。良好。	口縁部一部 北第1柱上面
------------	--	---------------	-------------------	-----------------	--------------

SA-700

1 土師器 坏		内外面ロクロナデ。外面は沈線状になっている。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 7.5YR7/6 橙	銀色微粒少。良好。	口縁～体部一部 58-747 2層
------------	--	------------------------	---------------------------------	-----------	-------------------

第1次調査区

SI-114

1 土師器 坏	口 (13.0) 底 (6.8) 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち底部一方向、体部横方向ミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/1 灰白	黒色・灰色細粒やや多。白色細粒少。やや良。	- 5cm 口縁～底部 1/3 No.45
2 土師器 坏	口 (14.2)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理、斜方向ミガキ。体部外面に墨書あり、「守」か。	内 N2/0 黒 外 2.5Y8/2 灰白	灰色・黒色細粒やや少。白色細粒少。良好。	32cm 口縁～体部 1/12 No.44
3 土師器 坏	口 (12.0) 底 6.6 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。黒斑あり。	内 2.5Y8/3 淡黄 外 2.5Y7/2 灰黄	黒色微粒多。白色細粒・白色粒少。良好。	16cm 口縁～体部 1/6 底部完存 No.6
4 土師器 坏	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。内面口縁部以外黒褐色。	内 5YR2/1 黒褐 外 7.5YR5/3 にぶい褐	黒色細粒やや多。白色細粒やや少。良好。	16cm, 30cm 口縁～体部 1/4 No.2, 9
5 土師器 坏	口 10.9 底 5.2 高 4.1	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面上位無調整、一部ケズリあり。体部中位・下位は左か右ヘラケズリ。底部多方向ケズリ。内面にスス付き。灯明具。	内 5YR2/1 黒褐 外 5YR5/6 明赤褐	灰色粒多。白色細粒やや多。白色・赤褐色粒少。良好。	20cm 口縁部 1/3 欠損 No.11, 3層
6 土師器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部不定方向、体部雑なミガキ。	内 N3/0 暗灰 外 7.5YR7/6 橙	灰色・赤褐色粗粒少。黒色・透明細粒少。良好。	10cm 体部下位～底部 1/3 No.35, 上面
7 土師器 坏	底 (5.6)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部一方向のち、体部横方向ミガキ。底部回転糸切り。内面摩耗し、使用頻度高い。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	褐色粒少。白色細粒微。良好。	8cm 底部 2/5 No.42

第1次調査区

SI-114

8 土師器 高台付皿	口 (13.8)	内外面ロクロナデのち、内面一方向へのミガキ。高台貼付けか。(剥離)	内 7.5YR4/3 褐 外 7.5YR7/4 にぶい黄橙	黒色・灰色細粒多。白色細粒少。 褐色粒微。良好。	16cm 口縁部 1/5 No.22
9 土師器 甕	口 (18.8)	口縁部ヨコナデ。外面に押圧痕、粘土接合痕あり。胴部上端右から左方へケズリ。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒やや少。透明・白色粒少。 良好。	29cm 口縁部 1/4 No.36, 上面
10 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデ、灰軸やや厚く施す。黒笹 90 号式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	白色微粒微。良好。	口縁部一部 上面

SI-121

1 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデ。灰軸ハケ塗り。光ヶ丘 1 号または大原 2 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色粒微。良好。	口縁部一部 上面
2 土師器 坏	底 7.0	器壁は剥離しており、技法不明瞭。体部外面横方向ケズリ。平底化した非ロクロ坏の可能性ある。	内 10YR5/1 褐灰 外 10YR7/6 明黄褐	黒色細粒多。灰色細粒やや多。 白色細粒やや少。褐色粒微。不良。	体部下位 1/2 底部完 存 上面

SI-122

1 土師器 坏	底 6.6	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・底部一方向のち体部横方向ミガキ。底部外面回転系切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	黒色細粒多。白色・赤褐色細粒微。 良好。	体部下半 1/4 底部完 存 上面
2 土師器 坏	口 (12.2) 高 4.3 底 6.4	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部一方向、体部横方向ミガキ。底部外面回転系切り。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 7.5YR6/6 橙	黒色・白色細粒やや少。白色・ 赤褐色粒微。良好。	口縁～体部 1/3 底部 1/2 上面

SI-125

1 土師器 坏	口 (12.9) 底 6.2 高 4.7	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち底部格子状のミガキ、体部横方向ミガキ。底部外面回転系切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	黒色細粒多。褐色粒やや多。褐 色粗粒・灰色礫微。やや良好。	口～体部上半 1/3 底部 ～体部下半完存 3層下
2 土師器 坏	口 (11.6)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	褐色粒やや多。白色粒・黒色微 粒少。黒色礫微。良好	口縁～体部上半 1/3 2層, 4層
3 土師器 坏	口 12.6 底 6.0 高 4.5	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち底部一方向、体部横方向ミガキ。ミガキ粗い。底部外面回転系切り、墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	黒色・灰色細粒やや多。褐色・ 透明粒少。良好。	口縁 4/5 体～底部完 存 2層下
4 土師器 坏	口 (12.6) 底 5.5 高 4.2	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転系切り、墨書あり。「国」か。内面摩耗しており使用頻度やや高い。	内 N1.5/ 黒 外 10YR8/2 灰白	黒色細粒多。白色細粒少。やや良。	口縁～体部 1/3 底部 完存 上面, 3層, 5層
5 土師器 坏	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。使用頻度高い。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	黒色細粒多。白色細粒少。赤褐 色粒微。やや良。	口縁部 1/6 2層
6 土師器 坏	底 6.0	内外面ロクロナデのち内面黒色処理、底部一方向、体部横方向ヘラミガキ。底部外面回転系切り。黒斑あり。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR7/6 橙	黒色細粒やや少。透明・白色細 粒少。赤褐色細粒微。良好。	体部下半 2/3 底部完 存 3層, 5層
7 土師器 坏	底 (7.8)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転系切り。体部外面にタール附着。内面摩耗。	内 7.5Y2/0 黒 外 10YR4/2 灰黄褐	黒色・白色・赤褐色細粒少。灰 色微。良好。	体部下半一部 底部 1/4 上面
8 土師器 坏	底 (6.2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転系切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR8/2 灰白	黒色微粒やや多。灰色・白色細 粒少。良好。	体部下半～底部 1/3 1層
9 土師器 坏		内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。体部外面に「大万」墨書。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・灰色細粒少。 良好。	口縁部一部 3層
10 須恵器 坏	底 (5.8)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三産産。	内 10Y7/1 灰白 外 "	黒色・灰色細粒やや多。白色細 粒微。良好。	体下位～底部 1/6 2層
11 灰軸陶器 小瓶	底 (5.8)	内外面ロクロナデ。体部下端外面以外に薄く灰軸を施す。光ヶ丘 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	白色粒微。良好。	体部下位～底部 1/6 3層
12 須恵器 高台付坏		内面ロクロナデ。外面回転系切りのち、高台貼付け・ロクロナデ。三産産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色・白色細粒少。良。	底部完存 1層
13 土師器 甕	口 (19.0)	口縁部ヨコナデ。外面押圧痕、粘土接合痕あり。胴部外面右から左方へ横方向ケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	黒色・白色細粒やや多。赤褐色 粒少。良好。	口縁部 1/4 3層, 4層, 5層
14 土師器 甕	口 (19.2)	口縁部外面粘土接合痕あり、ヨコナデ。胴部外面上端右から左へ横方向ケズリ。その下方は上から下へ縦方向ケズリ。口縁部内面ヨコナデ。内面胴部上位狭い横方向のナデ。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 5YR6/6 橙	透明・白色細粒多。黒色細粒少。 赤褐色粒微。良好。	口縁部 1/6 胴部上端 1/4 3層
15 須恵器 甕		内面指頭押圧、ナデ。外面横方向ヘラケズリ。三和産。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 2.5Y2/1 黒	白色細粒多。赤褐色粒微。良。	胴部一部 1層
16 土師器 台付甕	台 (9.2)	底部内面ナデ。台部外面押圧痕あり。内外面ヨコナデ。	内 7.5YR6/6 橙 外 5YR5/6 明赤褐	白色微粒・赤褐色粒やや少。黒 色細粒少。良好。	台部 1/2 3層下

SI-143

1 灰軸陶器 甕		内面ロクロナデ。遺存する外面上端ロクロナデ、その下方は回転ヘラケズリ。薄く灰軸を全面に施す。美濃産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色・白色細粒微。良好。	胴部一部 2層
2 土師器 坏	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 2.5Y3/2 黒褐	灰色・透明細粒微。良好。	底部 1/5 3層
3 土師器 坏	底 (7.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面回転ヘラケズリ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒・透明微粒微。 良好。	体部下端～底部 1/6 上面
4 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデのち、口縁部～体部上半に灰軸を薄く漬け掛け。虎溪山 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁部一部 2層
5 須恵器 甕		口縁部粘土貼付け、ロクロナデ。南比企か木葉下産か。	内 5Y5/1 灰 外 "	黒色細粒やや多。白色粒少。白 色針状物やや少。白色礫微。良 好。	口縁部一部 上面
6 灰軸陶器 皿か		内面ロクロナデのち底部外周と中央部に灰軸を薄くハケ塗り。外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。光ヶ丘 1 号窯式。	内 2.5Y8/1 灰 外 2.5Y8/1 灰	白色・黒色細粒微。良好。	底部 1/6 上面

第4章 発見された遺物

第1次調査区

SI-163

1 土師器 坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・横方向のち斜方向ミガキ。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色粒やや多。白色細粒少。赤褐色粒微。良好。	口縁～体部上半 1/6 底面
2 土師器 坏	口 (12.0)	内外面ロクロナデ。内面に灯明用タール痕あり。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	灰色粗粒少。白色細粒やや少。透明粒少。良好。	口縁部～体部 1/4 中層
3 土師器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・底部一方のち体部横方向ミガキ。外面体部下端手持ちヘラケズリ。底部外面回転系切り。	内 N1.5/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色細粒やや少。白色細粒少。良好。	底部 1/3 7層
4 土師器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデ。内面底部一方のち体部横方向ミガキ。底部外面回転系切り。	内 7.5YR4/6 褐 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・黒色微粒やや少。黒色・赤褐色粒少。良好。	底部 1/2 4層
5 土師器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデのち内面黒色処理。内面底部一方のち体部横方向ミガキ。内面摩耗し使用頻度高い。底部外面回転系切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/3 淡黄	黒色・灰色細粒やや少。白色細粒少。良好。	底部 2/3 4層
6 土師器 高台付坏	高台 (7.0)	坏部内面黒色処理・ヘラミガキ。高台貼付け、ロクロナデ。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR5/8 明赤褐	黒色細粒・灰色粒・白色粗粒少。良好。	台部 1/6 7層
7 須恵器 高台付坏	口 (14.0) 高台 7.6 高 5.6	内外面ロクロナデ。底部回転系切りのち高台貼付け、ロクロナデ。岡窯産か。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 2.5Y6/1 灰灰	白色粗粒・赤褐色粒少。白色・灰色細粒、黒色微粒やや少。やや不良。	口縁一部 体部 1/4 底部・高台 2/3 7層 底面
8 灰釉陶器 皿		内外面ロクロナデ。内面薄く灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	口縁部一部 上面
9 灰釉陶器 椀	口 (14.2)	内外面ロクロナデのち灰釉を内外面にやや厚く施す。光ヶ丘 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	口縁部 1/6 4層
10 灰釉陶器 椀		内外面ロクロナデ。内面～体部外面上半に薄く灰釉を施す。ハケ塗るか。黒笹 90 号窯式か。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y8/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁～体部一部 底面
11 緑釉陶器 椀	口 (11.6)	内外面ロクロナデのち緑釉施す。発色は澄んで良好。猿投（畿内か）黒笹 90 号窯式併行。	内 7.5Y4/3 暗オリーブ 外 "	硬質。良好。	口縁部 1/12 上面

SI-174

1 須恵器 坏	底 6.0	内面ロクロナデ。外面底部回転系切り。産地不明。	内 10YR1.7/1 黒 外 "	白色細粒多。良好。	底部ほぼ完存 3層
2 土師器 高台付皿	高台 (7.0)	内外面ロクロナデ。内面一方ミガキ。底部高台貼付け、全面ロクロナデ。外面に黒斑あり。胎土から茨城産か。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	銀色雲母多。白色微粒・赤褐色粒少。良好。	高台 1/2 底部 2/3 カマド内
3 須恵器 坏		墨書。文字不明。	内 2.5Y4/3 オリーブ褐 外 2.5Y7/2 灰黄	黒色細粒やや少。白色微粒微。やや良。	一部 上面
4 須恵器 蓋	口 (12.4)	内外面ロクロナデ。天井外面一部回転ヘラケズリか。内面には口縁部を除いて黒褐色付着物（漆か墨か）あり。三養産。	内 10YR3/1 黒褐 外 2.5Y8/2 灰白	灰色粒やや多。黒色細粒少。不良。	口縁～天井中位 1/3 底面
5 土師器 甕	口 (20.8)	口縁部ロクロナデ。外面に焼成前の沈線あり。胴部上端横方向ケズリ。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 "	黒色細粒やや多。白色細粒少。透明粒微。良好。	口縁部 1/12 3層
6 須恵器 甕	底 (16.0)	内面～胴部外面下位ロクロナデ。外面胴部下端左から右方へ手持ちヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内 5PB6/1 青灰 外 "	白色細粒やや多。黒色微粒やや少。良好。	底～胴下端 1/6 3層
7 緑釉陶器 小坏	口 (8.9) 底 3.8 高 2.9	ロクロナデのち内面～体部外面中位に緑釉施す。底部回転系切り。軟質焼成。畿内篠タイプ。	内 5Y6/6 オリーブ 外 2.5Y8/4 淡黄	黒色微粒やや多。赤褐色細粒微。やや良。	口縁部 1/4 体部 1/3 底部 2/3 3層

第2次調査区

SI-239

1 須恵器 坏	口 (13.6) 底 (6.6) 高 3.2	内面～体部外面ロクロナデ。外面底部ヘラ切りのちナデ。益子産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色粗粒やや多。良好。	7cm 口縁～体部 1/2 底部 1/4 No.20
2 須恵器 坏	口 (13.4)	内外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。三養産か。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	白色細粒少。白色粗粒やや少。良好。	8cm 口縁～体部 1/2 No.24, 下層
3 須恵器 坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色礫・褐色粒少。白色細粒やや少。良好。	12cm 口縁部 1/6 No.39
4 須恵器 坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。三養産。	内 5YR6/8 橙 外 "	赤褐色粒少。白色・黒色細粒やや少。やや良。	26cm 口縁部 1/6 No.15
5 須恵器 坏	口 (13.0)	内外面ロクロナデ。三養産。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色細粒やや少。黒色細粒・白色微。やや良。	7cm 口縁部 1/6 No.2
6 須恵器 坏	口 (11.6)	内外面ロクロナデ。重ね焼き痕あり。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒微。良好。	15cm 口縁部 1/4 No.51
7 須恵器 坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。三養産。	内 2.5Y8/2 灰白 外 2.5Y8/1 灰白	灰色粒多。黒色細粒少。灰色礫微。良好。	口縁部 1/6 下層
8 須恵器 坏	底 6.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三養産。	内 5Y7/1 灰白 外 10YR5/3 にぶい黄褐	灰色・黒色細粒多。白色細粒少。良。	3cm 底部 2/3 No.7
9 須恵器 坏	底 (6.0)	内面ロクロナデ。底部回転系切り。三養産。	内 5Y5/1 灰 外 "	褐色粒やや多。白色粒やや少。良好。	底部 1/4 上層
10 須恵器 坏	底 (7.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。益子産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色細粒・灰色粒少。黒色微粒微。良好。	19cm 体部下位～底部 1/4 No.13
11 須恵器 坏	底 (6.2)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三養産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	白色・灰色礫・灰色細粒少。良好。	床直 体部下位～底部 1/2 床直
12 須恵器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三養産。	内 5Y6/1 灰 外 "	褐色粒やや多。白色微粒少。良好。	11cm 体部下位～底部 1/3 No.38
13 須恵器 蓋		天井内面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリ。窪みにつまみ挿入。ロクロナデ。三養産。	内 2.5Y8/1 灰白 外 "	白色・黒色微粒やや少。良好。	5cm つまみ完存 No.40
14 土師器 坏	口 (15.6) 高 3.3	内面一方のヘラミガキ。外面口縁部ロクロナデ、体部～底部ヘラケズリ。わずかに平底気味になっている。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色粒多。黒色細粒やや多。赤褐色粒少。良好。	口縁～底部 1/5 SI-239 上層, SI-241 上層

第2次調査区

SI-239

15 土師器 坏	口 12.8 底 6.8 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち底部一方向、体部横方向ミガキ。底部外面全面回転ヘラケズリ。表面摩耗、使用頻度高い。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	赤褐色細粒多。赤褐色粗粒少。灰色・黒色・白色細粒やや少。不良。	12cm 口縁～底部 2/3 No.16
16 土師器 坏	口 (12.4) 底 (6.2) 高 4.0	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち横方向へのヘラミガキ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色粒やや多。黒色・赤褐色細粒やや少。良。	21cm 口縁部 1/6 底部 1/4 No.62
17 土師器 坏	口 (14.4)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち横方向ミガキ。底部手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR7/6 橙	白色細粒やや少。赤褐色粒微。良好。	床直 口縁部 1/6 体部 1/3 底部 1/4 No.23 床直
18 土師器 坏	口 (15.2)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・横方向ヘラミガキ。	内 7.5YR3/1 黒褐 外 5YR6/6 橙	灰色粒・透明細粒少。黒色細粒やや少。良好。	床面 口縁～体部 1/6 No.5
19 土師器 坏	口 (14.0) 底 (6.7) 高 4.3	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち体部一方向ミガキ。	内 10Y2/1 黒外 外 7.5YR6/6 橙	白色・赤褐色細粒微。やや不良。	20cm 口縁～体部 1/6 No.12
20 土師器 坏	口 (15.4)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理、斜方向・横方向ミガキ。	内 N1.5/0 黒外 外 5YR6/6 橙	黒色細粒やや少。赤褐色・白色細粒微。良好。	2cm 口縁～体部 2/3 No.26, 上層, 下層
21 土師器 鉄鉢形		内外面ロクロナデのち内面黒色処理、横方向ミガキ。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色・赤褐色細粒少。透明微粒微。良好。	体部一部 下層
22 土師器 坏		内外面ロクロナデのち内面黒色処理、ミガキ。底部回転系切り。体部外面に墨書あり。	内 N1.5/0 黒外 外 7.5YR7/6 橙	黒色細粒少。赤褐色粒微。良好。	底～体部一部 上層
23 須恵器 短頸壺		体部内外面ロクロナデ。三甕産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色・黒色微粒少。白色細粒やや少。良好。	17cm 体部上位 1/5 No.34
24 原始灰釉 壺		体部内外面ロクロナデ。外面上半に自然釉付く。井ヶ谷 78 号窯式。	内 2.5Y6/1 黄灰外 外 10YR5/3 にぶい黄褐	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	体部一部 上層
25 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色細粒・金色雲母・白色針状物少。良。	1cm 体部一部 No.45
26 製塩土器		内面ナデ。外面ナデ、押圧痕あり。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色針状物多。黒色・白色・透明細粒少。やや不良	口縁部一部 上層
27 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕、粘土接合痕あり。	内 2.5YR4/6 赤褐 外 7.5YR4/3 褐	白色針状物やや多。黒色・灰色細粒・金色雲母少。良好。	体部一部 上層
28 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 2.5Y5/2 暗灰黄	灰色粒多。透明・赤褐色・黒色粒少。白色針状物少。良好。	体部一部 上層
29 土製品 土鏝	外径 1.4 孔径 0.1 重量 6.2	表面ナデ。	7.5YR5/3 にぶい褐	白色・赤褐色粒少。良。	両端欠損 上層
30 土製品 土鏝	外径 1.5 孔径 0.2 重量 5.8	表面ナデ。	10YR5/2 灰褐	白色微粒微。良。	1/2 下層

SI-241

1 須恵器 坏	口 (12.6) 底 7.0 高 4.3	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三甕産。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 "	黒色細粒やや多。褐色・白色細粒少。灰色微。やや良。	7cm 口縁～体部 1/6 底部 1/2 No.15, 上層
2 須恵器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。体部外面に墨書あり。底部調整技法不明。益子産か。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	白色粒やや多。黒色細粒少。良好。	20cm 体部下半～底部 1/4 No.41
3 須恵器 坏	底 (7.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。内面底部、体部境に沈線あり。末野産か。	内 5Y5/1 灰外 外 5Y5/2 灰オリーブ	白色細粒やや多。褐色粒やや少。褐色粗粒少。良好。	19cm 体部下端～底部 2/5 No.52
4 須恵器 坏	底 (8.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三甕産。	内 5Y5/1 灰外 外 5Y6/1 灰	黒色細粒やや多。白色細粒少。良好。	19cm 底～体部下半 1/3 No.21
5 須恵器 坏	底 (8.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。三甕産。	内 N6/0 灰外 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	23cm 底部 1/3 No.22
6 須恵器 坏	底 (6.6)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り。益子産か。	内 2.5Y6/1 黄灰外 外 "	白色細粒・褐色粒やや多。良好。	26cm 底部 1/6 No.14
7 須恵器 坏	口 13.2 底 7.4 高 3.5	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面系切りのち中心部のぞき手持ちヘラケズリ。底部外面に墨書あり。「法寺」の可能性もあるが漸定できない。	内 7.5YR6/8 橙外 外 "	黒色・白色細粒少。良好。	床面, 7cm 口縁～体部 1/2 底部完存 No.2, 4, 28
8 土師器 坏	底 (8.0)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理、底部一方向、体部横方向ミガキ。外面底部系切りのち外周～体部下端手持ちヘラケズリ。	内 7.5YR2/1 黒外 外 7.5YR7/6 橙	赤褐色細粒やや多。白色細粒・黒色微粒少。不良。	14cm 底～体部下部 2/5 No.17
9 土師器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理。体部一方向のち、底部二方向ミガキ。ミガキの順序が他のものと逆である。外面底部系切りのち外周～体部下端手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒外 外 5YR5/8 明赤褐	白色粒・細粒やや多。透明細粒・灰色粒やや少。赤褐色細粒少。良好。	14cm, 19cm 底～体部下半 1/2 No.8, 32
10 土師器 坏	口 (12.8) 底 (6.8) 高 5.2	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理、体部横方向ミガキ。外面底部～体部下端手持ちヘラケズリ。内外面にタールが付く。灯明具である。	内 5YR1.7/1 黒外 外 5YR5/8 明赤褐	赤褐色粒・細粒やや多。黒色微粒白色細粒少。良好。	22cm 口縁部 1/4 体部 2/5 底部 1/3 No.3, 上層
11 土師器 高台付坏	高台 (10.4)	底部内面ロクロナデ。高台貼付け。器壁全面を黒色処理、ヘラミガキを施す稀有な土器である。底部内面のみ摩耗し使用頻度高い。	内 N2/0 黒外 外 "	黒色細粒やや少。褐色粗粒少。灰色微。良好。	高台 1/4 上層
12 土師器 甕	口 (22.0)	口縁部押圧痕あり、ヨコナデ。胴部外面右から左方ヘケズリ。内面横方向ヘラナデ。	内 5YR6/8 橙外 外 "	黒色細粒やや多。赤褐色粒やや少。透明細粒少。良好。	床面 口縁～胴部上端 1/6 No.12
13 土師器 甕	口 (19.6)	口縁部ヨコナデ、外面に押圧痕あり。外面胴部下半は下から上方、胴部上半は斜下から左上方向ヘケズリ。内面ヘラナデ。	内 5YR6/6 橙外 外 "	赤褐色細粒多。透明・黒色細粒少。赤褐色粗粒・白色微粒少。良好。	床面 口縁部 2/3 胴部 上位 1/2 No.12, 下層
14 須恵器 甕		胴部内面無文当具、ナデ。外面平行叩き、ナデ。内面に平滑な部分があり、転用硯と考えられる。	内 N6/0 灰外 外 N5/0 灰	白色粗粒少。白色・黒色細粒やや少。良好。	肩～胴部一部 下層

第4章 発見された遺物

第2次調査区

SI-251

1 須恵器 坏	底 (6.6)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周手持ちへラケズリ。三毳産。	内 5Y6/1 灰 外 "	灰色細粒多。白色細粒少。良好。	底部 1/5 上面
2 須恵器 坏	底 7.0	内面ロクロナデ。底部外面回転系切り。三毳産。	内 2.5Y8/2 灰白 外 "	白色細粒少。透明・黒色細粒微。良好。	底部完存 上面
3 土師器 坏	底 (7.2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部外面手持ちへラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	赤褐色粒やや多。黒色・白色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/4 上面
4 土師器 高台付坏	高台 (8.6)	内面へラミガキ。底部回転系切りのち高台貼付け、ロクロナデ。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	底部 4/5 高台 1/2 上面
5 須恵器 蓋		内面ロクロナデ。遺存する外周に重ね焼き痕あり。外面ロクロナデのち3回転へラケズリ。つまみ貼付け部に窪みを作り挿入(剥離)。益子産か。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒多。良好。	天井部 1/4 上面
6 須恵器 甕		内面無文当具痕、一部ナデ。外面平行叩き。新治産。	内 N4/0 灰 外 "	白色細粒多。銀色雲母やや多。良好。	胴部一部 上面
7 土師器 鉄鉢形		内面黒色処理・へラミガキ。外面へラミガキ。	内 N1.5/0 黒 外 5YR6/8 橙	白色・透明細粒・赤褐色粒少。良好。	体部一部 上面
8 製塩土器		内面へラナデ。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒少。白色針状物微。やや良。	体～底部一部 上面

SI-253

1 土師器 甕		口縁部コクロナデ。口縁部がくの字形に折れる武蔵型内甕。	内 5YR6/8 橙 外 5YR6/6 橙	白色・黒色細粒多。赤褐色細粒少。良好。	口縁部一部 上面
2 土師器 坏		内面へラミガキ。外面へラケズリ。	内 2.5YR5/8 明赤褐 外 "	赤褐色粒やや多。透明・黒色細粒やや少。良好。	底部一部 上面

SI-307

1 須恵器 坏	口 (12.4) 底 6.0 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産か。	内 5Y7/1 灰白 外 2.5Y6/1 黄灰	白色粗粒・暗褐色粒やや少。黒色・灰色細粒少。やや不良。	1cm 口縁部 1/8 体部 1/3 底部完存 No.145
2 須恵器 坏	口 (13.2) 底 6.6 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産か。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒少。黒色細粒やや少。赤褐色粒微。やや良。	6cm 口縁～体部 1/3 底部完存 No.53,55,2層
3 須恵器 坏	口 (13.1) 底 5.8 高 4.2	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産か。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色・黒色細粒やや少。白色・赤褐色粗粒微。やや良。	5cm 口縁～体部 3/4 底部完存 No.21, 1層
4 須恵器 坏	口 (13.2) 底 6.2 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。底部回転系切り。三毳産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	黒色微粒・灰色粒少。良好。	25cm 口縁 1/4 体部 1/3 底部完存 No.71
5 須恵器 坏	口 (12.4) 底 7.0 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	灰色細粒やや少。黒色細粒・赤褐色粒少。灰色・赤褐色粗粒微。不良。	13cm 口縁～体部 1/2 底部完存 No.125
6 須恵器 坏	口 (12.2) 底 (6.6) 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 2.5Y7/1 灰白	灰色粒多。白色・褐色細粒少。良好。	口縁～体部 1/12 底部一部 1層(上層)
7 須恵器 坏	口 (12.2) 底 (6.8) 高 4.5	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕あり。底部回転系切り。三毳産。	内 7.5Y6/1 灰 外 "	白色・黒色細粒少。灰色粗粒微。良好。	6cm 口縁一部 体～底部 1/6 No.53, 1層(上層)
8 須恵器 坏	口 (11.8) 底 7.4 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。底部へラ切りのちナデ。N字状の焼成前へラ記号あり。益子産。	内 N4/0 灰 外 "	白色細粒やや多。灰色粗粒少。良好。	15cm 口縁・体部一部 底部 1/2 No.138
9 須恵器 坏	口 12.8 底 6.3 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒・灰色粒少。白色・灰色微。良好。	2cm 口縁 1/6 体下半 口縁～体部 3/4 底部完存 No.34,40
10 須恵器 坏	口 (12.8) 底 (6.6) 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部一方向ケズリ。体部下端右～左方へ手持ちへラケズリ。新治産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	銀色雲母多。白色細粒やや多。黒色細粒やや少。白色粒少。良好。	2cm 口縁 1/6 体下半～底部 1/2 No.148,166
11 須恵器 坏	口 (13.0) 底 7.0 高 3.8	内面～体部外面ロクロナデ。口縁部外面に粘土接合痕あり。底部回転系切り。三毳産。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色・灰色細粒やや多。黒色・赤褐色細粒少。やや良。	11,19cm 口縁～体部 1/3 底部 2/5 No.85,93
12 須恵器 坏	口 (12.2) 底 (6.4) 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三毳産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色・灰色細粒少。良好。	口縁一部 体～底部 1/8 2層(下層)
13 須恵器 坏	口 (13.0)	内外面ロクロナデ。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 "	赤褐色細粒少。黒色細粒微。良好。	口縁～体部 1/6 2層
14 須恵器 坏	口 (12.4)	内外面ロクロナデ。三毳産か。	内 5Y6/1 灰 外 "	黒色細粒やや多。白色微粒少。赤褐色粒微。不良。	口縁部 1/6 1層(上層)
15 須恵器 坏	口 (14.2)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 5Y7/1 灰白 外 "	灰色粒やや多。灰色礫・黒色細粒少。やや不良。	21cm 口縁部 1/6 No.142
16 須恵器 坏	口 (12.0)	内外面ロクロナデ。口縁部に灯心痕あり。産地不明。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色細粒少。良好。	5cm 口縁部 1/6 No.84
17 須恵器 坏	口 (13.6)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	赤褐色細粒やや多。赤褐色粗粒微。やや良。	口縁部 1/6 下層
18 須恵器 坏	口 (12.6)	内外面ロクロナデ。三毳産か。	内 5Y8/1 灰白 外 N 7/0 灰白	黒色微粒少。良好。	口縁部 1/6 1層(上層), 2層(下層)
19 須恵器 坏	口 (13.4)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 7.5Y7/1 灰白 外 7.5Y6/1 灰	白色微粒やや少。黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 2層(下層)
20 須恵器 坏	口 (14.0)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 7.5Y5/1 灰 外 N5/0 灰	白色細粒多。白色粒少。良好。	11cm 口縁部 1/12 No.82
21 須恵器 坏	口 (13.4)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 5Y7/1 灰白	白色・透明・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/12 1層

第2次調査区

SI -307

22 須恵器 坏	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 5YR6/6 橙 外 "	黒色・白色細粒少。赤褐色細粒 やや少。やや良。	口縁部 1/12 2層 (下層)
23 須恵器 坏	底 (8.0)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 5Y8/1 灰白 外 "	灰色細粒やや少。黒色・白色細 粒少。良好。	11cm 体部下位へ底部 1/6 No.32
24 須恵器 坏	底 (6.2)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒・褐 色粒少。不良。	底部 1/3 2層 (下層)
25 須恵器 坏	底 (6.6)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒少。 良好。	1cm,4cm 底部 2/3 No.101,171
26 須恵器 坏	底 (6.2)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粗粒・赤褐色細粒・黒色 細粒少。やや良。	床直 体下位へ底部 1/2 床直
27 須恵器 坏	底 5.8	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 "	黒色細粒やや少。白色細粒・赤 褐色粒少。やや良。	2cm 体下位へ底部ほ ぼ完存 No.72
28 須恵器 坏	底 (6.0)	内面へ体部外面ロクロナデ。外面に糸痕あり。底部 技法不明。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色細粒やや少。黒色細粒少。 赤褐色粒微。不良。	体下位 1/3 底部 1/2 1層 (上層)
29 須恵器 坏	底 6.4	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	白色・黒色細粒少。透明微粒微。 良好。	15cm 底部 3/4 No.108
30 須恵器 坏	底 (6.4)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 10Y5/1 灰 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒微。 良好。	底部 1/4 1層 (上層)
31 須恵器 坏	底 (6.8)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色細粒少。黒色細粒・白色粒微。 やや良。	20cm 底部 1/4 No.91
32 須恵器 坏	底 5.4	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	白色細粒多。灰色粒・白色粒少。 黒色細粒やや少。不良。	10cm 底部 2/3 No.137
33 須恵器 坏	底 (5.8)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色・灰色細粒少。黒色細粒微。 良好。	3cm 体下位へ底部 1/4 No.154
34 須恵器 坏	底 (7.0)	内面へ体部外面ロクロナデ。体部下端右から左方へ 手持ちヘラケズリ。底部ヘラ切りのち一方への手 持ちヘラケズリ。新治産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	銀色雲母多。灰色・白色細粒や や少。白色粗粒少。良好。	- 13cm 体部下半 1/4 底部 2/5 No.23
35 須恵器 坏	底 (6.4)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 N6/0 灰 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	体下位へ底部 1/5 2層 (下層)
36 須恵器 坏	底 (6.8)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三 産。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 5Y8/1 灰白	黒色・灰色細粒少。不良。	14cm 底部 1/5 No.15
37 須恵器 坏		内面ロクロナデ。外面体部下端右から左方へ手持 ちヘラケズリ。底部一方へ手持ちヘラケズリ。堀ノ 内産か。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒・透明粒少。やや良。	床直 体部下端 1/8 底部 1/6 床直
38 須恵器 坏		内面へ体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。益子 産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒多。白色礫少。良好。	底部一部 下層
39 須恵器 高台付坏か	口 (12.6)	内外面ロクロナデ。益子産か。	内 2.5GY5/1 オリーブ 灰 外 N5/0 灰	白色粒・白色細粒やや多。灰色 粗粒微。良好。	6cm 口縁部 1/6 No.73
40 須恵器 高台付坏	口 16.8	内面へ体部外面ロクロナデ。高台貼付け (剥離)。 体部外面に墨書あり。三産。	内 5YR6/8 橙 外 "	黒色・赤褐色細粒やや少。白色 細粒少。やや不良。	18cm 口縁へ底部ほ ぼ完存 No.70, 2層
41 須恵器 蓋	口 (18.2)	内面へ天井外面外周ロクロナデ。天井外面3回転 ヘラケズリ。天井内面が平滑で・転用硯と考えられる。 益子産。	内 N5/0 灰 外 "	白色細粒多。灰色・白色粗粒微。 良好。	5cm 口縁部 1/8 天井 1/6 No.100
42 須恵器 蓋		天井につまみ貼付け、ロクロナデ (剥離)。扁平な つまみである。産地不明。	外 5YR6/6 橙	白色・黒色・赤褐色細粒少。や や不良。	つまみ完存 最上層
43 須恵器 蓋	口 14.2 高 3.5	内面へ天井外面外周ロクロナデ。天井外面回転 ヘラケズリ。つまみ貼付け、ロクロナデ。三産か。	内 5YR6/6 橙 外 5YR5/6 明赤褐	黒色細粒多。白色細粒やや少。 褐色粒少。やや良。	4cm 口縁へ天井 1/2 つまみ完存 No.163
44 須恵器 蓋	口 (14.4)	内面へ天井外面外周ロクロナデ。天井外面2回転 ヘラケズリ。益子産か。	内 N6/0 灰 外 N5/0 灰	白色細粒少。白色粗粒微。良好。	15cm 口縁へ天井外周 1/8 No.113
45 須恵器 蓋	口 (14.0)	内外面ロクロナデ。三産か。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色細粒やや少。黒色細粒・赤 褐色粒少。やや良。	1cm 口縁部 1/3 No.144, 2層 (下層)
46 須恵器 蓋	口 (17.6)	内外面ロクロナデ。天井外面回転ヘラケズリ。	内 5YR4/6 赤褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色・赤褐色・黒色細粒少。や や良。	15cm 口縁部 1/6 No.90
47 須恵器 高台付坏	高台 (9.8)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラ ケズリ。高台貼付け、ロクロナデ。三産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒やや多。白色細粒少。 良好。	高台・底部 1/8 1層 (上層)
48 土師器 坏		内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。体部 外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・透明細粒微。良好。	12cm 口縁へ体部一部 No.61
49 土師器 坏		内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体 部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色細粒少。赤褐色粒微。 良好。	口縁へ体部一部 下層
50 土師器 坏		内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体 部外面に墨書あり。	内 10YR2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒少。透明細粒微。良好。	体部一部 下層
51 土師器 坏	口 (11.2)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。	内 N2/0 黒 外 5YR6/8 橙	黒色・灰色・白色細粒少。不良。	口縁部 1/6 最上層
52 土師器 坏	口 12.0 底 5.8 高 4.4	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部 外面回転系切り。	内 N2/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色・黒色・灰色細粒やや多。 赤褐色細粒少。不良。	床面 完存 No.172
53 土師器 坏	口 (12.2)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・横方向・斜方 へラミガキ。外面に墨書あり。口縁部摩耗・使用に よるか。	内 N2/0 黒 外 5YR6/6 橙	白色細粒・黒色細粒・白色粒・ 褐色粒少。良。	9cm 口縁へ体部 1/5 No.45
54 土師器 坏	口 (15.8) 底 7.6 高 6.3	内面へ体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・底部一 方向・体部横方向ミガキ。底部外面回転系切りのち 外周手持ちヘラケズリ。内面摩耗し・使用頻度高い。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒やや少。白色・赤褐色・ 透明細粒少。やや良。	床面 口縁部一部 体 へ底部ほぼ完存 No.33,170, 上層, 下層

第4章 発見された遺物

第2次調査区

SI-307

55	土師器 坏	底 7.0	内面～体部外面クロコナデ。内面黒色処理・底部多方向、体部横方向ミガキ。底部外面糸切りのち、中心部を除き多方向手持ちヘラケズリ。内面使用により摩耗している。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/6 明褐	白色・灰色細粒多。黒色細粒やや少。赤褐色細粒少。良好。	20cm 体部下位～底部 ほぼ完存 No.43
56	土師器 坏	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面体部下端手持ちヘラケズリ。底部外面糸切りのち、外周手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	白色・赤褐色細粒多。透明粒微。良好。	7cm 底部 1/5 No.174
57	土師器 坏	底 (5.2)	クロコナデ。内面黒色処理・体部横方向のち底部一方向ミガキ。底部外面回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色微粒少。良好。	10cm 体部下端～底部 1/4 No.92
58	土師器 坏	底 (5.2)	クロコナデ。内面黒色処理・体部横方向、底部一方向ミガキ。底部外面回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 5YR5/8 明赤褐	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	8cm 体部下端～底部 1/4 No.8
59	土師器 坏	口 11.8 底 6.2 高 4.9	クロコナデのち内面黒色処理。底部一方向、体部横方向ミガキ。底部外面二方向への手持ちヘラケズリ。体部外面に「南」、底部外面に「吉」の墨書。内面は使用により摩耗。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	黒色・白色・赤褐色細粒少。良好。	4cm,6cm 口縁～体部 1/2 底部 2/3 No.47,49,52,1層
60	土師器 坏	底 (6.4)	クロコナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部外面技法不明。	内 7.5Y2/1 黒 外 2.5YR5/6 明赤褐	白色・赤褐色細粒少。不良。	14cm 底部 1/4 No.162
61	土師器 坏	底 5.6	内面クロコナデ。黒色処理・一方向へのミガキ。体部外面右から左方への手持ちヘラケズリ。底部外面回転糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	灰色粒・赤褐色細粒やや少。白色細粒少。白色・暗褐色粗粒微。良好。	9cm 底部完存 No.78
62	土師器 坏		クロコナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR7/6 橙	黒色・白色・透明細粒微。良好。	体部一部 2層
63	土師器 坏	底 5.2	内外面クロコナデ。内面黒色処理・多方向ヘラミガキ。底部外面回転糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	黒色・白色・透明細粒少。良好。	2cm,8cm 底部ほぼ完存 No.50,96
64	土師器 坏	底 6.2	内面クロコナデ。底部外面回転糸切り。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色細粒・透明細粒・褐色粒少。やや不良。	3cm 底部 3/4 No.6
65	土師器 蓋		天井部内面ナデ後粗いミガキ。天井部外面ケズリ後ミガキ。平面方形のつまみ貼付け(剥離)。	内 5YR5/6 明赤褐 外 2.5YR5/6 明赤褐	赤褐色粒多。透明細粒少。良。	14cm 天井部中央付近 1/4 No.165
66	須恵器 鉄鉢形		内外面クロコナデ。口唇部平坦面あり。三龕産か。	内 2.5Y8/1 灰白 外 "	灰色細粒多。黒色細粒少。不良。	口縁部一部 1層(上層)
67	須恵器 鉢		口縁部内外面クロコナデ。体部内面無文当て具痕、一部ナデ。体部外面平行叩き。三和産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒多。良好。	6cm 口縁部一部 No.27
68	須恵器 短頸壺	口 (11.0)	内面～口縁部外面クロコナデ。外面口縁部直下に沈線施す。外面自然釉厚く付く。肩部に稜あり。猿投産か。	内 2.5Y7/1 灰白 外 7.5Y5/3 灰オリーブ	黒色粒・黒色細粒やや多。良好。	15cm 口縁部 1/6 肩部 1/4 No.60
69	土師器 甕	口 (15.6)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面右から左へ横方向ケズリ。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色・暗灰色粒多。透明細粒微。良。	2cm 口縁部 1/6 No.67
70	土師器 甕	口 19.6 底 4.6 高 27.7	口縁部ヨコナデ。外面に粘土接合痕、押圧痕あり。胴部外面上位斜方向ケズリ。中・下位縦方向ケズリ。内面押圧痕、ヘラナデ。外面全面にススが付く。	内 7.5YR4/4 褐 外 7.5YR3/2 黒褐	黒色・白色細粒多。赤褐色粒少。良好。	7cm 口縁部・底部完 存 胴部 1/2 No.18
71	土師器 紡錘車	外径 5.6 孔径 0.8 厚 1.2	内面黒色処理、一方向ミガキ。底面回転糸切り。側面研磨。中心に穿孔。土師器再利用。	内 2.5Y2/1 黒 底 10YR7/6 にぶい黄橙	赤褐色粒やや少。灰色粒・黒色細粒少。やや不良。	8cm 完存 No.164
72	須恵器 紡錘車	外径 (4.8) 孔径 0.8 厚 1.6	表面クロコナデ。側面研磨。中心に穿孔。須恵器再利用。	上 2.5Y6/3 にぶい黄 下 "	黒色細粒少。良好。	8cm 1/2 No.76
73	製塩土器		内面ナデか。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR6/6 明黄褐	白色針状物・白色細粒多。灰色粒少。不良。	口縁～体部一部 下層
74	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR6/6 明黄褐	白色針状物・白色細粒少。不良。	口縁部一部 1層
75	製塩土器		口縁一部押圧痕あり。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色針状物・白色細粒・黒色微粒少。透明微粒微。やや不良。	口縁部一部 下層
76	製塩土器		内面ヨコナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色針状物少。白色細粒・透明粒微。やや不良。	口縁部一部 最上層
77	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕あり。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 7.5YR7/6 橙	赤褐色細粒多。黒色細粒・白色粒少。白色針状物微。良好。	口縁部一部 1層
78	製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 5YR6/6 橙 外 7.5YR7/6 橙	白色細粒多。白色針状物やや多。黒色細粒やや少。やや良	体部一部 2層
79	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色粒・赤褐色粒少。白色針状物微。良。	7cm 体部一部 No.89
80	製塩土器		外面粘土接合痕、粘土シワあり。内面技法不明。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色針状物・白色細粒少。褐色細粒・透明微粒微。やや不良。	体部一部 下層
81	製塩土器		外面粘土接合痕、粘土割れあり。内面技法不明。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	黒色・白色細粒少。白色針状物微。やや不良。	体部一部 最上層
82	製塩土器		内面横方向ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色針状物・赤褐色・黒色・透明細粒少。良。	体部一部 2層
83	製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕、粘土割れあり。	内 2.5YR6/6 橙 外 7.5YR6/6 橙	白色微粒・白色針状物少。透明微粒微。良好。	体部一部 2層
84	製塩土器		内面ナデか。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 7.5YR7/4 にぶい橙	赤褐色細粒やや多。白色細粒・赤褐色粗粒・白色針状物少。やや不良。	体部一部 下層(3層)

第2次調査区

SI-307

85	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。外面にスス附着。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	透明粒少。白色針状物・赤褐色粒微。良。	体部一部 下層
86	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 7.5YR6/6 橙 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色細粒・白色針状物少。金色雲母やや少。やや良。	体部一部 1層
87	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。	内 5YR7/2 明褐灰 外 5YR7/6 橙	白色・灰色細粒やや多。白色針状物少。不良。	体部一部 2層(下層)
88	製塩土器		内面ナデ。外面粘土シワあり。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色細粒少。白色針状物やや少。透明粒微。不良。	体部一部 2層(下層)
89	製塩土器		内面ナデ。外面無調整。底部層状剥離している。	内 5YR6/6 橙 外 7.5YR7/6 橙	白色針状物多。白色細粒やや多。赤褐色細粒少。やや良。	底部一部 1層(上層)
90	製塩土器		内面ナデ。外面無調整、層状剥離している。	内 5YR6/4 にぶい橙 外 7.5YR7/6 橙	白色針状物多。白色細粒やや多。褐色粗粒少。透明粒微。良好。	12cm 底部一部 No.39
91	製塩土器		内外面に押圧痕あり。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	白色針状物・白色細粒・赤褐色細粒少。黒色細粒やや少。やや不良。	体部下端～底部一部 1層
92	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕あり。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色針状物・白色細粒・赤褐色細粒少。やや不良。	体部下端一部 最上層

SI-315

1	須恵器 坏	口(13.6) 底 7.1 高 4.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。焼成前へラ記号あり。益子産。	内 N4/0 灰 外 "	白色・灰色細粒多。良好。	口縁～体部 1/4 底部 1/2 上面
2	土師器 坏	口 12.3 底 7.4 高 4.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR8/2 灰白 外 "	灰色細粒多。黒色細粒少。灰色粗粒微。良好。	口縁～体部 1/2 底部 2/3 上面
3	土師器 坏	口(13.6) 底(7.6) 高 4.1	ロクロナデのち内面体部連弧状、底部一方向ミガキ。底部外面手持ちヘラケズリ。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色細粒やや少。黒色・赤褐色細粒少。良好。	口縁～底部 1/3 上面

SI-325

1	土師器 坏	口 11.2 底 6.1 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR6/2 灰黄褐	灰色粒・黒色細粒・白色細粒やや多。金色雲母少。良好。	床直 口縁～体部 4/5 底部ほぼ完存 床直
2	土師器 坏	口 11.6 底 6.0 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒多。白色・赤褐色・透明細粒少。良好。	床直 口縁～体部 1/2 底部 2/3 床直
3	土師器 坏	口(12.2) 底 7.4 高 2.6	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 10YR7/2 にぶい黄橙	黒色・灰色細粒やや多。赤褐色粒やや少。赤褐色粗粒少。良。	床直 口縁部一部 体部下半～底部 1/2 床直
4	土師器 坏	口(12.8)	内面～口縁部外面ロクロナデ。体部外面左から右方ヘケズリ。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 10YR6/4 にぶい黄橙	灰色粒多。黒色細粒少。灰色微。良好。	口縁部 1/6 上半
5	土師器 坏	底(6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 2.5Y8/1 灰白 外 10YR8/3 浅黄橙	灰色・黒色細粒多。赤褐色粒微。良好。	底部 1/2 上面
6	土師器 坏	底(7.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。3と同一個体か。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色粒多。黒色細粒少。良好。	床直 体部下位～底部 1/4 床直
7	土師器 高台付焼か	口(14.2)	内外面ロクロナデのち内面黒色処理・横方向ミガキ。	内 N2/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	白色細粒・赤褐色粒少。黒色細粒微。良好。	口縁～体部 1/8 上層
8	土師器 高台付坏	高台(8.0)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切りのち高台貼付け、全面ロクロナデ。底部内面使用による摩耗。	内 N2/0 黒 外 7.5YR7/4 にぶい橙	白色細粒多。黒色・赤褐色細粒やや少。透明細粒少。金色雲母微。良好。	床直 底部完存 高台 1/2 床直
9	土師器 高台付坏	高台(7.2)	内外面ロクロナデ。高台貼付け。底部外面全面ロクロナデ。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 7.5YR7/4 にぶい橙	白色・黒色細粒少。良好。	床直 体部下位～底部 高台 1/2 床直
10	須恵器 甕		内面無文当て具痕、ナデ。外面平行叩き。南比企産か。	内 5Y6/1 灰 外 2.5YR5/2 灰赤	白色粒やや少。白色針状物少。白色微・透明細粒微。良好。	胴部一部 下層
11	土師器 甕	口(23.2)	口縁部ロクロナデ、内外面に粘土接合痕。胴部外面上端押圧痕、上から下ヘケズリ。胴部内面ナデ、焼成前の縦位沈線あり。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR6/4 にぶい黄橙	灰色・白色細粒多。白色粗粒・黒色細粒・赤褐色粒少。良好。	口縁部 1/4 胴上位 1/6 カマド上面
12	土師器 甕	底(10.4)	底部内面ナデ、外面砂目。胴部外面左から右方ヘケズリ。スス附着。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 10YR4/2 灰黄褐	灰色・黒色細粒多。白色微粒やや多。赤褐色粒少。良好。	底部 1/6 上層
13	灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に薄く灰釉。光ヶ丘1号窯式か大原2号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y8/1 灰白	白色・灰色微粒微。良好。	床直 口縁部一部 床直
14	灰釉陶器 壺		内外面ロクロナデ。外面の上半に釉付く。井ヶ谷78号窯式。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 5Y5/2 灰オリーブ	黒色微粒微。良好。	体部一部 上層(1層)
15	灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。ハケ塗りか。光ヶ丘1号窯式または大原2号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒微。良好。	体部一部 上層

SI-335

1	土師器 坏	口 11.5 底 5.4 高 4.3	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	灰色細粒やや多。黒色細粒やや少。褐色細粒微。良好。	床直 口縁部 2/3 体 ～底部完存 床直
2	土師器 坏	口(13.0) 底(7.8) 高 3.3	内面～体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラミガキ。底部外面ヘラ切り。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 7.5YR7/6 橙	黒色細粒多。白色・透明細粒少。灰色微。良好。	床直 口縁～体部 1/8 底部 1/3 床直
3	土師器 坏	口(11.8) 底(5.6) 高 3.3	内面～体部外面ロクロナデ。外面体部下位左から右方へ、底部一方向への手持ちヘラケズリ。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 2.5YR6/6 橙	灰色粒・白色細粒・黒色細粒少。灰色微。良好。	口縁～体部 1/4 底部 1/3 埋土下層
4	土師器 高台付坏	高台 8.4	内外面ロクロナデ。底部外面高台貼付け。底部全面ロクロナデ。	内 5YR5/4 にぶい赤褐 外 2.5YR4/6 赤褐	白色細粒やや少。赤褐色粒・黒色細粒・金色雲母少。良好。	床直 底部完存 高台 3/4 床直
5	土師器 坏	底(6.4)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキを一方のち同心円状に行う。外面体部下端ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色細粒多。白色細粒少。良好。	底部 1/5

第4章 発見された遺物

第2次調査区

SI-335

6 土師器 坏	底 (7.2)	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面回転糸切り。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR7/2 明褐灰	白色・黒色細粒少。良好。	床直 体部下位～底部 1/6 床直
7 須恵器 坏	底 6.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切りのちナデ。体部外面に墨書あり。内外面にタール付き、灯明具。南那須産か。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色細粒やや多。黒色細粒少。褐色粒微。良好。	床直 体部下半～底部 完存 床直
8 須恵器 高台付坏	高台 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部高台貼付け、ロクロナデ。三壺産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	底～高台 1/4
9 須恵器 蓋		ロクロナデのち天井外面1回転の手持ちヘラケズリ。つまみ貼付け、ロクロナデ。益子産。	内 N5/0 灰 外 "	白色粒少。白色細粒やや少。灰色粗粒微。良好。	天井中央部 1/6 つまみ 1/3 上面

SI-336

1 須恵器 坏	口 13.0 底 6.2 高 4.1	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内外面黒色に変色し、口縁部に灯芯のタール付く。三壺産か。	内 N2/0 黒 外 7.5Y2/1 黒	白色細粒微。良。	床直 ほぼ完存 No.1(床直), 下層
2 土師器 坏	口 12.1 底 5.0 高 3.7	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。口縁部にタール付着。内外面黒斑状の部分あり。	内 2.5Y8/2 灰白 外 7.5YR7/4 にぶい橙	白色・灰色細粒多。黒色細粒やや少。良好。	- 5cm 完存 No.3
3 土師器 坏	口 (11.0) 底 5.0 高 4.6	内面～口縁部外面ヨコナデ。内面黒色処理。体部外面ケズリ。底部外面砂目。	内 2.5Y2/1 黒 外 7.5YR3/2 黒褐	白色細粒やや多。白色粒やや少。赤褐色粒少。やや良。	口縁～体部 1/5 底部 ほぼ完存 下層
4 土師器 坏	口 (11.6) 底 5.6 高 3.4	内面～口縁部外面ヨコナデ。内面一部ヘラナデ。外面体部上半無調整、押圧痕あり。下半手持ちヘラケズリ、粘土接合痕あり。底部一方向ケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR4/4 褐	白色細粒やや多。白色粒やや少。赤褐色・黒色細粒少。良。	- 5cm 口縁 1/4 体部 2/3 底部完存 No.2
5 土師器 坏	口 (12.6)	内外面ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	灰色粒やや多。白色・黒色・褐色粒少。良好。	口縁部 1/6 上層
6 土師器 高台付坏	口 (13.0) 高台 7.0 高 5.2	内面体部木口状工具でナデ上げ。黒色処理・ミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面体部上位押圧痕、無調整。下半手持ちヘラケズリ。底部高台貼付け、ナデ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR7/4 にぶい橙	黒色細粒やや多。白色細粒やや少。白色粒少。褐色細粒微。良好。	口～体部 1/4 底部完存 下層, 床直, 床下直
7 灰釉陶器 高台付皿	高台 12.0	内外面ロクロナデ。内面全面灰釉施すが底部は薄い。外面ハケ塗り。底部高台貼付け、全面ロクロナデ。光ヶ丘1号窯式。	内 5Y6/2 オリーブ灰 外 5Y7/1 灰白	白色粒・黒色細粒少。良好。	床直 底部 1/2 床直
8 土師器 甕		口縁部ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ハケ目、ヘラケズリ。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色細粒少。黒色粒やや少。白色粗粒微。良好。	口縁部一部 上層
9 土師器 無頸壺か		口縁部ヨコナデ。口唇部平坦である。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 2.5YR6/6 橙	黒色細粒やや多。赤褐色細粒・透明粒少。良好。	口縁部一部 上層
10 土師器 甕	口 (20.4)	口縁部ヨコナデ、一部ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面、横・縦方向ヘラケズリ。内外面にス・コゲ付く。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色・黒色細粒やや多。赤褐色細粒・灰色微。良好。	- 7cm 口縁部 1/2 No.4, 下層
11 土師器 甕	口 (31.0)	口縁部ヨコナデ。外面指頭押圧、粘土接合痕、黒斑あり。口縁部が長くのび、外面は沈線状になっている。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒やや少。褐色細粒少。白色・透明粒微。良好。	口縁部 1/5 床直, 上層, 下層
12 土師器 甕	口 19.2	口縁部ヨコナデ。胴部外面上半押圧痕、下半ヘラケズリ。内面上位ハケ目、中・下位ナデ。胴外面に粘土付く。カマドの土か。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 7.5YR8/4 浅黄橙	白色粒・褐色粒・褐色細粒少。良。	口～胴上位 1/2 胴下半 1/4 下層
13 須恵器 甕		底部内面一部無文当て具痕、ナデ。外面平行タタキ。産地不明。	内 7.5Y6/1 灰 外 5Y6/1 灰	白色細粒多。白色粗粒・白色微。良好。	床直下 底部一部 床 直
14 須恵器 甕		胴部内面同心円当て具痕。外面撥げ子叩き。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 N4/0 灰	白色細粒少。良好。	胴部一部 上層, 下層

SI-337

1 須恵器 坏	底 (5.8)	底部内面ロクロナデ、外面回転糸切り。内面に黒色付着物あり、灯明具か。三壺産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色細粒やや多。白色細粒少。白色微。やや不良。	底部 1/4 1層
2 須恵器 坏	底 (5.6)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色粗粒・白色細粒やや少。良好。	床直 体下半～底部 1/5 床直
3 土師器 坏	底 (8.6)	ロクロナデのち、内面ヘラミガキ。底部ヘラ切りのちナデ。	内 2.5YR5/4 にぶい赤 外 2.5Y7/2 灰黄	灰色・黒色細粒やや少。黒色・橙色細粒微。良好。	体下半～底部 1/6 2層
4 土師器 坏	口 (16.6)	内面横方向ミガキ。外面口縁部ヨコナデ、体部右から左方へ、横・斜方向ヘラケズリ。	内 7.5YR6/6 橙 外 5YR5/6 明赤褐	赤褐色粒・白色細粒やや多。黒色細粒やや少。透明粒少。良好。	口縁部一部 体部 1/8 1層
5 灰釉陶器 皿		内外面ロクロナデのち、内面のみ灰釉をやや厚く施す。虎溪山1号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	黒色微粒微。良好。	口縁部一部 4層
6 土師器 甕	口 (17.0)	口縁部ヨコナデ、外面押圧痕、粘土接合痕あり。内面胴部ナデ、ヘラナデ。外面胴部右から左方ヘケズリ。外面にススが厚く付いている。	内 10YR4/2 灰黄褐 外 7.5YR3/1 黒褐	白色細粒多。黒色・透明細粒少。やや良。	口縁部 1/6 2層

SI-368

1 土師器 坏	口 (13.0) 高 2.9	内面体部横方向のち、底部一方向ミガキ。外面体部右から左方ヘケズリ、粘土接合痕あり。底部多方向ケズリ。	内 5YR6/6 橙 外 7.5YR6/6 橙	赤褐色細粒・褐色粒多。黒色細粒やや多。白色細粒少。良好。	32cm 口縁部一部 体 部 1/6 底部 1/4 No.15
2 土師器 坏	口 (14.6)	内面連弧状ヘラミガキ。外面口縁部ヨコナデ、体部右から左方へのヘラケズリ。	内 5YR5/8 明赤褐 外 "	白色細粒やや多。赤褐色粒少。良好。	33cm 口縁～体部 1/8 No.17
3 土師器 坏	口 (15.4)	内面連弧状ヘラミガキ。外面口縁部ヨコナデ、体部右から左方へのケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 2.5YR5/6 明赤褐	透明微粒やや少。白色細粒・褐色粒少。良好。	24cm 口縁部 1/4 No.5,6
4 土師器 坏	口 (11.4) 底 (7.6) 高 2.8	内面～口縁部外面ヨコナデ、漆仕上げ。底部外面多方向ケズリ。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色細粒やや多。白色細粒少。透明細粒微。良好。	33cm, 3cm 口縁～底部 1/2 No.17, 21
5 土師器 坏		内面不定方向のナデ。外面概ね一方向へのヘラケズリ、中心部に糸切り痕あり。丸底気味である。	内 2.5Y8/2 灰白 外 "	白色・黒色・透明細粒少。良好。	底部 1/2 フコド一括

第2次調査区

SI-368

6 土師器 坏		底部内面一方向ミガキ。外面木葉痕。	内 5YR5/6 明赤褐 外 5YR4/8 赤褐	白色細粒やや少。黒色細粒・透 明粒少。良好。	32cm 底部中央部一部 No.23
7 須恵器 坏	口 (15.4) 底 (9.4) 高 3.8	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切りのち、 中心部を除いて2回転ヘラケズリ。三稜産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒少。白色微粒・黒色細 粒やや少。良好。	33cm 口縁部一部 底 部 1/3 No.20
8 須恵器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 焼成前のヘラ記号あり。益子産。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 "	白色細粒少。良好。	体部一部 底部 2/5 フクド一括
9 須恵器 坏	底 (8.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 益子産。	内 5B5/1 青灰 外 7.5Y5/1 灰	白色細粒多。白色・灰色粗粒少。 良好。	24cm 底部 1/2 No.8
10 須恵器 坏	底 (復 8.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り。益 子産。	内 5Y7/1 灰白 外 10YR7/2 にぶい黄橙	灰色細粒やや少。灰色粗粒・白 色細粒少。良好。	30cm 底部 1/4 No.16

SI-376

1 須恵器 盤	口 (20.6) 高台 (16.0) 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部高台貼付け、全面 ロクロナデ。益子産。	内 5B6/1 青灰 外 "	白色粒やや多。白色礫少。良好。	口縁～底部 1/8 高台 1/5 上面
2 土師器 坏		内面横方向ヘラミガキ。外面ヨコナデのち縦方向の 細いヘラミガキ。胎土が精良でミガキが細く、搬入 品か。	内 2.5YR5/8 明赤褐 外 "	赤褐色・白色微粒微。良好。	体部一部 上面

SI-378

1 土師器 坏	口 10.9 底 6.2 高 3.2	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちクロ ロナデ。体部外面に墨書「花」か。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒・赤 褐色粒・灰色粒少。良好。	ほぼ完存 カマド上面
2 土師器 鉢	口 (9.8)	ロクロナデのち、体部内面に横方向、外面に横方向・ 斜方向のミガキを施す。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒多。灰色・黒色粒少。 良好。	口縁～体部上位 1/6 上面
3 土師器 甕	口 (23.0)	口縁部ヨコナデ。胴部外面上位押圧痕、粘土接合痕 あり。中位右から左方へのケズリ。内面ハケ目、押 圧痕あり。中位横方向ナデ。胴部外面にカマド粘土 トスス付く。	内 7.5YR7/3 にぶい橙 外 7.5YR7/4 にぶい橙	黒色・白色・褐色細粒やや多。 赤褐色粒・金色雲母少。良好。	口縁部 1/3 胴上位 1/4 上面

SI-379

1 土師器 台付甕		底部内面ヘラナデ。台部内外面ヨコナデ。内面に押 圧痕あり。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色・白色細粒多。赤褐色細粒少。 やや良。	台部上半完存 上面
2 須恵器 坏		底部外面回転糸切りのち、外周回転ヘラケズリ。内 面調整不明。三稜産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色細粒少。白色細粒やや少。 不良。	底部一部

第4次調査区

SI-406

1 土師器 坏	底 (7.4)	内面黒色処理・一方向ヘラミガキ。体部外面クロ ロナデ、下端に木口圧痕あり。底部回転糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色・白色・赤褐色細粒少。良好。	体部下端～底部 1/4 上面
2 灰軸陶器 皿か		内外面ロクロナデ、灰軸施す。黒径 90 号窯式②。	内 2.5Y8/2 灰白 外 "	良好。	口縁部一部 上面

SI-436

1 須恵器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜 産。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	黒色・白色細粒少。良好。	底部 1/5 上面
2 須恵器 坏	底 (5.8)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜 産。	内 7.5Y5/3 にぶい褐 外 2.5Y6/3 にぶい黄	白色細粒少。褐色粒微。良好。	体部下位～底部 1/2 上面
3 灰軸陶器 皿か		ロクロナデのち、内面やや厚く、外面薄く灰軸施す。 黒径 90 号窯式②。	内 7.5Y6/3 オリーブ黄 外 7.5Y7/1 灰白	黒色細粒微。良好。	口縁部一部 上面
4 灰軸陶器 皿	口 (16.0)	ロクロナデのち、内面は厚く、外面やや薄く灰軸ハ ケ塗り。黒径 90 号窯式②。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 N7/0 灰白	良好。	口縁部一部 上面
5 土師器 鉄鉢形		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR7/4 にぶい橙	白色・灰色・褐色細粒少。良好。	体部一部 上面

SI-437

1 須恵器 坏	底 (5.8)	内面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。益子産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	白色細粒微。良好。	底部 1/6 上面
2 土師器 坏	口 (13.0) 底 (7.2) 高 3.0	ロクロナデのち内面黒色処理。底部外面ナデか。	内 N4/0 灰 外 2.5Y6/2 灰黄	白色細粒やや多。白色粒少。良好。	口縁～底部 1/8 上面
3 土師器 坏	口 (11.2)	ロクロナデのち、内面ヘラミガキ。外面体部下半手 持ちヘラケズリ。	内 10YR8/2 灰白 外 "	黒色細粒・透明粒少。白色粒・ 褐色細粒微。良好。	口縁部 1/6 上面
4 土師器 坏	底 6.5	底部内面黒色処理・三方向へのヘラミガキ。体部外 面ロクロナデ、下端に粘土接合痕あり。底部ヘラ切り。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色細粒微。良好。	底部 3/4 上面
5 土師器 坏	底 (7.2)	内面～外面体部上半ロクロナデ。内面黒色処理・ミ ガキ。外面体部下半手持ちヘラケズリ。底部糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y7/4 浅黄	白色細粒・灰色粒少。透明粒微。 良好。	体部一部 底部 1/3 上面
6 土師器 高台付坏	高台 (9.2)	内面黒色処理・一方向ヘラミガキ。外面高台貼付け。 底部内面摩耗し、用頻度高い。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/8 橙	黒色細粒多。褐色粒微。良好。	高台 1/3 上面
7 土師器 坏		ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に 墨書。	内 N1.5/0 黒 外 10YR5/8 黄褐	白色細粒少。透明細粒微。良好。	体部一部 上層
8 土師器 坏		ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に 墨書。	内 N1.5/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色細粒少。透明・黒色細粒微。 良好。	体部一部
9 土師器 坏		ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外 面に墨書。「子」か。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色細粒やや多。透明細粒微。 良好。	体部一部 上面
10 灰軸陶器 皿		ロクロナデのち、内外面やや厚く灰軸施す。黒径 90 号窯式②。	内 7.5Y8/2 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁部一部

第4章 発見された遺物

第4次調査区

SI-437

11 緑釉陶器 皿か		内外面ロクロナデ、緑釉施す。猿投産。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 "	良好。	口縁部一部
12 土師器 甕	口 (18.0)	口縁部ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面斜方向ナデ、ヘラナデ。胴部外面にスス付着。	内 7.5YR8/3 浅黄橙 外 "	白色細粒少。黒色・透明細粒微。良好。	口縁～胴部上位 1/4 上面
13 土師器 甕	口 18.6	口縁部ヨコナデ、外面押圧痕あり。胴部外面ケズリ、内面ナデ、ヘラナデ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒・透明細粒・白色粒少。良好。	口縁部 4/5 上面
14 土師器 鉢	口 (10.8)	口縁部ヨコナデのち内面ケズリ。体部内面押圧のちミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR6/6 明黄褐	白色細粒やや多。黒色細粒少。良好。	口縁～体部 1/3 上面
15 土師器 坏	底 (8.0)	内面～体部外面ロクロナデ。内面ミガキ。体部外面～底部外面手持ちヘラケズリ。中央付近に糸切り痕あり。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色・透明細粒微。良好。	底部 1/6 上面

SI-438

1 土師器 高台付坏か	口 (15.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	赤褐色・白色細粒少。透明細粒微。良好。	12cm.30cm 口縁～体部 1/4 No.19,22
2 土師器 坏	口 (13.2)	内外面ロクロナデ。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	灰色細粒やや多。透明細粒・黒色粒微。不良。	口縁部 1/8 下層
3 土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部外面糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒少。透明細粒微。良好。	底部 1/4 上層
4 土師器 高台付坏	口 (13.8) 高台 7.6 高 5.3	内外面ロクロナデ。底部高台貼付け、全面ロクロナデ。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 "	白色細粒やや多。透明細粒少。黒色細粒・赤褐色粗粒微。良好。	16cm 口縁部 2/5 体下半～底・高台完存 No.36
5 土師器 高台付坏	口 (14.6) 高台 (7.6) 高 5.4	内面黒色処理・ミガキ。外面口縁部ヨコナデ。体部上半押圧痕、下半手持ちヘラケズリ。底部中央部砂目。高台貼付け、ナデ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色細粒やや多。透明・黒色細粒やや少。赤褐色粗粒少。良好。	12cm 口縁部 1/8 底・高台 1/3 No.30
6 土師器 高台付坏	高台 (9.2)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面回転ヘラケズリ。高台貼付け、ロクロナデ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色細粒やや多。透明・黒色細粒微。良好。	12cm 13cm 体部 1/2 底部・高台 1/4 No.23,26,28,30
7 灰釉陶器 碗か		内外面ロクロナデ。やや薄く内外面に施釉。黒笹 90 号窯式②。	内 5Y5/1 灰 外 "	良好。	6cm 口縁部一部 No.50
8 灰釉陶器 碗か		ロクロナデのち内外面施釉。黒笹 90 号窯式②。	内 5Y8/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 上層
9 灰釉陶器 碗		内外面ロクロナデ、外面体部下回転ヘラケズリ。灰釉内外面に薄く施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	体部一部 上面
10 灰釉陶器 碗		内外面ロクロナデのち、高台貼付け・ロクロナデ。内面体部に灰釉薄く塗る。産地不明。	内 2.5Y7/1 灰白 外 2.5Y6/1 黄灰	黒色細粒少。良好。	底部～高台一部 上層
11 灰釉陶器 碗		内外面ロクロナデのち、灰釉薄くハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	15cm 体部一部 No.44
12 土師器 片口鉢	口 (16.8)	口縁部内外面ヨコナデのち内面横方向ヘラミガキ。体部内面多方向ヘラミガキ。外面上位ナデ、中位右から左方へのヘラケズリ。片口部分内面指押さえ、外側ひねりだし。	内 2.5YR5/8 明赤褐 外 5YR6/6 橙	白色細粒やや多。黒色・赤褐色粒少。良好。	口縁 1/4 体部一部 カマド上面
13 灰釉陶器 壺	高台 (9.6)	高台ロクロナデ。高台内面に釉付着。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y4/3 暗オリーブ 外 7.5Y6/1 灰	白色細粒少。良好。	12cm 高台 1/8 No.25
14 土師器 小型甕	口 9.5 底 6.6 高 10.0	口縁部ヨコナデ。胴部内面粘土接合痕あり、ナデ。胴部外面ケズリ。底部外面ケズリ。胴部外面～口縁部内面スス厚く付く。	内 2.5YR5/8 明赤褐 外 10YR3/1 黒褐	やや粗い。白色・灰色粗粒やや多。透明粒・黒色粒・白色礫少。良好。	12cm 完存 No.13
15 土師器 甕	口 (20.4)	口縁部ヨコナデ。内外面に押圧痕あり。胴部内面ハケ目。外面押圧痕、スス付く。	内 5YR5/6 明赤褐 外 10YR3/2 黒褐	赤褐色粗粒少。黒色・透明細粒微。良好。	口縁～胴部上位 1/8 上層、1層

SI-439

1 須恵器 壺	高台 7.2	内外面ロクロナデ。底部高台貼付け、ロクロナデ。内外面の一部に漆の付着あり。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 7.5Y5/1 灰 漆 5Y2/1 黒	白色粗粒・黒色細粒少。白色粒やや少。良。	床面 体部 4/5 底部完存 No.15,22 1層
2 土師器 坏	口 9.9 底 5.8 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。糸が底部を切ってしまう、内側に粘土貼る。外面に「百」墨書。灯明タール付く。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒やや多。赤褐色粒・透明細粒・黒色細粒微。良好。	- 3cm 口縁部 3/4 体下半～底部完存 No.2
3 土師器 坏	底 (6.2)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	白色・黒色・灰色細粒少。良好。	8cm 底部 1/4 No.9
4 土師器 高台付坏	口 (14.8)	内外面ロクロナデのち内面ミガキ。底部回転糸切りのち高台貼付け(剥離)。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒多。灰色粒やや多。透明・黒色細粒少。白色礫微。良好。	- 2cm 口縁部 1/6 底部 1/4 No.3
5 灰釉陶器 壺	高台 (10.9)	高台貼付け、ロクロナデ。外面に釉あり。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	白色礫少。白色粒やや少。黒色細粒微。良好。	底・高台 1/5 カマド上面
6 灰釉陶器 碗		ロクロナデ。内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式②。	内 5Y7/2 灰白 外 "	黒色微粒微。良好。	床面 口縁部一部 No.23

SI-448

1 土師器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。外面体部下端にはみ出し粘土あり。底部回転糸切り。内外面にタール付着。灯明具。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	黒色・透明細粒少。良好。	底部 1/5 上面
2 土師器 甕		内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ。口縁部下半はまっすぐにのびるか。	内 10YR6/6 明黄褐 外 10R6/8 赤橙	白色・透明細粒少。良好。	口縁部一部 上面
3 灰釉陶器 深碗	高台 (9.0)	ロクロナデのち底部に高台貼付け、ロクロナデ。内面底部・体部、外面体部に灰釉薄くハケ塗り。内面に重ね焼き痕あり。尾北篠岡 4 号窯式前半。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	やや砂質。良好。	体部一部 高台 1/3 上面

第4次調査区

SI-449

1 土師器 坏	底 (5.8)	内面～体部外面ロクロナデのち内面黒色処理。外面体部下端に粘土接合痕あり。底部回転糸切りの焼成前のヘラ記号あり。	内 N1.5/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	底部 1/4 上面
2 土師器 坏	底 (6.2)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面手持ちヘラケズリ。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	灰色細粒多。白色細粒少。良好。	底部 2/5 上面
3 土師器 碗	底 (9.4)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。外面体部下位～底部手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR8/6 浅黄橙	赤褐色粒・赤褐色細粒やや多。白色細粒やや少。赤褐色粗粒微。良好。	体部一部 底部 1/4 上面
4 灰軸陶器 皿	高台 (7.1)	ロクロナデのち底部に高台貼付け。内面見込み以外と体部外面に灰軸厚く施す。重ね焼き痕あり。折戸53号窯式①。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒やや少。良好。	底部 1/5 上面

SI-450

1 土師器 坏	口 (11.8)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデのち体部一部斜方向ナデ。口縁部摩擦し著しく使用頻度高い。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	白色・褐色細粒少。良好。	2cm 口縁～体部 1/5 No.3
2 土師器 坏	底 (7.0)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面摩擦し使用頻度高い。	内 N1.5/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	灰色粒やや少。黒色細粒少。良好。	底部 1/4 上面
3 土師器 坏	底 (6.0)	内面黒色処理・一方向ミガキ。外面底部・体部一方向ケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR5/4 にぶい黄橙	透明細粒やや少。白色細粒少。良好。	9cm 底部 1/4 No.2
4 原始灰軸 壺	高台 (8.8)	底部糸切りのち高台貼付け、ロクロナデ。底部内面に自然釉付着。井ヶ谷78号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	白色細粒少。黒色微粒微。良好。	5cm 底部・高台完存 No.10
5 土師器 碗	口 (15.4) 底 (7.4) 高 6.3	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・体部横方向、底部一方向ミガキ。底部回転糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y8/3 淡黄	灰色細粒やや多。黒色細粒やや少。赤褐色細粒微。良好。	2cm,5cm 口縁 2/5 ～ 底部 1/2 No.5,7,8,12

SI-451

1 須恵器 坏	底 (7.0)	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に3段の粘土接合痕あり。底部回転糸切り。三鑫産か。	内 2.5Y8/2 灰白 外 "	灰色粒多。黒色細粒やや多。不良。	12cm,30cm 体部 下半 1/3 底部 2/5 No.13,18
2 須恵器 高台付坏	高台 (7.2)	内面ロクロナデ。底部高台貼付け、ロクロナデ。高台は断面台形である。岡産産か。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色細粒少。褐色粒・褐色細粒やや少。やや良。	高台 1/5 上面
3 土師器 坏	口 (12.2)	内面ロクロナデのち、黒色処理・ヘラミガキ。外面体部右から左へ横方向手持ちヘラケズリ。底部ナデか。やや丸底気味になっている。	内 N3/0 暗灰 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色細粒多。透明・黒色細粒少。金色雲母少。良好。	口縁部 1/8 体部 1/6 上層
4 土師器 坏	底 (6.6)	内面～体部外面ロクロナデ。体部外面に粘土接合痕2段、焼成前の沈線1条あり。底部回転糸切り。体部外面に黒斑あり。	内 10YR8/4 浅黄橙 外 "	白色・黒色・透明細粒少。良好。	20cm 体部下位 1/4 底部 1/3 No.2,下層
5 土師器 坏	底 7.0	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。	内 10YR4/1 褐灰 外 "	白色細粒やや多。黒色・透明細粒微。良好。	37cm 底部 2/3 No.9
6 土師器 坏	口 (12.0) 底 (8.0)	内面～口縁部外面ロクロナデ。底部・体部外面ケズリ。	内 N3/0 暗褐 外 "	やや粗い。白色細粒やや多。透明・黒色細粒微。良好。	39cm 口縁部 1/6 体部 ・底部 1/4 No.10
7 土師器 坏	口 (11.2) 底 5.8 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒やや多。白色粒少。透明・黒色細粒微。良好。	30cm 口縁 1/3 体下位 ～底部 5/6 No.30
8 灰軸陶器 碗		内外面ロクロナデのち灰軸を薄く施す。黒笹90号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色細粒微。良好。	口縁部一部 中層
9 灰軸陶器 碗か皿		内面灰軸厚く施す。外面高台貼付け、ロクロナデ。黒笹90号窯式②。	内 5Y6/3 オリーブ黄 外 5Y8/1 灰白	黒色細粒・黒色粒少。良好。	16cm 底部一部 No.19
10 灰軸陶器 甕		頸部内外面ロクロナデのち灰軸施す。井ヶ谷78号窯式。	内 7.5Y6/1 灰 外 "	白色細粒・黒色微粒少。良好。	16cm 頸部一部 No.19
11 緑軸陶器 皿		ロクロナデ、内外面やや厚く緑軸施す。尾北篠岡4号窯式後半。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 "	硬質。良好。	口縁部一部 中層
12 緑軸陶器 碗		ロクロナデ、内外面薄く緑軸施す。緑軸は薄く、発色良くない。外面体部下半は回転ヘラケズリか。猿投産。	内 5Y8/2 灰白 外 "	軟質。良好。	19cm 体部一部 No.20
13 土師器 甕	口 (20.8)	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面押圧痕、内面ヘラナデ。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	黒色・白色細粒やや少。良好。	24cm 口縁部 1/4 No.3

第5次調査区

SI-495

1 土師器 甕	口 (32.0)	口縁部内外面ロクロナデ、押圧痕あり。内面胴部上端横方向ハケ目、その下は縦方向ナデ。外面胴部ナデのち縦方向、横方向ヘラケズリ。外面全面にスス付着。金色雲母を含むことから茨城産か。	内 5YR5/8 明赤褐 外 5YR2/1 黒褐	白色細粒・金色雲母やや多。透明細粒やや少。褐色粒少。良好。	2cm 口縁部 1/8 胴上 半 1/5 No.3
2 土師器 甕	底 (13.6)	内面ロクロナデ。胴部外面ヘラケズリ。底部外面無調整、一部ナデ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 2.5Y2/1 黒	白色細粒やや多。透明細粒・黒色細粒・金色雲母微。良。	2cm,6cm 胴部下位 3/4 底部 1/2 No.2,3,4,6

SI-496

1 土師器 坏	底 (6.2)	内面ロクロナデのち黒色処理・ミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 10YR6/6 明黄褐	褐色粒少。白色細粒微。良好。	4cm,6cm 底部 1/4 No.15,16
2 須恵器 坏	底 (7.0)	内面ロクロナデ。底部回転糸切り。三鑫産か。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	透明・白色細粒少。やや不良。	- 5cm 底部 1/6 No.17
3 須恵器 蓋	口 (16.8)	口縁部、天井部内面ロクロナデ。外面2回転ヘラケズリ。つまみ貼付け、ロクロナデ(剥離)。蓋子産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒やや多。白色粗粒少。良好。	3cm 口縁部 1/4 天井 部 1/3 No.6
4 製塩土器か		内面ナデ。外面遺存する部分で2方向へのナデ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒少。赤褐色粒・白色針状物微。やや良。	3cm 底部一部 No.9

第4章 発見された遺物

第5次調査区

SI-500

1 土師器 坏	底 6.2	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内 2.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒・褐色粒やや多。白色粒少。良好。	カマド上面 体部下位2/3 底部ほぼ完存 No.1
------------	-------	--	-----------------------------	----------------------	---------------------------

第6次調査区

SI-524

1 土師器 坏	底 (6.0)	内面ヘラミガキ。体部外面ナデか。底部回転糸切り。器厚が厚く粗製。	内 7.5YR5/6 明褐 外 10YR7/3 にぶい黄橙	赤褐色粒多。白色細粒少。やや良。	底部 1/6 上面
2 土師器 坏	底 (7.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 N3/0 暗灰 外 2.5Y7/2 灰黄	白色細粒少。黒色細粒微。良好。	体部一部 底部 2/5 上面
3 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。高台は長く外開きにのび、内面に沈線がある。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	灰色細粒・黒色微粒少。良好。	高台一部 上面
4 須恵器 甕		内面無文当て具痕。外面遺存する部分で上位平行叩き、下位左上から右下へ斜方向ヘラケズリ。三和窯産。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	白色粒・白色細粒多。赤褐色粒少。やや良。	胴部一部 上面

SI-530

1 土師器 坏	口 (14.2)	内面ナデ。外面ヘラケズリ。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	赤褐色・黒色・透明細粒微。良好。	口縁部 1/6 上面
------------	----------	---------------	---------------------	------------------	------------

SI-539

1 須恵器 坏	口 (11.8)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒やや多。良好。	口縁部 1/8 フクト中
2 土師器 坏	底 (7.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面に黒色付着物あり。タールか。	内 5Y2/1 黒 外 10YR5/2 灰黄褐	白色・灰色微粒微。良好。	4cm 底部 1/4 No.5
3 土師器 甕	底 7.4	内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。底部無調整。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	黒色・白色・透明細粒微。良好。	5cm 底部 4/5 No.4

第7次調査区

SI-560

1 須恵器 高台付坏		内面ロクロナデ。外面底部ヘラ切りのち高台貼付け(剥離)、ロクロナデ。益子産。	内 5PB5/1 青灰 外 "	白色細粒・白色粒やや多。白色粒少。良好。	17cm 底部 1/2 No.18
2 須恵器 高台付坏	高台 8.6	内面ロクロナデ。外面底部全面回転ヘラケズリのち高台貼付け、ロクロナデ。新治産。	内 N5/0 灰 外 "	白色細粒・白色粒・白色粒・銀色雲母粒やや多。良好。	底部完存 上面
3 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデのち灰軸ハケ塗り。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y7/2 灰白 外 "	砂質。黒色細粒少。良好。	床面 体部一部 No.21
4 製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕。	内 7.5YR5/6 明褐 外 "	白色微粒・白色針状物少。赤褐色細粒少。良好。	体部一部 埋土中
5 製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。外面にスス付着。	内 5YR5/6 明赤褐 外 5YR5/8 明赤褐	白色細粒・白色針状物多。透明細粒少。良好。	体部一部 埋土中
6 土師器 甕		内外面ヨコナデ。武蔵型甕のコの字状口縁。	内 5YR4/8 赤褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色粒・白色細粒微。良好。	口縁部一部 埋土中

SI-566

1 白磁 椀	口 (15.0)	内面ロクロナデのち厚く施軸。玉縁口縁。	内 2.5Y8/1 灰白 外 2.5Y8/3 灰黄	硬質。良好。	口縁部 1/8 埋土中
2 土師器 坏	底 6.0	内面ロクロナデ。外面底部ヘラ切り。	内 2.5Y4/2 暗灰黄 外 "	白色細粒少。透明・黒色細粒微。良好。	底部 1/2 上面
3 土師器 坏	底 (5.6)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 2.5YR6/8 橙	白色細粒・赤褐色粒少。良好。	8cm 底部 2/5 No.7
4 土師器 高台付坏		内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部ヘラ切りのち高台貼付け(剥離)。内面摩耗し使用頻度高い。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	金色雲母多。白色細粒少。良好。	4cm 底部完存 No.6

SI-588

1 須恵器 甕		内面無文当て具痕。外面平行叩き。内面に平滑な部分があり、転用硯とみられる。益子産か。	内 5PB6/1 青灰 外 7.5YR6/1 褐灰	白色・灰色細粒やや少。黒色細粒少。良好。	2cm 胴部一部 No.3
2 土師器 坏	口 (13.2) 底 (7.8) 高 4.2	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 N3/0 暗灰 外 7.5YR6/6 橙	灰色微粒やや多。透明・赤褐色・黒色細粒微。良好。	6cm 口縁～体部 1/4 底部一部 No.1
3 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデのち灰軸ハケ塗り。黒徑 90 号窯式②。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 埋土中
4 土師器 坏	底 (6.6)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面摩耗し、著しく使用頻度高い。	内 10YR2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒やや多。白色細粒やや少。赤褐色細粒少。良好。	体部一部 底部 1/2 床面直上一括

第10次調査区

SI-674

1 土師器 坏	口 (14.6)	内外面ロクロナデ。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 カマド内
2 土師器 坏	底 (6.5)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/6 橙 外 5YR7/6 橙	白色細粒・赤褐色粒やや多。透明・黒色細粒微。良好。	体部一部 底部 1/2 2層
3 土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N1.5/0 黒 外 5YR6/6 橙	白色細粒少。赤褐色・黒色細粒微。良好。	底部 1/4 2層
4 須恵器 高坏	脚 (12.3)	内外面ロクロナデ。外面に自然釉付く。	内 7.5Y4/1 灰 外 2.5Y5/1 黄灰	砂質。白色細粒少。良好。	脚部 1/6 2層

土器・陶器等観察表  
(竪穴住居跡)

第10次調査区

SI-674

5 土師器 甕	口 (22.6)	口縁部ヨコナデ、外面に一部押圧痕あり。胴部内面横方向ナデ、粘土接合痕あり。外面押圧痕、縦方向ナデ、一部ケズリ。口唇部平坦。外面にスス付着。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	白色細粒やや多。透明・黒色細粒微。良好。	口縁～胴上半1/2 カマド周辺
6 土師器 甕	底 (9.8)	内面ナデ。胴部外面ケズリ、スス付着。底部外面無調整。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒・白色粒多。透明・黒色細粒微。良好。	胴下位一部 底部1/8 2層

第11次調査区

SI-680

1 土師器 坏	口 (11.2) 底 6.3 高 4.5	内面～体部外面ロクロナデ。内面黒色処理のち体部横方向、底部一方ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色・黒色・灰色細粒少。白色粗粒微。良好。	9cm 口縁～体部1/4 底部完存 No.4, 上層
2 土師器 坏	口 (13.0)	ロクロナデのち内面ミガキ。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 "	灰色細粒少。透明細粒微。良好。	5cm 口縁部1/8 No.20
3 土師器 坏	口 (11.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色・黒色細粒少。良好。	19cm, 20cm 口縁部 1/5 体部1/4 No.9, 10, 上層
4 土師器 坏	底 (6.0)	内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転糸切り。底部外面と破面に黒色付着物(漆かタール)あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR7/6 橙	白色・灰色・透明細粒少。良好。	底部2/3 上層
5 土師器 坏	底 (5.8)	内面ロクロナデ。底部・体部下端外面手持ちヘラケズリ。	内 10YR8/3 浅黄橙 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒・赤褐色粒微。良好。	底部1/3 上層
6 土師器 坏	底 (5.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 5Y4/1 灰 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色・透明細粒少。良好。	底部1/4 上層
7 土師器 坏	底 (7.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色・透明・黒色細粒少。良好。	底部1/3 埋土中
8 土師器 坏	底 (7.4)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒多。透明・黒色細粒微。良好。	体部下位～底部1/4 上層
9 須恵器 短頸壺	底 (7.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。益子産。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 "	白色細粒少。良好。	底部1/4 上層
10 須恵器 短頸壺		内外面ロクロナデ。	内 5Y6/1 灰 外 5PB6/1 青灰	白色細粒やや少。黒色細粒・白色粒少。良好。	頸部～肩部一部 上層
11 土師器 鉢	口 (21.8)	口縁部～内面ヨコナデ。内面黒色処理・ミガキ。外面ミガキ。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y7/2 灰黄	白色細粒少。透明・黒色細粒微。良好。	口縁部1/8 埋土中, 上層
12 灰釉陶器 椀		ロクロナデ。外面体部下端回転ヘラケズリ。内面厚く灰釉施す。黒笹14号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	黒色細粒微。良好。	7cm 口縁部1/12 No.12
13 灰釉陶器 椀		ロクロナデ。外面体部下端回転ヘラケズリ。高台貼付け。内面口縁部に薄く灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁部1/8 埋土中, 底面一括
14 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち外面体部下端回転ヘラケズリ。静岡産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 上層
15 灰釉陶器 椀		ロクロナデ。内面灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁部一部 埋土中
16 灰釉陶器 段皿		ロクロナデ。内面灰釉施す。内面に段がある。黒笹90号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	白色・黒色粒少。良好。	口縁部一部 上層
17 灰釉陶器 段皿	口 (18.6)	ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。内面灰釉施す。外面に墨書あり。黒笹90号窯式。	内 5Y6/1 灰 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部1/10 上層
18 灰釉陶器 椀	高台 (5.8)	ロクロナデのち高台貼付け・ロクロナデ。高台貼付け、ロクロナデ。内面灰釉を厚く施す。黒笹90号窯式。	内 5Y6/3 オリーブ黄 外 2.5Y8/1 灰白	黒色細粒少。良好。	底部1/2 埋土中
19 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	ロクロナデのち高台貼付け・ロクロナデ。内面底部外周に灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色細粒少。黒色細粒微。良好。	底部・高台1/4 上層
20 灰釉陶器 椀	高台 (7.3)	ロクロナデのち高台貼付け・ロクロナデ。外面に灰釉が薄く施される。黒笹90号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒微。良好。	16cm 底部1/6 No.28
21 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	ロクロナデのち高台貼付け・ロクロナデ。内面底部灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	高台1/4 埋土中
22 灰釉陶器 壺	口 (7.4)	ロクロナデのち内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部1/4 上層
23 灰釉陶器 壺		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。自然釉一部付着。黒笹90号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	頸部下半1/5 上層
24 製塩土器		内面ナデ、外面押圧痕。外面にスス付着。内面に乳灰色物付着。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 7.5YR4/2 灰褐	白色細粒少。白色斜状物微。やや不良。	体部一部 埋土中
25 土師器 甕	口 (21.8)	口縁部ヨコナデ。内面に粘土シワあり。胴部外面ケズリ、内面ナデ。外面にスス付着。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	白色細粒多。透明・黒色細粒微。良好。	7cm 口縁部1/3 No.21, 22, 23
26 土師器 甕	底 8.0	胴部外面は遺存する上端縦方向ケズリ。胴下位横方向ケズリ。内面ナデ。底部外面無調整。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 10YR8/4 浅黄橙	白色・灰色細粒多。透明細粒・黒色粒微。良好。	床面, 4cm 胴下半1/6 底部1/2 No.14, 16

SI-686

1 土師器 坏	口 (11.6)	内外面ロクロナデ。体部外面に則天文字銜(正)あり。	内 10Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色細粒やや少。赤褐色粒・透明細粒・白色細粒微。良好。	11cm 口縁部1/6 No.6
2 土師器 高台付坏	口 (15.2)	ロクロナデのち底部全面回転ヘラケズリ。高台貼付け、ロクロナデ(剥離)。内面黒色処理・ミガキ。体部外面墨書あり、判読不明。	内 5Y2/2 オリーブ黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色・透明・赤褐色・黒色細粒微。良好。	口縁1/2 体部2/3 底部完存 埋土中
3 土師器 坏	口 11.8 底 6.7 高 3.7	内面～口縁部外面ヨコナデ。内面底部ヘラナデ。外面口縁部下押圧痕。体部中・下位と底部ケズリ。底部中央に砂目。	内 10YR4/2 灰黄褐 外 5YR5/4 にぶい赤褐	白色細粒多。透明細粒・赤褐色粒少。赤褐色粗粒微。良好。	床面 ほぼ完存 No.3

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SI-686

4 土師器 坏	底 (6.5)	内面ロクロナデ、黒色処理・ミガキ。底部外面回転糸切り。	内 N3/0 暗灰 外 2.5Y8/3 淡黄	白色・灰色細粒少。良好。	11cm 底部 1/4 No.8
5 土師器 甗	底 (17.3)	胴部内面ナデ、粘土接合痕。胴部外面～底部ヘラケズリ。底部穿孔。	内 10YR8/3 浅黄橙 外 "	黒色細粒多。透明細粒やや多。褐色粒少。良好。	貯蔵穴内 胴部下端 1/8 底部一部 No.16
6 土師器 甗	口 (13.6)	口縁部コクロナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ・ヘラナデ。	内 7.5YR5/3 にぶい褐 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色細粒やや多。透明細粒・赤褐色粒微。良好。	貯蔵穴内 口縁部～胴 上半 1/2 No.14

SI-690

1 土師器 坏	口 (13.6) 底 (8.4) 高 3.4	ロクロナデのち底部ヘラ切り、一方向ナデ。内面ミガキ。	内 10YR5/4 にぶい黄褐 外 "	灰色細粒多。黒色・透明細粒少。白色細粒微。良好。	15cm 口縁部 1/6 底部 1/4 No.3
2 土師器 坏	口 (12.4) 底 5.8 高 4.1	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	灰色・黒色細粒やや少。橙色粗粒少。良好。	10cm, 15cm 口縁～体 部 1/8 底部完存 No.5 7, 8, 38, 上層, 下層
3 土師器 坏	口 12.7 底 6.0 高 4.2	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	赤褐色粒・細粒多。黒色細粒少。良好。	床面正位 完存 No.59
4 土師器 坏	口 (14.6) 底 (8.2) 高 5.1	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り、黒斑あり。	内 N1.5/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色・黒色・透明細粒・黒色粒少。良好。	13cm 口縁～体部 1/3 底部 1/2 No.6
5 土師器 坏	口 11.7 底 5.6 高 4.2	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。底部～体部下外面に黒色付着物あり。灯明具か。	内 N2/0 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	黒色細粒やや多。透明粒少。黒色微。良好。	6cm ほぼ完存 口縁 一部欠 No.60
6 土師器 坏	口 (13.0) 底 (7.0) 高 4.1	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 5YR6/6 橙	赤褐色細粒・白色細粒・黒色微粒少。良好。	20cm, 22cm 口縁部一 部 体部 1/3 底部 1/2 No.40, 41, 上層
7 土師器 坏	口 (13.8) 底 (7.0) 高 4.2	ロクロナデのち内面ミガキ。体部下外面手持ちヘラケズリ。底部糸切り。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 10YR5/3 浅黄橙	黒色粒・黒色細粒やや多。白色粒透明粒・赤褐色粒少。良好。	13cm 口縁～底部 1/6 No.11, 上層
8 土師器 坏	口 (13.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 N2/0 黒 外 N3/0 暗灰	白色・黒色・透明細粒微。良好。	13cm 口縁部 1/8 No.2
9 土師器 坏	口 (12.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR5/3 にぶい黄褐	灰色細粒少。白色・黒色・透明細粒微。良好。	口縁部 1/4 上層
10 土師器 坏	口 (12.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 N1.5/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	褐色細粒少。透明・黒色細粒微。良好。	8cm 口縁～体部 1/4 No.9
11 土師器 坏	底 (6.3)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・黒色細粒少。良好。	6cm 体部下位 1/4 底 部 1/3 No.26
12 土師器 坏	底 (6.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N3/0 暗灰 外 10YR8/4 浅黄橙	黒色細粒少。白色・透明細粒微。良好。	体部下位～底部 1/4 上層
13 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転糸切り、火傷痕あり。	内 N3/0 暗灰 外 10YR7/4 にぶい黄橙	透明・赤褐色・黒色細粒微。良好。	20cm 底部 1/6 No.24
14 土師器 坏	底 6.0	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり。内面にタール付着。灯明具。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色・白色細粒少。白色微。良好。	体部下位一部 底部完 存 下層
15 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面回転糸切り。	内 5Y2/1 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	灰色細粒少。赤褐色・灰色粒微。良好。	10cm 体部下位～底部 1/4 No.50
16 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5Y3/1 オリーブ黒 外 2.5Y7/2 灰黄	黒色細粒少。透明細粒・黒色微。良好。	体部下位 1/6 底部 1/5 1層
17 土師器 坏	底 (7.2)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 2.5Y8/2 灰白	黒色微粒・黒色細粒・白色微粒少。褐色細粒微。良好。	12cm 体部下位～底部 1/6 No.58
18 土師器 坏	底 6.5	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色細粒やや多。白色細粒微。良好。	10cm 体部下位 1/3 底部完存 No.25
19 土師器 坏		ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	白色細粒少。黒色・褐色細粒微。良好。	体部一部 下層
20 土師器 坏か		内面黒色処理。体部外面右から左方、斜方向のケズリ。遺存する上端はナデか。胎土に銀色雲母を含んでいることから茨城産と考えられる。	内 7.5YR8/6 浅黄橙 外 2.5Y2/1 黒	白色粒・銀色雲母やや多。透明細粒少。やや不良。	体部下端～底部 1/8 上層
21 土師器 鉄鉢形か	口 16.6 底 7.0 高 6.8	ロクロナデのち内面黒色処理。口縁部・体部上位以外ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	灰色粒やや多。白色・黒色粒少。赤褐色粒微。良好。	2cm 口縁部 3/4 体下 半～底部完存 No.34
22 須恵器 坏	口 (11.8) 底 (5.0) 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部切り離し方技法不明。三畳産。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	黒色・褐色細粒やや多。赤褐色・白色細粒微。やや不良。	2cm, 15cm 口縁部 1/6 体部 1/3 No.4, 39, 下層
23 須恵器 坏	底 6.7	内外面ロクロナデ。底部～体部下端外面全面回転ヘラケズリ。三畳産。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 5YR6/4 にぶい橙	白色・黒色微粒多。赤褐色粒・透明細粒・黒色細粒微。良好。	3cm 体部下位 1/4 底 部完存 No.57
24 須恵器 坏	底 (6.2)	内面ロクロナデ。底部回転糸切り。三畳産。	内 7.5YR5/6 明褐 外 7.5YR4/4 褐	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	16cm 底部 1/2 No.29
25 須恵器か 坏		内外面ロクロナデ。口縁部が大きく外反。灰釉陶器の可能性もある。	内 5Y7/1 灰白 外 "	白色微粒微。良。	口縁部一部 上層
26 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y6/2 灰オリーブ	良好。	5cm 口縁部一部 No.49
27 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。内面に沈線あり。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	良好。	口縁部一部 下層
28 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色細粒微。良好。	16cm 口縁部一部 No.43
29 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。白色微粒微。良好。	8cm 口縁部一部 No.52
30 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉施す。灰釉の発色はあまり良くない。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 "	黒色細粒少。やや良。	口縁部一部 上層, 下層

第 11 次調査区

SI -690

31 灰軸陶器 椀	高台 (7.2)	ロクロナデのち高台貼付け。体部内外面に灰軸ハケ塗りか。黒笹 90 号窯式。	内外 2.5Y6/1 黄灰 釉 10Y6/2 オリーブ灰	白色・黒色細粒少。良好。	12cm 底部 1/6 No.30
32 灰軸陶器 椀	高台 (6.3)	ロクロナデのち底部外面全面回転ヘラケズリ。高台貼付け。内面底部中央と体部灰軸ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内外 2.5Y7/2 灰黄 釉 10Y6/2 オリーブ灰	白色・黒色細粒少。良好。	12cm 底部 1/4 No.36
33 須恵器 甕		口縁へ頸部ロクロナデ。三産産。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 "	白色細粒やや多。良好。	19cm 口縁部 1/8 No.27
34 土師器 甕	口 (12.8)	口縁部ココナデ。胴部外面上から下方ヘラケズリ。内面ナデ。外面にスス付着。	内 10YR3/2 黒褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色・黒色・透明細粒微。良好。	7cm,13cm 口縁部 1/3 胴部一部 No.14,15, 上層

SI -691

1 土師器 坏	口 12.3 底 5.4 高 4.1	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 5Y3/1 オリーブ黒 外 2.5Y8/3 淡黄	白色細粒・黒色微粒少。赤褐色粒微。良好。	26cm ほぼ完形 No.30
2 土師器 坏	口 (13.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 5YR6/8 橙 外 "	白色微粒多。黒色細粒やや多。透明粒少。良好。	5cm 口縁部 1/4 No.36, 下層
3 土師器 坏	口 (12.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色微粒やや多。白色細粒多。白色微粒少。良好。	口縁部 1/8 上層
4 土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR7/6 明黄褐	赤褐色細粒やや多。白色微粒少。黒色細粒微。やや不良。	底部 1/4 上層
5 土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。火燻痕あり。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色微粒やや多。白色微粒・赤褐色細粒少。良好。	23cm 底部 2/5 No.6
6 土師器 皿か	底 5.5	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色微粒少。赤褐色細粒微。良好。	底部 3/4 下層
7 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色細粒多。白色細粒少。赤褐色細粒微。良好。	16cm 底部 1/6 No.34
8 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR8/4 浅黄橙	灰色微粒やや多。赤褐色細粒少。白色細粒・褐色微。良好。	6cm 底部 1/4 No.16
9 須恵器 坏	底 (6.4)	ロクロナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 5Y6/2 灰オリーブ	白色細粒微。良好。	16cm 底部 1/4 No.5
10 須恵器 坏	底 (6.6)	ロクロナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒やや多。黒色細粒微。良好。	16cm 底部 1/6 No.4
11 須恵器 坏	底 (6.4)	ロクロナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 10YR5/3 にぶい黄褐 外 2.5Y5/2 暗灰黄	白色微粒・黒色細粒多。赤褐色粒少。灰色微。良好。	18cm 底部 1/4 No.32
12 須恵器 蓋		ロクロナデ。天井外面2回転ヘラケズリか。つまみ貼付け。ロクロナデ。新治産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 2.5Y7/1 灰白	銀色雲母・灰色細粒多。白色粒少。良好。	床面 天井 1/3 No.7
13 灰軸陶器 椀		ロクロナデ。無釉。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	15cm 口縁部一部 No.1
14 灰軸陶器 皿か		ロクロナデ。内外面に灰軸施す。ハケ塗りか。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部一部 中層
15 灰軸陶器 瓶		ロクロナデ。内外面に灰軸やや厚く施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	11cm 口縁部一部 No.22
16 灰軸陶器 椀か		ロクロナデ。内面に厚く、外面に薄く灰軸塗す。口縁部の湾曲が少なく、大型の椀などであろうか。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	白色粒少。黒色細粒やや少。良好。	口縁部一部 上層
17 灰軸陶器 椀か		ロクロナデ。高台貼付け。底部内面に厚く灰軸施す。光ヶ丘 1 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y7/1 灰白	白色微粒少。黒色微粒微。良好。	床面 底部・高台一部 No.10
18 土師器 甕	口 (19.6)	口縁部ココナデ。外面に押圧痕あり。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ケズリ。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色微粒多。黒色細粒少。良好。	22cm 口縁部 1/4 胴部一部 No.37, 中層
19 土師器 甕	口 (18.0)	口縁部ココナデ。外面に押圧痕あり。胴部内面ナデ。ヘラナデ。胴部外面下方・右方からケズリ。	内 5YR6/8 橙 外 5YR6/6 橙	白色微粒多。黒色細粒少。良好。	13cm 口縁部 1/2 胴部 1/3 No.38, 中層
20 土師器 甕		口縁部ココナデ。外面に粘土接合痕・押圧痕あり。胴部上端ケズリ。	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR6/8 橙	赤褐色粒多。白色微粒少。良好。	26cm 口縁部 1/8 No.24
21 土師器 三足鍋		内面ナデ。黒色処理。外面体部下端右から左方への横方向ヘラケズリ。足貼付け。足の一部が残り、三足鍋と考えられる。	内 7.5Y2/1 黒 外 5YR6/8 橙	白色細粒やや多。赤褐色細粒・黒色細粒・白色粒少。やや不良。	床面 底部・体部境一部 No.2

SI -696

1 土師器 坏	底 5.4	内面ココナデ。外面体部・底部ケズリ。底部・体部境に粘土接合痕あり。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 10YR6/3 にぶい黄橙	黒色細粒・白色微粒多。良好。	5cm 体部下位 1/8 底部完存 No.18
2 土師器 高台付皿	高台 (8.0)	ロクロナデのち内面黒色処理。底部回転ヘラケズリ。高台貼付け。ロクロナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 5YR 7/8 橙	白色細粒多。金色雲母やや多。赤褐色粒やや少。良。	- 2cm 底部 1/2 No.20
3 須恵器 坏	底 (5.6)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 5Y8/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒やや多。やや良好。	9cm 底部 1/2 No.12
4 土師器 椀	口 (16.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に沈線 1 条あり。金属器模倣か。	内 10YR5/3 にぶい黄褐 外 7.5YR6/3 にぶい褐	金色雲母多。赤褐色粒少。良好。	5cm,8cm 口縁へ体部 1/4 No.10,17
5 須恵器 壺		内外面ロクロナデ。外面自然釉付着。三産産か。	内 5PB5/1 青灰 外 5PB6/1 青灰 釉 2.5Y7/2 灰黄	粗い。黒色細粒少。白色細粒・白色粒やや少。良好。	7cm 体上半部 1/6 No.24
6 製塩土器		口縁部内面ナデ。外面粘土接合痕・押圧痕あり。平鉢形の製塩土器か。口縁部面取り状になっている。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 7.5YR8/4 浅黄橙	白色粗粒・赤褐色細粒・白色針状物やや少。不良。	口縁部一部 埋土中

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SI-698

1	土師器 坏	口 14.0 底 8.2 高 5.3	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切りのち外周手持ちヘラケズリ。体部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	黒色細粒多。赤褐色・白色微粒少。良好。	6cm 口縁～体部上半1/2 体部下半～底部完存 No.23,24
2	土師器 坏	口 12.0 底 6.0 高 4.6	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面に「古」墨書あり。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR5/6 明赤褐	白色微粒多。黒色微粒やや多。赤褐色粒少。良好。	床面 口縁部 4/5 体～底部完存 No.12, 下層
3	土師器 坏	口 (12.4) 底 6.2 高 4.0	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり「万」か。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色微粒多。黒色細粒少。良好。	周溝内 口縁一部 体部 1/3 底部 1/2 No.25, 下層
4	土師器 坏	口 14.6 底 6.2 高 4.5	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に粘土接合痕あり。底部回転糸切り。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 2.5Y7/3 浅黄	白色・灰色細粒多。透明細粒少。良好。	- 3cm, - 5cm 口縁～底部 1/2 No.76,86
5	土師器 坏	口 12.2 底 6.4 高 3.3	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y6/3 にぶい黄	白色微粒多。透明細粒やや多。良好。	- 3cm 口縁～体部 1/2 底部 1/4 No.47
6	土師器 坏	口 (15.4) 底 7.0 高 5.7	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 5Y2/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	灰色・黒色微粒少。良好。	11cm 口縁～体部一部 底部 1/2 No.28, 上層
7	土師器 坏	口 (11.8) 底 6.0 高 4.6	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR6/8 橙	赤褐色・黒色細粒少。良好。	床面, 6cm, 17cm 口縁部 3/5 体部 1/3 底部 4/5 No.5,12,14,72, 下層
8	土師器 坏	口 (11.6) 底 (6.0) 高 4.0	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色細粒多。白色細粒・赤褐色粒微。良好。	18cm 口縁一部 体下半～底部 1/4 No.4
9	土師器 坏	口 (13.2)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に「法花寺」の可能性ある墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR5/2 灰黄褐	白色微粒多。白色細粒少。良好。	19cm 口～体部 1/3 No.11, 上層, 下層
10	土師器 坏	口 (12.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に「国」の墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR4/2 灰黄褐	白色微粒・赤褐色粒少。良好。	床面 口縁一部 体部 1/8 No.66, 下層
11	土師器 坏	口 (12.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色・黒色微粒少。良好。	周溝内 口縁部 1/4 No.25
12	土師器 坏	口 (15.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色微粒多。黒色細粒微。良好。	18cm 口縁～体部 1/8 No.4
13	土師器 坏	口 (12.4)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色微粒・白色細粒少。赤褐色粒微。良好。	床面 口縁～体部 2/3 No.55, 上層, 中層
14	土師器 坏	口 (12.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR5/6 明赤褐	赤褐色粒多。白色・黒色細粒少。良好。	口縁～体部 1/5 下層
15	土師器 塊	底 (9.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部下端～底部外面手持ちヘラケズリ。底部外面に平行沈線5条あり。	内 10YR2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒・白色微粒少。良好。	15cm 底部 1/6 No.54
16	土師器 坏	底 5.8	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。焼成前線刻あり。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	黒色微粒多。赤褐色粒・白色微粒少。良好。	6cm 底部完存 No.14, 下層
17	土師器 坏	底 8.0	ロクロナデ。内面ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/6 橙 外 2.5Y8/4 淡黄	黒色・白色細粒多。赤褐色粒微。良好。	17cm 体部下半 2/3 底部 1/2 No.10, 下層
18	土師器 坏	底 6.8	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	黒色細粒多。白色微粒やや多。赤褐色粒少。良好。	2cm, 3cm 体部一部 底部完存 No.64,65
19	土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR1.7/1 黒 外 7.5YR7/4 にぶい黄橙	黒色細粒・白色細粒・白色微粒少。橙褐色粒微。不良。	3cm 体部一部 底部 1/2 No.21
20	土師器 坏	底 (6.2)	ロクロナデ。内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR3/3 暗褐 外 10YR5/3 にぶい黄褐	黒色細粒やや多。白色細粒・赤褐色粒少。やや良好。	底部 1/2 下層
21	土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	黒色・白色細粒少。良好。	9cm 体部下位～底部 1/4 No.19
22	土師器 坏	底 (6.4)	ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR1.7/1 黒 外 7.5YR5/6 明赤褐	白色微粒多。黒色細粒やや多。赤褐色細粒微。良好。	6cm 体部下半～底部 1/3 No.20
23	土師器 坏	底 (8.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR1.7/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色微粒・赤褐色粒少。黒色細粒微。良好。	体部下位～底部 1/6 上層
24	土師器 坏	底 (6.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	黒色・白色・赤褐色細粒微。良好。	14cm 体部下位～底部 1/6 No.80
25	土師器 坏	底 (5.8)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色微粒少。白色・赤褐色細粒微。良好。	2cm 底部 1/2 No.42
26	土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸切り。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR7/8 黄橙	灰色・赤褐色細粒少。不良。	底部 1/3 上層
27	須恵器 坏	口 12.8 底 6.6 高 3.6	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 "	灰色・黒色細粒多。褐色粒やや少。白色礫微。やや不良。	5cm, 7cm, 19cm 口縁部～底部 2/3 No.14,15,67,68
28	須恵器 坏	口 (12.0) 底 (6.0) 高 3.4	ロクロナデ。底部糸切り。三稜産。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	2cm 口縁～体部 2/5 底部 1/4 No.71
29	須恵器 坏	口 (12.8) 底 (6.4) 高 3.6	ロクロナデ。底部ヘラ切り。一方向ナデ。体部外面に焼成前のヘラ記号あり。益子産。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色粗粒やや多。黒色細粒少。良好。	17cm 口縁～体部 1/6 底部 1/3 No.62
30	須恵器 坏	底 (6.0)	ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	白色微粒多。黒色細粒少。良。	2cm 底部 1/4 No.34
31	須恵器 高台付坏		内面ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付け(剥離)。三稜産。	内 N5/0 灰 外 "	白色・灰色細粒多。良好。	16cm 底部完存 No.26
32	土師器 塊	口 (20.0) 底 10.4 高 7.8	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部下端～底部外面手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR5/6 明褐	赤褐色粒・白色細粒少。良好。	- 5cm, 6cm, 13cm 口縁～体部一部 底部完存 No.3,14,18,75, 下層

第 11 次調査区

SI-698

33	灰軸陶器 椀		ロクロナデのち内面のみ灰軸厚く施す。黒笹 14 号窯式。	内 7.5Y5/3 灰オリーブ 外 5Y8/1 灰白	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	口縁へ体部一部 上層
34	灰軸陶器 椀		内面ロクロナデのち底部付近除き灰軸薄くハケ塗り。 外面ロクロナデ。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。白色細粒微。良。	8cm 体部一部 No.40
35	須恵器 甕		内面無文当て具痕。外面平行叩き。新治産。	内 N5/0 灰 外 2.5Y6/1 黄灰	銀色雲母多。白色細粒やや多。 白色粒・黒色細粒少。良好。	7cm 肩部付近一部 No.56
36	土師器 甕	口 (19.0)	口縁部ヨコナデ。口縁部外面押圧痕・ヘラケズリ、 内面ヘラナデ。胴部上端外面ヘラケズリ、内面ナデ。	内 5YR5/4 にぶい赤褐 外 5YR5/6 明赤褐	黒色細粒多。白色微粒やや多。 赤褐色細粒少。良好。	26cm 口縁部 1/6 No.1
37	土師器 甕	口 (12.4)	口縁部ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。	内 7.5YR3/1 黒褐 外 "	白色微粒少。良好。	7cm 口縁部 1/6 No.81
38	土師器 台付甕		甕の部分内面ナデ。台部内外面ヨコナデ。内面ナデ 上げあり。	内 5YR4/8 赤褐 外 5YR5/3 にぶい赤褐	白色微粒やや多。白色細粒微。 良好。	床面 台部ほぼ完存 No.13
39	土師器 台付甕		甕底部内面粘土ナデ痕、外面ケズリ。台部ヨコナデ、 外面に接合粘土あり。	甕 2.5Y5/2 暗灰黄 台 5YR5/6 明赤褐	黒色細粒多。白色微粒やや多。 赤褐色細粒少。良好。	35cm 底へ台部上位ほ ぼ完存 No.22
40	土師器 台付甕	台 10.0	台部内外面ヨコナデ。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 "	白色微粒・赤褐色粒少。良好。	床面 台裾 3/4 No.9
41	製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕、粘土縦ジワあり。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色細粒・黒色微粒やや少。白 色粒・透明粒・白色針状物少。 良好。	体部一部 上層
42	製塩土器		内面ナデ。外面粘土接合痕、押圧痕あり。外面にス スが附着している。	内 7.5YR8/4 浅黄橙 外 10YR6/2 灰黄褐	白色粒・黒色細粒・赤褐色粒・ 白色針状物・透明粒少。良好。	床面 体部一部 No.12
43	製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕あり。	内 7.5YR6/6 橙 外 7.5YR6/8 橙	白色細粒・赤褐色粒・白色針状 物少。やや不良。	体部一部 上層

SI-714

1	土師器 甕	口 (21.8) 底 8.4 高 32.0	口縁部ヨコナデ。胴部外面ナデか、一部押圧痕あり。 中・下位は器壁剥離。内面ナデ、ヘラナデ、押圧痕 あり。底部技法不明。外面にススが厚く付く。	内 7.5YR4/4 褐 外 10YR3/1 黒褐	白色粒・透明粒・銀色雲母多。 良好。	2cm, 床面 口縁 1/3 胴 1/2 底部 完存 No.2, 上層, 下層, 床直
2	土師器 坏	口 (13.4) 底 7.0 高 3.2	内面へ体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部 内面に沈線3条あり。	内 2.5Y2/1 黒 外 10YR1.7/1 黒	白色細粒多。赤褐色粒少。やや 不良。	床直 口縁一部 体部 1/3 底部完存 下層, 床直
3	土師器 坏	底 (6.6)	内面ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部一方 手持ちヘラケズリ。	内 7.5YR5/8 明褐 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色・赤褐色細粒少。良好。	8cm 体部一部 底部 1/4 No.3
4	須恵器 坏	底 (6.6)	内面ロクロナデ。底部回転糸切り。三鑫産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒やや少。白色礫微。良 好。	底部 1/4 下層
5	須恵器 高台付坏	高台 (10.0)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのち高台 貼付け・ロクロナデ。三鑫産か。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色・黒色細粒微。良好。	2cm 体部下位へ底部 1/3 No.1, 下層
6	土師器 高台付皿	口 (12.4) 高台 7.8 高 2.4	内外面ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。 底部回転糸切りのち高台貼付け、ロクロナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒少。赤褐色粒微。良好。	床面 口縁部 1/8 底 部・高台完存 No.7
7	灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデ。内面のみ灰軸厚くハケ塗り。黒 笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	黒色・白色細粒微。良好。	口縁部一部 下層

SI-715

1	須恵器 坏	底 7.0	内面へ体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 底部外面に焼成前ヘラ記号あり。益子産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 5Y5/1 灰	白色微粒多。赤褐色細粒少。白 色粒微。良好。	体部下端 2/3 底部完 存 上面
2	須恵器 坏	底 (8.0)	内面へ体部外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り、焼 成前ヘラ記号あり。益子産。	内 5Y4/1 灰 外 "	白色細粒多。褐色細粒少。良好。	体下半 1/3 底部 1/2 上面

SI-751

1	須恵器 蓋	口 (16.4) 高 4.2	ロクロナデのち天井外面2回転ヘラケズリ。つまみ 貼付けロクロナデ。天井外面墨書あり。三鑫産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。灰色礫微。良好。	天井 1/2 上面
2	土師器 鉢	口 (17.4)	内面へ口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内外 面漆仕上げ。	内 10YR3/4 暗褐 外 10YR5/2 灰黄褐	灰色細粒やや多。黒色細粒少。 良好。	口縁へ体部 1/5 上面

SI-781

1	土師器 坏	口 (13.4) 底 6.3 高 5.2	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転糸 切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	白色細粒・黒褐色細粒少。良好。	口縁へ体部 2/5 底部 完存 2層
2	須恵器 坏	底 (7.0)	ロクロナデ。底部回転糸切り。火漉あり。三鑫産。	内 5Y4/1 灰 外 "	白色細粒やや多。黒褐色細粒少。 黒色細粒微。良好。	底部 1/3 2層
3	須恵器 坏	底 (7.4)	ロクロナデ。底部回転糸切り。三鑫産。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 2.5Y5/2 暗灰黄	白色微粒やや多。黒色細粒少。 赤褐色粒微。良好。	底部 1/4 1層
4	須恵器 蓋	口 (16.2)	ロクロナデ。天井外面2回転ヘラケズリ。重ね焼痕 あり。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒多。黒色細粒少。白色 礫微。良好。	口縁へ天井 1/3 2層
5	須恵器 高台付坏	口 (13.4)	ロクロナデ。高台貼付け(剥離)。三鑫産。	内 5Y7/1 灰白 外 7.5Y5/1 灰	黒色細粒多。白色微粒少。良好。	口縁へ体部 1/8 1層
6	土師器 甕		口縁部ヨコナデ。外面に粘土接合痕と押圧痕あり。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 5YR4/6 赤褐	白色・透明細粒少。赤褐色細粒微。 良好。	口縁部 1/8 1層

第 12 次調査区

SI-814

1	土師器 坏	口 (15.0)	内面ヘラミガキあるも不明瞭。漆仕上げ。口縁部外 面ヨコナデ。体部外面ケズリ、粘土接合痕・押圧痕 あり。口縁が直立気味で端部がやや尖る。器面変 色している。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 2.5YR6/4 にぶい橙	黒色細粒多。透明細粒少。良好。	口縁へ体部 1/6 6層中
---	----------	----------	--	------------------------------------	-----------------	------------------

第4章 発見された遺物

第14次調査区

SI-843

1 土師器 坏	口 (12.0) 底 5.6 高 4.1	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	赤褐色粒やや多。黒色細粒少。 やや良。	口縁～体部 1/7 底部 完存 床上, 床直
2 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 5YR5/6 明赤褐	白色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	底部 1/4 下層
3 土師器 坏	底 (7.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 10YR3/4 暗褐	透明粒・黒色細粒・赤褐色粒少。 良好。	底部 1/4 上層
4 土師器 坏	底 (7.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	赤褐色粒少。小礫微。良好。	底部 1/2 下層
5 土師器 坏	底 (6.6)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	黒色・灰色細粒少。良好。	底部 1/4 下層
6 土師器 坏	底 6.9	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部は上底風で底面中央に凸部を残す。底部回転系切り。外面体部下端粘土接合痕あり。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR6/6 明黄褐	灰色細粒・赤褐色粒少。黒色細粒微。良好。	底部 3/4 上層
7 土師器 坏	底 5.9	ロクロナデのち内面黒色処理・一方ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 10YR4/2 灰黄褐	白色細粒多。良好。	底部 2/3 下層
8 土師器 坏	底 (5.4)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。外面体部下端ロクロナデのち手持ちヘラケズリ。底部回転系切り。	内 10YR4/1 褐灰 外 10YR5/3 にぶい黄褐	赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	底部 1/5 下層
9 土師器 坏	底 (7.2)	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部手持ちヘラケズリ。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR4/2 灰褐	透明細粒多。白色細粒少。粗。	体下半～底部 1/2 上層
10 須恵器 坏	口 (10.6) 底 (5.6) 高 5.2	小型。体部内面ロクロナデ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 5YR6/8 橙 外 "	赤褐色粒やや多。白色・黒色微粒少。不良。	口縁～底部 1/2 下層
11 須恵器 坏	底 (6.8)	内面ロクロナデ。体部外面手持ちヘラケズリ。底部は平底で、一方向手持ちヘラケズリ。三和産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色細粒・白色粗粒少。良好。	底部 1/6 下層
12 須恵器 坏	底 (5.6)	内面ロクロナデ。底部回転系切り。三和産。	内 2.5Y8/1 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	白色・灰色・黒色細粒少。不良。	底部 1/2 下層
13 土師器 甕	口 (16.8)	口縁部内外面ヨコナデ。外面押圧痕あり。胴部内面横方向ナデ、ヘラナデ。外面横方向ケズリ。	内 7.5YR4/3 褐 外 7.5YR3/3 暗褐	透明微粒多。白色微粒・赤褐色粒少。良好。	口縁部 1/8 上層
14 土師器 甕	口 (17.6)	口縁部内外面ヨコナデ。端部は短く立つ。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 7.5YR2/1 黒	白色微粒多。良好。	口縁部 1/7 上層
15 須恵器 甕		胴部内面ヨコナデ、ナデ、粘土接合痕あり。外面ナデ。南比企産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 "	白色細粒・白色針状物多。良好。	胴部一部 下層

SI-844

1 土師器 甕	口 (20.0)	口縁部ヨコナデ。胴部内面ナデ。外面胴部上半縦方向ケズリ、下位縦横方向ケズリ。口縁は短く外反する。	内 2.5Y2/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色・透明細粒多。白色粒少。良好。	4cm 口縁～胴部 1/3 No.1
2 須恵器 坏	口 (14.6)	口縁部～内面体部ロクロナデ。外面体部上半ロクロナデ。体部下半回転系切り。三和産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	白色・黒色・透明細粒少。良好。	口縁部 1/10 体部 1/4 上層
3 灰釉陶器 椀	高台 7.0	底部内面ロクロナデ。底部外面全面回転ヘラケズリのち高台貼付け。高台外面に稜がある。黒徑 90 号窯式(新)～折戸 53 号窯式(古)期。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	底部完存 下層
4 土師器 高台付坏	底 (6.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。高台貼付け、全面ロクロナデ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色・透明細粒多。赤褐色粒少。良好。	底部 1/3 一括
5 須恵器 甕	口 (28.0)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 7.5YR4/1 褐灰	小礫少。良好。	口縁部 1/14 下層
6 土師器 甕	口 (18.4)	口縁部ヨコナデ、内面押圧痕あり。胴部内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ。薄い器厚で、コの字口縁の崩れた状態。	内 5YR5/6 明赤褐 外 10YR4/1 褐灰	黒色・白色・赤褐色細粒多。透明細粒少。良好。	口縁部 1/8 東カマド上面
7 統一新羅 土器 蓋	口 (8.0)	内外面ロクロナデ。	内 N4/0 灰 外 N5/0 灰	白色細粒少。良好。	口縁部 1/12 上層

SI-845

1 土師器 坏	底 (7.8)	内面黒色処理・ミガキ。底部外面回転系切り。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 5YR6/8 橙	黒色・赤褐色細粒多。透明細粒微。不良。	底部 1/3 上面
2 土師器 甕		内面ナデ、ヘラナデ。外面横位のヘラケズリ。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 "	白色・黒色細粒多。透明細粒少。良好。	胴下端 1/4 上面

SI-846

1 土師器 坏	底 (7.0)	内面ロクロナデのち黒色処理・ミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 5YR4/4 にぶい赤褐	白色細粒少。小礫微。良好。	体部下位 1/6 底部 1/4 上面
2 土師器 坏	底 (7.0)	内面ロクロナデのち黒色処理・ミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。上げ底状。	内 10YR4/1 褐灰 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒多。透明細粒少。良好。	体部下位一部 底部 1/2 上面

SI-847

1 土師器 坏	底 (6.0)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。底部回転系切り。	内 N1.5/0 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	白色・黒色細粒少。赤褐色粒微。 やや不良。	体部下位一部 底部 1/2 上層
2 土師器 坏	底 (6.4)	ロクロナデのち内面黒色処理・ミガキ。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	灰色粒やや多。良好。	体部下位一部 底部 1/3 上層
3 土師器 坏	底 (6.6)	内面ヘラミガキ。体部外面ロクロナデか。粘土接合痕あり。底部回転系切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	灰色細粒少。透明細粒微。良好。	体部一部 底部 1/5 下層
4 須恵器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面ロクロナデ。底部調整技法不明。5と同一個体か。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 2.5Y7/3 浅黄	褐色細粒多。不良。	体部下位一部 底部 1/3 下層
5 須恵器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部調整技法不明。4と同一個体か。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒少。不良。	体部下位～底部 1/3 上層

第14次調査区

SI-847

6 須恵器 壺		内外面ロクロナデ。南比企産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 2.5Y5/2 暗灰黄	白色細粒多。黒色粒・白色針状物少。良好。	頸部下位 1/4 上層
7 土師器 甕		口縁部コ罗纳デ、外面押圧痕あり。胴部外面ヘラケズリ。武蔵甕の崩れたものか。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 "	白色細粒多。赤褐色粒・透明細粒少。良好。	床直 口縁部一部 床直

SI-848

1 土師器 坏	底 (5.8)	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色細粒・赤褐色粒少。やや不良。	底部 1/4 上面
2 原始灰釉 甕		内外面ロクロナデ、釉付く。猿投産。	内 5Y5/2 灰オリーブ 外 10YR4/3 にぶい黄褐	砂質。白色・黒色細粒少。良。	口縁部 1/8 上面

SI-849

1 土師器 坏	口 (13.1) 底 6.3 高 3.5	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 2.5Y5/2 暗灰黄	黒色・透明細粒多。良好。	2cm, 3cm 口縁～底部 1/3 No.4,7
2 土師器 坏	口 12.0 底 5.6 高 4.2	内面ロクロナデのち黒色処理・ヘラミガキ。外面口縁～体部ロクロナデ。底～体部下端回転ヘラケズリ。底部外面に墨書「上」あり。果東部産か。	内 N2/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒多。透明細粒少。白色針状物微。良好。	5cm 口縁～体部 1/2 底部完存 No.2
3 土師器 甕	口 (14.8)	口縁部コ罗纳デ。胴部内面ナデ、外面ヘラケズリ。最大径を胴中位に持つ。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR5/2 灰黄褐	白色・透明細粒少。やや不良。	口縁～胴部 1/4 No.6
4 須恵器 甕		頸部ロクロナデ。胴部内面無文当て具痕。外面平行叩き、自然釉付く。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 5Y5/2 灰オリーブ	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	頸部～胴上半 1/4 No.5

SI-852

1 土師器 坏	底 (6.8)	内面ヘラミガキ、剥落著しく不明瞭。底部回転糸切り。器面変色している。	内 5YR6/6 橙 外 5YR7/6 橙	黒色細粒多。透明細粒少。不良。	底部 1/3 上面
------------	---------	------------------------------------	--------------------------	-----------------	--------------

SI-853

1 土師器 坏	口 (13.4) 底 7.0 高 4.0	ロクロナデのち内面黒色処理・ヘラミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色・透明細粒多。良好。	口縁～底部 3/4 上面
------------	-------------------------	--------------------------------	-----------------------------	--------------	-----------------

第1次調査区

SD-112

1 土師器 坏	口 (13.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「国」かあり。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色・赤褐色・透明細粒微。良好。	口縁部 1/6 体部一部 上層
2 土師器 坏	口 (12.8) 底 6.4 高 4.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。タール付着、灯明具。底部回転糸切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 2.5Y7/2 灰黄	白色・赤褐色・灰色粒少。良好。	口縁部一部 体部 1/5 底部 1/2 SD-112B No.7
3 土師器 坏	口 (12.0) 底 6.6 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR8/2 灰白 外 "	白色・灰色粒少。黒色細粒多。良好。	口縁～体部 1/6 底 部 4/5 SD-112B No.46,47, 最上層
4 土師器 坏	口 (12.4) 底 6.4 高 3.6	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ、体部下位～底部手持ちヘラケズリ。体部・底部に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR5/3 にぶい黄褐	透明細粒多。白色・赤褐色細粒少。灰色粒・黒色細粒微。良好。	体部 1/4 底部 1/2 SD-112B No.34,35,64,65
5 土師器 坏	底 5.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	赤褐色粒・白色微粒少。良好。	底部完存 上層上半
6 須恵器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。益子産。	内 N5/0 灰 外 "	白色粒少。良好。	体部下位～底部 1/3 SD-112B No.38
7 土師器 高坏	口 17.6 脚 (13.6) 高 13.4	内外面ロクロナデ。	内 10YR8/3 浅黄橙 外 "	白色・灰色粒多。透明・赤褐色粒少。良好。	口縁～体部 1/2 脚部 1/8 最上層, 上層

SD-113

1 須恵器 高台付坏	口 (14.4) 高台 (8.0) 高 4.7	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼り付け。群馬産か。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 2.5Y5/1 黄灰	灰色粒多。良好。	口縁部一部 体部 1/6 底部 1/4 最上層
2 土師器 坏	底 6.2	内面ヘラミガキのち黒色処理。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色・橙細粒少。良好。	底部完存 92-225 上層
3 土師器 坏	口 (12.8) 底 (6.0) 高 4.1	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色・黒色・赤褐色細粒多。良好。	口縁～体部一部 底部 1/3 92-195 上層
4 土師器 坏	底 6.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切りのち、手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR4/2 灰黄褐	白色細粒少。良好。	底部完存 92-225 中層

SD-140A

1 須恵器 坏	底 (9.6)	底部ヘラケズリのちナデ。ヘラ記号あり。内外面ロクロナデ。益子産。	内 5Y6/1 灰 外 N5/0 灰	白色細粒多。砂質。良好。	底部 1/4 92-300 埋土中
------------	---------	----------------------------------	-----------------------	--------------	----------------------

SD-140B

1 土師器 坏	口 (9.8) 底 (6.4) 高 3.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。タール付着、灯明具。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	赤褐色粒・白色細粒少。良好。	口縁部一部 体部～底 部 1/4 上層
2 須恵器 坏	底 6.0	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三養産。	内 5Y4/1 灰 外 "	白色細粒少。不良。	底部 2/3 92-270 中層
3 須恵器 坏	口 (13.8) 底 6.0 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三養産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色粗粒・黒色細粒多。	口縁部 1/8 底部完存 中層, 下層

SD-151

1 灰釉陶器 壺	高台 10.0	底部回転糸切り。内外面灰釉施す。黒笹14号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色粒やや多。良好。	底部完存 No.35, 下層
-------------	---------	---------------------------	---------------------	------------	-------------------

SD-152

1 土師器 坏	底 (6.8)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR7/4 にぶい橙	白色・赤褐色粒少。不良。	底部 1/3 No.17
2 土師器 坏	底 (5.6)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色細粒多。良好。	底部 1/4 No.15, 中層

第4章 発見された遺物

第1次調査区

SD -152

3 土師器 坏	底 (6.0)	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色・黒色細粒多。やや良好。	体部下位～底部 1/2 No.52
4 須恵器 坏	底 8.0	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。益子産。	内 N2/0 黒 外 "	白色細粒少。良好。	底部 2/3 上層
5 灰軸陶器 壺		内外面ロクロナデ。外面灰軸施す。光ヶ丘1号窯式。	内 N7/0 灰白 外 5Y7/2 灰白	白色・黒色細粒微。良好。	頸部一部 No.21, 下層

SD -153

1 土師器 坏	口 (11.2) 底 6.2 高 3.6	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 "	灰色粒・黒色細粒多。砂質。良好。	口縁～体部上位 1/6 体部下位～底部完存 下層
2 灰軸陶器 小瓶	底 (6.0)	外面ロクロナデのち灰軸施す。底部回転糸切り。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 5Y5/3 灰オリーブ	灰色細粒少。良好。	底部 1/6 No.4, 中層
3 須恵器 坏	底 5.4	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三叢産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	灰色細粒やや多。良好。	体部下位 1/6 底部 3/5 92-339 中層
4 灰軸陶器 椀	高台 (8.0)	内面高台接地面をのぞき薄く灰軸施す。底部外面ロクロナデ。重ね痕あり。光ヶ丘1号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	灰色粒微。灰色細粒少。良好。	高台 1/4 No.6, 下層
5 灰軸陶器 壺		ロクロナデ。内外面薄く灰軸施す。虎渓山1号窯式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 2.5Y5/3 黄褐	黒色微粒少。白色微粒微。良好。	口縁～頸部一部 No.7
6 土師器 甕		胴部外面ケズリ。内面ナデ。口縁部ヨコナデ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 7.5YR6/4 にぶい橙	赤褐色粒やや多。黒色細粒少。良好。	口縁～胴部一部 No.1, 下層

SD -154

1 かわらけ	口 (6.8) 底 (4.2) 高 2.3	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	赤褐色粒多。黒色粒少。良好。	口縁部一部 体～底部 1/3 一括
2 灰軸陶器 椀か		内外面に灰軸施す。底部外面回転ヘラケズリ。虎渓山1号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色粒微。良好。	底部 1/4 一括
3 土師器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキ。底部回転糸切りのち手持ちヘラケズリ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 10YR6/3 にぶい黄橙	透明・灰色粒少。良好。	底部 2/3 92-162

SD -193

1 須恵器 坏	底 (7.6)	内外面ロクロナデ。体部下端～底部外面回転ヘラケズリ。堀ノ内産。	内 N5/0 灰 外 "	白色細粒微。良好。	体部下位～底部 1/4 床直
------------	---------	---------------------------------	-----------------	-----------	-------------------

SD -194

1 土師器 坏	底 (6.8)	内面ヘラミガキのち黒色処理。外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 2.5Y3/2 黒褐	黒色細粒少。良好。	底部 1/3 中層
------------	---------	-----------------------------------	--------------------------	-----------	--------------

SD -195

1 土師器 坏	口 (12.4) 底 5.8 高 4.2	内面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	透明・赤褐色粒少・黒色細粒少。良好。	口縁部 2/5 体部 1/3 底部完存 上層
2 土師器 坏	口 12.0 底 (6.4) 高 3.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部一方向手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	黒色粒やや多。赤褐色粒少・灰色細粒少。良好。	口縁～体部 1/2 底部 完存 No.2, 最下層
3 土師器 坏	口 (14.8) 底 (7.2) 高 6.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	灰色粒やや多。赤褐色粒少。良好。	口縁～体部 2/5 底部 1/5 上層, 中層
4 土師器 坏	口 (12.0) 底 7.0 高 4.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	赤褐色粒少。黒色細粒やや多。良好。	口縁部 1/8 体部～底部 1/4 上層, 中層
5 土師器 坏	口 12.6 底 6.4 高 3.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部下端～底部全面回転ヘラケズリ。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	赤褐色・透明粒少。良好。	口縁～体部 3/5 底部 ほぼ完存 上面
6 須恵器 坏	口 12.6 底 6.2 高 3.8	ロクロナデ。底部回転糸切り。三叢産。	内 5YR5/3 にぶい赤褐 外 "	白色細粒少。良好。	口縁部 3/4 体部下 半～底部完存 No.1, 中層

SD -196

1 土師器 坏	底 5.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色・透明細粒少。良好。	底部 2/3 中層
------------	-------	-------------------------------	-----------------------------	--------------	--------------

SD -204

1 須恵器 甕		内面木製無文当て具、摩耗部分あり、転用硯。外面剥離。	内 5B4/1 暗青灰 外 7.5YR5/6 明褐色	白色微。白色粒やや多。良好。	胴部一部 92-132 上層
------------	--	----------------------------	-------------------------------	----------------	-------------------

SD -206

1 土師器 鉢	口 (18.2) 底 (8.8) 高 6.6	内面黒色処理・ヘラミガキ。剥離が著しい。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	黒色・灰色細粒少。良好。	口縁部一部 体部 1/5 底部 1/4 NO.1, 下層
------------	---------------------------	--------------------------------------	------------------------------	--------------	---------------------------------

第2次調査区

SD -242

1 須恵器 坏	底 6.4	ロクロナデ。底部回転糸切り。三叢産。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 "	白色・赤褐色・透明粒多。良好。	体部下位 1/3 底部完 存 上層
------------	-------	--------------------	------------------------	-----------------	----------------------

SD -250

1 土師器 坏	底 (7.5)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5Y2/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色細粒。透明微粒少。良好。	底部 6/1 No.31
2 須恵器 高台付坏	底 (9.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部外面全面ヘラケズリ。高台貼り付け。新治産。	内 5P 青灰 外 "	白色細粒多。銀色雲母微。良好。	底部 4/1 No.10

SD -265

1 須恵器 坏	底 6.0	内面ロクロナデ。底部回転糸切り。三叢産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	赤褐色粒多。白色・黒色細粒多。良好。	底部完存 NO.5(3層)
------------	-------	----------------------	---------------------	--------------------	------------------

SD -292

1 土師器 坏	底 (6.4)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 10YR8/4 浅黄橙	黒色粒・赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒多。やや良好。	体部下位～底部 1/4 NO.1
2 灰軸陶器 椀	高台 7.2	内面全面灰軸ハケ塗り。底部全面回転ヘラケズリ。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 2.5Y7/1 灰白	灰色粒多。白色微粒少。赤褐色粒微。良好。	底部 1/2 NO.3

第2次調査区

SD -301

1 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面に灰釉漬け掛け。光ヶ丘1号または大原2号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 1層
2 土師器 坏	口 (12.0) 底 6.0 高 4.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部ヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 5YR6/6 橙	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/8 底部 1/3 No.1
3 土師器 坏	底 (6.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 2.5YR5/6 明赤褐	黒色粒・赤褐色粒・白色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/4 No.3,1層上半

SD -305

1 土師器 甕	口 (11.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 "	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒・灰色細粒少。良好。	口縁部 1/4 No.8
2 土師器 坏	底 (5.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色微粒微。良好。	体部下位～底部 1/3 No.2

SD -329

1 須恵器 壺	高台 6.2	内外面・底部ロクロナデ。外面沈線下から下位手持ちヘラケズリ。	内 10YR5/1 灰褐 外 N4/0 灰	白色微粒少。良好。	体部下半 1/2 底部完 存 高台 1/2 上面
------------	--------	--------------------------------	--------------------------	-----------	-----------------------------

SD -330

1 土師器 坏	口 (11.8) 底 (6.2) 高 2.8	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色・灰色微粒・黒色細粒多。良好。	口縁部 1/6 底部 2/5 No.14, 上層
2 土師器 坏	口 (11.2) 底 (5.4) 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒・灰色細粒少。良好。	口縁部 1/8 底部 1/2 No.7, 中層
3 土師器 坏	口 10.8 底 5.0 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色粒・灰色粒・赤褐色粒・黒色細粒多。良好。	口縁部 1/2 底部完存 3層(中層),4層
4 土師器 坏	口 (10.6) 底 6.4 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 2.5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粒・透明粒・白色細粒・黒色細粒多。良好。	口縁部 1/8 底部ほぼ完 存 上層,2層,中層
5 土師器 坏	口 11.2 底 5.8 高 3.2	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色粒・白色・黒色・透明細粒多。良好。	口縁部 1/2 底部完存 No.8, 中層
6 土師器 坏	口 (13.4) 底 (8.4) 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	赤褐色粒・白色・灰色細粒多。灰礫。黒色・透粒細粒微。	口縁部一部 底部 1/2 No.10, 下層
7 土師器 坏	口 11.8 底 6.4 高 3.2	内外面ロクロナデ。体部下位糸痕付く。底部回転糸切り。内面口縁部・体部褐色化。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	金色雲母・赤褐色粒・白色細粒・透明細粒微。良好。	口縁部 1/6 底部完存 No.1, 上層
8 土師器 坏	口 12.0 底 8.0 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色粗粒・白色粒多。赤褐色粒微。黒色細粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 3/5 No.24, 中層
9 土師器 坏	口 11.8 底 6.6 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。タール付着。灯明具。	内 10YR8/3 浅黄橙 外 "	赤褐色細粒・黒色微粒・灰色微粒少。良好。	口縁部 3/4 底部完存 No.12, 下層
10 土師器 坏	口 11.4 底 5.4 高 3.3	内外面ロクロナデ。底部～体部下手持ちヘラケズリ。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・赤褐色・黒色・灰色粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 1/2 No.33, 中層
11 土師器 坏	口 11.4 底 5.2 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒多。良好。	口縁部 1/3 底部完存 No.3, 上層
12 土師器 坏	口 (11.6) 底 5.2 高 3.6	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色粒・赤褐色細粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 2/3 No.19, 上層
13 土師器 坏	口 (12.8) 底 (6.6) 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色微粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 底部 1/4 3層(中層),4層(下層)
14 土師器 坏	口 12.6 底 6.6 高 3.9	内外面口縁部ヨコナデ。内面体部～底部にヘラ状工具の沈線あり。外面体部押圧痕。底部無調整。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色・黒色・灰色・透明細粒少。良好。	口縁部 2/3 底部完存 No.37, 上層,3層(中層)
15 土師器 坏	底 (6.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	赤褐色粒・灰色粒・黒色細粒少。良好。	体部下半 1/4 上層
16 土師器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/3 にぶい橙 外 "	赤褐色・灰色微粒少。良好。	底部 1/3 上面
17 土師器 坏	底 (6.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 "	金色雲母・白色粒・赤褐色粒・透明細粒少。良好。	体部下位～底部 1/2 上層
18 土師器 坏	底 (6.6)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色粒・赤褐色粒・透明粒・灰色粒・黒色細粒多。良好。	底部 1/3 2層(上層)
19 土師器 坏	底 6.6	内外面ロクロナデ。底部技法不明。	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR7/4 にぶい黄橙	赤褐色粒多。白色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/2 2層(上層)
20 土師器 坏	底 5.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/2 No.6, 上層
21 土師器 坏	底 5.6	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色微粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	体部下位 1/2 底部完 存 No.5, 下層
22 土師器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 5YR5/6 明赤褐	白色・灰色・黒色細粒多。良好。	底部 2/5 上層
23 土師器 坏	底 (5.0)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。	内 2.5Y7/1 灰白 外 10YR7/2 にぶい黄橙	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒少。不良。	底部 2/3 2層
24 土師器 高台付坏	口 16.0	内外面ロクロナデ。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粒・白色・黒色・灰色・透明細粒微。良好。	口縁部 1/6 体～底部 1/4 上層
25 土師器 坏	口 (15.0)	内外面ロクロナデ。	内 10YR6/6 明黄褐 外 "	白色粒・透明粒・黒色細粒多。良好。	口縁～体部 1/12 上層
26 土師器 高台付坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	赤褐色粒少。黒色・灰色細粒多。良好。	口縁部 1/4 底部 1/3 No.2, 上層
27 土師器 高台付坏	口 (13.0)	内外面ロクロナデ。底部糸切り。	内 5YR6/6 橙 外 "	赤褐色・灰色粒・黒色細粒微。良好。	口縁部一部 底部 1/4 上層
28 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのち高台貼り付け(剥離)。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	赤褐色粒・灰色粒微。良好。	底部 1/2 上層

第4章 発見された遺物

第2次調査区

SD -330

29 土師器 高台付坏	底 6.4	内外面・ロクロナデ。体部下端ヘラケズリか。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 7.5YR6/6 橙	白色粒・黒色細粒多。やや不良。	底部完存 上面
30 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。底部糸切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色粒・赤褐色粒・透明粒・黒色細粒少。良好。	体部下半～底部 1/4 フクド一括
31 土師器 高台付坏		内外面・底部ロクロナデ。	内 10YR8/2 灰白 外 "	白色粗粒・白色・黒色・赤褐色粒多。良好。	底部完存 No.17, 上層
32 土師器 高台付坏	高台 7.2	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粒・白色細粒・透明細粒少。良好。	底部完存 No.15, 中層
33 土師器 高台付坏	高台 (8.6)	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	内 10YR4/1 褐灰 外 10YR5/2 灰黄褐	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒少。良好。	高台 1/2 上層
34 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 2.5Y2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	赤褐色粒・透明細粒・白色微粒微。良好。	底部ほぼ完存 上層
35 土師器 高台付坏		内面ミガキ。外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。	内 5YR5/6 明赤褐 外 5YR7/6 橙	灰色粗粒微。赤褐色粒・灰色粒・透明細粒・黒色細粒多。良好。	底部完存 No.20, 下層
36 須恵器 坏	底 6.2	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5YR6/4 にぶい橙 外 "	赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	底部ほぼ完存 3層 (中層)
37 須恵器 高台付坏	高台 (9.8)	内面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。益子産。	内 N4/0 灰 外 "	白色粒多。良好。	高台 1/2 No.18, 下層
38 土師器 塊	口 (14.6) 底 (6.2) 高 5.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 2.5Y6/2 灰黄	赤褐色細粒・白色微粒多。良好。	口縁部 1/6 底部 1/4 上層, 2層, 3層
39 灰釉陶器 椀		ロクロナデ。内外面に灰釉漬け掛けか。光ヶ丘 1 号か大原 2 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	白色黒色細粒少。良好。	体部一部 上面
40 土師器 甕	口 (14.4)	口縁部内面ハケ目、外面ヨコナデ。胴部内面ハケ目、外面ナデ。	内 7.5YR4/1 褐灰 外 "	赤褐色粒・白色細粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/4 3層 (中層)
41 土師器 甕	底 (9.0)	内面ナデ。外面ヘラケズリ。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 5YR6/6 橙	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒・透明細粒多。良好。	胴部下位～底部 1/4 3層 (中層)
42 土師器 甕	底 (9.4)	内面ナデ。外面ヘラケズリ。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	胴部下端～底部 1/3 2層 (上層)
43 須恵器 甕		内面ナデ。外面格子叩きのちカキ目。	内 N5/0 灰 外 7.5Y6/1 灰	白色粒少。良好。	胴部一部 フクド

SD -332

1 土師器 坏	底 (6.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色・赤褐色・黒色・灰色細粒少。良好。	底部 1/4 59-711 埋土上層
2 土師器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 2.5Y7/4 浅黄 外 10YR8/4 浅黄橙	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	底部 1/3 59-710 埋土上層
3 灰釉陶器 椀		内面に灰釉ハケ塗り。ロクロナデのち外面体部下端回転ヘラケズリ。光ヶ丘 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	白色・黒色・透明微粒少。良好。	体部下位～高台一部 59-710 埋土上層

SD -333

1 須恵器 坏	口 (13.4)	ロクロナデ。産地不明。	内 5Y5/1 灰白 外 "	白色細粒少。良好。	口縁部 1/6 上層
2 須恵器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	白色粒・灰色粒・黒色細粒多。良好。	底部 1/4 上面

SD -334

1 須恵器 坏	口 (14.8) 底 (10.2) 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。三稜産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒・白色微粒少。良好。	口縁～底部 1/2 3層 (中層)
2 須恵器 坏	口 (15.3)	内外面ロクロナデ。三稜産か。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色・黒色微粒微。良好。	口縁部 1/12 3層 (中層)
3 須恵器 坏	口 (13.2)	内外面ロクロナデ。産地不明。	内 5Y6/1 灰 外 "	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒微。良好。	口縁部 1/6 3層 (中層)
4 須恵器 坏	底 6.4	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 7.5YR4/6 褐 外 "	白色微粒・赤褐色粒少。良好。	体部下位～底部 2/3 3層 (中層)
5 須恵器 坏	底 (6.6)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	灰色粗粒・褐色粒・白色細粒・黒色細粒少。不良。	底部 1/4 3層 (中層)
6 須恵器 坏	底 (9.4)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り、外周手持ちヘラケズリ。三稜産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	白色・灰色微粒微。良好。	底部 1/3 1層 (最上層)
7 須恵器 高台付坏		内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリのち高台貼付け。	内 N6/0 灰 外 "	白色粗粒少。良好。	底部 1/3 3層 (中層)
8 土師器 坏	口 11.0 底 6.4 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色礫・白色粒・赤褐色粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 1/2 3層 (中層)
9 土師器 坏	口 (13.8)	内外面ロクロナデ。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒・黒色細粒少。不良。	口縁部 1/4 1層 (最上層)
10 土師器 高台付坏	高台 7.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 "	白色・黒色粒少。良好。	高台完存 5層 C 最下層
11 土師器 高台付坏	高台 7.3	内外面ロクロナデ。底部ナデ。	内 7.5YR2/1 黒 外 7.5YR4/2 灰褐	金色雲母少。透明粒・白色細粒・黒色細粒多。やや良好。	高台完存 3層 (中層)
12 土師器 高台付坏	高台 8.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒・白色微粒・赤褐色微粒・灰色微粒多。良好。	高台完存 5層 C 最下層
13 土師器 坏	口 (12.6) 底 (6.4) 高 5.1	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 2.5Y4/1 灰黄 外 "	赤褐色粒・白色細粒・透明細粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/8 底部 2/5 2層 (上層)
14 灰釉陶器 椀	高台 (7.8)	内外面にロクロナデのち灰釉ハケ塗り。底部回転ヘラケズリ。光ヶ丘 1 号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	高台 2/5 2層 (上層)
15 土師器 塊	口 (16.8) 底 7.7 高 (6.0)	内外面ロクロナデのち内面ヘラミガキ・黒色処理。	内 N2/0 黒 外 7.5YR4/6 褐	白色・黒色・灰色微粒多。良好。	口縁部 1/8 底部 1/6 3層 (中層)
16 土師器 獣脚	幅 4.1 厚 3.6	表面ナデ。	外 7.5YR7/6 橙	白色・赤褐色微粒多。良好。	脚部一部 3層 (中層)

第2次調査区

SD -369

1 土師器 か 坏	口 12.1 底 5.6 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 7.5YR7/4 にぶい黄橙	灰色粗粒・灰色粒・黒色粒多。 良好。	口縁部 5/6 底部完存 No.1, 下層
2 土師器 坏	口 (11.8) 底 6.2 高 3.3	内外面ロクロナデ。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 "	金色雲母・赤褐色粒・白色細粒・ 黒色細粒・灰色細粒少。良好。	口縁部 1/6 上層
3 土師器 坏	底 5.8	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面にタール 付着。灯明具。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色・黒色・灰色粒多。良好。	体部下半 1/3 底部完 存 2層
4 土師器 坏	底 (7.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色・黒色細粒多。良好。	底部 2/3 上層
5 土師器 坏	口 (14.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ、体部 下位手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 5YR4/6 赤褐	赤褐色粒・白色細粒・透明細粒少。 良好。	口縁部 1/8 上層
6 土師器 甕	口 (18.6)	口縁部ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。外面ナデ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 5YR6/6 橙	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒・ 黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 上層

SD -370

1 土製品 土鏝	外径 1.6 孔径 0.2 重量 6.9	表面ナデ。	10YR5/2 灰黄褐	白色・黒色細粒少。赤褐色細粒微。 良好。	完存 1層 (上層)
-------------	-------------------------	-------	-------------	-------------------------	---------------

第4次調査区

SD -140

1 土師器 高台付坏	口 (14.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ、体部 下位回転ヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	赤褐色粒・白色微粒・白色針状 物微。良好。	口縁部 1/8 No.10
2 土師器 埴	底 (7.4)	内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。墨書法 の旁か。	内 7.5YR6/6 橙 外 5YR5/6 明赤褐	白色粒・赤褐色粒・黒色細粒・ 白色微粒少。良好。	体部一部 底部 1/4 No.4
3 土師器 坏か	口 13.8 底 6.0 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色粒・灰色粒・赤褐色粒・黒 色細粒多。不良。	口縁部一部 体部下半 ~底部 1/2 No.20
4 土師器 坏	口 (11.4) 底 6.0 高 3.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	赤褐色粒・白色細粒・灰色細粒・ 黒色細粒少。やや良好。	口縁部 3/5 底部完存 No.15
5 土師器 坏	口 (12.8)	内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ、体部押圧痕。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 10YR4/1 褐灰	金色雲母・白色粒・黒色細粒多。 良好。	口縁部 1/8 No.16
6 原始灰軸 壺		内外面ロクロナデ、灰軸施す。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y4/1 灰 外 2.5Y7/2 灰黄	白色細粒多。良好。	口縁部一部 上層

第5次調査区

SD -493

1 土師器 坏	口 (12.2) 底 (6.0) 高 4.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部 回転糸切り。	内 10YR3/2 黒褐 外 10YR5/3 にぶい黄褐	黒色細粒少・白色細粒微。良好。	口縁部 1/4 底部 1/6 フクド、攪乱
------------	---------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------	--------------------------

第6次調査区

SD -521

1 灰軸陶器 椀		内面灰軸ハケ塗り。外面ロクロナデ。黒笹 90 号窯 式②。	内 7.5Y7/1 灰白 外 2.5Y6/1 黄灰	黒色微粒少。良好。	口縁部 1/12 フクド上層
-------------	--	----------------------------------	------------------------------	-----------	-------------------

第7次調査区

SD -140・550

1 須恵器 坏	口 14.7 底 8.5 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。益子産。	内 2.5Y6/3 にぶい黄 外 "	灰色粗細粒少。白色細粒やや多。 赤褐色粒少。良好。	口縁部 4/5 底部ほぼ 完存 B 期下尼寺院 地溝北東コーナー
2 灰軸陶器 椀		ロクロナデ後、内外面全面に灰軸施す。黒笹 90 号 窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 "	黒色粒多。白色細粒少。良好。	体部一部

SD -140

1 土師器 坏	口 9.7 底 6.2 高 3.1	内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ、体部押圧痕、 底部静止糸切り。口縁部にタール付着。灯明具。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 "	白色微粒。赤褐色粒少。白色・ 黒色細粒やや多。良好。	口縁部 1/4 欠 底部完 存 No.19
2 土師器 坏	口 (10.3) 底 7.0 高 2.8	内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面押圧痕あり。 口縁部内面にタール付着。灯明具。	内 7.5YR5/3 にぶい褐 外 "	赤褐色粒やや少。白色細粒少。 良好。	底部中央欠ほか完存 No.12, 15
3 土師器 甕	底 (5.0)	内面ヘラナデ。外面体部~底部ヘラケズリ。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 "	白色粒多。黒色細粒やや多。赤 褐色細粒少。良好。	底部 1/2 No.11
4 須恵器 坏	底 (7.4)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。益子産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	白色細粒やや少。良好。	底部 1/4 60-869, 上面、焼土範囲
5 灰軸陶器 皿	高台 (7.8)	内面中心を除き灰軸ハケ塗り。外面体部・底部回転 ヘラケズリ。重ね焼き痕あり。黒笹 90 号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒やや少。良好。	底部 1/3 60-779, 上面
6 土師器 甕	口 20.4	内面口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ、中位ヘラナデ、 下位ナデ。外面口縁部ヨコナデ、胴部上位押圧痕、 上位~下位ヘラケズリ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 10YR5/2 灰黄褐	金色雲母微。黒色細粒・白色微 粒少。良好。	口縁部 2/3 胴部 1/2 1層, 上面

SD -550

1 須恵器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。外面体部下位~底部外周手持ち ヘラケズリ。底部中央糸切り。三義産。	内 5Y7/2 灰白 外 "	白色・灰色細粒少。白色微粒や や多。良好。	底部 1/6 No.47
2 須恵器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。益子産か。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色粒少。白色・透明・黒色微 粒多。良好。	底部 1/4 No.35
3 須恵器 高台付坏	高台 (8.0)	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。新治産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	銀色雲母少。白色粒少。白色細粒 透明細粒やや多。良好。	高台 1/6 2層

第4章 発見された遺物

第7次調査区

SD -550

4 須恵器 坏	底 (7.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	暗灰色細粒・透明微粒・白色微粒少。	底部 1/4 No.46
5 土師器 坏	口 (14.0) 底 7.8 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切りのち外周一部ヘラケズリ。底部外面墨書「足」あり。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 2.5Y7/3 浅黄	赤褐色礫少。白色・赤褐色・黒色・灰色粒やや多。透明・白色・黒色微粒多。良好。	口縁部 1/12 底部 1/2 No.32
6 灰釉陶器 皿	高台 (7.0)	内面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 5Y7/2 灰白	黒色細粒少。良好。	高台 1/4 No.38
7 須恵器 蓋		内外面ロクロナデ。遺存する外面上部回転ヘラケズリ。益子産。	内 N4/0 灰 外 "	白色礫少。白色細粒やや多。良好。	口縁部・天井一部 埋土
8 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち遺存する上半部内外面に灰釉ヘラケズリ。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色粒微。良好。	体部一部
9 灰釉陶器 椀		ロクロナデのち内外面灰釉ヘラケズリ。黒笹 90 号②窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 "	白色細粒多。	体部一部 No.39
10 土師器 甕	口 (13.0)	口縁部ココナデ。外面粘土接合痕。胴部外面ヘラケズリ。内面押圧痕。	内 5YR6/8 橙 外 5YR6/6 橙	銀色雲母やや多。黒色微粒多。灰色・赤褐色細粒少。良好。	口縁部 1/6 胴部上位一部 No.5
11 須恵器 甕		内面同心円当て具。外面擬格子叩き。	内 5B6/1 青灰 外 5B5/1 青灰	白色・黒色微粒少。良好。	胴部一部 No.51

第8次調査区

SD -140

1 須恵器 甕	口 (44.8)	口縁部・頸部ロクロナデ。5本単位の櫛描波状文。新治産。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	銀色雲母やや多。黒色微粒・赤褐色細粒多。良好。	口縁部 1/3 No.28 29 30 31 35 36 39 41 44
2 土師器 坏	底 7.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR6/6 橙	白色・黒色微粒やや少。赤褐色粒少。良好。	底・体部下半 3/4 No.45 51 上層
3 土師器 坏	口 (15.4) 底 (8.6) 高 5.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部～底部ヘラケズリ。	内 7.5YR1.7/1 黒 外 7.5YR7/6 橙	白色細粒少。黒色細粒やや多。赤褐色粒微。良好。	体部 1/6 口・底部一部 92-870-900 上層 No.25
4 灰釉陶器 壺		内外面灰釉厚く施す。光ヶ丘 1 号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 10Y7/1 灰白	黒色微粒微。良好。	頸部一部 No.2
5 灰釉陶器 壺		内外面ロクロナデ。外面灰釉。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 7.5Y6/1 灰	灰色微粒微。良好。	肩部一部 No.49

SD -610

1 須恵器 坏	底 (7.0)	内外面ロクロナデ。体部～底部手持ちヘラケズリ。新治産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	銀色雲母・黒色微粒多。白色粗粒少。良好。	体部～底部 1/6 108-149 上層
2 須恵器 坏	底 6.4	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産か。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 5YR5/6 明赤褐	灰色粗粒微。赤褐色粒多。灰色粒・黒色細粒やや多。良好。	底部完存 No.8
3 須恵器 坏	底 6.6	内面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒多。灰色細粒少。	底部～体部 1/4 108-149 上層
4 須恵器 坏	底 (6.0)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色粗粒微。灰色粒多。白色粒・黒色細粒少。良好。	底部 3/1 No.2

第9次調査区

SD -651

1 土師器 坏	底 (6.8)	内面ヘラミガキ。外面底部ヘラケズリ。	内 2.5Y2/1 黒 外 5Y5/1 灰	白色細粒・黒色細粒・透明微粒。良好。	底部 1/5 No.17
------------	---------	--------------------	--------------------------	--------------------	-----------------

SD -653

1 土師器 坏	底 (7.4)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。内面にタール付く。灯明具。	内 7.5YR6/6 橙 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒・透明細粒・金色雲母少。良好。	底部 1/6 上面
2 灰釉陶器 壺	高台 (7.8)	内面ロクロナデ。外面・底部回転ヘラケズリ。外面施釉。但し底部外面、高台内面は無釉。	内 5Y5/1 灰 外 5Y6/2 灰オリーブ	黒色微粒やや少。白色微粒微。良好。	底部 1/4 No.41

SD -658A

1 須恵器 高台付坏		底部回転糸切り。三稜産。内面ロクロナデ。	内 5Y7/1 灰 外 2.5Y6/2 灰黄	灰色粒多。白色細粒・黒色細粒少。良好。	底部 2/1 No.1
---------------	--	----------------------	---------------------------	---------------------	----------------

SD -658B

1 須恵器 坏	口 (13.2) 底 (8.0) 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内外面にタール付着。灯明具。三稜産。	内 2.5Y5/2 暗灰黄～ 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y6/1 黄灰	白色粒やや多。黒色細粒少。良好。	口縁部～底部 1/4 No.17
2 須恵器 坏	口 (13.6) 底 6.5 高 4.0	内外面ロクロナデ。内面底・体部に境に沈線あり。外面に墨書あり。底部回転糸切り。三稜産。	内 5YR6/6 橙 外 5YR6/6 橙	白色・赤褐色細粒少。黒色細粒多。黒色礫微。良好。	口縁部 1/2 底部完存 No.9 2層
3 須恵器 甕		平行叩き後ロクロナデ。横位沈線後 11 本単位の櫛描波状文。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 5B4/1 暗青灰	白色微粒多。白色細粒少。白色針状物多。良好。	頸部一部 No.38

第10次調査区

SD -653B

1 須恵器 甕	口 (45.4)	口縁・頸部ロクロナデ後、4本単位の櫛描波状文。頸部内面ナデ。胴部外面自然釉、内面一文字当て具痕。	内 7.5YR4/3 褐～ 7.5Y2/1 黒 外 7.5Y2/1 黒～ 5Y6/2 灰オリーブ	白色微粒少。良好。	頸部 1/12 胴・口縁部 一部 No.7,9 2層
2 土師器 坏	底 (6.0)	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5Y6/1 灰 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色細粒やや多。黒色細粒少。不良。	底部 1/3 No.23
3 須恵器 坏	底 (8.0)	内外面ロクロナデ。底部～体部下端回転ヘラケズリ。新治産。	内 10Y5/1 灰 外 "	銀色雲母多。白色細粒やや多。良好。	底部 1/6 No.32

第10次調査区

SD -653B

4 須恵器 坏	底 (7.4)	内外面クロコナデ。底部ヘラケ切り。益子産。	内 7.5Y4/1 灰 外 "	白色粗粒微。白色細粒多。良好。	底部 1/4 No.39
5 須恵器 盤か		クロコナデ。高台貼り付け。高台に透かしをあげる。宇都宮産か。	内 N5/0 灰 外 "	白色微粒やや多。良好。	脚一部 No.3
6 須恵器 高坏		クロコナデ。脚に透かしをあげる。新治産。	内 N6/0 灰 外 N5/0 灰	銀色雲母・白色微粒多。白色細粒少。良好。	脚 1/4 No.49

SD -670B

1 土師器 坏	口 (11.6) 底 6.8 高 3.8	内面黒色処理・ミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。体部外面に墨書「子」か。他にもう一字あるが不明瞭。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR7/4 にぶい橙	黒色微粒やや多。白色細粒やや少。赤褐色粒微。良好。	底部 9/10 口縁部一部 No.11,12 2層
2 灰釉陶器 椀	底 (6.2)	外面ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。内面にうすく施釉。光ヶ丘1号窯式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	精良。良好。	底部 1/4 No.16

第11次調査区

SD -193

1 土師器 椀	口 (14.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒少。良好。	口縁部 1/6 B期 2層 No.6
2 土師器 坏	口 (12.2) 底 6.6 高 4.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 5Y2/1 黒 外 5YR6/6 明黄褐	赤色細粒少。良好。	底部 1/3 口縁部一部 B期 埋土中 No.14
3 土師器 坏	口 9.6 底 5.4 高 2.9	外面クロコナデ。底部回転系切り。内外面タール付着。灯明具。	内 2.5YR4/4 にぶい赤 褐 外 2.5YR5/6 明赤褐	透明細粒・赤褐色粒多。白色細粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 1/3 B期 2層 No.12
4 須恵器 坏	口 12.7 底 6.4 高 4.0	内外面クロコナデ。底部回転系切り。内面タール付着。灯明具。三鑫産。	内 5Y6/1 灰 外 "	灰色粗粒・白色細粒少。良好。	ほぼ完形 A期 1層 No.13,17
5 須恵器 坏	底 5.6	外面クロコナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 5Y7/1 灰白 外 7.5Y7/1 灰白	黒色粒・褐色粒少。白色細粒多。やや不良	底部 3/4 B期 1層 No.5
6 須恵器 坏	底 (8.6)	内外面クロコナデ。益子産。	内 N5/0 灰 外 "	白色粗砂粒少。良好。	底部 1/4 埋土中 B期 2層
7 須恵器 蓋	口 (14.2)	内外面クロコナデ。	内 N6/0 灰 外 N5/0 灰	白色粒少。良好。	口縁部 1/8 B期 2層

SD -265

1 須恵器 坏	口 12.8 底 7.2 高 3.4	内外面クロコナデ。底部回転系切り。体部外面に「子目」の墨書あり。三鑫産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	灰色粒やや多。白色粒・細粒少。黒色微粒少。良好。	口縁部 5/6 底部完存 中層
2 須恵器 坏	口 12.6 底 6.4 高 4.0	内外面クロコナデ。底部ヘラケ切り。体部外面に「罌」の墨書あり。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒多。白色粒・灰色粒少。白色微。良好。	口縁部 2/3 底部完存 No.37 上層 No.45 中層
3 須恵器 坏	口 (12.6) 底 (6.4) 高 3.6	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 10Y7/1 灰白 外 "	灰色粒やや少。黒色細粒少。良好。	口縁部一部 底部 3/4 No.30 下層
4 須恵器 坏	口 (15.8)	内外面クロコナデ。口縁部内面に沈線 2 条あり。産地不明。	内 10BG5/1 青灰 外 "	白色粒やや少。良好。	口縁部 1/6 No.16 下層
5 須恵器 坏	底 9.2	内外面クロコナデ。体部下端回転ヘラケズリ。底部回転系切り後外周ヘラケズリ。三鑫産。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	白色粒少。黒色細粒微。良好。	底部 1/2 No.12 中層
6 須恵器 坏	底 (6.2)	内外面クロコナデ。底部回転系切り後外周手持ちヘラケズリ。三鑫産。	内 10YR7/6 明黄褐 外 5YR7/8 橙	赤褐色粒・黒色細粒多。白色粒少。良好。	底～体部下位 1/2 No.14 下層
7 須恵器 坏	底 5.8	外面クロコナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	灰色粒多。褐色粒少。良好。	底部完存 No.43 中層
8 土師器 坏	底 (6.4)	外面体部下半～底部手持ちヘラケズリ。灯明具。内外面一部にタール付着。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	灰色・赤褐色粒多。良好。	体部下位 1/4 No.30 下層
9 土師器 椀	口 (19.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 2.5Y2/1 黒 外 5YR7/4 にぶい橙	黒色細粒多。赤褐色粒・白色粒少。良好。	口縁～体部 1/4 No.34 中層
10 須恵器 壺	底 (高台 8.6)	外面回転ヘラケズリ。内面・底部～高台部クロコナデ。三鑫産か。	内 10Y6/1 灰 外 2.5GY3/1 暗オリーブ灰	黒色細粒やや少。白色粒少。良好。	底～体部下位 1/4 No.46 上層
11 須恵器 甕	口 (24.4)	内外面クロコナデ。内面剥離。新治産。	内 5Y7/2 灰白 外 "	金色雲母・灰色粒少。良好。	口縁部 1/5 No.43 中層

SD -330

1 土師器 坏	底 6.6	内外面クロコナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色細粒やや多。白色細粒少。良好。	体部下半～底部 1/8 底部完存 No.16 3層
2 須恵器 坏		内外面クロコナデ。三鑫産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒多。白色微粒少。白色・赤褐色・灰色細粒少。良。	体～底部一部 60-642 1層 (上層)
3 須恵器 高台付坏	底 (7.8)	内外面クロコナデ。岡窯産か。	内 5Y5/1 灰 外 "	黒色微粒多。白色微粒・灰色細粒少。良好。	底部 1/4 No.30 3層
4 製塩土器		底部内面ナデ。外面無調整。	内 5YR5/6 明赤褐色 外 "	金色雲母・白色微粒やや多。良好。	底部一部

SD -369

1 須恵器 坏	底 (6.6)	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 5Y6/1 灰 外 "	砂粒・礫少。良好。	底部 1/4 60-672 上層
2 土師器 坏	底 (7.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	白色細粒・橙色粒・黒色粒少。良好。	底部 1/2 2層
3 土師器 坏	口 (13.2) 底 (7.0) 高 3.9	口縁部～内面ヨコナデ。外面体部・底部ヘラケズリ。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 5YR5/6 明赤褐	赤色粒多。砂粒少。良好。	底部 1/4 口縁部一部 60-672 上層 底面
4 土師器 坏	底 5.6	内面ヘラミガキ。外面体部クロコナデ後下端回転ヘラケズリ。底部全面回転ヘラケズリ。	内 7.5YR6/6 橙 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・赤色・黒色細粒少。良好。	底部 1/4 60-672 上層

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SD-369

5 土師器 高台付坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面ロクロナデ。	内 2.5Y2/1 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	褐色・黒色細粒少。透明細粒多。 良好。	底部2/3 No.9 下層
6 灰釉陶器 椀	高台 6.2	内外面灰釉施す。底部回転ヘラケズリ。黒笹90号窯式。	内 2.5Y7/1 白灰～ 10Y6/2 オリーブ灰 外 2.5Y6/1 黄灰～ 10Y6/2 オリーブ灰	黒色細粒微。良好。	底部完存 No.4 1層
7 灰釉陶器 椀か皿	高台 (10.4)	内外面ロクロナデ。黒笹90号～折戸53号窯式。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 〃	白色・黒色細粒微。良好。	高台部1/6 No.6 2層
8 土師器 甕	口 (22.6)	口縁部～内面ヨコナデ。内面一部斜方向ナデ。外面胴部押圧後ケズリ。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 10YR5/3 にぶい黄褐	赤色・白色・黒色細粒少。良好。	口縁～体部1/8 60-672 底面
9 緑釉陶器 輪花皿	口 (14.8)	硬質。黒笹90号窯式。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 〃	精良。良好。	口縁部1/6 1層

SD-550

1 須恵器 坏	口 13.5 底 6.9 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。ヘラ記号あり。体部外面に「富」の墨書あり。益子産。	内 7.5YR5/1 灰 外 〃	白色細粒多。白色微粒少。赤褐色粒微。良好。	口縁部1/2 底部完存 No.1
2 須恵器 高台付坏	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。高台貼り付け。益子産。	内 N4/1 灰 外 N3/1 暗灰	白色粒多。白色・灰色細粒多。 良好。	口縁～底部1/5 高台 一部 No.9
3 土師器 台付甕		内面ヘラナデ。外面ケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5YR4/4 褐	白色・黒色・灰色細粒多。良好。	甕胴部下位1/2 底部 完存 体部一部 No.8

SD-681

1 土師器 坏	口 (13.8)	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 5YR5/6 明赤褐	赤褐色粒多。黒色細粒やや少。 やや良好。	口縁部1/4 埋土中
2 土師器 坏	口 (12.8) 底 (6.6) 高 4.0	内面口縁部ヨコナデ。外面体部押圧痕、ナデ、一部ケズリ。粘土接合痕あり。	内 7.5YR6/6 橙 外 〃	白色・黒色細粒多。赤色細粒微。 良好。	口・体部1/5 埋土中
3 土師器 坏	口 (11.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR2/1 黒	灰色粒少。礫微。良好。	口縁部1/4 埋土中
4 土師器 坏	底 (5.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面体部・底部回転ヘラケズリ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	灰色粒やや少。黒色細粒・白色 粒少。良好。	底部1/3 埋土中
5 土師器 坏	底 (5.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	灰色粒・赤褐色微少。白色粒微。 良好。	底部完存 埋土中
6 灰釉陶器 椀	口 (14.3)	外面体部下端外面回転ヘラケズリ。内外面灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 〃	精良。良好。	口縁～体部1/4 埋土中
7 灰釉陶器 椀		内外面灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 〃	精良。良好。	口縁部一部 埋土中
8 灰釉陶器 椀		内外面灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 〃	精良。良好。	口縁部一部 埋土中
9 灰釉陶器 瓶	底 (10.8)	内外面ロクロナデ。外面体部～底部に施釉。トチン痕あり。黒笹90号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 7.5Y8/1 灰白	精良。良好。	底部1/4 埋土中
10 須恵器 壺	高台 (9.8)	底部全面回転ヘラケズリ。体部外面・高台接地面・底部外面に釉付く。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 5Y6/1 灰	白色粒少。黒色細粒多。良好。	体部下位1/4 底部1/3 埋土中

SD-682

1 土師器 坏	底 (6.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙 ～1.7/1 黒	黒色細粒。良好。	底部1/4 60-581
2 土師器 坏	底 (6.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	微砂粒。黒色細粒。白色細粒。 良好。	底部1/3 埋土中 60-402
3 須恵器 坏	底 (6.8)	底部回転系切り。体部ロクロナデ。三鑫産。	内 5Y8/1 灰 外 〃	黒色細粒。良好。	体部下位1/8 埋土中 60-402

SD-713

1 土師器 坏	底 (6.6)	内面ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 5YR7/4 にぶい橙 外 7.5YR7/4 にぶい黄 橙	白色細粒。灰色粒。灰色礫。良好。	底部1/3 埋土中 60-471
2 土師器 坏	底 (7.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/4 浅黄	赤褐色粗粒。灰色・白色細粒。 良好。	底部1/4 埋土中 60-471
3 須恵器 坏	底 (6.0)	底部回転系切り。体部ロクロナデ。三鑫産。	内 5Y8/2 灰白 外 〃	灰色・黒色細粒。良好。	体部下位1/6 埋土中 60-471
4 須恵器 高台付坏		底部ロクロナデ。高台貼り付け(剥離)。 益子産。	内 10GY5/1 緑灰 外 〃	白色細粒。良好。	底部1/6 埋土中 60-471
5 灰釉陶器 椀	高台 (8.4)	底部内面灰釉ハケ塗り。重ね焼き痕あり。黒笹90号窯式。	内 10Y5/2 オリーブ灰 ～8/1 灰白 外 5Y7/2 灰白	精良。良好。	底部1/4 埋土中 60-471
6 灰釉陶器 椀		内外面施釉。黒笹90号窯式。	内 5GY7/1 明オリーブ 灰 外 〃	精良。良好。	口縁部一部 埋土中 60-471
7 灰釉陶器 蓋		外面灰釉を施し、内面無釉。黒笹90号窯式。	内 5Y8/2 灰白 外 7.5Y7/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 埋土中 60-471
8 砥石	長 5.1 幅 4.0 厚 1.6 重 39.13	砥面は長軸4面で、短軸一端は欠損。			埋土中 60-471

SD-777

1 須恵器 坏	口 (14.0) 底 (7.6) 高 3.8	底部回転系切り、外周手持ちヘラケズリ。内面ロクロナデ。三鑫産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 〃	黒色細粒。灰色礫。良好。	口縁～底部1/4 埋土中層
------------	---------------------------	---------------------------------	---------------------	--------------	------------------

第11次調査区

SD-790

1 土師器 坏	口 14.8	内外面ヨコナデ。内面漆仕上げ。底部外面無調整。	内 2.5Y3/3 暗オリーブ 外 "	黒色微粒。赤褐色粒。良好。	口縁部 1/6 No.3 底面直上
2 土師器 坏	口 (13.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 5YR2/1 黒褐 外 5YR3/1 黒褐	白色微粒。透明細粒。良好。	口縁～底部一部 体部 1/4 No.24 3層
3 土師器 坏	底 (7.2)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y7/4 浅黄	白色・透明細粒。微砂粒。良好。	底部 1/6 No.18 3層
4 土師器 坏	口 (12.0) 底 (6.0) 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。粘土紐痕あり。	内 10YR2/1 黒 外 10YR3/1 黒褐	灰色粒。白色細粒。赤褐色粗粒。良好。	口縁部 1/4 底部一部 No.17 3層
5 土師器 坏	口 11.4	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR3/1 黒褐	白色・黒色細粒。良好。	口縁部～体部 1/3 No.16 19 3層
6 土師器 坏	口 (15.4) 底 (6.6) 高 5.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR8/6 黄橙	赤褐色粒。白色・灰色粒。黒色微粒。良好。	口縁部 1/4 底部 1/3 No.25 27 4層
7 土師器 坏	底 (6.4)	黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 2.5Y3/1 黒褐 外 2.5Y8/4 淡黄	白色・灰色細粒。良好。	底部 1/4 190 グリッド 上層
8 須恵器 坏	口 (13.6) 底 7.2 高 3.6	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 "	赤褐色・白色粗粒。黒色・白色細粒。赤褐色粒。やや良好。	口縁部一部 底部ほぼ 完存 No.1 2層 4層
9 灰釉陶器 椀	高台 (9.0)	内面底部中央・体部内外面に灰釉ハケ塗り。底部全面回転ヘラケズリ。黒笹 90 号窯式。	内 10Y8/1 灰白 外 2.5Y8/1 灰白	黒色・白色細粒。良好。	高台 1/3 60-521 上面一括
10 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5GY7/1 明オリーブ 外 "	黒色・白色微粒。良好。	口縁部一部 No.8 5層
11 土師器 甕	底 4.6	底部・胴部外面ヘラケズリ。武蔵産底部。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 5YR5/6 明赤褐	黒色・赤褐色粒。白色細粒。良好。	底部 1/2 No.7 3層
12 土師器 鉢	口 (39.6)	内外面クロコナデ。	内 5YR8/4 淡橙～2/1 黒褐 外 2.5YR7/6 橙	白色・灰色・赤褐色・透明・黒色細粒。良好。	口縁部 1/12 No.22 4層

SD-796

1 須恵器 坏	底 6.6	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 2.5Y5/2 暗灰黄	灰色・赤褐色粒。黒色細粒。良好。	底部完存 60-398
------------	-------	-----------------------	-------------------------------	------------------	----------------

SD-797

1 土師器 坏	口 12.7 底 6.6 高 3.9	内面～口縁部外面ヨコナデ・ヘラナデ。外面体部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 10YR8/2 灰白	赤褐色・透明粒。黒色細粒。良好。	口縁～底部 1/3 上層
------------	-----------------------	--------------------------------------	---------------------------------	------------------	-----------------

SD-800

1 土師器 坏	口 11.8 底 7.2 高 3.8	内面ヘラミガキ。外面体部・底部ヘラケズリ。口縁ヨココナデ。	内 2.5YR7/8 橙～1.7/1 赤黒 外 10YR8/4 浅黄橙～ 1.7/1 黒	透明・白色細粒。赤褐色粒。良好。	ほぼ完形 No.27 A 期 1層
2 土師器 坏	口 (12.4) 底 6.6 高 5.0	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部手持ちヘラケズリ。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR7/8 橙	灰色・赤褐色細粒。良好。	口縁部 1/3 底部完存 No.42 B 期 1層
3 土師器 椀	口 (15.2)	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR8/4 浅黄橙	黒色細粒。灰色粒。良好。	口縁部 1/8 60-348 上面
4 須恵器 坏	口 (12.6) 底 5.8 高 3.6	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 5Y8/2～3/1 灰白～ オリーブ黒 外 "	白色・黒色細粒。灰色礫。不良。	口縁部 1/3 底部完存 No.11 B 期 2層
5 須恵器 高台付坏	口 (10.4) 底 (7.4) 高 5.4	内外面クロコナデ。底部全面回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。益子産。	内 10GY5/1 緑灰 外 "	白色粗粒・礫。良好。	底部高台完存 体部一 部 A 期 1層, B 期 1層 No.20 22
6 須恵器 高台付坏	高台 9.6	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三稜産。	内 2.5GY5/1 オリーブ灰 外 5R4/1 暗赤灰	白色微粒。白色細粒。良好。	底部・高台ほぼ完存 60-344 上面
7 須恵器 高台付坏	高台 9.6	底部回転糸切り。三稜産。	内 10Y6/1 灰 外 2.5Y7/2 灰黄	白色細粒。黒色微粒。良好。	底部ほぼ完存 高台 1/2 B 期 上面 60-434
8 須恵器 高台付坏		底部全面回転ヘラケズリ。益子産。	内 2.5GY6/1 オリーブ灰 外 10Y6/1 灰	白色粒・粗粒多。良好。	底部 1/3 B 期 1層 No.21
9 須恵器 高台付坏	口 (13.6) 底 (9.2) 高 4.8	内外面クロコナデ。底部ヘラケズリ。益子産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 5B5/1 青灰	白色微粒・細粒。灰色細粒。良好。	底部 1/3 高台 1/6 体 部一部 B 期 1層 No.23
10 土師器 坏	口 (14.2) 底 5.8 高 4.9	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。体部外面に墨書あり。	内 10YR1.7/1 黒 外 5YR5/4 にぶい赤褐	白色細粒。赤褐色・灰色粒。良好。	底部 1/2 体部 1/2 口 縁部一部 No.38 B 期 1層 60-614
11 土師器 鉄鉢形	口 (19.0) 底 6.0 高 9.4	内面ヘラミガキ。外面手持ちヘラケズリ後ヘラミガキ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 5YR7/6 橙 外 5YR5/8 明赤褐	白色粒。黒色・赤褐色細粒。良好。	1/3 No.36 B 期 1層 60-614 上面
12 土師器 台付甕	底 10.0	内外面ヨココナデ。外面にスス付着。	内 5YR3/6 暗赤褐 外 5YR7/8 橙～1.7/1 黒	白色・黒色細粒。灰色粗粒。良好。	台部ほぼ完存 No.1 B 期 2層

SD-803

1 須恵器 坏	底 (6.2)	内外面クロコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。益子産。	内 N3/1 暗灰 外 "	白色粒・粗粒。良好。	底～体部下位 1/4 下層
------------	---------	-------------------------	------------------	------------	------------------

第4章 発見された遺物

第11次調査区

SD-804

1 土師器 坏	口(13.0) 底(7.4) 高 4.0	内外面ヨコナデ。内面一部ヘラナデ。外面体部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色細粒多。黒色細粒・透明粒少。 赤褐色粒微。良好。	底部1/4・体部1/6 口 縁部一部 60-189 190 上層
2 灰釉陶器 椀		内外面灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 //	白色・黒色細粒。砂質。良好。	口縁部一部 60-189 190 上層
3 灰釉陶器 椀		底部外面クロコナデ。内面体部・底部見込みに灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 2.5Y7/2 浅黄 外 2.5Y7/3 浅黄	白色・黒色細粒。良好。	高台・底部1/6 60-189 190 1層

SD-810

1 土師器 坏	底(6.2)	内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 7.5YR7/6 橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色・灰色細粒。良好。	底部1/6 底面
2 須恵器 坏	底 7.0	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三産産。	内 5YR6/6 にぶい橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	赤褐色粒。白色微粒。黒色細粒。 良好。	底部1/4 60-642 上層
3 土師器 坏	底(7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色粗粒。黒色細粒。良好。	底部1/4 No.1 2層
4 灰釉陶器 壺	口(13.4)	内外面クロコナデ。灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 10Y6/1 灰	黒色・白色微粒。良好。	口縁部1/6 No.4 1層

第12次調査区

SD-610

1 土師器 坏	口(11.2) 底(6.0) 高 3.6	内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。	内 5YR5/8 明赤褐 外 //	黒色・白色細粒。赤褐色粒。良好。	口縁～底部1/4 107-170 上層
------------	-------------------------	------------------------------	----------------------	------------------	------------------------

SD-826A

1 灰釉陶器 壺		クロコナデ、体部と頸部三段接合。井ヶ谷78号窯式前半。	内 5Y5/2 灰オリーブ 外 10Y4/2 オリーブ灰	黒色微粒。良好。	肩部1/4 91-890 下層
-------------	--	-----------------------------	---------------------------------	----------	--------------------

SD-826B

1 土師器 坏	口(12.0)	内外面クロコナデ。	内 10YR8/3 浅黄橙 外 //	黒色・赤褐色微粒。良好。	口縁部1/4 91-862 5層中
------------	---------	-----------	-----------------------	--------------	----------------------

SD-827

1 灰釉陶器 広口壺		クロコナデ、灰釉施す。猿投産。	内 5Y5/3 灰オリーブ 外 2.5Y5/3 黄褐	黒色・白色微粒。良好。	口縁部一部 107-138 1層
2 須恵器 坏	底(7.4)	内外面クロコナデ。底部ヘラ切り。焼成前の刻書。益子産。	内 7.5Y5/1 灰 外 //	白色微粒。良。	底部1/6 107-82 3層

SD-827B

1 土師器 坏	口(6.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	赤褐色・灰色微粒。良好。	口縁1/8～体部1/6 107-82 3層(上層) 2層(上層)
------------	--------	-----------------------	------------------------------	--------------	--

SD-827C

1 須恵器 甕	底(15.0)	内外面クロコナデ。底部外面板状圧痕。	内 N4/0 灰 外 //	白色細粒多。白色粗粒少。良好。	底部1/5 107-109 上層
------------	---------	--------------------	------------------	-----------------	---------------------

SD-836

1 土師器 坏	口(10.0) 底(4.6) 高 2.5	内外面体部～底部クロコナデ。底部回転系切り。	内 5YR6/6 橙 外 //	白色・黒色細粒。良好。	体部1/6 口縁・底部一 部 107-52 上層(2層 中)
------------	-------------------------	------------------------	--------------------	-------------	--------------------------------------

第13次調査区

SD-610

1 土師器 坏	口(13.4)	内外面クロコナデ。	内 10YR2/1 黒 外 10YR7/3 にぶい黄褐	微砂粒。良好。	口縁～体部1/6 108-129 上層
2 土師器 坏	底(5.6)	内面黒色処理・ミガキ。体部外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 2.5Y8/2 灰白	白色・黒色微粒やや多。赤褐色・ 黒色細粒少。良好。	底部1/3 108-131 上層
3 須恵器 坏	口(12.6) 底 6.0 高 4.3	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三産産。	内 5Y6/1 灰 外 //	白色・灰色・黒色細粒。良好。	口縁～底部1/4 No.2 3 上層 No.6 中 層

第1次調査区

SK-156

1 土師器 坏	口 12.0 底 6.6 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。体部外面に墨書「千口」あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 にぶい橙	黒色。灰色・白色・赤褐色粒少。 良好。	口縁～体部5/6 底部 完存 上面
2 土師器 坏	口 12.0 底 6.4 高 4.5	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。体部外面に墨書あり。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	灰色粗粒少。良好。	体部下半～底部1/2 口 縁部一部 上面
3 土師器 坏	口(12.8) 底 5.7 高 4.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。体部外面に墨書「千口」あり。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	灰色粒微。赤色粒混入。良好。	口縁部1/6 体部1/3 底部完存 上面
4 土師器 坏	口 13.4	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。体部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR5/4 にぶい黄褐	白色・黒色細粒少。良好。	口縁部1/5 上面
5 土師器 坏	口(12.2) 底 5.8 高 3.9	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	白色・黒色・灰色・赤褐色粒。良好。	口縁～体部上位1/4 底部完存 上面
6 土師器 坏	口(12.2) 底 6.6 高 4.2	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/6 明褐	黒色細粒少。赤色粒混入。良好。	口縁～体部1/2 底部 完存 上面
7 土師器 坏	口(14.4) 底 7.0 高 4.7	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転系切り。外周手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・灰色・赤褐色細粒少。良好。	口縁～体部1/2 底部 完存 上面

第1次調査区

SK-156

8 土師器 坏	口 15.0 底 6.4 高 5.2	内面黒色処理・内面ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10Y2/1 黒 外 2.5Y8/3 淡黄	灰色・赤褐色・黒色細粒少。良好。	口縁～体部 4/5 底部 完存 上面
9 土師器 坏	口 16.5 底 9.4 高 5.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転ヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色粒微。良好。	口縁部・体部・底部 3/4 上面
10 土師器 坏	底 6.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR5/4 にぶい黄褐	灰色粒少。赤色粒。良好。	底部完存 上面
11 土師器 坏	底 (6.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色・赤色粒・透明粒微。良好。	底～体部下位 1/3 上面
12 土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。底部外面に墨書「言」か。	内 10Y2/1 黒 外 2.5Y7/3 黄浅	白色・透明細粒微。赤色粒混入。良好。	底部一部 上面
13 土師器 坏	底 5.6	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。底部外面に墨書「上」あり。	内 N2/0 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	白色細粒微。良好。	底部完存 上面
14 土師器 坏	高台 7.8	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。	内 2.5GY2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	灰色・白色粗粒多。良好。	高台 1/2 底部完存 上面
15 須恵器 坏	底 6.4	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 2.5Y6/2 黄灰 外 "	黒色粒少。青色粒。良好。	底部 1/2 上面
16 土師器 耳皿	高台 5.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面全面クロコナデ。	内 5YR1.7/1 黒 外 5YR5/6 明赤褐	透明・黒色細粒微。良好。	底部完存 上面
17 土師器 甕	口 12.9	内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	内 10YR5/3 にぶい黄橙 外 7.5YR5/4 にぶい黄褐	透明・灰色粒少。良好。	口縁～胴部上半 2/3 上面

SK-168

1 土錘	外径 1.9 孔径 3.0 重 5.20	表面ケズリ。	7.5YR7/4 にぶい橙	白色・透明微粒多。赤褐色細粒少。	上面
------	-------------------------	--------	---------------	------------------	----

SK-190

1 土師器 甕	口 18.7 底 3.6 高 27.7	内面口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。外面口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向(右から左へ)のヘラケズリ。胴部中位～下位縦方向(上から下へ)のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	内 2.5YR5/6 明赤褐 外 2.5YR4/4 にぶい赤褐	灰色・白色・黒色粒多。白色細粒少。白色・灰色粗粒微。良好。	ほぼ完形
------------	------------------------	---	------------------------------------	-------------------------------	------

SK-199

1 土師器 坏	口 11.8 底 5.4 高 3.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 N2/0 黒 外 2.5YR4/6 赤褐	黒色粗粒多。良好。	口縁～体部 5/6 底部 完存 上面
------------	-----------------------	-------------------------------	---------------------------	-----------	-----------------------

第2次調査区

SK-268

1 須恵器 坏	底 5.0	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	灰色粒・灰色粗粒多。良好。	底部完存 上層
------------	-------	-----------------------	---------------------	---------------	------------

SK-299

1 須恵器 紡錘車	外径 3.4 孔径 0.7 厚 1.9 重 24.49	外面ナデ。側面押圧痕。	外 N6/0 灰	白色細粒少。良好。	完存 2層(上層)
--------------	--------------------------------	-------------	----------	-----------	--------------

SK-341

1 灰軸陶器 椀		内外面口縁部に灰軸薄く漬け掛け。虎溪山1号窯式。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	精良。良好。	口縁部一部 下層
-------------	--	--------------------------	---------------------	--------	-------------

第3次調査区

SK-387

1 土師器 甕	口 (21.2)	口縁部ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内 7.5YR5/3 にぶい褐 外 "	白色粒。赤褐色粗粒多。黒色細粒混入。良。	口縁～胴部 1/4 No.1
------------	----------	---------------------------	------------------------	----------------------	-------------------

第4次調査区

SK-397

1 土師器 坏	底 7.2	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色・灰色微粒多。透明細粒・赤褐色粒微。黒色細粒多。良好。	底部ほぼ完存 上面
2 灰軸陶器 甕		内外面全面に灰軸施す。折戸 53 号窯式①。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	精良。良好。	口縁部一部 上面

SK-421

1 土師器 坏	口 11.0 底 5.3 高 3.2	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。灯心あり。灯明具。	内 2.5Y2/1 黒 外 "	灰色・白色・黒色細粒少。金色雲母微。良好。	完存 No.4
2 土師器 坏	口 12.4 底 6.0 高 4.2	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 2.5Y6/2 灰黄	白色・灰色粒多。金色雲母・透明粒微。赤褐色粒混入。良好。	完存 No.1
3 土師器 坏	口 11.8 底 5.2 高 3.5	内外面クロコナデ。体部下半～底部回転ヘラケズリ。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 2.5Y6/3 にぶい黄	白色粗粒・黒色細粒少。赤褐色粒混入。良好。	口縁部 1/2 底部完存 覆土 No.6
4 土師器 坏	口 11.4 底 5.8 高 4.0	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒多。白色細粒少。金色雲母・透明細粒微。良好。	完存 No.3
5 土師器 坏	口 (10.6) 底 4.8 高 3.5	内外面クロコナデ。外面体部下位・底部回転ヘラケズリ。内面タール付着。灯明具。	内 10YR7/4 にぶい橙 外 "	白色粒・白色粗粒・赤褐色粒微。良好。	口縁部 1/3 底部 2/3 No.10
6 土師器 坏	口 11.6 底 5.6 高 3.5	内外面クロコナデ。底部内面粘土付け足し。ナデ。底部外面回転糸切り後、指の腹で押圧。修復品。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒多。白色粗粒・透明細粒・赤褐色粒・金色雲母微。良好。	ほぼ完存(口縁部一部 欠損)

## 第4章 発見された遺物

### 第4次調査区

#### SK-432

1 土師器 高台付杯		内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 10YR4/2 灰黄褐	白色微粒多。黒色細粒・金色雲母微。赤褐色微粒混入。良好。	底部完存 上面
---------------	--	------------------------------	--------------------------------	------------------------------	------------

#### SK-461

1 土師器 杯	口 (17.4)	内面・口縁部外面ヨコナデ。外面体部に縦方向に沈線ケズリ。輪花模倣か。	内 5YR4/6 赤褐色 外 "	黒色細粒・灰色粒多。白色粒少。白色粗粒微。良好。	口縁部 1/5 上面
------------	----------	------------------------------------	---------------------	--------------------------	---------------

#### SK-447

1 灰釉陶器 高台付耳皿	高台 (5.6)	内面釉施す。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 5Y6/3 オリーブ黄 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	底部 1/2 上面
-----------------	----------	------------------------	-----------------------------	--------	--------------

### 第5次調査区

#### SK-494

1 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	内外面に灰釉施す。ハケ塗り。内面に重ね焼き痕あり。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒微。良好。	底部 1/6 上層
2 灰釉陶器 壺		内面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリ。高台貼り付け。井ヶ谷 78 号窯式。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	白色細粒微。良好。	底部一部 4層
3 須恵器 杯	底 (7.4)	内外面ロクロナデ。外面体部下端・底部持ちヘラケズリ。新治産。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 "	銀色雲母多。良好。	体部下位・底部 1/8 No. 1

#### SK-501

1 土師器 杯	底 (7.2)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5Y6/4 にぶい橙 外 5YR6/6 橙	黒色細粒少。赤褐色粒多。不良。	底部 1/2 上面
------------	---------	-------------------	------------------------------	-----------------	--------------

### 第6次調査区

#### SK-548

1 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式②。	内 7.5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 覆土
-------------	--	----------------------	---------------------	-----------	-------------

### 第7次調査区

#### SK-558

1 土師器 甕	口 (18.8)	内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(右から左方向へ)。口縁部粘土接合痕、押圧痕あり。内外面にスス付着する。	内 5YR6/8 橙 外 "	赤褐色細粒・白色細粒少。良好。	口縁部 1/3 上面
2 須恵器 杯		内外面ロクロナデ。末野産か。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 2.5Y7/2 灰黄	暗褐色粒・黒色粒やや多。やや良好。	口縁部一部 上面

#### SK-571

1 土師器 杯	底 7.1	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 7.5YR4/3 褐	白色微粒・黒色細粒・透明粒少。良好。	底部 4/5 上面
------------	-------	-------------------	---------------------------------	--------------------	--------------

#### SK-581

1 灰釉陶器 壺		内外面ロクロナデ。外面上部に釉を施す。井ヶ谷 78 号窯式。	内 2.5Y5/2 暗灰黄 外 "	白色細粒微。褐色粒やや多。良好。	体部一部 埋土中
-------------	--	--------------------------------	----------------------	------------------	-------------

#### SK-597

1 土師器 甕	底 (9.0)	内面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。底部圧痕。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 10YR4/2 灰黄褐	白色微粒少。透明細粒微。赤褐色粒やや多。良好。	底部 1/3 上面
------------	---------	----------------------	----------------------------------	-------------------------	--------------

### 第11次調査区

#### SK-694

1 土師器 杯	口 (12.6)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 5Y2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色微砂粒少。良好。	口縁部 1/8 埋土中
------------	----------	-----------------------	---------------------------	---------------	----------------

#### SK-699

1 須恵器 杯	底 7.0	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三毘産。	内 10Y6/1 灰 外 "	白色粒やや多。黒色細粒少。良好。	底部ほぼ完存 No. 3, 4
------------	-------	-----------------------	-------------------	------------------	--------------------

#### SK-704

1 土師器 杯	口 (12.4) 底 6.0 高 4.9	内面ヘラミガキ。外面口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。	内 5YR5/8 明赤褐 外 "	白色細粒多。白色粒・赤褐色粒・金色雲母少。良好。	口縁部 1/2 底部完存 No. 2
2 須恵器 杯	口 (13.0)	内外面ロクロナデ。三毘産。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 2.5Y7/3 淡黄	灰色・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/6 No. 3

#### SK-726

1 須恵器 甕		内外面ロクロナデ。外面頸部平行叩き。茨城産。	内 N5/0 灰 外 "	白色粗粒・白色粒多。良好。	口縁部 1/12 上面
------------	--	------------------------	-----------------	---------------	----------------

#### SK-739

1 須恵器 甕	底 (13.4)	内面ナデ。外面体部ナデ、体部下位ケズリ。底部ヘラケズリ。益子産。	内 N5/1 灰 外 N3/1 暗灰	白色粒やや多。白色粗粒・黒色微粒少。良好。	体部下位 1/4 埋土中
------------	----------	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------

### 第12次調査区

#### SK-837

1 土師器 杯	口 (14.0)	内面口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。外面に稜を残し、口縁は外傾気味に立つ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 "	赤褐色粒。白色細粒。良好。	口縁部 1/4 埋土上半
------------	----------	--	----------------------	---------------	-----------------

第14次調査区

SK-857

1 須恵器 坏	底 (7.0)	内外面クロコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内面にター ル付着。灯明具。益子産。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 〃	白色粗粒。白色細粒。稜。	底部 1/5 上面
2 緑釉陶器 椀		内面に陰刻花文を施す。猿投産。黒笹90号窯式(古) 期。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 〃	白色微粒。良好。	口縁部 1/12 上面

SK-859

1 土師器 坏	底 (6.4)	内外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 7.5YR5/3 にぶい褐 外 7.5YR4/2 灰褐	白色細粒。黒色微粒。良好。	底部 1/3 上面
2 灰釉陶器 皿	口 (14.4)	内外面クロコナデ。薄く灰釉を施す。ハケ塗り。黒 笹14号窯式。	内 2.5YR2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	白色粗粒。良好。	口縁部 1/6 上面

SK-860

1 土師器 坏	底 (8.6)	内外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 2.5Y5/1 黄灰 外 2.5Y2/1 黒	白色微粒。良好。	体部～底部 1/5 上面
------------	---------	-------------------	-----------------------------	----------	-----------------

SK-861

1 土師器 坏	口 (15.0)	内面黒色処理・ミガキ。表面剥落し、技法不明瞭。	内 7.5Y2/0 黒 外 10YR5/3 にぶい黄褐	赤褐色粒。白色細粒。良好。	口縁部 1/12 上層
------------	----------	-------------------------	--------------------------------	---------------	----------------

SK-863

1 土師器 高台付皿	高台 7.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面クロコナデ。	内 10YR3/1 黒褐 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色微粒多。良好。	底部完存
---------------	--------	-------------------------	---------------------------------	-----------	------

第1次調査区

SE-116

1 土師器 甕	口 14.8	口縁部ヨココナデ。内外面ナデ。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 〃	白色細粒多。赤褐色粒少。良好。	口縁部 1/8
2 土師器 高台付坏	高台 8.4	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り後、手 持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒多。赤褐色粒多。良好。	底部 1/2 4層

第2次調査区

SE-371

1 土師器 坏	底 6.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部 回転系切り。	内 10YR2/1 黒 外 10YR8/2 灰白	白色微粒。赤色粒。黒色細粒少 良好。	底部完存 No.1
2 灰釉陶器 壺		内外面灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 5Y7/2 灰白	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 上面
3 灰釉陶器 椀		クロコナデのち、内面灰釉施す。光ヶ丘1号、大原 2号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 〃	黒色微粒微。良好。	口縁部一部 上面
4 須恵器 坏	口 (12.6) 底 (6.4) 高 3.7	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三義産。	内 2.5YR2 灰黄 外 2.5Y5/1 黄灰	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部 1/6 底部 1/3 上面

第1次調査区

SX-115

1 土師器 坏	口 12.0 底 6.0 高 4.5	内外面クロコナデ。外面体部下端ナデ。底部ヘラ切 り後ナデ、木目の圧痕。	内 10YR3/1 黒褐 外 〃	白色粒・赤色粒・白色粗粒やや多。 黒色細粒混入。良好。	口縁～体部 5/6 底部 完存 No.17,18
2 土師器 坏	口 12.0 底 7.0 高 3.4	内外面クロコナデ。底部ヘラ切り。内面にター ル付着。灯明具。	内 7.5YR6/6 橙 外 〃	白色細粒多。黒色細粒少。赤色 粒混入。良好。	完存 No.16,24,32
3 土師器 坏	口 12.2 底 6.6 高 3.8	内外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 7.5YR7/3 にぶい橙 外 〃	白色・灰色粒・赤褐色粒多。透 明粒混入。良好。	ほぼ完存 No.24,27
4 土師器 坏	口 12.0 底 8.4 高 3.8	内外面クロコナデ。底部ヘラ切り、繊維の圧痕。	内 10YR3/1 黒褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色・赤褐色粒・黒色細粒多。 良好。	ほぼ完存 No.11,12
5 土師器 坏	口 12.1 底 7.6 高 3.2	内外面クロコナデ、底部内面ナデ。底部ヘラ切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 〃	灰色細粒。赤褐色粒少。黒色細 粒微。良好。	口縁部 2/3 体部下半 ～底部完存 No.9,10
6 土師器 坏	口 10.7 底 5.8 高 4.3	口縁部～内面ヨココナデ。体部外面押圧痕。底部砂目。 タール付着。灯明具。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 〃	白色・灰色粗粒多。赤色粒混入。 良好。	完存 No.2
7 土師器 坏	口 12.7 底 6.0 高 4.1	口縁部～内面ヨココナデ。外面体部押圧痕・粘土接合 痕あり。底部砂目。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 〃	白色粒・透明粒少。赤褐色粒混入。 良好。	完存 No.9,10
8 土師器 坏	口 12.3 底 4.8 高 4.3	口縁部ヨココナデ。体部内面ヘラナデ。外面体部押圧 痕、体部下半ヘラケズリ。底部系切り。内面にター ルが環状に付く。灯明具。	内 10YR3/1 黒褐 外 7.5YR5/4 にぶい橙	白色粒・赤褐色粒やや多。良好。	完存 No.26
9 土師器 坏	口 11.3 底 5.8 高 3.5	口縁部～内面ヨココナデ。外面体部上半押圧痕あり。 体部下半ケズリ。底部砂目、外周ケズリ。	内 5Y2/1 黒 外 5Y3/1 オリーブ黒	白色・赤褐色粒多。黒色細粒混入。 良好。	ほぼ完存 No.21
10 土師器 坏	口 11.9 底 6.4 高 3.7	口縁部～内面ヨココナデ。外面体部～底部無調整。外 面に黒斑あり。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 〃	白色・灰色粒・赤褐色粒多。金 色雲母混入。良好。	ほぼ完存 No.17
11 土師器 坏	口 11.6 底 6.2 高 3.8	口縁部～内面ヨココナデ。外面体部押圧痕あり。底部 無調整。	内 10YR2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色・灰色粒・赤褐色粒・透明 粒多。黒色細粒。金色雲母混入。 良好。	完存 No.12
12 土師器 坏	口 11.9 底 5.0 高 4.1	口縁部～内面ヨココナデ。内面一部押圧痕あり。外面 体部押圧痕あり。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 7.5YR5/4 にぶい褐	灰色・白色粒・赤褐色粒多。黒 色細粒混入。良。	完存 No.20
13 土師器 坏	口 11.8 底 5.5 高 3.7	口縁部～内面ヨココナデ。内面底部ヘラナデ。内面黒 色処理か。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 2.5Y2/1 黒 外 5YR5/6 明赤褐	灰色・白色粒・赤褐色粒多。黒 色細粒混入。良好。	口縁部 3/4 体部下半 ～底部完存 No.19,31
14 土師器 坏	口 12.8 底 6.0 高 4.0	口縁部～内面ヨココナデ。外面体部押圧痕あり。底部 無調整。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 10YR5/2 灰黄褐	白色粒・赤褐色粒・透明粒・黒 色細粒多。良好。	ほぼ完存 No.23,25,28,30
15 土師器 坏	口 12.1 底 5.7 高 3.5	口縁部～内面ヨココナデ。内面底部ナデ。外面体部押 圧痕あり。底部砂目。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 〃	白色・灰色・赤褐色粒・黒色細 粒多。良。	ほぼ完存 No.31

第4章 発見された遺物

第1次調査区

SX-115

16 土師器 坏	口 12.4 底 5.0 高 3.9	口縁部～内面ヨコナデ。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	白色・灰色・透明・赤褐色粒多。良好。	口縁～体部完存 底部 1/2 No.1,3,5
17 土師器 坏	口 12.4 底 5.0 高 3.1	口縁部～内面ヨコナデ。外面体部押圧痕あり。底部無調整。	内 10YR5/1 褐灰 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色・灰色・赤褐色粒多。金色雲母微。良好。	口縁～体部 2/3 底部完存 No.6,7,13,14
18 土師器 坏	口 12.0 底 5.8 高 4.0	口縁部～内面ヨコナデ。内面黒色処理。外面体部押圧痕あり。底部砂目。	内 10Y2/1 黒 外 10YR6/6 明黄褐	白色・赤褐色粒多。黒色細粒混入。良好。	完存 No.10

SX-166

1 土師器 坏	口 (13.0)	内外面ロクロナデ。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 "	白色微粒・透明粒微。良好。	口縁部 1/12 上面
2 土師器 坏	底 6.0	黒色処理・内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・透明・赤褐色粒微。良好。	体部下位 1/3 底部完存 上面
3 土師器 高台付坏	高台 (7.8)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	白色・透明・赤褐色粒少。良好。	高台 1/2 底部完存上面
4 灰軸陶器 椀		外面全面灰釉を施す。虎渓山 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部 1/12 上面

SX-167

1 土師器 坏	口 (19.0) 底 (9.0) 高 8.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部ヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	微砂粒・黒色粒多。良好。	口縁部・体部・底部 1/3 上面
2 土師器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 7.5YR6/4 にぶい橙 外 2.5Y3/1 黒褐	透明粒・黒色細粒多。良好。	体部下位～底部 1/2 上面

SX-169

1 土師器 坏	口 (14.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部に墨書「千万」あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色・透明細粒微。良好。	口縁～体部 1/4 上面
2 土師器 坏	口 (12.0) 底 (6.6) 高 4.3	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色細粒少。	口縁部一部 底部 1/2 上面
3 土師器 坏	口 (12.8) 底 (8.1) 高 4.3	内外面ロクロナデ。内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。口縁部摩耗。	内 N2/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色・黒色微粒少。良好。	口縁～底部 1/4 上面
4 土師器 坏	底 7.2	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラケズリ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒・赤褐色粗粒少。良好。	底部 2/3 上面
5 土師器 坏	底 (7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	赤褐色粗粒微。黒色細粒灰色粒多。	体部下位～底部 1/3 上面
6 土師器 高台付坏	高台 (8.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部手持ちヘラケズリ。高台貼り付け、ロクロナデ。	内 N2/0 黒 外 10YR5/3 にぶい黄橙	白色細粒微。銀色雲母混入。	底部 1/2 上面
7 灰軸陶器 椀	口 (14.8)	ロクロナデ後、内面～口縁部外面灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	精良。良好。	口縁部 1/12 上面
8 灰軸陶器 皿	高台 (6.8)	内面灰釉施す。外面ロクロナデ。体部下端～底部回転ヘラケズリ。黒笹 14 号窯式②。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y8/1 灰白	精良。良好。	底部 1/5 上面
9 灰軸陶器 椀	高台 (8.2)	内面に灰釉ハケ塗り。底部回転ヘラケズリ。光ヶ丘 1 号窯式。	内 10YR7/1 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	精良。良好。	底部 1/3 上面
10 製塩土器	口 (10.4)	内面ヘラナデ。外面押圧痕、粘土接合痕あり。	内 7.5YR5/6 明褐 外 "	白色粒やや多。金色雲母・白色針状物微。	口縁部 1/4 上面
11 土師器 甕	口 (10.6)	内面～口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内 7.5YR4/2 灰褐 外 7.5YR3/2 黒褐	灰色粒・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/8 上面

SX-170

1 土師器 坏	口 (12.6) 底 6.6 高 4.2	内面黒色処理・ヘラミガキ(口縁部～体部ヨコ方向、底部一方向)。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色細粒多。良好。	口縁～体部 1/3 底部 1/2 上面
2 土師器 坏	口 (12.6) 底 6.8 高 4.1	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転系切り。	内 N2/0 黒 外 5YR5/6 明赤褐	紫褐色粒少・黒色細粒少。良好。	口縁部 1/3 底部完存 上面
3 須恵器 坏	口 (13.2) 底 6.0 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 N6/0 灰 外 "	黒色細粒やや多。良好。	口縁～体部 2/5 底部ほぼ完存 上面

SX-192

1 須恵器 甕		内外面ロクロナデ。外面下半回転ヘラケズリ、釉付く。大戸産。	内 7.5Y5//1 灰 外 7.5Y6/1 灰	白色細粒多。	胴部一部 下層
2 灰軸陶器 椀	高台 (7.4)	外面全面ロクロナデ。内面灰釉施す。黒笹 14 号窯式②。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	体部一部 高台 1/6 92-210 埋土中
3 灰軸陶器 椀		内外面ロクロナデ。内面に厚く灰釉施す。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y7/2 灰白 外 "	白色微粒少。黒色細粒微。良好。	底部一部 92-240 埋土中

第2次調査区

SX-246

1 土師器 高台付坏	口 (14.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面体部・底部ロクロナデ。外面にタール付着。	内 N2/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色細粒・透明粗粒少。黒色細粒混入。良好。	口縁～体部 1/5 底部完存 上面
2 土師器 坏	口 (13.6)	内面ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 7.5YR 橙 外 2.5Y7/3 浅黄	灰色細粒・黒色細粒多。赤褐色粒微。良好。	口縁部～体部 1/4 上面
3 土師器 坏	口 (14.4)	内外面ロクロナデ。	内 10YR5/2 灰黄褐 外 10YR3/1 黒褐	灰色微粒・赤褐色粒微。良好。	口縁部～体部 1/6 上面
4 須恵器 坏	口 (11.4) 底 6.4 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 5YR6/6 橙 外 "	白色・黒色細粒少。透明粒少。赤褐色粒混入。良好。	1/2 上面
5 須恵器 坏	底 (6.2)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三鑫産。	内 N5/0 灰 外 "	白色粒少。良好。	体部下位～底部 1/4 上面

第2次調査区

SX-246

6 土師器 甕	口 (20.4)	内外面口縁部ヨコナデ。内外面胴部ナデ。外面胴部条線状の工具痕あり。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色粒・灰色粒・赤褐色粒・黒色細粒多。金色雲母混入。良好。	口縁部 1/6 上面
7 土師器 甕	口 (21.8)	内外面口縁部ヨコナデ。内外面胴部ナデ。外面胴部押圧痕あり。	内 10YR7/2 にぶい黄橙 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色粒・灰色粗粒・赤褐色粒・透明粒・黒色細粒多。良好。	口縁部 1/6 上面

SX-331

1 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	透明微粒多。白色微粒少。良好。	底部一部欠 高台上半 完存 2層(上層)
---------------	--	-----------	------------------------	-----------------	-------------------------

SX-377

1 灰釉陶器 長頸壺		内外面ロクロナデ。体部外面下半回転ヘラケズリ。井ヶ谷 78 号窯式。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	白色微粒多。良好。	頸部下半 4/5 体部中 位 1/3 埋土中
---------------	--	------------------------------------	--------------------	-----------	---------------------------

第11次調査区

SX-805

1 須恵器 蓋		つまみ下面糸切り後、沈線施す。	外 5YR6/6 橙	白色・黒色細粒。良好。	つまみ完形 60-155,185 上層
2 土師器 坏	底 7.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転糸切り。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色粗粒。灰色粒。白色粒。赤褐色粒。良好。	底部 1/6 60-155,185 上層
3 土師器 坏	底 6.0	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/6 明黄褐	白色・灰色細粒。赤褐色粒。不良。	体～底部 1/2 60-185,186,187 2層
4 灰釉陶器 椀か	高台 (6.8)	外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。内面底部外面のぞき薄く施釉。黒笹 90 号窯式。墨書大口あり。	内 5Y8/1 灰白 外 2.5Y8/2 灰白	白色細粒。良好。	底部 1/2 60-220 上面
5 緑釉陶器 皿	口 (14.6) 高台 (7.0) 高 3.1	外面回転ヘラケズリ。高台接地面をのぞき内外面全面に緑釉施す。美濃又は猿投産。	内 10Y3/2 オリーブ黒 外 "	白色細粒。良好。	口縁部 1/3 底部 2/5 60-216 上面
6 灰釉陶器 皿	口 (14.2)	内外面灰釉施す。光ヶ丘 1 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 7.5Y7/1 灰白	精良。良好。	体部 1/6 60-185 上面
7 灰釉陶器 椀		外面体部下位回転ヘラケズリ。体部内外面に灰釉施す。ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒。良好。	体部 1/8 60-220 上面
8 灰釉陶器 椀	高台 (7.2)	内外面・底部ロクロナデ。底部内外面暗灰色。宮口窯 吉名 1・2 号窯併行。	内 5Y4/1 灰 外 5Y5/1 灰	白色粒。白色細粒。良好。	底部 1/4 60-156, 157,186,187, 1層
9 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	外面底部ロクロナデ。内面の見込みを除き灰釉薄く施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y8/2 灰白	白色細粒。良好。	高台 1/4 60-156, 157,186,187, 1層
10 灰釉陶器 椀	高台 (7.2)	外面体部・底部ロクロナデ。内面の見込みを除き灰釉薄く施す。ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y5/2 灰オリーブ 外 10Y6/1 灰	白色細粒。黒色微粒。良好。	高台 1/4 60-156, 157,186,187, 1層
11 灰釉陶器 椀か皿	高台 (7.0)	底部回転ヘラケズリ。内面厚く灰釉施す。重ね焼痕あり。折戸 53 号窯式。	内 10Y6/1 灰 外 10Y7/1 灰	白色微粒。良好。	高台 1/4 60- 156,157,186,187,188 上層 1層
12 灰釉陶器 椀	高台 (7.0)	外面体部ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。内面見込みを除き灰釉施す。折戸 53 号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 7.5Y7/1 灰白	白色粒。黒色微粒。良好。	高台 1/4 60-157, 187,188 上層
13 灰釉陶器 蓋		外面に厚く灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 7.5Y6/2 灰オリーブ	白色細粒。良好。	口縁部一部 60-156, 157,186,189, 1層
14 灰釉陶器 壺	高台 (8.8)	内面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後、ロクロナデ。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒。白色微粒。良好。	体部下位～底部 1/4 1層
15 土師器 甕	口 (11.8)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ヘラケズリ。外面にスス厚く付く。	内 7.5YR8/4 浅黄橙～ 2/1 黒 外 2.5Y2/1 黒	黒色細粒多。白色細粒。赤褐色粒。金色雲母。良好。	口縁部 1/5 上面

遺構外

第1次調査区

1 灰釉陶器 椀	高台 (7.4)	外面体部～底部回転ヘラケズリ。口縁部内外面に薄く灰釉施す。浜北吉名 6 号窯期。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	体部下半～底部 1/4 93-225 1層
2 灰釉陶器 皿	口 (14.2) 高台 (7.0) 高 3.5	底部外面回転ヘラケズリ。内面に厚く灰釉施す。黒笹 14 号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒。良好。	口縁部一部 底部・高 台 1/3 93-187 2層, 93-251 1層
3 灰釉陶器 皿	口 13.4	口縁部～体部内外面に灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白～ 2.5Y6/1 黄灰 外 5Y7/1 灰白	白色細粒。良好。	口縁部 1/6 93-227 1層
4 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部 1/10 93-221 1層
5 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y7/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-216 1層
6 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/2 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-223 1層
7 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-219 1層
8 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y7/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-311 1層
9 灰釉陶器 椀		口縁内面に沈滞あり。口縁部内外面に灰釉薄く施す。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-218 1層
10 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-216 2層
11 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-334 1層

第4章 発見された遺物

遺構外

第1次調査区

12	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-227 1層
13	灰釉陶器 皿		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-185 2 層, 93-216 1層
14	灰釉陶器 椀		外面下端回転ヘラケズリ。内面～体部中位外面に灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	精良。良好。	体部 1/12 92-205 2層
15	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-191 1層
16	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。ハケ塗りか。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-216 1層
17	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部 1/12 92-269 1層
18	灰釉陶器 椀		内面～外面体部上位に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y6/2 灰オリーブ	精良。良好。	口縁部一部 93-227 1層
19	灰釉陶器 椀		内外面体部上半に薄く灰釉施す。発色不良。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-311 2層
20	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y8/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-227 1層
21	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-190 1層
22	灰釉陶器 椀		内面のみ灰釉を厚く施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 92-131 1層
23	灰釉陶器 皿		内面のみ灰釉を薄く施す。産地不明。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-221 1層
24	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。口縁部内面に沈線あり。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-311 1層
25	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y6/2 灰オリーブ	精良。良好。	口縁部一部 93-190 1層
26	灰釉陶器 皿		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y8/2 灰白 外 5Y8/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 92-238 1層
27	灰釉陶器 椀		内面～口縁部外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 "	精良。良好。	口縁部一部 93-220 1層
28	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-221 1層
29	灰釉陶器 椀		内外面に灰釉を厚く施す。外面に重ね焼き痕あり。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 7.5Y8/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-217 1層
30	灰釉陶器 椀		体部内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/1 灰白 外 "	白色細粒。良好。	口縁部 1/10 93-190 1層
31	灰釉陶器 椀		体部外面回転ヘラケズリ。内外面全面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部・体部一部 93-227 1層
32	灰釉陶器 椀か		体部内面に灰釉を施す。黒笹 90 号窯式。	内 7.5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y7/3 浅黄	精良。良好。	高台部 1/6 93-332 1層
33	灰釉陶器 椀	高台 (7.4)	底部外面全面回転ヘラケズリ。体部内外面・底部中央に灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 10Y7/1 灰白～ 5Y8/1 灰白 外 5Y7/1 白灰～ 6/1 灰	精良。良好。	体部下位～底部 1/4 93-192 2層
34	灰釉陶器 椀か	高台 (6.2)	底部外面全面回転ヘラケズリ。体部内外面に薄く灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	底部 1/3 93-311 1層
35	灰釉陶器 椀か	高台 (7.0)	底部外面外周を除き、中央部と体部内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 10Y8/2 灰白 外 10Y7/2 灰白	精良。良好。	高台 1/8 93-186 2層
36	灰釉陶器 椀か	高台 (6.4)	底部内面に薄く灰釉施す。発色不良。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/2 灰白 外 2.5Y7/1 灰白	精良。良好。	高台 1/4 93-188 1層
37	灰釉陶器 椀か	高台 (8.4)	底部外面全面回転ヘラケズリ。体部内面灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 "	精良。良好。	高台一部 底部 1/2 92-238 1層
38	灰釉陶器 椀か	高台 (8.0)	底部外面全面回転ヘラケズリ。体部内面に薄く灰釉施す。折戸 53 号窯式。	内 5Y5/2 灰オリーブ 外 "	白色細粒。良好。	高台 1/6 93-221 1層
39	灰釉陶器 椀		底部外面口ロナデ。体部に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 2.5Y8/1 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	精良。良好。	底部 1/4 93-190 1層
40	灰釉陶器 椀か		底部外面回転ヘラケズリ。内面無釉。光ヶ丘 1 号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	高台一部 93-216 1層
41	灰釉陶器 椀	高台 (6.8)	底部外面口ロナデ。体部外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	1/4 92-203 2層
42	灰釉陶器 椀か	高台 (6.6)	底部外面回転ヘラケズリ。底部内面無釉。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	底部 1/4 表採
43	灰釉陶器 椀		底部外面回転ヘラケズリ。底部内面中央部に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 10Y7/1 灰白	精良。良好。	高台 1/6 93-193 1層
44	灰釉陶器 椀		体部内外面灰釉ハケ塗りか。黒笹 90 号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 "	精良。良好。	体部・高台一部 92-154 1層
45	灰釉陶器 椀か		底部内外面無釉。光ヶ丘 1 号窯式。	内 7.5Y8/1 灰白 外 "	精良。良好。	高台一部 93-192 1層
46	灰釉陶器 段皿		底部外面回転ヘラケズリ。内面灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y8/2 灰白 外 2.5Y8/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 93-191 1層
47	灰釉陶器 長頸瓶		内外面口ロナデ。内外面灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 10Y8/1 灰白 外 10Y6/2 オリーブ灰	精良。良好。	口縁部 1/6 93-295 1層
48	灰釉陶器 長頸瓶	口 (13.4)	内外面に灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 5Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部 1/8 93-281 1層

遺構外

第1次調査区

49	灰軸陶器 か、瓶		体部外面に釉あり。高台剥離。井ヶ谷78号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y6/2 灰オリーブ	精良。良好。	体部下位 1/6 93-295 1層
50	緑軸陶器 椀		内外面に緑釉施す。黒笹90号窯式後半。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 10Y6/2 オリーブ灰	精良。良好。	口縁部一部 93-217 2層
51	緑軸陶器 椀		内外面に緑釉施す。黒笹90号窯式後半。	内 7.5Y5/3 灰オリーブ 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁部一部
52	緑軸陶器 輪花皿		黒笹90号窯式後半。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 10Y4/2 オリーブ灰	精良。良好。	口縁部一部 93-226 1層
53	土師器 坏	口 (11.4) 底 (7.0) 高 3.5	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロロナデ。底部回転糸切り後、外周手持ちヘラケズリ。	内 7.5Y1.7/1 黒 外 7.5Y6/6 橙～1.7/1 黒	白色細粒。良好。	口縁～底部 1/4 93-223 1層
54	製塩土器		内面ナデ。外面押圧痕。	内 5YR6/6 橙 外 7.5YR6/8 橙	白色・透明・黒色微粒・白色針状物やや多。不良。	体部一部 93-311 1層
55	土師器 坏	口 (13.0) 底 (7.0) 高 3.5	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロロナデ。底部回転糸切り。	内 5YR6/4 にぶい橙 外 "	白色粒。橙色細粒。良好。	口縁部一部 底部 1/6 表採
56	土師器 甕	底 (8.0)	内面ナデ。胴部外面ケズリ。底部糸切り。	内 2.5YR7/8 橙 外 5YR7/6 橙	白色微粒多。透明・白色・赤褐色細粒少。良好。	底部 1/3 92-190
57	土製品 紡錘車	外径 (5.0) 厚 1.5 孔径 (0.4) 重 14.23	表面は全面ミガキ。	外 10YR4/1 褐灰	白色微粒・赤褐色細粒少。	1/4 93-11.19 1層
58	土師器 転用紡錘車	外径 (7.0) 厚 0.7 孔径 (1.0) 重 11.93	図中上面はミガキ。下面は回転糸切り。土師器坏の転用品で内面側から穿孔。	外 5YR6/8 橙	赤褐色細粒少。白色・灰色微粒少。良好。	1/4 93-281 1層
59	土製品 土錘	外径 1.3 長 4.7 孔径 0.4 重 4.43	表面ナデ。	外 7.5YR7/6 橙	赤褐色細粒やや多。良好。	表土
60	土製品 土錘	外径 1.7 長 3.3 孔径 0.3 重 8.01	表面ナデ。	外 2.5Y4/1 黄灰	白色微粒多。白色細粒やや多。赤褐色細粒少。不良。	一部欠 表土
61	土師器 坏	底 (6.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロロナデ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 2.5Y8/2 灰白	白色・黒色・透明細粒少。不良。	体部下位～底部 1/4 93-295 1層
62	土師器 坏	底 (7.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロロナデ。底部回転糸切り。体部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色・黒色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/4 93-220 2層
63	土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「大口」あり。	内 N2/0 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	白色・透明細粒微。良好。	口縁部一部 93-217 2層
64	土師器 坏		内面黒色処理・ミガキ。外面クロロナデ。体部外面に墨書「本」あり。	内 N2/0 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	赤色細粒多。黒色細粒少。良好。	口縁部一部 93-217 2層
65	須恵器 坏		底部回転糸切り。底部外面に墨書あり。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 2.5Y6/2 灰黄	黒色細粒多。白色細粒微。良好。	底部一部 93-294 1層
66	土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面に墨書「口上」あり。	内 N2/0 黒 外 10YR6/3 にぶい黄橙	白色・透明細粒少。赤色細粒微。良好。	口縁部 1/8 93-333 1層
67	土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色・黒色・橙色細粒・微。良好。	口縁部一部 93-332 1層
68	土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。体部外面に墨書「万」か。	内 N2/0 黒 外 10YR7/3 にぶい黄橙	白色・黒色細粒微。良好。	体部下半～底部一部 93-185 2層

第2次調査区

1	灰軸陶器 壺		口縁部～頸部内面に灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 5Y8/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 43-146 2層
2	灰軸陶器 椀		体部内外面に灰釉漬け掛け。大原2号窯式。	内 7.5Y6/3 オリーブ黄 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部一部 59-832 2層
3	灰軸陶器 段皿	口 (14.3) 高台 (7.4) 高 2.5	内外面灰釉漬け掛け。虎渓山1号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	白色・黒色微細粒微。良好。	口縁部 1/6 高台 1/3 59-562 2層
4	灰軸陶器 皿		釉発色不良。虎渓山1号窯式。	内 N7/0 灰白 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部一部 43-713 2層
5	灰軸陶器 椀		体部内外面に灰釉漬け掛け。虎渓山1号窯式。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒少。良好。	口縁部 1/8 43-653 2層
6	灰軸陶器 椀		体部上半に灰釉漬け掛け。虎渓山1号窯式。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 "	精良。	口縁部一部 体部下半 1/6 43-804 2層
7	灰軸陶器 蓋	口 (11.2) 底 5.1 高 3.0	外面つまみ～天井部に灰釉施す。虎渓山1号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	白色・黒色微粒少。良好。	1/6 59-564 1層
8	灰軸陶器 椀か	高台 (7.8)	虎渓山1号窯式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	透明・黒色微粒多。良好。	底部 1/4 59-143 2層
9	灰軸陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	精良。良好。	口縁部一部 59-711 1層
10	灰軸陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	精良。良好。	口縁部一部 59-444 2層
11	灰軸陶器 椀か	高台 (5.4)	底部全面回転ヘラケズリ。内面底部外周に灰釉施す。大原2号窯式。	内 5Y7/3 浅黄 外 "	黒色細粒。良好。	底部 1/2 表採
12	灰軸陶器 椀	高台 (7.4)	底部外面クロロナデ。底部内面外周に灰釉施す。大原2号窯式。	内 10Y8/2 灰白 外 10Y8/3 淡黄	白色・黒色細粒微。良好。	底部 1/4 59-711 1層
13	灰軸陶器 椀か		底部内面無釉。大原2号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	高台一部 43-414 2層
14	緑軸陶器 椀		内外面緑釉施す。黒笹90号窯式後半。	内 7.5Y6/3 灰オリーブ 外 "	黒色・透明細粒微。良好。	口縁部一部 59-376 2層
15	土師器 坏	底 (9.0)	内面ヘラミガキ。底部外面ヘラケズリ。	内 2.5YR5/8 明赤褐 外 "	赤褐色粒。良好。	底部 1/2 59-84 2層
16	土師器 高台付坏	高台 (6.8)	内外面クロロナデ。底部回転糸切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 ～5Y6/8 橙 外 "	黒色細粒。赤褐色粒。良好。	体部一部 底部 1/2 59-624 2層

第4章 発見された遺物

遺構外

第2次調査区

17	土師器 鉄鉢形	口 (21.6)	内外面ロクロナデ。	内 2.5Y8/1 灰白 外 10YR7/3 にぶい黄橙	黒色細粒多。赤褐色粒少。良好。	口縁部 1/12 43-384, 414 1層
18	土師器 蓋		蓋内面ヘラミガキ。つまみ面取り五角形。	内 7.5YR7/6 橙 外 "	黒色・透明微粒多。白色・灰色細粒少。赤褐色細粒やや多。良好。	つまみ一部欠 表採
19	須恵器 蓋		蓋内面ロクロナデ。つまみ面取り八角形。土師器模倣須恵器蓋。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	つまみ一部欠 59-384 1層
20	土師器 甌		内面・底部ケズリ。胴部横から穿孔。孔径1.5cmほど。	内 10YR6/4 にぶい橙 外 10YR7/4 にぶい橙	白色・透明・灰色細粒やや多。黒色・赤褐色粒少。良好。	底部一部 59-744 1層
21	土師質 火鉢		内面ロクロナデ。外面上半連続刺突文、下半不明。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 7.5YR4/4 褐	白色微粒少。赤褐色細粒やや多。良好。	体部一部 43-265 2層
22	製塩土器		内面ナデ。外面押厚痕。口縁部ケズリ。平鉢形。	内 7.5YR6/6 橙 外 10YR7/4 にぶい橙	白色・透明・黒色微粒多。灰色・赤褐色細粒少。白色針状物含む。良好。	体部一部 59-504 1層
23	製塩土器		内面ナデ。外面押厚痕。	内 2.5YR6/4 にぶい橙 外 7.5YR7/6 橙	白色・黒色・透明微粒少。金色雲母少。不良。	体部一部 59-144 2層
24	製塩土器		内面ナデ。外面押厚痕。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 "	白色針状物やや多。白色・透明微粒やや多。黒色微粒少。良好。	体部一部 59-317 2層
25	製塩土器		内面ナデ。外面粗いナデ。	内 7.5YR7/3 にぶい橙 外 7.5YR7/6 橙	白色・黒色微粒多。白色針状物・金色雲母多。不良。	底部一部 43-833 2層
26	土製品 土錘	外径 1.6 孔径 0.3 ~ 0.1 重 6.78	表面ナデ。粘土接合痕あり。孔が小さい。	外 2.5Y6/2 灰黄	白色微・赤褐色細粒少。良好。	一部欠 43-383 2層
27	土製品 土錘	外径 2.3 孔径 0.7 重 17.26	表面押圧・ナデ。	外 5YR7/6 橙	透明・白色微粒やや多。赤褐色細粒少。白色・灰色礫少。	一部残 59-562 2層
28	須恵器 甕		頸部外面カキ目。内面に自然袖付く。三甕産。	内 7.5Y8/3 黄灰~ 5/1 灰 外 7.5Y6/1 灰~ 4/3 暗オリーブ	白色細粒。良好。	口縁部 1/12 93-295 1層
29	須恵器 高台付坏		内面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。高台剥離。三甕産。	内 2.5Y5/2 暗黄灰 外 5Y7/1 灰白	黒色細粒。良好。	底部 2/3 93-222 1層
30	須恵器 坏	底 (7.2)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三甕産。	内 7.5Y5/1 灰 外 5Y7/2 灰白	白色・黒色細粒微。やや不良。	底部 1/4 93-331 1層
31	須恵器 坏	底 (7.8)	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後、ナデ。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒少。白色礫微。良好。	体部下位~底部 1/4 93-294 1層
32	須恵器 壺		内外面ロクロナデ。内面粘土接合痕あり。内面に黒漆付着。	内 N3/0 暗灰 外 N4/0 灰	白色微粒少。良好。	頸部中位 2/5 77-241, 242 1層
33	須恵器 高台付坏	高台 (9.3)	内外面ロクロナデ。東海産か。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y6/1 灰	微砂粒。	底部 1/8 92-245 2層
34	須恵器 坏	底 (10.0)	底部ヘラ切り後、ナデ。底部外面焼成前ヘラ記号あり。三甕産か。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 10YR7/2 にぶい黄橙	灰色粒少。透明細粒微。不良。	底部 1/4 59-24 1層
35	須恵器 坏	口 12.4 底 6.0 高 4.4	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三甕産。	内 5Y7/2 灰白 外 "	赤色粗粒多。白色細粒少。黒色粒微。良好。	口縁部・体部 1/2 底部完存 43-654 1層
36	須恵器 坏	底 6.0	底部ヘラ切り。内面に朱付着する。益子産。	内 2.5YR4/8 赤褐 外 5Y5/1 灰	白色細粒少。良好。	底部 1/6 59-144 2層
37	須恵器 高台付坏	高台 8.4	底部ヘラ切り後、外周ロクロナデ。三甕産か。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	灰色粒少。礫少。白色細粒微。良好。	底部完存 体部下位一部 59-474 1層
38	須恵器 高台付坏	高台 7.8	底部回転系切り後、高台貼り付け・ロクロナデ。三甕産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色・白色細粒少。良好。	底部完存 59-377 1層
39	須恵器 高台付坏	高台 10.0	底部全面回転ヘラケズリ後、ロクロナデ。焼成前ヘラ記号あり。益子産。	内 5Y6/1 灰 外 2.5Y5/1 黄灰	白色細粒多。白色礫少。良好。	高台 1/2 底部ほぼ完存 59-474 1層
40	須恵器 盤	高台 (14.4)	内面ロクロナデ。三甕産。	内 5Y7/1 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	灰色細粒少。白色細粒微。良好。	底部 1/8 43-744 2層
41	須恵器 盤	高台 (12.2)	底部外面回転ヘラケズリ。三甕産。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y6/1 灰	白色細粒少。やや不良。	底部 1/6 59-294 1層
42	須恵器 高台付坏	高台 (8.2)	底部全面回転ヘラケズリ。益子産。	内 2.5Y5/0 黄灰 外 5Y5/1 灰	白色細粒多。白色礫微。良好。	体部下位 1/4 底部完存 43-834 1層
43	須恵器 高坏		内面ロクロナデ。脚透しを付ける。新治産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒やや多。白色粒少。銀色雲母少。良好。	坏部~脚部上端 1/4 59-594 1層
44	須恵器 壺	高台 (8.2)	内面ロクロナデ。内面にヘラ状工具による数本の沈線あり。外面回転ヘラケズリ。大戸産。	内 10GY6/1 緑灰 外 N7/0 灰白	白色粗粒多。良好。	体部下位 1/4 59-710 1層
45	須恵器 壺		内外面ロクロナデ。外面に人面墨書か。	内 2.5Y7/1 灰白 外 2.5Y6/1 黄灰	白色微粒・灰色細粒少。良好。	体部一部 43-654 1層
46	須恵器 鉄鉢形	口 (21.8)	内外面ロクロナデ。三甕産。	内 5Y7/1 灰白 外 "	灰色・白色粗粒。やや不良。	口縁部 1/6 59-287, 371 1層
47	須恵器 甕		頸部ロクロナデ。外面 1 本描き波状文。南比企産。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色・黒色微粒多。白色・黒色礫少。白色針状物。良好。	頸部一部 土山表採
48	土師器 高台付坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。底部回転ヘラケズリか。底部外面に墨書あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色・黒色細粒少。良好。	底部 1/2 43-864 1層
49	土師器 坏	底 (8.0)	内面黒色処理・ヘラミガキ。底部外面焼成前ヘラ記号あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色細粒少。赤色・黒色・透明細粒微。良好。	底~体部下位 1/4 土山表採
50	須恵器 坏		内外面ロクロナデ。体部外面に墨書あり。	内外 2.5Y7/1 灰白~ 4/1 黄灰	白色・黒色細粒微。不良。	口縁~体部一部 43-774 1層

遺構外

第4次調査区

1 灰釉陶器 椀		内外面に薄く灰釉施す。黒笹90号窯式①。	内 5Y7/1 灰 外 "	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 79-243,244
2 灰釉陶器 椀か	高台 (7.4)	体部内面に灰釉施す。重ね焼痕あり。黒笹90号窯式①。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	高台 1/5 76-267, 268 1層
3 灰釉陶器 椀		内外面に厚く灰釉施す。黒笹90号窯式②。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	精良。良好。	口縁部一部 上山表採
4 灰釉陶器 皿		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式②。	内 5Y7/2 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 77-275 1層
5 灰釉陶器 皿		内面のみ灰釉施す。黒笹90号窯式②。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 2.5Y7/1 灰白	黒色細粒多。	口縁部一部 76-267,268
6 灰釉陶器 椀		体部内外面全面に灰釉施す。ハケ塗り。黒笹90号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	白色・黒色微粒少。黒色粒微。	底部一部 76-267 1層
7 灰釉陶器 椀か		底部内面に灰釉施す。黒笹90号窯式②。	内 5Y8/2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	白色細粒少。良好。	底部一部 77-299,300 1層
8 灰釉陶器 瓶		内画面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色微粒少。良好。	口縁部一部 76-267,268
9 緑釉陶器 皿か	高台 (7.6)	内外面緑釉施す。篠岡4号窯式後半。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 "	白色・黒色微粒少。白色細粒少。良好。	高台 1/6 土山表採
10 土師器 高台付坏	高台 (7.8)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 10YR1.7/1 黒 外 10YR6/2 灰黄褐	白色微粒。黒色細粒。良好。	底部 1/2 土山表採
11 土師器か		内外面ココナデ。外面に沈線あり。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色微粒やや多。赤褐色細粒少。良好。	口縁部一部 76-360, 390 1層

第6次調査区

1 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒少。良好。	口縁部一部 60-240,270 1層
2 砥石	長 (3.9) 幅 3.4 厚 0.8	短軸4面が砥面で、図中上方は蛤歯のように薄くなる。下方は欠損。	表 2.5Y5/1 黄灰 裏 10YR6/3 にぶい黄橙		一部 60-240, 270 1層
3 須恵器 坏	底 6.6	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。三産産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	灰色粒少。白色細粒微。良好。	底部 1/2 表採

第7次調査区

1 灰釉陶器 椀か	高台 (6.4)	内面クロコナデ。黒笹14号窯式②。	内 2.5Y7/1 灰 外 "	透明・白色・黒色微粒少。良好。	高台 1/6 1層
2 灰釉陶器 椀か皿	高台 (6.8)	内面に灰釉施す。黒笹90号窯式③。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 2.5Y7/1 灰白	黒色微粒多。白色微粒少。良好。	底部 1/6 60-809 1層
3 灰釉陶器 椀か皿	高台 (6.8)	内面に灰釉施す。黒笹90号窯式③。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	黒色微粒多。黒色細粒少。良。	底部 1/5 60-718,719 1層

第8次調査区

1 緑釉陶器 皿	口 (14.6) 高台 7.4 高 3.2	ミガキ後、高台接地面に緑釉施す。黒笹90号窯式後半。	内 7.5Y5/3 灰オリーブ 外 "	黒色微粒少。赤褐色細粒少。良好。	底・高台 1/6 92-869 1層
2 須恵器 瓶		内外面クロコナデ。体部下半縦方向ヘラケズリ。大戸産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色粒微。良好。	体部一部 108-30, 60 1層
3 須恵器 坏		内外面クロコナデ。内面に自然釉。猿投産の無台坏。井ヶ谷78号～黒笹14号窯式併行。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y6/1 灰	黒色細粒微。良好。	口縁～体部一部 92-868 1層
4 須恵器 坏	底 (6.2)	内外面クロコナデ。体部下位・底部手持ちヘラケズリ。三和産。	内 5YR6/2 灰褐 外 2.5Y7/2 灰黄～2/1 黒	透明・白色微粒やや多。白色細粒少。良好。	底部 1/2 108-30, 60 1層
5 須恵器 坏		内面・体部外面クロコナデ。底部回転糸切り後、外周手持ちヘラケズリ。宇都宮産。	内 5Y7/2 灰白 外 "	白色微粒多。良好。	底部一部 108-30, 60 1層
6 須恵器 蓋		内外面クロコナデ。外面回転ヘラケズリ。墨書「寺」か。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色・透明・黒色微粒やや多。良好。	天井一部 109-91, 121 1層
7 土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。底部・体部外面ヘラケズリ。墨書あり。	内 10YR2/1 黒 外 7.5YR6/6 橙	白色微粒・赤褐色細粒少。良好。	体部～底部一部 92-867 1層
8 土師器 坏		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ。墨書あり。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	赤色・黒色細粒少。良好。	体部一部 109-91, 121 1層

第9次調査区

1 灰釉陶器 壺	高台 (13.4)	内面クロコナデ。底部全面回転ヘラケズリ。中央部灰釉塗る。産地不明。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色・黒色細粒少。良好。	底部 1/5 1層
2 須恵器 甕		内外面クロコナデ。胴部外面に焼成前の刻書「御願」あり。	内 7.5Y4/1 灰 外 "	白色微粒やや多。白色細粒少。良好。	胴部一部 1層

第10次調査区

1 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y8/2 灰白 外 7.5Y8/2 灰白	精良。良好。	口縁部一部 58-779 1層
2 土師器 坏	口 (11.2) 底 5.1 高 3.0	内外面クロコナデ。底部回転糸切り。	内 5YR4/2 灰褐 外 5YR6/6 橙	灰色・赤褐色細粒やや多。良好。	口縁部 1/6 底部完存 58-717 1層

第11次調査区

1 灰釉陶器 椀	口 (14.0)	内面～体部外面に薄く灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部 1/6 調査区南 西部土山表採
2 灰釉陶器 椀		内面に厚く灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 7.5Y4/3 暗オリーブ 外 7.5Y8/1 灰白	精良。良好。	口縁部 1/8 60-581 1層
3 灰釉陶器 椀		体部内面のみ灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 10Y7/1 灰白	精良。良好。	口縁部一部 60-702 1層
4 灰釉陶器 椀		内外面に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y6/1 灰 外 "	精良。良好。	口縁部 1/12 60-100 1層

第4章 発見された遺物

遺構外

第11次調査区

5 灰釉陶器 椀		体部・口縁部に灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 60-641 1層
6 灰釉陶器 椀		内外面に厚く灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y7/1 灰白 外 "	精良。良好。	口縁部一部 60-608, 609 1層
7 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	底部回転ヘラケズリ。体部外面・内面全面に厚く灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 N8/1 灰白 外 2.5GY8/2 灰白	白色細粒。良好。	底部～体部下位 1/4 60-702 1層
8 灰釉陶器 椀	高台 (7.4)	底部回転ヘラケズリ。体部内面に灰釉施す。重ね焼き痕あり。黒笹90号窯式。	内 10Y6/2 オリーブ灰 外 5Y7/3 浅灰	黒色細粒やや多。良好。	底部 1/4 60-105 1層
9 灰釉陶器 椀	高台 (9.0)	体部下半・底部回転ヘラケズリ。体部内外面に灰釉ハケ塗り。黒笹90号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 7.5Y8/1 灰白	黒色・白色細粒。良好。	体部下位～底部 1/4 調査区北西土山表採
10 灰釉陶器 椀か	高台 (9.0)	体部下半・底部回転ヘラケズリ。内外面に灰釉施す。光ヶ丘1号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 "	黒色細粒。良好。	底部 1/4 調査区北西土山表採
11 灰釉陶器 椀か	高台 (7.6)	底部全面回転ヘラケズリ。体部内外面に灰釉施す。重ね焼き痕あり。黒笹90号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 "	黒色細粒少。白色細粒微。良好。	底部完存 北東半部 1層
12 灰釉陶器 椀	高台 (8.0)	底部回転ヘラケズリ。内外面とも無釉。光ヶ丘1号窯式。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 "	精良。良好。	高台 1/6 60-554 最上層
13 灰釉陶器 段皿		底部回転ヘラケズリ。内面口縁部薄く、底部厚く灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 10Y7/2 灰白 外 7.5Y6/1 灰	黒色・白色細粒微。良好。	口縁部 1/6 60-608, 609 1層
14 灰釉陶器 段皿		底部回転ヘラケズリ。内外面灰釉施す。黒笹90号窯式。	内 7.5Y8/3 淡黄 外 2.5Y8/2 灰白	黒色細粒。良好。	底部 1/6 60-641 1層
15 緑釉陶器 香炉	口 (9.0)	緑釉発色良好。黒笹90号窯式後半。	内 7.5Y5/3 灰オリーブ 外 7.5Y6/2 灰オリーブ	精良。良好。	体部 1/6 北西部分調査区 表採
16 緑釉陶器 皿		内外面クロコナデ。緑釉を施す。猿投産。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 5Y6/4 オリーブ黄	白色微粒微。黒色細粒微。良好。	口縁部一部 60-220 1層
17 緑釉陶器 皿か	高台 (7.8)	内外面緑釉施す。黒笹90号窯式後半。	内 10Y5/2 オリーブ灰 外 "	白色細粒微。良好。	高台 1/4 60-640, 641 1層
18 土師器 鉢か		口縁部～内面クロコナデ。体部外面回転ヘラケズリ。底部外面ケズリ。	内 5YR7/6 橙 外 5YR6/6 橙	黒色・透明・白色微粒やや多。灰色細粒少。良好。	口縁部一部 60-377, 407 1層
19 土師器 鉄鉢形		内面黒色処理・ヘラミガキ。外面クロコナデ後ミガキ。	内 5Y7/1 灰白～2/1 黒 外 5Y7/1 灰白	白色微粒少。灰色細粒少。良好。	口縁部一部 60-245 調査区北西部上面
20 須恵器 坏	口 (12.6) 底 7.0 高 3.4	内外面クロコナデ。底部回転系切り。三疊産。	内 10Y5/1 灰 外 "	白色細粒少。良好。	体部 2/5 底部 1/2 60-764 1層
21 須恵器 坏	底 6.6	底部回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。南比企産。	内 7.5Y6/1 灰 外 7.5Y5/1 灰	白色細粒多。白色針状物微。良好。	底部 1/4 調査区北東部 土山表採
22 須恵器 坏	底 (6.0)	外面体部下端手持ちヘラケズリ。底部ヘラ切り後手持ちヘラケズリ。焼成前ヘラ記号。堀ノ内産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色細粒微。良好。	底部 1/3 60-105 1層
23 須恵器 蓋	口 (16.8)	内外面クロコナデ。天井部回転ヘラケズリ。天井外面に墨書あり。	内 5Y6/1 灰 外 "	黒色細粒微。灰色微。良好。	天井部 1/5 口縁部 1/8 調査区北東土山表採
24 土師器 坏		内外面クロコナデ後、黒色処理・ミガキ。外面に墨書あり。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/3 淡黄～2/1 黒	白色微粒少。良好。	口縁部一部 60-340 1層
25 土師器 坏		内面黒色処理・内面ミガキ。外面クロコナデ。墨書あり。	内 2.5Y2/1 黒 外 2.5Y8/2 灰白	白色微粒少。赤褐色細粒少。良好。	体部一部 60-100 1層

第14次調査区

1 灰釉陶器 椀	高台 (5.6)	外面回転ヘラケズリ。内面に釉付く。重ね焼き。底部断面黒色。宮口窯吉名1・2号併行。	内 2.5Y7/2 淡黄 外 "	黒色細粒。良好。	底部 1/2 92-563, 593 上面
2 灰釉陶器 椀か	高台 (7.4)	底部内面灰釉ハケ塗り。三ヶ月高台。黒笹90号窯式。	内 5Y7/1 灰白 外 5Y7/2 灰白	黒色微粒。良好。	底部 1/4 上面
3 緑釉陶器 皿か		内外面ミガキ。緑釉施す。トチン痕あり。黒笹90号窯式。	内 5Y5/4 オリーブ 外 5Y5/3 灰オリーブ	白色微粒。良好。	底部・高台 1/12 92-563, 593 上面

加藍地内

金堂

1 土師器 坏		内面ミガキ。外面口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	黒色微粒多。白色微粒少。橙色粒やや少。良好。	口縁～体部上半一部 基壇北東
2 土師器 坏	口 (12.2) 底 (7.0) 高 3.3	内面～体部外面クロコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内面にタール付着。灯明具。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR4/2 灰黄褐	褐色粒やや少。良好。	口縁部一部 体～底部 1/3 基壇南東コーナー
3 土師器 坏	口 (10.2) 底 5.0 高 3.6	内外面クロコナデ。底部回転系切り。底部内面にタール付着。灯明具。	内 10YR6/2 灰黄褐 外 10YR6/3 にぶい黄橙	黒色微粒多。白色微粒少。良好。	口縁部 1/3 底部完存 金堂北
4 土師器 坏	口 (9.8) 底 (6.2) 高 2.8	内外面クロコナデ。底部回転系切り。底部内面にタール付着。灯明具。	内 7.5YR5/6 明赤褐 外 5YR5/6 明赤褐	白色微粒少。黒色粒多。微。良好。	口縁～底部 1/6 掘方中
5 土師器 坏	口 (9.8) 底 (6.4) 高 2.7	内面～体部外面クロコナデ。底部回転系切り。内面にタール付着。灯明具。	内 10Y2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	黒色・白色微粒少。良好。	口縁部 1/8 底部 1/4 北トレンチ
6 土師器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 "	黒色微粒多。赤色細粒微。良好。	体部下半～底部 1/4
7 土師器 坏	底 (6.4)	内面～体部外面クロコナデ。底部回転系切り。内面にタール付着。灯明具。	内 7.5YR7/4 にぶい橙 外 7.5YR7/3 にぶい橙	黒色微粒多。白色微粒・赤色粒・微少。	底部 1/2 残 基壇北東・東
8 土師器 坏	底 (6.0)	内外面クロコナデ。底部系切り。	内 7.5YR7/6 橙 外 5YR6/8 橙	黒色・白色微粒少。良好。	体部下位～底部 1/4
9 土師器 坏	底 (6.4)	内外面クロコナデ。底部回転系切り。	内 10YR6/4 にぶい黄橙 外 "	赤褐色細粒少。透明微粒・金色雲母微。良好。	体部下半 1/6 底部 1/2 北トレンチ
10 土師器 坏	底 (6.0)	内外面クロコナデ。底部系切り。内面にタール付着。灯明具。	内 10YR3/1 黒褐 外 10YR5/4 にぶい黄褐	赤色細粒・黒色粒少。白色微粒微。良好。	体部下位～底部 1/2

伽藍地内

金堂

11 土師器 坏	口 (10.8)	内面～口縁部ヨコナデ。内面一部ヘラナデ。外面体部上半無調整。下半ヘラケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 "	白色・黒色微粒多。赤色微粒・白色細粒少。金色雲母やや多。良好。	口縁～体部下位 1/6 基壇北東・東
12 土師器 坏	底 (7.0)	内面ヨコナデ。外面体部・底部ヘラケズリ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5YR5/3 にぶい褐	黒色・白色微粒・白色細粒少。赤褐色粒少。小石微。	体部下半～底部 1/6
13 土師器 高台付坏	高台 7.0	内外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ロクロナデ。	内 7.5YR6/6 橙 外 "	白色・黒色微粒多。赤褐色粒微。良好。	底部～高台 1/2 北トレンチ
14 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面にタール付着。灯明具。	内 5Y2/1 黒 外 10YR7/2 にぶい黄橙	黒色細粒多。透明細粒少。やや不良。	体部下半 1/3 残 底部 完存 北トレンチ
15 土師器 高台付坏	高台 (6.8)	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色微粒多。赤褐色細粒微。良好。	底部～高台 1/3 前面
16 土師器 高台付坏		底部内外面・高台ロクロナデ。	内 7.5YR7/6 橙 外 7.5YR6/4 にぶい橙	黒色微粒多。赤褐色粒少。良好。	高台上半・底部完存 西側 Tre-k-56
17 土師器 高台付坏		内外面ロクロナデ。	内 5YR7/8 橙 外 7.5YR7/6 橙	黒色微粒少。良好。	体部下位～高台 1/3 高台端部欠 基壇東側北部
18 土師器 高台付坏		底部内面ロクロナデ。高台貼り付け。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒多。良好。	底部完存 高台 1/2 北トレンチ
19 灰釉陶器 椀		内外面ロクロナデ後、灰釉漬け掛けか。外面体部下位回転ヘラケズリ。底部内面朱墨付く。大原 2 号窯式か。	内 2.5Y7/1 灰白 外 2.5Y6/1 黄灰 釉 5Y8/2 灰白	黒色細粒少。良好。	体部～底部一部 基壇北側東部

回廊

1 須恵器 坏	口 (13.6) 底 (7.2) 高 3.4	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三毘産。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	黒色微粒微。白色微粒少。小石。良好。	口縁～底部 1/4 東回廊
2 須恵器 坏	口 (11.8) 底 (6.8) 高 3.8	内外面ロクロナデ。体部下端・底部外面持ちヘラケズリ。新治産。	内 10YR6/1 褐灰 外 "	白色細粒多。銀色雲母やや多。良好。	口縁～体部 1/5 底部 1/3 西回廊址内側遺構
3 須恵器 坏	口 (11.8) 底 6.5 高 3.6	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。三毘産。	内 2.5Y4/1 黄灰 外 5Y4/1 灰	白色微粒多。黒色細粒少。やや良好。	口縁～体部下位 1/6 底部完存 回廊西
4 須恵器 坏	底 (7.8)	内面ロクロナデ。体部下端ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。焼成前ヘラ記号あり。三毘産か。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	黒色細粒少。良好。	体部下端一部 底部 1/6 回廊西 (金堂)
5 須恵器 坏	底 (6.3) 高 2.1	内外面ロクロナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。益子産。	内 7.5Y6/1 灰 外 "	白色・黒色微粒多。良好。	体部下端一部 底部 1/3 西回廊 1トレ
6 土師器 坏	底 (7.0)	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面にタール付着。灯明具。	内 10Y2/1 黒 外 7.5YR5/6 明褐	黒色・白色微粒少。白色細粒微。良好。	体部下位～底部 1/4
7 灰釉陶器 椀	高台 (6.8) 高 2.6	内外面ロクロナデ。高台貼り付け。内面体部・底部ハケ塗り。大原 2 号窯式。	内 5Y7/2 灰白 外 2.5Y6/2 灰黄	白色微粒微。良好。	底部～高台部 1/4 残 東回廊
8 灰釉陶器 椀	高台 (8.4)	内外面ロクロナデ。体部下端～底部外面回転ヘラケズリ後、灰釉施す。大原 2 号窯式。	内 2.5Y6/1 黄灰 外 5Y7/2 灰白	白色細粒少。良好。	体部一部 底部・高台 1/4 回廊西 (金堂)
9 須恵器 小壺	高台 6.0	底部外面ナデ。高台貼り付け・ロクロナデ。体部外面手持ちヘラケズリ。猿投産か。	内 N5/0 灰 外 N4/0 灰	白色微粒少。白色細粒少。良好。	体部下位～高台 1/2
10 灰釉陶器 椀		内外面ロクロナデ。全面灰釉施す。黒笹 14 号窯式。	内 5Y6/1 灰 外 " 釉 5Y6/2 灰オリーブ	黒色微粒少。黒色・白色細粒少。良好。	口縁部一部 回廊 (金堂)

中門

1 土師器 坏	底 (6.4)	内面ヨコナデ。外面体部・底部ヘラケズリ。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 "	白色微粒多。赤褐色粒少。良好。	体部下端 1/4 底部 1/3
2 須恵器 鉄鉢形		内外面ロクロナデ。宇都宮産。	内 5Y6/1 灰 外 "	白色微粒多。白色細粒少。良好。	体部下半一部 中門西 回廊トレ 北拓部

経蔵

1 土師器 坏	口 (13.0) 底 (6.4) 高 3.6	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面にタール付着。灯明具。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5Y2/1 黒	白色細粒・橙色粒少。良好。	口縁～底部 1/2
2 土師器 坏	底 (6.4)	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。内面にタール付着。灯明具。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	白色微粒多。良好。	体部下半 1/4 底部一 部
3 土師器 坏	底 (7.2)	内面黒色処理・体部横方向ヘラミガキ。底部一方のヘラミガキ。底部回転糸切り後、外周手持ちヘラケズリ。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色・透明細粒少。良好。	体部一部 底部 1/4
4 土師器 坏	口 (7.4) 底 (4.4) 高 3.1	内外面ロクロナデ。内面全面にタール厚く付着。灯明具。	内 N2/0 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	白色微粒多。やや不良。	口縁～底部 1/4

鐘楼

1 須恵器 高台付坏	高台 (10.4)	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。三毘産か。	内 5Y5/1 灰 外 "	白色細粒少。良好。	底部～高台 1/2
---------------	-----------	---------------------------------	------------------	-----------	-----------

僧房

1 須恵器 坏	底 (9.0)	内面ロクロナデ。底部回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。三毘産。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 "	黒色・白色微粒少。赤褐色細粒微。良好。	底部 1/6 2 区拡張
2 須恵器 坏	底 7.8	内外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。内外面に火だすき痕あり。	内 2.5Y8/3 淡黄 外 "	黒色細粒少。良好。	底部 1/2 2 区拡張
3 須恵器 坏	底 8.0	底部外周～体部下端回転ヘラケズリ。ほかの部分ロクロナデ。底部中央回転糸切り痕。三毘産。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 "	黒色微粒多。赤褐色・白色微粒少。良好。	体部下半～底部 1/2 2 区拡張

第4章 発見された遺物

加藍地内

僧房

4 須恵器 坏	口 (12.2) 底 6.2 高 3.5	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。内面にタール付着。灯明具。三畳産。	内 5YR4/6 赤褐 外 //	白色・黒色微粒。良好。	口縁～底部 1/6 底部一部欠 12Tre
5 須恵器 坏	口 (13.0) 底 5.8 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三畳産。	内 10YR8/4 浅黄橙 外 //	黒色・灰色細粒多。礫少。不良。	口縁～底部 1/4 底部完存 8Tre
6 須恵器 坏	底 (5.6)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三畳産。	内 2.5Y7/2 灰黄 外 //	黒色細粒多。不良。	体部下半 1/6 底部 1/3
7 須恵器 坏	底 (6.0)	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。三畳産。	内 2.5Y8/2 灰白 外 2.5Y7/2 灰黄	黒色・灰色細粒多。灰色粗粒少。不良。	底部 1/2
8 須恵器 坏	底 5.0	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三畳産。	内 5YR5/4 にぶい赤褐 外 //	白色微粒・黒色細粒。良好。	体部下半～底部完存
9 須恵器 坏	底 5.6	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。三畳産。	内 5YR5/6 明赤褐 外 //	黒色・白色微粒。良好。	体部下位 1/2 底部完存 10Tre
10 須恵器 坏	口 (14.0) 底 (7.0) 高 4.9	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後、ナデ。焼成前ヘラ記号あり。南那須産。	内 10Y5/1 灰 外 //	白色細粒少。礫微。白色針状物。良好。	口縁部 1/6 体部下半～底部 1/2 T1.2 間
11 須恵器 高台付坏	高台 8.0	体部内外面～底部内面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ後、焼成前ヘラ記号。益子産。	内 2.5GY4/1 暗オリ 外 灰 //	白色細粒・白色粗粒少。良好。	底部～高台完存 2Tre
12 須恵器 坏	底 7.2	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後、ナデ。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 //	白色微粒少。粗粒少。	体部下半～底部 2/3 2区拡張
13 土師器 坏	口 (13.6) 底 (6.2) 高 5.7	内面黒色処理・ヘラミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	黒色・赤褐色細粒多。良好。	口縁～底部 1/3 8/7 9トレ
14 土師器 坏	底 7.6	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部全面回転ヘラケズリ。	内 10YR4/2 灰黄褐 外 7.5YR5/6 明褐	黒色・白色微粒。良好。	体部下位～底部 1/2 10Tre
15 土師器 坏	底 (7.0)	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR6/4 にぶい橙	黒色・赤褐色細粒多。礫少。良好。	体部下半～底部 2/3 8Tre
16 土師器 坏	底 6.6	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 7.5YR6/6 橙 外 7.5Y2/1 黒	黒色微粒多。小石少。良好。	体部下半～底部 2Tre 壁面より北側
17 土師器 坏	底 (6.2)	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 10YR7/4 にぶい黄橙	黒色微粒・赤褐色細粒少。良好。	体部下位～底部 1/4 Tre4 1区
18 土師器 坏	底 (6.4)	外面底部・体部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	内 7.5YR5/4 にぶい褐 外 10YR5/3 にぶい黄橙	黒色・赤褐色微粒少。白色細粒微。良好。	体部下半～底部 1/5 11Tre
19 土師器 坏	底 6.4	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ後、ミガキ。底部全面手持ちヘラケズリ後、ミガキ。	内 10YR2/1 黒 外 7.5YR5/4 にぶい褐	黒色細粒多。良好。	体部下半～底部 1/2 9Tre 北側壁より
20 土師器 坏	底 (6.8)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 //	黒色微粒少。赤褐色細粒微。良好。	体部下位～底部 1/4 2Tre
21 土師器 坏	底 (6.8)	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 5YR6/6 橙 外 //	白色・赤褐色細粒多。良好。	体部一部 底部 1/3
22 土師器 坏	底 6.4	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切り。内面にタール付着。灯明具。	内 10Y2/1 黒 外 10YR3/2 黒褐	白色・黒色微粒多。良好。	底部 1/2 表土中
23 土師器 坏	口 (10.4) 底 (6.0) 高 3.2	内面ロクロナデ後、内面黒色処理か。底部回転系切り。	内 7.5Y2/1 黒 外 5YR6/6 橙	黒色・赤褐色微粒多。良好。	口縁部一部 底部 1/4 T4 拡張部
24 土師器 坏		内面ナデ。体部下端外面ヘラケズリ。非ロクロ。底部外面ヘラケズリ。内面にタール付着。灯明具。	内 5YR5/6 明赤褐 外 //	白色・透明微粒多。良好。	体部一部 底部 1/6
25 土師器 皿	高台 6.5	内面黒色処理・ミガキ。外面体部ロクロナデ。底部回転系切り後、高台貼り付け。	内 N1.5/0 黒 外 10YR8/3 浅黄橙	黒色微粒多。良好。	体部下位～高台完存 11Tre
26 土師器 蓋		内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内 10Y2/1 黒 外 10YR6/4 にぶい黄橙	黒色細粒少。良好。	つまみ一部欠 つまみ～天井部 8/7 9トレ
27 灰釉陶器 皿	高台 (6.6)	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。内面見込みをのぞき灰釉ハケ塗り。	内 2.5Y6/2 灰黄 外 7.5Y6/2 灰オリ 釉 //	黒色微粒少。黒色細粒微。良好。	体部下位～高台 1/3 8Tre
28 土師器 鉄鉢形		内面黒色処理。外面ロクロナデ。	内 7.5Y2/1 黒 外 7.5YR5/8 明褐	黒色微粒多。白色微粒少。赤褐色粒少。良好。	体部一部
29 須恵器 高盤		底部内面～体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後、回転ヘラケズリ。高台貼り付け。高台に方形透し4ヶ所あける。内面と破面にタール付着。破片化後に灯明に使用。南那須産か。	内 5Y4/1 灰 外 N4/1 灰	白色・黒色細粒多。白色微粒・白色針状物少。小石微。良好。	体部下位 1/2 高台上半・底部完存 2区拡張
30 須恵器 盤か	裾 (25.0)	内外面ロクロナデ。益子産か。	内 N5/0 灰 外 10Y5/1 灰	白色微粒・白色細粒少。白色粒微。良好。	裾部 1/6
31 須恵器 鉄鉢形		内面上半ロクロナデ。外面下半回転ヘラケズリ。三畳産。	内 5Y5/1 灰 外 5Y6/1 灰	黒色・白色細粒多。白色・灰色粒少。良好。	体部中位～下半 1/6
32 土師器 台付甕		台部内面ヘラナデ。内外面ヨコナデ。台付甕の台部分。	内 5YR5/6 明赤褐 外 7.5YR5/3 にぶい褐	黒色・白色微粒多。良好。	底部～台部上半ほぼ完存 T4 拡張部
33 土師器 甕	口 (19.8)	口縁部押圧痕あり。ヨコナデ。内面ナデ、ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内 5YR4/6 赤褐 外 5YR5/4 にぶい赤褐	白色微粒多。黒色微粒少。礫微。良好。	口縁～胴部上半 1/3 残 2区拡張
34 緑釉陶器 壺	口 19.0	内外面緑釉施す。	内 緑 胎土 10YR8/3 浅黄橙	白色微粒少。良好。	口縁～頸部一部
35 須恵器 高坏か		内外面ロクロナデ。外面に自然釉。益子産。	内 5Y5/1 灰 外 5Y6/1 灰	白色細粒多。良好。	脚部片 2区拡張
36 須恵器 坏		内外面ロクロナデ。底部回転系切り。体部外面に墨書「法」あり。三畳産。	内 10YR7/3 にぶい黄橙 外 //	白色・透明細粒少。良好。	体部下半 1/4 底部一部
南門					
1 土師器 坏	口 (12.2)	口縁部内面ヨコ方向ヘラミガキ。体部～底部内面一方ヘラミガキ。外面ヘラケズリ後、ミガキ。	内 5YR5/6 明赤褐 外 //	白色微粒・赤褐色細粒少。良好。	口縁～底部 1/6 T-5
2 土師器 坏	底 6.6	内面黒色処理・ミガキ。外面ロクロナデ。底部回転系切り。	内 N1.5/0 黒 外 2.5Y7/3 浅黄	黒色・白色微粒少。白色細粒微。良好。	体部下位～底部 2/3 T4 南東側凹地黒土層

土器・陶器等観察表  
(伽藍地内)

伽藍地内

南門

3 灰釉陶器 椀	口 17.2 高台 8.0 高 5.5	外面体部下端～底部回転ヘラケズリ。高台貼り付け。体部ロクロナデ。灰釉漬け掛け。折戸 53 号窯式。	内 10YR6/3 にぶい黄橙 外 10YR7/3 にぶい黄橙 釉 7.5Y6/3 オリーブ黄	黒色微粒微。良好。	口縁～体部下位 2/3 欠 底部完存 Q-5
4 土師器 甕		内面ナデ。外面カキ目。	内 7.5YR7/6 橙 外 10YR4/2 灰黄褐～ 7.5Y2/1 黒	白色・赤褐色細粒多。良好。	胴部一部
5 土師器 甕		内面ナデ。外面カキ目。	内 7.5YR7/6 橙 外 10YR4/2 灰黄褐～ 7.5Y2/1 黒	白色・赤褐色細粒多。良好。	胴部一部

東門

1 灰釉陶器 皿	口 (14.6)	ロクロナデ後、外面下位回転ヘラケズリ。内外面灰釉施す。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色微粒微。良好。	口縁部 1/6
2 灰釉陶器 椀	高台 (6.6)	内面・体部外面ロクロナデ。内外面(底部外面のぞき)灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 5Y6/2 灰オリーブ 外 "	白色微粒微。良好。	高台 2/5

伽藍地内遺構外

1 須恵器 坏	口 (12.4) 底 (7.6) 高 3.9	内面～体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。ター ル付き。灯明具。三義産。	内 7.5Y5/1 灰 外 "	白色・黒色微粒少。良好。	口縁部 1/4 底部 1/2
2 須恵器 坏	底 (7.8)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。三義 産カ。	内 2.5Y7/3 浅黄 外 2.5Y6/3 にぶい黄	白色微粒少。良好。	体部下半～底部 1/6 Tre. I.6
3 須恵器 坏	底 (7.2)	内外面ロクロナデ。外面体部下半～底部手持ちヘラ ケズリ。新治産。	内 N5/0 灰 外 "	白色細粒多。金色雲母少。良好。	体部一部 底部 1/3
4 須恵器 甕		口縁・頸部ロクロナデ後、1 本単位のヘラ描波状文。 益子産。	内 5Y6/1 灰 外 N5/0 灰	白色細粒多。白色粒微。良好。	口縁部一部
5 須恵器 高台付坏	高台 10.0	底部外面全面回転ヘラケズリ後、焼成前ヘラ記号。 内面ロクロナデ。益子産。	内 7.5Y4/1 灰 外 "	白色微粒・礫少。良好。	底部・高台完存
6 灰釉陶器 椀	口 16.2 高台 7.6 高 5.0	体部下端～底部回転ヘラケズリ。高台貼り付け。体 部内外面に灰釉ハケ塗り。黒笹 90 号窯式。	内 10YR7/4 にぶい黄橙 外 "	黒色細粒微。良好。	口縁～体部下位 2/3 底部完存
7 灰釉陶器 椀	高台 6.8	内面・体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。重ね 焼き痕あり。体部内面灰釉ハケ塗り。宮口産。	内 2.5Y7/1 灰白 底部 10Y5/1 灰 外 2.5Y7/2 灰黄 釉 10Y6/2 オリーブ灰	黒色微粒少。小石。良好。	体部下位～高台 1/2
8 泥塔		型造り。	10YR7/3 にぶい黄橙	赤褐色粒少。良好。	相輪部一部

第4章 発見された遺物

第16表 鉄製品等観察表

第1次調査区

SB-171

番号	材質	種類	大きさ cm・g (復元)	特徴	出土状態 注記
1	鉄製鎌		長 (9.0) 重 17.33 幅 2.6	棟は丸味があり、刃部は直線状である。	上面 (北柱列第2柱抜取り)

第11次調査区

SB-700

1	鉄製匙		長 (7.3) 重 14.55 幅 2.4	匙面の両側を折り曲げたものか。柄の部分は斜めにのびる。復元図は折り曲げた部分で幅のわかる図中右側部分をもとに柄の中軸で反転し、先端はそのカーブに合わせて作成した。	東廂柱列北第2柱B期掘方埋土中
2	不明鉄製品		長 (3.3) 重 6.35	断面長方形で、幅・厚さが均一である。	北廂柱列西第2柱B期抜取り埋土上面
3	鉄製釘か		長 (4.5) 重 1.07	断面方形で細い。図柱下方が細くなる。	東廂柱列北第2柱B期掘方埋土中

SA-300

1	鉄製釘		長 (5.0) 重 14.37	頭をくの字形に曲げた釘。下端は欠損する。	北東隅柱B期抜取り埋土中
---	-----	--	-----------------	----------------------	--------------

第1次調査区

SI-114

1	鉄製鉸具		長 (2.9) 幅 2.2 重 6.30	鉄板を曲げて作る。鉸が2個打たれていると思うが、1カ所不明瞭。刺金の軸棒が遺存している。	No.52
2	鉄製責金		長 3.7 重 2.12	角棒を楕円形に曲げている。刀子などの責金と考えられる。	No.53

SI-122

1	鍛冶炉 炉壁		重 98.75	羽口脇の高温部で溶解した炉壁。内側は気孔密で、図体左端が羽口に近い位置であろう。裏面はスサ入りの粘土で、灰色の還元色である。側縁一部欠く。	埋土上半
2	鉄製小札		長 (2.7) 重 9.09 幅 2.0	小札。幅 2.0cmで、綴孔がある。裏面にはキメがみられる。	埋土上半
3	鍛冶羽口		外径 (推定) 8.6 孔径 (推定) 3.2 重 203.24	胎土は暗灰色粗粒やや多量、灰色礫・黒色粗粒少量、全体に粗い。色調内面 7.5YR7/4 にぶい橙、外面 10YR8/2 灰白、5PB6/1 青灰、5B5/1 青灰。焼成良好。外面長軸方向にナデ、先端は溶解して滓化、木炭痕・気孔散在。中位還元色。	埋土上半
4	鉄製羽口		外径 5.8 重 43.70 孔径 (2.3)	胎土は白色粒多量、白色礫少量、灰色礫微量。焼成良好。羽口外面ナデ、先端はガラス質溶解物が付く。炉内挿入は-15°である。羽口先端 1/4 周残存。	上面
5	鉄塊系遺物		長 (3.1×2.0) 重 70.16	表面はなだらかで丸味がある。放射割れと黒錆がみられる。これを含めて、約9点、合計 70.16g の鉄塊系遺物が本遺構から出ている。精錬鍛冶段階のものであろう。	埋土上半

SI-125

1	鉄製刀子		長 (9.9) 重 6.27	刃先と茎端部を欠く刀子。角棟で刃部側には鑄が両面にある。区は棟側に2mmの段があり、刃側はわずかな段である。茎が曲がっている。	5層
---	------	--	----------------	---	----

SI-163

1	鉄製釣針か		長 4.4 重 2.58	1本の細い鉄棒で、一端は環を作り2回転巻いて絡めている。下端は細くなり、J次状の針であろう。	カマド2層
---	-------	--	--------------	--	-------

第2次調査区

SI-257

1	鉄製釘		長 (6.2) 重 5.47	断面長方形・方形で下へ向かい細く、断面長方形になる。両端とも欠損する。	上面
---	-----	--	----------------	-------------------------------------	----

SI-307

1	鉄製刀子		長 (13.3) 重 16.18	茎側を欠くが、刃先は完存する。角棟・平造で、切先にはフクラがある。	No.42
2	鉄製刀子		長 (5.9) 重 5.47	切先と茎を欠く。刃部のカーブからみて、切先は近い。片面のみに鑄があるようにみえる。	No.140
3	鉄製刀子		長 (4.3) 重 4.49	刀子の茎に木質が残る。刃部側は少し尖っている。木質は断面円形・楕円形を呈する。両端欠損する。	No.139
4	鉄製釘		長 (3.4) 重 6.23	頭部をL字形に折る。下端は欠けている。	No.146
5	鉄製釘		長 (5.0) 重 8.62	図中下方に向かうにつれて細くなる。断面方形。	下層
6	鉄製釘か		長 (3.2) 重 5.96	図中上端は鑿状で片山になっている。断面方形で下方を欠損している。	2層
7	不明鉄製品		長 (3.2) 重 5.73	図中上端は鑿状で片山になっている。断面長方形で下方を欠損している。	No.173
8	鉄製留め金具		長 3.2 重 4.20 幅 1.3	頭は円環で足は二又の割りピンとなる。頭の環の断面は蒲葦状である。唐櫃などの鍵の留め具であろう。	No.87
9	鉄製釘		長 (9.3) 重 20.65	長軸両端欠損し、図中上位は捻り加える。下方は細くなっている。	No.167
10	鉄製釘		長 (7.0) 重 11.10	断面方形の釘。釘の上下端は欠けている。木質が遺存しており、桧などの木目の細かなものである。釘の大きさからみて櫃などのものであろうか。	No.105
11	含鉄碗形鍛冶滓		長 7.3×6.5 重 175.05	緻密で放射割れの走る含鉄碗形鍛冶滓。剝離部分に黒錆が広くみられる。完存。	No.160
12	鍛冶滓		長 (4.5×6.7) 重 42.04	一方の面は外縁に顆粒状突起があり起状が激しい。他の面は平坦で押圧か板状のものの上に生成したようである。	No.176

SI-325

1	鉄製釘		長 (10.4) 重 61.55	頭は厚さを薄くして包み曲げている。断面方形でゆるやかに歪んでいる。縦方向に鍛接の割れがある。	床直
2	鉄製釘		最長 (10.0) 重 35.74	5本が束ねられた釘。頭がL字形に折れており、使用後のものであろう。長さは7.1cm、10.0cm、6.8cm、9.5cmのものがある。断面方形を呈する。	No.1
3	鉄製釘		長 (4.6) 重 4.33	頭はコの字形に巻いて作る。下位は欠損している。	上層

## 第2次調査区

## SI-325

4 鉄製釘か	長 (4.2) 重 2.40	下方へ向かい細くなる。断面方形で長軸両端欠く。	上層
5 鉄製釘か	長 (3.1) 重 1.48	断面長方形でやや扁平。先端に向かい細くなる。	床直
6 鉄製鏝	長 (3.5) 重 5.99	L字形に曲げてあり、先端は欠く。	床直
7 不明鉄製品	長 (1.9) 重 3.73 径 (1.1)	鉄板を曲げて筒状にしている。上下端は遺存している。	下層

## SI-335

1 砥石	最大長 3.3 最大幅 2.6 最大厚 1.3 重 15.48	砥面は4面で、長軸両端は欠損する。キズによって研ぐ方向は長軸方向であることがわかる。石材は硬質の凝灰岩であろう。	上面
------	------------------------------------	--	----

## SI-336

1 鉄製釘	長 (5.4) 重 12.25	釘の下端部の破片と考えられる。断面方形。	床直
-------	-----------------	----------------------	----

## 第4次調査区

## SI-396

1 不明鉄製品	長 (13.5) 厚 0.4 幅 1.3 重 45.87	断面台形状で側面に段があるが、図面化した面と裏面に段はない。刃もない。長軸両端とも欠損する。	上面
---------	---------------------------------	--	----

## SI-436

1 鉄製釘	長 (2.9) 重 2.67	頭部をL字形に曲げている。長軸両端とも欠損。	上面
2 鉄製釘か	長 (3.2) 重 2.64	短軸断面方形で図中下の方が細くなる。長軸両端欠損。	上面

## SI-437

1 鉄製釘	長 (6.0) 重 1.46	短軸断面方向で細い釘。図中上端は欠けている。	上面
2 鉄製刀子	長 (3.7) 重 3.29	平棟・平造の刀子。刃部側は区の可能性もある。長軸両端欠損。	上面
3 鉄製刀子	長 (2.9) 重 1.95	長軸両端を欠き、断面長方形で、図中左側の方が幅が広い。刀子の茎と考えられる。	上面

## SI-438

1 鉄製刀子	長 (6.7) 重 9.91	切先と茎先端を欠く刀子。区のところでのく字に折れ曲がっている。棟は錆びているが丸い。区は棟側が角区・刃側が撫区である。	No.34
2 鉄製刀子	長 (4.2) 重 3.39	刀子の刃である。長軸両端欠く。平造、角棟で、断面は2枚に層状剥離している。	No.35
3 鉄製釘	長 (4.9) 重 5.90	頭部をコの字形に巻き込んだ釘。断面方形で下位は欠損する。	No.49
4 鉄製釘	長 (6.6) 重 12.53	断面方形で図中下方が細くなる。長い釘と考えられる。	No.41
5 鉄製鏝	長 (3.7) 重 2.10	図中下端に向かい細くなる。くの字形に折っており、鏝か釘の一部と考えられる。	No.9
6 棒状鉄製品	長 (3.9) 重 3.09	図中下方が少し細くなり、くの字形に曲がる。断面方形で、鏝・釘などであろう。	No.6

## SI-439

1 鉄製釘か	長 (4.1) 重 1.77	図中下方へ向かい細くなる。断面方形で、釘の下方の破片であろう。	No.13
--------	----------------	---------------------------------	-------

## SI-449

1 鉄製釘	長 (3.2) 重 1.96	図中下方へ向かい細くなる。断面方形で、釘の下方の破片であろう。	上面
-------	----------------	---------------------------------	----

## SI-451

1 鉄製刀子	長 (5.3) 重 3.39	刃部の短い刀子で、刃長 28mm。平棟、角棟で茎先端は欠損。	No.5
--------	----------------	--------------------------------	------

## 第7次調査区

## SI-566

1 鉄製釘	長 12.8 重 25.61	図中上端が薄くなり、ゆるやかに曲がる。下に向かい細くなる釘である。断面方形で、中位の表面が剥落している。	No.10
2 棒状製品	長 (4.8) 重 1.37	断面円形をした棒状製品である。断面形からみると紡錘車の軸棒であろうか。	No.10

## 第11次調査区

## SI-680

1 鉄製釘	長 (3.7) 重 6.23	長軸両端を欠き、下方が薄くなる。釘であろう。	No.25
-------	----------------	------------------------	-------

## SI-690

1 鉄製釘	長 (3.8) 重 5.84	釘の頭をL字形に折る。下端は欠損する。。	1層
2 鉄製釘	長 (4.6) 重 6.90	長軸両端を欠く釘。断面菱形に近い。下方が細くなる。	No.53
3 鉄製釘か	長 (4.9) 重 10.11	断面方形で、ゆるやかに曲がった釘か。下方が細くなる。上方は欠損。	No.65
4 鉄製釘か	長 (3.7) 重 4.35	短軸断面長方形で、薄い。表面に木質があることから使用後のものであろう。	No.12

## SI-698

1 鉄製刀子	長刃部 (10.9) 重 26.5 長茎部 (4.3)	角棟・平造で、断面をみると心金と皮金2枚の3枚の鍛え合わせであることがわかる。刃部側は撫区であるが、棟側は不明。茎と刃は接合せず、図中で復元した。	No.27
2 鉄製刀子	長 (7.4) 重 12.31	角棟・平造の刀子。棟側には角区があるが、刃部側に区はない。茎の部分では心金が2枚あるか。	床直
3 鉄製釘か	長 (4.2) 重 6.36	上下両端欠損する釘か。下へ向かうにつれて細くなり、断面方形である。接合しない3点がある。	No.16

#### 第4章 発見された遺物

##### 第11次調査区

SI-714

1 鉄製釘	長 4.1 重 10.87	頭はこぶし状を呈し、折り曲げてあるかは不明瞭。層状剥離が著しい。	No.4
-------	---------------	----------------------------------	------

##### 第14次調査区

SI-844

1 鉄製鎌か	長 (3.8) 重 3.97 幅 (2.6)	図中上方がやや厚く下方は刃のようである。鎌の中位の破片であろう。	一括
2 鉄製釘	長 (3.6) 重 3.97	釘の頭が薄くまっすぐにのびる。未使用品である。下端はわずかに欠ける。	下層

##### 第1次調査区

SD-112

1 鉄製責金	長 (3.8×3.2) 重 12.06	楕円形の環状で、断面隅丸長方形を呈する。刀子などの柄の責金であろう。	上層上半
--------	---------------------	------------------------------------	------

SD-113

1 鉄製釘	長 (3.2) 重 5.12	頭は平面台形で、3方向に突出する。足の断面は平行である。	最上層 92-225
-------	----------------	------------------------------	------------

SD-152

1 鉄製鍋	長 (3.5) 重 12.06	図中左側の面には段が付く。铸造製品である。	中層 No.48
-------	-----------------	-----------------------	----------

SD-193

1 鉄製釘	長 (3.6) 重 3.21	両端欠損する。	最上層 92-133
-------	----------------	---------	------------

##### 第2次調査区

SD-330

1 鉄製刀子	長 (7.7) 重 9.77	棟側は角区、刃側には区なし。棟はやや丸い。	3層(中層)
2 鉄製釘	長 (7.0) 重 12.54	断面方形で、層状剥離あり。下方が細くなる。	5層(最上層)
3 鉄製釘か	長 (5.3) 重 3.60	断面方形で、表面には土砂厚く付く。下方が細くなる。	3層(中層)
4 鉄製釘	長 (8.2) 重 10.56	頭を欠いた釘。上位はゆるやかにカーブする。断面方形。層状剥離3層あり。	3層(中層)
5 铸造鉄	長 (7.6×3.3) 重 24.91	表面に割れが入っている。	3層(中層)

SD-329

1 不明鉄製品	外径 3.0 重 2.64	周縁と中心の方孔の周囲は高くなっている。文字などは観察されない。	上面
---------	---------------	----------------------------------	----

SD-334

1 鉄製釘	長 (7.5) 重 6.32	頭は平たくしてL字形に曲げる。足もL字形に曲がり、使用後のもの。断面菱形をしている。	4層(下層)
-------	----------------	--	--------

SD-369

1 鉄製釘	長 (10.4) 重 22.33	長軸両端欠く。断面方形。下方が細くなる。	上面
-------	------------------	----------------------	----

##### 第7次調査区

SD-140

1 鉄製刀子か	長 (7.0) 重 29.05	茎と責金が鑢着したもの。責金は外面が方形で、内面は楕円形。茎は断面台形で尻が上がる。	No.54
2 鉄製刀子	長 (3.3) 重 2.93	刃がなく、断面台形であることから、刀子の茎片と考えられる。両端欠く。	No.1

SD-598

1 鉄製紡錘車	最大径 4.6 重 12.30	軸棒は断面方形をしており、円盤はやや歪んでいる。軸棒両端欠損している。	上面
---------	-----------------	-------------------------------------	----

##### 第9次調査区

SD-658B

1 鉄製責金具	長 (2.9) 重 3.06	断面長方形で、楕円形の環。	No.34
2 鉄製釘か	長 (3.0) 重 2.22	断面方形で、図中上端はゆるやかにカーブする。下端は欠けているが、まっすぐにのびる。	No.2

##### 第11次調査区

SD-193

1 鉄製刀子	長 (12.0) 重 28.05	茎は刃に対して曲がっている。棟側のみ区あり。鑢は片面のみわずかにみられる。	B期1層 No.19
--------	------------------	---------------------------------------	------------

SD-265

1 鉄製釘か	長 (2.5) 重 2.07	断面隅丸方形で、図中下方が細い。	下層 No.9
--------	----------------	------------------	---------

SD-330

1 鉄製釘	長 (9.0) 重 14.95	頭が平坦で折りのない釘。完存である。	2層 No.13
2 鉄製釘	長 (6.1) 重 18.70	断面方形で図中下方が細くなる。鍛接の層状剥離が長軸方向に走る。	1層 No.6

SD-682

1 鉄製刀子	長 (3.5) 重 6.02	茎の長軸両端欠損。3層の層状剥離あり。	埋土中 60-402
--------	----------------	---------------------	------------

SD-777

1 鉄製刀子	長 (3.4) 重 5.44	頭部を薄くのぼして折り曲げるが、その基部を残す。	埋土上層
--------	----------------	--------------------------	------

## 第12次調査区

SD-827C

1 鉄製釘か	長 (10.5) 重 59.87	太めの釘で、頭と先端は欠く。断面は方形で、図中下が細くなってる。	中層 107-109
--------	------------------	----------------------------------	------------

## 第2次調査区

SK-262

1 鉄製釘か	長 (7.3) 重 4.19	断面方形で図中先端は欠け、下方はやや細くなる釘か。波状に曲がっている。	上面
--------	----------------	-------------------------------------	----

SK-268

1 鉄製釘か	長 (8.6) 重 44.45	断面方形で、図中下方が細くなる。長軸の方向に木質付く。	上面
2 鉄製錠	長 (10.8) 重 28.87	断面方形で、L字形に曲げている。木質が付く。	1層 No.6

SK-299

1 鉄製刀子	長 (3.4) 重 1.60	刀子の刃部破片。棟は丸味あり。	1層(最上層)
--------	----------------	-----------------	---------

SK-341

1 鉄塊	最大長 (2.8) 重 15.71 最大幅 (2.1)	層状剥離があり、鍛造の進んだ鉄塊か、製品の一部分か。	上層
------	--------------------------------	----------------------------	----

## 第4次調査区

SK-421

1 鉄製釘か	長 (7.7) 重 6.51	断面方形で、図中下方が細くなっている。長軸両端欠損する。	No.2
--------	----------------	------------------------------	------

## 第6次調査区

SK-540

1 鉄製紡錘車	長 (11.8) 重 9.48	軸棒は断面円形。長さ1.4cm程糸が巻き残っている。	No.3
---------	-----------------	----------------------------	------

## 第7次調査区

SK-581

1 鉄製刀子	長 (4.5) 重 4.50	反り上がり、断面台形をしている。刀子の茎であろう。刃部側は欠ける。	埋土上面
--------	----------------	-----------------------------------	------

## 第11次調査区

SK-731

1 鉄製釘	長 (5.1) 重 5.57	短軸断面方形。長軸両端欠く。図中下方が細い。	埋土中
-------	----------------	------------------------	-----

SK-739

1 鉄製釘	長 (5.7) 重 8.19	短軸断面方形。図中下方が細くなる。	埋土中
-------	----------------	-------------------	-----

## 第1次調査区

SE-116

1 鉄製釘	長 (3.9) 重 3.71	頭部は薄くして折り曲げる。足は湾曲しており、断面方形である。	4層
2 鉄製釘	長 (4.5) 重 9.05	断面台形で両端欠く。	4層

SX-192

1 不明鉄製品	幅 (4.1) 重 29.29	上・下面とも平坦。図中右側が少し薄くなっている。	埋土中 92-300
---------	-----------------	--------------------------	------------

## 第2次調査区

SX-246

1 鉄製釘	長 (5.5) 重 6.64	長軸両端欠け、下方がわずかに細くなっている。断面方形。層状剥離あり。	上面
2 鉄製釘	長 (2.7) 重 1.38	長軸両端欠く。下方が細くなっている。断面方形。	上面

SX-377

1 鉄製釘	長 (7.6) 重 4.25	断面台形で、上端欠損。下方が細くなる。	埋土中
2 鉄製釘	長 (6.4) 重 12.28	断面方形で、土砂が厚く付く。一方が細くなっている。	埋土中

## 第11次調査区

SX-805

1 鉄製刀子	長 (10.7) 重 29.38	棟側には区がある。刃側の断面ではわずかに錆があるが錆ぶくれの可能性もある。	60-185 1層
2 鉄製釘	長 (5.2) 重 10.40	頭を薄くして曲げている。長軸両端欠損する。	60-156-157、60-186-187 1層

## 遺構外

## 第1次調査区

1 鉄製錠	長 (8.2) 重 7.42	U字形の錠吊金具。柳葉状にのびており、断面皿状。レントゲン観察でも孔不明。	92-228 1層
2 鉄製釘	長 (7.3) 重 22.47	頭部をL字形に折る釘。断面方形で、上端から2.4cmより下には刻みがある。	93-341 2層
3 鉄製釘か	長 (2.8) 重 2.23	上端は鋭角に曲げている。断面長方形。	2層
4 鉄製釘か	長 (2.4) 重 3.64	断面長方形の鉄心部分の周囲に長軸方向の目を持つ木質が付く。	92-235
5 鉄製釘か	長 (5.3) 重 11.60	太さ均一で断面方形。長軸両端欠損する。	1層 93-336
6 鉄製釘	長 (6.2) 重 11.28	断面方形で両端欠く。	2層 92-133

## 第4章 発見された遺物

### 遺構外

#### 第1次調査区

7 鉄製釘	長 (4.2) 重 3.08	長軸両端欠く。図中下方が細くなる。断面方形。	表土
8 鉄製釘	長 (4.7) 重 9.13	断面方形で、両端欠く。	1層 93-213
9 鉄製鋸か	長 (6.1) 重 6.48	断面方形で、図中上端が鈍角に曲がっていることから鋸とみられる。	1層 93-218
10 鉄製鋸か	長 (5.0) 重 8.97	図中上方が太く、下方が細い。断面方形。くの字形に曲がっている。	1層 93-197
11 不明鉄製品	長 (3.4) 重 4.56	長軸両端欠く。断面台形状である。	1層 93-216
12 鉄製刀子	長 (4.5) 重 6.07	棟側には段の区がある。刃部側にはない。	2層 92-249

#### 第2次調査区

1 鉄製釘	長 (6.9) 重 23.14	頭部を3面に突出させるが、剥離著しい。表層が4面とも層状剥離している。	2層 59-292
2 鉄製釘	長 (5.5) 重 19.71	頭はL字形に折り曲げ、錆ぶくれが著しい。	2層 59-532
3 鉄製釘	長 (6.7) 重 7.87	長軸両端欠く。断面長方形で、下方に向かって細くなる。	北第5土山表採
4 鉄製釘	長 (6.4) 重 8.75	下端は遺存する。断面方形。	2層 59-592
5 鉄製釘か	長 (6.7) 重 4.97	扁平で刀子状であるが、刃部状の部分が先端のみで、上端は丸くなっている。頭の折れた釘か。	土山表採②
6 鉄製釘か	長 (6.6) 重 20.71	頭部・足の両端を欠く釘か。断面方形。	2層 59-623
7 鉄製釘か	長 (3.7) 重 2.59	断面方形。下方が細くなる。	2層 59-562
8 鉄製釘か	長 (4.9) 重 8.68	図中下方が細くなっている。断面方形。	1層 59-504
9 鉄製釘	長 (3.8) 重 3.28	断面方形で、下方は曲がっている。	1層 59-144
10 棒状鉄製品	長 (7.7) 重 5.76	断面方形。まっすぐにのびて両端欠損する。	2層 59-54
11 鉄製釘か	長 (2.9) 重 1.02	上下両端を欠く細い釘か。断面方形。	2層 59-504
12 鉄製釘か	長 (3.8) 重 1.56	断面方形で弓状に曲がっている。	1層 59-711
13 鉄製鋸か	長 (4.1) 重 5.85	断面方形。L字形に折れて細くなっている。	2層 59-562
14 鉄製鋸か	長 (4.0) 重 3.99	断面方形。L字形に折れて細くなっている。	2層 59-562
15 鉄製刀子	長 (2.5) 重 2.52	刃先の破片で、棟には平坦面がある。	1層 59-710
16 鉄製責金	長 (2.5) 重 3.71	卵形に曲げたもので、刀子などの鞘の先金か。	北第5土山表採
17 不明鉄製品	長 (5.6) 重 53.73 幅 (6.9)	表面は剥離著しいが鍛造とみられる。穿孔。図化した面は裏面。下端は一文字状に突起している。	2層 43-354
18 不明鉄製品	長 (2.2 × 3.1) 重 8.00	厚目の鉄板をタガネで切って、L字形にしているか。	2層 59-376
19 不明鉄製品	長 (4.0) 重 6.68	外環の中に1ヶ所突起がある。	1層 59-864
20 不明鉄製品	長 3.9 重 5.93 幅 1.0	扁平な棒状の鉄。	1層 59-834

#### 第4次調査区

1 不明鉄製品	長 (8.0) 重 27.88	短軸断面台形で、各面平坦な棒状製品。層状剥離あり。	1層 77-241, 242
2 鉄製釘	長 (7.4) 重 28.34	頭を楕円形にして、一方へ長くのびたもの。足の断面は方形で、下端欠損する。	1層 76-263
3 鉄製釘	長 (5.9) 重 28.46	頭を太くした釘とみられる。足の断面は方形で、下方は欠く。	1層 76-263

#### 第5次調査区

1 鉄製釘か	長 (4.0) 重 4.67	頭は平坦で肥厚したもの。短軸断面隅丸方形で下方は欠く。	調査区表採
--------	----------------	-----------------------------	-------

#### 第7次調査区

1 鉄製茎か	長 (7.4) 重 14.94	短軸断面方形で、厚く、わずかに反りあがる。厚さ・幅から小刀などの茎であろうか。長軸両端は欠損する。	60-809 1層
--------	-----------------	---	-----------

#### 第8次調査区

1 鑄造鉄製品	長 (6.5 × 3.6) 重 32.05	一面は平坦であるが、片面は凹凸があり、割れ走る。	1層 92-867
2 不明鉄製品	長 (4.8) 重 10.88	図中下方が刃になっている。棟側は弧状に窪んでいる。手鎌に似ている。	1層 92-867

#### 第11次調査区

1 鉄製鋸先	長 (10.9 × 10.7) 重 220.20	断面Y字状で層状剥離により2~3層の鉄板の鍛造とわかる。端部を一部欠いている。	調査区北西上面 60-311
2 鉄製釘か	長 (6.8) 重 19.97	断面方形で、図中下の方が細くなっている。	調査区北西部土山表採
3 鉄製刀子	長 (4.5) 重 4.96	刃部側の破片。棟・刃ともまっすぐにのびる。	調査区北東部1層
4 鉄製刀子	長 (4.4) 重 8.45	区付近の破片。刃部側のみ区がある。	60-410 最上層

#### 第14次調査区

1 鉄製鋸	長 (3.8) 重 11.50	L字形に曲げており、図中左側の部分は薄くなっていることから打ち込む部分であろう。	92区 563, 593 上面
-------	-----------------	--	-----------------

## 銅製品等

## 第1次調査区

1 管状銅製品	長 (7.1) 重 4.74	銅の管がゆるやかに曲がっている。断面は長楕円形に潰れている。	
---------	----------------	--------------------------------	--

## 第2次調査区

## SD-369

1 板状金銅製品	長 (5.7) 重 7.02 幅 1.9	帯状の銅板の表面に金をメッキする。図中上端は折り曲げている。	上面
----------	-------------------------	--------------------------------	----

## SK-281

1 銅銭	外径 2.2 重 2.37	洪武通過	上面
------	---------------	------	----

## 出土地点不明

1 鉄製釘か	長 (6.8) 重 3.82	長軸両端欠損する。図中下方が細く曲がっている。	
--------	----------------	-------------------------	--

## 僧房址第IIトレンチ

1 含鉄楕形鍛冶滓	長 (6.4 × 4.6) 重 110.30	中層に大きな割れが入り、その位置に鉄を含む楕形鍛冶滓。上面は全体に平坦で側縁に割れがあり、下面は丸味をもつ。放射割れと黒錆あり。	第II Tre(瓦出土面)
2 不明鉄製品	長 5.3 厚 0.8 幅 1.7 重 8.75	細長い環状にした鉄製品。断面蒲鉾状になる。	第II Tre(瓦出土面)

第4章 発見された遺物

第17表 男瓦・女瓦分類集計表

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	個数
男瓦	型式・産地			
<b>第1次調査区</b>				
<b>SB-138</b>				
女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		538	1	916
		不明	1	318
<b>SB-171</b>				
女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		384	1	669
<b>SA-150B</b>				
女瓦				
格子叩き	ない破片	4	107	
男瓦				
筒部破片	(三畳)	1	32	
<b>SI-C</b>				
女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	不明	1	51	
<b>SI-114</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B 2 (三畳)	2	382	1
	不明	1	44	
	ない破片	9	520	1
男瓦				
筒部破片	(三畳)	3	175	
<b>SI-121</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B 1	1	126	
	長縄	4	432	
格子叩き		295	1	111
	平行	1	113	
	不明	1	102	
	ない破片	4	227	
男瓦				
無段式 (狹端部)	(水道山) (三畳)	2	170	2
筒部破片	(三畳)	2	969	3
<b>SI-122</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B 2 (三畳)	1	116	
	短縄B 1もしくはB 2	3	245	
格子叩き		329 C	2	66
		334	1	98
		不明	2	115
		ない破片	12	192
男瓦				
筒部破片	(三畳)	1	100	
<b>SI-125</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B 2 (三畳)	1	36	
	短縄B 1もしくはB 2	1	40	
格子叩き		210	1	294
		302	1	44
		576	1	234
		不明	2	47
		ない破片	20	705
男瓦				
広端部	(三畳)	3	570	2
筒部破片	(三畳)	3	310	
<b>SI-143</b>				
女瓦				
格子叩き		538	1	314
		不明	1	23
		ない破片	3	39
男瓦				
広端部	(三畳)	1	186	1
<b>SI-168</b>				
女瓦 ※男瓦無				
無	ない破片	2	119	
<b>SI-184</b>				
女瓦				
格子叩き		432	2	1192
		ない破片	8	665
男瓦				
広端部	(三畳)	2	649	2
筒部破片	(三畳)	1	171	

SD-112

女瓦					
縄叩き	短縄B 1	1	80		
	短縄B 2 (三畳)	6	604	1	
	短縄B 1もしくはB 2	19	1314		
	長縄	8	794		
格子叩き		108	1	33	
		167	1	177	
		173	1	854	
		203	2	414	
		231 B	1	295	
		260	2	962	
		273	2	327	
		295	2	218	
		321	1	526	1
		329 C	1	73	
		329 D	1	48	
		329 C or D	3	198	1
		334	2	330	1
		344	1	313	
		356	2	343	1
		364	1	706	
		496	4	1134	1
		586	1	51	
		599	1	196	
		403	1	3465	3
	不明	97	5529	2	
	ない破片	69	4182	3	
男瓦					
無段式 (狹端部)	(水道山) (三畳)	1	87	1	
広端部	(三畳)	9	1375	5	
筒部破片	(三畳)	386	11707		

SD-113

女瓦				
縄叩き	短縄B 2 (三畳)	5	2763	3
格子叩き		不明	6	256
		ない破片	13	508
男瓦				
筒部破片	(三畳)	9	1241	1
<b>SD-140B</b>				
女瓦				
縄叩き	長縄	1	189	
格子叩き		576	1	275
		不明	7	1043
		ない破片	3	216
男瓦				
筒部破片	(三畳)	7	731	1

SD-151

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		326	1	59
		不明	1	507
		ない破片	4	70

SD-152

女瓦				
格子叩き		3 A	1	20
		291	1	109
		464	2	662
		不明	13	849
	ない破片	33	1434	1

SD-153

男瓦				
広端部	(三畳)	1	118	
筒部破片	(三畳)	13	565	

SD-153

女瓦				
縄叩き	短縄B	1	39	1
	短縄B 1もしくはB 2	9	190	
	長縄	4	223	
	西山か	1	269	
格子叩き		1 A	1	908
		15	1	72
		77	1	3042
		88	1	441
		231 B	1	226
		246 A	1	68
		247	1	114
		250 A or B	1	62
		329 C	1	1556
			1	1556

女瓦

	463	1	1545	1
	不明	16	870	
	ない破片	3	114	

男瓦

広端部	(三畳)	4	248	1
筒部破片	(三畳)	70	2235	4

SD-154

女瓦					
縄叩き	短縄B 1	2	230		
	短縄B 2 (三畳)	3	776		
	短縄B 1もしくはB 2	8	1239		
	長縄	13	2524	1	
格子叩き		15	1	182	
		20	1	105	
		70	1	114	
		192	1	206	
		203	3	571	
		174 A	1	160	
		208 B	1	91	
		217	2	333	
		232	1	211	
		308 B	1	213	
		329 C	1	179	
		334	2	639	
		342	1	104	
		344	1	211	
		356	1	143	
		384	1	202	
		432	1	381	
		不明	84	11336	5
		ない破片	56	5745	5

男瓦

無段式 (狹端部)	(水道山) (三畳)	1	64	
広端部	(三畳)	10	1905	4
筒部破片	(三畳)	73	7415	13

SD-163

女瓦				
縄叩き	短縄B 1	1	245	
	長縄	2	158	
格子叩き		206	1	146
		293	1	398
		432	1	1354
		不明	1	44
		ない破片	10	190

男瓦

筒部破片	(三畳)	2	247	1
------	------	---	-----	---

SD-193

女瓦				
縄叩き	短縄B 1もしくはB 2	1	34	
格子叩き		不明	1	57
		ない破片	4	151

男瓦

筒部破片	(三畳)	3	236	1
------	------	---	-----	---

SD-194

女瓦				
縄叩き	短縄B 1もしくはB 2	1	97	
	長縄	1	90	
格子叩き		15	1	182
		206	1	81
		不明	12	2291
		ない破片	11	589

男瓦

無段式 (狹端部)	(水道山) (三畳)	1	259	
筒部破片	(三畳)	8	1222	6

SD-195

女瓦				
縄叩き	短縄B 1もしくはB 2	1	131	
格子叩き		8	1	408
		326	1	111
		331	1	531
		344	1	119
		353	1	565
		不明	15	1281
		ない破片	18	262

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

第1次調査区

SD-195

男瓦 ※女瓦無				
広端部	(三叠)	3	520	2
筒部破片	(三叠)	9	1061	4

SD-196

女瓦				
縄叩き	短縄B1	4	477	
	短縄B2(三叠)	4	1001	
	長縄	1	123	
格子叩き		340	1	146
	不明	5	334	
	ない破片	17	403	

男瓦

無段式 (狭端部)	(水道山) (三叠)		2	540	2
広端部	(三叠)		1	254	1
筒部破片	(三叠)		3	246	

SD-198

女瓦				
格子叩き		295	1	177
		334	1	79
		不明	5	301
		ない破片	5	160

男瓦

筒部破片	(三叠)	3	256	1
------	------	---	-----	---

SD-201

女瓦				
縄叩き	短縄B2(三叠)	1	165	
	短縄B1もしくはB2	1	231	
格子叩き		212 B	1	127
		290	1	219
		不明	2	569
		ない破片	2	186

男瓦

筒部破片	(三叠)	3	569	2
------	------	---	-----	---

SD-204

女瓦				
格子叩き		334	1	763
		不明	2	329
		ない破片	1	524

男瓦

筒部破片	(三叠)	3	198	
------	------	---	-----	--

SD-206

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	2	99
		ない破片	8	468

SK-D

男瓦 ※女瓦無				
筒部破片	(三叠)	1	139	1

SK-116

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	26	
	長縄	3	384	
格子叩き		247	1	401
		334	1	276
		不明	3	291
		ない破片	4	26

男瓦

筒部破片	(三叠)	2	84	
------	------	---	----	--

SK-141

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	1	70

SK-177

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	2	80

SK-199

女瓦				
格子叩き		15	1	249
		203	2	1436
		260	1	391
		329 C	1	315
		340	1	508
		463	1	1695
		不明	3	291
		ない破片	15	246

男瓦

広端部	(三叠)	2	486	
筒部破片	(三叠)	2	143	2

SX-166

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	99	
格子叩き		33	2	1662
		108	1	281
		206	1	827
		288	1	333
		576	1	472
		不明	1	58
	ない破片	13	792	2

男瓦

筒部破片	(三叠)	3	431	1
------	------	---	-----	---

SX-167

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		217	1	691
		ない破片	2	192

SX-169

女瓦				
縄叩き	長縄	1	111	
格子叩き		300	1	331
		不明	1	151
		ない破片	8	199

男瓦

筒部破片	(三叠)	6	364	3
------	------	---	-----	---

SX-170

女瓦				
縄叩き	長縄	2	105	
格子叩き		295	2	248
		不明	1	59

男瓦

筒部破片	(三叠)	3	201	2
------	------	---	-----	---

SX-192

女瓦				
縄叩き	短縄B2(三叠)	1	341	
	短縄B1もしくはB2	2	92	
格子叩き	長縄	8	541	
		201 B	1	404
		203	1	195
		293	1	71
		356	1	74
		不明	25	1850
		ない破片	65	2105

男瓦

広端部	(三叠)	5	558	2
筒部破片	(三叠)	6	433	

第2次調査区

SB-338

女瓦				
格子叩き		不明	1	71
男瓦				
筒部破片	(三叠)	2	102	2

SA-300

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	2	342

S1-231

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		33	1	107
		ない破片	3	252

S1-237

女瓦				
格子叩き		586	1	394

男瓦

広端部	(三叠)	1	279	1
-----	------	---	-----	---

S1-239

女瓦				
格子叩き		214	1	209
		356	1	428
		ない破片	4	138

男瓦

広端部	(三叠)	1	101	
筒部破片	(三叠)	8	1803	6

S1-241

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	95	
格子叩き		295	1	229
		334	1	924
	(水道山)		1	166
		不明	4	520
		ない破片	7	285

男瓦

有段式 (狭端部)	B2(三叠)	1	944	1
無段部 (狭端部)	(水道山) (三叠)			
広端部	(三叠)	1	237	1
筒部破片	(三叠)	4	390	3

S1-251

女瓦				
格子叩き		246 A	1	269
		不明	3	65
		ない破片	5	125

男瓦

筒部破片	(三叠)	7	530	2
------	------	---	-----	---

S1-253

女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	106	
	短縄B1もしくはB2	2	89	

男瓦

有段式 (狭端部)	B1(三叠)	1	865	2
--------------	--------	---	-----	---

S1-255

女瓦				
格子叩き		587	1	371
		ない破片	1	45

男瓦

筒部破片	(三叠)	1	104	
------	------	---	-----	--

S1-257

女瓦				
格子叩き		不明	1	101

男瓦

筒部破片	(三叠)	1	99	1
------	------	---	----	---

S1-307

女瓦				
縄叩き	短縄B2(三叠)	1	176	
	短縄B1もしくはB2	4	187	
	長縄	2	1185	
格子叩き		108	1	289
		201	1	86
		246 B	1	181
		295	1	875
		326	1	120
		331	1	29
		336	1	273
		356	2	1943
		558	1	69
		不明	24	1901
		ない破片	82	2136

男瓦

無段部 (狭端部)	(水道山) (三叠)		1	137
広端部	(三叠)	3	768	1
筒部破片	(三叠)	10	885	1

S1-315

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	21	
格子叩き	ない破片	2	80	

S1-325

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	21	
	長縄	1	190	
格子叩き		15	1	66
		205	1	252
		262	1	64
		不明	10	468
		ない破片	30	416

## 第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

### 第2次調査区

#### S1-325

男瓦

※女瓦無

広端部	(三義)	2	217	
筒部破片	(三義)	7	580	

#### S1-335

女瓦

縄叩き	短縄B1	1	45	
	短縄B1もしくはB2	1	207	
	長縄	2	1014	
格子叩き		251	1	808
		344	1	1106
	型押・田II	1	479	1
	不明	7	1318	1
	ない破片	23	891	2

男瓦

無段部	(水道山)			
(狭端部)	(三義)	1	34	
筒部破片	(三義)	10	1202	3

#### S1-336

女瓦

縄叩き	短縄B2(三義)	1	8	
	短縄B1もしくはB2	1	17	
格子叩き		22	2	48
		64	1	473
	不明	5	345	
	ない破片	11	489	1

男瓦

広端部	(三義)	1	71	
筒部破片	(三義)	3	143	2

#### S1-337

女瓦

縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	13	
格子叩き		22	1	88
		576	1	271
	不明	5	461	1
	ない破片	10	269	

男瓦

広端部	(三義)	1	120	2
筒部破片	(三義)	5	733	3

#### S1-368

女瓦

縄叩き	短縄B2(三義)	1	213	1
格子叩き		251	1	128
	ない破片	5	147	

男瓦

無段部	(水道山)			
(狭端部)	(三義)	1	42	1

#### S1-376

男瓦

※女瓦無

筒部破片	(三義)	1	93	
------	------	---	----	--

#### S1-379

女瓦

※男瓦無

縄叩き	長縄	1	307	
格子叩き	不明	1	60	

#### S1-380

女瓦

※男瓦無

格子叩き	不明	1	144	
------	----	---	-----	--

#### SD-241

女瓦

格子叩き	ない破片	3	103	
------	------	---	-----	--

男瓦

広端部	(三義)	1	294	1
筒部破片	(三義)	5	752	1

#### SD-242

女瓦

縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	92	
格子叩き	364 B	1	217	
	不明	4	262	
	ない破片	6	425	

男瓦

筒部破片	(三義)	5	411	
------	------	---	-----	--

#### SD-249

女瓦

※男瓦無

格子叩き	不明	1	28	
	ない破片	2	146	

#### SD-250

女瓦

縄叩き	長縄	3	442	
格子叩き	不明	5	699	
	ない破片	6	342	2

男瓦

筒部破片	(三義)	7	895	1
------	------	---	-----	---

#### SD-256

女瓦

縄叩き	短縄B2(三義)	1	50	
格子叩き	不明	1	106	

男瓦

筒部破片	(三義)	5	432	1
------	------	---	-----	---

#### SD-265

女瓦

縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	166	
格子叩き	不明	3	179	
	ない破片	6	154	

男瓦

広端部	(三義)	1	604	1
筒部破片	(三義)	2	148	

#### SD-273

女瓦

※男瓦無

縄叩き	短縄B2(三義)	1	102	
-----	----------	---	-----	--

#### SD-292

女瓦

縄叩き	短縄B1	1	186	
	長縄	1	121	
格子叩き		15	1	28
		330 A	1	366
	不明	8	1134	
	ない破片	11	171	1

男瓦

広端部	(三義)	1	125	
筒部破片	(三義)	1	54	

#### SD-301

女瓦

縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	45	
格子叩き		203	1	272
		356	1	65
	不明	4	61	
	ない破片	19	460	

男瓦

無段部	(水道山)			
(狭端部)	(三義)	1	152	1
筒部破片	(三義)	4	443	2

#### SD-305

女瓦

格子叩き		334	1	744
	不明	3	142	
	ない破片	8	432	1

男瓦

筒部破片	(三義)	2	83	
------	------	---	----	--

#### SD-316

女瓦

※男瓦無

格子叩き	不明	2	81	
------	----	---	----	--

#### SD-330

女瓦

縄叩き	短縄B2(三義)	1	229	1
	長縄	8	734	
格子叩き		15	1	379
		61	1	215
		70	1	214
		150	1	316
		203	3	1023
		260	1	529
		321	1	551
		343	1	342
	不明	25	2065	1
	ない破片	114	3125	2

男瓦

有段式 (狭端部)	不明	1	50	
	(水道山)			
無段部 (狭端部)	(三義)	2	405	2
	(三義)	20	1474	5

#### SD-332

女瓦

格子叩き	329 D	1	29	
	不明	24	630	
	ない破片	97	1893	

男瓦

筒部破片	(三義)	12	583	1
------	------	----	-----	---

#### SD-333

女瓦

縄叩き	短縄B2(三義)	1	83	
	短縄B1もしくはB2	1	113	
格子叩き		15	1	32
		201 A	1	212
	不明	10	1231	
	ない破片	18	1039	

男瓦

広端部	(三義)	1	74	
筒部破片	(三義)	10	1149	2

#### SD-334

女瓦

縄叩き	短縄B1	1	144	
	短縄B2(三義)	3	309	
	短縄B2(荒神平)	3	162	
	長縄	8	965	2
格子叩き		15	4	579
		23	2	1073
		91	1	1132
		93	1	249
		174	1	80
		208	1	26
		227	2	214
		251	1	637
		291	1	279
		329 C	1	129
		334	1	163
		335	1	628
		346	1	234
		356	2	605
		359	1	71
		529	1	193
		不明	62	5436
	ない破片	128	5252	3

男瓦

無段部	(水道山)			
(狭端部)	(三義)	5	847	3
広端部	(三義)	8	2122	4
筒部破片	(三義)	37	3883	14

#### SD-363

女瓦

※男瓦無

格子叩き	201 B	1	251	
	201 B or C	1	160	
	308	1	146	
	不明	7	829	
ない破片	12	484	1	

#### SD-369

女瓦

縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	74	
	長縄	1	22	
格子叩き		22	1	336
		108	1	182
	不明	17	2492	
	ない破片	32	1225	1

男瓦

筒部破片	(三義)	6	476	3
------	------	---	-----	---

#### SD-370

女瓦

格子叩き	ない破片	1	9	
------	------	---	---	--

瓦分類集計表

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			
<b>第2次調査区</b>				
<b>SD-370</b>				
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	486	1
<b>SK-245</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	21	
格子叩き	ない破片	1	2	
<b>SK-291</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		224	1	192
		不明	1	30
		ない破片	1	23
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	73	
<b>SK-299</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	1	43
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	113	
<b>SK-323</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	1	35
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	47	1
<b>SK-339</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		293	1	343
		551	1	354
	寺	1	434	
	ない破片	6	158	1
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	163	
<b>SK-340</b>				
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	128	
<b>SK-341</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	2	72
		ない破片	8	105
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	63	
筒部破片	(三疊)	4	170	
<b>SK-343</b>				
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	111	
<b>SK-344</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		231 B	1	294
<b>SK-347</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	2	326
<b>SK-349</b>				
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	58	
<b>SK-353</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	2	100
		ない破片	1	6
<b>SK-354</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		ない破片	3	34
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	100	1
<b>SK-357</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		589	1	260
<b>SK-367</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	211	
	長縄	2	372	
格子叩き		20	1	234
		33	1	159
		91	1	339
		150	1	519

<b>女瓦</b>				
格子叩き		206	1	1276
		403	1	258
		不明	11	1257
		ない破片	10	771
<b>男瓦</b>				
広端部	(三疊)	1	128	1
筒部破片	(三疊)	6	936	3
<b>SK-371</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	284	
	長縄	1	228	
格子叩き		59	1	162
		329 C	2	739
		615	1	180
		不明	6	197
		ない破片	18	736
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	4	425	
<b>SK-372</b>				
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	156	
<b>SK-373</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		ない破片	1	10
<b>SE-299</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B2(三疊)	1	89	
	短縄B1もしくはB2	1	12	
	長縄	1	155	
格子叩き		231 B	1	69
		260	1	258
		356	1	834
		527	1	390
		538	1	55
		不明	14	1229
		ない破片	23	854
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	9	990	2
<b>SX-246</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	長縄	1	179	
格子叩き		203	1	559
		262	1	505
		384	1	728
		551	2	851
		不明	4	455
		ない破片	7	213
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	2	609	1
筒部破片	(三疊)	11	2182	3
<b>SX-279</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	29	
	長縄	1	195	
格子叩き		224 A	1	178
		ない破片	4	115
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	3	372	
<b>SX-299</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	長縄	1	277	
格子叩き		206	1	94
		不明	1	102
		ない破片	3	133
男瓦		※女瓦無		
無段部 (狭端部)	(三疊)	1	131	1
<b>SX-330</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		ない破片	1	101
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	2	89	1
<b>SX-331</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1	1	108	
	短縄B1もしくはB2	1	159	
	長縄	1	177	

<b>女瓦</b>				
格子叩き		1 C	1	56
		271	1	108
		不明	4	577
		ない破片	2	128
男瓦		※女瓦無		
無段部 (狭端部)	(三疊)	1	37	1
筒部破片	(三疊)	6	294	1
筒部破片	(三疊)	6	294	1
<b>SX-377</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		33	1	298
		217	2	520
		246	1	173
		不明	3	210
		ない破片	4	183
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	10	
<b>第4次調査区</b>				
<b>S1-406</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	5	286
		ない破片	7	71
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	15	
<b>S1-436</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	長縄	1	49	1
格子叩き		331	1	146
		不明	6	557
		ない破片	21	698
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	9	893	5
<b>S1-437</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B2(三疊)	1	21	
	長縄	9	1235	
格子叩き		不明	2	10
		ない破片	22	411
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	4	354	
筒部破片	(三疊)	8	636	2
<b>S1-438</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		300	1	989
		不明	7	682
		ない破片	10	398
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	5	168	1
<b>S1-439</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	長縄	2	1201	
格子叩き		300	1	119
		不明	6	428
		ない破片	10	532
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	70	
<b>S1-448</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	長縄	1	16	
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	41	
<b>S1-449</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き		不明	1	6
		ない破片	1	107
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	1	141	1

## 第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

### 第4次調査区

#### S1-451

女瓦				
縄叩き	長縄	4	1352	
格子叩き		64	1	97
		211	1	13
		217	1	157
		509	1	687
		不明	16	1261
	ない破片	24	1189	

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三疊)	2	239	1
広端部	(三疊)	2	327	1
筒部破片	(三疊)	15	2296	6

#### SD-140

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		326	1	556
		不明	3	87
		ない破片	4	119

#### SK-421

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	211	
	長縄	5	712	
格子叩き		33	1	305
		平行叩き	1	231
		不明	1	196
		ない破片	4	70

男瓦				
広端部	(三疊)	1	135	1
筒部破片	(三疊)	2	284	

#### SK-427

男瓦 ※女瓦無				
広端部	(三疊)	1	63	
筒部破片	(三疊)	1	29	

#### SK-429

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	1	35

#### SK-433

女瓦				
格子叩き		不明	2	20
		ない破片	1	4

男瓦				
筒部破片	(三疊)	1	93	1

#### SK-447

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	10	
	長縄	1	125	
格子叩き		15	2	559
		295	1	286
		329 A	1	42
		356	1	60
		不明	1	19
		ない破片	13	624

男瓦				
広端部	(三疊)	2	408	2
筒部破片	(三疊)	1	26	

#### SK-461

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	1	38

### 第5次調査区

#### S1-495

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	1	23
		ない破片	1	17

#### S1-496

女瓦				
格子叩き		不明	1	73

男瓦				
無段式	(三疊)	1	715	1

#### S1-500

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	長縄	1	110	
		不明	1	147
		ない破片	1	8

#### SK-494

女瓦				
縄叩き	長縄	1	15	
		不明	2	154
格子叩き		ない破片	4	280

男瓦				
筒部破片	(三疊)	1	204	

### 第6次調査区

#### S1-524

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	1	77

#### S1-539

男瓦 ※女瓦無				
筒部破片	(三疊)	1	14	

#### SK-540

女瓦				
格子叩き		不明	1	50
		ない破片	4	312

男瓦				
広端部	(三疊)	1	143	
筒部破片	(三疊)	4	915	1

#### SK-548

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	1	25

### 第7次調査区

#### SB-582

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	2	35

#### S1-558

男瓦 ※女瓦無				
広端部	(三疊)	1	168	1

#### S1-560

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	80	
		329 C	1	70
格子叩き		不明	2	232
		ない破片	2	10

男瓦				
広端部	(三疊)	1	158	1

#### S1-566

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	2	119
		ない破片	5	148

#### S1-588

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	1	29

#### SD-140

女瓦				
縄叩き	短縄B2 (三疊)	1	62	
	長縄	1	436	
格子叩き		329 A	1	148
		290	1	151
		不明	9	1085
		ない破片	9	273

男瓦				
広端部	(三疊)	2	513	2
筒部破片	(三疊)	8	793	2

#### SD-550

女瓦				
格子叩き		344	1	192
		ない破片	6	246

男瓦				
筒部破片	(三疊)	3	163	2

#### SK-554

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	1	151

#### SK-559

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		平行	1	37
		不明	2	43
		ない破片	9	104

#### SK-564

女瓦				
格子叩き		340	1	615
		不明	1	457
		ない破片	2	187

男瓦				
筒部破片	(三疊)	1	78	

#### SK-567

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		231 A	1	156

#### SK-570

女瓦				
格子叩き		290	1	347
		536	1	2701
		ない破片	1	394

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三疊)	1	961	1

#### SK-572

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		ない破片	3	183

#### SK-598

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	26	

### 第8次調査区

#### SD-140

女瓦				
格子叩き		不明	2	188
		ない破片	13	751

男瓦				
有段式 (狭端部)	B1 (三疊)	1	47	
無段式 (狭端部)	(三疊)	2	331	2
筒部破片	(三疊)	3	731	2

#### SD-610

女瓦				
格子叩き		不明	2	154
		ない破片	4	50

男瓦				
広端部	(三疊)	1	188	
筒部破片	(三疊)	3	377	2

### 第9次調査区

#### SB-654

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	464	
格子叩き		不明	1	111
		ない破片	5	180

男瓦				
筒部破片	(三疊)	3	173	

#### SA-700

女瓦				
格子叩き		291	1	167
		不明	2	189

男瓦				
広端部	(三疊)	2	112	1
筒部破片	(三疊)	1	130	

#### SD-6 A期

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		不明	1	185

#### SD-651

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	67	
	長縄	1	144	
格子叩き		95	1	110
		不明	6	411
		ない破片	8	467

瓦分類集計表

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			
<b>第9次調査区</b>				
<b>SD-651</b>				
男瓦		※女瓦無		
広端部	(三疊)	1	841	
筒部破片	(三疊)	9	552	2
<b>SD-653</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	146	
格子叩き	76 A	1	475	
	224	1	102	
	262	1	172	
	329 A	5	1133	1
	331	2	235	
	333	1	714	
	334	1	876	
	346	1	269	
	550	1	556	
	不明	48	5651	
ない破片	49	2642		
男瓦				
無段式 (狭端部)	(三疊)	2	415	1
広端部	(三疊)	2	705	2
筒部破片	(三疊)	21	1642	7
<b>SD-653A</b>				
男瓦		※女瓦無		
筒部破片	(三疊)	2	73	
<b>SD-653B</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B2(三疊)	3	207	
	短縄B1もしくはB2	9	667	
	長縄	2	217	
格子叩き	172	1	220	
	不明	10	546	
	ない破片	22	803	
男瓦				
筒部破片	(三疊)	10	544	1
<b>SD-655</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き	不明	1	45	
	ない破片	1	16	
<b>SD-656</b>				
女瓦				
縄叩き	長縄	1	93	
格子叩き	202	1	397	
	247	1	84	
	不明	11	1146	
	ない破片	10	302	
男瓦				
広端部	(三疊)	1	109	
筒部破片	(三疊)	9	1490	5
<b>SD-658</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	35	
格子叩き	ない破片	1	18	
男瓦				
筒部破片	(三疊)	4	510	2
<b>SD-658A</b>				
女瓦				
格子叩き	295	1	41	
	333	1	45	
	ない破片	2	55	
男瓦				
筒部破片	(三疊)	2	109	
<b>SD-658B</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B2(三疊)	2	151	
	短縄B1もしくはB2	3	315	
格子叩き	217	1	238	
	260	1	175	
	329 C	1	210	
	334 B	1	50	
	340	1	128	
	346	1	67	

女瓦					
	353	1	412		
	432	1	69		
	不明	10	571		
	ない破片	30	1237		
男瓦					
広端部	(三疊)	1	151		
筒部破片	(三疊)	17	1447	3	
<b>第10次調査区</b>					
<b>SB-650</b>					
女瓦					
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	153		
格子叩き	334	1	199		
	ない破片	11	331		
男瓦					
広端部	(三疊)	1	257	1	
筒部破片	(水道山)	6	605	1	
<b>SA-300</b>					
男瓦		※女瓦無			
筒部破片	(水道山)	1	69		
<b>SA-700</b>					
女瓦					
縄叩き	長縄	1	93		
格子叩き	不明	6	795		
	ない破片	3	248		
男瓦					
筒部破片	(水道山)	2	162	2	
<b>S1-674</b>					
女瓦					
縄叩き	短縄B1	1	16		
	短縄B1もしくはB2	2	119		
	長縄	2	1868	1	
格子叩き	23	1	171		
	69	1	1707	2	
	308	1	80		
	464	1	257		
	不明	7	973		
	ない破片	8	607		
	男瓦				
	無段式 (狭端部)	(三疊)	1	461	2
広端部	(三疊)	1	900	2	
筒部破片	(水道山)	9	806		
	(三疊)	4	271		
<b>SD-651</b>					
女瓦		※男瓦無			
格子叩き	ない破片	2	52		
<b>SD-653</b>					
女瓦					
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	68		
格子叩き	333	1	67		
	不明	1	74		
	ない破片	2	84	1	
男瓦					
筒部破片	(水道山)	9	390		
	(三疊)	5	198		
<b>SD-653A</b>					
女瓦					
格子叩き	ない破片	2	46		
男瓦					
広端部	(三疊)	1	285		
<b>SD-653B</b>					
女瓦					
縄叩き	短縄B2(三疊)	1	90		
	短縄B1もしくはB2	1	37		
格子叩き	217	1	229		
	321	1	268		
	340	1	257		
	不明	6	764		
	ない破片	26	938		
男瓦					
無段式 (狭端部)	(水道山)	1	337	1	
	(三疊)	1	158		
広端部	(水道山)	3	537		

男瓦				
筒部破片	(水道山)	13	1775	4
	(三疊)	9	1263	4
<b>SD-658B</b>				
女瓦		※男瓦無		
格子叩き	340	1	29	
<b>SD-670</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B2(三疊)	1	84	
	長縄	1	158	
格子叩き	不明	6	540	
	ない破片	27	1048	1
男瓦				
無段式 (狭端部)	(水道山)	1	112	1
	(三疊)	1	77	1
	筒部破片	(水道山)	6	513
	(三疊)	5	324	
<b>SD-670B</b>				
女瓦				
縄叩き	短縄B2(三疊)	1	42	
	短縄B1もしくはB2	2	364	
	長縄	3	666	
格子叩き	290	1	117	
	329 A	1	181	
	550	1	375	
	551	1	462	
	不明	6	1543	1
	ない破片	11	524	1
男瓦				
無段式 (狭端部)	(三疊)	1	118	1
広端部	(水道山)	1	146	
	(三疊)	3	781	
筒部破片	(水道山)	5	300	1
	(三疊)	10	768	3
<b>SD-671B</b>				
女瓦				
格子叩き	不明	3	270	
	ない破片	3	370	
男瓦				
筒部破片	(三疊)	2	409	2
<b>SD-672</b>				
女瓦		※男瓦無		
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	111	
格子叩き	ない破片	1	150	
<b>第11次調査区</b>				
<b>SB-700</b>				
女瓦				
男瓦		※男瓦無		
格子叩き	344	1	193	
	不明	2	235	
<b>SA-300</b>				
女瓦				
格子叩き	76 A	1	1197	1
	不明	6	648	
	ない破片	1	61	
男瓦				
筒部破片	(三疊)	1	247	
<b>S1-680</b>				
女瓦				
縄叩き	長縄	2	161	
格子叩き	201 B or C	1	164	
	210	1	221	
	231 B	1	239	
	256	1	457	
	不明	10	628	
	ない破片	13	319	
男瓦				
無段式 (狭端部)	(三疊)	1	98	
広端部	(三疊)	2	309	
筒部破片	(水道山)	1	45	
	(三疊)	8	836	3

第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

第11次調査区  
S1-686

女瓦				
格子叩き	251	1	1048	1
	ない破片	1	4	

男瓦				
筒部破片	(水道山)	1	246	1
	(三叠)	1	3248	2

S1-690

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	49	
	長縄	4	548	
格子叩き	95	1	65	
	231 B	1	493	
	584	1	154	
	不明	9	448	
	ない破片	18	287	

男瓦				
筒部破片	(三叠)	3	591	2

S1-691

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	長縄	1	30	
格子叩き	95	1	469	
	230	1	693	
	602	1	298	
	不明	5	591	
	ない破片	18	497	1

S1-696

女瓦				
縄叩き	長縄	2	3038	1
格子叩き	32 A	1	76	
	217	1	45	
	251	1	1921	1
	253	1	971	
	不明	3	194	
	ない破片	4	189	

男瓦				
筒部破片	(水道山)	2	236	2
	(三叠)	1	114	1

S1-698

女瓦				
格子叩き	339	1	217	
	不明	2	117	
	ない破片	13	91	

男瓦				
広端部	(三叠)	2	476	1
筒部破片	(水道山)	1	50	
	(三叠)	3	519	1

S1-714

女瓦				
格子叩き	203	1	40	
	不明	2	28	
	ない破片	12	223	

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三叠)	1	613	2
広端部	(三叠)	1	72	
筒部破片	(三叠)	3	758	2

S1-715

女瓦				
格子叩き	不明	1	41	
男瓦				
広端部	(三叠)	1	258	

S1-751

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	224 A or B	1	327	
	333	1	348	1
	ない破片	4	163	

S1-781

女瓦				
格子叩き	326	1	276	
	ない破片	4	68	

男瓦				
筒部破片	(三叠)	3	382	1

SD-193

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	70	
格子叩き	203	1	890	
	231 B	1	70	
	295	1	204	
	334 A	1	306	
	不明	3	365	
	ない破片	4	290	

男瓦				
筒部破片	(水道山)	1	59	
	(三叠)	2	194	1

SD-265

女瓦				
格子叩き	225 A	1	480	
	290	1	159	
	340	1	36	
	576	1	205	
	不明	3	350	
	ない破片	5	66	

男瓦				
筒部破片	(三叠)	4	533	

SD-330

女瓦				
縄叩き	短縄B2 (三叠)	1	498	1
	短縄B1もしくはB2	3	153	
	長縄	9	717	
格子叩き	23	1	212	
	113	1	181	
	138	1	736	
	203	3	1284	1
	205	1	63	
	217	1	84	
	224 A	1	357	
	231 B	1	352	
	262	1	278	
	369	1	813	
	597	1	442	
	602	1	153	
	608	1	1016	
	不明	21	1485	
	ない破片	86	2864	

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三叠)	4	868	2
広端部	(三叠)	2	135	2
筒部破片	(水道山)	1	64	
	(三叠)	19	1507	5

SD-369				
女瓦				
縄叩き	長縄	1	126	
格子叩き	22	1	131	
	203	1	250	
	217	1	120	
	不明	5	374	
	ない破片	11	331	

男瓦				
無段式	(三叠)	1	77	

SD-550

女瓦				
格子叩き	231 B	1	324	
	不明	4	771	1
	ない破片	2	133	
男瓦				
広端部	(三叠)	1	50	
筒部破片	(水道山)	1	44	
	(三叠)	1	101	1

SD-681

女瓦				
格子叩き	不明	6	395	
	ない破片	24	310	

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三叠)	1	76	1
筒部破片	(三叠)	2	98	

SD-682

女瓦				
縄叩き	短縄B2 (三叠)	2	393	
	長縄	5	963	
格子叩き	208	1	599	1
	224 A	1	70	
	260	1	274	
	340	1	39	
	不明	9	597	
	ない破片	26	1621	3

男瓦				
有段式 (狭端部)	B2 (三叠)	1	155	
無段式 (狭端部)	(三叠)	1	121	
筒部破片	(三叠)	8	1304	3

SD-713

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	350	
	長縄	2	205	
格子叩き	15	1	373	
	224 A	1	95	
	不明	7	1310	
	ない破片	14	1349	

男瓦				
筒部破片	(水道山)	1	72	
	(三叠)	8	828	

SD-777

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	ない破片	1	5	

SD-782

女瓦				
格子叩き	不明	3	329	
	ない破片	1	103	

男瓦				
筒部破片	(三叠)	2	127	1

SD-790

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	125	
格子叩き	584	1	70	
	不明	5	467	
	ない破片	7	164	

男瓦				
広端部	(水道山)	1	36	
筒部破片	(三叠)	1	109	

SD-796

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	596	
格子叩き	329 A	1	149	
	589	1	150	
	不明	3	209	
	ない破片	3	168	

男瓦				
筒部破片	(三叠)	1	228	

SD-797

女瓦				
格子叩き	不明	1	328	
	ない破片	2	19	

男瓦				
広端部	(三叠)	1	202	

SD-800

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	1	15	
格子叩き	360	1	1024	
	不明	5	557	
	ない破片	4	1137	

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

第11次調査区

SD-800

男瓦 ※女瓦無				
無段式 (狭端部)	(三義)	1	249	
広端部	(三義)	3	2820	4
筒部破片	(水道山)	1	412	1
	(三義)	2	223	2

SD-804

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	80	
	長縄	1	189	
格子叩き		321	1	233
		342	1	143
		不明	8	575
		ない破片	18	535

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三義)	1	311	
広端部	(三義)	1	279	1
筒部破片	(三義)	4	132	

SD-805

女瓦				
縄叩き	長縄	6	408	
格子叩き		201 A	1	272
		231 B	1	124
		250 B	1	243
		584	1	196
		不明	11	980
		ない破片	12	243

男瓦				
無段式 (狭端部)	(三義)	2	223	1
筒部破片	(三義)	5	290	1

SD-810

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	ない破片	5	264	

SK-695

女瓦				
縄叩き	長縄	1	305	
格子叩き		15	1	1438
		41	1	1487
		68	1	444
		91	1	2151
		113	1	1095
		201 B	1	699
		202	1	2151
		216	1	1050
		不明	2	684
		ない破片	2	413

男瓦				
筒部破片	(三義)	1	441	1

SK-697

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	不明	1	56	
	ない破片	1	3	

SK-699

男瓦 ※女瓦無				
筒部破片	(三義)	1	71	

SK-704

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	ない破片	1	406	1

SK-727

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	ない破片	1	36	

SK-733

男瓦 ※女瓦無				
筒部破片	(三義)	1	53	

SK-739

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	ない破片	1	96	

SX-805

女瓦				
縄叩き	短縄B2(三義)	1	368	
	短縄B1もしくはB2	1	193	
	長縄	1	69	

女瓦				
格子叩き		432	1	111
		496	1	245
		不明	5	510
		ない破片	18	1002

男瓦				
広端部	(三義)	1	138	1
筒部破片	(三義)	4	263	

第12次調査区

SA-820

女瓦				
格子叩き	329 A	1	168	

男瓦				
	(三義)	1	257	1

SD-610

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	短縄B1	2	136	1
格子叩き	不明	1	197	
	ない破片	3	109	

SD-610B

女瓦				
縄叩き	長縄	3	210	
格子叩き		214	1	161
		不明	1	102
		ない破片	4	484

男瓦				
	(三義)	4	409	2
	(西山)	1	48	

SD-811

女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	86	
格子叩き	不明	3	140	
	ない破片	4	240	

男瓦				
	(三義)	1	83	
	(水道山)	1	26	

SD-814

男瓦 ※女瓦無				
	(三義)	1	151	

SD-816

女瓦				
格子叩き	329 A	1	70	
	不明	1	228	
	ない破片	3	121	1

男瓦				
	(三義)	1	224	

SD-821

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	短縄B2	1	237	1

SD-821B

女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	44	
	不明	1	164	1
	ない破片	1	35	1

男瓦				
	(三義)	1	46	

SD-822

女瓦				
縄叩き	短縄B1	2	294	1
	不明	3	250	
	ない破片	1	21	

男瓦				
	(三義)	1	17	

SD-826

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き		144	1	258
		225 A	1	73
		276	1	171
		329 D	1	83
		466	1	398
		不明	12	1046

SD-827

女瓦				
縄叩き	短縄B1	14	554	1
	長縄	1	2717	1

女瓦				
格子叩き		35	1	38
		110	1	25
		203	2	742
		206	1	543
		225 A, B	1	52
		227	1	141
		243	1	601
		245	1	276
		246 B	1	143
		247	1	352
		252 A	2	53
		259	1	164
		278	1	473
		308 A	2	835
		326	1	131
		329 C	1	38
		335	1	141
		356	1	57
		369	1	213
		375	1	447
	398 A	1	140	
	531	1	51	
	113,174	1	83	
	不明	36	2818	
軒瓦		1	150	
無		24	931	1
不明		18	498	1

男瓦				
有段	(三義)	1	72	
無段式粘	(三義)	1	34	
土紐巻上				
粘土巻上	(三義)	1	52	
	(三義)	113	5525	9
	(水道山)	7	848	1
	不明	3	398	1

SD-835

女瓦				
格子叩き	不明	1	74	

男瓦				
	(三義)	1	35	

SD-836

女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	101	
	長縄	7	1675	
格子叩き		63	1	47
		295	1	31
		308 B	1	118
		333	2	69
		337	1	54
		不明	10	923
		ない破片	4	93

男瓦				
	(三義)	8	276	
	(水道山)	2	71	

SD-840

女瓦 ※男瓦無				
縄叩き	短縄B1	2	387	
縄叩き	長縄	1	346	
格子叩き	208 A	1	194	
	不明	1	71	

SX-828

女瓦 ※男瓦無				
格子叩き	333	1	874	1
	ない破片	1	168	

SX-839

女瓦				
格子叩き		487	1	246
男瓦				
	(三義)	1	298	1

第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	陶数
男瓦	型式・産地			

第12次調査区

南門東柱 根石

女瓦

縄叩き	短縄B 1	1	240	
	長縄	4	1404	2
格子叩き	144	1	362	
	203	2	684	
	225 A	1	262	1
	225 B	1	237	
	340	1	354	
	549	1	327	

男瓦

	(三義)	1	255	1
	(水道山)	1	391	

91区 860

女瓦

縄叩き	短縄B 1	1	156	
格子叩き	ない破片	1	67	
	不明	1	165	

男瓦

	(三義)	2	278	1
--	------	---	-----	---

91区 887

女瓦

叩き		1	66	
格子叩き	不明	1	104	
	ない破片	1	120	1

91区南門付近表土

女瓦

縄叩き	短縄B 1	39	4059	2	
	長縄	29	3392	7	
格子叩き	3 A	1	77		
	6	1	104		
	15	1	9		
	49	1	77		
		54	2	218	
		63	1	300	
		76 A	2	133	
		203	6	511	
		210	1	164	
		211	1	41	
		224 A	1	207	1
		225 A	1	87	
		231 B	1	173	
		246 E	1	65	
		258	1	209	1
		260	1	214	
		262	1	116	
		270	1	510	
		276	1	158	
		288	1	263	1
		291	1	274	
		295	1	190	
		308 B	1	84	
		326	1	129	
		331	3	325	
		340	1	92	
		356	1	77	
	369	1	106		
	385	1	43		
	424	1	238		
	485	1	217		
	558	1	79		
	606	2	203		
	不明	58	5046		
	ない破片	61	3329	1	
不明		67	1898		

男瓦

粘土巻上	(三義)	4	200	
	(三義)	125	10372	16
	(水道山)	4	280	1
	不明	1	41	

91区表探

女瓦

縄叩き	短縄B 1	1	417	1
-----	-------	---	-----	---

107区 78

女瓦

格子叩き	不明	2	145	
	ない破片	4	151	

男瓦

	(三義)	1	44	
--	------	---	----	--

107区 79

女瓦

縄叩き	長縄	3	139	
格子叩き		54	1	204

男瓦

	(三義)	1	34	
--	------	---	----	--

107区 137

男瓦

	(三義)	1	31	
	(水道山)	1	22	1

107区 286

女瓦

格子叩き	203	1	139	
------	-----	---	-----	--

107区 556

女瓦

格子叩き	不明	1	116	
------	----	---	-----	--

107区南門付近表土

女瓦

縄叩き	短縄B 1	4	274	
	長縄	9	735	
叩き		2	196	
格子叩き		121	1	76
	不明	14	1090	
	ない破片	11	530	1
不明		7	141	

男瓦

粘土巻上	(三義)	1	35	
	(三義)	8	606	1
	(水道山)	2	192	1

107区表土

女瓦

縄叩き	長縄	2	350	1
格子叩き	260	1	206	
	ない破片	6	428	1
不明		1	12	

男瓦

	(三義)	2	55	
--	------	---	----	--

調査区北端 表土中

女瓦

縄叩き	短縄B 1	15	2206	2	
	長縄	31	4578	4	
格子叩き	3 A	1	159		
		15	1	41	
		63	1	83	
		214	1	95	
		224 A	1	200	
		224 C	2	273	
		225 B	2	539	
		226	1	206	
		231 B	1	161	
		231 C	1	154	
		247	2	699	
		249	1	79	
		259	1	98	
		260	1	257	1
		262	4	911	
		265	1	223	
		288	1	166	
		291	1	53	
		308 A	2	536	1
		329 A	1	48	
		329 D	1	300	
		330 A, B	1	26	
		331	1	285	
		333	3	577	1
		334	1	229	
		336	1	74	1
		340	2	336	1
	343	1	195		
	356	2	160		

女瓦

		357	1	366	
		364 A	1	140	1
		369	1	910	
		477	1	376	1
		518	1	165	
		551	1	223	
		558	1	248	
		563	1	57	
		606	1	175	
		不明	33	3050	1
		ない破片	34	2930	6
不明			27	657	
男瓦					
粘土巻上	(三義)	1	102		
玉縁	(水道山)	1	76		
	(水道山)	4	493		
	不明	1	105		

表探

女瓦

縄叩き	長縄	3	907	
叩き		1	82	
格子叩き		206	1	109
	不明	4	247	2
	ない破片	4	170	

男瓦

	(三義)	2	65	
	(水道山)	1	51	
	不明	2	226	1

第13次調査区

SD-193

男瓦

	(三義)	1	55	1
--	------	---	----	---

SD-610

女瓦

格子叩き	ない破片	1	22	
------	------	---	----	--

男瓦

	(三義)	1	164	
--	------	---	-----	--

SD-822

女瓦

格子叩き	ない破片	1	228	1
------	------	---	-----	---

SD-840

女瓦

格子叩き	不明	1	97	
------	----	---	----	--

出土地不明

女瓦

格子叩き	246 E	1	156	1
	342	1	514	1
	不明	1	90	
	ない破片	2	116	1

第14次調査区

S1-843

女瓦

縄叩き	長縄	2	93	
格子叩き	340	1	22	
	不明	2	212	
	ない破片	2	122	1
不明		6	60	

男瓦

	(三義)	4	540	
--	------	---	-----	--

S1-844

女瓦

縄叩き	短縄B 1	1	56	
	長縄	7	2412	1
格子叩き	32 C	1	232	
	572	1	154	
	不明	1	11	
	ない破片	2	330	1
不明		1	11	

男瓦

	(三義)	3	513	1
	(水道山)	1	56	

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

第14次調査区

S1-845

女瓦				※男瓦無
格子叩き	不明	1	60	
	ない破片	1	25	

S1-846

女瓦				※男瓦無
縄叩き	短縄B1	1	269	
	長縄	1	60	
格子叩き	不明	1	28	

S1-847

女瓦				
格子叩き		206	1	200
		331	1	70
	ない破片	1	159	

男瓦

	(三疊)	2	273	
--	------	---	-----	--

S1-848

女瓦				※男瓦無
不明		1	7	

S1-849

女瓦				※男瓦無
格子叩き	329 C	1	576	

S1-852

女瓦				※男瓦無
縄叩き	長縄	3	219	
格子叩き		40	1	119
	ない破片	1	21	

S1-853

女瓦				※男瓦無
格子叩き	不明	1	70	
	ない破片	2	64	
不明		1	28	1

S1-855

女瓦				※男瓦無
格子叩き	不明	1	67	

SK-854

女瓦				※男瓦無
不明		2	41	

SK-857

女瓦				※男瓦無
格子叩き		27	1	340
	不明	1	33	
	ない破片	1	82	

SK-858

女瓦				
格子叩き		138	1	147
	ない破片	1	30	
不明		1	34	

男瓦

	(三疊)	3	110	
--	------	---	-----	--

SK-859

女瓦				※男瓦無
格子叩き		217	1	250
	不明	1	35	
	ない破片	2	145	
不明		1	28	

SK-860

男瓦				※女瓦無
	(三疊)	1	98	

SK-862

女瓦				※男瓦無
縄叩き	長縄	1	147	1

SK-863

女瓦				※男瓦無
縄叩き	長縄	1	30	

SK-865

女瓦				
格子叩き	ない破片	1	18	

男瓦

	(三疊)	8	539	1
--	------	---	-----	---

92区グリッド出土

女瓦 ※男瓦無

縄叩き	長縄	10	1274	
格子叩き	1 A	1	20	
	53	1	164	
	201 B, C	1	31	
	224 A	1	71	
	225 A, B	1	146	
	329 C, D	1	7	
	331	1	237	
	432	1	105	
	不明	10	863	1
	ない破片	25	983	1
不明		24	528	

遺構外

第1次調査区

女瓦				
縄叩き	短縄B1	4	264	1
	短縄B2(三疊)	26	3140	5
	短縄B1もしくはB2	58	3455	
	長縄	65	6102	2
格子叩き	174 B	1	268	
	201 b or C	2	375	
	231 C	3	440	
	260	1	348	1
	290	1	496	
	291	1	232	
	292	1	132	
	295	4	676	
	326	1	37	
	329 C	4	545	1
	329 D	2	153	
	329 C or D	2	209	
	334	4	535	
	335	1	462	1
	340	1	258	
	342	1	349	
	343	1	219	
	356	5	722	2
	249	1	1164	
	534	1	116	
	549	1	72	
	600	1	549	
	不明	532	24742	6
	ない破片	1976	41795	12

男瓦

有段式 (狭端部)	B2(三疊)	1	105	
	C(荒神平)			
無段式 (狭端部)	(水道山)			
	(三疊)	10	1920	6
広端部	(三疊)	38	6247	12
筒部破片	(三疊)	375	20684	37
粘度細巻筒部		1	84	

第2次調査区

女瓦				
縄叩き	短縄B2(三疊)	5	701	
	短縄B1もしくはB2	17	1092	
	長縄	14	1813	2
格子叩き	64	1	157	
	138	1	229	
	210	1	136	
	246 D	1	155	
	248	1	135	
	251 A	1	88	
	262	1	157	
	271 B	1	244	
	294	1	544	
	326	1	214	
	329 A	2	1705	1
	329 D	1	98	

女瓦

	330 A	1	131	
	331	2	214	
	344	1	355	1
	356	1	61	
	378	1	322	
	425	1	1403	
	432	2	221	
	458	1	672	1
	466	1	379	
	550	1	145	
	551	1	290	
	576	2	233	
	600	1	181	
	586	1	16	
	不明	228	14043	2
	ない破片	944	22322	4

男瓦

有段式 (狭端部)	B1(三疊)	1	82	
	B2(三疊)	1	146	
無段部 (狭端部)	(水道山)			
	(三疊)	13	1421	9
広端部	(三疊)	10	2225	1
筒部破片	(三疊)	194	13963	39

第4次調査区

女瓦				
縄叩き	短縄B1	1	38	
	短縄B2(三疊)	1	95	
	短縄B1もしくはB2	1	2	
	長縄	7	1420	2
格子叩き	260	1	256	
	261	1	104	
	291	1	1105	1
	326	1	166	
	329 C	1	118	
	333	1	150	
	不明	25	1408	
	ない破片	116	1677	

男瓦

広端部	(三疊)	1	115	1
筒部破片	(三疊)	9	741	2

第5次調査区

女瓦				※男瓦無
格子叩き	ない破片	1	16	

第6次調査区

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	2	50	
	長縄	2	258	
格子叩き	平行	1	30	
	不明	5	507	
	ない破片	35	1192	2

男瓦

広端部	(三疊)	1	225	1
筒部破片	(三疊)	3	286	1

第7次調査区

女瓦				
縄叩き	短縄B1もしくはB2	3	170	
	長縄	2	181	
格子叩き	不明	12	648	
	ない破片	44	771	1

男瓦

筒部破片	(三疊)	5	291	
------	------	---	-----	--

第8次調査区

女瓦				
縄叩き	長縄	5	229	
格子叩き		356	1	110
		550	1	33
	不明	13	672	
	ない破片	25	604	

第4章 発見された遺物

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

遺構外

第8次調査区

男瓦				
筒部破片	(三義)	12	952	4

第9次調査区

女瓦					
縄叩き	短縄B 1	1	167		
	短縄B 2 (三義)	3	303		
	短縄B 1もしくはB 2	12	1286		
	長縄	10	1709	1	
格子叩き		22	2	168	
		64	1	179	
		134	1	202	
		203	1	107	
		207 A	1	169	
		207 C	1	86	
		210	1	92	
		214	1	103	
		217	2	371	
		231 B	1	92	
		245	1	133	
		246 B	2	463	1
		260	3	770	
		262	1	116	
		273	1	361	
		295	1	97	
		310	1	260	
		321	1	107	
		329 A	1	99	
		329 C	1	173	
		329 C or D	2	89	
		331	2	274	
		333	1	329	
		334 A	2	154	
		340	2	218	
		356	4	797	
		364 A	2	547	
		385	1	77	
		550	1	239	
		552	2	194	
		平行	1	153	
		不明	206	18650	2
		ない破片	512	22812	2

男瓦

無段式 (狹端部)	(三義)	6	1496	
広端部	(三義)	23	4135	8
筒部破片	(三義)	194	20048	45

第10次調査区

女瓦					
※男瓦無					
縄叩き	短縄B 2 (三義)	4	1123	1	
	短縄B 1もしくはB 2	12	899		
	長縄	4	746	3	
格子叩き		33	1	39	
		203	1	288	
		247	1	224	
		260	1	206	
		274	1	93	
		313	1	120	
		333	1	483	
		334	1	88	
		342	2	298	
		351	1	133	
		不明	22	2105	
	ない破片	17	1708		

第11次調査区

女瓦					
縄叩き	短縄B 1	2	484		
	短縄B 2 (三義)	1	42		
	短縄B 1もしくはB 2	13	1441		
	長縄	6	1469	1	
格子叩き		4	1	142	
		15	2	225	
		21	1	138	
		88	1	41	
		203	1	137	
		217	1	162	
		226	1	243	
		229	1	212	
		231 B	1	112	
		251 ?	1	900	1
		256	1	222	
		291	1	83	
		343	1	80	
		不明	77	5101	
	ない破片	203	4791	1	

男瓦

無段式 (狹端部)	(三義)	2	294	2
広端部	(三義)	4	232	
筒部破片	(水道山)	4	464	
	(三義)	44	3110	6

第13次調査区

女瓦				
※男瓦無				
縄叩き	長縄	1	87	
格子叩き	不明	1	102	
無		1	240	

尼房北方の篠崎氏の畑

女瓦				
※男瓦無				
格子叩き	231A	1	1920	

型押文一覧表 (国分寺 1997 報告追加)

番号	目数	機骨	国分寺	尼寺	文字 (尼寺の文字瓦)	関連遺跡 (大川 1974)	生産遺跡	字瓦型式	時期
485	8以上×7	×	○						
487	5×5	×	○		ヘラ不明				
496	5×5	×	○	○					
509	8×6	×	○						
518	6×8	×	○	○					
527	7×7	×	○	○					
529	7×7	×	○	○					
534	6×6	×	○						
536	7×8	×	○	○					
538	5×4	×	○	○	ヘラ不明				
549	8×13	×		○	(ヘラ「内」AB)	尼 164			I-2
550	7×6	×		○			中山窯構築材		
551	8×11	×		○				尼 4G	
552									
558	斜格子	×	○		(ヘラ「矢」「内」A)	尼 34		(尼)	
563	5×7	×	○		ヘラ「田」A II 足 AB				
572	5×5	×		○				尼 14	I-2
576	5×5	×		○					
584									
586	16以上×	×		○	ヘラ不明	(尼 326)			
587	変形型格子×	×		○		(尼 73)		尼 12B	
589	変形型格子 6×	×		○	(ヘラ不明)	(尼 100-313)			
597	6×6	×		○					
599	5×9	×		○	(ヘラ不明)	(尼 342)			
600	9×8	×		○	(ヘラ「川」)	(尼 55)			
602	6×9	×		○		粟 1008		(粟 4F) (大慈寺 8A)	
606	5×4	×		○		(尼 74)			
608									
615	6×5	×	○						

※型押文は No.550 は中山窯と同一叩き

女瓦	型押文番号	破片数	総重量	隅数
男瓦	型式・産地			

金堂

女瓦

縄叩き	短縄 B2	1	435	
	長縄	2	1681	
格子叩き	1B	2	385	
	3A	2	623	
	23	1	519	2
	62	12	7256	5
	68	1	71	
	91	3	6914	7
	130	1	2779	1
	133	2	2133	
	170	10	5323	3
	201	1	863	1
	202	1	708	
	203	1	697	
	204	1	258	
	208	2	1051	1
	246	3	1594	1
	246E	1	122	1
	258	1	547	1
	260	1	1329	
	295	1	125	
	310	1	682	1
	324	1	518	
	326	1	348	
	329A	1	1060	
	333	1	167	
	334	1	1183	
	337	1	807	1
	340	1	675	
	344	1	299	
	356	2	1316	
453	1	1120		
551	1	1395	1	
589	1	839		
不明	48	5356	2	
ない破片	20	3502	3	

男瓦

無段式(狭端部)	(三疊)	1	1141
広端部	(三疊)	1	406
筒部破片	(三疊)	6	1841

金堂基壇

女瓦

縄叩き	短縄 B2	1	97	
	長縄	3	2268	
格子叩き	1B	2	1284	
	7	1	612	
	15	1	236	
	32A	1	363	
	41	2	2004	1
	91	1	1522	1
	121	2	677	2
	171	1	372	
	203	1	565	
	231C	1	88	
	246	1	465	
	246B	3	2394	
	246E	3	2940	1
	260	3	2115	
	261	1	2236	
	262	2	1109	
	286	1	238	
	295	4	1682	

金堂基壇

女瓦

格子叩き	324	1	642	
	326	3	3682	
	329A	1	653	
	329C	1	1294	
	331	1	442	
	333	1	1309	
	334	2	779	
	334A	1	467	
	340	2	1198	
	342	1	344	
	352	1	483	
	356	3	7266	
	367	2	522	
	479	1	1425	
	不明	3	2037	
	斜格子	3	1604	

男瓦

無段式(狭端部)	(三疊)	3	4873
広端部	(三疊)	3	2013
筒部破片	(水道山)	1	375
	(三疊)	5	1748
	不明	2	138

回廊

女瓦

縄叩き	長縄	7	1934	
		7	721	
格子叩き	1B	5	2297	1
	17A	1	610	
	18B	1	1934	1
	23	1	253	
	71	1	1034	
	192	1	283	
	203	2	3014	1
	205	2	960	1
	245	1	477	
	246	4	2711	
	249	1	217	
	260	2	691	
	262	3	1989	
	326	1	435	
	329C	1	633	
	329D	1	253	
	329E	1	836	
	333	2	304	
	337	2	370	1
	343	1	129	
	344	1	547	
	356	1	297	1
	367	1	193	
	402	1	395	
不明	5	264		

男瓦

無段式(狭端部)	(三疊)	3	2279
広端部	(三疊)	6	3559
筒部破片	(三疊)	11	4559
	不明	1	232

僧房

女瓦

縄叩き	長縄	3	3441	
格子叩き	1A	2	787	
	1B	9	4184	
	9	1	185	
	15	2	1148	1
	22	2	1180	1

僧房

女瓦

格子叩き	32A	1	606	
	76A	1	1021	
	121	2	863	
	125	1	2740	1
	170	2	2239	
	203	1	359	1
	224	2	151	1
	224B	1	458	1
	254	1	487	
	260	1	231	
	295	2	773	1
	321	1	333	
	329D	1	205	
	335	1	1915	1
	352	1	170	
	356	1	199	
	367	2	1521	
	466	1	1331	
	608	1	471	
不明	1	478		

男瓦

無段式(狭端部)	(三疊)	2	2855
広端部	(三疊)	2	1517
筒部破片	(三疊)	4	915

南門

女瓦

縄叩き		3	458	
格子叩き	1B	1	134	
	256	1	139	
	329A	2	560	1
	335	1	265	1
	356	1	240	1
(桶巻造)	1	120		

男瓦

不明	不明	1	99
----	----	---	----

推定経蔵か

女瓦

格子叩き	245	1	245
	334	1	154

男瓦

筒部破片	(三疊)	1	103
------	------	---	-----

第4章 発見された遺物

第18表 伽藍地（遺構外）出土男瓦・女瓦分類・集計表

型押文番号	破片数	総重量(g)	偶数
1A	4	1116	
1B	25	8671	3
1B'	2	867	1
1C	3	391	
3A	5	1369	
3B	3	604	
4	1	289	
15	4	1514	1
15B	1	238	
17A	1	146	
20	2	1124	
23	2	646	
25	1	366	
32A	8	3434	
33	2	846	
40	1	541	
41	1	1228	
54	1	133	
61	1	296	
62	45	33402	11
63	3	1223	
64	2	275	
68	1	87	
71	2	1274	2
87	1	1181	
91	6	3979	2
121	2	672	
130	5	2083	
138	1	204	
141	2	901	
147	1	497	
150	2	1081	
152	1	660	
170	18	10905	6
174	1	1294	
192	4	1759	
201B	2	572	
202	3	2200	
203	26	18050	9
204	3	808	
205	5	2678	2
206	1	1104	1
207A	2	467	
208	1	369	
210	3	1385	
216	1	216	
217	9	5284	2
224A	4	3439	2
224C	2	309	
225A	1	200	1
225B	1	348	
227B	2	632	1
229	2	379	

型押文番号	破片数	総重量(g)	偶数
231A	1	387	1
231B	2	1795	4
232	1	463	
236	2	5089	2
245	1	343	1
246	7	3990	2
246E	9	5259	6
249	1	282	
253	2	563	
259	1	474	
260	17	12308	5
262	19	12917	5
273	1	846	1
291	1	566	
294	1	472	1
295	32	17053	9
308	6	3468	1
308A	3	1087	2
308B	3	1594	
321	2	1108	2
324	2	341	
326	10	5499	
329A	7	4439	3
329C	4	1671	
329D	1	256	
330	2	557	
331	1	355	
333	10	8132	5
334A	5	4355	3
335	4	2379	2
336	2	963	
337	4	2732	
338	2	881	
339	3	855	
341	1	205	
342	6	2830	
343	5	3792	1
344	8	6709	2
346	3	812	1
351	4	3923	2
353	4	3827	1
355	1	699	
356	21	9339	5
359	1	224	
361	1	301	
363	1	784	1
364A	6	3414	4
364B	2	430	1
369	1	3196	2
395	1	587	
401	1	828	
402	1	308	
403	1	491	

型押文番号	破片数	総重量(g)	偶数
415	1	921	
425	4	2175	2
426	4	3728	2
428	1	457	
442	1	167	
447	1	223	
458	2	1865	1
471	1	322	
494	2	443	
497	1	276	1
503	1	518	
518	2	1353	
524	1	144	
526	1	229	
549	3	2068	1
551	6	4755	2
556	2	369	
557	1	224	
558	13	3923	
585	1	336	
589	1	272	
590	1	70	
599	2	865	1
600	2	765	
609	1	99	
610	4	2296	1
611	1	271	
612	5	3319	3
614	2	570	
615	10	4282	2
616	3	1305	2
619	1	252	
625	1	139	
不明	144	36099	
短縄	43	13503	
長縄	36	16710	4

男瓦（三葺）			
無段式			
（狭端部）	20	22501	25
（筒部）	85	64184	
（広端部）	14	6138	5
有段式			
（狭端部）	1	236	

## 第5章 総括

### 第1節 下野国分尼寺建物・施設の変遷

これまで、伽藍地内・寺院地内から出土した瓦について、軒先瓦や女瓦・男瓦などの点数などを集計したので、ここでは、主に国分寺報告に掲載された瓦の時期区分に従い、建物の様相を検討していく。

#### (1) 主要堂宇

##### I期：創建期（第149～155図、第18・22表）

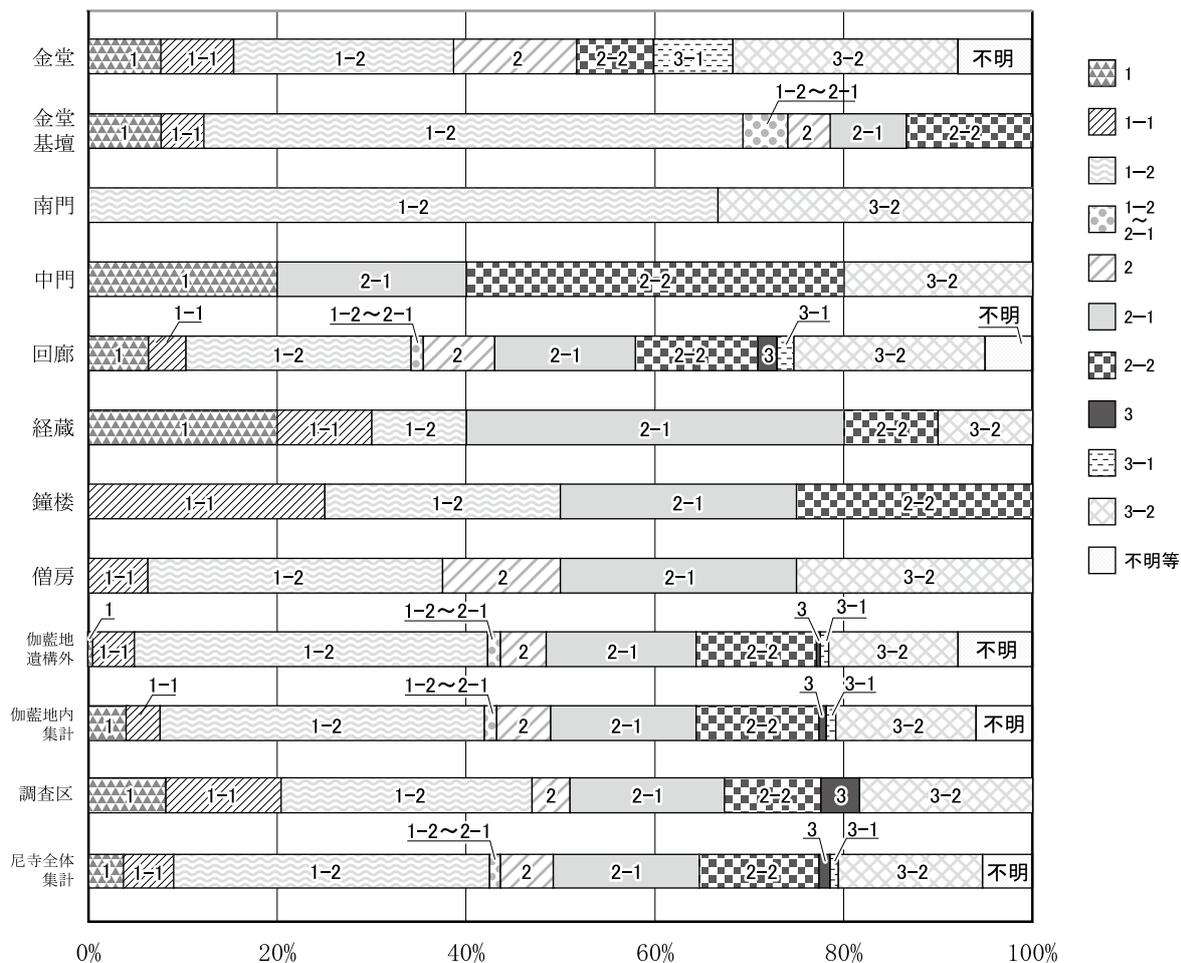
伽藍地区画施設よりも古く掘込地業を行った基壇建物が、後の主要堂宇の東側で発見されている。この建物は規模が尼寺金堂と同じである。尼寺では、国分寺瓦編年1-1期の軒先瓦が23点出土しているが、その数は1-2期の144点に比べると格段に少ない。1-1期の瓦を僧寺の瓦と比較すると、僧房出土の均整唐草文宇瓦1型式（伽藍地出土瓦実測図第93図146）は、国分寺出土宇瓦1型式（『下野国分寺跡XII 瓦・図版編』Fig14.525）と同形で範傷もない初期の範で、共に型押文も224A型式であることから、国分寺の1-1期前半に位置付けられる。さらに、経蔵跡出土の宇瓦1型式（伽藍地出土瓦第92図133）は146よりも範傷がわずかに進行し、これと傷の進行が同じものが国分寺報告Fig14.522で、これには型押文224Bが叩かれる。この瓦も1-1期前半に位置付けられている。さらに、珠文線鋸歯文複弁八葉蓮華文鍔瓦（鍔瓦31型式）や線鋸歯文縁複弁十葉蓮華文鍔瓦（鍔瓦13型式）は、三毳の和田窯で出土しており、和田窯は須恵器生産に次いで瓦が生産され、須恵器が8世紀第1四半期後半から第2四半前半に位置付けられることから、第2四半期後半、国分寺1-1期としておきたい（註1）。

女瓦では、伽藍地から出た1-1期型押文は66点で、1-2期になると431点になり（第152図）、約6.5倍の数に増加する。調査区では縄叩きと1-1期の型押文は618点であるが（註2）、このうち短縄叩きと分類されていた瓦は435点を占め、確実な1-1期の型押文は183点になる。この数字に従えば、調査区出土女瓦では1-1期に較べて、1-2期は2.1倍になる。グラフでは、1-1期に縄叩きも含めたが、型押文で尼寺全体を比較すると、1-1期伽藍地内66点、調査区内183点で、合わせて249点になり、1-2期が819点であることから、1-2期には3.2倍強に増えたことになる。また、伽藍地内では1-2期に約6.5倍になり、調査区内では約3.2倍に増加することは、1-1期の瓦が最終時期まで伽藍地に残ることが少なく、伽藍地際から寺院地の大半にあたる調査区に1-1期の瓦が多く廃棄されたことがわかる。

1-1期前半の水道山窯産の型押文225Aや224は、第11次調査区SD-330・682・713、第12次調査区や伽藍地内でも水道山窯産の型押文224Aが出土している（第17表）。

このように、国分尼寺からは、国分寺瓦編年の1-1期の軒先瓦・女瓦等が定量出土していることがわかった。しかし、その数は1-2期に比べると軒先瓦・女瓦の型押文でも格段に少ないことから、主要堂宇全体に1-1期の瓦が葺かれたとは考え難い。第1次調査区において発見された掘込地業を行った基壇建物跡（SB-200）は、その工法からみて礎石建物と考えられている。その建物規模は、東西長約27m、南北長約18mで、尼寺金堂と同じ規模である。これらのことから、国分尼寺創建当初の建物は瓦葺きの仮設金堂であって、これを伽藍地整備に伴い、後代に続く金堂に移築したと考える。

瓦の組合せでは、仮設基壇建物SB-200には、水道山瓦窯の面鋸歯文縁複弁八葉蓮華文の鍔瓦26型式と均整唐草文の宇瓦1型式が組み、和田窯の珠文線鋸歯文縁複弁八葉蓮華文の鍔瓦31型式や線鋸歯文縁複弁



時期	1	1-1	1-2	1-2~2-1	2	2-1	2-2	3	3-1	3-2	不明等
金堂	1	1	3		2		1		1	3	1
金堂基壇	2	1	15	1	1	2	4				
南門			2							1	
中門	1					1	2			1	
回廊	5	3	19	1	6	12	10	2	2	16	3
講堂						1					
経蔵	2	1	1			4	1			1	
鐘楼		1	1			1	1				
僧房		1	5		2	4				4	
伽藍地遺構外	4	8	85	3	11	36	29	2	1	31	18
伽藍地内集計	15	16	131	5	22	61	48	4	4	57	22
調査区	4	7	13		2	8	5	3		10	
尼寺全体集計	19	23	144	5	24	69	53	7	4	67	22

第 149 図 下野国分尼寺出土鏡瓦・宇瓦時期比率図

第1節 下野国分尼寺建物・施設の変遷

時期	鏡瓦 型式	金堂	金堂基壇	南門	中門	回廊	講堂	経蔵	鐘楼	僧房	伽藍地 遺構外	調査区	尼寺全体 集計
1	3				1								1
	4	1	1			1					3	1	7
1-1	1											3	3
	9											1	1
	13										1		1
	26		1			2					2	2	7
	31	1									1		2
1-2	3C		1			2					8	1	12
	4B								1		10	3	14
	4C	1					1		1		7	2	12
	24								1			1	2
1-2～2-1	12									1		1	
2	15	1				1			1		3	6	
2-1	4D					6		3	1		15	4	29
	7					1					1	1	3
	18					2							2
	21				1						2		3
2-2	11			1						2	1	4	
3	25										1	1	2
	27											1	1
3-1	5A									1		1	
3-2	28							1				1	2
不明	29	1				3					5		9
	不明										6		6
計		5	3		3	18		5	1	4	69	23	131

第19表 下野国分尼寺出土鏡瓦集計表

時期	宇瓦 型式	金堂	金堂基壇	南門	中門	回廊	講堂	経蔵	鐘楼	僧房	伽藍地 遺構外	調査区	尼寺全体 集計
1	2							2				1	3
	12					1							1
	15 ※		1			3					1	2	7
1-1	1							1	1	1			3
	2A					1					1	1	3
	4A										3		3
1-2	2B		1	1							12	1	15
	12B	1	5			1					7	3	17
	3B					1							1
	4B		6			6			1	1	13		27
	4C			1		3					4	1	9
	4D		1								2		3
	4E	1									2		3
	12C					2					7	1	10
4F		1			4				1	13		19	
1-2～2-1	8A		1			1					2	4	
2	14	1	1			5			1	8	2	18	
2-1	4G		2			3	1	1		4	18	3	32
2-2	4H	1	4		1	10		1	1		27	4	49
3	5					1					1		2
	6					1						1	2
3-1	16					1							1
	6A	1				1							2
3-2	5B	2		1		12				3	16	6	40
	5C				1	3				1	9	2	16
	6B	1									1		2
	6C					1					5		6
	17											1	1
不明	他										3		3
	不明										4		4
計		8	23	3	2	61	1	5	3	12	159	29	306

第20表 下野国分尼寺出土宇瓦集計表

※15型式は1-2期に一部入る。

十葉蓮華文の鑑瓦 13 型式が葺かれたと考える。このため、当該期の瓦は河内郡水道山窯と都賀郡域の可能性のある三毘窯から供給されたとみられる。その時期は国分寺の 1-1 期前半になるであろう。740 年代～757 年までがこの時期とすると、その前半期になると考えられる。つまり、国分寺創建とほぼ同じ時期に尼寺でも後の金堂と同規模の仮設金堂のみを建立しておいたと判断できる。

文献史料では、『類聚三代格』天平神護 2 年 8 月 18 日太政官符に、

国分寺先経造・畢塔金堂等。或已朽損将<sub>レ</sub>致<sub>二</sub>傾落<sub>一</sub>。

とあり、塔と金堂を最初に造っていたことを示し、傾き落ちてきた堂塔を造寺科で修理していた。この官符によっても塔を建てない尼寺では金堂のみを最初に造っていたことが裏付けられる。

## II - 1 期：主要堂宇・伽藍地・寺院地の区画施設造営期（第 149～155 図、第 19～22 表）

この時期に主要堂宇と伽藍地を区画する掘立柱塚などが造られ、瓦の範・型押文の傷などから建立順序や瓦の組合せをみていく。後者については、尼寺 1969 報告で、詳細な検討が行われており、これを追証する。

### ①金堂

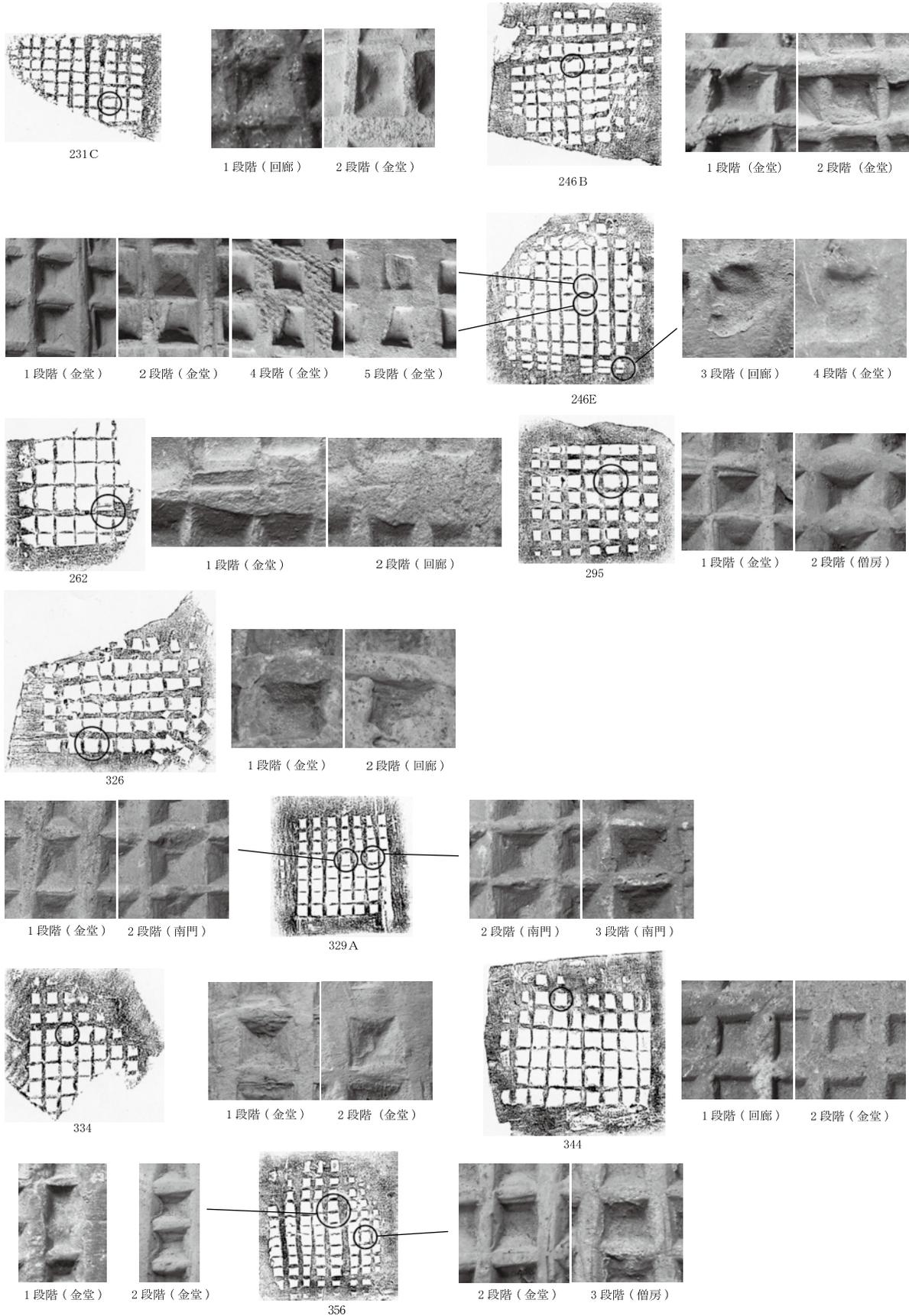
軒先瓦では瓦編年の 1-1 期の軒先瓦・女瓦等が少量確認されている。珠文線鋸齒文縁複弁八葉蓮華文の鑑瓦 31 型式が 1 点出ている。この瓦は、国分寺創建以前になるという指摘もあるが（大橋 2001、93 頁）、国分寺で 31 型式が出土していることから、鑑瓦 31 型式については従来の 8 世紀中葉説に従い、限定して第 2 四半期後半としておきたい。1-1 期の軒先瓦は調査区内でも 7 点の軒先瓦が出土しており、この時期に堂宇が建立されていたことになる。また、1-1 期の軒先瓦は、今回の報告では金堂 2 点、回廊 3 点、経蔵 1 点、鐘楼 1 点、僧房で 1 点確認されている。尼寺 1969 年報告の鑑瓦 3・4・7 型式、宇瓦 3 型式が 1-1 期である。これによれば、金堂・講堂・鐘楼・中門・南門・僧房から 1-1 期の瓦が出たことになる。創建期の基壇建物が 1-1 期と考えれば、金堂などの主要堂宇からもその時期の瓦が少数出ていることから、解体した仮金堂の瓦が移築後に分散して一部葺かれたとみられる。

金堂と基壇から出土した 1-2 期の鑑瓦は、鑑瓦 3 C 型式と 4 C 型式が 1 点ずつで、宇瓦は 4 B・12 B などであった。尼寺 1969 報告分類軒丸瓦 1-A は写真や拓影の範傷からみると、国分寺報告分類の鑑瓦 4 B に相当する。これが金堂から 13 点出土しており、これと飛雲文字瓦が組む下野国分寺式となっている。さらに宇瓦 12 B 型式が 6 点確認できた。金堂から出た 1-2 期の鑑瓦・宇瓦は 18 点にのぼり、型押文も 41 点が当該期に当たり、1-1 期よりも格段に増えることから、金堂はじめ主要堂宇が建立されたと考えられる。

次に、尼寺の主要堂宇から出た軒先瓦の範傷から主要堂宇が建立される 1-2 期の建物の建立順序をみる。鑑瓦では 3 C 型式で回廊出土の第 81 図 50 は範傷がないが、金堂の第 74 図 3 は傷が進んでいる。鑑瓦 4 C 型式は金堂出土品も範傷がみられる。

宇瓦 4 B 型式でみると、このなかでも子細にみると 4 段階の範傷が確認できた。範傷は左右端の雲尾付近、中央の飛雲の雲尾下の外区、雲頭の彫り傷などが挙げられる。その観点から分類すると、1 段階は第 83 図 71、2 段階は第 74 図 9～11・第 75 図 14・第 82 図 70・第 83 図 72、3 段階は第 75 図 12・13、4 段階は第 83 図 73・第 93 図 139 である。僧房出土の第 93 図 147 が最も古い、僧房は掘立柱建物であり、これを除くと、いずれも金堂・回廊になる。4 段階に鐘楼がくる。この次の 4 C 型式は、中門西回廊・南門で出土している。

同様に、比較的数の多い宇瓦 12 B 型式でみると、この型式は金堂で 6 点、回廊で 1 点出土しているが、範傷がない。12 C 型式は範傷が進行した瓦で、第 90 図 116 が相当し、回廊から出土している。



第150図 1-2期型押文の変化

型押文		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階
231	C	回廊 (1点)	金堂 (1点)				
246	B	金堂 (2点)	金堂 (1点)				
246	E	金堂 (2点)	金堂 (3点)	回廊 (1点)	金堂 (1点)	金堂 (1点)	
		回廊 (1点)	回廊 (1点)				
262		金堂 (1点)	金堂 (1点)				
			回廊 (3点)				
295		金堂 (5点)	金堂 (2点)				
		僧房 (1点)	僧房 (1点)				
326		金堂 (4点)	回廊 (1点)				
329	A～E	A: 金堂 (1点)	A: 金堂 (1点) 南門 (1点)	A: 南門 (1点)	C: 金堂 (1点)	D: 僧房 (1点)	E: 回廊 (1点)
333		金堂 (2点)					
		回廊 (2点)					
334		金堂 (3点)	金堂 (1点)				
		経堂 (1点)					
335		僧房 (1点)					
		南大門 (1点)					
344		回廊 (1点)	金堂 (1点)				
356		金堂 (1点)	金堂 (4点)	僧房 (1点)			
367		金堂 (2点)					
		僧房 (2点)					

※ 246E は文字瓦 (ヘラ書内) あり。329D, 334, 356 は文字瓦 (ヘラ書可) あり。 段階分類できなかったものあり。

第21表 1-2期型押文の変化と出土位置関連表

このように、主要堂宇出土の軒先瓦の範傷でみると、金堂・回廊は前後するものを含み、先後関係が付け難いが、主要堂宇では宇瓦4B型式範傷1～3段階の金堂・回廊→宇瓦4B型式範傷4段階の鐘楼→宇瓦4C型式の中門・南門という順序になる。

次に、1-2期の型押文の傷の進行状況によって各建物の建立順序を検討してみる。建物の位置から出土した女瓦のなかで、同一型押文が複数の建物跡から確認された場合について新旧を調べた。

型押文231C・246B・246E・295・326・329A・334・344では、格子文の窪みの中で、1段階よりも2段階で木目の傷が進む。262では叩き板の彫った溝の突出部が2段階では低くなり、356では幅の狭い格子で、当初溝を彫らなかつたが、2段階では溝を彫っている部分と格子目内に木目が進んだ部分が確認できた。

これらの各格子目の状況から新旧関係を判断した結果、型押文246B・Eと262と326では金堂→回廊か金堂→金堂・回廊、逆に型押文231C・344では回廊→金堂であった。型押文295・367では金堂と僧房(僧房は掘立柱建物であり、講堂の可能性もある。)が同時期、型押文329C・Dと356では金堂→僧坊(講堂)である。南門は型押文329A・C・Dによって金堂→金堂・南門である。

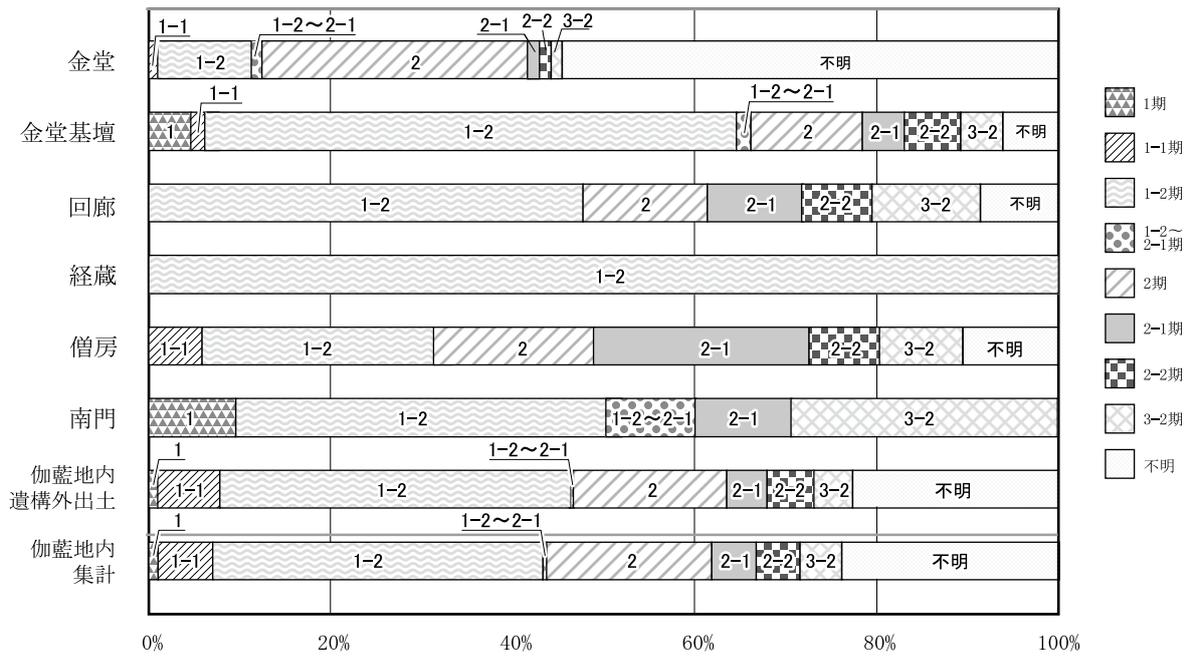
この結果と軒先瓦の順序を加えると、建立し始めた順序は概ね金堂→回廊、金堂→鐘楼→南門となるであろう。

### ②講堂

講堂の位置からは、尼寺1969報告によれば鑑瓦31型式(軒丸瓦七)1軒丸瓦一-Aが2点出ている。鑑瓦31型式の珠文線鋸歯文縁複弁八葉蓮華文は1-1期になり、仮設金堂から移した瓦と推定する。しかし、講堂は遺存状況が良好でなくて、出土した瓦も少ない。尼寺1969報告分類軒丸瓦一-Aが2点、宇瓦では飛雲文と曲線顎の均整唐草文二-Bが出ている。二-Bは顎形態などから国分寺分類の12C型式で、1-2期に当たる。軒先瓦の組合せでは国分寺鑑瓦4型式と宇瓦4型式と均整唐草文12C型式であったとみられる。

### ③回廊

回廊出土の最古型式の瓦は、鑑瓦26型式と宇瓦2A型式で1-1期になる。特に26型式は上神主・茂原



時期	1	1-1	1-2	1-2 2-1	2	2-1	2-2	3-2	不明	時期	1	1-1	1-2	1-2 2-1	2	2-1	2-2	3-2	不明
金堂		1	16	1	37	2	2	2	71	僧房		3	11		9	13	2	3	3
金堂基壇	3	1	31	1	8	3	5	3	4	南門	1		4	1		1			3
回廊			21		6	5	3	7	6	伽藍地内 遺構外出土	9	61	346	1	153	40	46	38	203
経蔵			2																

※数字は点数を示す

第 151 図 各建物の型押文時期比率図

官衙遺跡の成果から 740～757 年の限られた期間の瓦と想定されている。しかし、型押文で 1-1 期のものは確認できなかった。1-1 期の瓦は仮設金堂から移したと考えられる。1-2 期の瓦は回廊からは 19 点の軒先瓦と 21 点の女瓦型押文が確認できた。鏡瓦は 3 C 型式、宇瓦は 4 B・C・F、12 B・C 型式などであり、1-2 期の主要な軒先瓦は、金堂・講堂と同じ組み合わせになっている。

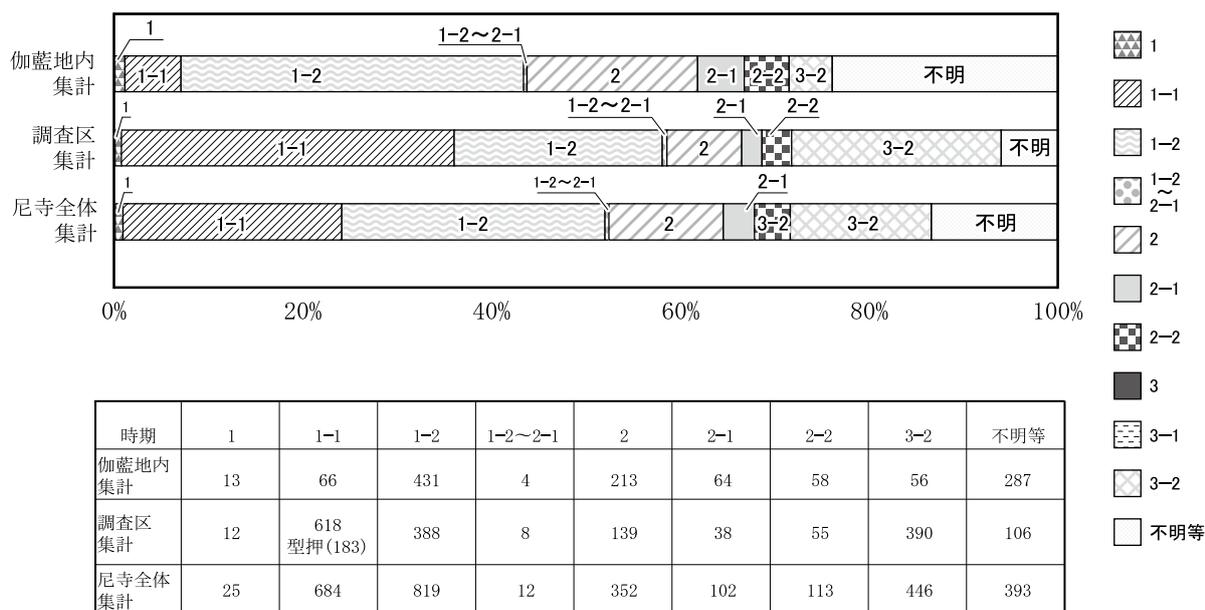
④中門

尼寺 1969 報告によれば、ここでも 1-1 期の宇瓦 1 型式（軒平瓦三）が中門から 1 点出土していることが確認できる。報告によれば、当該期の瓦は飛雲文字瓦（尼寺 1969 報告分類軒平瓦一-A）が 8 点出ている。

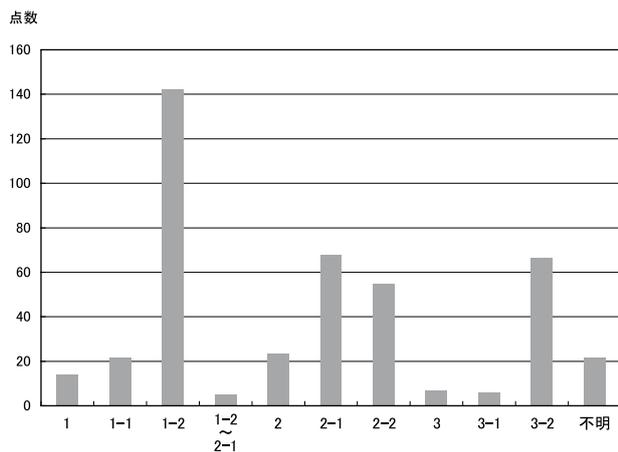
⑤南門

掘立柱式の棟門で、2 時期確認された。初期の A 期は掘立柱塀に取り付き、B 期は築地塀に付くであろう。門は A・B 期ともに掘立柱式で、瓦葺きであったか、不確定である（註 3）。門の南側で S D -822・836 に挟まれた南北に長い範囲は、黒色土などの硬化面が確認された。さらに、南門東柱掘方に接して凝灰岩の根石と判断された石と 2-2 期（9 世紀第 2 四半期）の型押文の瓦があったことから、2-2 期以降に基礎地業を行った礎石立建物になった可能性がある。

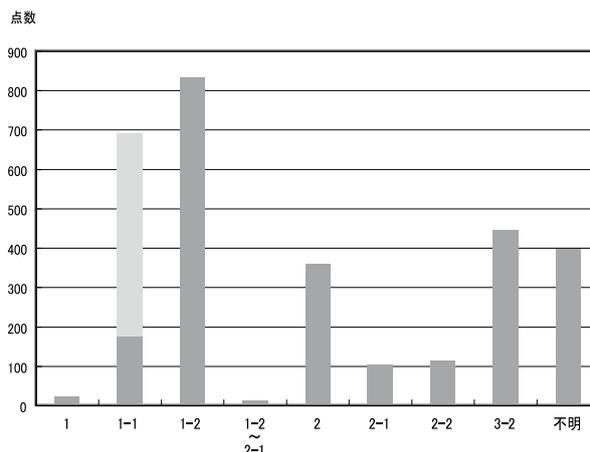
尼寺 1969 報告によれば、この位置から 1-1 期の軒先瓦 3 点と飛雲文字瓦と鏡瓦 4 型式が出土しており、今回の検討でも宇瓦 2 B・4 C 型式が確認できたことから、1-2 期には瓦葺きであったと考えておきたい。門周辺の第 12 次調査区からは、時期の明らかな女瓦型押文で、1-2 期 70 点 12,813g、2 期通じて 31 点 6,668g、3-2 期で 94 点 16,736 g 出ている。点数・重量からみると、門築造初期の 1-2 期よりも 2 期・3 期の方が多い。掘立柱塀から築地塀に変化するのが 3-1 期の 9 世紀第 3 四半期とみられることから、古い瓦を再



第 152 図 国分尼寺型押文の時期比率図



第 153 図 鍔瓦・宇瓦 尼寺全体集計図



第 154 図 型押文 尼寺全体集計図

利用して南門を建て直したが、この際に礎石立建物にした可能性がある。3-2期の女瓦が最も多いことから、第4四半期にはそれもすぐに補修となったと推定される。

⑥経蔵

尼寺1969報告によれば、鍔瓦4型式と宇瓦4型式が出ている。1-1期の宇瓦1型式も1点確認されたが、1-2期の軒先瓦は明らかでない。当該期の型押文は2点確認された。

⑦鐘楼

1-1期の宇瓦1型式も1点確認した。また、尼寺1969報告では鍔瓦4型式、宇瓦1・4型式が出土したとある。飛雲文は4B型式で1-2期になる。

⑧僧房

講堂の北方に間口4間か5間で、奥行き3間程の掘立柱式の東西棟が確認され、僧房と推定されている。報告によれば、この周囲から瓦は発見されていないという。また、調査の過程でも講堂の北側では、瓦の状

時期	1	1-1	1-2	1-2~2-1	2	2-1	2-2	3-2	不明等
第1次調査区	2(0.39%)	213(42.01%)	92(18.15%)	4(0.79%)	31(6.12%)	7(1.38%)	17(3.35%)	113(22.29%)	28(5.52%)
第2次調査区	3(0.94%)	111(34.81%)	68(21.32%)	1(0.31%)	36(11.28%)	10(3.13%)	11(3.45%)	49(15.36%)	30(9.40%)
第3次調査区									
第4次調査区		7(10.78%)	11(16.92%)		4(6.15%)	6(9.23%)	3(4.62%)	30(46.15%)	4(6.15%)
第5次調査区		3(42.86%)	1(14.29%)					2(28.56%)	1(14.29%)
第6次調査区		3(37.50%)	1(12.50%)		1(12.50%)			2(25.0%)	1(12.50%)
第7次調査区		10(41.66%)	8(33.33%)		1(4.17%)	1(4.17%)		3(12.5%)	1(4.17%)
第8次調査区			2(25.0%)					5(62.5%)	1(12.50%)
第9次調査区	1(0.58%)	75(44.17%)	53(31.17%)	1(0.58%)	14(8.23%)		5(2.93%)	14(8.23%)	7(4.11%)
第10次調査区	1(0.87%)	44(38.26%)	49(42.61%)		5(4.35%)		2(1.74%)	11(9.56%)	3(2.61%)
第11次調査区		44(26.83%)	26(15.85%)	2(1.22%)	23(14.02%)	6(3.66%)	9(5.49%)	41(25.0%)	13(7.93%)
第12次調査区	5(1.56%)	104(32.60%)	70(21.94%)		16(5.02%)	7(2.19%)	8(2.51%)	94(29.48%)	15(4.70%)
第13次調査区			2(66.67%)					1(33.33%)	
第14次調査区		4(8.89%)	5(11.11%)		8(17.78%)	1(2.22%)		25(55.56%)	2(4.44%)
合計	12(0.68%)	618(35.23%)	388(22.12%)	8(0.46%)	139(7.92%)	38(2.17%)	55(3.14%)	390(22.24%)	106(6.04%)

第22表 調査区出土 女瓦の時期

態も思わしくないと記述されている。しかし、僧房跡と判断できる瓦（註4）は軒先瓦16点、女瓦で44点にのぼる。講堂と注記された瓦がほとんど遺存していないことから、講堂を含めた北側で出土したものの可能性も残る。

## II - 2期（堂宇大改修か再建期）（第149・152・153・155図、第19・20表）

伽藍地内から出た軒先瓦は、瓦編年1-2期よりも2・3期の瓦の方が多い。伽藍地から出た軒先瓦の点数では、瓦1-2期131点、2-1期61点、2-2期48点で、2期を合わせると131点、3-1期4点、3-2期57点で、3期を合わせると65点になる。2・3期の軒先瓦は196点になり、1-2期の約1.5倍近い数に達する。伽藍地と調査区出土を加えた寺院地（尼寺）全体で出土した軒先瓦では、瓦1-2期144点、2-1期69点、2-2期53点で、2期を合わせると146点、3-1期4点、3-2期67点で、3期を合わせると78点になる。軒先瓦の数で見ると、主要堂宇造営期の1-2期と8世紀末から9世紀前半の2期でほぼ同数の瓦が新調されていたことになる。3期は1-2期・2期の半分程の数が新調されて葺かれたことになる。

型押文のある女瓦では、伽藍地出土で瓦1-2期431点、2-1期64点、2-2期58点で、2期を合わせると335点、3-2期56点である。1-2期よりも2期の方が少ないが、約4分の3の女瓦が新調されたことになる。これに調査区出土分を含めた寺院地全体の型押文女瓦の数では、1-2期819点、2-1期102点、2-2期113点で、2期を合わせると567点、3-2期446点である。1-2期に対する2期の瓦の比率は約7割に達し、伽藍地の女瓦の傾向に近い。3期は軒先瓦よりも格段に多い傾向がある。

以上のように、1-2期と2期を比較すると、女瓦よりも軒先瓦の方が2期に新調した割合が高いことが指摘できる。そして、8世紀末から9世紀前半に、軒先瓦では主要堂宇造営期とほぼ同じ数が新調され、女瓦でも主要堂宇造営期の3分の2から4分の3が新調されていることが明らかになった。このため、尼寺の主要堂宇は8世紀末から9世紀前半に、大規模な改修か再建が行われたと考えられる。以前の報告では、建物変遷II期として一括していたが、時期区分を行い、瓦1-2期は主要堂宇の造営時期で、遺構変遷のII-1期とし、主要堂宇の大改修か再建の行われた時期をII-2期として区分する（註5）。

このような8世紀末から9世紀前半に大改修か再建を行った要因は何かが問題となる。尼寺1969報告によれば、伽藍地内から焼土・木炭など火災を裏付ける所見はなくて、ほかの要因で大改修か再建を行った可能性がある。一解釈として、『類聚国史』に記載する弘仁9年（818）7月条にある関東大地震との関係が想

定される。同年8月庚午条では上野国等の境で地震の災いを為したとあることから、下野国南部の国分寺周辺もその被害が大きかったことが推定される。瓦の新調比率からみても震災による大改修か再建が行われた可能性が高い。

### Ⅲ-1期（区画施設改修期）（第149・151～154・156図、第20～22表）

9世紀前半までは伽藍地区画施設の造り直しは行われなかった。主要堂宇の大改修か再建が終えた9世紀第3四半期には伽藍地区画施設を掘立柱塀から築地に改修する。この時に南門も礎石立ちになった可能性がある。

この時期の新しい瓦は、軒先瓦・女瓦ともに減少している。3期全体の瓦でみると、2期に比べて3期の瓦は寺院地全体の軒先瓦で2期146点から3期78点に減り、型押文の女瓦で2期567点から3期446点になっている。2期に大改修か再建した堂宇を部分的に補修したものと推測される。なお、この時期には伽藍地の外に竪穴住居が急激に増加して造られ、寺院を取り巻く景観も変化する。

2・3期の主な補修瓦は、金堂で宇瓦4G・H型式、回廊では2-1期に鑑瓦4Dと宇瓦4G型式、2-2期に宇瓦4H型式、3-2期に宇瓦5B型式が挙げられる。

### Ⅲ-2期（堂宇補修期）（第156図、第22表）

瓦編年による3-1期は、区画施設の改修のため、新調した瓦は多くはなかった。しかし、3-2期になると、軒先瓦・型押文による女瓦でも格段に瓦が新たに造られる。このことから、9世紀前半に大改修か再建された主要堂宇の補修が行われたと推定される。この時期の宇瓦は5B型式が圧倒的に多いが、組む鑑瓦は28型式が挙げられるが、宇瓦5型式の出土数に比べて格段に少ない。鑑瓦29型式は所産時期が不確定であるが、3期になる可能性がある。

### Ⅳ期（崩壊期）（第157図）

伽藍地出土の土器の時期によって、伽藍地の最終的な使用時期を検討する。伽藍地を画する溝から出土土器は10世紀前半までが多いが、一部は中葉まで確認できる。従来の瓦編年に従えば、10世紀代に比定される瓦の補修は行われていないことになる。なお、国分尼寺では灰釉陶器に美濃窯産虎溪山1号窯式が出土していることから、10世紀中葉までは機能していたことがわかる。

#### （2）伽藍地北方の掘立柱建物

伽藍地内の北辺掘立柱塀の際において、第2次調査区S B -338と346・348は建物主軸を同じくしており、8世紀後半代における伽藍地内北方の建物群とみられる。

第7次調査区で、S B -582と585A・Bと591が、伽藍地北方・東側への寺院地区画溝がなくなったⅢ期（9世紀後半）に建てられるが、いずれも規模の小さな掘立柱建物であろう。側柱建物であることから、穀倉ではない。建物の主軸はS B -582やS B -585Bがグリッド北よりも東に振れており、Ⅲ-2期（土器4期）のS I -588よりも古い。そして、S B -582・585BはS B -700と建物方位を同じくし、出土土器の時期も同じことから併存すると考えられる。

第11次調査区では、S B -700・738がⅢ-2期（9世紀後半）になるとみられ、建物の方位が伽藍地区画溝よりもやや東に振れている。S B -700は四面廂建物であり、柱掘方も1m幅に及ぶ規模であり、寺院

運営などに関わる可能性もあろう。第7次・第11次調査区周辺では寺院地区画溝がなくなった後に掘立柱建物群が規則的に配置されていた可能性が高く、寺務などに関わる施設群の可能性もある。

このほかに、第1次調査区でも伽藍地・寺院地区画溝に平行、または東にやや振れる掘立柱建物跡が確認されているが、時期が判別できなかった。

### (3) 伽藍地区画施設

#### ①伽藍地区画塀・溝 (S A -150B・300・700、S D -151 など)

掘立柱塀では、S A -150B・300・650・700 から土器片が出土した。第10次 S A -300 の2の須恵器坏は8世紀代のもので、S A -150B の1は掘方埋土から出た9世紀中葉頃の土師器坏である。第2次 S A -300 の1 (9世紀中葉) と第10次 S A -300 の1・2は柱抜き取り痕から出た。

掘立柱塀の内外に併設された溝 (S D -151・194・333・672・673・810A・821・822) では、第1次 S D -194 の坏は9世紀中葉、第2次 S D -333 の坏は三毳大芝原窯B地点段階で9世紀後半、第11次 S D -810 は底径6～7cmの坏で9世紀中葉頃である。以上のように、伽藍地を区画する塀に付設した溝から出土した土器は9世紀中葉及び後半となり、第3四半期まで存続したと判断することができる。

これらの点からも伽藍地を区画する掘立柱塀は、遺構変遷Ⅱ期 (9世紀前半～第3四半期) まで機能していたと判断できる。

#### ②築地塀の内外面に併設された溝 (S D -152・153・204・206・330・334・369・658AB・670AB・835・836・826・827)

第1次 S D -152 の土器は9世紀前半から後半、第1次 S D -153 の土器は、須恵器坏 (3) と灰釉陶器小瓶 (2)・椀 (4) は9世紀後半、土師器坏 (1) が10世紀前半である。第1次 S D -206 の土師器鉢 (1) は9世紀後半、第2次 S D -330 は主体が10世紀前半までである。第2次 S D -334 では8世紀後半から10世紀前半までの土器が確認できる。第2次 S D -369 では下層で9世紀後半、上層からは10世紀前半の土師器である。第9次 S D -658B では三毳大芝原窯B地点段階で、9世紀後半の須恵器が出ている。第12次 S D -836 は南辺築地塀の外溝で、10世紀中葉の土器までを含んでいる。

以上のように、築地塀に伴う溝は9世紀後半から10世紀前半までが多いが、南辺築地塀外溝で10世紀中葉までの土器を含んでいる。このため、9世紀第3四半期に掘立柱塀から築地塀に造り替えて、10世紀中葉まで機能していたことが明らかになった。

### (4) 寺院地区画溝

#### ①寺院地東張り出し区画溝 (S D -140・550・610)

第1次調査区 S D -140 では掘り直し前のA期に8世紀後半の坏が出土し、張り出し区画溝の上限は8世紀後半の尼寺寺院地設定期となる。下限は、第1次調査区で三毳産大芝原窯B地点段階 (9世紀後半)、第4次調査区でもB期の層位から9世紀後半の土器、第7次調査区でもB期には益子産の9世紀前葉から灰釉陶器で三日月高台の9世紀後半まで出土している。第8次調査区ではB期に9世紀中葉から後半の灰釉陶器美濃産光ヶ丘1号窯式まで出ている。北東の S D -550 B期は第7次・11次調査区で9世紀第2四半期から後半、南東から南辺の S D -610 でも第8次・12次・13次調査区で、9世紀中葉から後半の遺物が出土している。ただし、溝の上に構築した竪穴住居から9世紀後半の土器や灰釉陶器が出ていることから、9世紀後半の中で埋没したことがわかる。

これらから、寺院地東張り出し区画溝は8世紀後半に掘られ（A期）、9世紀前葉に掘り直しされ（B期）、9世紀後半まで機能しており、9世紀後半の中で溝の上に竪穴住居が造られることから、9世紀第3四半期頃（Ⅲ-1期）まで寺院地東張り出し区画溝が機能し、第4四半期頃（Ⅲ-2期）には竪穴住居が展開したと推測される。

### ②伽藍地北方の寺院地区画溝・寺院地東辺溝・寺院地西辺溝（SD-193・265・653・800）

伽藍地北方の寺院地区画溝のSD-265は掘り直しによりA・B期に区分される。8世紀第3四半期から9世紀第2四半期・中葉・後半までの遺物が出土している。この時期幅は寺院地東張り出し区画溝の機能期間と同じである。

寺院地東辺・西辺溝は、第10次調査区の西辺溝で掘り返し後のB期に8世紀後葉から9世紀後半の遺物が出土しており、第11次調査区の東辺溝ではA期下限・B期上限が9世紀後半であることが指摘できた。同調査区の東辺溝ではB期に9世紀後半の遺物が出土している。これらにより、寺院地区画溝は9世紀後半内に掘り直しされて、機能しなくなっていたと判断することができる。伽藍地北方の寺院地区画溝A期は8世紀第3四半期から9世紀第3四半期までで、第3四半期に掘り直しされたB期は9世紀第4四半期には機能しなくなったと考えられる。

### ③伽藍地に接した溝（SD-193・653・810・840）

伽藍地区画施設に関わる外溝から外側に2m程の位置に溝が掘られており、東側張り出し部や北側に寺院地区画溝が存在した時に塀の外側溝に接して溝が機能していた。東・北側の寺院地区画施設がなくなる遺構変遷のⅢ-1期に伽藍地北側に接してSD-810が存在する。底面から9世紀後半の土器が出土しており、溝の下限を判断することができる。また、北西隅においては土器編年4期の竪穴住居SI-674が確認されたことから、SD-810の西延長上にある北辺溝の下限は土器編年3期（9世紀中葉～第3四半期）までの所産になる。

これらのことから、遺構変遷Ⅱ-1期から続いた伽藍地に接した溝は、掘立柱塀から築地塀に替わった遺構変遷Ⅲ-1期（第3四半期）まで機能し、Ⅲ-2期（9世紀第4四半期）には機能しなくなったと判断することができる。

### ③寺院西側の溝

伽藍地の中軸線から西側に200m離れた位置で、地形に沿って南南西から北北東にのびる溝が確認されている（木村ほか1985）。この溝からは9世紀中葉から後半の須恵器や灰釉陶器が出土しており、尼寺遺構変遷のⅢ期に当たる。この時期には東側・北方の寺院地が縮小されるが、伽藍地の外側にも掘立柱建物・竪穴住居などが展開する。この溝は、寺院地西辺溝で、第2次調査SD-250に繋がる可能性も残るが、明らかになっておらず、この溝との繋がりやの解明は今後の課題である。ここでは、先の国分尼寺報告（中村2011）に従い、伽藍地の北方や東張り出し区画溝を寺院地とみておきたい。

### （5）道路跡（SD-292・301・305・309）

第2次調査区SD-305・309はグリッド南北方向にのびており、伽藍地の中軸線にある。路面幅は9mであり、発見されていないが伽藍地の北門に至る道であろう。9世紀第4四半期の竪穴住居よりも古く、9世紀後半の遺物が出ていることから、寺院地区画溝がなくなった後の遺構変遷Ⅲ-1期に造られた北大路であろう。その東側にはSD-292・301があり、路幅4m程になる。伽藍地の区画よりも東にやや振れており、9世紀後半の遺物が出ている。これはSD-305・309から造り替えたⅢ-2期の北大路とみられる。なお、

時期	住居跡名
土器1期	第2次 SI-368・376、第12次 SI-814
土器2期	第2次 SI-241、第4次 SI-450、第7次 SI-560、第14次 SI-845
土器3期	第1次 114・122・125・163、第2次 251・337・379・、第5次 SI-496、第6次 SI-539、第11次 SI-686・690・714・715・751、第14次 SI-846・852・853
土器4期	第1次 SI-143・174、第2次 SI-239・307・336、第4次 SI-406・436・437・438・439、第5次 SI-500、第6次 SI-524、第7次 SI-566・588、第10次 SI-674、第11次 SI-680・691・696・698・781、第14次 SI-843・844・847・848・849
土器5期	第2次 SI-325・335・378、第4次 SI-449

第23表 竪穴住居跡の時期

この道路と主軸方向を同じくする建物が、第11次調査区のS B -700・738であり、Ⅲ-2期になると考えられる。

#### (6) 竪穴住居跡 (第158図、第23表)

竪穴住居の全体的な時期的な増減をみると、Ⅰ期(8世紀中葉)～Ⅱ-1期(8世紀後半)の土器1期には極めて遺構数が少なく、Ⅱ-2期の9世紀前葉には増加する。しかし、Ⅲ-1期(第3四半期)には伽藍地の東側・北方に遺構数が急増して、Ⅲ-2期(土器4期 第4四半期)に続く。その後、Ⅳ期(土器5期 10世紀前半・中葉)には数が激減してしまう傾向がみられる。

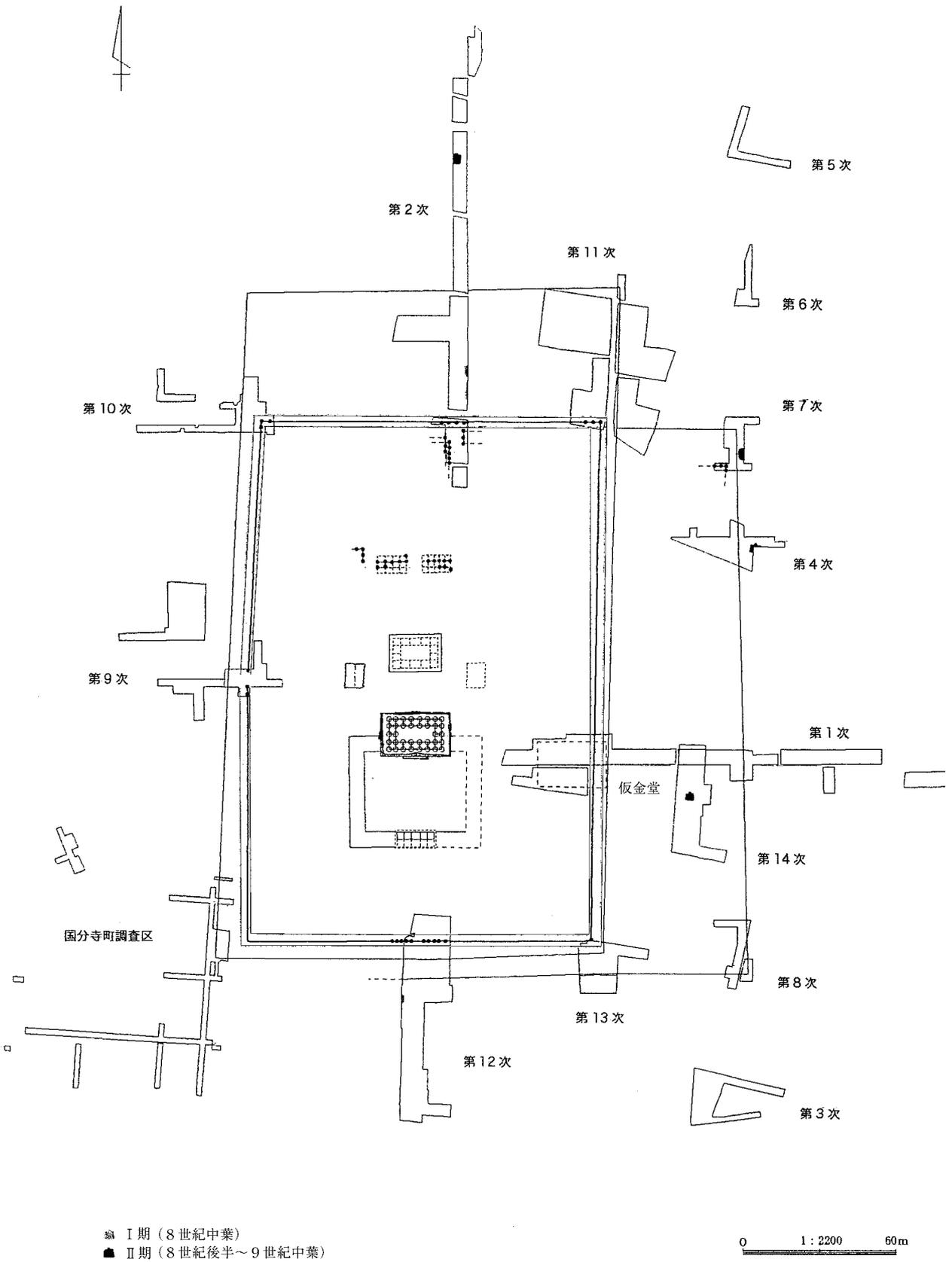
次に、各地区の様相について、概観していく。Ⅰ期には南門前に第12次調査区S I -814が確認され、丸底の土器器帯が出土していることから、国分尼寺創建期の建物で、建設に関わる遺構と推測される。伽藍地北側の寺院地内でも第2次調査区のS I -368・376が8世紀中葉になり、尼寺創建期の建物である。第14次調査区S I -845はⅡ-2期(土器2期)になり、東側張り出し寺院地内に位置する。このように8世紀後半から9世紀前半の寺院地区画内にも竪穴住居が散在して造られていた。しかし、確認した範囲では、Ⅱ期の竪穴住居跡は寺院地の外にある方が多い。

Ⅲ期(9世紀後半)には、東側と北側の寺院地区画溝がなくなる。この時期に伽藍地の東側・北側に竪穴住居が多数造られる。第2次調査区では、一部伽藍地の北辺築地塀の中にもみられる。伽藍地東側には第1次調査区S I -122が鍛冶遺構でⅢ-1期、第14次S I -844(Ⅲ-2期)からは未使用の釘が出るなど、この地域は工房が営まれる。

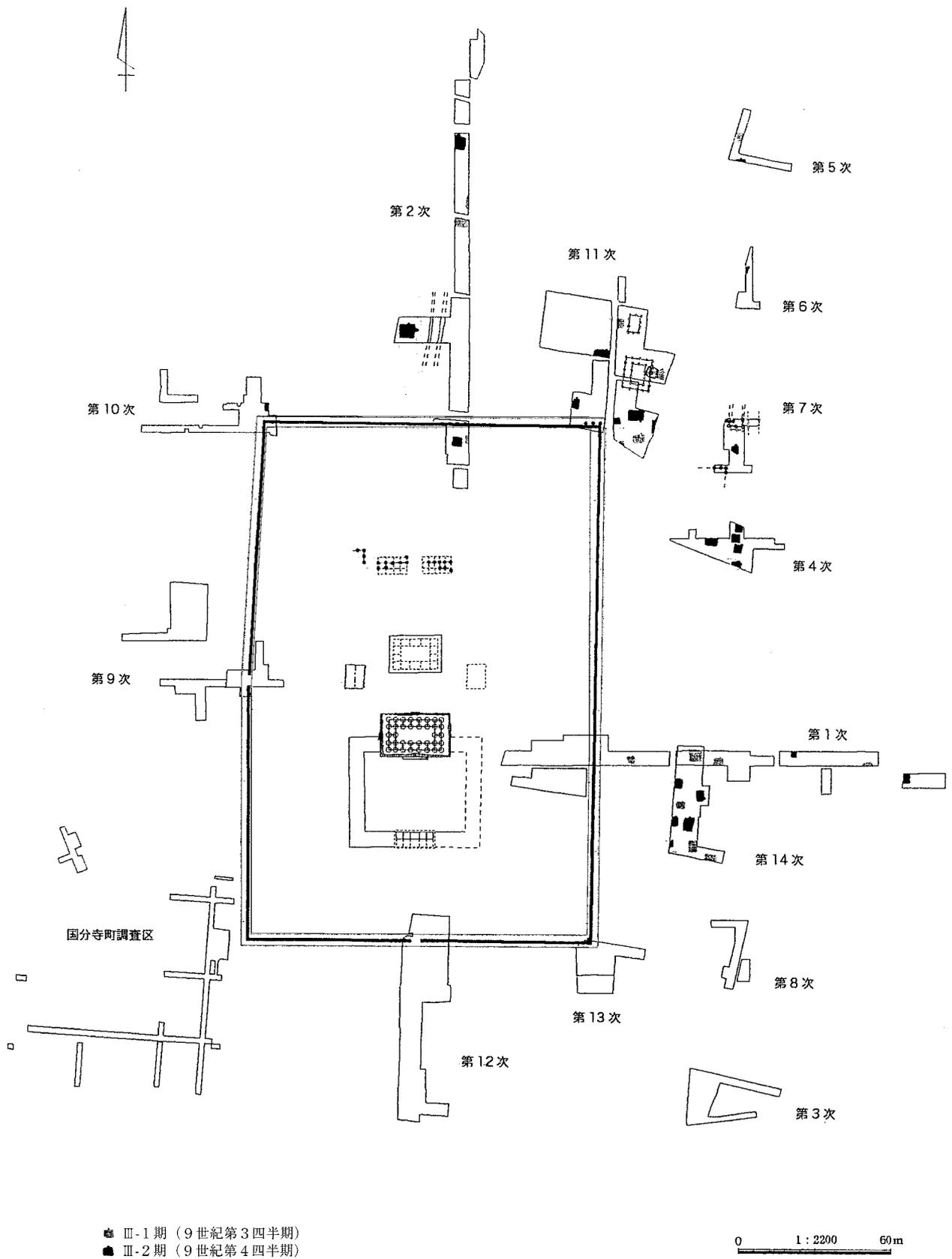
さらに、第4次調査区S I -439(Ⅲ-2期、土器4期 9世紀第4四半期)出土壺には、内面に漆膜が付着しており、漆の運搬容器であることがわかる。ここで廃棄されていることから、Ⅲ-2期にこの周囲が漆塗布の作業を行っていた工房域であると推定できる。この地域は寺院地区画施設を改修した後は、鉄製品製作や漆塗布に係わる地であることから、寺物製作などの「修理院」や「木工所」に相当する営繕施設があったと考えられる。

また、この時期の竪穴住居からは、製塩土器が出る傾向がある。Ⅱ期にも第7次調査区S I -560で僅かに確認できたが、Ⅲ期になり製塩土器の出土数は急増する。製塩土器は第2次調査区S I -239・251・307、第5次調査区S I -496、第11次調査区S I -680・696・698、第1次調査区S X -169、第11次調査区S D -330から出ている。その出土地をみると、伽藍地の北東部に多い傾向がある。

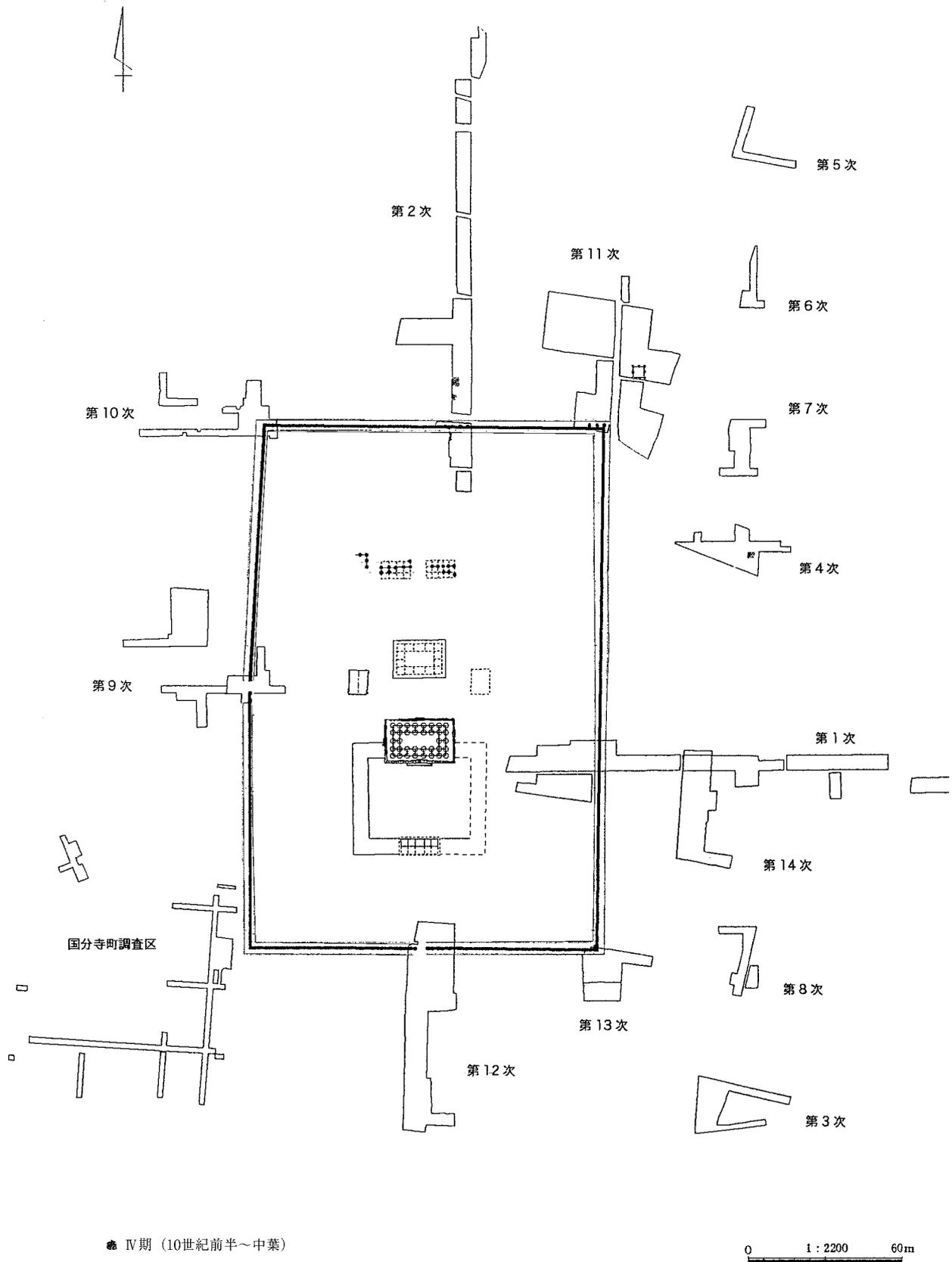
尼寺出土の製塩土器は胎土の特徴から、茨城県日立市周辺からの搬入品が多く、塩を入れた状態で寺に持ち込まれたと判断できる。製塩土器は、搬入後に容器を割って塩を取り出して廃棄することから、出土地が使用場所を反映する。このため、出土地周辺が塩を使って調理を行っていた場所となり、尼寺の調理施設があった場所といえるであろう。第2次調査区の井戸S E -371も9世紀後半になり、9世紀後半の大炊屋の



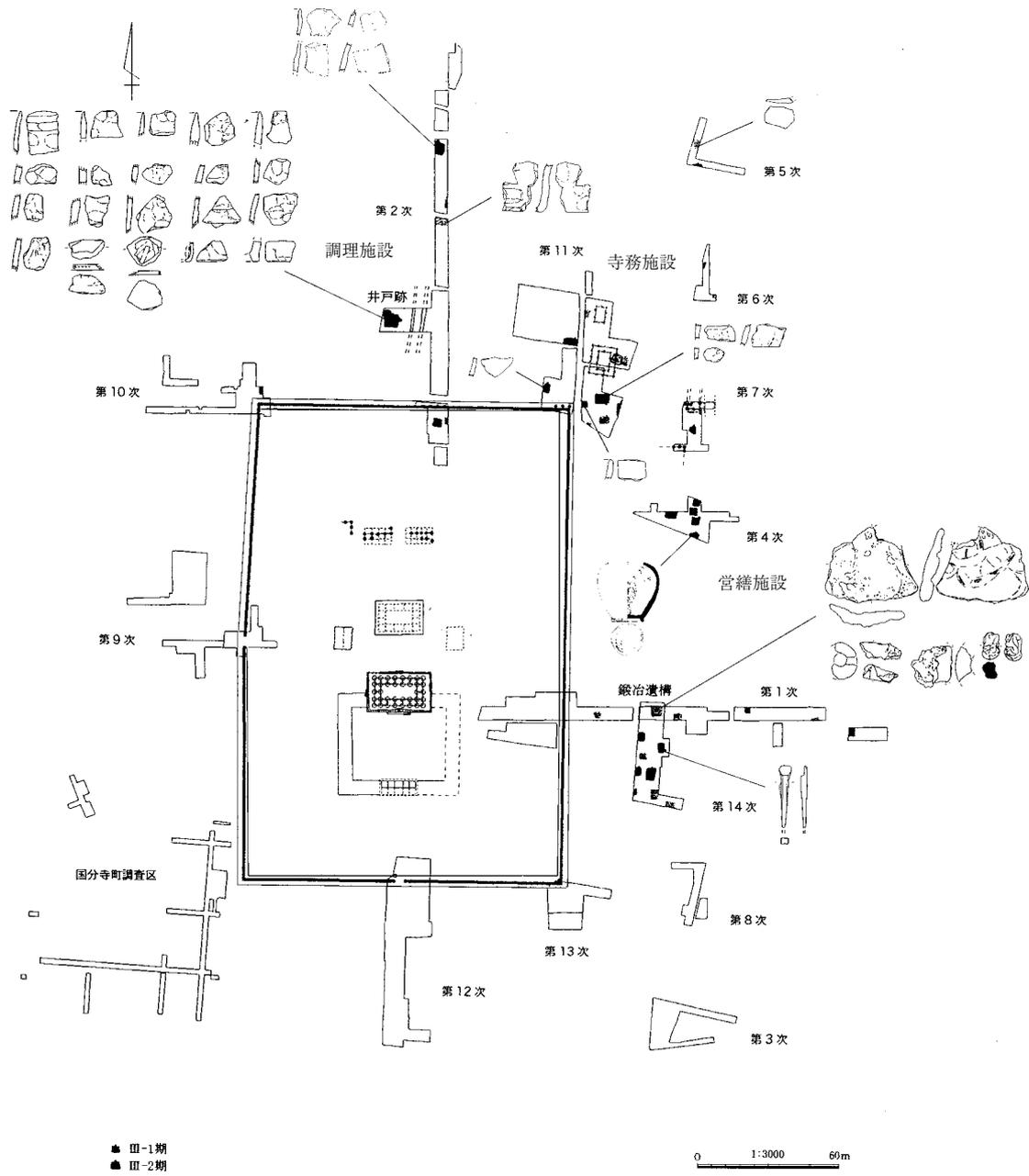
第155図 下野国分尼寺遺構変遷図(1)



第156図 下野国分尼寺遺構変遷図(2)



第157図 下野国分尼寺遺構変遷図(3)



第158図 鉄器生産遺物・漆壺・製塩土器の出土位置

時期	8世紀中葉	8世紀後半	9世紀前葉		9世紀中葉～ 第3四半期	第4四半期	10世紀前半～ 中葉
尼寺土器	1期		2期		3期	4期	5期
瓦 (国分寺編年)	1-1期	1-2期 (750～790年代)	2-1期 (790年代～第1四半期)	2-2期 (第2四半期)	3-1期 (第3四半期)	3-2期	
尼寺遺構	I期	II-1期	II-2期		III-1期	III-2期	IV期
評価	創建期	主要堂宇等 造営期	堂宇大改修・再建期		区画施設 改修期	堂宇補修期	崩壊期

第24表 下野国分尼寺土器・瓦・遺構時期対照表

施設が伽藍地北方に置かれていたと判断することができる。塩は供養料としても必要な食品であり、製塩土器の出土地が塩を扱う場であったことを反映することから、寺院内の機構を考えるうえで重要な資料となる。

10世紀前半から中葉のIV期には、伽藍地外側の竪穴住居も閑散となり、国分尼寺の衰退期といえる。

#### (7) 国分尼寺建物変遷の画期 (第24表)

国分尼寺の建物や施設は約200年余りの間に改修・補修が繰り返された。このために、建物群の変遷に画期が窺え、上述のように大きく4期、小期を含めて6期に時期区分した。国分寺の主要堂宇は瓦の分析によって金堂・中門・塔の順に造営したという(大橋1997 94頁)。金堂地区でまとまって出た鑑瓦9と宇瓦7型式は尼寺にはないが、鑑瓦1・13型式、宇瓦1型式や1-1期前半の女瓦も確認できることから、国分寺金堂に近い時期に、尼寺の仮金堂が造営されて、本格的な伽藍地内諸堂宇を造営する1-2期まで待つことになる。1-1期は国分寺の主要堂宇を造営した時期とされており、大量の建築資材を要する堂宇造営であるため、金堂以外は国分寺と尼寺で交互に造営したと推測される。この造営事情がI期の実態であろう。

II期は、9世紀前半に国分寺では新調した瓦の割合も少ないが、尼寺では新調瓦が多くて、主要堂宇を大改修か再建したと推定した。この点は国分寺の建物変遷と大きな違いとなった。

しかし、III期とした9世紀中葉・第3四半期には、国分寺・尼寺ともに伽藍地の区画施設を柱塀から築地塀に改修し、連動するようになる。この時期には伽藍地周囲に竪穴住居が群在するように景観が一変する点も国分寺を含めたこの地域一帯の変化といえる。

10世紀は、尼寺が衰退・崩壊していく過程で、中葉まで機能していた。国分寺はそれよりも継続して機能しており、11世紀代の土器が確認できることから、尼寺よりも長く法灯を守っていた。

## 第2節 下野国分尼寺出土文字瓦の変遷

国分尼寺では、伽藍地・寺院地を含めて押印郡名文字瓦は81点、型押文の郡名文字瓦21点、郡名へラ書き文字瓦370点を確認できた。そこで、時期毎に文字瓦の様相をみていく(第160図)。

### I期：創建期 (瓦1-1期)

尼寺創建期には後の主要堂宇の東側に基礎地業のある礎石建物が造られる。この建物は後の金堂と規模が同じで、この時期(瓦編年1-1期)には水道山窯及び一部三毳の和田窯などから瓦が供給されたと考えられる。

そこで、水道山窯産の可能性のある文字瓦を列举すると以下ようになる。第1次SD-113のへラ書き「那」文字瓦は型押文533で、これは水道山型押文5(大川1982)に相当し、胎土に白色粒を多く含み、水道山窯産と断定できる。胎土の特徴からは第11次SD-800のへラ書き「塩」と第12次SD-610Bのへラ書き「塩」、伽藍地出土のへラ書き「郡瓦」が水道山産と判断でき、可能性があるものとして第2次SI-241から出た有段式男瓦の玉縁に「内」とへラ書きされた男瓦が挙げられる。型押文や胎土の特徴から水道山窯産と判断できる文字瓦は少ないが、那須郡と塩屋郡名は確認でき、河内郡名も可能性として挙げられる。三毳産で当該期文字瓦の判別はできない。

これらの点から、尼寺創建期にあたる仮金堂の造営に際しては、主に下野国内北部の郡から瓦が貢進され、一部三毳窯からも供給されたといえるであろう。

### II-1期：主要堂宇・伽藍地・寺院地区画施設造営期 (瓦1-2期) (第25～27表)

第2節 下野国分尼寺出土文字瓦の変遷

押印

郡名	文字	分類	型押文	点数
那須	那瓦		326	5
			333	1
			334A	1
塩屋	塩		356	1
河内	内	I	246E	3
			329C	1
			II	231C
安宗	安宗	II	247	1
	安	III	330A	2
	宗		364B	1
足利	足	IV	329C	1
			329D	1
			333	1
		VII	245	1
			334A	3
		VIII	335	5
			IX	295
		329C	1	
		346	1	
		356	1	
		XI	329C	1
梁田	矢		246E	1
			295	3
	田	VI	326	1
			329A	1

ヘラ書

郡名	文字	分類	型押文	点数	
那須	那	A I	246E	1	
			260	4	
			334A	1	
			359	1	
			585	1	
			A II	245	1
				260	16
				295	1
				359	1
				362	1
		445		1	
		494		1	
		518		1	
		B I		270	1
				344	1
		C	533	1	
		D	260	1	
		F	356	1	
		G	295	2	

ヘラ書

郡名	文字	分類	型押文	点数	
塩屋	塩	C	225A	1	
河内	内	A I	246E	5	
			262	3	
			295	1	
			338	1	
			342	1	
			343	1	
			558	1	
			A II	246E	3
				262	6
				337	2
		339		1	
		343		1	
		344		1	
		466		1	
		480		1	
		549		1	
		B I		246E	1
			262	2	
			274	1	
			295	1	
308A	2				
308B	1				
344	1				
B II	262		6		
	295		1		
	308B		1		
	329A	1			
	329D	1			
	337	1			
	341	1			
	342	1			
	549	2			
	C	246E	1		
326	1				
D	246E	1			
E	342	1			
F	192	2			
262	1				
291	1				
G	480	1			
不明	246E	1			
295	2				
344	1				
都賀	可	A I	295	1	
			329D	1	
			333	2	

ヘラ書

郡名	文字	分類	型押文	点数		
都賀	可	A I	334A	1		
			356	4		
			A II	329B	1	
			B I b	334A	1	
				356	1	
		D II	335	1		
			395	1		
			F	356	1	
			G	335	1	
			H	333	1	
					356	1
		寒川	川	A	308A	1
					308B	1
					326	1
					329A	1
333	2					
334A	2					
342	1					
346	2					
353	1					
B	290				1	
C	290				2	
	334A				1	
	353				1	
	364A				1	
	D				329A	1
	333			1		
	337			1		
	E			262	1	
	329D			1		
	346			1		
600	1					
不明	326			1		
329A	1					
342	1					
安宗	安			AI	254	1
A II	295	1				
	333	3				
	364A	1				
	B II	333	1			
	621	1				
不明	249	1				
足利	足	A	364A	1		
			B	344	1	
			C	295	1	
			356	3		
梁田	矢	A	246E	3		

ヘラ書

郡名	文字	分類	型押文	点数		
梁田	矢	A	260	1		
			295	1		
			308A	1		
			321	1		
			324	1		
			344	1		
			352	1		
			361	1		
			363	1		
			604	1		
			B	246E	1	
				262	1	
				308A	1	
				558	1	
				C	321	2
		D		262	1	
		E		295	1	
		351		1		
		田		B	324	1
					326	1
			329		1	
			329E		1	
			337		1	
			356		1	
			C		295	1
324	2					
326	2					
329D	1					
336	1					
367	1					
D	340	1				
	E	329D	1			
		355	1			
367	2					

その他

	文字	分類	型押文	点数
押印	寺	II	331	1
ヘラ書	安田後	A	282	1
	十		203	2

第25表 下野国分尼寺出土文字瓦と型押文の対応表(1)

第5章 総括

型押文	郡名	文字	分類	点数		
245	足利	押印 足	VII	1		
	那須	へろ書 那	A II	1		
246E	河内	押印 内	I	3		
	梁田	押印 矢		1		
	那須	へろ書 那	A I	1		
	河内	へろ書 内	A I	5		
			A II	3		
			B I	1		
			C	1		
			D	1		
		不明	1			
	梁田	へろ書 矢	A	3		
			B	1		
260	那須	へろ書 那	A I	4		
			A II	16		
			D	1		
	梁田	へろ書 矢	A	1		
262	河内	へろ書 内	A I	3		
			A II	6		
			B I	2		
			B II	6		
			F	1		
	寒川	へろ書 川	E	1		
	梁田	へろ書 矢	B	1		
			D	1		
290	寒川	へろ書 川	B	1		
			C	2		
295	足利	押印 足	IX	2		
	梁田	押印 矢		3		
	那須	へろ書 那	A II	1		
			G	2		
	河内	へろ書 内	A I	1		
			B I	1		
			B II	1		
			不明	2		
	都賀	へろ書 可	A I	1		
	安宗	へろ書 安	A II	1		
	足利	へろ書 足	C	1		
	梁田	へろ書 矢	A	1		
			E	1		
へろ書 田			C	1		
308A	河内	へろ書 内	B I	2		
	寒川	へろ書 川	A	1		
	梁田	へろ書 矢	A	1		
B			1			
308B	河内	へろ書 内	B I	1		
308B	河内	へろ書 内	B II	1		
			A	1		
321	梁田	へろ書 矢	A	1		
			C	2		
324	梁田	へろ書 矢	A	1		
			へろ書 田	B	1	
				C	2	
326	那須	押印 那瓦		5		
	梁田	押印 田	VI	1		
	河内	へろ書 内	C	1		
	寒川	へろ書 川	A	1		
			不明	1		
	梁田	へろ書 田	B	1		
		C	2			
329A	梁田	押印 田	VI	1		
	河内	へろ書 内	B II	1		
	寒川	へろ書 川	A	1		
D			1			
不明			1			
329C	河内	押印 内	I	1		
	足利	押印 足	IV	1		
			IX	1		
X I			1			
329D	足利	押印 足	IV	1		
	河内	へろ書 内	B II	1		
	都賀	へろ書 可	A I	1		
	寒川	へろ書 川	E	1		
	梁田	へろ書 田	C	1		
		E	1			
330A	安宗	押印 安	III	2		
333	那須	押印 那瓦		1		
			足利	押印 足	IV	1
	都賀	へろ書 可	A I	2		
			H	1		
	寒川	へろ書 川	A	2		
			D	1		
安宗	へろ書 安	A II	3			
		B II	1			
334A	那須	押印 那瓦		1		
	足利	押印 足	VIII	3		
	那須	へろ書 那	A I	1		
	都賀	へろ書 可	A I	1		
			B I b	1		
寒川	へろ書 川	A	2			
				C	1	
335	足利	押印 足	VIII	5		
335	都賀	へろ書 可	D II	1		
			G	1		
337	河内	へろ書 内	A II	2		
			B II	1		
			寒川	へろ書 川	D	1
梁田	へろ書 田	B	1			
		河内	へろ書 内	A I	1	
		B II	1			
		E	1			
寒川	へろ書 川	A	1			
		不明	1			
343	河内	へろ書 内	A I	1		
			A II	1		
344	那須	へろ書 那	B I	1		
			河内	へろ書 内	A II	1
					B I	1
			不明	1		
足利	へろ書 足	B	1			
梁田	へろ書 矢	A	1			
346	足利	押印 足	IX	1		
	寒川	へろ書 川	A	2		
			E	1		
353	寒川	へろ書 川	A	1		
			C	1		
356	塩屋	押印 塩		1		
	足利	押印 足	IX	1		
	那須	へろ書 那	F	1		
	都賀	へろ書 可	A I	4		
			B I b	1		
			F	1		
		H	1			
足利	へろ書 足	C	3			
梁田	へろ書 田	B	1			
359	那須	へろ書 那	A I	1		
			A II	1		
364A	寒川	へろ書 川	C	1		
	安宗	へろ書 安	A II	1		
	足利	へろ書 足	A	1		
367	梁田	へろ書 田	C	1		
			E	2		
480	河内	へろ書 内	A II	1		
			G	1		
549	河内	へろ書 内	A II	1		
			B II	2		
558	河内	へろ書 内	A I	1		
			梁田	へろ書 矢	B	1

第26表 下野国分尼寺出土文字瓦と型押文の対応表(2)

	那須	塩屋	河内	芳賀	都可	寒川	安蘇	足利	梁田	合計
押印	7	1	7	0	1	0	14	25	25	80
ヘラ書き	74	4	105	0	29	60	21	8	65	366
型押文	0	0	0	0	9	0	0	2	10	21
尼寺(1-2期) 合計	81 17%	5 1%	112 24%	0 0%	39 9%	60 13%	35 7%	35 7%	100 22%	467
国分寺(1-2期) 合計	19 5%	0 0%	2 1%	0 0%	92 25%	97 26%	71 19%	23 6%	67 18%	371
国分寺・尼寺(1-2期) 合計	100 12%	5 1%	114 13%	0 0%	131 16%	157 19%	106 12%	58 7%	167 20%	838

第27表 下野国分寺・尼寺出土郡名文字瓦(1-2期)構成比

郡名は押印・型押・ヘラ書きで瓦に表記される。伽藍地・調査区出土の押印文字瓦では那須・塩屋・河内・都賀・安蘇・足利・梁田郡の7つの郡名、型押文字瓦では都賀・足利・梁田郡の3つの郡名、ヘラ書き文字瓦では那須・塩屋・河内・都賀・寒川・安蘇・足利・梁田の8つの郡名が確認で、下野国内9郡のうち、芳賀郡を除く8郡の郡名文字瓦が確認できた。押印文字瓦では安蘇14点、足利25点、梁田25点であるが、ヘラ書きでは対照的に那須74点、河内105点、寒川60点、梁田65点などとなっており、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦は郡によって比率が異なる傾向がみられた。

ところで、国分寺報告では1-1期には郡名は押印で行い、1-2期初頭まで押印は残るが、1-2期の町谷窯以降はヘラ書きになるという(大橋1997)。押印・型押・ヘラ書き文字瓦ともに型押文の時期比定(国分寺報告第48表)に依った。これに従うと、大半の押印・型押・ヘラ書き文字瓦は1-2期になり(註6)、押印文字瓦は1-1期で、1-2期初頭までとする指摘と異なる結果となった。

そこで、同一型押文で叩く瓦に押印文字とヘラ書き文字が併存するか調べてみた。窯跡資料では(大川1973)、同一型押文で押印文字とヘラ書き文字が共に存在するのは、町谷窯の型押文80で押印「那瓦」とヘラ書き「田」・「可」・「川」・「足」、型押文10で押印「宋」とヘラ書き「内」・「安」・「川」、型押文92で押印「那瓦」・「安」とヘラ書き「内」・「川」、以下型押文番号のみ記せば、型押文40・90・98、彫り直しのある型押文204でも確認できる。一方で、後出する東山窯では郡名でない「生」などをヘラ書きのみで記す瓦が型押文1・4・10・11・21・26で確認できる。町谷窯では型押文76で「川」のヘラ書き文字のみ、型押文30で「川」・「内」のヘラ書き文字のみ、型押文86で「川」のヘラ書き文字のみ、以下ヘラ書き文字のみの型押文は26・261Bで、押印のみは261Aで確認できる。

以上をまとめれば、押印とヘラ書き文字どちらもある型押文は9点、ヘラ書きか押印のみの型押文は11点であるが、郡名文字瓦に限れば5点である。この三毘窯の生産地資料でみた結果、町谷窯では同一型押文に押印とヘラ書き郡名文字があることから、両者は併存するとみておくべきである。町谷窯は1-2期の所産とする考えに従えば、押印文字瓦とヘラ書き文字瓦は時期差でなく、併存すると判断される。

次に、このような前提に立って、押印・型押・ヘラ書きの文字瓦を合わせて尼寺全体で構成比をみていくと、大きく3群に分類することができる。数点水道山窯産の文字瓦を含むが、1群是那須・河内・梁田郡で100点前後出土しており、全体の構成比でも20%前後を占める郡、2群は都賀・寒川・安蘇・足利郡で40~60点前後出土し、10%前後を占める郡、3群は塩屋・芳賀郡で極めて少なく、1%未満の郡である。

このような尼寺における郡名文字瓦の様相を国分寺と比較してみる。国分寺の1-2期の郡名瓦について、尼寺と同じく群分けすると、1群は100点に近い都賀・寒川郡で25%前後の郡、2群は70点前後の安蘇・梁田郡で20%弱を占める郡、3群は20点前後の那須・足利郡で5~6%を占める郡、4群は確認できない

郡で塩屋・芳賀郡になる。国分寺・尼寺の構成比をみると、塩屋・芳賀郡がいずれも極めて文字瓦が少ない。国分寺で多い1群の都賀・寒川郡は尼寺では比較的少ない郡、国分寺で比較的多い2群の安蘇郡は尼寺でも2群、国分寺で比較的少ない3群の那須郡は尼寺で多い1群になっている。このように、塩屋・芳賀郡を除くと、国分寺で郡名文字瓦の多い郡は尼寺で少なく、逆に国分寺で郡名文字瓦の少ない郡は尼寺で多い傾向が窺える。

そして、国分寺・尼寺の郡名文字瓦で各郡の数をみると、塩屋・芳賀郡で極端に少ないが、那須・河内・都賀・寒川・安蘇・梁田郡では12～20%で、大きな数の偏差は窺えず、均等に近い数と比率になっている。

1-2期は国分寺では金堂・塔以外の建物の造営期であり、金堂・塔の補修期とされている（大橋1997 75頁）。尼寺では主要堂宇の造営期であるが、1-1期の仮金堂から移転した瓦は主要堂宇に葺かれた可能性が高い。このような二寺を併行して造営する時期に一部の郡を除いてほぼ均等に郡名文字瓦が出土するのである。郡名文字瓦の記載率は100%であると指摘されている（大橋1997 102頁）。この説に従えば、郡名文字瓦の構成比は、瓦の貢進（負担）数の構成比を反映することになる。二寺造営時に貢進（負担）する瓦の数が2郡を除き概ね均等であった事実、国分寺と尼寺では出土する郡名瓦の数に違いがある事実から、次のように推測される。主に国分寺に屋瓦を貢進（負担）する都賀・寒川郡などと尼寺に屋瓦を貢進（負担）する那須・河内・梁田郡に枚数を分担して、科していたと考えられる。これは国分二寺造営に係わる特定郡への貢進（負担）集中を防ぎ、国内郡の貢進（負担）均等化を図って、国を挙げて国分二寺造営を行ったためと考える。これまで、国分寺創建期（1-1期）には郡の規模と郡名文字瓦の枚数が対応していることから、瓦の製作枚数を郡の規模で決めていたと指摘されている。その後の1-2期には郡の規模と郡名文字瓦の枚数が対応していないことから、郡毎の瓦の負担枚数は郡の規模で決まっていなかったと指摘されていた（大橋1997 97・98頁）。しかし、1-2期について、尼寺の様相を国分寺報告と同じ方法で集計した結果、主に国分寺に瓦を貢進する郡と尼寺に貢進する郡が役割分担していたことが明らかになった。この時期には二寺を同時に造営しており、造営と郡の貢進（負担）事情に起因すると考えられる。

## II-2・III期：改修・補修期（瓦2・3期）

この時期には型押文字瓦「寺」・「国分寺」・「国分寺瓦」などに限られる。型押「寺」IIIは尼寺では出ないが、国分寺と東山5号窯で飛雲文字瓦（4G）に叩かれており9世紀前半になる。型押「寺」IVAは東山3号窯で宇瓦5型式と9世紀後半の土師器坏（大川1976 78頁）と出土していることから、9世紀後半に位置付けられる。「寺」IVBは尼寺第2次SD-334により9世紀第4四半期から10世紀前半を下限とすることと、IVAの彫り直しであることから、9世紀後半になるであろう。「寺」VIIIも尼寺第4次SK-461で土器と出土しており、9世紀後半が下限になる。「寺」IXは鶴舞窯で出土していることから9世紀代に位置付けることができる。

不明押印文字瓦では、IVは尼寺・山海道遺跡の竪穴住居で土器と伴っており、9世紀後半を下限とする。IXは新開遺跡の竪穴住居で灰釉陶器と伴っており、9世紀後半を下限とする。これらを含めてVIも凸面に縄叩き・離れ砂が付いており、国分寺編年でも9世紀後半にしていることから、不明押印文字IV・VI・IXは9世紀後半と考える。

「国分寺」型押文字瓦では、国分寺出土で宇瓦に押されたものは全て3期になっている。尼寺出土瓦では遺構の時期からIBが9世紀中葉から第3四半期以前、IIが9世紀第4四半期以前、Vが9世紀第3四半期以前になる。このため、「国分寺」型押文字瓦は9世紀後半と位置付ける見解を追認する。

「国分寺瓦」は、尼寺の第1次S I -125 で出ており、遺構の時期が9世紀中葉から第3四半期であることから、それ以前になる。

以上のように、国分寺などの成果や尼寺における出土遺構から時期比定を行った。総じてみれば、9世紀前半には型押「寺」Ⅲ、9世紀後半には型押「寺」ⅣA・「寺」ⅣBと不明押印文字Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ、及び「国分寺」型押文字瓦があり、「国分寺瓦」は9世紀中頃と考えておきたい。

このような時期比定で点数をみると、9世紀後半に押印「寺」ⅣA・ⅣBで16点、「国分寺」が23点、不明押印文字Ⅳ・Ⅵ・Ⅸは計16点で、合計55点になる。「寺」Ⅸ・「国分寺瓦」は計5点である。なお、ヘラ書き文字瓦の時期を当該期に明確に位置付けられるものはなかった。

Ⅱ-1期の主要堂宇・伽藍地・寺院地区画施設造営期（瓦1-2期）には、郡名文字瓦で押印文字瓦80点、型押文字瓦21点、ヘラ書き文字瓦366点で、郡名文字瓦は合計467点確認できた。9世紀代の「国分寺」・「寺」銘文字瓦は尼寺では計44点であり、郡名文字瓦の10分の1以下に減っている。

このことは、9世紀代に文字瓦の数が減少し、郡名表示から「寺」・「国分寺」など寺名表示に変化するという国分寺の傾向に符号する。しかし、尼寺の文字瓦と比較すると、国分寺の方が郡名文字瓦から「国分寺」・「寺」銘文字瓦へ減少する割合が少ない。

ところで、8世紀中葉から後半には郡名を瓦に記していたが、9世紀には郡名表示がなくなり、寺院名や寺と表示するように変化するが、その要因を解明する必要がある。大橋泰夫氏は2期（8世紀末から9世紀前半）に変形格子叩きによって瓦工を識別するように変化したと推測している（大橋1997 115頁）。

字義としては、8世紀代に各郡の貢進瓦であることを表示する必要があったが、8世紀末以降は郡の貢進瓦であることを表示する意味がなくなったと判断できる。替わって、瓦を葺く国府や郡家などと供給先を識別するため「国分寺」・「寺」銘文字瓦に変化したといえる。換言すれば、各郡の貢進・負担で生産しており、生産・貢進側を識別するための文字瓦から、生産側が一体化し、識別する必要がなくなり、供給先を識別することが必要になった文字瓦と判断される。そして、一体化した瓦の生産主体となるのは、国司・国衙であろう。

このことを官符や法制史料からみると、『類聚三代格』天平神護2年8月18日太政官符に、  
国分寺先経造畢塔金堂等。或已朽損将<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>傾落<sub>一</sub>。如<sub>レ</sub>是等類瓦<sub>下</sub>以<sub>レ</sub>造寺料<sub>上</sub>稻<sub>下</sub>且加<sub>中</sub>修理<sub>上</sub>之。  
とあり、早くも766年には造国分寺料で修理していた。この造寺料が出挙によっていたことは、『続日本紀』天平16年（744）7月甲申条に

詔曰。四畿内七道諸国。々別割<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>正税四万束<sub>一</sub>。入<sub>レ</sub>僧尼両寺<sub>下</sub>各二万束。毎年出挙。以<sub>レ</sub>其息利<sub>下</sub>永支<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>寺用<sub>一</sub>。

とされ、出挙の利息で国分二寺の造寺料を支えていた。この造寺料は国分寺造営が一段落した後には「修理国分寺料」となったことは『日本後紀』弘仁2年（811）9月己亥条に

令<sub>下</sub>諸国<sub>下</sub>依<sub>レ</sub>旧出<sub>中</sub>挙修理国分寺料<sub>上</sub>。

とあることによってわかる。これが下って『延喜式』主税寮式の正税帳条にも

当年出挙并借貸若干束（中略）

修理国分寺料若干束 返<sub>レ</sub>納本倉<sub>一</sub>。若有<sub>レ</sub>諸色<sub>下</sub>各為<sub>レ</sub>一項<sub>一</sub>

と規定されている。10世紀前半まで国分寺の修理費が計上され、修理国分寺料は正税出挙でなされていた。そして、但馬国分寺木簡の題箋に「造寺料収納帳」があったことから、実際に国からの造寺料で運用していたのである。

このように、天平年間から国分寺の造寺料は出挙利息で支える規定になっていたが、下野国分二寺では8世紀中葉から後半まで国内の各郡から瓦を貢進することにより、屋瓦を調達して寺を造っていた。当該期の瓦を造寺料により調達したという見解に接しない。詔や官符と違った方法で寺を造っていたのである。

8世紀末から9世紀代には、郡名文字瓦はなくなり、寺院用の瓦を分別する文字瓦に変化する。これは、国からの修理国分寺料により窯場で瓦を生産し、寺料分の瓦の納付先を明記したものと考えるべきであろう。出挙利稲によって賄った修理国分寺料で生産した瓦について、納付先を明らかにしたのが「国分寺」・「国分寺瓦」・「寺」銘文字瓦といえるであろう。下野薬師寺から出た「薬師寺瓦」・「薬」・「師」も胎土などから三毳窯産と指摘されており（勝見・中道 2004）、三毳の一通窯跡・弥三郎ヶ沢南窯跡で「師」の旁を表した型押文字瓦が出ている（栃木県教育委員会 1988）ことによっても裏付けられる。

下野国では、従前から操業していた窯場（三毳窯）で国内各郡の貢進瓦を一括生産する体制から国が修理国分寺料によって窯場で国分寺瓦を生産する体制に変化し、国の関与が強くなったことが想定される。官符の規定に従い国衙が主体となった瓦生産＝造寺に変化したとみることができ、文字瓦の変遷から造瓦体制の変化を読み取れるのである。

### 第3節 下野国分尼寺出土土器・瓦の変遷

#### 1 土器の変遷（第159図）

国分尼寺からは、住居跡や溝跡などから多量の土器類が出土した。ここでは、これらの編年を提示して、遺構変遷の根拠とする。

##### 1期（8世紀後半）

須恵器は口径15cm以上、底径8～9cm程の坏である。明瞭な二次底部面を有し、底部外面は三毳産では糸切り後に中心部を除いて回転篋削りを施し、益子産では篋切り後に撫でている。三毳窯では三通窯、益子窯では原東2号窯の段階に比定される。土師器坏は丸底で、内面に連弧状篋磨きを施すものと平底気味の底部で、口縁部上半が内彎する内彎口縁坏、ロクロ撫で調整するものに分類できる。盤は口径20cmを超す大型品である。時期は三通窯・原東2号窯が8世紀第3四半期であるが、土器から判明する確実な遺構が少ないことから、第3四半期を含む8世紀後半としておきたい。S I -368を標識とする。

##### 2期（9世紀前葉）

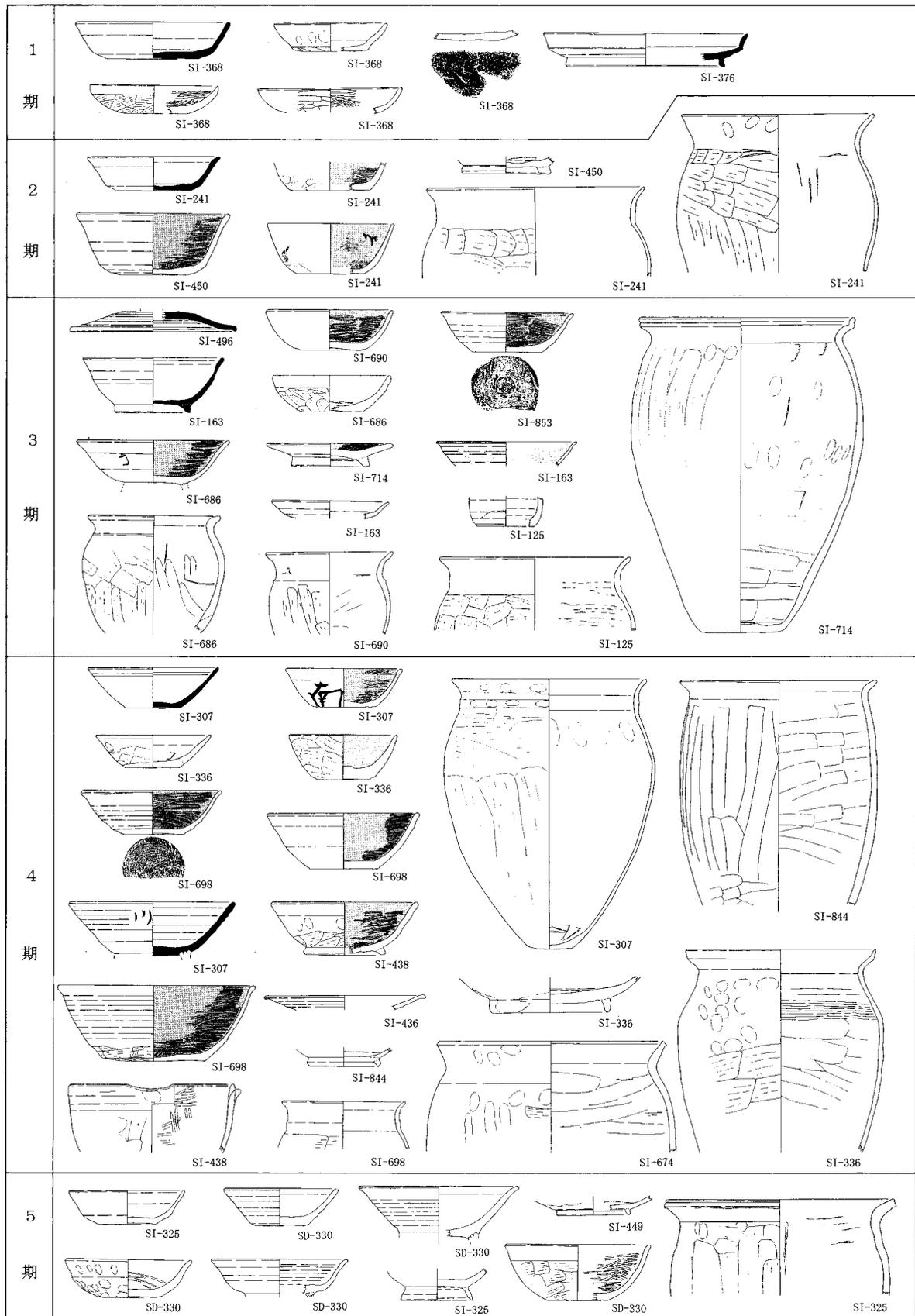
須恵器坏は口径13cm前後、底径8.4～6.6cmであるが、7～8cmが主体で、二次底部面が明瞭である。土師器坏はロクロ調整するものに限られる。底径8～7cm程で、底部糸切り後に外周と体部下端を回転や手持ち篋削りする。黒色処理して丁寧に磨きを施す。土師器碗は口径・底径比の少ない形態である。

土師器甕は所謂武蔵型甕で口縁部がくの字形を呈するものと緩やかなコの字形を呈するものが存在する。胴部上端は横位に、その下は斜位に、胴部下半は縦位に篋削りを行う。

時期的には、須恵器坏が三毳窯寂光沢3号窯のものに類似し、灰釉陶器も井ヶ谷78号窯式が相伴している。寂光沢3号窯は8世紀第4四半期後半から9世紀第1四半期、井ヶ谷78号窯式は齋藤孝正氏によれば800～820年に位置付けられている。武蔵型甕の口縁部がくの字形とコの字形が共存する点などから、本期を9世紀前葉としておきたい。

##### 3期（9世紀中葉～第3四半期）

須恵器坏は底径5～6cm前後で、三毳産は回転糸切り未調整が主体である。この坏は大芝原窯B地点段階に当たる。土師器坏は口径12～13cm、底径6～7cm程で、ロクロ撫でで、内面黒色処理を行う。回転糸切



縮尺 1/6

第159図 下野国分尼寺出土土器変遷図

りを行う底部は未調整が主体である。篋切り坏も少数存在し、切り離し後に撫でを行っている。

土師器坏で特徴的な技法のものは、体部外面に篋削りを施し、底部外面に離れ砂の残る一群がこの時期から確認できるようになる。須恵器の高台付坏の数は減少し、岡窯産の可能性のあるものがわずかに確認できる。また、須恵器蓋も組む高台付坏の減少に伴って少ない。土師器でも高台付坏は少なく、底径6 cm程で、高台も長く踏ん張る形態がすでに出現している。土師器皿は瓷器模倣形態が存在する。

土師器甕は、従前の武蔵型に加えて常総（下野）型甕も確認できた。この甕は肩の張りも少なくなって、胴部が窄まる形態である。武蔵型甕も継続し、明瞭なコの字形口縁になるが、小型甕か台付甕はコの字が緩やかである。さらに、口縁部がやや厚くてくの字形に外反する鶴田中原タイプも1点確認された。

灰釉陶器は黒笹90号窯式や光ヶ丘1号窯式がS I -163で共伴しており、S I -125でも光ヶ丘1号窯式の小瓶が出ている。本期が9世紀後半に位置付けられるが、次期との関係から第3四半期から中葉としておきたい。

#### 4期（9世紀第4四半期）

須恵器坏は口径12～13 cm、底径は5～6 cmが主体になり、底径が小形化している点で3期と画すことができる。口径に対する底径の比は1/2かそれ以下になっている。器高は3.5～4.0 cm程である。三毳産の須恵器坏は底部回転糸切り後の調整を行わず、大芝原窯B地点の段階に比定される。ロクロ使用の土師器坏も底径が小さくなり、底径5～6 cm程を主体にする。底部回転糸切り未調整を主体とするが、篋切りも少数存在する。また、前期に続き非ロクロで、体部外面を篋削りする坏や高台付坏がある。高台付坏はこの時期に初見であるが、高台が断面台形で低い点が特徴である。しかし、高台付坏は無台の坏に比べて格段に少ない。須恵器高台付坏は口径に比べて底径が1/2以下になっている。

土師器甕は前期と同じくコの字形口縁の武蔵型甕もあるが、器厚の厚くなったものも存在する。また、鶴田中原タイプ甕（S I -844出土）もあるが、形態上での変化は少ない。鶴田中原タイプ甕は本県では宇都宮市から芳賀郡北半・塩谷郡・那須郡域に主に分布し、河内郡南部は流通域の周縁になる（津野2007）。国分尼寺は分布域の外に当たることから、流通品か貢進品と考えるべきである。その他に胴部外面下半を磨かない常総（下野）型皿系甕も確認され、片口の付いた鉢もみられた。

灰釉陶器は黒笹90号窯式②が複数確認され、美濃光ヶ丘1号窯式もある。90号窯式は齋藤孝正氏によれば840～900年に位置付けられており、3段階に区分されている（齋藤1994）。この60年間の2段階となり、大芝原窯B地点の段階でも底径が小形化していることから9世紀後半の中の後半、第4四半期頃に位置付けておく。

#### 5期（10世紀前半～中葉）

土師器坏が主体になり、須恵器は激減する。より一括性が高いと考えられる住居跡出土のロクロ撫で土師器坏は、口径11～12 cm、底径6 cm前後、器高2.6～4.3 cmまでであるが、3 cm代が主体になっている。底部は回転糸切り・篋切り・一方手持ち篋削り・底部から体部外面下端一方篋削りなどがあって、技法は多様である。

第2次調査区S D -330のロクロ撫で土師器坏は、口径10.6～13.4 cm、底径5.0～8.0 cm、器高2.8～3.8 cmまでであるが、口径は11～12 cm、底径6 cm、器高3.5 cm程が中心になる。底部は回転糸切り離し未調整が大半であるが、篋切りも僅かに確認できる。ここの形態は多様で、体部が逆八の字形に開く形態が主体であるが、口径・底径差の少ない坏も少数みられる。高台付坏の体部は直線状のものと内湾するものがあるが、後者が後出するタイプであろう。高台は長くのびている。

土師器甕は、口縁部に平坦面を有する常総（下野）型甕の系譜を引くものである。口縁部下は無調整で、その下方を篋削りする。第2次S I -325 や第2次S D -330 を標識とする。

国分尼寺出土の当該期の遺構で、灰釉陶器などと共伴する事例がないが、国分寺跡で大原2号窯式と共伴するS I -392・S K -749 の坏と当該期の坏が類似する。大原2号窯式は齋藤氏によれば900～950年に位置付けられている。

これに後出する虎溪山1号窯式と共伴する坏は口径10～12cm、底径5～6cm、器高3cm余りで前期よりもやや小型化したものと、口径9～11cm、器高2cm以下で、浅く小型の皿状のものが組み合わさる。小皿形の出現することが大きな画期となる。高台付坏は体部が大きく内湾するようになり、高台の径が小さくなっていく。国分寺跡S I -247・265・1055、S K -2・1031 が代表的な当該期の資料である。尼寺では小皿形が第12次S D -836などで、灰釉陶器では虎溪山1号窯式も少数確認されていることから、5期の下限を10世紀中葉としておく。

続く灰釉陶器丸石2号窯式の時期には、小形皿と小型化した高台付坏があり、国分寺跡S I -1053 が代表的な資料である。しかし、国分尼寺には当該期の資料は確認できない。

## 2 瓦の変遷（第160図）

国分尼寺の瓦については、分類・時期比定に関して、国分寺の分析成果に依った。しかし、尼寺の軒先瓦で国分寺報告に確認できないものや国分寺のみで確認できるものなどがあり、組合せなどに多少の違いも存在する。そこで、各時期における軒先瓦の組合せを中心に変遷をみていきたい。

### （1）軒先瓦組合せの変遷

#### 1-1 期

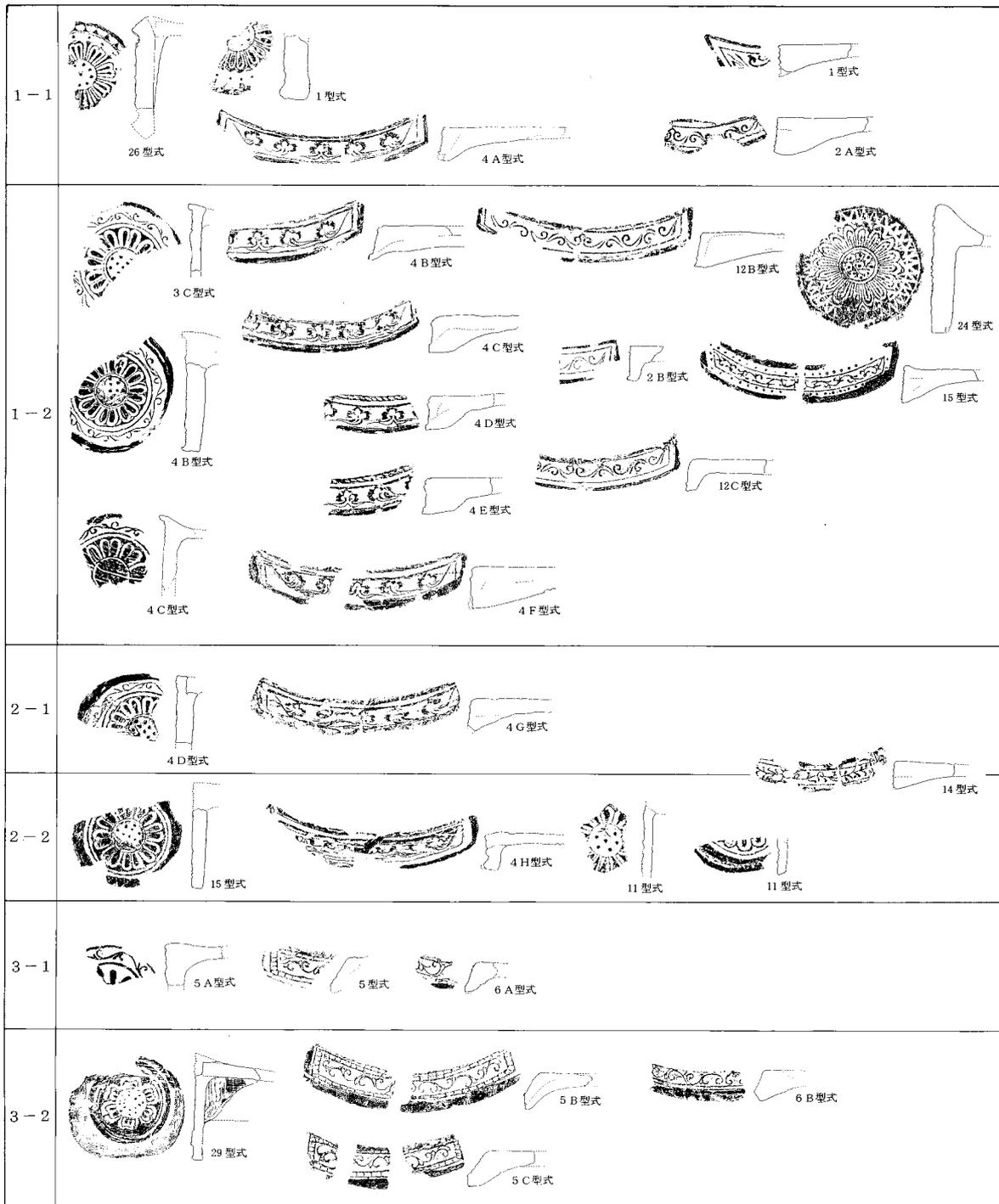
後代の伽藍が造営される東側に仮金堂が建てられる。この時期の鑑瓦は出土数が少ないが、26型式の面鋸歯文縁複弁八葉蓮華文鑑瓦が7点で最も多く確認され、主体となる鑑瓦である。次に、1型式（水道山窯産の線鋸歯文縁複弁八葉蓮華文）が3点、9・13・31型式は僅かに確認できたのみである。生産地では1型式は水道山窯、26型式は胎土の特徴から水道山窯産の可能性があり、13・31型式は三毳の和田窯で確認できる。

字瓦は1型式（均整唐草文、薬師寺203E型式）、2A型式（均整唐草文）、4A型式（飛雲文）が各3点確認できたが、尼寺1969報告では、1型式（報告の軒丸瓦三）は5点出土したと報告されていることから、出土点数では最も多いことになる。生産地では、1・2A型式は水道山窯、4A型式は三毳の町谷窯であろう。軒先瓦の組合せでは鑑瓦1型式（線鋸歯文縁複弁八葉蓮華文）と字瓦1型式（均整唐草文、薬師寺203E型式）が主体となっていた。

文字瓦では、「郡瓦」や「那」「塩」の郡名ヘラ書き文字瓦が胎土や文字の特徴から水道山窯産と判断された。このことは、軒先瓦で水道山窯産が主体であって、三毳窯の和田・町谷窯などが一部含まれていたことが確認できたことと符合し、尼寺仮金堂の屋瓦が水道山窯を主体にして、三毳の複数の窯からも補完的に納めたことがわかった。

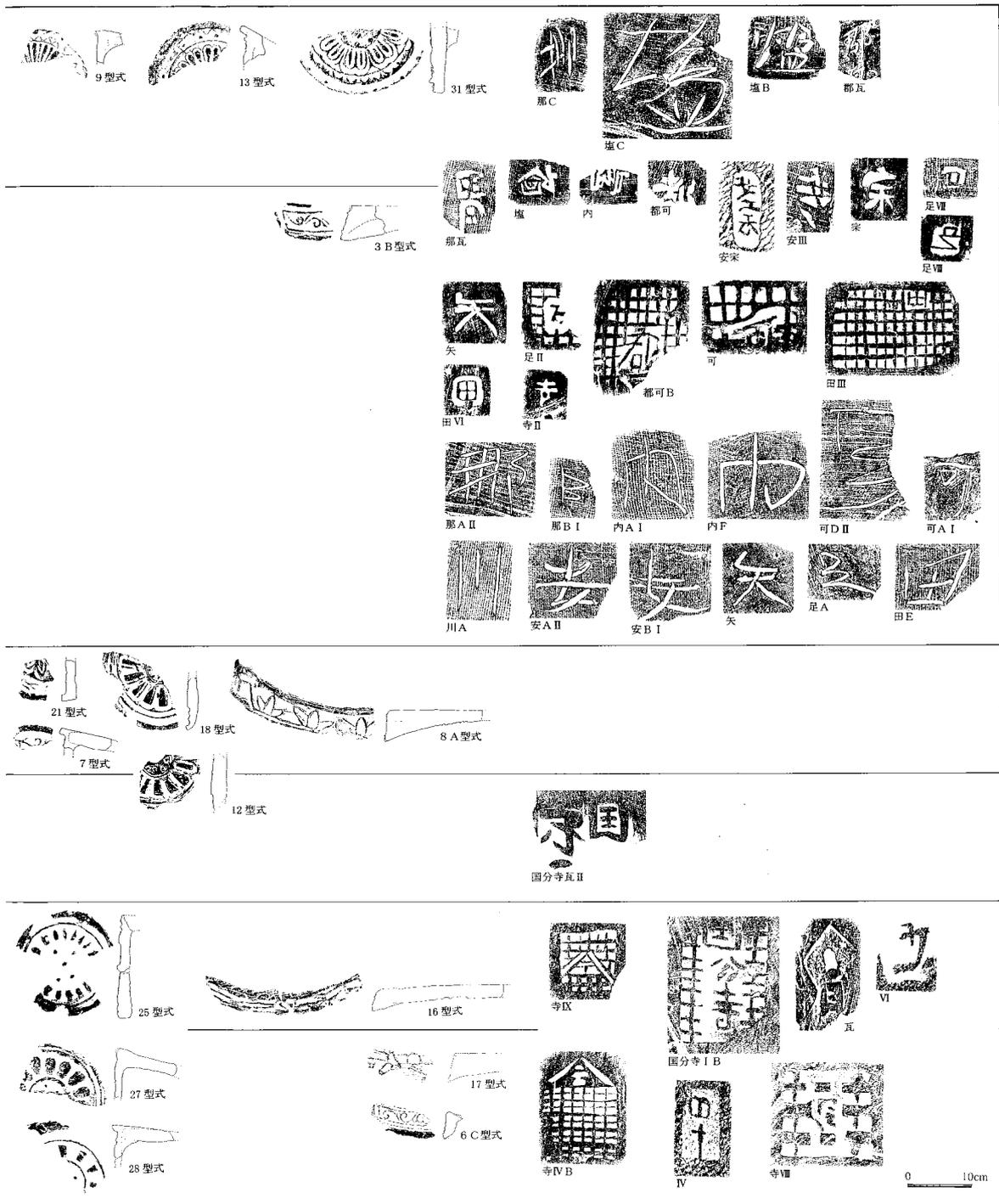
#### 1-2 期

仮金堂を移築し、講堂・回廊など国分尼寺の主要堂宇を造営する時期である。鑑瓦では、3C・4B・4C型式が主体で、国分寺編年によれば、3C・4B型式が当該期前半になる。これらは、圈唐草文縁複弁八葉蓮華文である。字瓦では2B・12B・4B・4C型式が前半の主体となる瓦であり、その後半期には12C・



第160図 下野国分尼寺 軒先瓦組合わせ・文字瓦変遷図

4 F型式が主体になっている。2・12型式は均整唐草文で、4型式は飛雲文である。特に前半期の点数が多いことは、この時期が主要堂宇造営期であることを裏付け、圀唐草文縁複弁八葉蓮華文鑑瓦と均整唐草文宇瓦・飛雲文宇瓦が組む。国分寺報告では、瓦窯での組合せから鑑瓦3 Cは宇瓦2 B・12 B、鑑瓦4 Bは宇瓦4 B・4 C、鑑瓦4 Cは宇瓦4 D・Eと組むことを指摘しており、これらが下野国分寺式の軒先瓦の組合せであるという（大橋 1997 72・73 頁）。国分尼寺において主要堂宇造営期に主体となる軒先瓦は、基本的に国分寺と同じ組成であったことが確認できた。また、下野国分寺式の軒先瓦が大半を占め、後述の鑑瓦



24 型式と宇瓦 15 型式が加わるが、その他の型式は少ない点も当該期の特徴である。

国分寺と尼寺の軒先瓦の相違は芳賀郡式とされる軒先瓦の出土数に現れる。鑑瓦 24 型式と宇瓦 15 型式は、大内廃寺において組合う軒先瓦であることが指摘されている（大金 1987）。国分寺では鑑瓦 24 型式が 1 点出土しているが、宇瓦 15 型式は報告されていない。一方、尼寺では鑑瓦 24 型式が 2 点、宇瓦 15 型式が 7 点出ており、宇瓦は 4 C 型式の数にも比肩する。宇瓦 15 型式は中村遺跡の出土事例から 8 世紀中葉になり、西山窯産である。この型式は尼寺主要堂宇造営期の所産で、この時期（1 - 2 期）の宇瓦 104 点に対して鑑

瓦 24 型式と組む宇瓦 15 型式は 7 点である。宇瓦 15 型式は 1-2 期全体の宇瓦のうち 6% 余りになり、この割合が芳賀郡から貢進された割合であったとみられる。

国分尼寺では芳賀郡に係わる文字瓦は確認できなかった。国分寺では 1461 点の郡名型押文字瓦のうち芳賀郡は 7 点のみ確認された。芳賀郡の押印・ヘラ書き文字瓦はないが、「芳」の型押文字瓦は胎土から三毳産の可能性があり、ほかの郡とともに一括して三毳窯で生産していたと判断される。尼寺では鑑瓦 24 型式と宇瓦 15 型式が一定の割合確認できたことから、芳賀郡内の窯（西山窯）から一定数を直接尼寺に貢進していたと考えられる。文字瓦の郡名の割合と宇瓦 15 型式の割合を比較すると、郡名文字瓦全体数のうち都賀郡が 9%、安蘇・足利郡が 7% であり、1-2 期全体の宇瓦のうち 6% 余りが宇瓦 15 型式の芳賀郡式であることから、芳賀郡では都賀・安蘇・足利郡名の文字瓦と軒先瓦の割合がほぼ同じであった。このことから、各郡は同程度の瓦を貢進していたことになる。

### 2-1・2-2 期

主要堂宇造営が終了した後の段階であるが、8 世紀の造営期と同程度の軒先瓦・女瓦などが確認できたことから、尼寺主要堂宇の大改修か再建のための瓦と判断される。

主な鑑瓦は 2-1 期では 4 D 型式、2-2 期は 11 型式、2 期の中では 15 型式であった。宇瓦では 2-1 期に 4 G 型式、2-2 期には 4 H 型式が主体で、2 期の中に位置付けられる 14 型式が 18 点で次いでいた。このため、2-1 期は鑑瓦 4 D 型式と宇瓦 4 G 型式、2-2 期は鑑瓦 11 型式と宇瓦 4 H 型式、また、鑑瓦 15 型式も 11 型式に比較的類似しており、4 H と組む可能性がある。この組合せは国分寺と同じであり、下野国分寺式は尼寺でも使用されたことが確認できる。

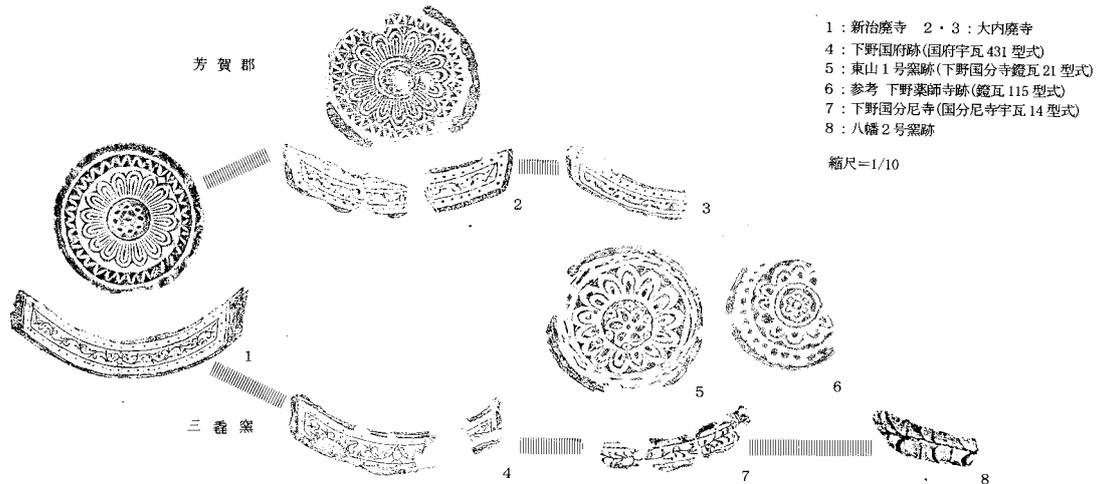
国分寺との相違点は宇瓦 14 型式が 18 点確認でき、2 期の宇瓦 99 点のうち 18% をこの型式が占めている。この宇瓦の文様は、ペンギン文様を中心飾りにして、左右に唐草文が不規則にのび、外区に珠文を配しており、宇瓦 15 型式から退化した文様であるとみられる。1-2 期では、宇瓦 15 型式には鑑瓦 24 型式が組んでいた。鑑瓦 24 型式の組列には尼寺出土鑑瓦では 21 型式が後続し、二重線で蓮弁を表現しており、尼寺では伽藍から 3 点確認できたのみである。生産地では宇瓦 14 型式は三毳鶴舞窯の構築材に使われており、鑑瓦 21 型式は東山窯で出ている。国分寺と尼寺での出土数にやや違いがあるが、組み合わせる瓦としておく。

国分寺では、圏唐草文が粗雑になった鑑瓦 7 型式と飛雲文字瓦の文様を粗く写した宇瓦 8 式が一定数確認できたが、国分尼寺では鑑瓦 7 型式は 3 点、宇瓦 8 式は 8 A 型式が 4 点のみである。

### 3-1・3-2 期

伽藍の区画施設を築地に改修する III-1 期、主要堂宇を補修する III-2 期である。III-1 期（瓦 3-1 期）の軒先瓦は非常に少なく、鑑瓦は 5 A 型式が 1 点、宇瓦は 6 A 型式が 2 点に限られ、これらが組合せになる。3 期以内に入るものでも鑑瓦 25 型式 2 点、宇瓦 5 型式 2 点、6 型式 2 点のみである。鑑瓦 25 型式は、男瓦部と瓦当部を一体に成形する一本造り技法である。蒲鉾状の蓮弁で内区との境に圏線がない。これと組む宇瓦の特定は断定できないが、9 世紀後半が下限になる「寺」VIII の型押文字を叩く宇瓦 16 型式が候補に挙がる。

3-2 期には宇瓦は、5 B 型式が格段に多くて、5 C 型式が次ぐ。これらを主体にして、6 型式が少量加わっている。鑑瓦は単弁の 28 型式が挙げられるが、5 B・C 型式の数に較べて明らかに少ない。時期を決めたいが、鑑瓦 29 型式は伽藍から 9 点出土している。複弁の文様や蓮子も不規則で、鑑瓦 11 型式の系譜で理解できることから、3 期の可能性を指摘しておきたい。国分寺では宇瓦 5・6 型式は、鑑瓦 5 型式と組むことが指摘されているが、国分尼寺では鑑瓦 5 A 型式は 1 点、5 B 型式は確認されておらず、国分寺と異なった組合せになる。鑑瓦 29 型式の数が多いことから宇瓦 5・6 型式と組む可能性がある。さらに、27 型式や



第161図 新治系軒先瓦変遷図

28型式など発見点数の少ない鑑瓦群が組むと考えられる。なお、鑑瓦27型式については3期に位置付けられており(山口2011)、八幡窯で出ている17型式も点数の少ない宇瓦であるが、この時期になると考えられる。

(2) 新治系瓦の変遷 (第161図)

国分尼寺の軒先瓦では、国分寺で顕著でなかった芳賀郡西山窯の均整唐草文(15型式)やその変容した宇瓦(14型式)が確認された。国分尼寺では下野国分寺式を9世紀前半まで主体としながらも、国分寺と異なった系譜の瓦が一定数存在したことが明らかになった。

西山窯や大内廃寺の軒先瓦に関しては、以前より新治廃寺との関係が説かれてきた(大金1987)。また、下野国内に芳賀郡域以外にも常陸からの系譜が存在することは黒沢彰哉氏によって説かれていた(黒沢1988)。氏は西山窯などの鑑瓦24型式については新治廃寺系であるが、下野国府出土の唐草文様は別な流れであることを慎重に示唆している。常陸の瓦との関連では、田熊清彦氏も下野国府宇瓦431型式について、常陸国の各郡との係わりを指摘する(田熊1990 32頁)。その後、大橋泰夫氏は西山窯軒先瓦が変容して、三毳窯で生産されることに関して、鑑瓦24型式の影響を受けた21型式が三毳の東山1号窯で生産されていること、この系譜を引く鑑瓦として14・16・18・22型式を挙げ、芳賀郡の瓦工が三毳山麓で生産にあたったと指摘し(大橋1997 109頁)、瓦当文様の系譜を工人移動に結びつけている。

そこで、諸氏の見解の相違点をみると、黒沢氏が示唆した常陸系(新治系)の軒先瓦が芳賀郡域以外にも存在するのかが課題になり、芳賀郡内と三毳窯におけるそれぞれの変化を把握する必要がある。その後に常陸との比較と芳賀郡と三毳窯との比較によって、黒沢・大橋氏の見解の相違が解決すると考える。そして、郡系瓦の再検討につながると思う。

①芳賀郡における国分寺・尼寺鑑瓦24型式・宇瓦15型式の変化

芳賀郡内の大内廃寺の軒先瓦に関して大金宣亮氏が変遷図を提示し、唐草文宇瓦(国分尼寺宇瓦15型式)が退化するという。大内廃寺Ⅲ期宇瓦ではペンギン状の中心飾が消えて、陽刻で表していたⅡ期の唐草文を陰刻で表現するようになるが、左右6単位である点は継承している。外区の珠文は凹面側と側縁側に残るが、下辺は消える。鑑瓦については明らかでない。

### ②三毘窯における常陸系瓦の変遷

宇瓦で最も古くなるのは、下野国府宇瓦 431 型式である。この瓦は、中心飾をペンギン文様として、左右に 4 単位の唐草文を配する。線は繊細で、右端に範傷があるもの（国府図版 12-319）も確認できる。凹面の瓦当面側は丁寧に横ケズリを行っている。国府Ⅲ期以降の整地層から出たことにより、下限は 790 年頃になり、田熊氏はⅡ期の 8 世紀後葉頃に位置付けている。この型式は三毘窯の犬伏瓦窯（古谷 1926）・ミヨノ入窯跡で出ている（佐野市郷土博物館 1990）。

これに後続するのは、国分尼寺宇瓦 14 型式である。この瓦の文様は、中心飾はペンギン文様であるが、波状の主葉が単調になり、蔓が左側で上下各 9 本、右側の主葉の下は 9 本の蔓であるが、上は半環状文が 2 箇所現れ、左右対称でなくなる。外区の珠文は継承されるが、瓦当厚が薄くなり、凹面端部は無調整のものが大半で、僅かに撫でるものも確認できる。型押文によって国分寺編年 2 期（9 世紀前半）になる。

さらに後続するのは、八幡 2 号窯出土の宇瓦である（大川 1976・佐野市史編さん委員会 1975）。主葉はまっすぐになり、その上下に直線や弧状の線がのびる。国分尼寺第 4 次出土瓦は顎がないが、八幡 2 号窯では曲線顎になっている。範は異なるが、大慈寺出土瓦（津野 2004）にも確認できる。八幡 2 号窯で国分寺鑑瓦 5 型式に類似した瓦があることから、国分尼寺宇瓦 17 型式は 9 世紀後半になる。このように、常陸の新治系と目される均整唐草文宇瓦は三毘窯内で型式変化をみることができた。

鑑瓦では単弁で、二重線で弁を表すものが東山 1 号窯で出ており、9 世紀第 1 四半期に位置付けている（大橋 1998）。しかし、これには内区との境に圏線がなく、やや違いがある。薬師寺鑑瓦 115 型式は産地不明であるが、外区に鋸歯文が表現されており、より大内廃寺Ⅱ期の鑑瓦に類似する。さらに、下野国府跡第 38 次政庁Ⅳ期南門基壇上から出た鑑瓦（国府 212 型式）は、周縁が直立縁になる以外は大内廃寺Ⅱ期鑑瓦により類似する。この鑑瓦について田熊氏は 9 世紀中葉に位置付けている（田熊 1990 第 28 図）。

鑑瓦については、国府宇瓦 431 型式段階では不明で、東山 1 号窯の段階では国分寺宇瓦 9 型式と組んでいたと判断できることから、常陸の組合せと異なっている。東山 1 号窯の国分寺鑑瓦 21 型式や薬師寺鑑瓦 115 型式（註 7）と国分尼寺宇瓦 14 型式が組むことが確認できれば、三毘内で常陸系の組列が指摘できる。

### ③芳賀郡式瓦と三毘窯の係わり

三毘窯では、新治廃寺Ⅱ期の影響を受けた均整唐草文（下野国府鑑瓦 431 型式）が遅くとも 8 世紀後半には生産されていた。この瓦当文様は線が繊細であるが、新治廃寺Ⅱ期の唐草文が左右 6 単位であるのに対して三毘窯では 4 単位になっている。ただし、中心飾りの上端が三角になる点やその両端に突起が出る点など大内廃寺（国分尼寺 15 型式）よりも中心飾の文様は新治に類似している。これらの点から組む鑑瓦は不明であるが、下野国府鑑瓦 431 型式は新治系と考えておきたい。

8 世紀後半に既に新治系の軒先瓦が存在することにより、西山窯から東山窯に工人が移動したと考えることはできない。大内廃寺Ⅲ期宇瓦と国分尼寺宇瓦 14 型式が異なっていることから、新治系を各窯に導入した後は独自の展開をしたと判断される。

下野国内における 8 世紀の瓦当文様の地域性を郡系瓦と理解するが、下野国分寺式を主に生産する三毘窯に常陸新治系が導入される。下野国内では地域性をもった文様意匠として展開し、三毘産瓦の一シリーズを造る。今後、9 世紀における三毘窯産瓦の系譜を再検討することにより、より国衙の関与が強化した 9 世紀の造瓦体制が明らかになると考える。

## 第4節 下野国分尼寺出土須恵器の流通

国分尼寺からは多量の土器類が出土し、この中には下野国内で生産された須恵器や土師器、周辺の国から持ち込まれた土器などがある。ここでは、その主体となる須恵器の産地を時期ごとに分類して、構成比の変化をみていきたい。様々な集計方法があるが、ここでは時間的な理由により実測できた316点の須恵器をもとに、産地の構成をみていく。

### (1) 各期の産地構成比 (第162・165図)

#### 土器編年1期 (8世紀中葉～後半)

尼寺創建期の須恵器は確認できた数が少ない。寺院地全体で実測できた点数は三毳産13点、益子産13点、宇都宮窯産1点などであり、三毳窯と益子窯産が拮抗していることが指摘できる。時期は不明ながら、伽藍地内から宇都宮窯産鉄鉢形が1点出ており、窯の操業時期から判断して1～2期の所産であろう。三毳産坏は、僧房から2点出ており、長期間使われた食器もあったようである。須恵器の他に原始灰釉陶器で井ヶ谷78号窯式前半の壺も搬入されているが、数は極めて少ない。

#### 土器編年2期 (9世紀前葉)

調査区の遺構内外の点数では三毳窯産13点、益子窯産9点で、寺院地全体では三毳窯産14点、益子窯産10点確認できた。両窯の製品が主体である点は1期と同じであるが、1期に三毳・益子窯産で拮抗していた状況から、三毳窯産が優勢になる初期の段階といえるであろう。新治窯産も8点を数え、急増している。少数確認できた客体的な窯は、県内では宇都宮窯1点、南那須窯1点、県外では福島県大戸窯1点・埼玉県末野窯1点などである。

#### 土器編年3期 (9世紀中葉～第3四半期)

調査区の寺院地及び伽藍地内でも須恵器の点数が増える。しかし、この時期には竪穴住居数が急増しており、土師器の数も増加している。竪穴住居が増加して寺院地の遺構内出土数が増えている。伽藍地・寺院地を加えた尼寺全体の集計数で三毳窯産は42点、益子窯産は10点で、三毳産は益子産の4倍に達して、三毳産が格段に多くなる。三毳窯産が須恵器の主体になったといえるであろう。その他では県内の足利岡窯産2点、茨城県堀ノ内窯産2点、三和窯産3点、新治窯産2点などがあるが、三毳窯産の数に比べて格段に少ない。

#### 土器編年4期 (9世紀第4四半期)

調査区の寺院地及び伽藍地内でも須恵器の点数がさらに増える。三毳窯産72点、益子窯産15点で、三毳窯産は益子窯産の5倍近い数になる。1期からの益子窯産との比率をみると、時期が下るに従って、三毳窯産の割合が高くなる傾向がみられた。

少数の窯は、新治窯産・三和窯産がともに4点、南比企窯産2点、堀ノ内窯産1点、群馬産と目される物も1点あるが、全体に極めて少ない。

5期にも、三毳窯産・益子窯産・南比企窯産・南那須窯産が各1点確認できたが、いずれも遺構内から出たもので、当該期には須恵器生産を終えていることから、伝世や混入品の可能性が高い。

### (2) 国分寺・国府の産地構成比との比較 (第163・164図)

上述のような国分尼寺の須恵器の時期的な産地構成であったが、このような傾向が隣接する国分寺・国府の傾向と比較することによって、国分尼寺の食器流通の特徴を考えてみたい。

谷を隔てて隣接する国分寺跡では須恵器坏等の型式が認定できる点数が示されている。それによれば、坏・

第5章 総括

寺院地遺構内出土須恵器の産地

	三毘	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	5	12	0	0	0	0	2	19
2期	10	7	6	0	0	3	2	28
3期	36	9	2	2	0	3	3	55
3～4期	0	0	0	0	0	0	1	1
4期	67	14	4	4	2	4	28	123
5期	1	1	0	0	1	1	0	4
時期不明	7	4	2	2	0	3	9	27

寺院地遺構外出土須恵器の産地

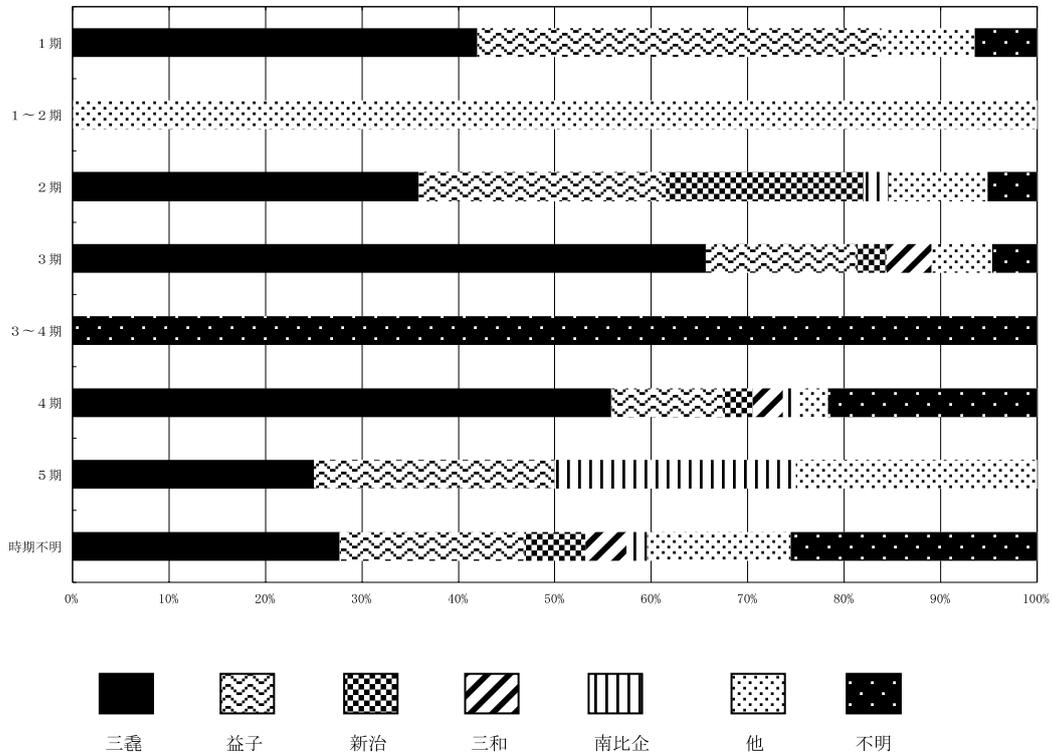
	三毘	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	4	1	0	0	0	2	0	7
1～2期	0	0	0	0	0	1	0	1
2期	3	2	0	0	1	0	0	6
3期	2	0	0	1	0	1	0	4
3～4期	0	0	0	0	0	0	0	0
4期	0	1	0	0	0	0	0	1
時期不明	3	0	1	0	1	2	3	10

伽藍地出土須恵器の産地

	三毘	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	4	0	0	0	0	1	0	5
2期	1	1	2	0	0	1	0	5
3期	4	1	0	0	0	0	0	5
4期	5	0	0	0	0	0	0	5
時期不明	3	5	0	0	0	2	0	10

国分尼寺須恵器産地別合計

	三毘	益子	新治	三和	南比企	他	不明	合計
1期	13	13	0	0	0	3	2	31
1～2期	0	0	0	0	0	1	0	1
2期	14	10	8	0	1	4	2	39
3期	42	10	2	3	0	4	3	64
3～4期	0	0	0	0	0	0	1	1
4期	72	15	4	4	2	4	28	129
5期	1	1	0	0	1	1	0	4
時期不明	13	9	3	2	1	7	12	47



第162図 下野国分尼寺出土須恵器産地構成

(坏)

	三毳	益子	新治	堀ノ内	木葉下
8c 中葉	0	1	1	0	0
8c 後葉	6	10	1	0	1
9c 前葉	9	5	0	0	0
9c 中葉	14	2	0	3	1
9c 後半	23	4	1	0	0

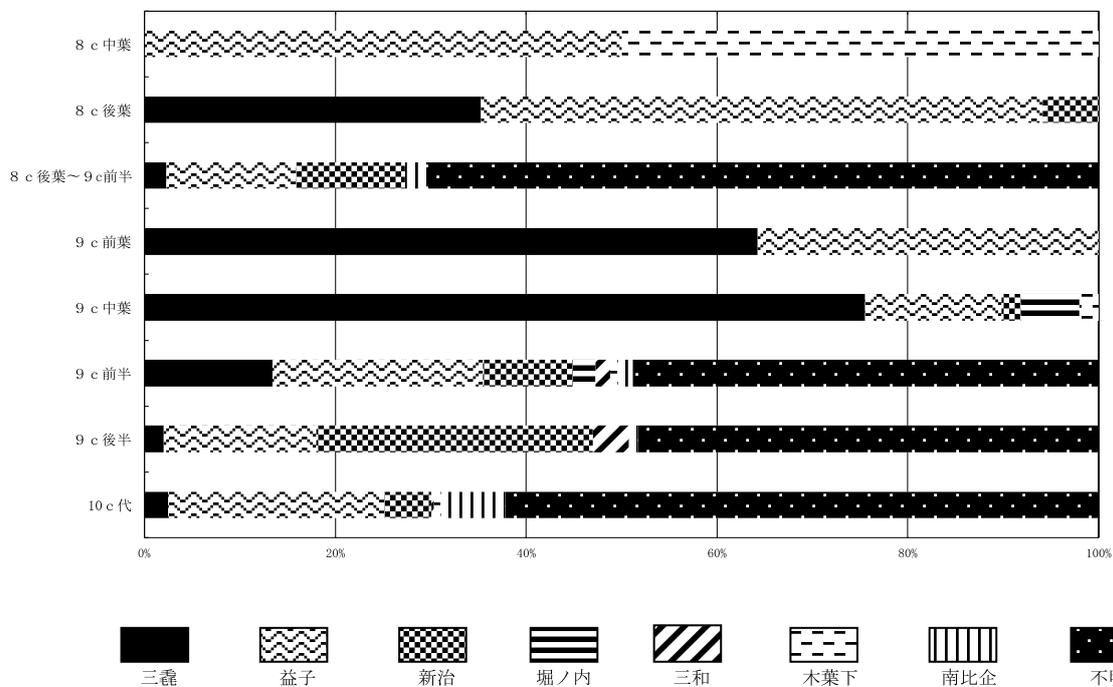
(甃)

	三毳	益子	新治	堀ノ内	三和	木葉下	南比企	不明
8c 中葉	0	1	0	0	0	1	0	0
8c 後葉	6	10	1	0	0	0	0	0
8c 後葉～9c前半	2	12	10	0	0	0	2	62
9c 前葉	9	5	0	0	0	0	0	0
9c 中葉	37	7	1	3	0	1	0	0
9c 前半	17	28	12	3	2	1	2	62
9c 後半	9	71	129	0	17	0	4	215
10c代	10	91	20	0	1	3	27	250

(坏)

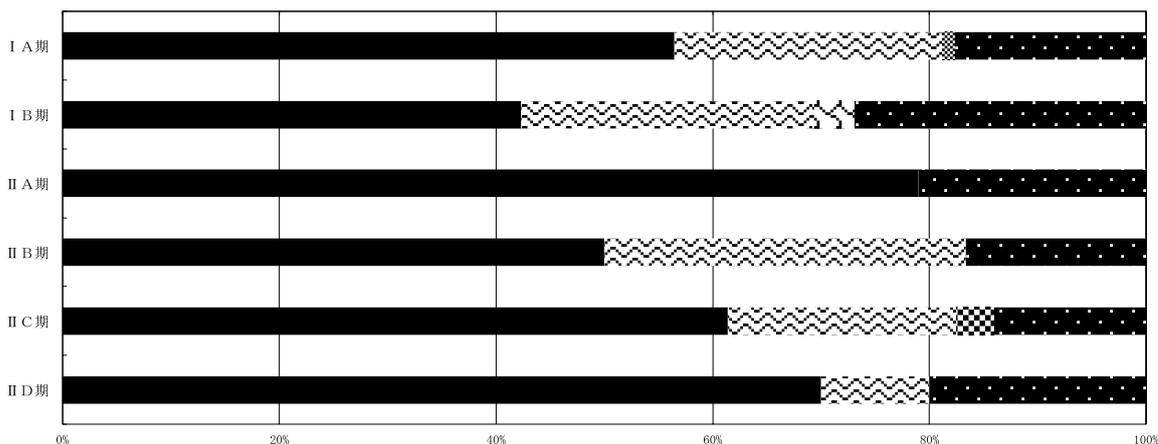
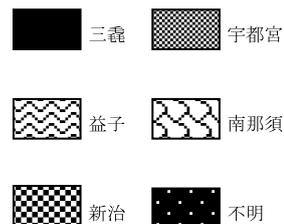


(甃)

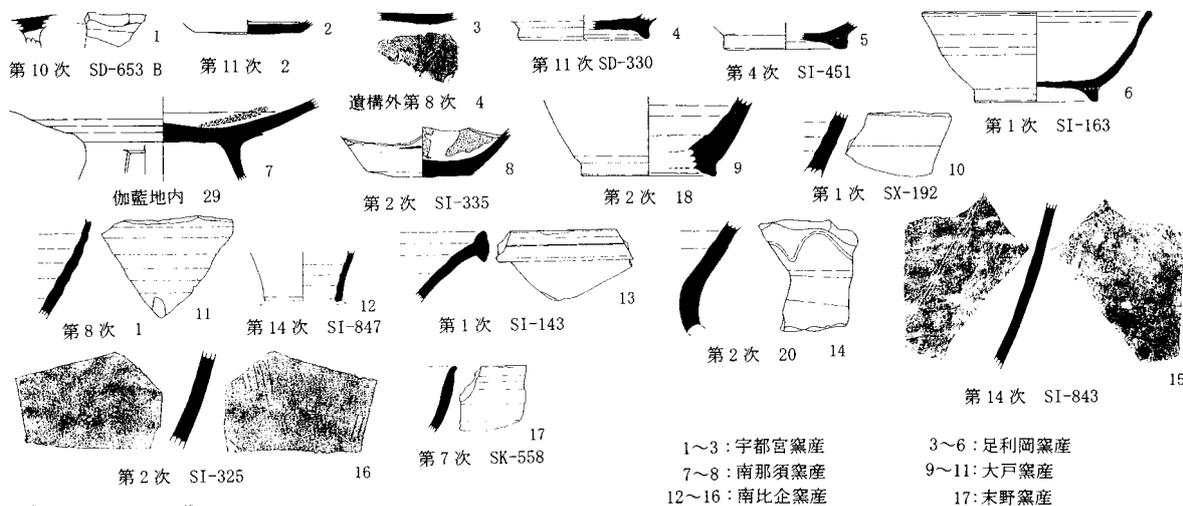


第163図 下野国分寺出土須恵器産地構成

	三毳	益子	宇都宮	南那須	新治	不明	
I A期	48	21	1	0	0	15	I A期：8c前半
I B期	11	7	0	1	0	7	I B期：8c第3四半期
II A期	15	0	0	0	0	4	II A期：8c後葉～9c初
II B期	27	18	0	0	0	9	II B期：9c前葉
II C期	35	12	0	0	2	8	II C期：9c中葉
II D期	7	1	0	0	0	2	II D期：9c後葉



第164図 下野国府跡出土須恵器産地構成



第165図 各窯の製品実測図

蓋等では三毳窯跡群産で、三通窯（8世紀第3四半期）で6点、寂光沢3号窯（旧日陰沢窯A地点、8世紀第4四半期後半から9世紀第1四半期）で9点、寂光沢2号窯（大芝原窯A地点、9世紀第2四半期）で14点、大芝原窯B地点（9世紀後半）で23点となっている。

益子窯跡群の坏・蓋等では、原東3号窯（8世紀第2四半期）で1点、谷津入窯（8世紀第4四半期）で10点、古ヶ原入窯（9世紀前葉）で5点、滝ノ入・倉見沢窯（ともに9世紀中葉）で2点、脇屋1・2号窯（9世紀後葉）で4点となっている。

常陸国内産では、新治窯跡群の東城寺窯（8世紀第3四半期）で1点、東城寺桑木窯（8世紀第4四半期から9世紀初頭）で1点、小野1号窯（9世紀第3四半期）で1点である。堀ノ内窯跡群では花見堂2・3号窯（9世紀第2・3四半期）で3点、木葉下窯跡群のTE-3号窯（8世紀後葉）で1点、三ヶ野窯（9世紀中葉）1点となっている。

このような国分寺の坏類の傾向をみると、8世紀後半から9世紀前葉までは三毘産・益子産が拮抗した点数であり、9世紀第2四半期から中葉には、三毘産が益子産に比べて格段に多くなる傾向が窺える。この傾向は9世紀後半に継続して、益子窯に比べて三毘産は4倍程の数になっている。

しかし、甕類では溝跡・堅穴住居跡出土の点数等が提示されており、それによれば9世紀前葉・中葉に益子産よりも三毘産の方が多くなるが、他の時期は益子産の方が卓越している。さらに9世紀後半には新治産の甕類が格段に多くなっている点が注目される（註8）。甕類の産地同定が難しいことも考慮する必要があるが、坏類と異なった動向といえるであろう。

国分尼寺では、坏類を主にした時期別の産地構成であるが、8世紀中葉・後葉と9世紀前葉（土器編年1・2期）までは三毘産・益子産が拮抗しているが、9世紀中葉～第4四半期（土器編年3・4期）には三毘産は益子産の4倍から5倍程の点数になっている。このように、坏類では国分寺と尼寺の須恵器流通の動向が同じであるといえる。しかし、甕類については、今回尼寺の点数を挙げえないが、9世紀後半でも急増することがないことから、国分寺の様相とは異なっている。

下野国府との比較では、国府は8世紀前半から三毘産・益子産が主体であるが、三毘産が8・9世紀を通じて益子産の2～3倍以上確認されている。国分寺・尼寺では8世紀後半から9世紀前葉までは三毘産・益子産の数が拮抗しており、国府と国分寺・尼寺で異なった点となっている。

次に、客体的な須恵器の産地に関して、尼寺では宇都宮窯・足利市岡窯・南那須窯の下野国内諸窯、常陸国では新治窯・堀ノ内窯、下総国では三和窯、武蔵国では南比企窯・末野窯、陸奥国では大戸窯の製品が確認された。国分寺でも下野国内の宇都宮窯がごく少数、常陸国内の新治窯・堀ノ内窯・木葉下窯、下総国の三和窯、武蔵国の南比企窯の製品が確認された。

国府では実測遺物であるが、下野国内の宇都宮窯・南那須窯、常陸国の新治窯製品が少数確認された。このように、国府・国分寺・尼寺でも下野国内諸窯と常陸・下総・武蔵国などの製品が客体的ながら確認できた点は共通している。

### (3) 国府・国分寺・尼寺の須恵器流通の特徴

上述のような事実関係に対して、以下のような課題が設定される。8世紀後半から9世紀前葉における三毘産・益子産の構成比について、国府と国分寺・尼寺の違いをどのように解釈すべきであろうか。この点は、『寂光沢窯跡』報告書の中でも述べているように、三毘窯は都賀郡と安蘇郡域の境に所在しており、窯業生産を郡が担っていたという理解に立てば、都賀郡家が生産・経営に関わっていたと考えられる。郡家では郡内生産の消費財（食器）を用いる。国府出土木簡から都賀郡家が国府に隣接しているとみられることから、国府及び国庁や国司館などの国府中枢部でも三毘産須恵器が国府創設期から多かったと推定することができる。

また、下野国の二大窯跡である益子窯と三毘窯の製品が主体になっている点は、国府（国衙）の消費財調達、各窯産の須恵器の流通量に多寡によっていたことを示す。

国分寺創建期の屋瓦生産は当初宇都宮窯であったが、後に三毘窯に移転して下野国内諸郡の瓦を一括して

生産し、国分寺・尼寺に供給していた。益子窯でも客体的に西山窯で生産していた。しかし、国分寺・尼寺において、この時期の須恵器は益子窯と三毳窯製品が拮抗して流通していた。この違いは、営繕財と消費財では調達原理が異なっており、瓦は官の運営により、須恵器は郡などの生産・経済活動によって流通していたことに起因すると考えられる。

次に、国分寺と尼寺で須恵器の流通動向が同じである点は、国内産消費財の調達や購入の方法が同じであったことを示唆する。国分寺における物品の調達は、国内の郡・郷から貢進させる場合や交易によっていたことが木簡から明らかになってきた（註9）。国分二寺や僧尼を管理するのは国司・国師である。国分寺・尼寺の須恵器の流通動向が同じであった事実は、二寺が一体となって須恵器の貢進、寺料による消費財の交易が管理されていたことを示す。9世紀後半における甕類が国分寺で新治産が多くなることから、消費財の調達・交易も、一部在地の流通・交易の多寡によっていたのも事実である。しかし、二寺での共通した全体的動向から消費財の貢進・交易が二寺一体で管理されていたと考えられる。

## 第5節 下野国分尼寺出土灰釉陶器・緑釉陶器の流通

### (1) 国分尼寺の灰釉陶器・緑釉陶器の時期的な変遷と出土地（第28表）

下野国分尼寺出土の灰釉陶器は井ヶ谷78号窯式（黒笹14号窯式）から搬入される（註10）。第7次S I -560・第1次S X -192では、内面に灰釉を厚く塗る本窯式の椀が確認され、灰釉椀の初期の事例である。

黒笹14号窯式では、椀3点、皿2点、壺1点で、椀皿類が主体であるが、井ヶ谷78号窯式としたうち13点は瓶類であり、両窯式を併行するとみる立場であれば、本窯式の時期には椀皿類7点、瓶類14点となり、瓶類の方が多く持ち込まれたことになる。

黒笹90号窯の段階では、格段に出土数が増加し、凶化できたもので黒笹90号窯式134点、美濃窯の光ヶ丘1号窯式は22点である。この時期の特徴は美濃窯産に対して、猿投窯産が圧倒的に多い点である。猿投窯産の器種は椀・皿・段皿・蓋・小瓶・瓶、美濃窯産では椀・皿・小瓶・瓶が確認できるが、両窯ともに椀皿が主体となっている。

猿投窯・美濃窯以外の灰釉陶器は極めて少なく、浜松市宮口窯産3点と尾北窯産1点の合計4点であった。これらは、第14次調査区遺構外からも外面調整する吉名1・2号窯と6号窯（黒笹90号窯式併行期）の椀1点、第11次調査区S X -805と伽藍地内から静岡県浜松市宮口窯の吉名1・2号窯（折戸53号窯式併行期）の椀2点、第4次S I -448出土の尾北窯篠岡4号窯前半の深椀1点である。

この時期には緑釉陶器も入っており、灰釉陶器158点に対して、緑釉陶器は10点と少ない。緑釉陶器は猿投窯産が大半で、黒笹90号窯式の後半のものが多い傾向がある。緑釉陶器の器種では、椀・皿・稜皿・輪花皿・稜椀・香炉が挙げられるが、椀・皿が多い。香炉は1点のみ第11次調査区の遺構外から発見され、陰刻花文は第14次S K -857から黒笹90号窯式の椀が1点出土しているのみである。

猿投窯以外の緑釉陶器では尾北篠岡4'号窯式（第4次S I -451・第4次調査区遺構外）が2点、畿内の洛西篠タイプの小坏が1点（第1次S I -174）、伽藍地内からも壺の口縁部が1点出土した。

緑釉陶器全体では、時期の明らかでないものを含めると、猿投窯産17点、尾北窯産2点、畿内産2点となるであろう。

主な出土地区をみると、第1次・第2次・第4次・第11次調査区などで灰釉陶器・緑釉陶器は多く確認された。特に、黒笹90号・光ヶ丘1号窯式の9世紀後半には伽藍地東側・北側、及び四面廂掘立柱建物のある北東部の第11次調査区などで多数の竪穴住居跡が築かれる。第2次調査区伽藍地北方は製塩土器や井

## 国分尼寺灰釉陶器

猿投窯	井ヶ谷 78号 15	黒笹 14号 6	黒笹 90号 134	黒笹 90～折戸 53号 2	折戸 53号 6		
美濃窯			光ヶ丘 1号 22	光ヶ丘 1～大原 2号 6	大原 2号 4	虎溪山 1号 11	
宮口窯			吉名 6号 1		吉名 1・2号 2		
尾北窯			篠岡 4号 1				

## 国分尼寺緑釉陶器

猿投窯	黒笹 14～90号 1	黒笹 90号 10					
尾北窯			篠岡 4'号 2				

## 国分寺灰釉陶器

猿投窯	折戸 10号 19	井ヶ谷 78号 33	黒笹 14号 44	黒笹 90号 18	折戸 53号 11		
美濃窯				光ヶ丘 1号 101	大原 2号 47	虎溪山 1号 121	丸石 2号 2
三河遠江				黒笹 90号併行 5	折戸 53号併行 2	虎溪山 1号併行 1	
尾北窯				篠岡 4号 10			

## 国分寺緑釉陶器

猿投窯	黒笹 90号併行 3						
畿内洛西	黒笹 90号併行 4						

## 下野国府跡灰釉陶器

猿投窯	折戸 10号 4	井ヶ谷 78号 7	黒笹 14号 2	黒笹 90号 3	折戸 53号 6		
美濃窯				光ヶ丘 1号 7	大原 2号 23	虎溪山 1号 40	丸石 2号 6
三河窯				黒笹 90号併行 1	折戸 53号併行 8	東山 72号併行 2	

## 下野国府跡緑釉陶器

猿投窯	黒笹 90号 3	折戸 53号 5	東山 72号 2				
美濃窯			虎溪山 1号 5				
尾北窯	篠岡 4号 2	篠岡 4'号 1	篠岡 27号 1				
近江窯		折戸 53号併行 9					
畿内窯 2							

第28表 下野国分寺・尼寺、下野国府出土灰釉陶器・緑釉陶器点数集計表

戸の存在から食料調理施設に係わる機関が存在したと判断され、第11次調査区の四面廂掘立柱建物周辺は寺務・運営に係わる機関の可能性が高く、この位置で緑釉陶器香炉は出土しており、寺院地内における位置の格を示唆する。

折戸 53号窯式・大原 2号窯式の段階には、灰釉陶器の出土数は格段に減少する。猿投窯産 6点、美濃窯産 4点であるが、黒笹 90号窯や光ヶ丘 1号窯式と判別しがたいものを含めると、猿投窯産 8点、美濃窯産 10点となり、ほぼ拮抗した数になる。器種では椀が最も多くて、皿・甕が少数確認できたが、前期に比べると器種も限られたものに変化している。出土した調査区を見ると、第1次・第2次・第4次調査区から出ているが、10世紀前半の掘立柱建物や竪穴住居は、前期に比べると格段に減少しており、灰釉陶器の出土数に比例している。

この後の美濃窯虎溪山1号窯式には、さらに出土数が減少し、猿投窯産がなくなり、美濃窯産に限られるようになる。これは窯場の生産量の変化によるものであろう。器種は椀・皿・段皿・蓋・瓶で、遺構から出たものは伽藍地築地堀の内側溝（SD-153）などからであり、第1次調査区内から多く出る傾向がある。伽藍地区画築地堀の溝から出たことから、堀の下限及び寺院機能の下限を知る資料となる。第1次調査区内にこの時期の建物は確認されておらず、消費地は伽藍地内で、廃棄されたものであろうか。

## （2）下野国分寺・国府における灰釉陶器の出土傾向との比較（第28表）

次に、国分尼寺の灰釉陶器等の出土傾向を国分寺・国府の様相と比較して、尼寺の特徴を明らかにしていきたい。各遺跡共に、灰釉陶器等の産地・時期別けが行われており、これを参考にする。国分寺では計測法も併記されているが、尼寺・国府では個数カウントのみを行っており、ここでは破片数の比較による。

### ①下野国分寺跡

国分寺跡出土の灰釉陶器等については、その報告書のなかで時期・産地・器種別の点数と比率等が提示されている（大橋1995）。ここではその概要を示し、国分尼寺の様相と比較する。国分寺における灰釉陶器の初期の搬入は折戸10号窯式であり、19点確認されている。この段階では椀皿類に比べて瓶類の数が圧倒的に多い傾向がある。黒笹14号窯式の段階になり、出土数も増加していき、井ヶ谷78号窯式と黒笹14号窯式を併行とする考えに立てば、この時期の椀皿類と瓶類の数は41点对36点で、その比率は拮抗している（大橋1995 47頁）。

黒笹90号窯式の段階になると、出土数は以前に増して多くなる。また、黒笹14号窯式の段階までは猿投窯産のみであったが、美濃窯が量産化し始めたこの時期には、点数で比較すると、猿投窯産18点、美濃窯産101点で、圧倒的に美濃窯産が多くなる。器種構成ではこれまで椀皿類と瓶類が拮抗していたが、猿投窯産で椀皿類は瓶類の2倍、美濃窯産では3倍の数に達している。また、この時期から尾北窯・三河・遠江産が少数であるが搬入している。

これ以後、大原2号窯式の段階にも美濃窯産が主体になっており、猿投窯産の灰釉陶器は美濃窯産の4分の1程度に減少しており、この時期以降に猿投窯産は確認できなくなる。一方、美濃窯の虎溪山1号窯式の段階には出土点数が再度増加して、黒笹90号窯式の時期に比肩している。なお、この時期の椀皿類と瓶類では圧倒的に椀皿類の方が多く確認された。国分寺ではその後、丸石2号窯式の段階まで少数出土している。

緑釉陶器は9世紀代が主体で、猿投窯産よりも畿内産が多いと指摘されている。

### ②下野国府跡

国府では折戸10号窯式の段階から瓶類を主体にして搬入が始まる。井ヶ谷78号・黒笹14号窯式の段階には数が増加し、瓶類の方が多く確認されている。黒笹90号窯式の段階には14号窯式の時期よりも実測点数では減っている。さらにこの時期から美濃窯の製品が出現し、猿投窯産よりも美濃窯産の方が多くなっている。黒笹90号窯式・光ヶ丘1号窯式の器種では、椀・皿が主体であるが、壺が一定数確認できる点の特徴で、珍しい器種では鉄鉢形も出ている。

さらに折戸53号窯式の段階には、美濃窯大原2号窯式の方が猿投窯よりも格段に多くなって、美濃窯製品が明らかに優位になる。椀皿が主体であるが器種も多くなって、稜椀・段皿・鉢・壺・甕などがある。特に壺・甕が多い点は前代からの特徴であろう。

その後、猿投窯産はなくなるが、美濃窯産は虎溪山1号窯式になり、さらに増加する傾向があり、壺・甕も多く確認されている。

猿投窯・美濃窯以外では、三河産が黒笹90号窯式併行期以降、少数であるが確認できた。

緑釉陶器は黒笹90号窯式から東山72号窯式に併行する時期まで確認された。通時的には猿投窯が最も多く、美濃・尾北窯のものが少量である。折戸53号窯式併行期に近江産椀が9点確認され、県内でも際立った数である。器種では、椀皿のほかには輪花椀や香炉蓋などが出ている。

下野国府・国分寺出土の灰釉陶器の出土数の時期的な産地変化を調べた高橋照彦氏の研究もある（高橋1994）。氏の研究でも黒笹90号から折戸53号窯式の段階における灰釉陶器の産地は美濃窯が圧倒的に多くて、東山72号窯式の段階以降は美濃窯産に限定されている。

### ③国分尼寺との比較

国分尼寺の緑釉陶器は、国分寺と同じく9世紀後半のものが最も多かったが、国分寺では畿内産が多くあった。尼寺では猿投窯産が多くて、畿内産は少なかった。国府では下った折戸53号窯式併行期の方が多くて、特に近江産が極端に多い点が国分寺・尼寺と異なった様相になっている。国府での畿内産緑釉陶器は2点のみで数は少なかった。

このように、国府・国分寺・尼寺の緑釉陶器の動向をみると、産地構成比・時期的な点数変化などで、共通性は少ないといえよう。尼寺では香炉蓋など稀少な器種が少ない点は3遺跡間での相違である。

灰釉陶器では、国府・国分寺ともに折戸10号窯式の段階から少数原始灰釉陶器が搬入されている。尼寺では確認されていないが、今後発見されても少数に止まると推測される。井ヶ谷78号・黒笹14号窯式の段階では、尼寺では瓶類が多いが、国分寺では拮抗した数になっている。

国分寺の様相と明らかに異なるのは黒笹90号窯式の段階である。僧寺・尼寺ともにこの時期になって出土数がピークを迎える点は共通するが、国分寺では美濃窯産が圧倒的に多いが、対照的に尼寺では猿投窯産が格段に多くなっている。国府では、この時期の搬入数が少ないが、猿投窯産よりも美濃窯産の方が多かった。これらの点から尼寺の独自の様相が窺える。

次の折戸53号窯の段階には、尼寺では数が少ないが猿投窯産が美濃窯産よりも少なくなっている。国分寺では美濃産が猿投産に比べて、4倍ほどになっており、9世紀後半における両窯の構成比率を継承している。国府でも圧倒的に美濃窯産が多く、3遺跡の搬入傾向が共通している。

次の段階では、3遺跡ともに猿投窯産がなくなり、美濃の虎溪山1号窯式に限られるようになる。この傾向は窯場の生産動向に依った傾向である。器種では国府において黒笹90号窯式併行期から虎溪山1号窯式まで壺・甕が多く、国分寺・尼寺との違いと指摘できるであろう。

以上のような灰釉陶器の傾向をまとめると、黒笹90号窯式の段階に尼寺と国府・国分寺では主体となる搬入窯に明らかな相違が確認された。しかし、その後は生産地の動向に規定されたのか、美濃窯主体になっていく。

### (3) 国府・国分寺・尼寺における灰釉陶器流通の意義

緑釉陶器では、尼寺は香炉蓋のように稀少な器種は少ない。この点からみると下野国内の主要な緑釉陶器消費遺跡の間でも階層的な搬入関係が窺える。また、緑釉陶器の搬入窯の産地構成・時期の変化などが多様である。搬入窯・時期の相違という事実に関して多様な解釈が可能であるが、寺院では交易という観点のほかに、献物・貢進という観点からも解釈できるであろう。

階層的な搬入関係について国分寺との相違では、僧寺で「講師」墨書土器が出土するなど、寺院運営に係わる国師（講師）が置かれていたことに起因するであろう。

国府・国分寺と尼寺では、特に9世紀後半に灰釉陶器の搬入された窯が明らかに異なっていた。下野国内産の須恵器では国府・国分寺・尼寺ともに三毳窯産が主体になっており、9世紀後半に国分寺で新治窯産甕が多くなっている点に、違いがみられる程度であった。この違いが何に起因するかが、問題である。

尼寺が国府・国分寺とは別な、独自の物品購入を行っていたのか、木簡などで今後検証していく課題であり、現状では明らかではないが、現状での複数の解釈案を提示してみる。

#### 解釈1 流通ルート・貢進地域の違いとみる場合

東海地方産灰釉陶器の流通は北関東において東西で大きく異なっている。東関東の常陸国では、黒笹90号窯式の段階では猿投窯産167点に対して、美濃窯産8点と猿投窯産が美濃窯産の20倍ほどに達している(奈良・平安時代研究班1999)。下野国分尼寺では黒笹90号窯式の段階では猿投窯産は美濃窯産の6倍程であり、常陸国の流通比には及ばない。灰釉陶器が比較的多く出た小山市金山遺跡では、9世紀後半には黒笹90号窯式の段階で猿投窯産48点、美濃窯産4点であり、折戸53号窯式の段階でも猿投窯産9点、美濃窯産4点、東山72号窯式の段階でも猿投窯産3点、美濃窯産1点となって、終始猿投窯産の灰釉陶器数が卓越している。

但馬国分寺木簡では国内の郡や国分寺所在郡内の郷から食料・物品・資材などが貢進されており、国分寺における必需財の調達方法が明らかになった。これを前提にした解釈を示せば、下野国内の9世紀後半の灰釉陶器の流通は、小山市域―寒川郡―や下野国東部域では猿投窯産が美濃窯産よりも多く、下野国東部域の灰釉陶器流通量に規定されて、この地域から主に猿投窯産灰釉陶器を貢進したと考える。

#### 解釈2 国・国分寺における仕分けとみる場合

国分寺・尼寺や官寺に係わる寺料は国が係わっていた。『延喜式』にも各国の国分寺料が記載されており、下野国では薬師寺に関する経費管理・寺院経済の管理を国で行っていたことが、下野国府出土題箋「薬師寺月料」によって明らかになった。寺に必要な寺物の生産・管理も国が関与していることから、国で調達した灰釉陶器の仕分けを行っていたと考える。さらに、国分二寺の運営に係わる講師の居る国分寺において尼寺での消費財の仕分けを行ったと考える。

#### 解釈3 尼寺が独自に流通ルートから交易したとみる場合

9世紀後半に尼寺は、下野国東半部や常陸国域から、国府・国分寺と異なった独自の流通ルートから、灰釉陶器を交易によって調達したと考える。

以上のように、3つの解釈案を提示したが、解釈3では国分尼寺が寺料によって独自に交易することが可能であったのか明らかでなくて可能性が低い。解釈2では国府・国分寺で9世紀後半に猿投窯産を仕分けしてきたのか明らかでない。これらの点から木簡の事実を援用して、灰釉陶器の貢進地域とその地域に流通する灰釉陶器の産地に規定されて、9世紀後半に国分尼寺の産地構成に違いが現れたと考えておきたい。それは、この時期に尼寺の竪穴住居が前の時期に比べて格段に増加しており、寺に集まる人数も増えて、臨時的に貢進させたと推定しておきたい。

#### 註

1 国分尼寺鑑瓦13型式は、下野国府の5類に当たり、編年ではⅡ期(750～791年頃)に位置付けられている。しかし、この年代では瓦陶兼業でなくても須恵器と年代の開きが大きい。尼寺で出ていることから第2四半期後半とすべきと判断する。なお、国府出土の5類(図版2の25)と尼寺出土の13型式を比べると、尼寺の方が筈傷が進んでいる。

2 調査区出土の女瓦の分類は調査に併行して行われていた。小破片の場合に短縄叩きであるか判断できないことがあるが、ここに分類してあったために、これを提示した。

- 3 掘立柱式の棟門が瓦葺きか確定できない。事例としては秋田城跡の政庁Ⅰ・Ⅱ期東門は棟門で、築地塀が瓦葺きであることから、掘立柱式瓦葺建物と指摘されている(秋田城跡調査事務所 2002『秋田城跡 - 政庁跡 -』秋田市教育委員会)。
- 4 僧房跡出土と判断した瓦の注記は「尼4. 僧」などと書かれており、尼寺第4次調査僧房出土と解した。
- 5 尼寺2011報告では、遺構の変遷をⅠ～Ⅳ期としていたが、遺構と遺物の面期によって小期を設定して補訂しておきたい。
- 6 国分寺報告での型押文260は、2-2期に比定されている。この型押文で叩く瓦にはへら書きで「那」・「矢」が書かれたものがある。この型押文の郡名文字瓦のみ時期が異なっていることから、他の型押文の時期と同じく1-2期にすべきと考える。
- 7 薬師寺鏡瓦115型式の時期などは明らかでないが、報文ではこの鏡瓦について、薬師寺鏡瓦113型式の系譜で、芳賀郡系の瓦と指摘している(中道2004)。
- 8 『寂光沢窯跡』報告書の中で、下野国分寺跡出土の須恵器の点数を甕類のみで集計し、その解釈を提示した。そこでは坏類の傾向が抜けており、坏類を含めて尼寺の出土傾向と比較する必要がある。このため、解釈については、以下の本文のように補訂しておきたい。
- 9 安芸国分寺跡では、国分寺創建期の法会の準備に関わる木簡が出ている(妹尾・佐竹2002)。法会に必要な蓆などを国分寺所在郡内の郷や郡を越えて他郡から物品が送られている。この中には「山方郡六口佐良」も含まれており、国分寺で使用する食器を郡に貢進させていたとみられる。また、同国分寺からは「口交易」と記載された木簡も出ていることから、物品を交易で調達する場合もあった。
- 10 現在の猿投窯の編年では井ヶ谷78号窯式は黒笹14号窯式に併行するものとして、編年表から削る場合がある(城ヶ谷2008)。灰釉陶器の産地・窯式比定については、現地調査直後に齋藤孝正氏に御教授いただいた。現在の編年観と異なる部分もあるが、これに従っておきたい。現在の黒笹14号窯式の古い段階に相当する。

#### 参考文献

- 市 大樹 2013「国分寺と木簡 - 但馬国分寺木簡を中心に -」『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館
- 大金宣亮・石川勲 1969「出土遺物」『下野国分尼寺』栃木県教育委員会
- 大金宣亮 1987「仏教の伝播と開花 - 大内廩寺の造営と下野国分寺 -」『真岡市史 第6巻 原始古代中世通史編』真岡市
- 大川 清 1974『下野の古代窯業遺跡 (資料編)』栃木県教育委員会
- 大川 清 1976『下野の古代窯業遺跡 (本文編Ⅱ)』栃木県教育委員会
- 大川 清 1982『水道山瓦窯跡群』宇都宮市教育委員会
- 大川 清・田熊信之 1982『下野古代文字瓦譜』日本窯業史研究所
- 大橋泰夫 1995『下野国分寺跡Ⅰ 墨書土器・施釉陶器編』栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 1997『下野国分寺跡Ⅱ 瓦・本文編』栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 1998『下野国分寺跡Ⅲ 遺物編』栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
- 大橋泰夫 2001「下野の瓦生産について」『栃木県考古学会誌』第22集
- 大橋泰夫・篠原祐一 1992『山海道遺跡』栃木県教育委員会
- 勝見一品・中道 誠 2004『史跡 下野薬師寺跡Ⅰ - 史跡整備にともなう調査 -』須田勉ほか編、南河内町教育委員会
- 木村 等・鏑木理広・大橋泰夫・斎藤弘 1985「下野国分尼寺跡関連遺跡調査報告(しもつけ風土記の丘資料館建設予定地)」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』栃木県教育委員会
- 黒澤彰哉 1988「常陸における古代寺院の一考察 - 各郡の造瓦活動を中心として -」『婆良岐考古』第10号

## 第5章 総括

- 齋藤孝正 1994「東海地方の施釉陶器－猿投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施釉陶器－』  
古代の土器研究会
- 佐野市郷土博物館 1990『第15回 企画展 下野の古瓦－三叢山麓の窯跡と瓦－』
- 佐野市史編さん委員会 1975『佐野市史 資料編1』
- 城ヶ谷和広 2008「猿投窯・尾北窯における窯業生産体制」『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料』
- 妹尾周三・佐竹 昭 2002「安芸国分寺跡」『木簡研究』第24号
- 田熊清彦 1985「文字瓦」『下野国分寺跡』栃木県教育委員会
- 田熊清彦 1988『下野国府跡Ⅷ 土器類調査報告』栃木県教育委員会
- 田熊清彦 1990『下野国府跡Ⅸ 瓦類報告編』栃木県教育委員会
- 高橋照彦 1994「東国の施釉陶器」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施釉陶器－』古代の土器研究会
- 津野 仁 1996「搬入品について」『金山遺跡Ⅳ（本文編）』栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
- 津野 仁 1997「栃木県の須恵器編年」『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』古代生産史研究会
- 津野 仁 2004「古代の信仰」『藤岡町史 通史編 前編』
- 津野 仁 2007「本地域に特徴的な土器－鶴田中原タイプ甕について」『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡（4～6・18・19・23・24区（第2分冊）』栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団
- 津野 仁 2011「三叢産須恵器の流通」『寂光沢窯跡』栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団
- 中道 誠 2004「鑑瓦」『下野薬師寺跡Ⅰ－史跡整備にともなう調査－』南河内町教育委員会
- 栃木県教育委員会 1988『栃木県生産遺跡分布調査報告書』
- 奈良・平安時代研究班 1999「茨城県における施釉陶器の検討（5）」『研究ノート』8号（財）茨城県教育財団
- 野代徳一・茂木克美・大橋泰夫 1998「佐野市ゼニゴ沢窯跡採集の瓦と須恵器」『栃木県考古学会誌』第19集
- 日高町教育委員会 1981『但馬国分寺木簡』
- 古谷 清 1926「犬伏古瓦窯趾」『栃木県史蹟名勝天然記念物調査報告 第一輯』
- 山口耕一 2004『新開遺跡第2次・第3次調査』国分寺町教育委員会
- 山口耕一 2011「下野国分寺」『国分寺の創建 思想・制度編』吉川弘文館

# 写真図版



下野国分尼寺跡（上空から）



第1次調査区（南から）



第2次調査区（南から）

図版二 調査区全景



第 11 次調査区（北から）



第 12 次調査区（東から）



第3次調査区 調査区全景（北西から）



第4次調査区 調査区中央南側部分（北東から）



第4次調査区 調査区中央部分（北から）



第4次調査区 調査区西側部分（西から）



第5次調査区 調査区全景（南西から）



第6次調査区 調査区全景（南から）



第6次調査区 調査区南部（東から）



第6次調査区 調査区南部・中央部（南から）

図版四 遺構 調査区・掘立柱建物跡



第12次調査区 中央部（南東から）



第14次調査区 調査区全景（南東から）



第14次調査区 調査区全景（南から）



第14次調査区 調査区南部分（東から）



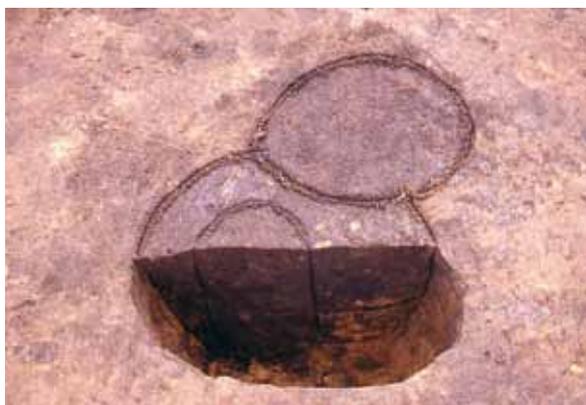
第14次調査区 調査区南部分（北東から）



第14次調査区 調査区中央部分（東から）



第14次調査区 調査区北部分（北東から）



第1次調査区 SB-147 北西隅柱 土層断面（西から）



第2次調査区 SB-327 北西隅柱土層断面（東から）



SB-338 南西隅柱 土層断面（東から）



第7次調査区 SB-582・585 全景（南から）



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面（東から）



SB-582 東側柱列南第2柱 SB-585A・B期 南東隅柱 土層断面（東から）



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面（東から）



SB-585 西側柱列南第2柱 土層断面（南から）



SB-585 南西隅柱 土層断面（南から）

図版六  
遺構  
掘立柱建物跡



調査区北部東側部分 SB-591 側柱列 (南から)



SB-591 西側柱列北第2柱 土層断面 (東から)



第9次調査区 SB-654 全景 (北から)



第11次調査区 SB-700 全景 (南から)



SB-700・738・750 全景 (北から)



SB-700 南廂列西第3柱 A・B期 土層断面 (南から)



SB-700 南廂列西第3柱 A期 土層断面 (南から)



SB-700 東廂列北第2柱 A期 土層断面 (東から)



SB-700 東廂列北第2柱B期 土層断面(東から)



SB-700 北廂列西第3柱A・B期 土層断面(南から)



SB-700 北廂列西第3柱 鉄製品出土状況(南から)



SB-700 身舎北西隅柱 土層断面(南から)



SB-700 身舎南西隅柱 土層断面(東から)



SB-707 北東隅柱 土層断面(南から)



SB-738 東側柱列南第2柱 土層断面(南から)



SB-738 北東隅柱 SK-739 土層断面(東から)



SB-738 全景（東から）



第1次調査区 SI-114 遺物出土状況（南から）



SI-121・122 遺物出土状況（南から）



SI-174 全景（南から）



第2次調査区 SI-239 遺物出土状況（東から）



SI-241 遺物出土状況（東から）



SI-307 遺物出土状況（北から）



SI-307 遺物出土状況（南西から）



SI-307 遺物出土状況 (南東から)



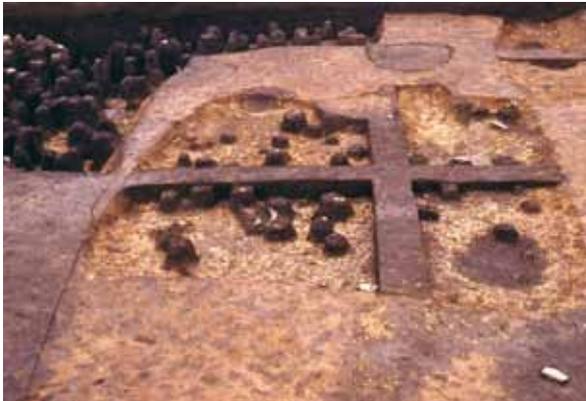
SI-325 遺物出土状況 (東から)



SI-325 全景 (東から)



SI-335 遺物出土状況 (北東から)



SI-336 遺物出土状況 (西から)



SI-336 出土遺物近景 (南西から)



SI-368 遺物出土状況 (南西から)



SI-368 土層断面 (北西から)



第4次調査区 SI-438 遺物出土状況（西から）



SI-450 遺物出土状況（西から）



SI-450 出土遺物近景（南東から）



SI-451 遺物出土状況（西から）



第5次調査区 SI-495・496 全景（南から）



SI-500 全景（北から）



SI-500 等（西から）



第7次調査区 SI-588 等（南から）



第11次調査区 SI-686 遺物出土状況（北から）



SI-690 遺物出土状況（南から）



SI-690 出土遺物近景



SI-690 鏡瓦出土状況（北から）



SI-690 出土遺物近景（東から）



SI-690 出土遺物近景（南から）



SI-690 全景（南から）



SI-691 遺物出土状況（西から）



SI-691 全景 (南西から)



SI-696 遺物出土状況 (東から)



SI-698 全景 (南から)



SI-698 全景 (南東から)



SI-714 全景 (南から)



第12次調査区 SI-814 全景 (南から)



第14次調査区 SI-843 土層断面 (南東から)



SI-844 遺物出土状況 (南西から)



SI-847 土層断面 (南から)



SI-847 遺物出土状況 (南から)



SI-849 遺物出土状況 (北から)



第1次調査区 SD-112 遺物出土状況 (南から)



SD-113 遺物出土状況 (南から)



SD-196 土層断面 (西から)



SD-198 全景 (西から)



第2次調査区 SD-250・SX-377 全景 (南西から)



SD-250 土層断面 (西から)



SD-305 遺物出土状況 (北から)



第7次調査区 SD-140・SK-572 土層断面 (南から)



第9次調査区 SD-651 遺物出土状況 (北から)



第11次調査区 SD-790 遺物出土状況 (南から)



第1次調査区 SK-190 遺物出土状況 (南から)



第2次調査区 SK-299・SX-291 全景 (北から)



第3次調査区 SK-387 遺物出土状況 (西から)



第4次調査区 SK-421・422 遺物出土状況(西から)



SK-427 遺物出土状況(南から)



SK-461 遺物出土状況(南から)



第5次調査区 SK-494 遺物出土状況(西から)



第7次調査区 SK-581 土層断面(南から)



第11次調査区 SK-702・704 遺物出土状況(東から)



第12次調査区 SK-819・837 土層断面(南から)



SK-834 土層断面(南から)



SK-838 土層断面 (南から)



第2次調査区 SE-371 遺物出土状況 (東から)



第12次調査区 SE-813 土層断面 (南から)



第1次調査区 SX-115 遺物出土状況 (南から)



第2次調査区 SX-291 土層断面 (南から)



第12次調査区 SZ-815 調査風景 (北から)



SZ-815 遺物出土状況 (東から)



第11次調査区 調査区から伽藍をのぞむ (北東から)



図版一八 遺物 鐙瓦・宇瓦





図版二〇 遺物 調査区内出土瓦



第1次 SI-125-7



第1次 SI-163-1



第2次 SI-241-2



第2次 SI-255-1



第2次 SI-307-2



第2次 SI-307-4



第2次 SI-337-1



第4次 SI-439-1



第5次 SI-496-2



第5次 SI-500-1



第11次 SI-690-1



第11次 SI-686-3



第11次 SI-696-1



第11次 SI-696-4



第14次 SI-849-1



第1次 SD-112B-3



第11次 SI-751-2



第1次 SD-72-1



第1次 SD-112B-1

図版二 遺物 調査区内出土瓦



第1次 SD-112B-4



第1次 SD-112B-5



第1次 SD-112B-6



第1次 SD-112B-7



第1次 SD-154-1



第1次 SD-154-4



第1次 SD-154-7



第1次 SD-154-8



第1次 SD-201-1



第1次 SD-113-1



第1次 SD-113-1 拡大



第1次 SX-166-2



第1次 SX-192-1



第1次 遺構外-9



第1次 遺構外-10



第2次 SD-330-1



第2次 SX-246-1

図版三二 遺物 調査区内出土瓦



第2次 SK-339-1



第2次遺構外-1



第4次 SK-461-1



第4次遺構外-4



第4次遺構外-5



第7次遺構外-1



第10次 SD-670B-1



第10次 SD-670B-2



第10次 SD-671-1



第11次 SD-330-1



第11次 SD-695-1



第11次 SD-800-1



第11次 SK-695-2



第11次 SD-804-1



第11次 SD-800-2



第12次 SD-826-1



第11次 SX-805-1



第12次 SA-820-1



第12次 SD-610-B1



伽藍地-33



伽藍地-34



伽藍地-48



伽藍地-71



伽藍地-66



伽藍地-65



伽藍地-118



伽藍地-124



伽藍地-142



伽藍地-146



那瓦



塩



内



都可



安瓦II



安III



足IV



足VI



足VIII



足IX

図版二四 遺物 文字瓦



足ⅩI



寺



矢



田Ⅵ



寺Ⅱ



瓦



押印Ⅳ



押印Ⅵ



押印Ⅵ



押印Ⅵ



押印Ⅸ



可



足Ⅱ



田Ⅱ



田Ⅲ



国分寺ⅠB

图版二五 遺物 文字瓦



国分寺II



国分寺III



国分寺III



国分寺IV



国分寺V



寺IVB



寺VII



寺IX



寺VIII



那A I



那A I



那A II



那A II

図版二六 遺物 文字瓦



那B I



那E



那G



塩D



那H



内A I



内A II



内A II



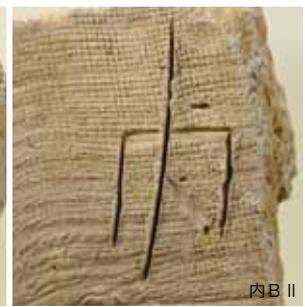
内B II



内B I



内D



内B II



内C



内E



内E



可D II



内F



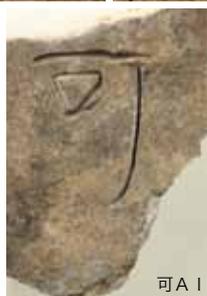
内G



内H



可A I



可A I



可A II



可F



可G

図版二七 遺物 文字瓦



図版二八 遺物 文字瓦



矢C



矢D



矢E



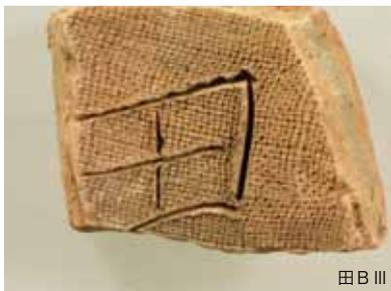
矢F



田B I



田B II



田B III



田D



田C



郡B



郡B



大



安田後B



安田後A



十



寺



不明(郡)



第10次 SA-300-1



第1次 SI-114-1



第1次 SI-114-2



第1次 SI-114-3



第1次 SI-114-5



第1次 SI-122-2



第1次 SI-125-1



第1次 SI-125-3



第1次 SI-125-4



第1次 SI-125-9



第1次 SI-163-7



第1次 SI-163-11



第1次 SI-174-7



第2次 SI-239-15



第2次 SI-239-20



第2次 SI-239-23



第2次  
SI-239-25-28



第2次 SI-241-7



第2次 SI-241-10



第2次 SI-241-11



第2次 SI-251-8

図版三〇 遺物 土器・陶器等



第2次 SI-241-13



第2次 SI-307-1



第2次 SI-307-2



第2次 SI-307-3



第2次 SI-307-4



第2次 SI-307-5



第2次 SI-307-9



第2次 SI-307-10



第2次 SI-307-40



第2次 SI-307-43



第2次 SI-307-48



第2次 SI-307-49



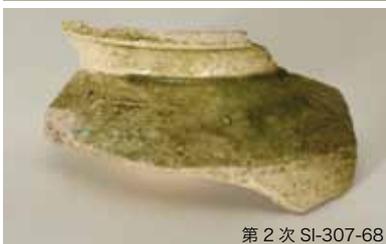
第2次 SI-307-52



第2次 SI-307-54



第2次 SI-307-59



第2次 SI-307-68



第2次 SI-307-71・72



第2次 SI-307-73～92



第2次 SI-307-70



第2次 SI-315-1



第2次 SI-315-2



第2次 SI-315-3



第2次 SI-325-1



第2次 SI-325-2



第2次 SI-335-1



第2次 SI-336-1



第2次 SI-336-2



第2次 SI-336-3



第2次 SI-336-4



第2次 SI-336-6



第2次 SI-336-7



第2次 SI-336-11



第2次 SI-336-12



第2次 SI-368-1



第2次 SI-368-4



第2次 SI-336-12



第2次 SI-368-7



第2次 SI-378-1



第2次 SI-378-3

圖版三一 遺物 土器・陶器等



第 4 次 SI-437-12



第 4 次 SI-437-13



第 4 次 SI-437-14



第 4 次 SI-438-4



第 4 次 SI-438-6



第 4 次 SI-438-14



第 4 次 SI-439-1



第 4 次 SI-439-2



第 4 次 SI-450-5



第 4 次 SI-451-6



第 4 次 SI-451-7



第 4 次 SI-451-12



第 5 次 SI-495-1



第 7 次 SI-566-1



第 10 次 SI-674-5



第 11 次 SI-680-1



第 11 次 SI-680-11



第 11 次 SI-680-18



第 11 次 SI-680-25



第 11 次 SI-686-1



第 11 次 SI-686-2



第 11 次 SI-686-3



第 11 次 SI-686-6



第 11 次 SI-690-1



第 11 次 SI-690-2



第 11 次 SI-690-3



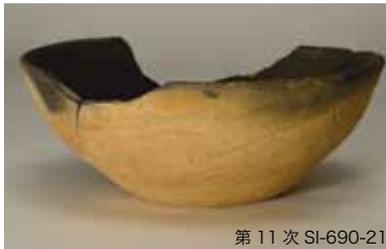
第 11 次 SI-690-4



第 11 次 SI-690-5



第 11 次 SI-690-10



第 11 次 SI-690-21



第 11 次 SI-691-1



第 11 次 SI-691-19



第 11 次 SI-698-1



第 11 次 SI-698-2



第 11 次 SI-698-3



第 11 次 SI-698-9



(赤外線画像)



第 11 次 SI-698-4



第 11 次 SI-698-7

図版三四 遺物 土器・陶器等



第 11 次 SI-698-10



第 11 次 SI-698-11



第 11 次 SI-698-13



第 11 次 SI-698-27



第 11 次 SI-698-32



第 11 次 SI-698-41 ~ 43



第 11 次 SI-714-1



第 11 次 SI-714-2



第 11 次 SI-714-5



第 11 次 SI-714-6



第 11 次 SI-751-1



第 11 次 SI-781-1



第 12 次 SI-814-1



第 14 次 SI-843-10



第 14 次 SI-844-1



第 14 次 SI-844-3



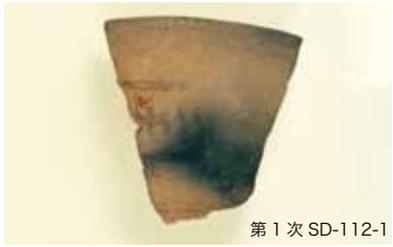
第 14 次 SI-844-7



第 14 次 SI-853-1



第 14 次 SI-849-2



第1次 SD-112-1



第1次 SD-112-2



第1次 SD-112-3



第1次 SD-112-4



第1次 SD-112-7



第1次 SD-113-1



第1次 SD-140B-3



第1次 SD-151-1



第1次 SD-153-1



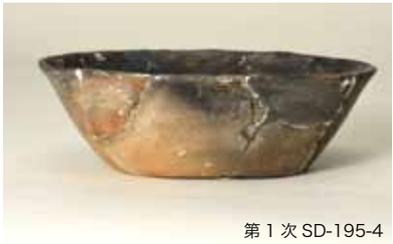
第1次 SD-195-1



第1次 SD-195-2



第1次 SD-195-3



第1次 SD-195-4



第1次 SD-195-5



第1次 SD-195-6



第1次 SD-206-1



第2次 SD-292-2



第2次 SD-329-1



第2次 SD-330-3



第2次 SD-330-4



第2次 SD-330-5

図版三六 遺物 土器・陶器等



第2次 SD-330-7



第2次 SD-330-8



第2次 SD-330-9



第2次 SD-330-10



第2次 SD-330-11



第2次 SD-330-12



第2次 SD-330-14



第2次 SD-330-40



第2次 SD-334-1



第2次 SD-334-8



第2次 SD-334-13



第2次 SD-334-14



第2次 SD-334-16



第2次 SD-369-1



第4次 SD-140-3



第4次 SD-140-4



第7次 SD-140-1



第7次 SD-140-2



第7次 SD-140-5



第7次 SD-140-6



第7次 SD-140・550-1



第7次 SD-550-5



第9次 SD-658B-1



第9次 SD-658B-2



第10次 SD-670B-1



第11次 SD-193A・B-3



第11次 SD-193A・B-4



第11次 SD-265A・B-1



第11次 SD-265A・B-2



第11次 SD-330-3



第11次 SD-369-3



第11次 SD-369-6



第11次 SD-550A・B-1



第11次 SD-681-9



第11次 SD-681-10



第11次 SD-713-5



第11次 SD-790-8



第11次 SD-790-9



第11次 SD-790-12



第11次 SD-797-1



第11次 SD-800A・B-1

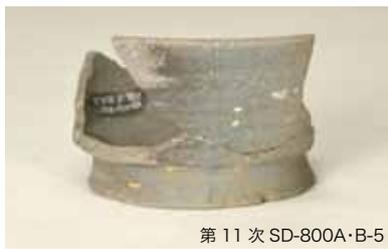
図版三八 遺物 土器・陶器等



第 11 次 SD-800A・B-2



第 11 次 SD-800A・B-4



第 11 次 SD-800A・B-5



第 11 次 SD-800A・B-9



第 11 次 SD-800A・B-11



第 11 次 SD-800A・B-10



第 12 次 SD-610A・B-1



第 1 次 SK-156-1



第 1 次 SK-156-2



第 1 次 SK-156-3



第 1 次 SK-156-5



第 1 次 SK-156-6



第 1 次 SK-156-7



第 1 次 SK-156-8



第 1 次 SK-156-9



第 1 次 SK-156-12



第 1 次 SK-156-13



第 1 次 SK-156-16



第 1 次 SK-156-17



第 1 次 SK-199-1



第1次 SK-190-1



第3次 SK-387-1



第4次 SK-421-1



第4次 SK-421-2



第4次 SK-421-3



第4次 SK-421-4



第4次 SK-421-5



第4次 SK-421-6



第4次 SK-447-1



第4次 SK-461-1



第7次 SK-597-1



第11次 SK-704-1



第12次 SK-837-1



第14次 SK-857-2



第1次 SX-115-1



第1次 SX-115-2



第1次 SX-115-3



第1次 SX-115-4



第1次 SX-115-5

図版四〇 遺物 土器・陶器等



第1次 SX-115-6



第1次 SX-115-7



第1次 SX-115-8



第1次 SX-115-9



第1次 SX-115-10



第1次 SX-115-11



第1次 SX-115-12



第1次 SX-115-13



第1次 SX-115-14



第1次 SX-115-15



第1次 SX-115-16



第1次 SX-115-17



第1次 SX-115-18



第1次 SX-167-1



第1次 SX-169-1



第1次 SX-169-3



第1次 SX-169-8



第1次 SX-169-9



第1次 SX-169-10



第1次 SX-170-1



第1次 SX-170-2



第1次 SX-170-3



第1次 SX-192-1



第1次 SX-192-2



第2次 SX-246-1



第2次 SX-246-4



第2次 SX-331-1



第2次 SX-377-1



第11次 SX-805-4



第11次 SX-805-5



第11次 SX-805-8



第11次 SX-805-10



第11次 SX-805-11



第1次調査区-1



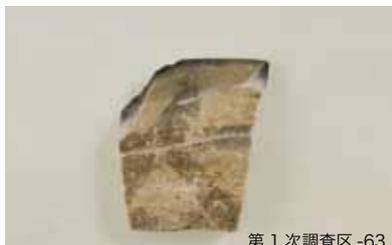
第1次調査区-2



第1次調査区-61



第1次調査区-62



第1次調査区-63



第1次調査区-64



第1次調査区-66



第2次調査区-3

図版四二 遺物 土器・陶器等



第2次調査区-44



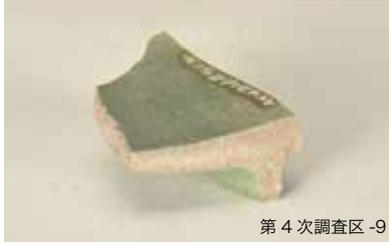
第2次調査区-45



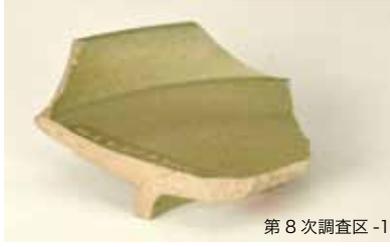
第2次調査区-48



第2次調査区-50



第4次調査区-9



第8次調査区-1



第8次調査区-6



第8次調査区-7



第9次調査区-2



第10次調査区-2



第11次調査区-15



第11次調査区-17



第11次調査区-24



第14次調査区-1



金堂-2



金堂-3



金堂-5



金堂-14



金堂-19



回廊-3



経蔵-1



僧房-4



僧房-5



僧房-10



僧房-13



僧房-29



僧房-30



僧房-34



僧房-36



南門-3



伽藍地内-6



伽藍地内-7



伽藍地内-8



図版四四  
遺物  
鉄製品等



図版四五 遺物 鉄製品等（レントゲン写真）



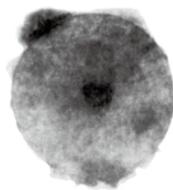
図版四六 遺物 鉄製品等（レントゲン写真）



第7次 SD-140-1



第2次 SK-262-1



第7次 SK-598-1



第1次 SX-192-1



第2次 SK-268-1



第2次 SK-268-2



第4次 SK-421-1



第6次 SK-540-1



第2次 SX-246-1



第2次 SX-246-2



第2次 SX-377-1



第2次 SX-377-2



第1次 調査区-1



第2次 調査区-1



第2次 調査区-2



第2次 調査区-12



第2次 調査区-19



第1次 調査区-1  
(銅製品)



第2次 SD-369-1  
(銅製品)

## 報告書抄録

ふりがな	しもつけこくぶんじにあと
書名	下野国分尼寺跡
副書名	重要遺跡範囲確認調査
巻次	II
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第364集
編著者名	津野 仁
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2014年3月26日 (平成26年3月26日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもつけこくぶん 下野国分 にじあと 尼寺跡	しもつけし 下野市 こくぶんじ 国分寺	09216	5853	36° 23' 19"	140° 6' 07"	19930401 ～ 19980331	9,630 ㎡	重要遺跡範囲確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下野国分 尼寺跡	寺院	奈良・ 平安時代	寺院地・伽藍地の区画 施設、寺院の建物・諸 施設	瓦・文字瓦・白磁・緑釉陶器・ 灰釉陶器・須恵器・土師器・製 塩土器・釘・鋸・鎌などの鉄製品・ 金銅製品・鍛冶滓	・伽藍地区 画施設などが9世紀後 半に改修。 ・伽藍地周 囲に竪穴住 居跡が展開。

要 約	<p>伽藍地東側に建てられた仮設堂は瓦の分析から、瓦葺きの仮金堂であって、宇都宮の水道山窯や三轟山麓の窯から瓦を供給していたことが明らかになった。</p> <p>主要堂宇を造営する時期には、掘立柱塀で伽藍を区画し、北側・東側に溝で寺院地を画した。文字瓦は、国分寺と尼寺で主体となる郡名が異なっており、二寺を併行して造営する際に、貢進（負担）を均等化した措置と判断された。9世紀には郡名瓦もなくなり、「国分寺」など寺名瓦に変化し、国による関与が強化されたと推測した。</p> <p>9世紀前半には、新調瓦が主要堂宇造営期と同じ程度造られ、改修か再建されたと考えた。この修造が終えた9世紀第3四半期には伽藍地の区画施設を掘立柱塀から築地塀に造り直す。この時期に、伽藍地の東側・北側には竪穴住居や掘立柱建物が展開する。出土遺物から、伽藍地東側で鍛冶や漆塗りなどの営繕施設、主に北側が調理施設、北東部で寺務に係わる施設などが置かれたと想定した。9世紀第4四半期には主要堂宇の補修が行われ、10世紀中葉まで法灯が続いたと考えられる。</p>
-----	---

---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 364 集

下野国分尼寺跡Ⅱ

－重要遺跡範囲確認調査－

発行 栃 木 県 教 育 委 員 会

宇都宮市塙田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

平成 26 年 3 月 26 日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社

---

---